

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

# 清洲城下町遺跡 V

1995

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

# 序

戦国時代に華やかな繁栄を誇っていた清須城は、江戸時代を迎えるとその歴史的役割を終え、名古屋城へと移転されて行きました。その後は、美濃街道の最初の宿場町として機能し、宿場の町並みは現在に至るまで連綿と継続しています。

清洲城下町遺跡の中で、こうした江戸時代の宿場町の遺跡が残っていることは、昭和61年度の五条川改修に伴う発掘調査によって初めて発見されました。近年、江戸や大坂などの近世の都市遺跡の研究が盛んになり、近世考古学は日進月歩の進展を見せております。こうした中で、清洲宿の考古学的調査は、大都市ばかりではない近世遺跡の新たなデータを提供できるものと思われまます。

五条川河川改修に関連する発掘調査報告書は、昨年度から刊行され始め、本書はその第2冊目に当たります。今回の内容は主に清洲宿場町の時代を対象としており、これによって平成5年度までの成果がほぼ網羅される形となりました。本書が清須のそして愛知県の歴史解明に少しでも寄与できれば幸いです。

最後に、発掘調査や本書の作成に当たり、地元の方をはじめとする多くの方々にご協力やご指導を賜り、本書の刊行に至ることができました。記して感謝致したいと思います。

財団法人愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安 部 功

# 総目次

五条川河川改修に伴う発掘調査報告書は全3冊以上で構成される予定である。その内容の内訳は以下の通りである。

報告書名	対象調査区（年度）
『清洲城下町遺跡Ⅳ』 （第53集）	昭和61～平成3年度・平成4年度（92C～E区）・平成5年度（93A・93B区）
『清洲城下町遺跡Ⅴ』 （第54集）	昭和61～平成3年度・平成4年度（92C～E区）・平成5年度（93A・93B区）
『清洲城下町遺跡Ⅵ』 （未定）	平成4年度（92F区）・平成5年度（93C区）・平成6年度

平成7年度以降の調査区については未定。

なお、『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』の対象となる調査区の総面積は29750㎡で、その調査成果は膨大である。従って、29750㎡分については、以下のように「城下町編」・「宿場町編」と2分割して報告書を刊行することとした。

『清洲城下町遺跡Ⅳ』（既刊）

- 第Ⅰ章 調査概要
- 第Ⅱ章 城下町期以前の遺構と遺物
- 第Ⅲ章 城下町期の遺構
- 第Ⅳ章 城下町期の遺物
- 第Ⅴ章 城下町期の遺構配置

『清洲城下町遺跡Ⅴ』（本書）

- 第Ⅵ章 宿場町期の遺構
- 第Ⅶ章 宿場町期の遺物
- 第Ⅷ章 自然科学分析
- 第Ⅸ章 考察
- 第Ⅹ章 総括

# 例 言

1. 清洲城下町遺跡（遺跡番号21002：『愛知県遺跡分布地図Ⅰ（尾張地区）』1986による）は愛知県西春日井郡清洲町のほぼ全域に分布する広大な遺跡であり、一部に春日町・新川町にまたがる。
2. 本書は、愛知県土木部が進めている五条川河川改修に伴う事前調査にかかる発掘調査報告書のうち、第2巻に相当する『清洲城下町遺跡Ⅴ』である。発掘調査は県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（財）愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 昭和61年度から平成5年度までの調査対象面積は30130㎡であり、このうち本書は、92F区と93C区を除く全調査区（29750㎡）を対象とする。調査面積の詳細な内訳は別に記載された通りである。（『清洲城下町遺跡Ⅳ』第Ⅰ章第3節を参照）。
4. 発掘調査は、城ヶ谷和広（調査課課長補佐：当時の職名、以下同じ）・細野正俊・水谷朋和・梅本博志・日比宰・小塚俊夫・大竹正吾（以上主査）・遠藤才文・小澤一弘・佐藤公保・池本正明・前田雅彦・川井啓介・小嶋廣也・蟹江吉弘・鈴木正貴（以上調査研究員）・中野良法・岡本直久・飴谷一・加藤とよ江（以上嘱託）が担当した。各調査区の発掘調査期間・調査担当者は別に記載された通りである（『清洲城下町遺跡Ⅳ』第Ⅰ章第3節を参照）。
5. 発掘調査に引き続き、平成4年度から報告書作成のための整理作業を実施した。これまで整理作業は主に鈴木正貴が担当した。なお、平成6年度での遺物整理・製図などには次の方々の協力を得た。  
河合明美・中垣内薫・八木佳素実（以上調査研究補助員）  
安藤豊子・加藤豊子・猿山清子・竹川裕美子・土井てる子・平野みどり・服部英子  
星野和子・山本律子（以上整理補助員）
6. 調査に当たっては、本センター専門委員をはじめ、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。  
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・清洲町教育委員会・愛知県土木部河川課・南山大学・西尾市教育委員会
7. 調査区の座標は、建設省告示に定められた平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
8. 遺構は以下のアルファベットによる分類記号と通し番号で表記した。番号は地区毎に振り直しており、『清洲城下町遺跡Ⅳ』の遺構番号に引き続けている。  
SA：柵列、SB：建物、SD：溝、SE：井戸、SK：土坑、SX：その他、P：ピット  
御園地区：1000番台、本丸地区：2000番台、田中町地区：3000番台、五条川地区：4000～5000番台、本町地区：6000番台、南部地区（北半）：7000番台、南部地区（南部）：8000番台
9. 本書の執筆・編集は鈴木正貴が担当したが、一部に分担執筆がある。  
第Ⅶ章第7節 人形・玩具類——八木佳素実（本センター調査研究補助員）  
第Ⅶ章第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法—北野信彦（元興寺文化財研究所）  
第Ⅷ章第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析——三辻利一（奈良教育大学）  
第Ⅷ章第4節 人骨に施された傷について——堀木真美子（本センター調査研究員）  
第Ⅷ章第5節 獣骨にみられる傷について——堀木真美子（本センター調査研究員）
10. 本書をまとめるに当たり、次の各氏のご指導の他、多くの方々のご協力を得た。  
赤羽一郎・内堀信雄・小野正敏・尾野善裕・金子健一・下村信博・千田嘉博・中野晴久・仲野泰裕・野口哲也・藤澤良祐・水野裕之
11. 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は本センターにて保管している。
12. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。  
愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24  
電話番号0567-67-4164

# 目 次

はじめに .....	1
第VI章 宿場町期の遺構 .....	3
第1節 概 要 .....	4
第2節 五条川堤防 .....	6
第3節 溝 .....	7
第4節 建 物 .....	12
第5節 柵 列 .....	15
第6節 井 戸 .....	16
第7節 畝状遺構 .....	22
第8節 方形石組遺構 .....	24
第9節 竈状遺構 .....	26
第10節 土 坑 .....	28
第11節 その他の遺構 .....	34
第12節 遺構配置 .....	35
第VII章 宿場町期の遺物 .....	43
第1節 出土遺物の概要と分析方法 .....	44
第2節 SX4009 .....	51
第3節 SD6092 .....	55
第4節 SK4287 .....	58
第5節 SK6735 .....	60
第6節 SK6691 .....	72
第7節 人形・玩具類 .....	110
第8節 墨 書 .....	117
第9節 井戸側出土資料 .....	119
第10節 金属製品 .....	122
第VIII章 自然科学分析 .....	123
第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法 .....	124
第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析 .....	140
第3節 金属滓分析 .....	148
第4節 人骨に施された傷について .....	175
第5節 獣骨にみられる傷について .....	179
第IX章 考 察 .....	183
第1節 清須城下町の遺物様相 .....	184
第2節 清須城下町の復元的研究（1995年覚書） .....	199
第X章 総 括 .....	227
索 引 .....	233
遺構一覧表 .....	239
遺物一覧表 .....	244
遺物集計表 .....	260
図 版 .....	267
報告書抄録 .....	315

## 挿 図 目 次

第 1 図 92D区土層断面図	5	第 38 図 SK6735遺物実測図 (6)	66
第 2 図 溝土層断面図 (1)	9	第 39 図 SK6735遺物実測図 (7)	67
第 3 図 溝土層断面図 (2)	11	第 40 図 SK6735遺物実測図 (8)	68
第 4 図 礎石建物平面図	13	第 41 図 SK6735遺物実測図 (9)	69
第 5 図 掘立柱建物平面図・断面図	14	第 42 図 SK6735遺物実測図 (10)	70
第 6 図 柵列平面図・断面図	15	第 43 図 SK6735遺物実測図 (11)	71
第 7 図 井戸土層断面図 (1)	19	第 44 図 SK6691遺物実測図 (1)	73
第 8 図 井戸土層断面図 (2)	20	第 45 図 SK6691遺物実測図 (2)	74
第 9 図 井戸土層断面図 (3)	21	第 46 図 SK6691遺物実測図 (3)	75
第 10 図 畝状遺構土層断面図	22	第 47 図 SK6691遺物実測図 (4)	76
第 11 図 畝状遺構平面図	23	第 48 図 SK6691遺物実測図 (5)	77
第 12 図 方形石組遺構平面図	24	第 49 図 SK6691遺物実測図 (6)	78
第 13 図 方形石組遺構平面図・断面図	25	第 50 図 SK6691遺物実測図 (7)	79
第 14 図 竈状遺構平面図・断面図	27	第 51 図 SK6691遺物実測図 (8)	80
第 15 図 土坑遺物出土状態図 (1)	28	第 52 図 SK6691遺物実測図 (9)	81
第 16 図 土坑遺物出土状態図 (2)	29	第 53 図 SK6691遺物実測図 (10)	82
第 17 図 土坑土層断面図	30	第 54 図 SK6691遺物実測図 (11)	83
第 18 図 土坑遺物出土状態図 (3)	31	第 55 図 SK6691遺物実測図 (12)	84
第 19 図 土坑遺物出土状態図 (4)	32	第 56 図 SK6691遺物実測図 (13)	85
第 20 図 その他の遺構平面図	34	第 57 図 SK6691遺物実測図 (14)	86
第 21 図 遺構配置図 (1)	37	第 58 図 SK6691遺物実測図 (15)	87
第 22 図 遺構配置図 (2)	39	第 59 図 SK6691遺物実測図 (16)	88
第 23 図 遺構配置図 (3)	40	第 60 図 SK6691遺物実測図 (17)	89
第 24 図 調査区周辺の地籍図	42	第 61 図 SK6691遺物実測図 (18)	90
第 25 図 遺物器種分類図 (1)	48	第 62 図 SK6691遺物実測図 (19)	91
第 26 図 遺物器種分類図 (2)	49	第 63 図 SK6691遺物実測図 (20)	92
第 27 図 SX4009遺物実測図 (1)	52	第 64 図 SK6691遺物実測図 (21)	93
第 28 図 SX4009遺物実測図 (2)	53	第 65 図 SK6691遺物実測図 (22)	94
第 29 図 SX4009遺物実測図 (3)	54	第 66 図 SK6691遺物実測図 (23)	95
第 30 図 SD6092遺物実測図 (1)	56	第 67 図 SK6691遺物実測図 (24)	96
第 31 図 SD6092遺物実測図 (2)	57	第 68 図 SK6691遺物実測図 (25)	97
第 32 図 SK4287遺物実測図	58	第 69 図 SK6691遺物実測図 (26)	98
第 33 図 SK6735遺物実測図 (1)	61	第 70 図 SK6691遺物実測図 (27)	99
第 34 図 SK6735遺物実測図 (2)	62	第 71 図 SK6691遺物実測図 (28)	100
第 35 図 SK6735遺物実測図 (3)	63	第 72 図 SK6691遺物実測図 (29)	101
第 36 図 SK6735遺物実測図 (4)	64	第 73 図 SK6691遺物実測図 (30)	102
第 37 図 SK6735遺物実測図 (5)	65	第 74 図 SK6691遺物実測図 (31)	103
		第 75 図 SK6691遺物実測図 (32)	104
		第 76 図 SK6691遺物実測図 (33)	105

第77図	SK6691遺物実測図(34)	106	第116図	精錬椀型鉄滓のX線回折分析チャート	173
第78図	SK6691遺物実測図(35)	107	第117図	精錬椀型鉄滓のX線回折分析チャート	174
第79図	SK6691遺物実測図(36)	108	第118図	銅滓のX線回折分析チャート	174
第80図	SK6691遺物実測図(37)	109	第119図	NR4001出土人骨	178
第81図	人形・玩具類実測図(1)	113	第120図	獣骨にみられた傷	181
第82図	人形・玩具類実測図(2)	114	第121図	各編年対照図	189
第83図	人形・玩具類実測図(3)	115	第122図	清洲城下町遺跡陶磁器椀類編年表	193
第84図	人形・玩具類実測図(4)	116	第123図	清洲城下町遺跡陶磁器皿類編年表	194
第85図	墨書陶磁器実測図	117	第124図	清洲城下町遺跡陶器播鉢編年表	195
第86図	井戸側実測図(1)	120	第125図	清洲城下町遺跡土師器皿類編年表	196
第87図	井戸側実測図(2)	121	第126図	清洲城下町遺跡土師器鍋・釜類編年表(1)	197
第88図	金属製品(銭貨)拓影図	122	第127図	清洲城下町遺跡土師器鍋・釜類編年表(2)	198
第89図	近世以降の漆器(挽物類)の木取方法	126	第128図	清洲城下町遺跡地区割図	200
第90図	漆塗り構造の分類	126	第129図	田中町北部地区(城下町期I期)案I	203
第91図	X線分析結果—サビ下地	128	第130図	田中町北部地区(城下町期I期)案II	203
第92図	X線分析結果—赤色系漆 ベンガラ	128	第131図	田中町南部地区(城下町期I期)	204
第93図	X線分析結果—赤色系漆 朱	128	第132図	五条橋地区(城下町期I期)	205
第94図	X線分析結果—赤色系漆 朱+ベンガラ	128	第133図	本町西部地区(城下町期I期)	205
第95図	X線分析結果—金粉状装飾 金	128	第134図	御園地区(城下町期I期)	205
第96図	X線分析結果—石黄	128	第135図	神明町地区(城下町期I期)	206
第97図	X線分析結果—銀粉状装飾 銀	128	第136図	城下町期I期の清須城下町復元想定図	207
第98図	X線分析結果—金粉状装飾 錫	128	第137図	田中町北部地区(城下町期II期以降)	208
第99図	年代別出土漆器資料の品質組成の傾向	129	第138図	田中町南部地区(城下町期II期)	209
第100図	清洲城下町遺跡出土人形K-Ca分布図	142	第139図	五条橋地区(城下町期II期)	209
第101図	清洲城下町遺跡出土人形Rb-Sr分布図	142	第140図	御園地区(城下町期II期)	210
第102図	名古屋城三の丸遺跡出土人形K-Ca分布図	142	第141図	神明町地区(城下町期II期)	210
第103図	名古屋城三の丸遺跡出土人形Rb-Sr分布図	142	第142図	城下町期II-1期の清須城下町復元想定図	211
第104図	西尾城遺跡他出土人形K-Ca分布図	142	第143図	本町西部地区(城下町期II-2期以降)	212
第105図	西尾城遺跡他出土人形Rb-Sr分布図	142	第144図	城下町期II-2期の清須城下町復元想定図	214
第106図	土師器鈴分類図	143	第145図	田中町南部地区(城下町期III期)	215
第107図	蛍光X線分析関連遺跡位置図	143	第146図	本町東部地区(城下町期III期)	216
第108図	胎土分析試料実測図(1)	144	第147図	南部地区(1)(城下町期III期)	217
第109図	胎土分析試料実測図(2)	145	第148図	南部地区(2)(城下町期III期)	218
第110図	鉄滓外観写真その1	168	第149図	御園・神明町地区(城下町期III期)	219
第111図	鉄滓外観写真その2	169	第150図	朝日西地区(城下町期III期)	219
第112図	銅・青銅滓・および金属鉛の外観写真	170	第151図	廻間地区(城下町期III期)	220
第113図	鉄滓顕微鏡写真その1	171	第152図	城下町期III期の清須城下町復元想定図	222
第114図	鉄滓顕微鏡写真その2	172			
第115図	製錬鉄滓のX線回折分析チャート	173			

## 挿 表 目 次

第1表	発掘調査区一覧表	2
第2表	井戸一覧表	20
第3表	主要遺構遺物集計表	59
第4表	人形・玩具類観察表	112
第5表	人形・玩具類観察表	113
第6表	遺構出土墨書・ガラス継ぎ文字資料一覧表	118
第7表	ろくろ挽き物の用材分類一覧表	125
第8表	漆器一覧表	130
第9表	蛍光X線分析試料一覧表	146
第10表	蛍光X線分析結果等一覧表	147
第11表	金属滓（金属塊）一覧表	156
第12表	化学成分分析結果一覧表（鉄滓関係）	166
第13表	化学成分分析結果一覧表（鉄塊関係）	167
第14表	化学成分分析結果一覧表（銅滓関係）	167
第15表	化学成分分析結果一覧表（銅塊関係）	167
第16表	化学成分分析結果一覧表（鉛塊関係）	167

# はじめに

ここでは、宿場町期の遺構・遺物の記述を行う前に、本書の理解を深めてもらうため、あらかじめ前著（『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994）に記載されてきた概要について触れることとする。

## 1 立地と基本層序

清洲城下町遺跡は濃尾平野に立地し、木曾川分派流の五条川中流域に位置する。基本層序は南北1.8kmに及ぶ調査区のため、地点によって異なるが、おおよそ基盤層はシルト層または砂層となっている。本遺跡における年代の鍵層には、天正地震（1586年1月18日発生）及び濃尾地震（1891年10月28日発生）による地震痕が認められる。また、1794年の五条川瀬替えによる堤防盛土も決め手の一つとなる。

## 2 調査経過

昭和61年度から平成5年度迄に39調査区の発掘調査を実施し、本書は92F区・93C区を除く37調査区（29750m<sup>2</sup>）を整理の対象としている（調査区の詳細は第1表と巻末遺構図を参照）。遺構の状況は複雑かつ検出は困難な場合が多く、隣接する調査区で異なった結果を得る場合も少なくなかった。

## 3 調査成果の概要

この調査で確認された遺構・遺物は、遺跡の広がりや内容から以下の3時期に大別できる。

### 1 城下町期以前（古代～中世）

遺跡の広がりには大きく3つにまとめられ、その性格は集落・墓域に比定できる。

### 2 城下町期（戦国時代～江戸時代初頭）

遺跡の状況から清須城に付随する城郭・城下町の遺跡と考えられる。

### 3 宿場町期（江戸時代以降）

遺跡の広がりには部分的で、清洲宿に付随する遺跡であると考えられる。

なお、前著では城下町期を更に3期6小期に区分している。また、城下町期と宿場町期の境は、清須城が名古屋城へ移転する1610年～1613年に行われたいわゆる「清須越し」に求められる。従って宿場町期の開始は1613年ということになる。

## 4 調査の結果

城下町期以前、及び城下町期の調査成果は多岐に及んでおり、その内容は前著を参照されたいが、宿場町期に関連する問題として次の2点を指摘しておきたい。

- ① 清須城中堀SD6001は、城下町期で完全に廃絶されたわけではなく、宿場町期以降の遺物を含んでいる。宿場町期においてもある程度機能していたと言えよう。
- ② 城下町期Ⅲ期の遺構群の内、宿場町期初頭に含まれるものがあり、清須越しは完全ではなかった。

（鈴木正貴）

第1表 発掘調査区一覧表（五条川河川改修関連）

調査区	調査期間	調査面積	調査担当者
61A区	1986.8～1986.11	836m <sup>2</sup>	水谷・中野
61B区	1986.7～1986.11	707m <sup>2</sup>	梅本・小澤・細野
61C区	1987.1～1987.3	865m <sup>2</sup>	梅本・小澤・細野
61D区	1986.11～1986.12	902m <sup>2</sup>	梅本・小澤・細野
62A区	1987.11～1987.12	130m <sup>2</sup>	細野・水谷・中野
62B区	1988.1～1988.2	510m <sup>2</sup>	細野・水谷・中野
62C区	1987.8～1987.11	690m <sup>2</sup>	細野・水谷・中野
62D区	1988.1～1988.2	990m <sup>2</sup>	細野・水谷・中野
62G区	1987.10～1987.10	500m <sup>2</sup>	細野・鈴木
62M区	1987.10～1987.11	230m <sup>2</sup>	細野・鈴木
62N区	1987.11～1987.12	150m <sup>2</sup>	細野・水谷・中野
63A区	1988.8～1988.9	260m <sup>2</sup>	日比・飴谷
63B区	1988.7～1988.9	550m <sup>2</sup>	水谷・川井・岡本
63C区	1988.8～1988.12	860m <sup>2</sup>	水谷・日比・川井・鈴木
63D区	1989.1～1989.3	580m <sup>2</sup>	梅本・佐藤・城ヶ谷・加藤
63Q区	1989.2	100m <sup>2</sup>	佐藤・城ヶ谷
63R区	1988.11～1989.1	660m <sup>2</sup>	佐藤・日比・鈴木・飴谷
63S区	1988.12～1989.1	790m <sup>2</sup>	水谷・川井・岡本
89A区	1990.1～1990.2	750m <sup>2</sup>	日比・城ヶ谷
89B区	1989.8～1990.1	2050m <sup>2</sup>	小澤・小塚・加藤
89C区	1989.8～1989.11	700m <sup>2</sup>	梅本・小塚
89D区	1990.1～1990.3	1300m <sup>2</sup>	小塚・鈴木
89E区	1989.9～1990.2	1300m <sup>2</sup>	梅本・加藤
89F区	1990.2～1990.3	880m <sup>2</sup>	小澤・加藤
90A区	1990.7～1990.8	750m <sup>2</sup>	城ヶ谷・遠藤・鈴木・加藤
90B区	1990.9～1990.12	400m <sup>2</sup>	城ヶ谷・鈴木
90C区	1990.9～1990.12	1150m <sup>2</sup>	遠藤・加藤
90D区	1990.9～1990.12	1640m <sup>2</sup>	城ヶ谷・鈴木・加藤
90F区	1991.1～1991.3	1660m <sup>2</sup>	城ヶ谷・遠藤・加藤
91A区	1991.12～1992.3	1800m <sup>2</sup>	城ヶ谷・鈴木・小嶋
91B区	1991.12～1992.3	1800m <sup>2</sup>	城ヶ谷・小嶋・鈴木
91C区	1991.10～1991.11	1220m <sup>2</sup>	城ヶ谷・小嶋・鈴木
92C区	1992.11～1993.1	220m <sup>2</sup>	大竹・蟹江
92D区	1992.11～1993.1	220m <sup>2</sup>	大竹・蟹江
92E区	1992.11～1993.1	220m <sup>2</sup>	大竹・蟹江
92F区	1992.10～1992.11	240m <sup>2</sup>	大竹・蟹江・鈴木
93A区	1993.4～1993.7	620m <sup>2</sup>	大竹・小澤
93B区	1993.4～1993.5	600m <sup>2</sup>	池本・前田
93C区	1993.10～1993.11	240m <sup>2</sup>	大竹・小澤

## 第Ⅵ章 宿場町期の遺構

## 第1節 概要

### A 遺構の整理方針

今回の調査で確認された遺構は大きく城下町期以前（～1478年）・城下町期（1478年～1613年）・宿場町期（1613年～1891年）に区分される。この内、宿場町期に属すると考えられる遺構は全部で約500基を数える。本書の作成に際しては、宿場町期の遺構の抽出作業は、出土遺物の分析と遺構面の検討によって実施し、以下のような方針で宿場町期の遺構図を作成した。

- ① 原則として、城下町期以前と城下町期の遺構は、本書巻末遺構図から除去した。
- ② 『清洲城下町遺跡Ⅳ』資料編の遺構図に記載された宿場町期の遺構は再掲した。  
なお、再掲遺構の遺構番号は『清洲城下町遺跡Ⅳ』の番号をそのまま使用した。
- ③ 本書で初めて正報告される遺構の遺構番号は、『清洲城下町遺跡Ⅳ』に継続して付した。
- ④ 本書巻末遺構図の上面・下面の区分は便宜的なものである。  
従って、調査時に認識された遺構面や本来の遺構面による区分ではない。
- ⑤ 隣接する調査区で遺構が矛盾した場合、調査担当者と検討の上、遺構の一部を削除・変更した。  
遺構番号の設定は、遺構の種別・地区毎に通番を振っている。遺構の種別は次の通りである。

S A（柵列）——礎石・ピット・土坑が一列に並ぶものを指す。

S B（建物）——掘立柱建物・礎石建物等を指す（柵列を除く）。

S D（溝）——細長い形状をした、あるいはその一部と考えられる穴を指す。

S E（井戸）——湧水層まで掘削し、井戸側が存在、または存在したと推定されるものを指す。

S K（土坑）——径が40cm以上の方形や円形等の形態をした穴を指す。

S X（その他）——竈状遺構等の形態が特殊なものを指す。

N R（自然流路）——自然に形成されたと思われる水流のある溝を指す。

P（ピット）——径が最大40cm未満の穴を指す。

### B 遺構の種類と概要

宿場町期の遺構は、五条橋地区と本町地区に集中しており、本丸地区・田中町地区・南部地区では僅かに遺構が検出されたに過ぎない。宿場町期の遺構には、溝、建物、井戸、土坑、ピット等がある。このうち、溝は小規模の溝が並列するものを畝状遺構として区分する。また土坑には、内部に方形石組を配した方形石組遺構、瓢箪形の平面プランで被熱された竈状遺構等があり、これらは一般の土坑とは分けて報告する。建物には掘立柱建物と礎石建物があるが、小規模な土坑やピットあるいは礎石が群集する場合があり、建物として認定されなかったものもあったと思われる。

城下町期の遺構と同様、こうした遺構群は個別に存在したものではなく、相互に有機的に関連を持って展開したものであろう。今回検出された遺構群は、ほとんどが人間が居住した屋敷（区画）に伴うものであると考えられる。従って、こうした遺構の集合体としての区画を第12節に報告する。

### C 遺構の時期と変遷

これまで宿場町期の遺構は、寛政5年(1794)に行われた五条川の瀬替え<sup>(1)</sup>を境に前期・後期の2期に区分されてきた<sup>(2)</sup>。この瀬替えは、現清洲町地内の五条川南半部において蛇行していた流路を直線的に南下させたもので、91A区以南の現五条川堤防はこの時に築堤されたものと考えられる。また、宿場町期後期の遺構群は1891年に発生した濃尾地震による噴砂で覆われている部分があり(第1図)、この年代を清洲宿の終末に当てる考えがある。但し、時期区分の細分や遺構の展開等については研究があまり進んでおらず、今日まで課題として残されてきた。

今回、宿場町期の遺構の整理に当たり、時期区分と遺構の時期認定は、遺構出土遺物の年代を基準に据えた。この際、本遺跡では一定量の出土量を持ち編年研究が比較的進展している瀬戸・美濃窯産陶磁器の年代観<sup>(3)</sup>を使用した。この結果、宿場町期は以下のように区分できる。

宿場町期Ⅰ期——清須越しから五条川の瀬替えまで(1613~1794)。これまでの前期に対応する。

I-0期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第1小期~第4小期

I-1期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第5小期~第6小期

I-2期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第7小期~第8小期

宿場町期Ⅱ期——五条川の瀬替えから濃尾地震まで(1794~1891)。これまでの後期に対応する。

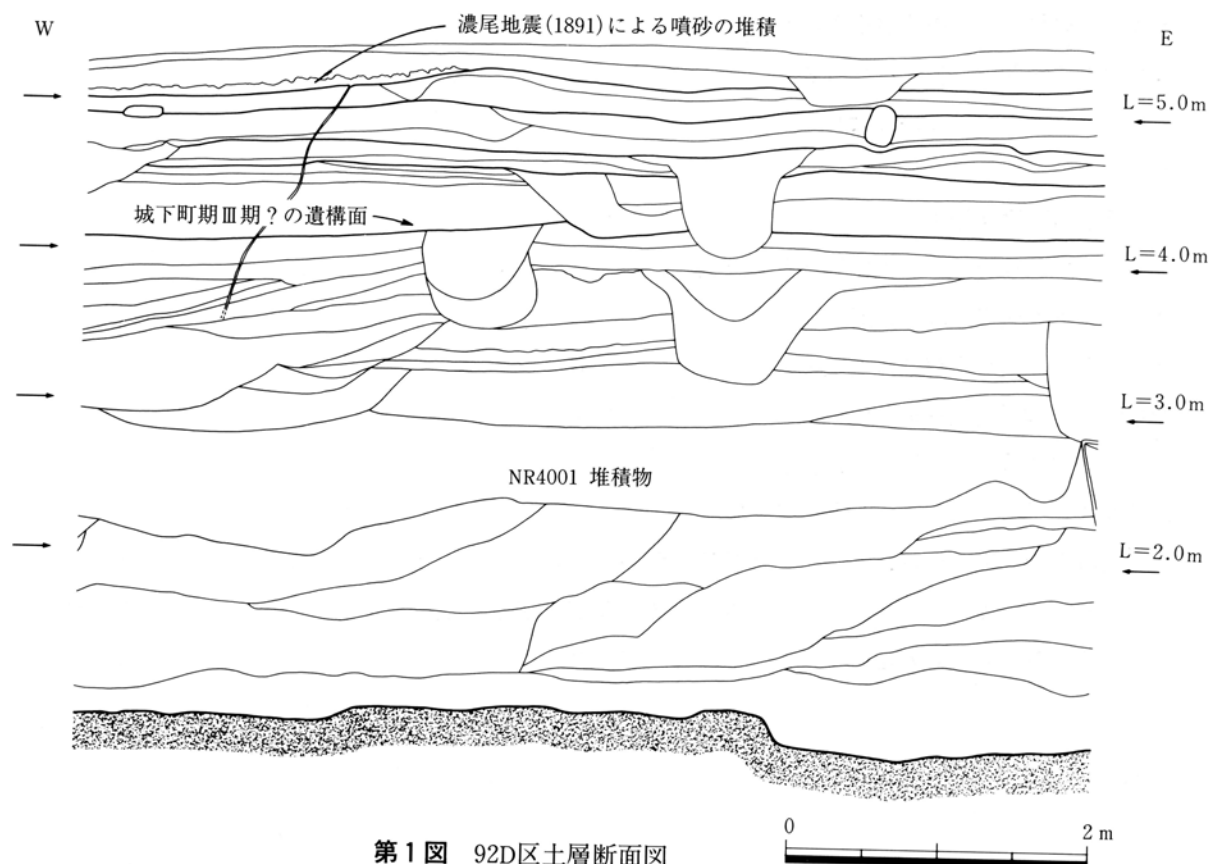
II-1期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第9小期

II-2期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第10小期~第11小期 (鈴木正貴)

註 (1) 清洲町史編纂委員会(1948)『清洲町史』による。

(2) 小澤一弘他(1990)「清洲城下町遺跡」『年報平成元年度』(財愛知県埋蔵文化財センターによる)。

(3) 藤澤良祐編(1987~1989)『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VI~VIII』による。



第1図 92D区土層断面図

## 第2節 五条川堤防

### A 五条川の沿革

濃尾平野を南流する五条川は、歴史上何度か流路を替えていたと考えられており、江戸時代に入ってもなお、たびたび洪水に見舞われてきた。こうした事態を打開するため幾度かの瀬替え・改修を行い、今日五条川流路に至っている。城下町期から宿場町期Ⅰ期までの「旧五条川」NR4001は、御園地区から五条橋地区までは現流路とほぼ同一であるのに対し、90D区以南では西に屈曲して蛇行していたと考えられている。90D区から下流の旧五条川流路の位置は、『春日井郡清須村古城絵図』（名古屋蓬左文庫所蔵）の記載や明治17年作成の『地籍図』（愛知県公文書館所蔵）及び現在の地形から、名鉄新清洲駅付近で南下し巡礼橋付近で現五条川の位置に流れていたと推定されている。この旧五条川が現五条川に流路を変更されたのが、寛政5年（1794）の五条川瀬替えと考えられる。これにより現五条川の掘削とその堤防が築堤されたと思われる。

### B 調査の概要

現五条川に関わる発掘調査は89E区以南で行われ、特に現堤防直下の調査区であった91A区・91B区では堤防そのものの調査を実施する機会を得た。調査の方法は、調査期間の制約のため、堤防の堆積土を重機によって表土はぎの形で除去し、堤防の断面観察を実施した。この結果、堤防の表土部分を除く大部分の堆積は黄褐色粗砂の単一層で構成されていることが判明した。粗砂層は攪拌を受けシルトブロック等を一部含有しており、人為的に盛土されたものと思われる。おそらくは現五条川を掘削した際に排出した砂層をそのまま堤防として盛り上げたものと思われる。また、堤防盛土部には互層状の堆積は認められず、版築等の地盤強化の工夫は特に見られなかった。なお、堤防盛土直下の遺構面で宿場町期Ⅰ期以前の遺構が検出されている。

### C 現堤防築堤に関する諸問題

五条川堤防築堤に関する主要な問題点を2点取り上げておく。

#### ① 五条川の瀬替えの年代

五条川瀬替えの年代は、『清洲町史』によれば寛政5年（1794）となっている。従って、現堤防によって埋積された遺構群の上限年代は確定できるものであり、遺物の年代観を検討する貴重な資料を得た。この点についてはSD6092出土遺物の項目等で触れることとしたい。

#### ② 遺構の展開と画期

城下町期Ⅲ期以降、中堀SD6001が収束する地点から南へ背割線または道路があったと推定され、宿場町期に入ってからはこのSD6001から南へ延びるラインは「美濃街道」として継続していたものと考えられる。この考えが妥当であれば、1794年の五条川瀬替えによって美濃街道が現在の位置に移動したということになる。

（鈴木正貴）

## 第3節 溝

### A 概要

溝は比較的小規模なものが多く、一部に規模の大きいものが例外的に存在する。溝は遺構全体の分布状況と同様に展開し、五条橋地区と本町地区で多く見られ、御園地区では溝は存在しなかった。溝の構造は素掘りのものばかりで、石組・しがらみ・杭列等の護岸施設を持たない。断面形態はほとんどが逆台形または半円形となる。溝の方位は、本町地区でN10° E及びこれと直交する方位を基本としている傾向が読み取れる。ここでは溝の類型化を行わず、地区別に個別に説明を加える。

### B 本丸地区

本丸地区での宿場町期の溝は62N区のみで検出された。いずれも性格は不明である。

SD2005～SD2007

62N区で検出された溝群で、平面形は蛇行したり途中で収束したりして不定形である。形態が規格的でないことと、五条川に隣接する位置で確認された大規模な溝であること等から、SD2005～SD2007は五条川堤防築堤に関連して掘削された遺構の可能性が指摘される。

### C 田中町地区

田中町地区での宿場町期の溝は、63A区と93B区でのみ検出された。性格が不明なものが多い。

SD3022・SD3023

63A区で検出された溝で、何度かの埋積と掘削を繰り返していたと思われる。溝の方位はN20° Eを測る。出土遺物の量が少なく詳細な時期の特定はできない。

SD3020

SD3020は63A区で検出された溝でSD3022・SD3023に直交する。幅は0.64mで時期は不明。

### D 五条橋地区

この地区の溝は、現五条川流路に平行する溝や幅が10m前後を測る溝等、多様な様相を持つ。

SD4001～SD4005

63B区北部で検出された溝群で、現五条川流路に平行して走る。幅は0.63m～1.63m、方位は約N70° Eを測る。SD4001とSD4002及びSD4003とSD4004は各々接近して存在する。SD4002とSD4003の間は約2.5mを測り、道路SF4001となる可能性がある。

SD4008

61A区北部に所在する東西方向に走る溝である。幅は0.75m、方位はN75° Eを測る。東西両端部は攪乱によって破壊されていた。時期は宿場町期Ⅱ期と考えられる。SD4010・SD4011と併せて屋敷境を表現する区画溝と推定される。

SD4010・SD4011

61A区に存在する南北方向に走る溝群で、SD4010の幅は0.48m、SD4011の幅は2.28mを測る。方位は共にSD4008と直交しており、SD4011がSD4010を切っている。出土遺物から両者の時期は宿場町

期Ⅱ－2期に位置づけられる。SD4008と併せて屋敷境を表現する区画溝と推定される。

SD4012

61A区中央部で検出された溝で、途中で屈曲している。時期は宿場町期Ⅱ期に属するが、性格は不明である。

SD4016

92C区北端部で検出された東西方向の溝である。現美濃街道に平行し、幅1.61mを測る。東西両端は収束し、SK4434とSK4435に切られる。出土遺物や状況から宿場町期Ⅱ期の区画溝と思われる。

SD4026 (第2図・写真図版15)

63C区で確認された東西方向に走る巨大な溝である。溝の幅は10.64mを測り、西端部は途中で収束し、東端部も砂質土を強く固めた堆積SX4008が高台状になって認められ収束している。溝の埋土は砂質土等が互層となって堆積しており、東側から順に埋め立てられたと考えられる。出土遺物から宿場町期Ⅰ－1期に埋没されたと思われる。清須城中堀SD6001が埋積した後に巨大な規模の溝SD4026が掘削されたことは、SD6001に替わる強い区画意識を継続して持っていたと考えられる。

SD4043・SD4044

63C区西南部で検出された溝で、幅は0.60m前後を測る。両者の溝は互いに直交している。時期は宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。屋敷境の区画溝と思われる。

SD4045

63C区東南部に所在する溝である。宿場町期Ⅱ期に位置づけられ、屋敷境の溝の可能性はある。

## E 本町地区

本町地区の溝には大小様々な規模を持つものがある。また、溝の方位はおよそN10°Eとなるものとおよそ真北となるものに分けられ、各々が平行して走る場合が多い。

SD6077

89E区北端部で検出された東西方向に走る溝である。清須城中堀SD6001廃絶後に掘削されていることや出土遺物から宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。

SD6078 (第3図・写真図版8)

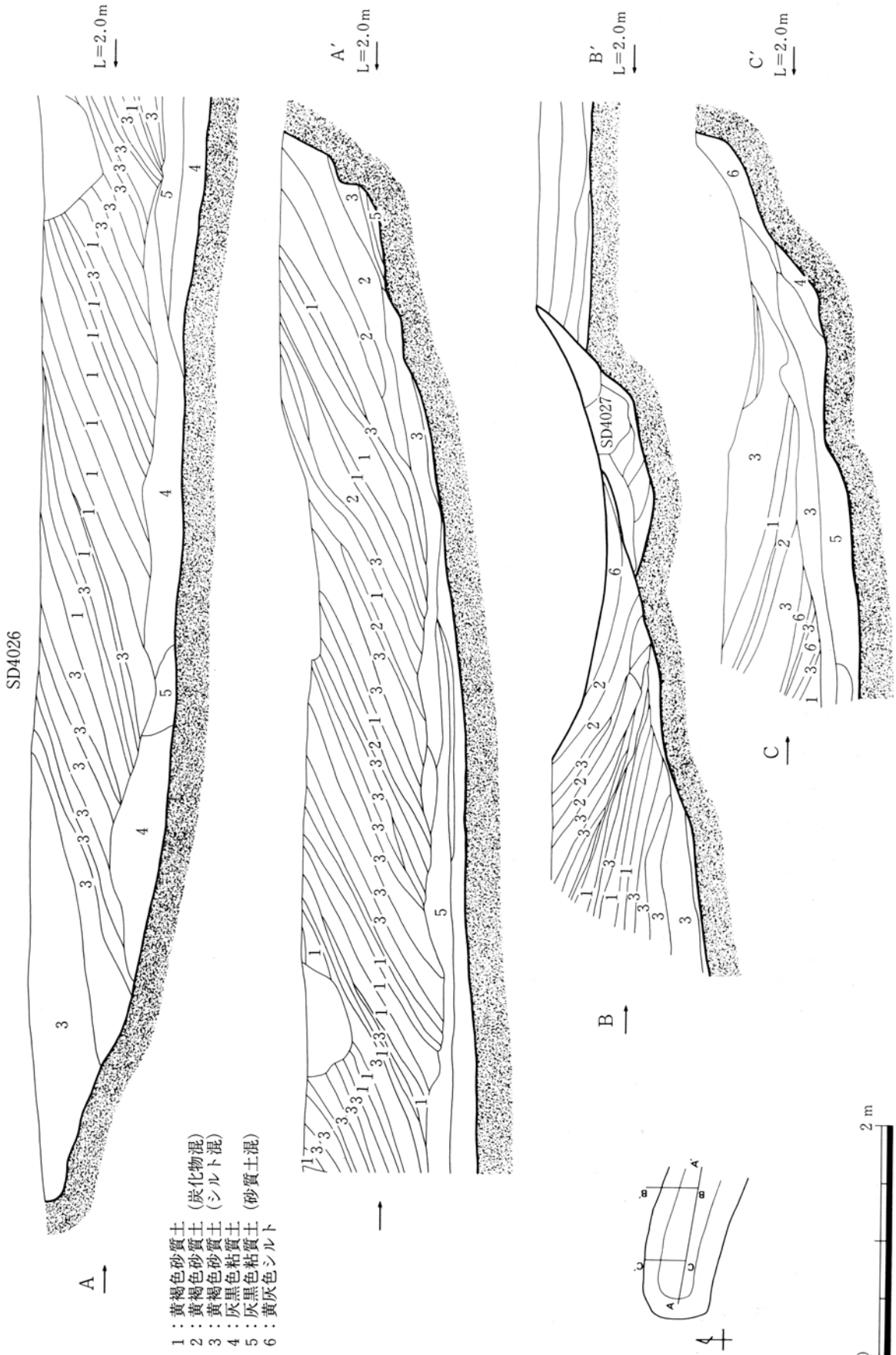
89E区で検出された南北方向に走る溝で、89E区の南端部で収束している。幅は4.71mを測る。SD6079・SD6081と平行する。SE6049に切られることと出土遺物から宿場町期Ⅰ－2期～Ⅱ－1期に属する。

SD6079・SD6080・SD6083・SD6084

89E区で確認されたSD6078に平行して走る溝である。SD6080を切ってSD6079が、SD6083を切ってSD6084が設けられた。SD6080とSD6083の間には約1.8mの間隔があり、出入り口を形成したと考えられる。SD6084は南部が僅かに蛇行している。

SD6081・SD6082・SD6002

91A区北部に存在する幅約0.5mの溝群で、SD6081とSD6082・SD6002は各々直交する。これらの溝は区画溝の一種と推定される。現五条川堤防下で検出されたことから宿場町期Ⅰ期に位置づけられる。なお、SD6081はSD6085に切られている。



第2図 溝土層断面図(1)

SD6028 (第3図)

61B区と89B区北端部で検出された幅約2.80mの溝である。SD6028北端部はSD6078の南端付近で収束し、南端部はSD6047に接している。SE6023とSK6691に切られる。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に位置づけられる。同規模の溝SD6078と喰い違いの位置関係にある。

SD6031

61B区西半部で確認された溝で、方位はN5°E、検出長は10.35m、幅は2.00mを各々測る。出土遺物から宿場町期Ⅰ期に位置づけられる。

SD6032

61B区西半部で確認された溝で、SD6031に平行して走る。検出長は12.75m、幅は1.55mを測り、出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期と考えられる。なお、SD6031とSD6032の溝心心間距離は1m強を測っている。

SD6085 (写真図版8)

SD6081とSD6087を切る溝で現五条川堤防下から検出された。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

SD6087

91A区に存在する溝で、SK6687・SK6698やSD6085・SD6092に切られる。周囲の状況からSD6081に連続する溝である可能性も考えられよう。宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SD6092 (写真図版8)

91A区から89B区に跨って存在する溝である。幅は1.80m~2.60mを測り、SD6087とSD6098を切る。方位はN5°EでSD6093と平行する。SD6093との溝心心間距離は10m強である。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SD6093 (第3図)

89Bで検出された幅が1m以下の規模の小さい溝である。宿場町期Ⅱ-1期の遺構SK6735に切られること等から宿場町期Ⅰ-2期に属すると思われる。SD6092と対応して存在する。

SD6097~SD6100・SD6102・SD6105~SD6107 (第3図・写真図版8)

89Bで検出された方位がN5°Eとなる溝群である。溝の幅は0.40m~1.50mを測り、複雑に切り合いながら存在しており、恐らく何度か掘削し直されたものだろう。SD6099の全長は14.66m、SD6100の全長は42.21m、SD6102の全長は21m以上、SD6106の全長は15.47m、SD6107の全長は16.12mを各々測る。これらの溝群はSD6101・SD6110と平行する形で存在しており、溝群とSD6101・SD6110の間は道路SF6001であった可能性がある。出土遺物等から大半の溝は宿場町期Ⅰ期に属するが、SD6102のみが宿場町期Ⅱ-1期まで継続している。

SD6101

89B区に所在する南北溝で南端部で東に屈曲していた。溝幅は1.35mを測る。宿場町期Ⅰ-2期。

SD6110

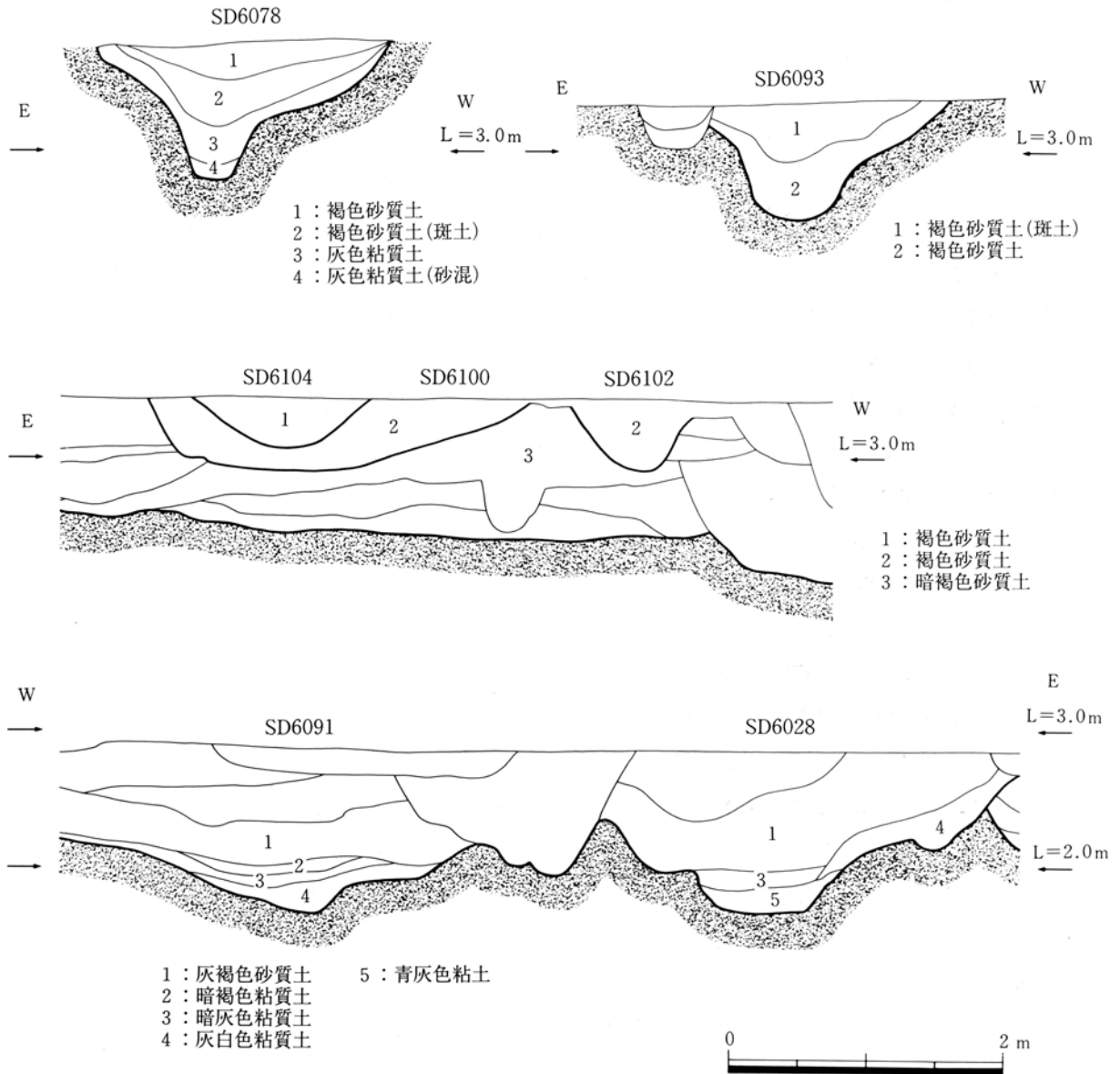
89B区に所在する南北溝であり、全長40m以上検出された。北端部で東に屈曲しており、おそらく南端部も東に屈曲していた可能性が高い。溝幅は1.25m、SD6101とSD6110の東西溝の溝心心間距離は17.60mを測る。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SD6112

SD6110に平行する89B区南部で検出された溝である。溝幅は1.40mでSD6110との溝心間距離は4.50mを測る。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に位置づけられる。

SD6111・SD6114

SD6111はSD6112に平行する幅0.25mの溝で、SE6051を切っている。SD6114はSD6111の南端から西に延びる幅0.35mの溝である。SD6114の延長ラインはSD6111に直交している。(鈴木正貴)



第3図 溝土層断面図(2)

## 第4節 建物

### A 概要

建物は上部構造が遺存せず下部の基礎地業の痕跡のみが検出された。建物は旧地表面から深く掘り込んで遺構を構築するわけではないため、今回の調査では検出できなかったものが存在する可能性を指摘できる。ここでは城下町期と同様、土台・基礎地業の構造によって次のように区分できる。

礎石建物———柱の基礎に石材を用いたもの。

掘立柱建物———柱の基礎部分に柱穴を掘削して柱を埋設したもの。

### B 礎石建物

礎石建物は五条橋地区の92C区と92D区で検出された。標高4.5m前後の宿場町期Ⅱ期に属する遺構面で確認されており、標高4.0m以下まで重機によって表土剥ぎしたその他の調査区でも、本来は宿場町期Ⅱ期の礎石建物が存在した可能性が十分に認められる。建物遺構は安定した礎石列が配置されていたものは少なく、建物外周等を巡る石列が検出されたものも存在する。こうした検出状況から、上部構造の復元は困難である。ここでは、比較的良好な形で確認された礎石建物5棟を紹介する。

SB4001（第4図・写真図版9）

92C区で検出された桁行4間×梁行3間?の南北棟礎石建物で、規模は約8.5m×約5.5m?を測る。北面の柱間距離は西から約2.6m?、1.1m、1.7mを測り、中央の柱間は正面の出入り口部分と推測できる。東面北部には拳大の石材で構成された石列が巡っている。南面にも石列が存在し、その中央には開口部があり幅1.1mの出入り口を形成していたと推定される。南面東側石列の西端部から北へ礎石列が配置されており、この柱間距離は南から約2.1m、1.9m、1.8m、2.7mを測る。この礎石列は建物内部の間仕切りと考えられる。建物の位置は現美濃街道に面する形で設定されていた。濃尾地震の噴砂が堆積する地層よりも下層に遺構が構築されていたこと等から宿場町期Ⅱ期に属する。

SB4002（第4図・写真図版9）

92C区で検出された桁行4間×梁行2間以上の南北棟礎石建物である。東半部は調査区外に延びており、規模は約9.4m×約2.8m以上を測る。西面の柱間距離は北から約2.3m、3.0m、1.6m、2.4mとなるが、北から3番目の柱位置を集石部北端に比定すると、柱間距離は約2.3mを基準にほぼ等間隔に設定されていたことになる。宿場町期Ⅱ期。

SB4003（第4図・写真図版9）

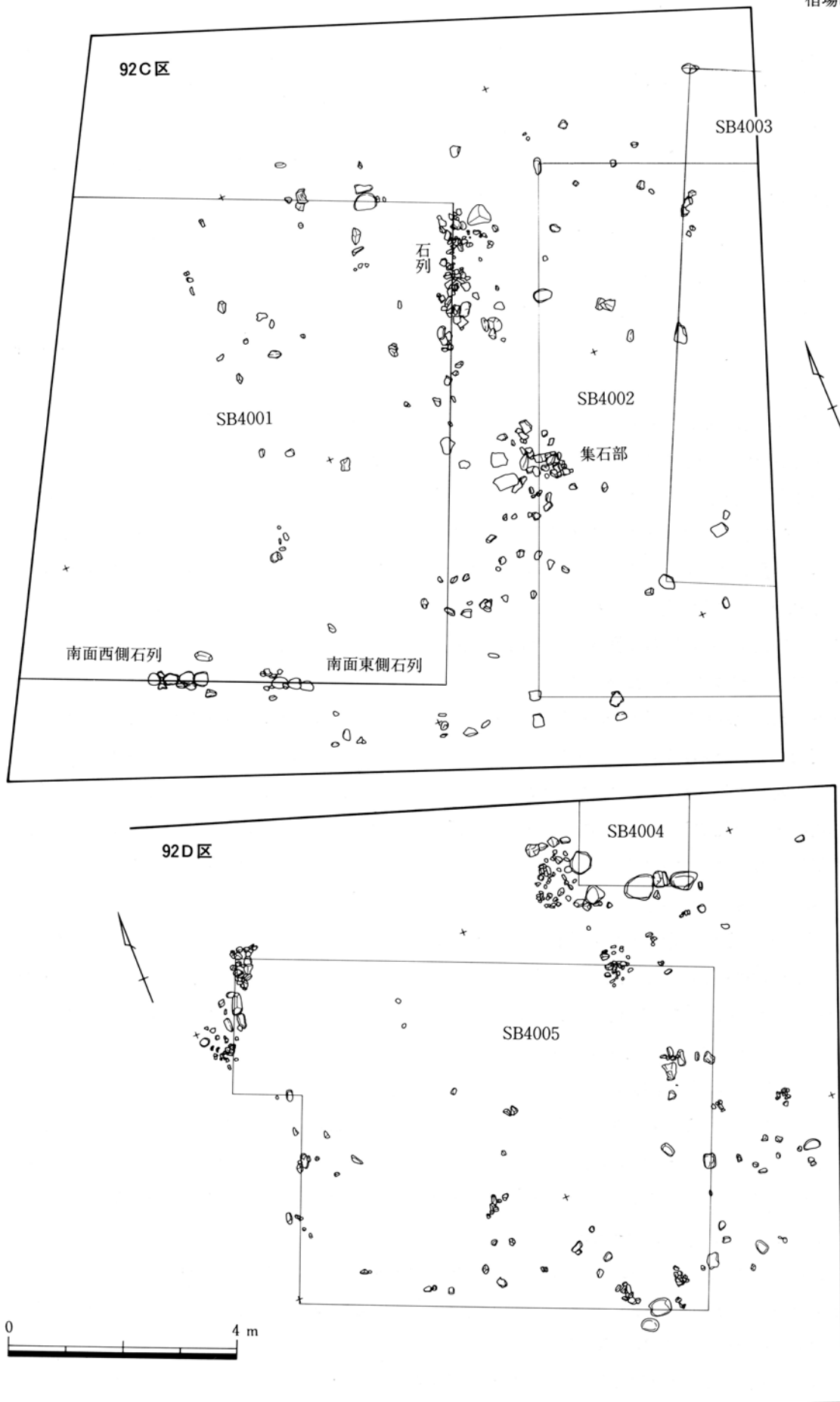
92C区で検出された桁行3間×梁行1間以上の南北棟礎石建物である。東半部は調査区外に延びており、規模は約9.0m×約0.8m以上を測る。西面の柱間距離は北から約2.3m、2.3m、4.4mを測る。SB4002と同様、約2.3mを基準に建てられた建物であると思われる、宿場町期Ⅱ期に属する。

SB4004（第4図・写真図版9）

92D区で確認されたL字形の榦状配石遺構をSB4004とする。主体部は調査区外に東西棟建物があったと考えられ、検出した部分はその張り出し部と推定される。宿場町期Ⅱ期。

SB4005（第4図・写真図版9）

92D区で確認された桁行5間×梁行3間の東西棟礎石建物である。規模は約8.4m×約6.0mを測り、



第4図 礎石建物平面図

建物の周囲には石列が巡っている。方位は現美濃街道に面する形で設定されていた。濃尾地震の噴砂が堆積する地層よりも下層に遺構が構築されていたことから宿場町期Ⅱ期に属する。

### C 掘立柱建物

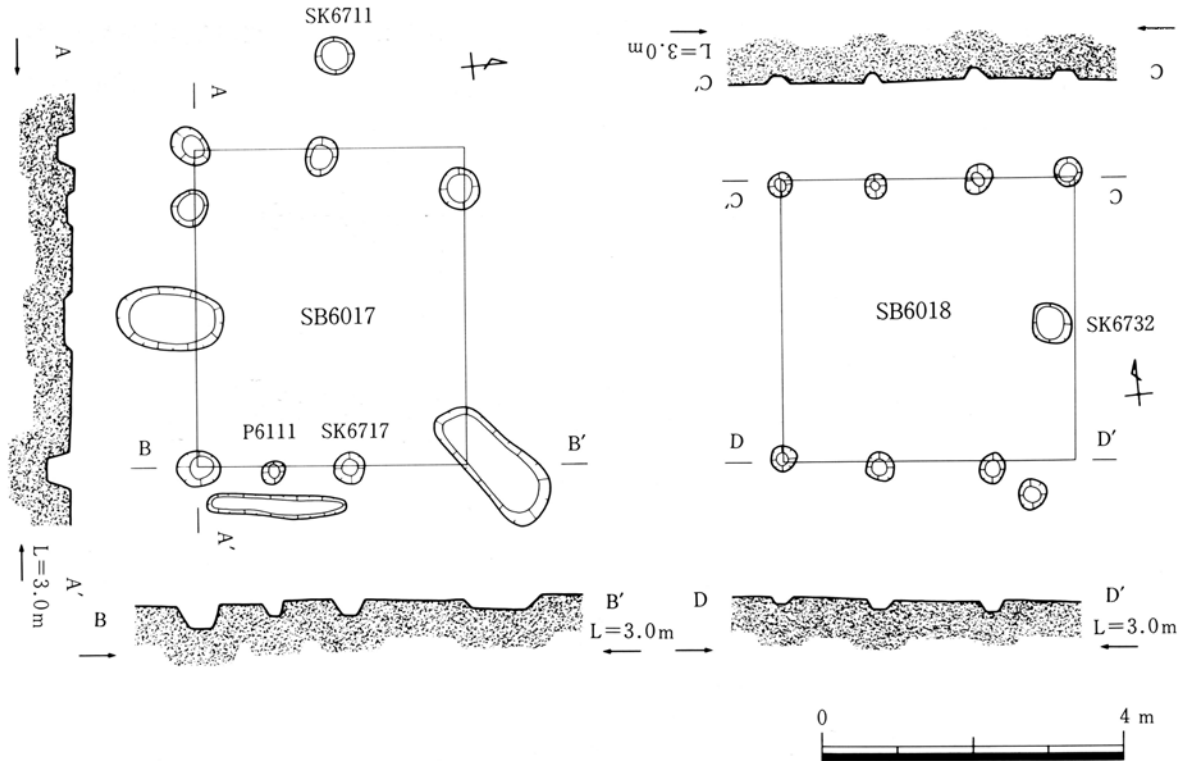
掘立柱建物は本町地区の91A区で2棟検出されている。現五条川堤防下で確認されたことから宿場町期Ⅰ－Ⅱ期に位置づけられる一群である。

SB6017 (第5図・写真図版9)

91A区中央部に所在する2間×2間の掘立柱建物である。規模は3.10m×3.68mを測る。西面の柱間距離は北から1.55m、1.55mを測るが、北西隅の柱穴は位置が若干ずれて存在している。東面の柱間距離は北から1.35m、0.85m、0.90mを測り、外側に溝SD6094が並走する。北西隅の柱穴は不定形の土坑となっている。南面の柱間距離は東から1.70m、1.30m、0.68mである。P6111、SK6717は束柱の可能性ある。SK6711もこの建物に伴うものかも知れない。

SB6018 (第5図・写真図版9)

91A区中央部で検出された1間?×3間の東西棟掘立柱建物である。SD6096を挟んでSB6017の南に所在し、規模は3.40m×3.30mを測る。南東隅の柱穴は検出できなかった。南面の柱間距離は西から1.10m、1.30m、(1.00m)を測り、北面は1.10m、1.20m、1.10mを測る。東面のほぼ中央にSK6732が存在し、主柱穴になる可能性がある。(鈴木正貴)



第5図 掘立柱建物平面図・断面図

## 第5節 柵列

### A 概要

柵列は、建物と同様、上部構造は遺存せず基礎地業の痕跡が残存しているに過ぎない。従って、調査の過程で検出できなかった遺構が存在する可能性が残されている。また、報告する柵列についても建物遺構の一部を柵列と認識したものがあるかも知れない。柵列を建物と同じく基礎地業で区分すると、礎石柵列と掘立柱柵列に分けられるが、前者は確認できず後者の事例が若干認められる。

### B 掘立柱柵列

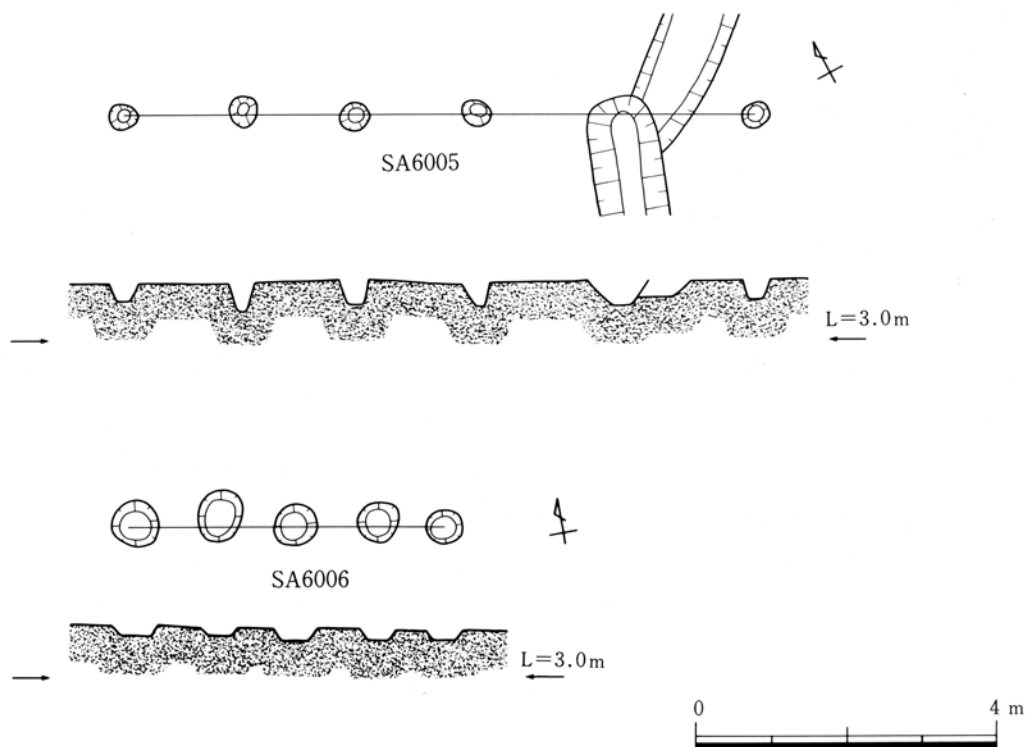
掘立柱柵列は本町地区で2例確認された。

SA6005 (第6図・写真図版9)

89E区北部拡張区の上面で確認された東西方向の掘立柱柵列である。5間分が検出され、東からP6110、(SK6651)、SK6649、SK6648、SK6646、P6108で構成される。柱間距離は東から約1.7m、1.7m、1.6m、1.5m、1.5mを測り、約1.6mを基準としているようである。中堀SD6001やSX4009が埋積された後に構築されたもので、おそらく宿場町期Ⅱ期に属すると推定される。屋敷境を区画する柵列と思われる。

SA6006 (第6図・写真図版9)

91A区中央部で検出された東西方向に走る掘立柱柵列である。SK6745、SK6744、SK6742、SK6738、SK6737で構成され、柱間距離は東から約0.9m、1.1m、1.0m、1.1mを測り、約半間(0.9m)を基準に作られたものと思われる。北にはほぼ隣接してSB6018が存在しており、建物を囲む区画施設と考えられる。宿場町期Ⅰ-Ⅱ期に属する。(鈴木正貴)



第6図 柵列平面図・断面図

## 第6節 井戸

### A 概要

本遺跡で検出された宿場町期の井戸は全部で70基を数え、全て下部構造のみが確認されており、上部構造は遺存しなかった。城下町期と同様、地盤が軟弱であるため、土砂崩落防止用の内部構造物が設置されていたと思われる。井戸はこの内部構造物から以下のように区分できる。

結桶井戸——内部構造物として結桶状に板材を結び合わせた井戸側(結桶)のみが設置されたもの。

瓦積井戸——内部構造物として井戸専用瓦を筒状に組み合わせた井戸側が利用されたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

陶製井戸——内部構造物として常滑窯産陶器井筒が設置されたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

漆喰井戸——内部構造物として漆喰を井筒状に固めた井戸側が用いられたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

無構造物井戸——内部構造物が遺存しないもの。内部構造物が撤去されたものと考えられる。

宿場町期の井戸構造の変遷は、未だ正確に分析されていないのが現状である。今回の調査では、宿場町期Ⅰ期の井戸構造が詳らかではないが、宿場町期Ⅱ期には結桶井戸の他に、瓦積井戸・陶製井戸・漆喰井戸等の多様な構造を持つ井戸が出現していることが明らかになった。しかしながら、瓦積井戸・陶製井戸・漆喰井戸は最下部に結桶が設置されており、結桶が井戸構造物の基本的な材料となり上部構造に多様性を持たせていたものと考えられる。この点は城下町期の結桶井戸の系譜が宿場町期Ⅱ期まで引き続いて存在していたと評価されよう。

なお、城下町期と同様、井戸の構築・使用・廃絶の過程を検討する。

① 井戸の構築 井戸の構築手順は次のように復元できる。

a 平面形が2～4mの円形または楕円形、断面形は円筒状または2・3段の階段状の土坑を掘削する。城下町期に比べ、土坑は円筒状に深く掘削されたものが多い。

b 内部構造物を設置する。最下段に所在する井戸桶下端部を湧水層の砂層に差し込んでいる。

c 井戸側の周囲を埋め立てる。

② 井戸の使用 城下町期の井戸に存在した砂噴出防止用の竹編製品は全く認められなかった。

③ 井戸の廃絶 井戸を廃絶する理由は、井戸枯れや屋敷内構造の変更等が考えられるが、ほとんどの場合は2基～5基の井戸が隣接して切り合っており、出水量が低下したために掘り直されたものと推定できる。井戸の廃絶の手法は、城下町期と同様、次の3タイプに分類できる。

a 内部構造物抜き取りaタイプ——内部構造物を周囲の土壌ごと除去したもの。

b 内部構造物抜き取りbタイプ——周囲の土壌を除去せず、内部構造物のみを抜き取ったもの。

c 埋め立てタイプ——内部構造物をそのままにして石材・斑土等で埋め立てたもの。

また、井戸埋積時に竹管・鉄管を差し込んだものも見られ、息抜きを行ったものと考えられる。

## B 結桶井戸

結桶井戸は結桶状の筒形木製品のみを内部構造物に据えたもので、宿場町期の井戸の半数を占める。

SE4097 (第7図)

61A区中央部に所在する結桶井戸で、結桶が1段残存していた。上部の内部構造物は周囲の土壌ごと除去されていた。宿場町期Ⅱ-2期に属する。

SE4014 (第7図)

93A区中央部で検出された結桶井戸で、結桶が1段残存していた。埋土中に結桶のタガが部分的に遺存していることから、上部の結桶は廃絶時に抜き取られたものと思われる。宿場町期Ⅱ-2期。

SE4022 (第7図・写真図版10)

90B区西部で検出された結桶井戸で、最下段の結桶が1段残存していた。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。SE4023に切られており、何度か掘り直されたものと思われる。

SE4024 (第7図)

90B区西部に存在する結桶井戸で、最下段の結桶が1段残存していた。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。SE4023に切られており、何度か掘り直されたものと思われる。

SE4026 (第7図・写真図版10・12)

90B区中央部で検出された結桶井戸である。結桶は3段残存しており、いずれも結桶の高さは85cm、口径は65cmを測る。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。宿場町期Ⅱ期。

SE4027 (写真図版10)

90B区中央部で確認された結桶井戸で、結桶は2段残存していた。結桶内部にも結桶の部材が散乱していた。瓦積井戸SE4030に切られており、この地点で井戸が最低2回掘り直されたと思われる。

SE4045 (第7図)

62C区中央部に所在する結桶井戸で、最下段の結桶が2段残存していた。下から2段目の結桶の遺存状況は著しく不良であった。無構造物井戸SE4046に半分以上切られ破壊されており、掘り直しが行われている。宿場町期Ⅱ期。

## C 瓦積井戸

瓦積井戸は井戸専用に焼成された瓦(第Ⅶ章第9節を参照)を円筒に積み上げた井戸側を持つもので、最下段に結桶が用いられる。宿場町期Ⅱ-2期以降に属するもののみである。

SE4021 (写真図版12)

90B区西部で検出された瓦積井戸である。8枚の瓦を用いて造った円筒を5段以上重ね、その下段には結桶が3段設置されていた。掘形は直径約1.5mのやや規模が小形の円形プランを持ち、SK4481等を切って存在している。宿場町期Ⅱ-2期に位置づけられる。

SE4030 (第8図)

90B区中央部で確認された瓦積井戸と推定される井戸である。井戸側構造物として確実に遺存していた部分はないが、埋土中に井戸専用瓦(1017~1020)が多数出土していることからこの種の井戸と推定した。SE4027を切っており、宿場町期Ⅱ-2期に属する。

#### D 陶製井戸

陶製井戸は常滑窯産陶器の円筒形井戸側が積み重ねられたもので、最下段に結桶が用いられる場合もある。時期的には、宿場町期Ⅱ期に属するもののみである。

SE4016 (第8図・写真図版12)

92C区西端部で検出された陶製井戸で大半は調査区外に存在する。常滑窯で専用に焼成された陶器井戸側が3段重ねられ、下段には結桶が2段設置されている。宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。

SE6052

89C区中央部で確認された陶製井戸である。最下段には結桶は存在しなかった。宿場町期に属する。

#### E 漆喰井戸

漆喰井戸は漆喰を円筒状に固めた井戸側が用いられた井戸で、最下段に結桶が設置された場合もある。宿場町期Ⅱ-2期に属するもののみである。

SE4072 (第8図)

63C区東部に所在する漆喰井戸である。漆喰で造られた高さ70cm以上の井戸側を2段重ねて井戸側としている。井戸側中央には息抜きまたは吸引用の竹筒が差し込まれており、出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期から20世紀まで機能したものと考えられる。

SE4076 (写真図版12)

63C区東部に所在する漆喰井戸である。漆喰で造られた井戸側を2段、最下段には結桶を重ねて構築されている。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期から20世紀まで機能したものと考えられる。

#### F 無構造物井戸

無構造物井戸の大半は、本来存在していた結桶等の内部構造物が抜去されたと思われるものである。

SE4002 (第9図)

61A区北東部に所在する無構造物井戸で、掘形の平面形は直径2.2~2.4mの円形である。埋土の状況から内部構造物がそのまま抜き取られたものと考えられる。宿場町期Ⅱ-2期。

SE4004 (第9図)

61A区で検出された無構造物井戸である。掘形の形状は井戸内部構造物を抜き取る際によりかなり破壊されており、詳細は不明である。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期に属する。

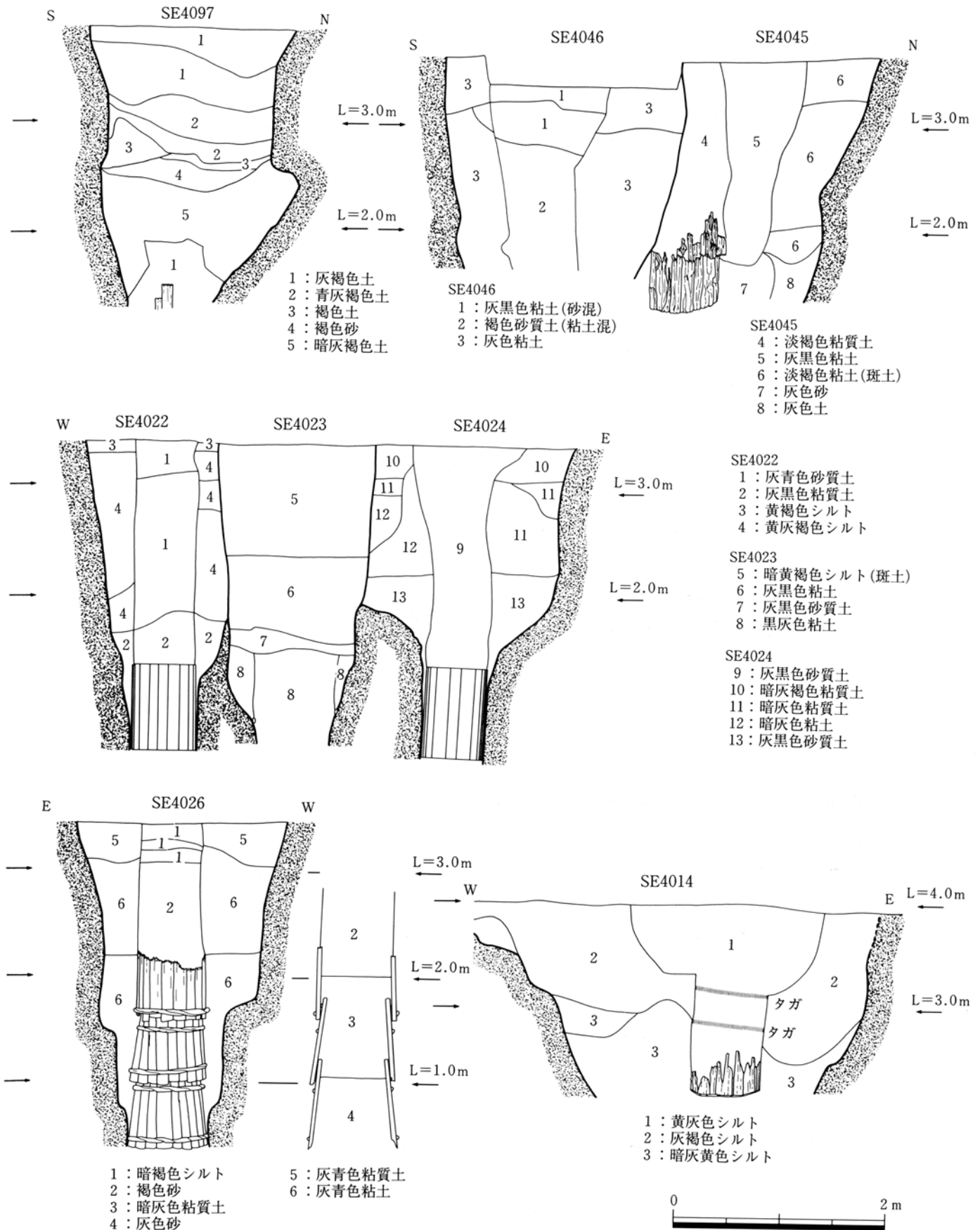
SE4044 (第9図)

62C区で確認された無構造物井戸である。掘形の平面形は直径2.0~2.4mのほぼ円形で、埋土の堆積状況とタガと思われる竹材が遺存していることから結桶が抜き取られたものと考えられる。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SE4096 (第9図・写真図版10)

61A区で検出された宿場町期Ⅱ-2期の無構造物井戸である。

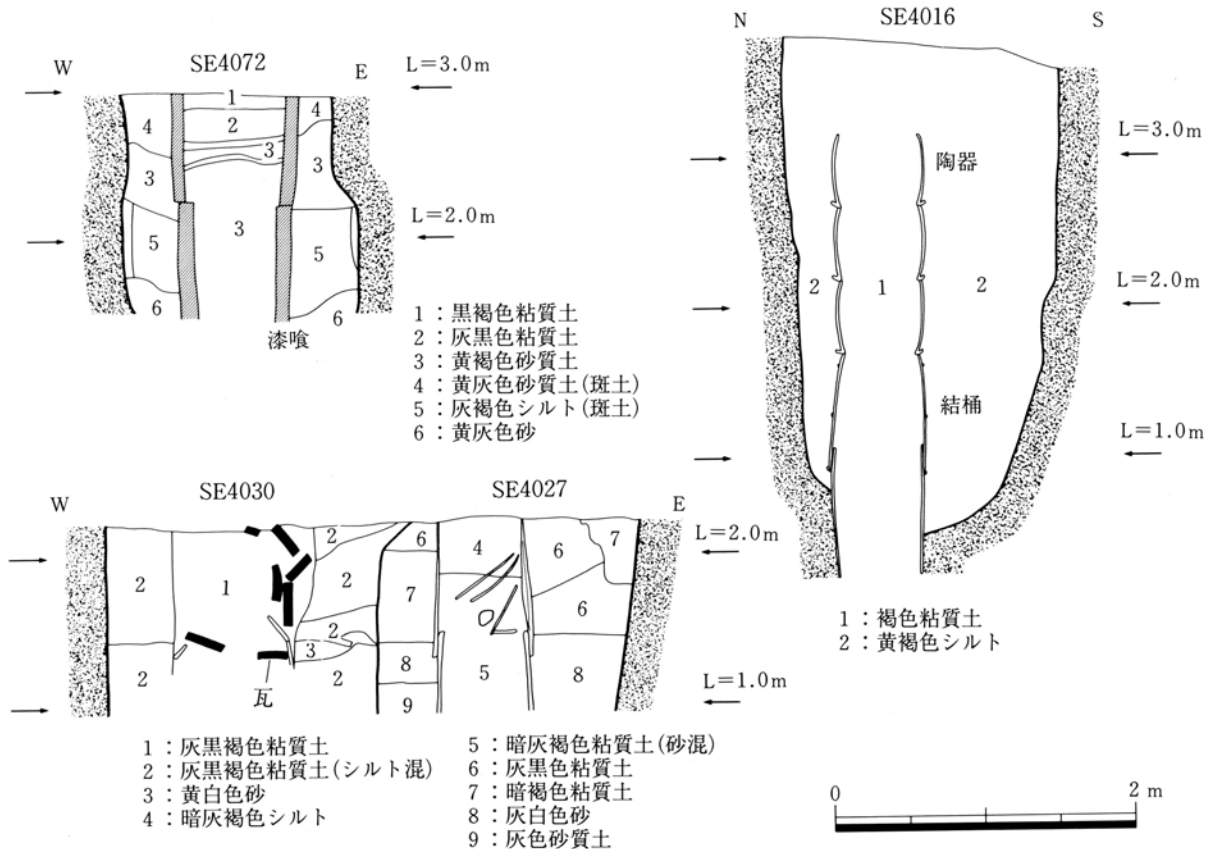
(鈴木正貴)



第7図 井戸土層断面図(1)

第2表 井戸一覧表

遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	内部構造	時期	遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	内部構造	時期
SE4002	2.46	2.22	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE4048	1.97	1.69	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿?
SE4004	残 2.85	残 1.37	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿II-2	SE4049	残 2.53	残 1.53	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿II-2
SE4005	残 2.07	残 1.00	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿	SE4050	3.53	3.41	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II
SE4006	残*3.85	残 2.07	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿	SE4051	残 1.99	1.88	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿I-2
SE4007	残 1.54	残 1.38	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE4052	3.52	残 3.07	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿
SE4008	2.38	2.02	結桶井戸(結桶2段残)	宿II-2	SE4053	残 1.74	1.66	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2
SE4011	3.28	残 2.82	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE4056	2.06	1.99	結桶井戸(結桶1段残)	宿II
SE4012	1.98	1.88	漆喰井戸(漆喰2段+結桶1段残)	宿II-2~	SE4057	残 4.09	残 2.18	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿
SE4013	2.24	2.02	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE4059	3.49	3.26	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4014	3.46	残 3.10	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2	SE4060	残 4.26	残 3.73	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4015	1.98	1.80	コンクリート井戸?	宿II-2~	SE4061	3.19	残 2.45	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4016	1.84	残 1.60	陶製井戸(陶器3段+結桶2段残)	宿II	SE4062	1.63	1.40	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4017	1.78	残 0.98	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿II-2	SE4063	2.35	2.03	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿
SE4020	2.08	2.08	漆喰井戸(漆喰1段+結桶1段残)	宿II-2	SE4064	2.04	1.93	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4021	1.55	1.50	瓦積井戸(瓦5段+結桶3段残)	宿II-2	SE4065	残 2.56	残 2.21	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿
SE4022	残 2.53	残 2.34	結桶井戸(結桶1段残)	宿	SE4069	残 3.61	残 1.76	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2
SE4023	1.74	1.44	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿	SE4070	残 2.30	0.83	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2~明治
SE4024	2.27	2.08	結桶井戸(結桶1段残)	宿	SE4072	2.01	1.79	漆喰井戸(漆喰2段+結桶1段残)	宿II-2~現代
SE4026	2.29	1.81	結桶井戸(結桶3段残)	宿II	SE4073	3.17	2.81	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2
SE4027	2.39	1.94	結桶井戸(結桶2段残)	宿	SE4074	残 3.27	残 2.00	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿
SE4028	残 3.16	残 2.97	結桶井戸(結桶2段残)	宿	SE4075	残 0.90	残 0.78	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2~明治
SE4030	2.03	1.71	瓦積井戸(瓦4段+結桶1段残)	宿II-2	SE4076	2.06	1.87	漆喰井戸(漆喰2段+結桶1段残)	宿II-2~現代
SE4031	2.34	2.00	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II	SE4077	残 3.03	残 2.12	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2~明治
SE4032	残 3.27	残 3.35	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE4096	1.97	1.77	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2
SE4033	残 1.87	残 1.68	漆喰井戸(漆喰1段残)	宿II	SE4097	2.20	2.12	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2
SE4035	2.18	2.04	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II	SE6023	4.68	4.52	結桶井戸(結桶1段残)	宿II-2
SE4038	5.32	4.27	結桶井戸(結桶1段残)	宿I	SE6027	5.84	4.53	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4040	3.90	3.28	結桶井戸(結桶1段残)	宿II	SE6031	1.45	1.22	結桶井戸(結桶1段残)	宿
SE4041	5.32	4.27	結桶井戸(結桶1段残)	宿I	SE6047	1.83	1.70	漆喰井戸(漆喰2段+鉄管残)	宿II
SE4042	残 4.00	残 2.64	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿	SE6048	1.68	1.63	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II
SE4043	残 3.54	残 2.04	結桶井戸(結桶1段残)	宿II	SE6049	1.42	1.37	漆喰井戸(漆喰2段残)	宿II
SE4044	2.38	2.02	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE6050	残 1.95	残 0.76	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿
SE4045	残 3.34	残 2.14	結桶井戸(結桶2段残)	宿II-2	SE6051	2.46	1.67	無構造物井戸(結桶採取aタイプ)	宿
SE4046	残 2.67	2.19	無構造物井戸(結桶採取bタイプ)	宿II-2	SE6052	1.15	1.05	陶製井戸(陶器1段残)	宿
SE4047	3.82	3.12	結桶井戸(結桶1段残)	宿	SE7009	1.84	1.72	陶製井戸(陶器1段残)	宿II-2



第8図 井戸土層断面図(2)



## 第7節 畝状遺構

### A 概要

小規模な溝または細長い畝状の盛土が数条平行して走る遺構群を畝状遺構とする。宿場町期の畝状遺構は本町地区及び南部地区で検出された。いずれもベースは砂質土等で構成されていたが、植生痕などは確認できなかった。畝状遺構の形状は、構成される溝または畝状盛土の長さの間隔などから以下の3類に区分できる。

畝状遺構Ⅰ類——溝の長さが5 m以下と短く、溝と溝の間隔が狭いもの。

畝状遺構Ⅱ類——溝または畝状盛土の長さが5 m以上と長く、その間隔が比較的狭いもの。

畝状遺構Ⅲ類——溝または畝状盛土の間隔が広いもの。

本町地区に所在する畝状遺構はⅠ類とⅡ類が認められ、いずれも宿場町期Ⅰ期に属する。一方、南部地区ではⅠ類とⅢ類が確認されたが、詳細な時期は特定できていない。

### B 本町地区

畝状遺構はⅠ類 (SX6013・SX6016・SX6017・SX6018) とⅡ類 (SX6021) がある。

#### SX6013

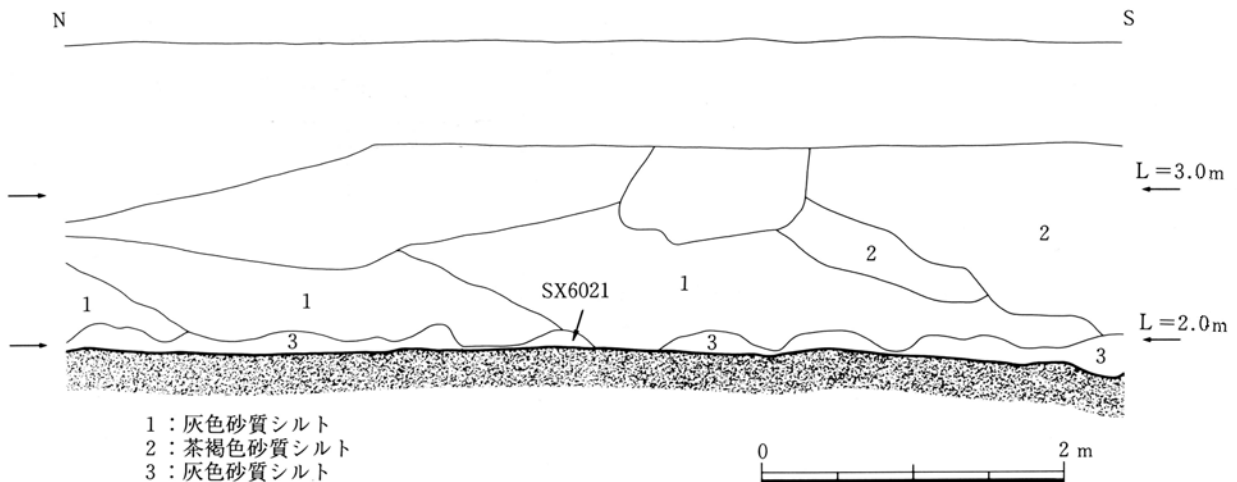
91A区中央部で確認された畝状遺構Ⅰ類であるが、溝は3列しか遺存しない小規模なものである。SB6017の北部に所在し、溝は南北方向に走っている。宿場町期Ⅰ期。

#### SX6016・SX6017・SX6018 (写真図版8)

91A区中央部に位置する畝状遺構Ⅰ類で、SB6018に付属する畑群と想定される。SX6016は南北方向の溝が2列3組存在する。SX6017はSX6016に東接し、極めて短い東西方向の溝5条で構成されている。SX6018はSX6016の南に所在する2条の東西方向の溝で構成されている。全て宿場町期Ⅰ期。

#### SX6021 (第10図・写真図版8)

89C区全域で検出された畝状遺構Ⅱ類で、一部は現五条川堤防盛土に覆われていた。宿場町期Ⅰ期。西端部は南北方向に走る畝状盛土が、それ以外は東西方向の畝状盛土が多数存在している。畝状盛土は灰色砂質シルトが盛り上げられて作られていた。



第10図 畝状遺構土層断面図

## C 南部地区

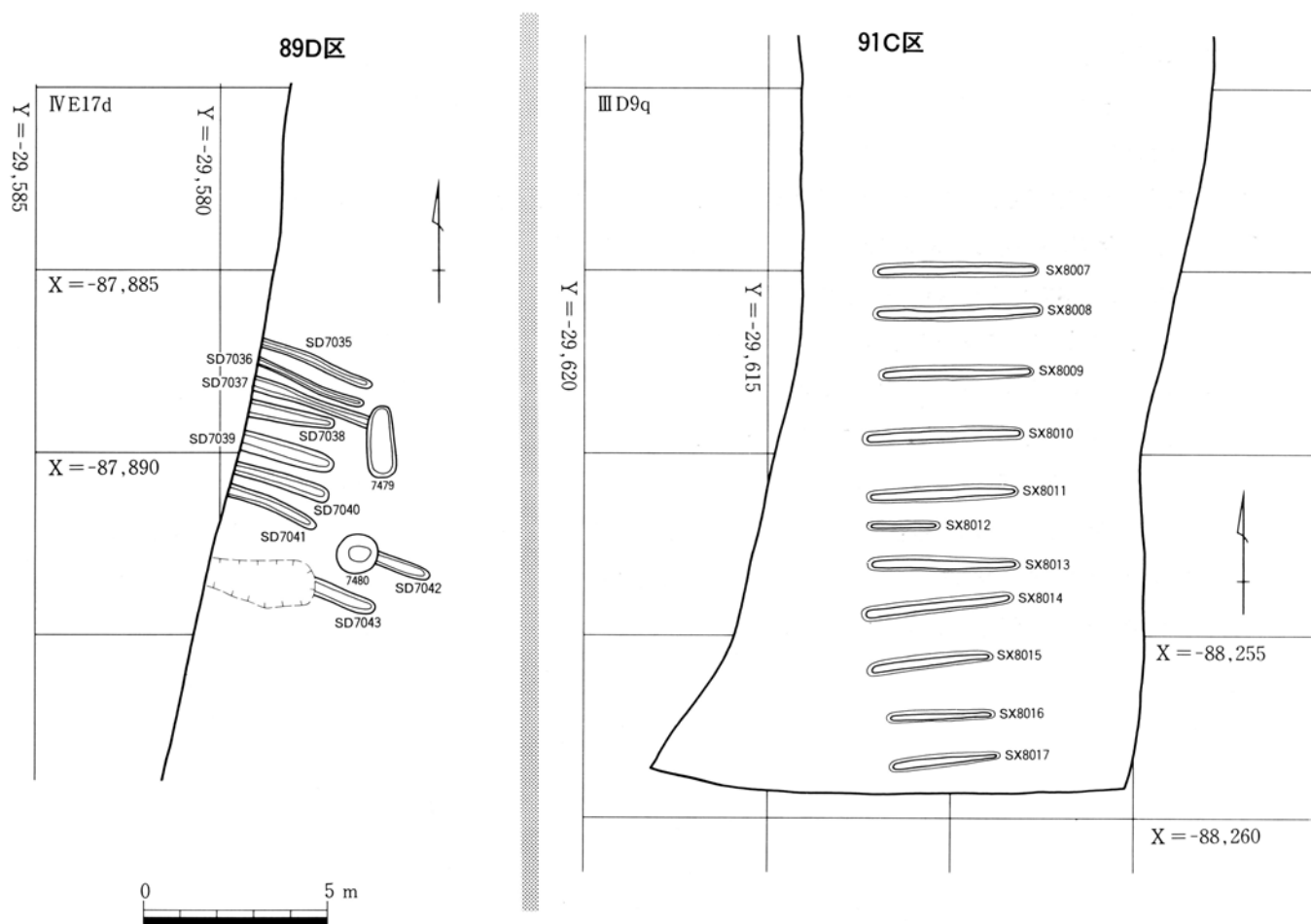
畝状遺構はⅠ類 (SD7035～SD7043) とⅢ類 (SX8007～SX8017) が存在する。

## SD7035～SD7043 (第11図)

89D区西端部で検出された畝状遺構Ⅰ類である。東西方向に走る長さ2 m前後の溝9条で成り立っている。溝内には暗褐色砂質土が充填されていた。出土遺物がほとんど存在しないことから時期は特定し得ない。

## SX8007～SX8017 (第11図)

91C区南半部に所在する畝状遺構Ⅲ類で、東西方向に走る畝状盛土が11条確認された。畝状盛土の全長は4 m前後を測り、その間隔は1 m前後と比較的広がっている。なお、畝状盛土には植生痕は確認されなかった。天正地震による噴砂の堆積よりも上位で検出されたことと出土遺物から、この畝状遺構は宿場町期に属すると考えられる。(鈴木正貴)



第11図 畝状遺構平面図

## 第8節 方形石組遺構

拳大の河原石が方形に敷き並べられた遺構を方形石組遺構として報告する。方形石組遺構は五条橋地区で4基（SX4007・SX4016・SX4017・SK5222）、本町地区で1基（SX6015）が検出された。土坑中に石組されたもの（SX4007・SX4017・SK5222）と石組のみが検出されたもの（SX4016・SX6015）に区分される。方形石組遺構の機能については污水溜や洗い場等が想定されよう。

SK5222・SX4017（写真図版14）

63C区東部で検出された土坑群である。SX4017は長径2.88m、短径1.63mを測る楕円形の平面プランを持つ深さ0.16mの浅い土坑で、内部に拳大の石材がほぼ方形に敷き詰められていた。SK5222は長径2.74m、短径1.79mを測る楕円形の平面プランを持つ深さ0.56mの土坑である。SK5222の東端には木杭が3本打ち付けられ、西側には石材が散乱していた。石材の配列は規則的ではなく、方形石組遺構とは認定し難い。両者は井戸SE4073に隣接して設定されており、SX4017は洗い場のような機能を、SK5222は污水溜の機能を分担していた可能性が考えられる。宿場町期Ⅱ期に属する。

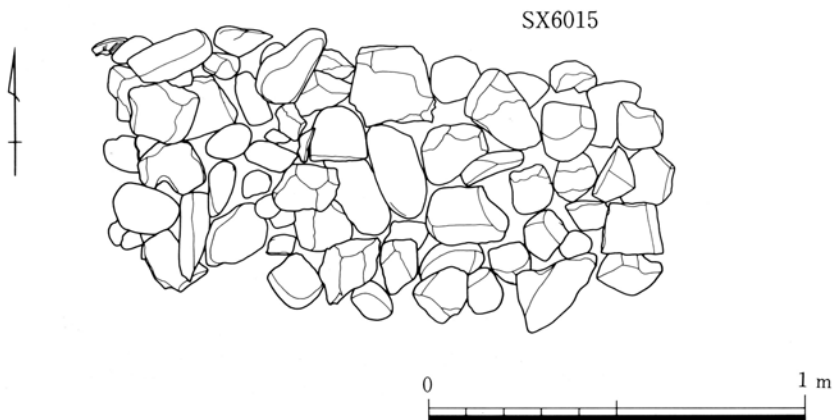
SX6015（第12図・写真図版14）

89B区に所在する方形石組遺構で土坑の掘形等は確認できなかった。短辺0.74m、長辺1.52mを測り、やや角張った石材を用いて構成されている。SX6015が単独で検出されたため、その詳細な時期や性格は特定できない。

SX4007（第13図・写真図版14）

90C区南東部に所在する方形石組遺構である。土坑の平面形は長径2.58m、短径2.24mのほぼ円形を呈しており、深さは1.07mを測る。石組は土坑の南寄りの位置に上下2段に敷き並べられて存在する。2段の石組の間には板材が存在しており、木製容器が配置されていた可能性が考えられる。

下段の石組は短辺が0.92m、長辺が1.14mを測り、石材が隙間なく敷き詰められていた。石組南辺と東辺は同規模の石材が1列に並べられた状態となっており、周縁部が配石された後にその内部が石材で充填されたものと思われる。使用された石材は比較的小規模な拳大のものが多く、必ずしも均質ではなかった。下段の石組の標高は約1.9mを測る。（なお、図中の網部は作図できなかった敷石の範囲である。）

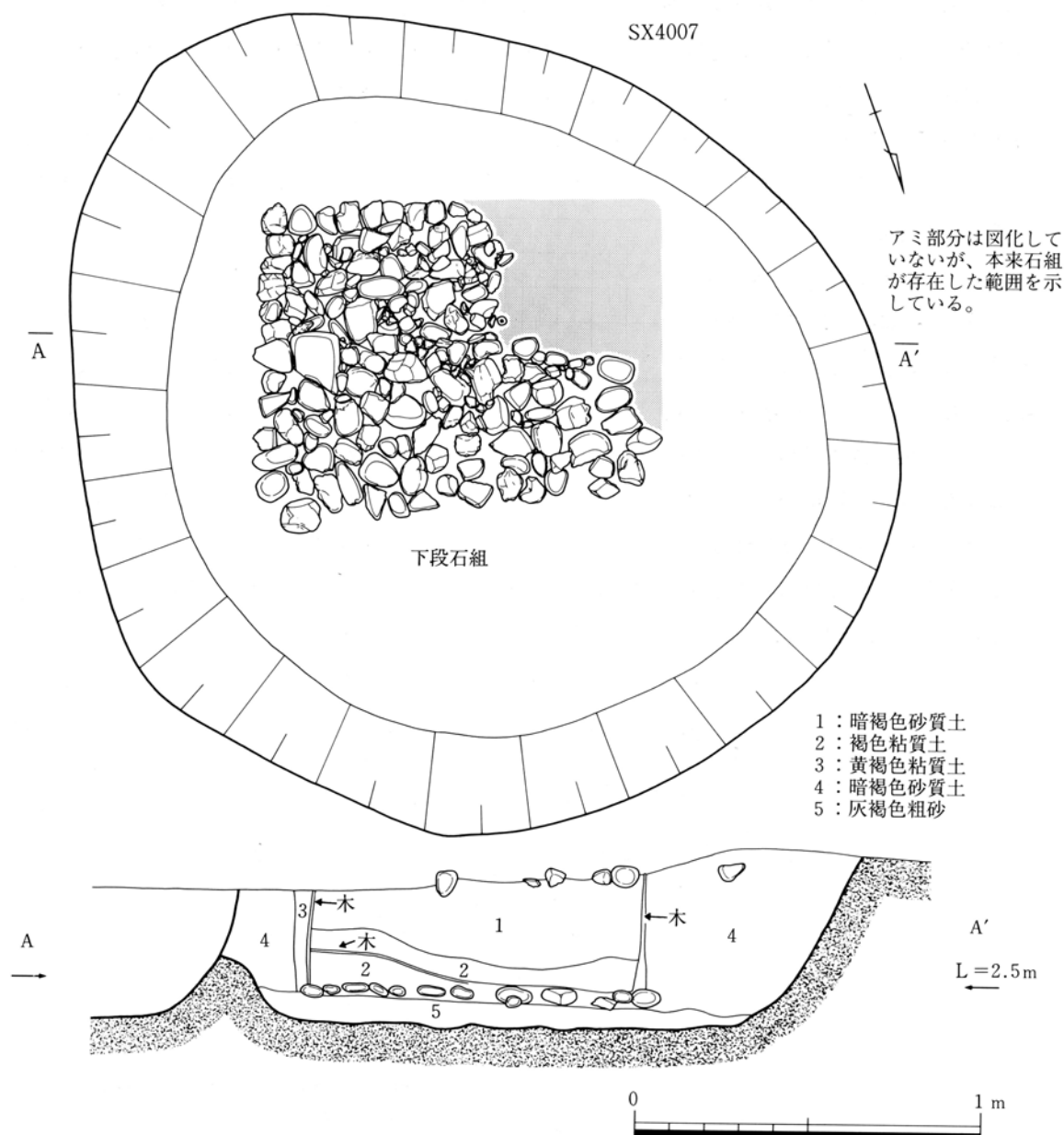


第12図 方形石組遺構平面図

上段石組は遺存状態が不良であるが、下段と同様に石材が敷かれていたと想定される。下段と上段の石組の比高差は0.32mを測り、石組の間にある木製構築物は縦板と横板が認められる。縦板は下段石組の縁辺部（4辺）の上部に合計4枚存在する。縦板の木質部分の遺存状況は不良で、4枚の板材の組構造は不明である。横板は下段石組の直上に一部が遺存しており、底板と考えられる。これらから木製構築物はおそらく箱状の木製容器であったと推定される。

下段石組の下部（土坑床面）には灰褐色粗砂層が堆積している。また、木製構築物の外側は砂質土の斑土で埋め尽くされており、木製構築物の内部下半は褐色粘質土で充填されていた。以上の状況から、SX4007の構築過程は以下のように復元できる。まず、土坑内に粗砂を敷いた後に下段石組を敷設し、木製容器の設置後に周囲を斑土で埋めている。上段石組の構築過程は特定できない。

SX4007の機能は、下部に砂や石組がある点と内部に粘土が充填されていた点から、汚水溜と想定され、清洲周辺で「タマヤ」と呼ばれるものに相当するであろう。宿場町期Ⅱ期。（鈴木正貴）



第13図 方形石組遺構平面図・断面図

## 第9節 竈状遺構

恒常的な火の使用が想定される火処の遺構と考えられるものを竈状遺構としておく。本遺跡で検出された竈状遺構は、五条橋地区に所在するSX4006の1基のみである。

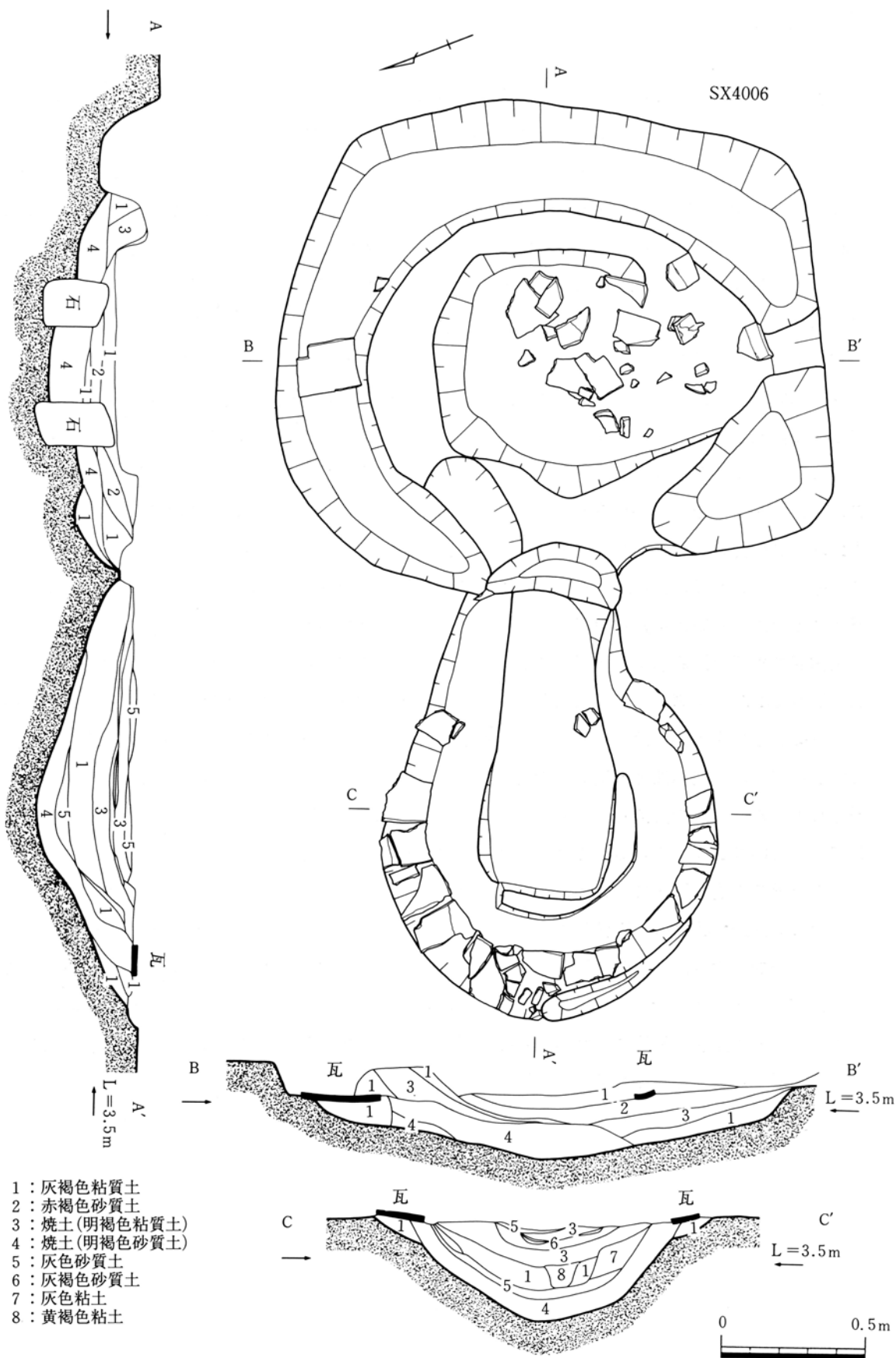
SX4006（第14図・写真図版13）

62C区中央部東寄りに存在する竈状遺構である。平面形は瓢箪形で主軸方向はほぼ東西方向を向いていた。主軸方向の全長は3.23m、主体部の直径は1.94m、焚口部の幅員は1.15mを各々測る。SX4006の上部構造は遺存せず、具体的な施設の復元はできない状況である。周囲にはSX4006に伴う付属施設の遺構は検出されなかった。

主体部の平面プランは隅丸方形に近い形態である。深さ0.40mの土坑の中央部に2個の石材が対置されて据えられており、著しく被熱されて脆くなっていた。石材は長さ約40cm、幅20cm弱、高さ20cm強を測る。石材の周囲は均質なシルトが2～4層にわたって版築状に固められており、シルト層の間には砂質土層が一部挟み込まれていた。この土層は著しく被熱されており、表面が赤褐色からオレンジ色に変色していた。シルト層の上位は浅い落込みが存在し、その中から被熱された瓦片が出土した。主体部の周縁部には、幅0.30m～0.45m、深さ0.40mの幅広で極めて浅い円形の溝が巡っている。溝の中心ラインの直径は約1.50mを測る。このリング状の溝の一部に平瓦が1枚埋め込まれるように配置されていた。本来は平瓦が円形に一列に並べられていたものと推定される。

主体部の周囲を巡る溝は、東面で焚口部に接続するため収束している。焚口部の平面形は円形をなし、深さは0.34mを測る。土坑内はシルト層が互層状に堆積しており、やはり著しく被熱されていた。シルト層上面の中央部には、平面形が長方形となる極めて浅い落込みが認められる。落込みは主体部に向かって延び、主体部との境界部で浅い溝に接続している。焚口部の周縁部には平瓦が円弧状に配列されていた。一部で欠落した部分が認められるが、主体部と同様、本来は平瓦が一列に敷き並べられていた可能性が考えられる。これらの敷瓦も著しく被熱されていた。

この遺構の機能・性格については、主体部と焚口部の各々の中央部が著しく被熱されていること、周溝上の敷瓦が構築物の基礎構造であった可能性が考えられることなどから、恒常的な火処と推定できる。この周辺では、金属滓・鋳型・焼成不良品などの鋳造関連遺物や土器焼成坑関連遺物は特に目立つ形では出土していない。SX4006以外には本遺跡では類似遺構がみられない点が疑問点として残るが、ここでは煮炊に利用された竈または風呂といった機能を推定しておきたい。遺構検出面と周辺の遺構配置の状況から宿場町期Ⅱ－2期に位置づけられよう。（鈴木正貴）



第14図 竈状遺構平面図・断面図

## 第10節 土 坑

### A 概 要

土坑は、宿場町期の遺構が展開する調査区ではほぼ全域で検出されている。大半の土坑はその性格が明らかではない。ここでは、城下町期と同様、土坑の規模によって以下のように区分して、このうち特徴的な事例に関してのみ詳細に取り上げることとしたい。

土坑Ⅰ類——比較的小規模で、平面プランが円形または楕円形を基準とした形態となるもの。

長径が5 m以下で、不定形となる場合がある。

土坑Ⅱ類——比較的大規模で、平面プランが円形または楕円形を基準とした形態となるもの。

長径が5 m以上で、不定形となる場合がある。

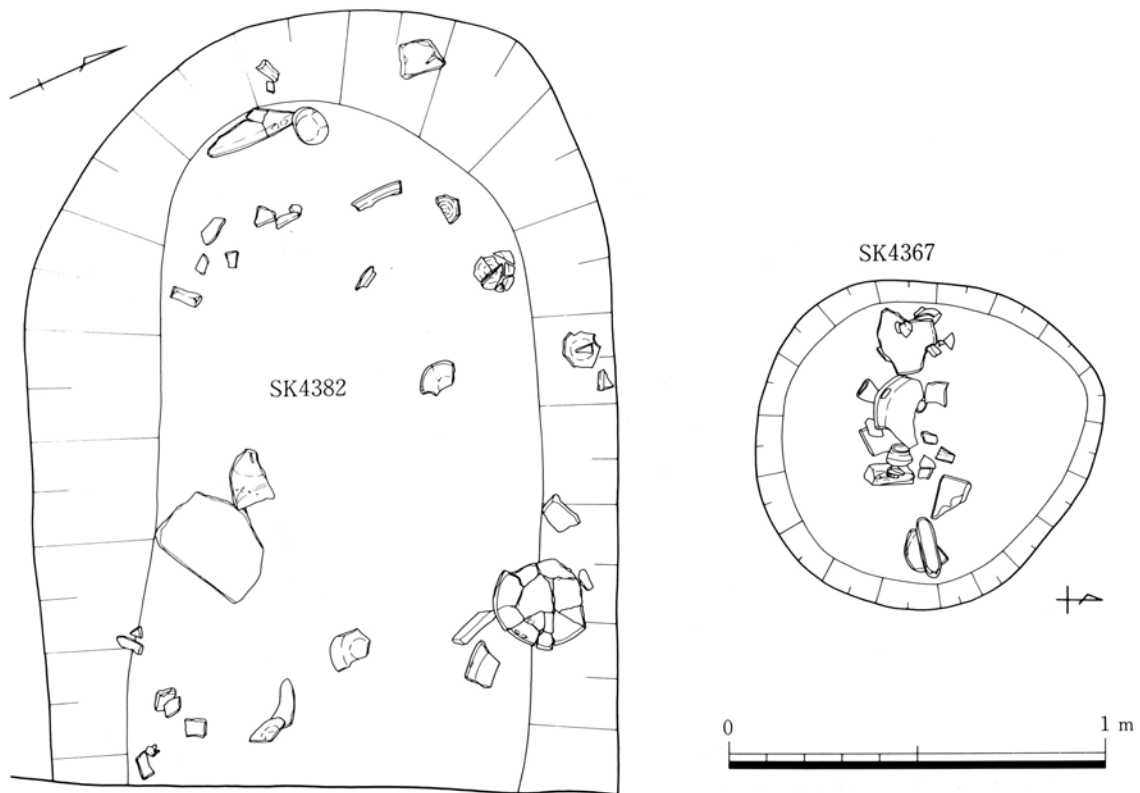
第Ⅲ章第9節「城下町期の土坑」で分類した土坑Ⅲ類は、宿場町期では確認できなかった。数量的には土坑Ⅰ類が多く認められ、土坑Ⅱ類は少ない。また、調査区による分布の偏りは認められない。

### B 五条橋地区

五条橋地区の土坑は土坑Ⅰ類が大半を占め、時期は宿場町期Ⅱ期のものが多い。

SK4382 (第15図)

93A区東端部で検出された土坑Ⅰ類で、平面形は長楕円形を呈していたと推定される。残存長2.50m、深さ0.47mを測る。出土陶磁器類から宿場町期Ⅱ-2期に属する遺構と思われる。



第15図 土坑遺物出土状態図(1)

## SK4367 (第15図)

93A区で検出された平面形が円形の土坑Ⅰ類である。長径0.91m、短径0.83mを測り、中から瀬戸美濃窯産陶磁器類や石材が出土した。宿場町期Ⅱ-1期。小形の廃棄土坑と推定される。

## SK4287 (第16図・写真図版18)

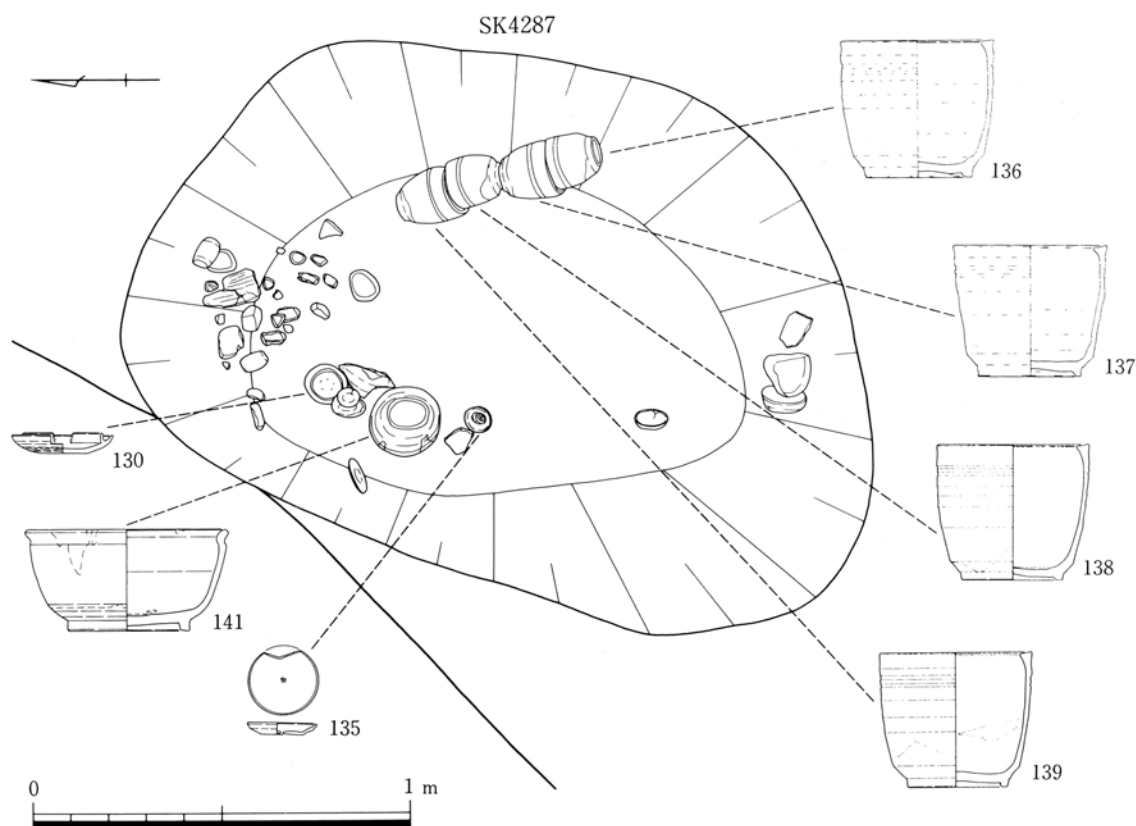
93A区西端部で確認された平面形が不定形の土坑Ⅰ類である。長径は2.00m強を測る。この土坑からは、瀬戸窯産陶器半胴甕(筒形)の完形が4点、こね鉢の完形が1点、美濃窯産陶器皿、土師器皿、太鼓のミニチュア等が出土した。半胴甕は土坑の東端部で2個づつ口縁部を合わせた状態で横位に埋設されていたが、半胴甕内部には特に何も埋納されていなかった。出土遺物等から宿場町期Ⅱ-1期に属し、遺物の出土状況から胞衣等の宗教的性格を持つ土坑と考えられる。

## SK4122

61A区中央部に存在する平面形が円形の土坑Ⅰ類で、直径0.77m、深さ0.22mを測る。土坑の四隅に産地不明のレンガが設置されていた。宿場町期Ⅱ-2期以降の年代が想定できる。

## SX4009 (第17図・写真図版15)

63C区南東部で検出された土坑Ⅱ類で、南辺と東辺は確認されていない。長辺11.16m以上、短辺4.34m以上を測る平面形が長方形と思われる土坑で、深さは2.00m強を測る。北辺には木杭列1列とそれに伴う横板が存在し、護岸施設が設置されていたと考えられる。土坑内は粘土と砂質土が堆積していた。SX4009は、清須城中堀SD6001埋没後に掘削されたことと出土遺物から宿場町期Ⅰ-1期に属する遺構である。



第16図 土坑遺物出土状態図(2)

SK5223 (第17図・写真図版18)

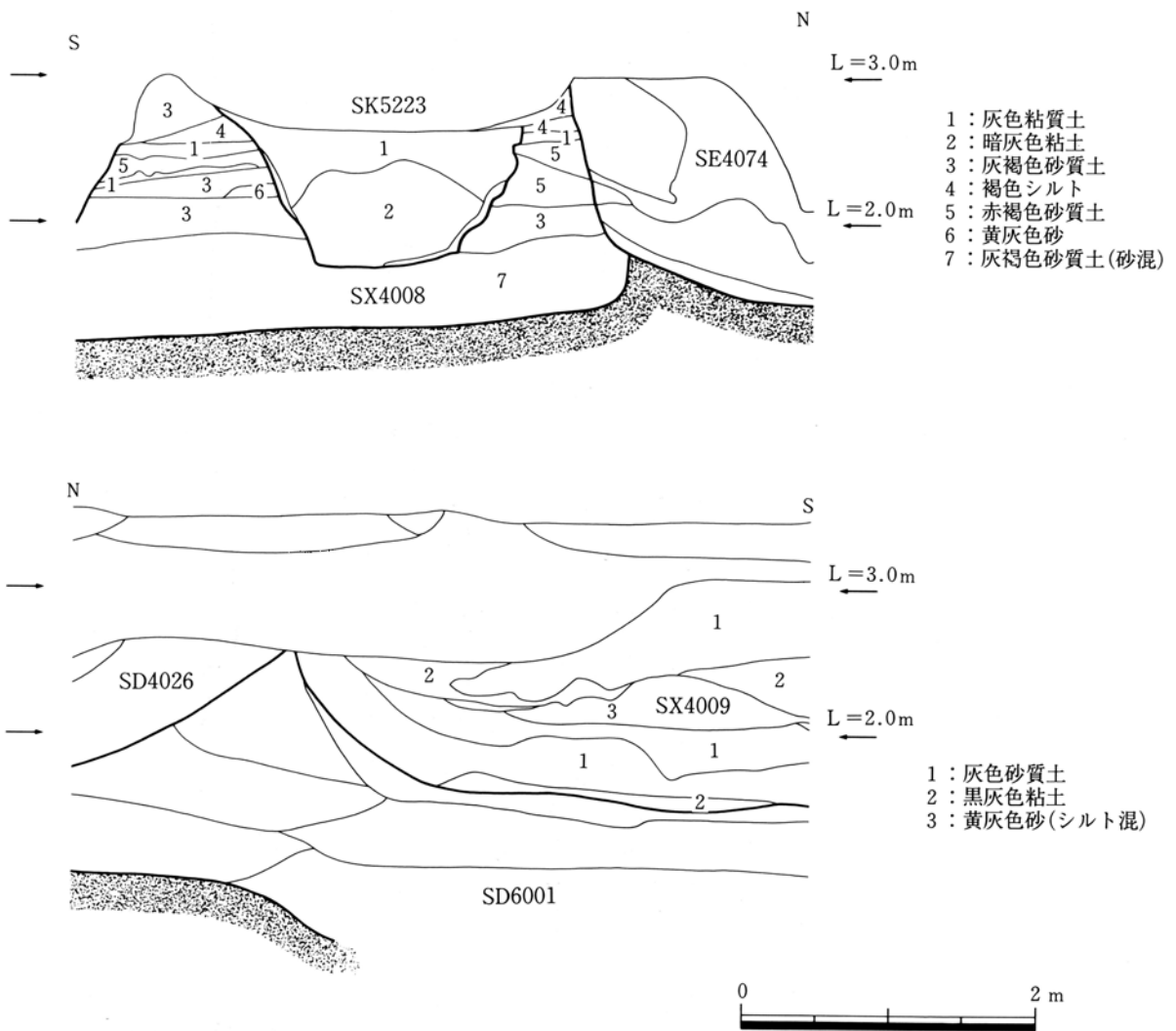
63C区東部に所在する土坑I類で、平面形は長辺2.28m、短辺1.45mを測る隅丸方形である。断面形は逆台形を呈し、深さは1.22mを測る。石と瓦を含有するシルト・砂質土の叩き締め層SX4008を掘り込んで掘削されていた。SX4008の範囲は7.30m×4.44mで、層厚1.15mを測り、SD4026の東端部を強固にしたものと推定される。SK5223からは遺物が全く出土しなかったが、SK5223の時期は遺構配置からみてSX4008・SD4026と一体となって構築されたものと考えられ、宿場町期I-1期と推定できる。

SK4128 (写真図版18)

61A区中央部東端で検出された平面形が不定形の土坑で、長径は6.33m以上を測る。多数の陶磁器・土器類の他に多量の石材が投棄されており、これらの遺物から宿場町期II-2期と位置づけられる。

SK4508 (写真図版18)

92D区西端部で確認された土坑I類である。直径が4m強の円形の平面プランであったと推定され、遺構の半分は調査区外に存在する。深さは1.55mを測り、中からは石材と陶磁器類が出土した。出土遺物から宿場町期I-2期に属する。



第17図 土坑土層断面図

## C 本町地区

本町地区の土坑は、Ⅰ類が大半を占めているが、一部でⅡ類が存在している。

SK6735 (第18図・写真図版15)

89B区北部に存在する土坑Ⅱ類である。長径6.97m、短径3.28mを測る隅丸長方形の平面形を持ち、深さ1.89mを測る。埋土は灰色シルトまたは粘土である。SK6749に切られ、SD6093とSK6734を切っている。発掘調査当時では五条川瀬替え以前の絶対年代が付与できる資料と位置づけられていた<sup>(1)</sup>が、堤防盛土に確実に覆われていたわけではないため、この点については疑問が残っている。この土坑からは多量の陶磁器類が出土しており、これらの遺物からSK6735は宿場町期Ⅱ-1期に属する。



第18図 土坑遺物出土状態図(3)



第19図 土坑遺物出土状態図(4)

## SK6691 (第19図・写真図版16・17)

61B区中央部に所在する土坑Ⅱ類である。検出面での遺構平面プランは長径8.04m、短径6.55mを測る楕円形で、深さは1.45mを測る。SK6691の下部は平面形が馬蹄形に深く掘削されており、元来はドーナツ形の巨大な土坑であったと思われる。土坑内は灰黒色粘土等で充填されており、SD6028・SE6023・SE6027に切られている。ここからは極めて多量の遺物が出土した。上層では主に陶磁器・土器類が、下層では主に木製品・竹製品が投棄されており、良好な一括資料となっている。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期に位置付けられる。

## SK6730 (写真図版18)

91A区で検出された土坑Ⅰ類である。長径0.44m、短径0.39mを測る円形の平面プランを持ち、深さ0.08mを測る。中には土師器皿が1枚破損した状態で出土した。宿場町期Ⅰ期。

## SK6721

91A区に所在する土坑Ⅰ類である。長径0.75m、短径0.58mを測る円形プランを持ち、深さ0.34mを測る。SK6730と同様、土師器皿が1枚破損した状態で出土した。宿場町期Ⅰ期。

## SK6679

91A区北部に存在する長辺11.32m以上を測る土坑Ⅱ類である。平面形は隅丸方形を呈するが隣接する61B区では検出されなかった。深さは1.10m以上を測り、暗褐色砂質土の斑土で充填されていた。土量に比して遺物出土量は比較的少ない。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に属する。

## SK6687

91A区中央部で検出された長辺18.28m以上を測る土坑Ⅱ類で、隣接する61B区では検出されなかった。SK6679の南に隣接しており、平面形は不定形である。深さは1.10m以上を測る。SK6679と同様、暗褐色砂質土の斑土で充填されていた。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期~Ⅱ-1期に属する。

## SK6146

91A区南部で確認された長径6.75m、短径5.15mを測るほぼ円形の土坑Ⅱ類である。埋土は褐色砂質土で、出土遺物は極めて少ない。宿場町期Ⅰ期に属すると推定される。

## SK6676

89E区中央部に所在する土坑Ⅰ類である。平面形は長径1.17m、短径1.07mを測るほぼ円形で、中から常滑窯産陶器甕が出土した。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

## SX6010 (写真図版18)

89E区東端部に存在する土坑Ⅱ類である。平面形は長径5.56m以上の不定形を呈しており、内部は灰色粘質土で充填されていた。

## SX6020

89C区北半部で確認された土坑Ⅱ類である。長径6.07m、短径4.92mを測るほぼ円形の平面プランを持ち、深さは0.44mと浅い。畝状遺構SX6021を切って掘削されていた。五条川瀬替え時に掘削されたものと思われる。

(鈴木正貴)

註 (1) 鈴木正貴他 (1990) 「清洲城下町遺跡」『年報平成元年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター

## 第11節 その他の遺構

前節までに報告した遺構以外の特殊な形態を呈する遺構を、ここで記述する。

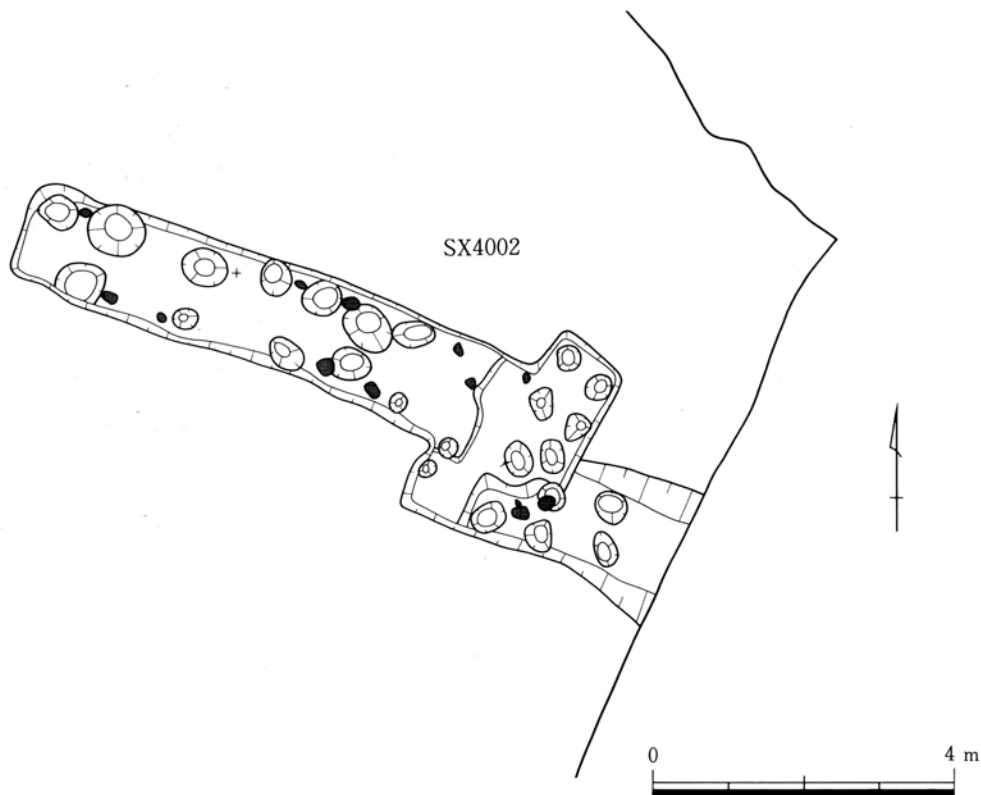
### SX4002 (第20図)

93A区東端部に所在し、細長い長方形を2つ重複させたような平面プランを持つ遺構である。

西側に存在する長方形プランの土坑(西方形土坑部と仮称する)は長辺8.15m、短辺1.50mを測り、土坑内にはピット列2列と礎石列2列が存在する。ピット列の柱間間隔は不規則であるが、大半の礎石はこうしたピット間に配置されている。北辺のピット及び礎石列と、南辺のピット及び礎石列とは各々の配置が対応していない。西方形土坑部の東端部には北側に張り出し部があり、この部分は西方形土坑部の主体部よりも深く掘り込まれている。張り出し部ではピットが2列6基検出された。

西方形土坑部の東端部に南接して同様な長方形プランの土坑(東方形土坑部と仮称する)が存在する。東方形土坑部は調査区外になお延びて行き、詳細は不明である。東方形土坑部の内部にピットと礎石が存在していることから、西方形土坑部と同様にピット列2列と礎石列2列があったと推定される。

出土遺物から時期は宿場町期Ⅱ-2期以降と推定される。遺構の性格は特定し得ないが、一説では防空壕の可能性も指摘される遺構である。(鈴木正貴)



第20図 その他の遺構平面図

## 第12節 遺構配置

### A 分析の方法と区画の概要

本節では、地区毎に各種の遺構配置を分析し、遺構群のまとまりを区画（屋敷地）として認定し、区画の構造を概述していく。清洲宿場町の構造を検討するためには、遺構の複合体である区画（屋敷地）の性格を考察することが必要不可欠であろう。分析の方法として、まず同時期の遺構を抽出して遺構変遷を把握した上で、区画施設（溝・柵列等）に着目して区画の認定を行う。区画施設が検出できなかった地点においては区画（屋敷地）内に一定の個数と配置を持つ遺構（建物・井戸等）に着目することとした。

今回の調査で検出された区画は、面積と平面プランから次のように区分できる。

区画Ⅰ類——区画の幅が10m～15mを測る平面プランが長方形となるもの。

区画Ⅰa類——区画施設として溝が確認されたもの。

区画Ⅰb類——区画施設が確認されず、井戸の配置等から推測されるもの。

区画Ⅱ類——区画の幅が30m前後を測る方形または長方形の平面プランを持つもの。

区画Ⅹ類——平行に走る区画施設を認定できず、区画の規模・形態が特定できないもの。

区画を以上のように分類した結果、宿場町期の区画は大半が区画Ⅰ類であることが判明した。次項から地区毎に区画の各事例を報告する。なお、御園・本丸・田中町・南部地区については、区画を認定するほどの遺構密度はなく、屋敷等は存在しないと考えられるので、分析の対象からは除外した。

### B 五条橋地区（第21・22図）

五条橋地区は宿場町期Ⅱ期の遺構が主体となっている。この地区では区画施設はあまり検出されておらず、井戸の配置から区画Ⅰ類が連続して存在する短冊型地割が展開していたことが想定される。大部分の区画は現在の美濃街道に面する形で配置されていることから、街道沿いの町屋と推定される。井戸の切り合い関係から更に細かい時期区分が可能であるが、井戸の位置がほとんど変わらないことから区画自体はあまり変更されていなかったと思われる。

区画4008 SD4002以北の空間を区画4008とする。SD4001～4004等は現五条川にほぼ平行する形で蛇行している。SD4002とSD4003との溝心間距離は約3mであることから、SD4002とSD4003の間は道路SF4001だった可能性がある。区画4008は道路SF4001の五条川側に所在する区画Ⅹ類で、居住施設等はおそらく存在しなかったと思われる。

区画4009 SD4004とSD4008で囲まれた空間を区画4009と定義する。宿場町期Ⅱ－2期に存在した屋敷と考えられ、区画内にはSE4002等が存在する。

区画4010 SD4008・SD4010・SD4011に囲まれた空間（61A区のみ）を区画4010とする。西側の区画施設は、調査区外にあったと思われ、詳細は不明である。区画の東南部に井戸SE4004と廃棄土坑SK4128等が存在するが、建物は検出できなかった。南面に間口を持つやや変形した区画Ⅰa類と言えよう。宿場町期Ⅱ－2期に属する。

区画4011 SD4008とSD4011に囲まれた東側の空間を区画4011とする。大半は調査区外に延び、内部構造は不明である。区画4010と同様、宿場町期Ⅱ－2期に属する区画Ⅰa類と思われる。

区画4012 93A区では区画施設が検出されなかったが、井戸がおよそ3ヶ所に集中して存在するため、井戸を中心に南北に細長い区画を想定した。SE4012を中心に区画4012を設定する。区画4012は美濃街道に南面する区画I b類で、宿場町期Ⅱ-2期に属する。

区画4013 93A区SE4008・SE4013・SE4014を中心に区画4013を定義する。美濃街道に南面する区画I b類で、井戸は美濃街道から約15m離れた地点に所在している。宿場町期Ⅱ期。

区画4014 93A区SE4011・SE4015を中心にして東に広がる空間を区画4014とする。井戸群は区画の西端に所在し、井戸に隣接してSX4002がある。SX4002と美濃街道の間におそらくは建物があったと想定される。宿場町期Ⅱ期に属する区画I b類である。

区画4015 92E区は調査面積が狭小であるため区画施設や遺構配置は詳らかではない。しかし、美濃街道の交差点部の南東に位置しており、隣接する61A区や90B区の一部を含む区画を想定しにくいため、92E区を一括して区画4015とする。SE4006が92E区西端に所在する。

92D・90B・92C区では区画施設としてSD4016とSD4020が認められる。この2条の溝に挟まれた長方形の空間内に井戸群が東西方向に並んで5群存在していることから、長方形大区画内に南北に細長い区画（区画4016～4020）が存在すると思われる。また、SD4020の南は井戸群が南北方向に並んでいるため、SD4020以南は東西に細長い区画（区画4021～4038）が展開していたと考えられる。

区画4016 92C区西端部のSE4016を中心とした空間を区画4016とした。SB4001の状況から区画4017と同一の空間となる可能性も残されている。宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4017 SE4017・SE4020を中心とした区画を区画4017とする。礎石建物SB4001が美濃街道に面して所在し、その裏手に井戸等が展開する区画I b類である。宿場町期Ⅱ期。

区画4018 SE4021を中心とした南北方向に細長い区画を区画4018とする。礎石建物SB4002・SB4003が存在し、少なくとも一度は建て替えられている。宿場町期Ⅱ期。

区画4019 SE4023等を中心とした南北方向に細長い区画を区画4019とする。宿場町期Ⅱ期。

区画4020 区画施設SD4020の北に所在するSE4027・SE4030等を中心とした方形の区画Ⅱ類である。美濃街道の交差点部の南西に位置するが、間口が北面か東面かは特定できない。

区画4021 区画施設SD4020の南部で、SE4031を中心とした東西方向に細長い区画である。礎石建物SB4004が92D区で一部確認され、その西部に井戸が所在する。宿場町期Ⅱ期。

区画4022 SE4032を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。礎石建物SB4005が区画の大半を占めており、井戸はその西端部に存在する。宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4023 SE4035等を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。宿場町期Ⅱ期。

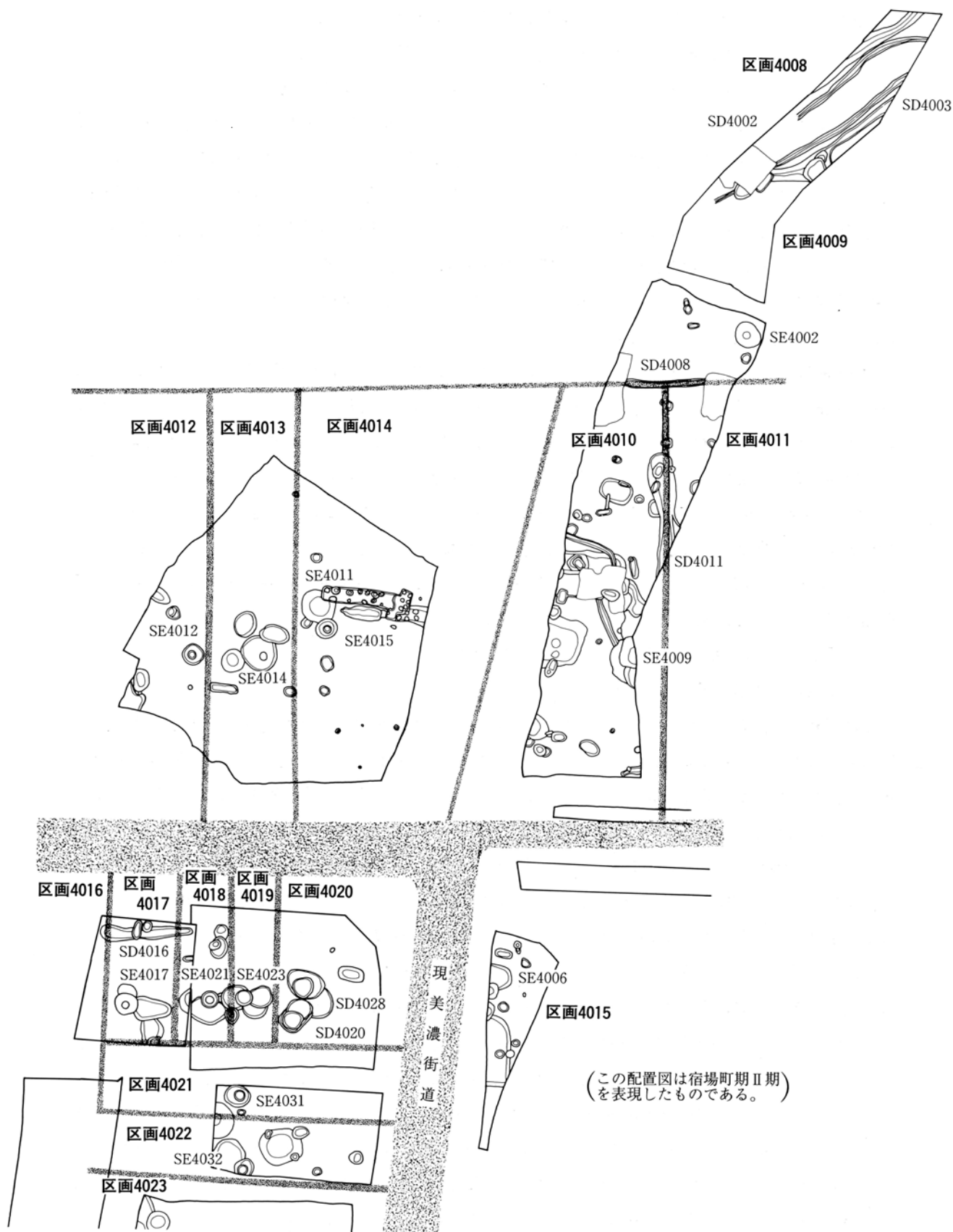
区画4024 62C区に存在するSE4038・SE4040等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4024と定義する。区画の東端部にも井戸SE4042・SE4043があり、街道に面した部分と五条川に近い裏手部分の2ヶ所に井戸が配置されている。宿場町期Ⅱ期。

区画4025 SE4044～SE4046等を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。竈状遺構SX4006がSE4044の東約10mに所在する。東端にはSE4053がある。宿場町期Ⅱ期。

区画4026 SE4048・SE4051等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。

区画4027 SE4057等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。

区画4028 SE4060・SE4061等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。



第21図 遺構配置図(1) (S = 1 : 500)

区画4029 SE4059を中心とした東西方向に細長い区画を区画4029とする。宿場町期Ⅱ期。

区画4030 SE4062を中心とした東西方向に細長い区画を区画4030とする。

区画4031 SE4064を中心とした東西方向に細長い区画を区画4031とする。

区画4032 SE4063等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4032とする。

区画4033 SE4069等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4033とする。区画4026～区画4033までは井戸以外の区画内施設は検出できなかった。また、区画4029～区画4031では他の区画と相違して井戸が重複しておらず単独で存在することから井戸の掘り直しが行われておらず、各区画の存続期間が短かった可能性がある。このことから、ある段階で区画4029～区画4031が包括され広い屋敷に改変されてしまい、複数の井戸が不要となった可能性も考えることができよう。

区画4034 SE4073・SE4074を中心とした東西方向に細長い区画を区画4034とする。井戸以外には方形石組遺構SX4017・SK5222等が存在する。時期は宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4035 SE4077を中心とした東西方向に細長い区画を区画4035とする。南辺はSD4045で区切られている。時期はSD4026埋没後の宿場町期Ⅱ－2期以降に位置付けられる。

区画4036 区画溝SD4045と柵列SA6005で囲まれた区画を区画4036と定義する。区画内に井戸SE4076が存在する。宿場町期Ⅱ－2期以降に所属する区画Ⅰb類である。

区画4037 SE6047を中心とした東西方向に長い宿場町期Ⅱ期の区画Ⅰb類を区画4037とする。

区画4038 SE6048を中心とした東西方向に長い区画Ⅰb類を区画4038とする。宿場町期Ⅱ期に属する。なお、区画4037及び区画4038は位置的には本町地区に属するが、区画の連続性からみて4000番台の番号を付けることとした。

### C 本町地区 (第22・23図)

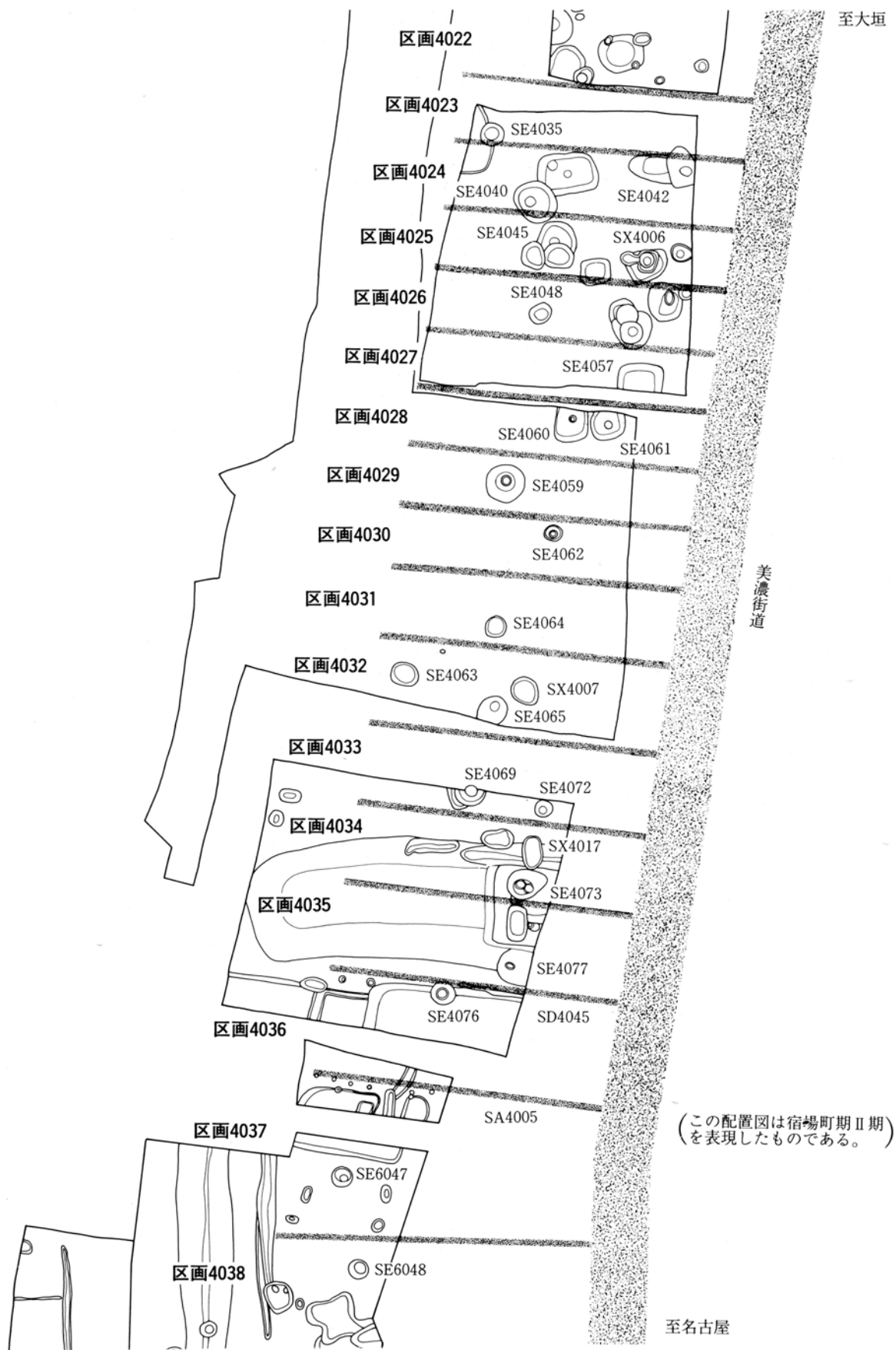
本町地区では宿場町期Ⅰ期からⅡ期までの遺構が検出されており、主要な遺構展開は2時期(宿場町期Ⅰ－2期・宿場町期Ⅱ期)に区分できる。宿場町期Ⅰ－2期では、南北方向に走る溝群が本町地区調査区の中央部に所在しており、これらの溝群に挟まれる細長い空間は道路SF6001と推定できる。道路SF6001の両側には掘立柱建物、畝状遺構や土坑等が展開しており、区画溝によって更に細かい区画(区画6026～区画6034)が想定され、ほとんどが区画Ⅱ類に属する。宿場町期Ⅰ－2期の遺構群は宿場町期Ⅱ－1期に廃絶されており、宿場町期Ⅱ期では新たな空間構成が設定された。

宿場町期Ⅱ－1期には、道路SF6001の廃絶・現五条川堤防の築堤が行われ、道路SF6001に面した区画群は消滅していった。宿場町期Ⅱ期の遺構は堤防建設の影響のため調査区東部に限定されており、巨大な廃棄土坑と井戸が少量検出されたに過ぎない。主要な遺構は調査区の更に東に展開していたと思われ、今回の調査区は屋敷等の裏手に掘削された廃棄土坑等が広がっていた部分と推定される。また、この時期の区画施設は検出されておらず、特定の区画設定は不可能である。

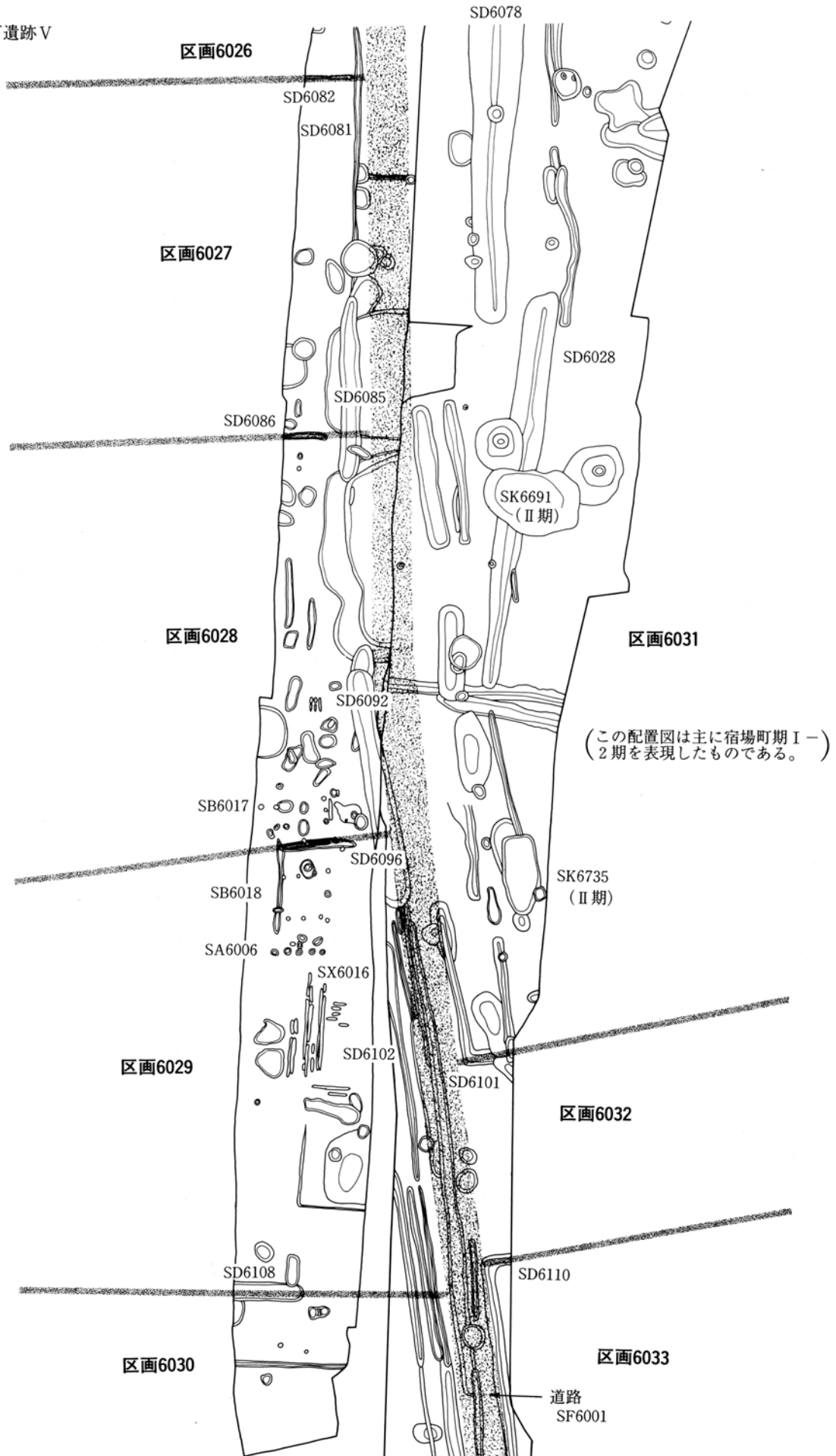
区画6026 SD6081とSD6082で囲まれた空間を区画6026と定義する。91A区に所在しており、区画の北部と西部は調査区外に延びる。区画内にはほとんど遺構は存在せず、区画内構造は不明。

区画6027 SD6081・SD6082・SD6085・SD6086で囲まれた区画Ⅱ類で、区画内には土坑が数基散在しているが、区画内構造は詳らかにし得ない。南北方向の幅は約31mを測る。

区画6028 SD6086・SD6087・SD6092・SD6096で囲まれた空間を区画6028とする。南北方向の



第22図 遺構配置図(2) (S = 1 : 500)



第23図 遺構配置図(3)

幅は約36mを測り、区画Ⅱ類に分類される。区画の南部に掘立柱建物SB6017、中央部に畝状遺構SX6013が所在する。SB6017とSX6013の間には土坑群が掘削されゴミ捨て穴として利用されたと推定される。区画の北部は遺構が散在しており、構造は不明である。宿場町期Ⅰ－2期に属する。

区画6029 SD6096・SD6092・SD6108等で囲まれた空間を区画6029と定義する。南北方向の幅は約39mを測り、区画Ⅱ類に分類される。区画の北部に掘立柱建物SB6018、中央部に畝状遺構SX6016・SX6017等が所在する。SB6018と畝状遺構の間には区画内区画施設SA6006が設置されていた。畝状遺構の南には土坑SK6146が掘削され、これはゴミ捨て穴と推定される。

区画6030 SD6108とSD6111に区画された91A区の南部に所在する区画である。区画内施設は検出されておらず、構造は不明。

区画6031 SD6078・SD6028・SD6055・SD6101等で囲まれた広い空間を区画6031とする。この区画は更に細かい区画に分かれていた可能性があるが、区画施設などが検出されておらず、不明と言わざるを得ない。区画内構造も不明。

区画6032 SD6101とSD6110の各東西溝に挟まれた空間を区画6032と定義する。道路SF6001と連続した空間設定となっており、道路である可能性も考えられるが、幅員が17m以上と広い。区画内構造物は全く検出されなかった。

区画6033 「コ」の字状に屈曲したSD6110に囲まれた空間を区画6033とするが、区画は調査区の東に延びて大半は調査区外に存在するため、詳細は明らかにし得ない。

## D 小 結

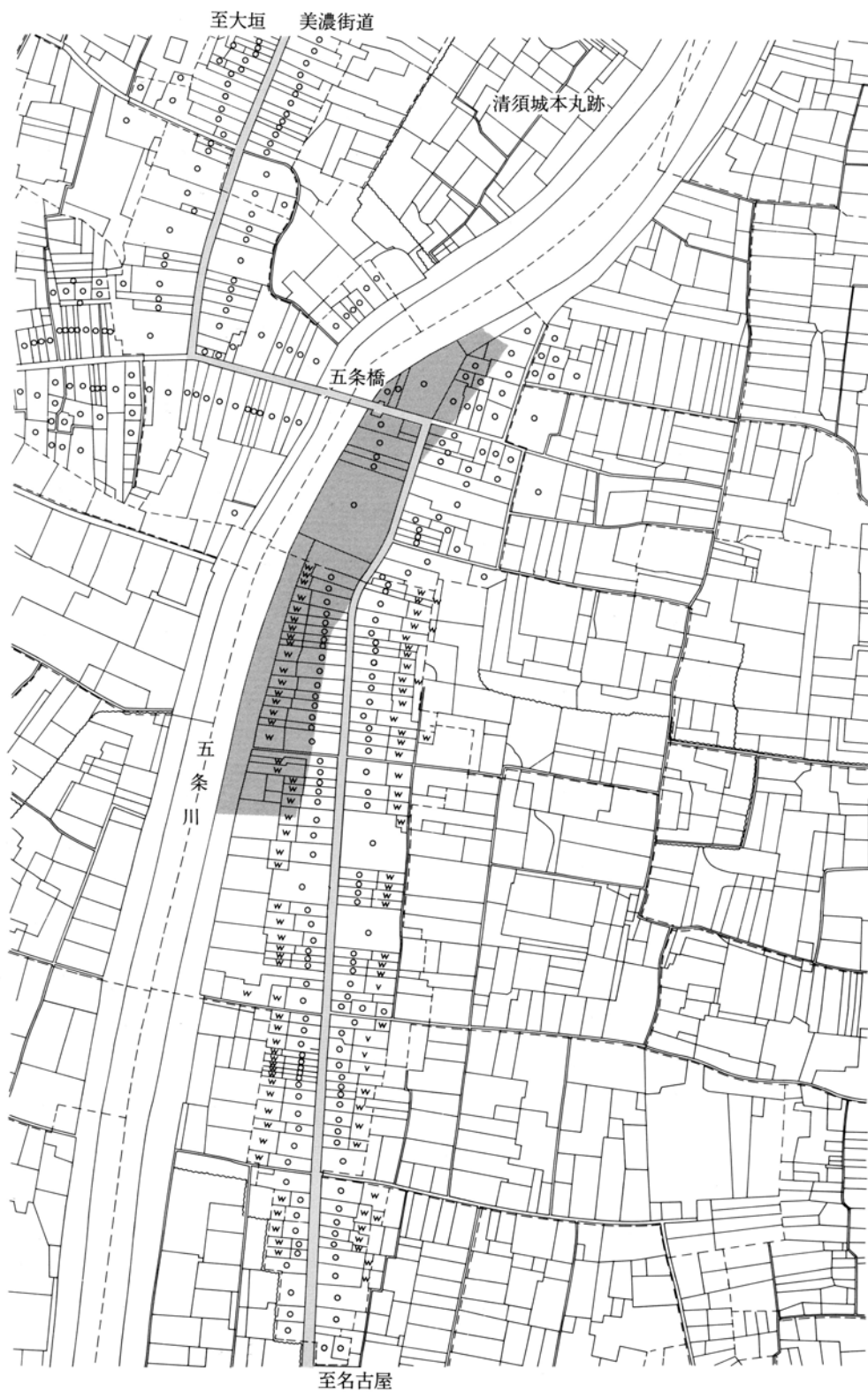
以上の分析から、宿場町期の遺構変遷をまとめると以下のように整理できる。

宿場町期Ⅰ－1期——五条橋地区南部の63C区でSD4026・SX4009が存在するのみで、今回の調査区の範囲内では、この時期の居住空間は存在しなかったと思われる。

宿場町期Ⅰ－2期——本町地区で道路SF6001を中心として区画が設定される。このうち一部の区画は建物と畝状遺構が伴っていること及び区画の広さが比較的広い（区画Ⅱ類）ことから、町屋敷を想定するよりも、道路筋に設けられた農村的な屋敷が考えられる。また、道路SF6001は城下町期中堀収東部を起点としている点を考慮すると、該期の美濃街道であった可能性が考えられる。

宿場町期Ⅱ期——五条橋地区では区画Ⅰ類が多数確認され、現美濃街道に沿って展開した短冊型地割が展開していたと考えられる。これらの区画は明治17年作成地籍図（第24図）ともほぼ合致し、町屋敷と推定できる。一方、本町地区では調査区が現美濃街道から遠ざかっているため町屋敷の主体部を検出することができず、屋敷裏手の廃棄土坑などを検出できたに過ぎない。

この結果、五条川東岸では1794年以降に清洲宿場町の拡張が行われたと評価できる。（鈴木正貴）



第24図 調査区周辺の地籍図 (S = 1/5000)

凡例：○ 宅地  
W 藪・草生

なお濃い網部は発掘調査区の一部を示している。

## 第Ⅶ章 宿場町期の遺物

## 第1節 出土遺物の概要と分析方法

### A 遺物の概要と整理方針

今回の調査で出土した宿場町期の遺物は数十万点（27リットル入コンテナで約800箱）を数え、その内容は多種多様である。このような膨大な遺物を整理・報告するに際しては、全出土遺物の図化による資料紹介は現実的に不可能であるため、①代表的な一括資料の図化による紹介、②遺物出土量と組成による紹介を行うことによって報告としたい。

上記の分析を行うため、以下の整理作業を実施した。

- ① 遺物を材質・時期（城下町期以前・城下町期・宿場町期）別に区分する。

（石製品・金属製品の時期区分は困難が伴う。従って、ここでは宿場町期の遺構出土資料を基準に報告することとした。調査区別の出土量に関しては『清洲城下町遺跡Ⅳ』を参照されたい。）

- ② 遺構出土遺物のみをあらかじめ設定した分類別にカウントする。
- ③ カウントと同時に一括性の高い遺構の出土遺物を図化し、報告する。

### B 分析（カウント）の方法

今回整理作業の中で用いた遺物の数量化作業（カウント）の方法を示す。

数量化の主要な目的は、①江戸時代における本遺跡の基本的な遺物組成を明らかにすること、及び②調査区別の遺物様相の差異を明確にすることである。

分析の対象は、遺構から出土した遺物のうち、口縁部が遺存するもののみ限定した。本来は包含層出土資料及び口縁部が遺存しない資料も数量化すべきであるが、今回は割愛することとした。

求める数値は、口縁部遺存資料を対象としていること及び器種構成比率の算出を目的としていること等から、口縁残存率（12分の1単位）のみとした。破片数は求めている。

データの収集方法は、口縁部を有する遺物について、接合した後の破片1点につき1データとして記録用紙に記入した。データの内容は出土地点・分類・口縁残存率等である。なお、長辺が1cm以下の小破片は原則として分析対象から除外した。

データの集計方法は、記録されたデータを表計算ソフトに入力し、あらかじめ設定された集計項目に則り計算作業を実施した。集計は調査区別、分類別データを口縁残存率の合計で求めた。

データの内容は、①調査区、②グリッド、③遺構番号、④産地材質、⑤器類、⑥器種、⑦器形、⑧釉薬、⑨使用痕、⑩口縁残存率、⑪備考の11項目である。④産地材質、⑤器類、⑥器種、⑦器形、⑧釉薬、⑨使用痕はあらかじめ設定された分類案の記号を記入する。⑩口縁残存率は、口縁部が完存した場合を1として遺存している口縁部の割合を12分の1単位で計測した数値である。なお、口縁残存率は12分の1以下を切り上げて算定しており、12分の0より大きく12分の1以下を1、12分の1より大きく12分の12以下を12とした。詳細な計測方法は『清洲城下町遺跡Ⅳ』による。なお、本文中及び巻末の遺物集計表には12分の1単位の数値が表示されており、実際の個体数はこれを12で割った数値に理論上換算される。

## C 陶磁器・土器類の分類

清洲城下町遺跡から出土した宿場町期の陶磁器・土器類を5つのランク（産地材質、器類、器種、器形、釉薬）で区分した。ここで用いた分類は、宿場町期と同時期の武家屋敷遺跡である名古屋城三の丸遺跡の分類<sup>(1)</sup>に依拠し、その一部を改変したものである。後日共通の分類で比較検討を実施する点を配慮しての措置である。以下に分類の概要を記述する。

### ① 産地材質

胎土と焼成技法から陶磁器・土器類を以下の11類に区分する。

- 1 瀬戸美濃窯産陶器——黄白色・灰白色の胎土を基本とする瀬戸または美濃窯で生産された陶器。  
なお、近世陶器は瀬戸窯産と美濃窯産の区別が可能な場合が多く、図化資料では分けて表記した。
- 2 瀬戸美濃窯産磁器——胎土・釉薬等の特徴から瀬戸または美濃窯で生産された磁器。
- 3 肥前窯産陶器——胎土・釉薬等の特徴から肥前窯で生産された陶器。
- 4 肥前窯産磁器——胎土・釉薬等の特徴から肥前窯で生産された磁器。
- 5 常滑窯産陶器——暗褐色または淡褐色の胎土を基本とする常滑窯周辺で生産された陶器。
- 6 土師器——黄灰色の胎土を基本とする素焼の土器。
- 7 瓦器——灰白色の胎土を基本とし、器表面をいぶした土器。
- 8 その他陶器——上記以外の産地（関西系・備前・信楽等）で生産された陶器。
- 9 その他磁器——上記以外の産地（関西系・中国等）で生産された磁器。
- 10 不明陶器——産地が特定できない陶器。
- 11 不明磁器——産地が特定できない磁器。

以上11類に区分したが、カウント作業における産地の認定が不確実であるため、本書での遺物集計は瀬戸美濃窯産・常滑窯産陶器以外の陶器、肥前窯産磁器以外の磁器は一括して行うこととした。

### ② 器類

分量と全体の形態及び一部機能を加味して陶磁器・土器類を区分すると、以下の7類に区分できる。

- 1 碗——口径10cm前後、器高7cm前後の小形容器。
- 2 皿——口径10cm前後、器高2cm前後の小形容器。
- 3 鉢——碗・皿に属さない逆ハの字状に開く容器、または直立する容器。
- 4 壺・瓶——袋形を呈する容器。
- 5 鍋・釜——煮炊・煮沸等に使用されたとと思われる容器。土師器・瓦器に限定。
- 6 甕——口径が大きく袋形を呈する大形容器。常滑窯産陶器に限定。
- 7 その他——以上の分類に属さないもの。

### ③ 器種・器形

各々の産地材質や器種によって個別に細分類した。ただし、常滑窯産陶器と土師器と瓦器以外の陶器・磁器については共通の細分類を用いている。ここでは主要な産地材質と器類についてのみ具体的な内容を記述する（第25・26図を参照）。

陶器・磁器（産地材質：1～4または8～11）

- 碗
- 1 天目茶碗——高台を削り出し、体部は逆ハの字状に開き、口縁部が屈曲する碗。
  - 2 丸碗——腰部が丸い形状の碗。この中で時期が限定される以下のものを記号化する。
    - 1 尾呂茶碗——口縁部付近に白濁色の灰釉を掛けた鉄釉丸碗。
    - 2 御室茶碗——崩れた楼閣山水文の呉須絵を施した灰釉丸碗。
    - 3 腰鍔茶碗——体部に沈線が存在し外面下部に鉄釉を施した灰釉丸碗。
    - 4 鎧茶碗——外面下部にミシン目のような刺突文を施した丸碗。
    - 5 端反碗——口縁部が外反する丸碗。
    - 6 その他の碗——上記に属さない丸碗。
  - 3 腰折碗——腰部が屈曲する碗。
    - 1 せんじ碗——器高が低く高台径が小さい腰折碗。
    - 2 その他の碗——せんじ碗以外の腰折碗。
  - 4 平碗——高台脇から口縁部にかけて逆ハの字状に開く碗。
    - 1 柳茶碗——柳文の鉄絵が施された灰釉平碗。
    - 2 広東茶碗——高い高台を持つ染付平碗。
    - 3 その他の碗——上記に属さない平碗。
  - 5 小碗——口径が8.5cm未満の小形の碗。
    - 1 箱形湯呑——腰部がほぼ直角に折れ曲がり口縁部が直立する小碗。
    - 2 その他の碗——箱形湯呑以外の小碗。
  - 6 仏飯器——高杯状の器。
  - 7 その他——以上の分類に属さないもの。
- 皿
- 1 丸皿——腰部が丸い形状で平面形が円形の有高台皿。
  - 2 腰折皿——腰部が屈曲する平面形が円形の有高台皿。
  - 3 非円形皿——平面形が円形にならない有高台皿。
  - 4 灯蓋——内面に受部を持つ皿。
  - 5 無高台皿——高台を持たない皿。但し碁笥底の製品も含有する。
  - 6 小型皿——口径5cm未満の皿。
  - 7 その他——以上の分類に属さないもの。
- 鉢
- 1 丸鉢——腰部が丸い形状の鉢。
  - 2 平鉢——高台脇から口縁部にかけて逆ハの字状に開く鉢。
  - 3 播鉢——内面に播目を持つ鉢。（播鉢は更に口縁形態で細分した<sup>(2)</sup>。）
  - 4 筒形鉢——体部が直立する平面形が円形の鉢。
  - 5 鬚盥——体部が直立する平面形が楕円形の鉢。
  - 6 腰折鉢——腰部が屈曲する鉢。
  - 7 植木鉢——焼成前に底部が穿孔された鉢。
  - 8 大皿——口径が15cm以上の皿形の鉢。

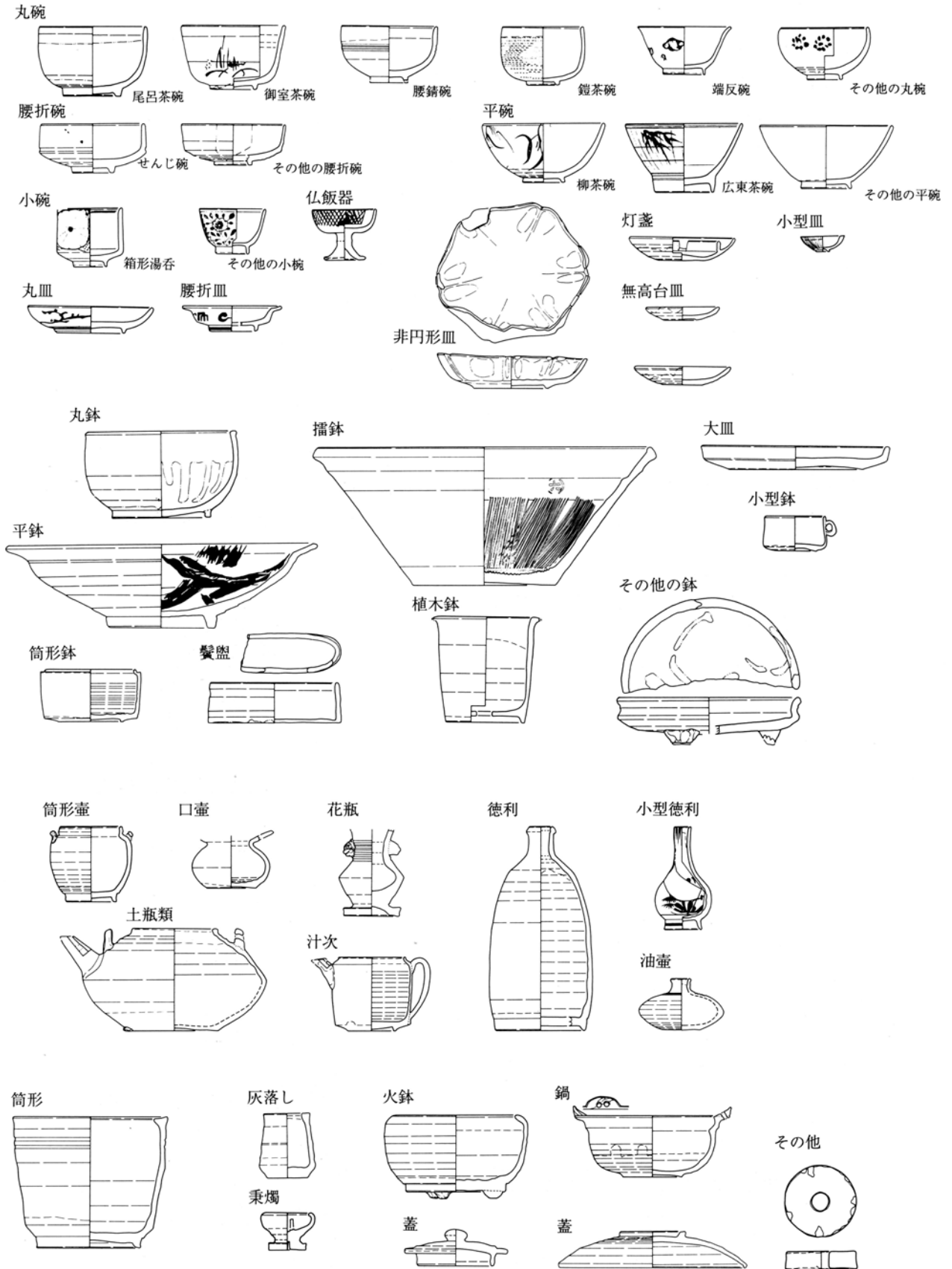
- 9 小型鉢——小形の鉢。餌鉢。
- 10 その他——以上の分類に属さない鉢。向付を含む。
- 壺・瓶
- 1 筒形壺——最大径と口径があまり変わらない壺。
- 2 肩壺——最大径が胴部上方にある壺。
- 3 口壺——最大径が口径となるもの。
- 4 小型壺——小形の壺。
- 5 花瓶——口縁部がラッパ状に開き、双耳状の飾りがつく壺。
- 6 土瓶類——注口と吊り手2つまたは把手がつく壺。
- 7 汁次——環状把手と注口がつく壺。
- 8 徳利——大形で、全体の形状が細長く頸部が細い瓶。
- 9 小型徳利——小形で、全体の形状が細長く頸部が細い瓶。
- 10 油壺——小形で胴部が算盤玉形に膨らむ壺。
- 11 その他——以上の分類に属さない壺・瓶。
- その他
- 1 筒形——体部が筒形のもの。半胴甕・錢甕・花生等。
- 2 灰落し——体部が底部から大きく屈曲せずにそのまますぼむもの。
- 3 柄杓——柄の接続部が存在する筒形容器。
- 4 秉燭——受け皿と灯心立てで構成される容器。
- 5 燭台——蠟燭を乗せる台。
- 6 盤——非常に浅い皿形のもの。
- 7 火鉢——口縁部が内傾し、内面が全面施釉されない容器。
- 8 行平——主体部は鉢形で把手と注口を持つもの。
- 9 鍋——鉢形容器で吊り手が2個付属したもの。
- 10 蓋——蓋と考えられるものを一括する。
- 11 その他——以上の分類に属さないものを一括する。

## 常滑窯産陶器（産地材質：5）

- 甕——口縁部がややくびれる大形の容器。
- その他——火鉢・蚊いぶし等が含まれる。

## 土師器（産地材質：6）

- 皿——器高2 cm以下の浅い容器。
- 鍋・釜
- 1 羽付鍋——鉢形の煮炊具で体部上方に鐸が設置されたもの。いわゆる羽釜。
- 2 釜——壺形の煮炊具。
- 3 炮烙鍋——浅鉢形の煮炊具で、通常内面に耳が付属する。
- 4 内耳鍋——鉢形の煮炊具で、内面に耳が付属する。
- 焼塩壺——筒形の小型鉢で、通常著しく被熱されている。
- その他——五徳・壺等が含まれる。

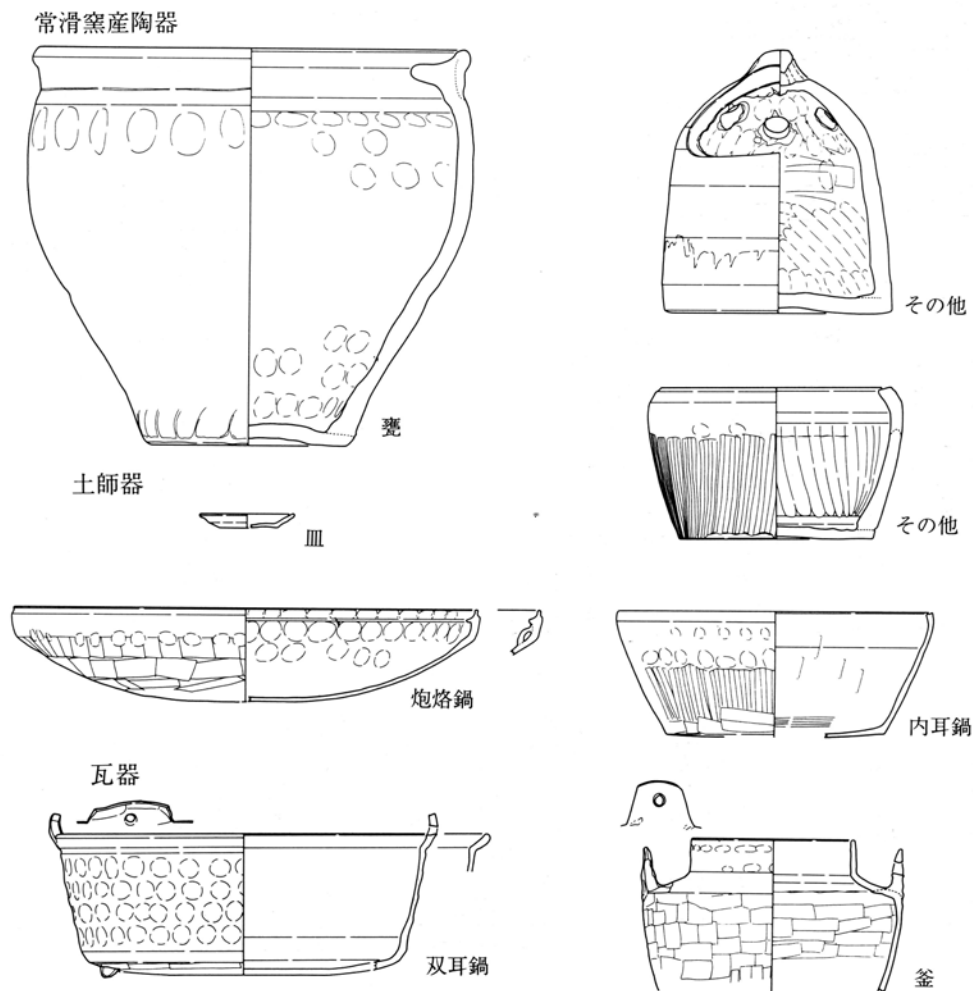


第25図 遺物器種分類図(1) (S=1:8)

④ 釉薬

宿場町期の釉薬は城下町期のものよりも微細に観察すれば多様なものが存在するが、カウントにおける釉薬の分類は以下のように包括して区分することとした。なお、図化資料の紹介における記述は通有の記述に合わせることにし、以下の分類はカウントのみを対象としている。掛け分けの製品については全ての釉薬を記載した。また、施釉製品の露胎部に関しては無釉とは表記しなかった。

- 1 灰釉———灰釉・透明釉・黄瀬戸釉・長石釉等の釉薬を灰釉と一括する。
- 2 鉄釉———鉄釉・鉄錆釉・飴釉・柿釉等の釉薬を鉄釉と一括する。
- 3 染付———呉須絵を下絵に描き透明釉を施したものを染付とする。
- 4 銅緑釉———深緑色の銅緑釉・上野釉などを一括する。
- 5 無釉———釉薬を全く施さない製品を一括する。ただし常滑窯産陶器は除く。
- 6 青磁———磁器で緑色系の発色をする青磁を指す。
- 7 白磁———磁器で透明釉のみが施された製品を指す。
- 8 その他———上記の分類に属さない釉薬を一括する。
- 9 真焼———常滑窯産陶器の内、堅緻に焼き締まった暗褐色の胎土を持つ真焼製品。
- 10 赤物———常滑窯産陶器の内、焼きが甘く淡褐色の胎土を持つ赤物製品。



第26図 遺物器種分類図(2) (S=1:8)

⑤ 使用痕

使用痕は以下の15類を取り上げたが、重複するものは併記した。

- 1 ガラス継ぎ———破損した製品を鉛ガラスで接合（焼継）した痕跡が残るもの。
- 2 口欠け———口縁端部のみが細かく欠けている、または磨滅しているもの。
- 3 穿孔———焼成後に孔を設けているもの。
- 4 内面磨滅———容器の内面が摩滅しているもの。すり減っているもの。
- 5 焦げ———焦げて黒色化しているもの。火を利用した用途が考えられる。
- 6 煤付着———煤が付着するもの。煮沸・煮炊に利用されたと推定できる。
- 7 タール付着———口縁部にタールが付着したもの。灯明としての利用が予想される。
- 8 鋳物付着———金属・金属滓等が付着したもの。
- 9 墨書———墨による文字・記号・絵画が記されたもの。
- 10 刻書———刻み込んで文字・記号・絵画が記されたもの。
- 11 漆継———破断面に漆が付着したもの。破損した製品を補修した痕跡である。
- 12 朱付着———赤色付着物が認められるもの。紅皿等の用途が想定される。
- 13 漆付着———内面・外面に漆が塗布されたもの。
- 14 高台磨滅———高台端部のみが細かく欠けている、または摩滅しているもの。
- 15 その他の付着———以上の分類に属さない付着物が存在するもの。

D 分析の結果と問題点

今回の出土量の数量化作業（カウント）では、主要遺構（SX4009・SD6092・SK4287・SK6735・SK6691の5遺構）別の数値（第3表）と各調査区別の数値（巻末遺物集計表）を算定したのみである。特に主要遺構別の数値をみると、遺構によって器種組成が著しく異なる場合が認められる。こうした相違が遺構の性格を物語るのか、時期差を表現しているかはより詳細な検討が必要となろう。さて、ここでは今回の作業上の問題点を指摘しておく。なお、『清洲城下町遺跡Ⅳ』で取り上げた問題点はここでは割愛している。

- ① 産地の同定が困難であり、記録されたデータに多くの誤謬が存在すると思われる点があげられる。今回は整理作業の前半でカウント作業を実施したため、その後に判明した産地材質に関する知見が生かせなかった反省がある。しかも、現状では未だ産地材質の同定に不明瞭な点が多く残されており、近世における産地別組成の算定は問題点を多く抱えている状況と言える。
- ② 器種の多様化に伴い、簡略化した分類作成が困難であったことも問題点の一つである。器種の包括の仕方によっては、本来意図したデータとは異なる結果となってしまう場合もみられる。
- ③ 使用痕等を用いた詳細な分析、各区画毎の集計等を実施することはできなかったことも今後の課題である。今回は整理作業の便宜上、調査区という極めて現代的な空間区分での整理であり、本来意図すべき空間区分ではないのである。（鈴木正貴）

註 (1) 松田訓編 (1995) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第60集。

(2) 遠藤才文の分類に依拠した。遠藤才文編 (1993) 『名古屋城三の丸遺跡 (Ⅳ)』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集。

## 第2節 SX4009 (第27～29図1～69)

SX4009は63C区に所在する巨大な土坑で、城下町期Ⅲ期の中堀SD6001を切って存在している。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産陶器・肥前窯産磁器・常滑窯産陶器・土師器・木製品・石製品・金属製品等の多様な遺物が出土した。陶磁器類の器種は椀、皿、鉢、壺類が一定量認められるが、蓋類はあまり存在しない。瀬戸及び美濃窯産陶器の年代観から、宿場町期Ⅰ－Ⅰ期に属する資料である。

椀は美濃窯産陶器天目茶碗・丸碗、瀬戸窯産陶器丸碗・腰折碗、肥前窯産磁器丸碗、木胎漆器椀等が存在する。美濃窯産丸碗には腰鍔茶碗(7・8)、長石釉丸碗(15)・口縁部付近に灰釉を施した尾呂茶碗(2・3・6・9・13・16)等がある。瀬戸窯産陶器には長石釉に鉄絵を施した碗(1)、尾呂茶碗(5)、腰折碗(4)等がある。11は肥前窯産磁器丸碗で17世紀末から18世紀前葉に位置づけられる製品である。12は肥前窯産陶器丸碗で高台内に「清」字の刻印が押されている。木胎漆器椀は高台が高く腰部が丸みを帯びて立ち上がる椀A類(17・19)、高台が低く腰部が丸みを帯びて立ち上がる椀B類(18)、腰部が屈曲して体部が直立する椀E類等がある。椀E類は屈曲点が1段のもの(20・22・23・25)と屈曲点が2段のもの(26)に区分できる。20・22は比較的浅く高台の低い椀で体部はやや開くものである。なお、38は木胎漆器蓋で外面に草花紋が描かれている。木胎漆器の施紋紋様は、城下町期に通有みられる吉祥紋は少なく、花車紋、草花紋等が多く描かれている。

皿は美濃窯産陶器及び瀬戸窯産陶器のみが存在する。淡緑灰色の灰釉(長石釉)が施された丸皿(27～31)が多く認められた。内面には円形状の重ね焼き痕が残存している。また、内面に鉄絵が描かれた美濃窯産陶器長石釉皿(32)も存在する。

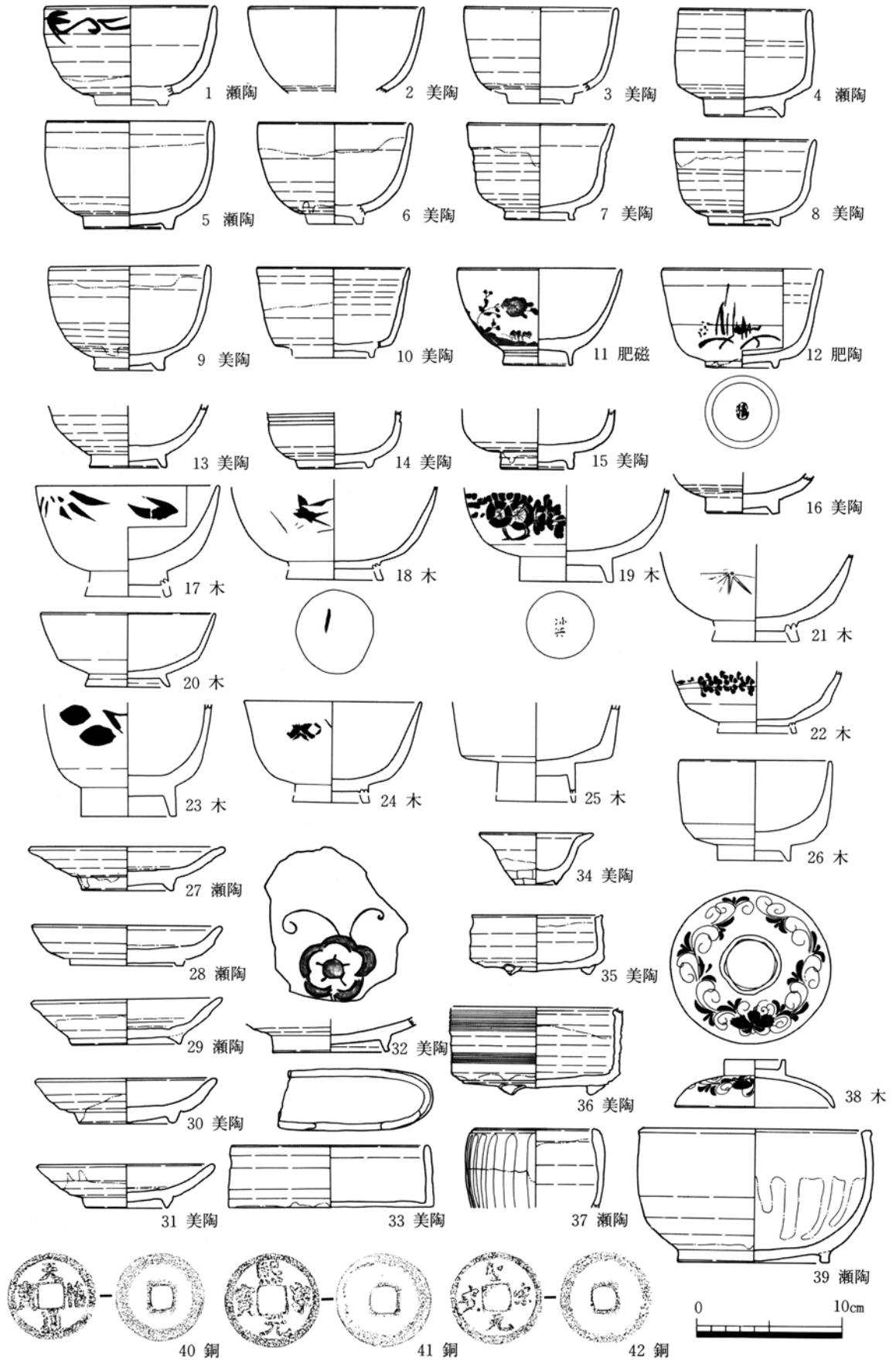
鉢は美濃窯産陶器丸鉢(50)、瀬戸窯産陶器搦鉢(52～54)・向付(44)・丸鉢(39)、肥前窯産陶器平鉢(51)等がある。搦鉢の口縁部形態は藤澤編年第5～6小期<sup>(1)</sup>に属するものであり、54は底部に回転糸切り痕が残存している。この他に美濃窯産陶器鬘盥(33)や灰落し(37)、筒形鉢(香炉：35・36)も認められる。木製品としては曲物桶(43)が存在する。表面を粗く削った底板の上に一重巻の側板をのせて桜皮で綴じている。

瓶・壺は瀬戸窯産陶器甕(45)・汁次(46)・壺(48)、瀬戸または美濃窯産陶器壺(47)、常滑窯産陶器甕(69)等が存在する。瀬戸窯産陶器甕(45)の口縁部は縁帯部が強くヨコナデされ2段の突帯状となっている。常滑窯産陶器甕(69)の口縁部は断面形が「T」字状であるが、外側に折り返された縁帯の痕跡も未だ残存している。

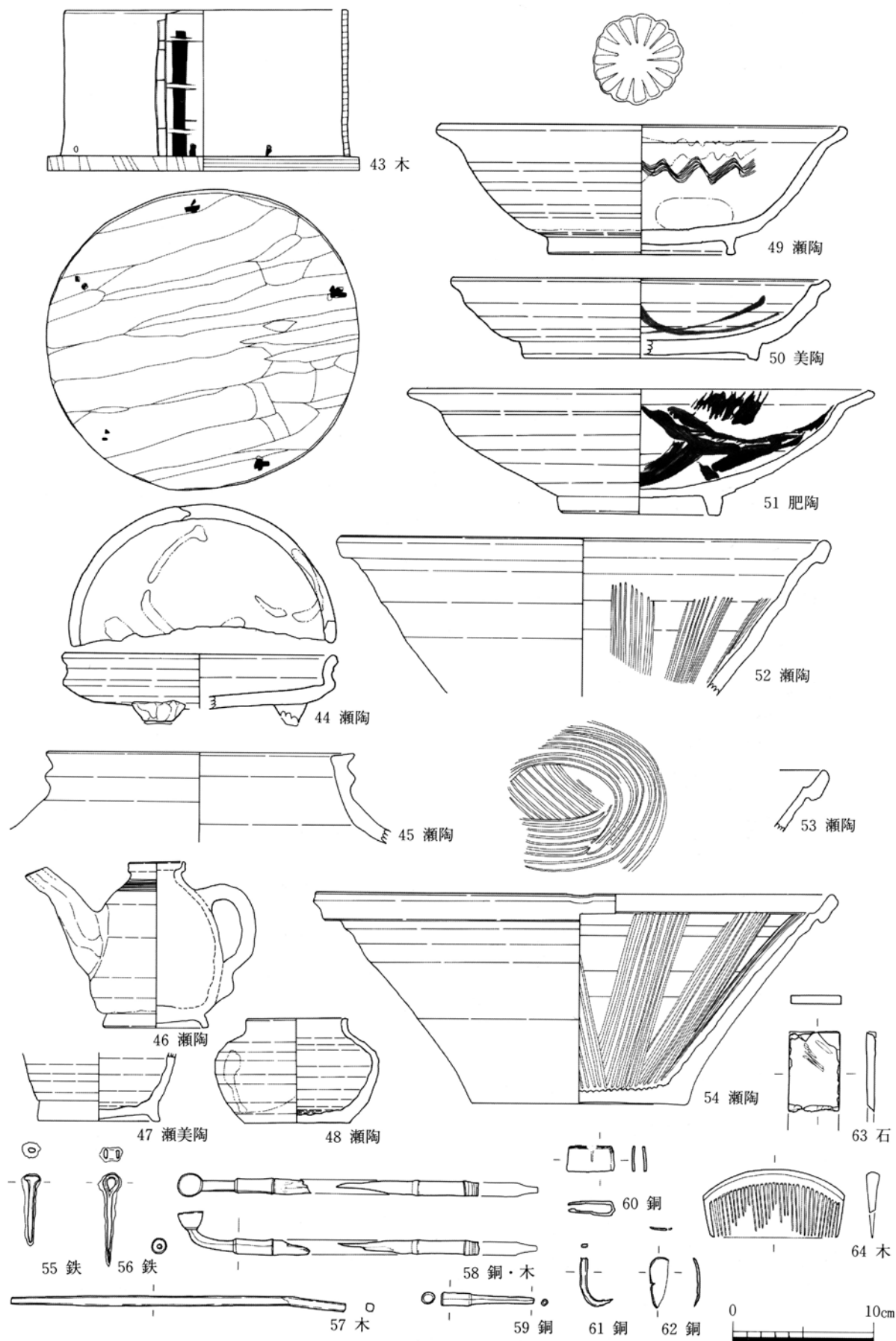
その他のものには、木製下駄、木製箸(57)、木製横櫛(64)、鉄製釘(55・56)、銅製煙管(58・59)、銅製金具(60～62)、銭貨(40～42)、石製砥石(63)等が存在する。下駄には連歯下駄(65・67)と差歯下駄(66・68)があり、平面形が楕円形になるもの(65・66)と長方形になるもの(67・68)にも区分できる。67は用材が節を持った粗悪なもので、歯部の作りだしが不整形になっている。58は銅製煙管で雁首部と吸口部の一部及び竹製の管(羅字)が残存している。銭貨(40～42)はすべて中国銭である。

(鈴木正貴)

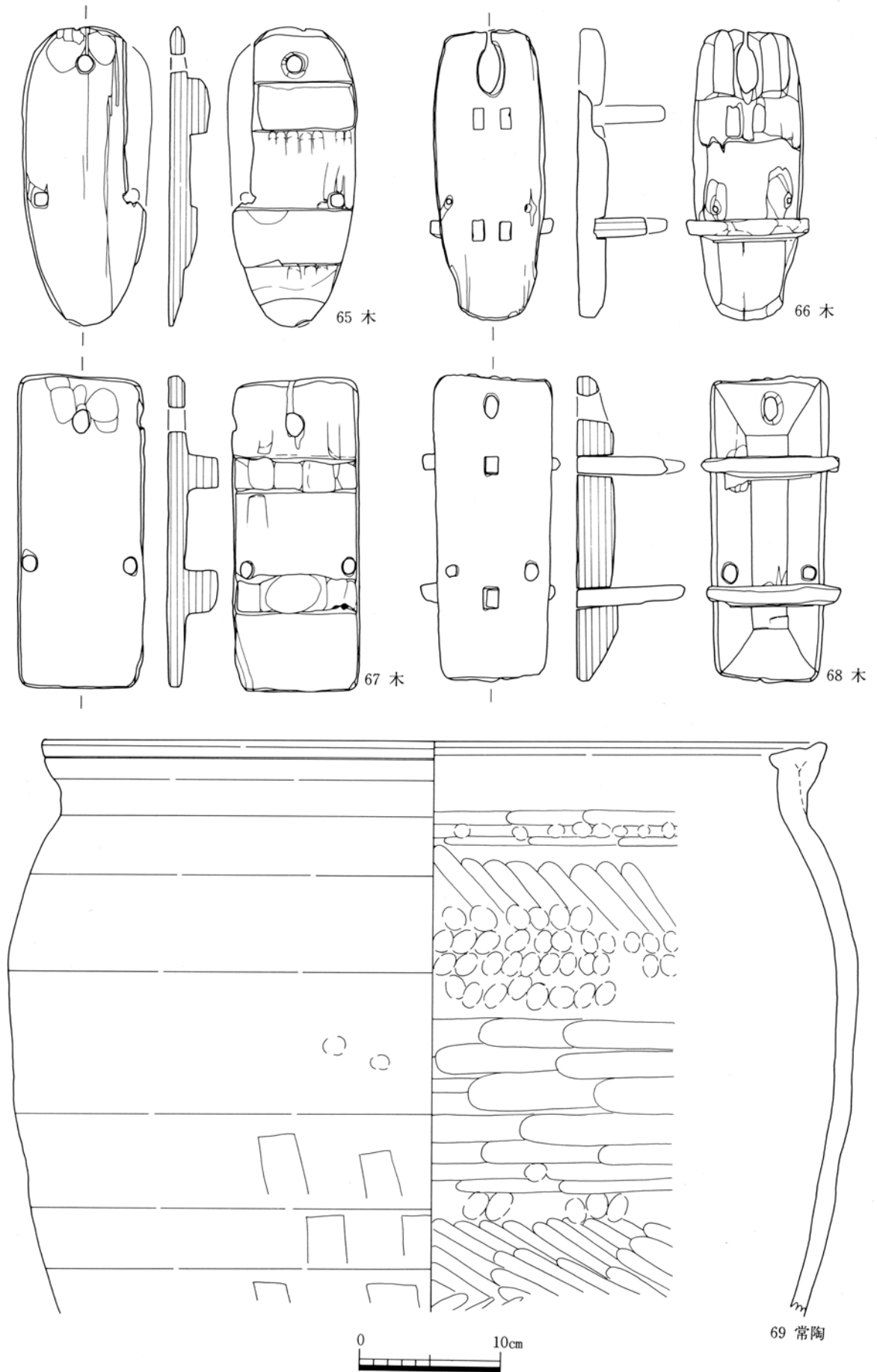
註(1) 本章の藤澤編年は次の文献による。藤澤良祐(1987～1989)『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅵ～Ⅷ』



第27図 SX4009 遺物実測図 (1) (40~42はS ≡ 2 : 3)



第28図 SX4009 遺物実測図(2)



第29図 SX4009 遺物実測図 (3)

### 第3節 SD6092 (第30・31図70～125)

SD6092は91A区から89B区にかけて存在する溝で、現五条川堤防の直下で検出された遺構である。今回提示する資料は、確実に現五条川堤防築堤以前と位置づけられる調査区91A区の範囲で検出されたSD6092から出土したもので、1794年以前という絶対年代が与えられる。SD6092(91A区)からは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産磁器・土師器・石製品等が存在し、木製品は出土しなかった。陶磁器類の器種としては碗・皿・鉢・蓋等が認められる。柳茶碗や広東茶碗を全く含まない点、および瀬戸及び美濃窯産陶器の年代観等から、宿場町期Ⅰ－Ⅱ期に属する資料と考えられる。

碗は瀬戸窯産陶器丸碗・腰折碗・平碗、美濃窯産陶器丸碗、肥前窯産磁器丸碗等が存在する。出土量的には瀬戸窯産陶器の製品が圧倒的に多く、美濃窯産陶器のもの(80)や肥前窯産磁器のもの(73)は非常に少ないのが特徴である。瀬戸窯産陶器碗では、外面に呉須絵で草花紋を描いた灰釉丸碗(70～72)、内面に呉須絵で梅花紋を描いた灰釉丸碗(75・76)、外面に呉須絵で梅花紋を描いた小形灰釉丸碗(77～79)、屈曲した腰部に浅い沈線が認められるせんじ碗(82～85)、腰鍔茶碗(86・87)、白化粧が施された刷毛目碗(88)、全面に灰釉が施された平碗(89・96)等がある。美濃窯産陶器碗は小形の丸碗(80)等が認められるのみである。

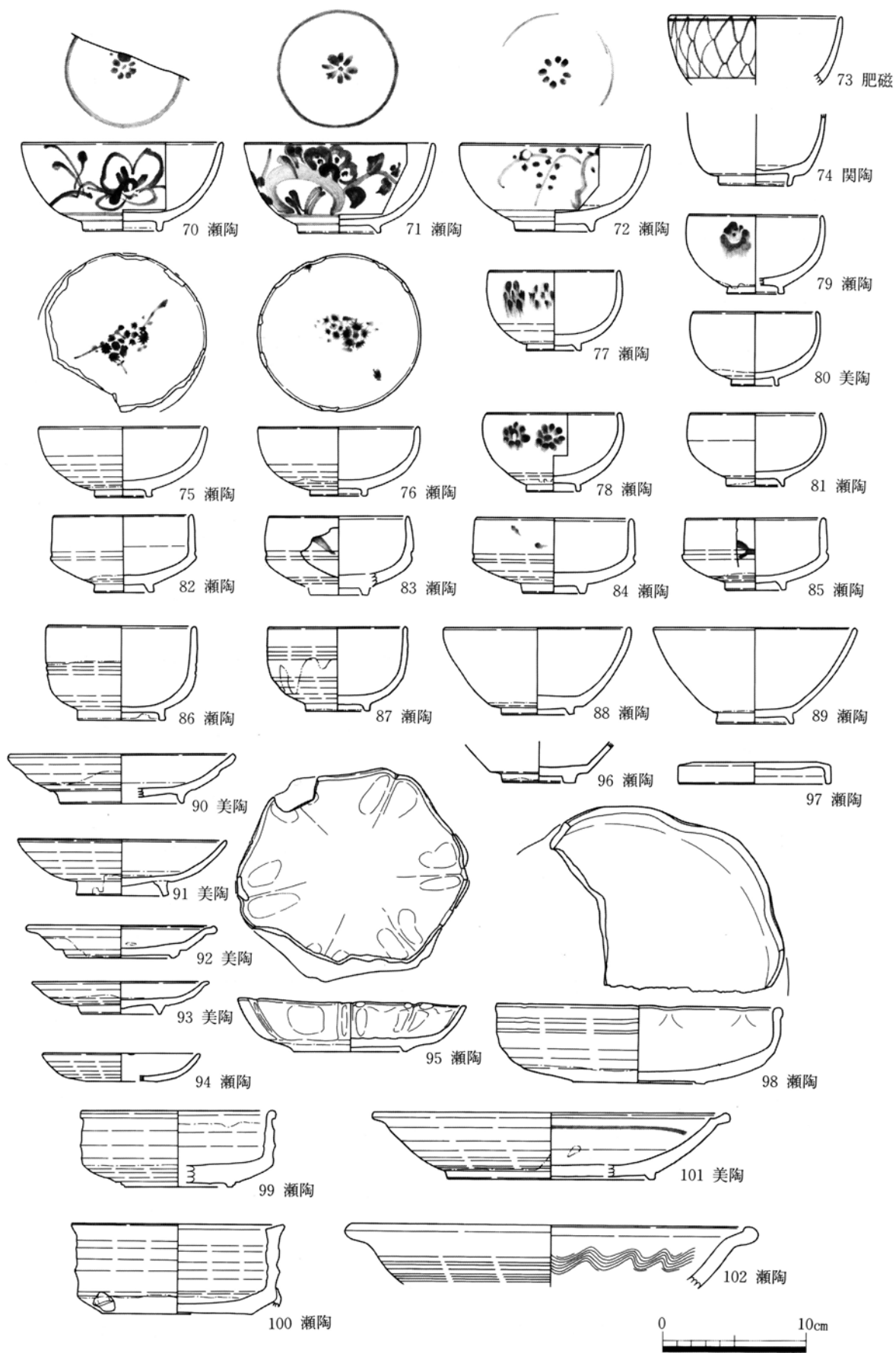
皿は美濃窯産陶器の製品が大部分を占め、丸皿が多く存在する。高台を持つ丸皿は灰釉の製品が多く、92は折縁状の口縁形態をなしている。94は鉄釉無高台皿で口縁部にタールが付着している。95は平面形が六角形の瀬戸窯産陶器輪花皿である。

鉢は美濃窯産陶器の丸鉢、瀬戸窯産陶器の丸鉢・播鉢・筒形鉢等が存在する。103～105は丸鉢(こね鉢)で、103は鉄釉が施されている。瀬戸窯産陶器播鉢は、口縁部形態が4類(112・115)、5類(110・111)、6類(107・108)、7類(106・109)のものがある。7類(106・109)は藤澤編年の第8小期に属するものである。

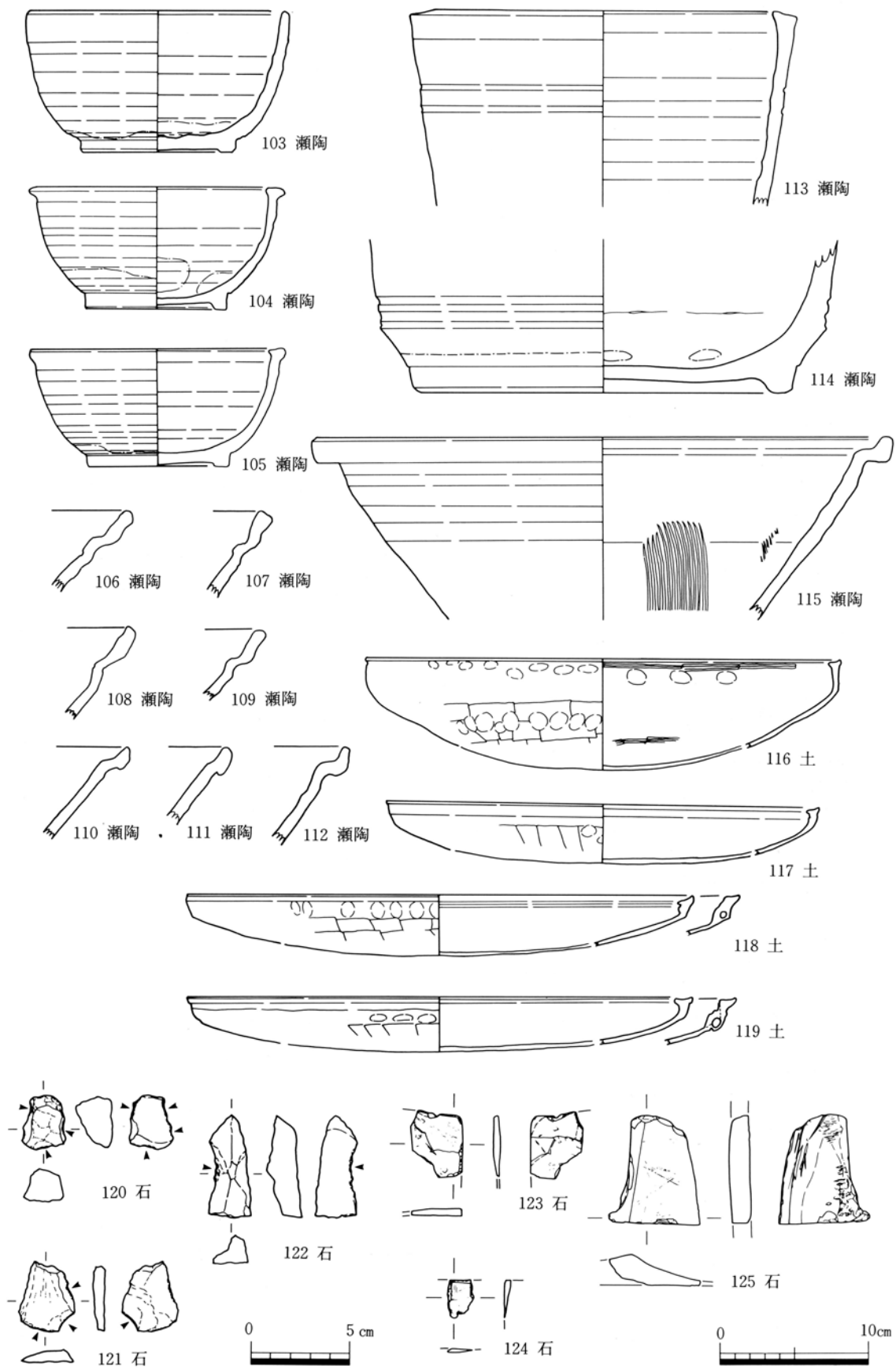
土師器鍋は炮烙鍋のみが認められ、全体の形状で2類に細分できる。炮烙鍋1類は底部から屈曲して立ち上がる体部(口縁部)が高くなり、結果として器高が深くなるもの(116)である。炮烙鍋2類は体部(口縁部)の立ち上がりが低く浅い形状のもの(117～119)である。炮烙鍋の調整痕は両者とも共通している。底部外面は板状圧痕が残存し、その周囲はヘラケズリされている。体部は指ナデあるいは指オサエが施され、口縁端部は強く面を作ってナデている。内面も口縁部付近は指による横ナデがなされるが、底部には特に調整痕は認められない。炮烙鍋成形時に内型を用いていた可能性が考えられる。

石製品は、火打ち石と砥石が存在する。火打ち石(120～122)はいづれもチャートを石材として使用している。微細に剝落した部分(図中の矢印部分)が数カ所で認められ、ほとんどの場合には鉄粉が付着して錆び付いた部分が残存している。砥石(123～125)は欠損が著しく全形が判明しないものばかりである。おそらく平面形と断面形が長方形の直方体の形状をもつものと推定され、材質から中砥か仕上げ砥と思われる。

(鈴木正貴)



第30図 SD6092 遺物実測図 (1)

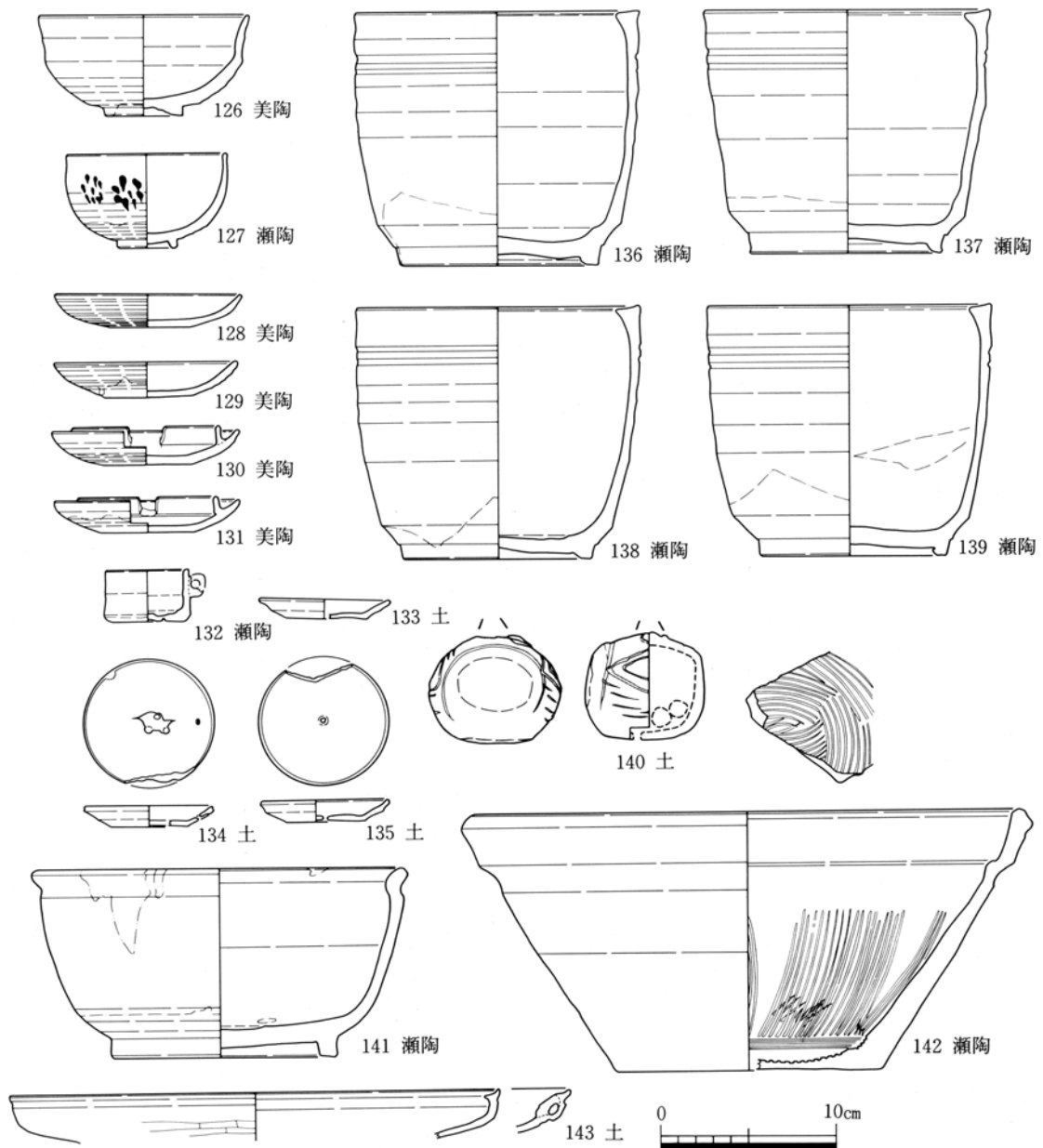


第31図 SD6092 遺物実測図(2) (120~122はS=1:3)

第4節 SK4287 (第32図126~143)

SK4287は93A区で検出された土坑である。半胴甕が2個づつ合わせ口になって出土した特殊な出土状況を持っている。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・土師器等が出土し、木製品や金属製品は出土しなかった。瀬戸・美濃窯産陶器の年代観から宿場町期Ⅱ-1期に属すると思われる。

碗は美濃窯産陶器丸碗と瀬戸窯産陶器丸碗がある。前者は口縁部がやや端反の形状になった灰釉丸碗(126)であり、後者は外面に梅花紋を描いた染付丸碗(127)である。SK4287は碗類の出土量が他の遺構に比べ少ないという特徴が認められる。



第32図 SK4287 遺物実測図

皿は美濃窯産陶器の無高台皿と灯蓋、及び土師器皿のみが出土している。美濃窯産陶器の無高台皿(128・129)と灯蓋(130・131)は鉄釉が施され、128は口縁部にタールが付着している。土師器皿は底部に回転糸切痕が残存したロクロ成形の皿で白色の胎土を持っている。底部が穿孔されており、134は底部中央に3個と体部に1個の孔があったと推定され、135は底部中央に1個の孔が穿たれている。

鉢は瀬戸窯産陶器のものがあり、こね鉢(141)、挿鉢(142)、半胴甕(筒形鉢)が認められる。136と137、138と139が各々セットとなって出土したものである。挿鉢は7類に属する形態で瀬戸窯産陶器の藤澤編年では第8小期に属する資料である。

土師器は、前述した皿の他に、炮烙鍋とミニチュアが存在する。炮烙鍋(143)はSD6092分類の2類に属する。また、140は太鼓のミニチュアで外面に赤色彩色が施されている。内部は中空で中に玉が2個入って底部に孔が1個穿たれており、鈴となっている。

第3表 主要遺構遺物集計表(口縁部計測法で1/12を単位とする。)

	SX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6691		SX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6691
瀬戸美濃陶器 碗	93	189	27	1236	1909	瀬戸美濃陶器 天目茶碗	1	0	0	0	0
瀬戸美濃陶器 皿	56	58	50	334	861	丸碗	70	107	15	613	182
瀬戸美濃陶器 鉢	86	68	32	176	777	腰折碗	11	31	12	21	12
瀬戸美濃陶器 壺・瓶	20	12	0	148	719	平碗	0	11	0	340	1142
瀬戸美濃陶器 その他	3	24	49	200	945	小碗	0	11	0	76	413
瀬戸美濃陶器 挿鉢	27	24	4	43	185	仏飯具	0	0	0	30	64
瀬戸美濃陶器 合計	258	351	158	2094	5211	碗類その他	0	5	0	1	24
常滑陶器 碗	10	1	0	21	221	丸皿	56	39	1	194	370
常滑陶器 その他	13	2	0	52	402	腰折皿	0	7	0	0	0
常滑陶器 合計	23	3	0	73	623	非円形皿	0	7	0	0	3
その他陶器 碗	36	0	0	18	37	灯さん	0	0	24	28	190
その他陶器 皿	1	0	1	0	7	無高台皿	0	4	23	91	292
その他陶器 鉢	12	3	0	0	3	小皿	0	0	0	3	2
その他陶器 壺・瓶	0	0	0	0	47	皿類その他	0	0	0	0	0
その他陶器 その他	2	0	0	0	65	丸鉢	15	27	12	61	230
その他陶器 合計	51	3	1	18	159	平鉢	4	4	0	8	6
陶器 合計	332	357	159	2185	5993	挿鉢	27	24	4	43	185
肥前磁器 碗	12	5	2	104	290	筒形鉢	19	12	6	41	124
肥前磁器 皿	1	0	1	23	311	びんだらい	14	1	0	0	0
肥前磁器 鉢	0	0	0	12	33	腰折鉢	4	0	0	0	9
肥前磁器 壺・瓶	0	0	0	0	0	植木鉢	0	0	0	0	52
肥前磁器 その他	0	0	0	18	29	大皿	0	0	0	16	74
肥前磁器 合計	13	5	3	157	663	小鉢	0	0	10	0	25
その他磁器 碗	8	1	0	9	1466	鉢類その他	3	0	0	3	59
その他磁器 皿	1	0	0	2	90	筒形壺	0	0	0	39	41
その他磁器 鉢	0	0	1	0	42	肩壺	3	0	0	9	61
その他磁器 壺・瓶	0	0	0	0	111	口壺	0	0	0	0	0
その他磁器 その他	0	0	0	0	95	小形壺	5	0	0	0	2
その他磁器 合計	9	1	1	11	1804	花瓶	0	0	0	0	0
磁器 合計	22	6	4	168	2467	土瓶	0	0	0	1	129
土師器 皿	0	0	29	0	0	汁次	10	12	0	3	44
土師器 鍋・釜	16	275	7	351	182	徳利	2	0	0	70	341
土師器 その他	2	0	0	0	12	小徳利	0	0	0	24	66
焼塩壺	0	0	0	0	1	油壺	0	0	0	0	20
土師器 合計	18	275	36	351	195	壺瓶類その他	0	0	0	0	15
瓦器 合計	0	0	5	65	59	筒形	2	3	48	19	148
土器 合計	18	275	41	416	254	灰落し	1	0	0	27	0
陶磁器 土器類 合計	372	638	204	2769	8714	柄杓	0	0	0	0	0
瀬戸美濃陶器	SX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6691	ひょうそく	0	0	0	6	53
尾呂茶碗	22	4	0	1	0	燭台	0	0	0	0	8
御室茶碗	8	0	0	0	0	盤	0	7	0	0	0
腰鑪茶碗	18	21	1	26	10	火鉢	0	0	0	17	68
鍔茶碗	0	0	0	13	6	行平	0	0	0	0	0
端反碗	5	1	0	0	70	鍋	0	0	0	2	107
その他の丸碗	17	81	14	544	84	蓋	0	14	0	63	400
せんじ碗	0	31	0	21	0	その他	0	0	1	66	157
その他の腰折碗	11	0	12	0	12	挿鉢1類	0	0	0	0	0
柳茶碗	0	0	0	208	0	挿鉢2類	0	0	0	0	0
広東茶碗	0	0	0	0	1142	挿鉢3類	2	2	0	1	3
その他の平碗	0	8	0	132	0	挿鉢4類	8	6	0	0	1
箱形湯呑	0	2	0	29	264	挿鉢5類	2	4	0	0	1
その他の小碗	0	9	0	47	149	挿鉢6類	13	0	0	1	0
						挿鉢7類	2	12	3	11	0
						挿鉢8類	0	0	1	28	179
						挿鉢9類	0	0	0	0	0
						挿鉢10類	0	0	0	0	0

## 第5節 SK6735 (第33～43図144～355)

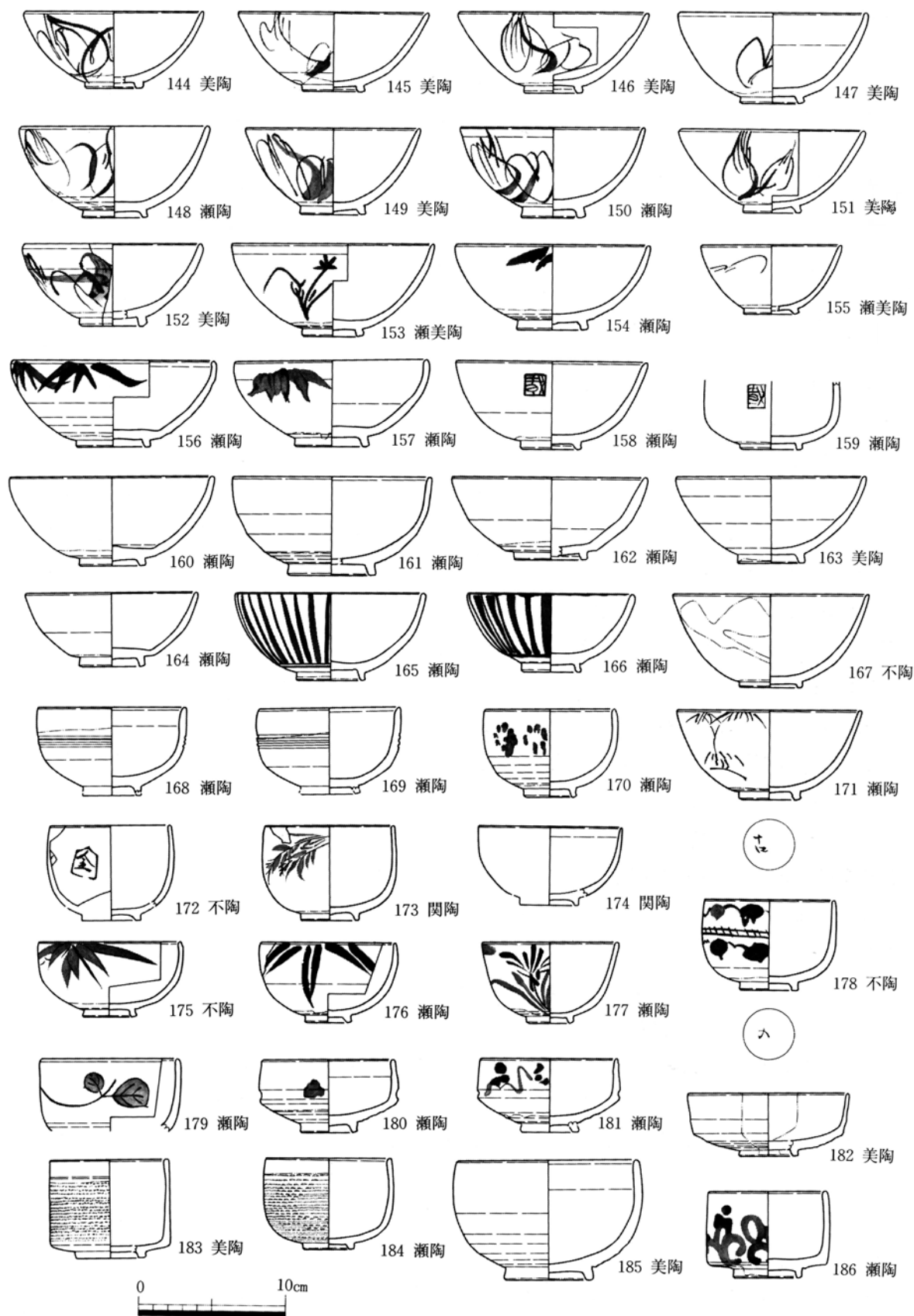
SK6735は89B区北部で検出された巨大な廃棄土坑である。1794年の五条川瀬替えの際に宿場町の拡張に伴って掘削されたものと思われる。1794年前後の年代が与えられる資料である。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産陶器・関西系窯産陶器・常滑窯産陶器・肥前窯産磁器・関西窯産磁器・土師器・瓦器・瓦・石製品・金属製品等が出土したが、木製品は全く遺存しなかった。器種構成からみた場合、前述の遺構出土資料に比べ蓋の出土量が増加している点が注目できる。柳茶碗が主体を占める点等から宿場町期Ⅱ－1期に位置づけられる資料である。

碗は美濃窯産陶器碗、瀬戸窯産陶器碗、肥前窯産陶器碗、関西系窯産陶器碗、肥前窯産磁器碗、関西窯産磁器碗がある。この中で、美濃窯産陶器の柳茶碗(144～147等)が多く認められ、広東茶碗が全く存在しない点がこの遺構の特徴である。美濃窯産陶器碗は他に平碗(163)、鎧茶碗(183)、腰折碗(182)等がある。182は腰折碗で錆釉と灰釉で掛け分けられている。瀬戸窯産陶器碗は柳茶碗(148等)、腰錆碗(168・169)、刷毛目碗(160・164)、麦藁手丸碗(165・166)、せんじ碗(180・181)、呉須絵を施した灰釉丸碗(201～203)等がある。また、灰釉丸碗に上絵付を施した製品(175～177・179)も見られ、笹紋が描かれる場合が多い。172～174は関西系窯産陶器の丸碗で、白色の緻密な胎土に透明釉が施されたものである。172・173は外面に上絵付が描かれており、174も同様のものと思われる。167は黒褐色の胎土に白土による施紋をした後、透明釉を掛けた平碗であり、産地は特定できない。肥前窯産磁器碗は梅樹紋を描いた染付丸碗(187～190)と赤色の上絵付を施した薄手の白磁小丸碗(194・195・197・198)が比較的多く認められる。また、内面にコンニャク印版の五弁花紋が施された箱形湯呑(200)も存在する。

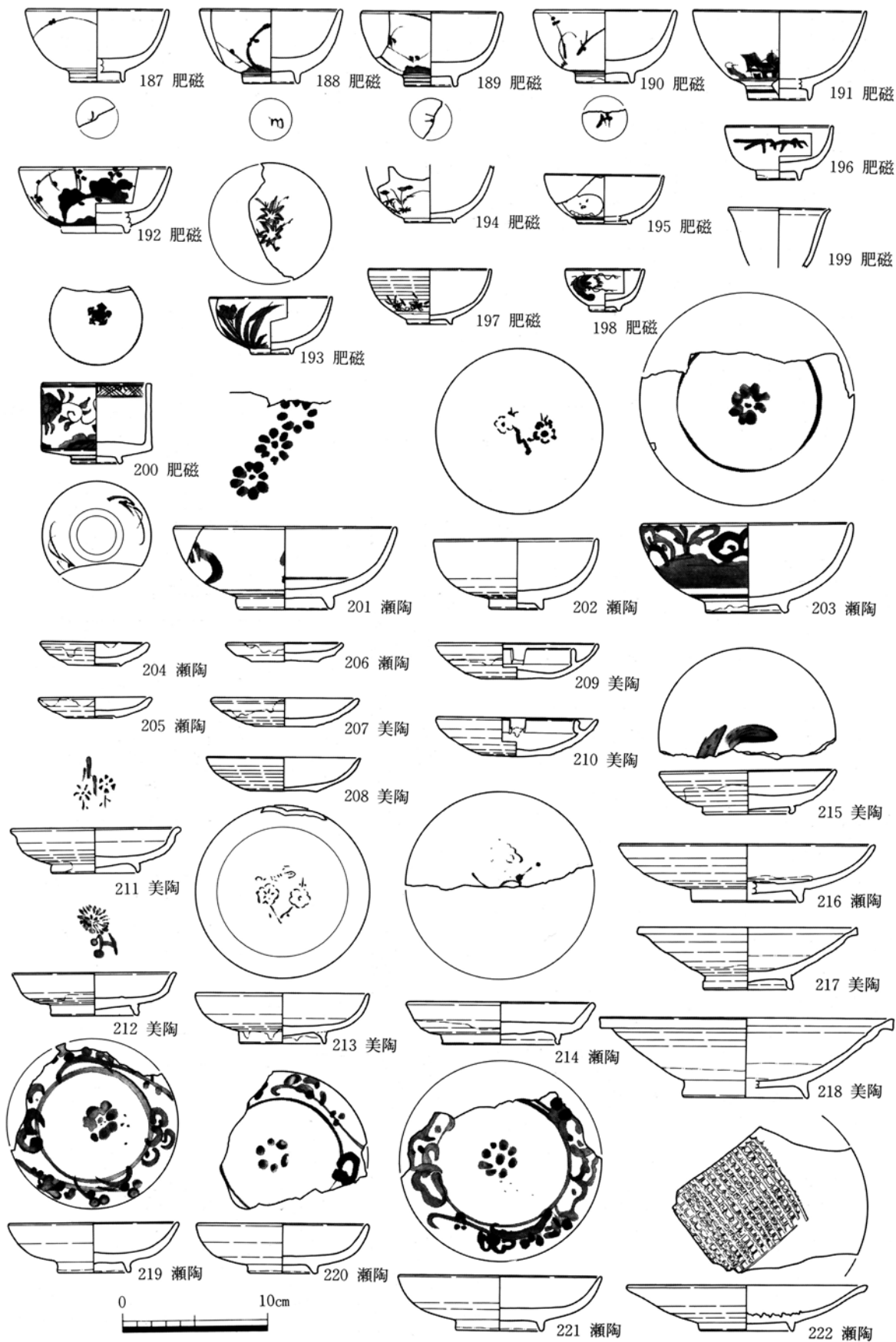
皿は美濃窯産陶器丸皿・無高台皿・灯蓋と瀬戸窯産陶器丸皿・無高台皿等がある。美濃窯産陶器丸皿には、内面に摺絵が施されたものが多く、口縁部が外反するタイプ(211・212)と直立するタイプ(213・214)が存在する。また、体部が逆ハの字状に開き口縁部が外折するもの(217・218)も多い。瀬戸窯産陶器丸皿は内面に呉須絵が施されたもの(219～221)が多く、中には鉄錆釉が施された卸皿(222)も認められる。無高台皿は、底部が碁笥底状に削られた瀬戸窯産陶器灰釉皿(204・205)、完全な平底の美濃窯産陶器鉄釉皿(206～208)等が存在する。

蓋は瀬戸窯産陶器、美濃窯産陶器、関西系窯産磁器、肥前窯産磁器、瓦器等のものがある。関西系窯産磁器(223)及び肥前窯産磁器(224・225)染付蓋は環状の摘みを持つものである。瀬戸・美濃窯産陶器蓋は落し蓋で口縁部の折り返しの無いもの(227)と摘みがなく返しのあるもの(231)とが存在する。美濃窯産陶器は落し蓋で口縁部の折り返しの無いもの(226)と摘みも返しも無い被せ蓋(228・229)がある。瓦器の蓋は孔を持つ摘みがあり返しを持つ蓋(230)で、瓦器釜に付属する蓋と推定される。

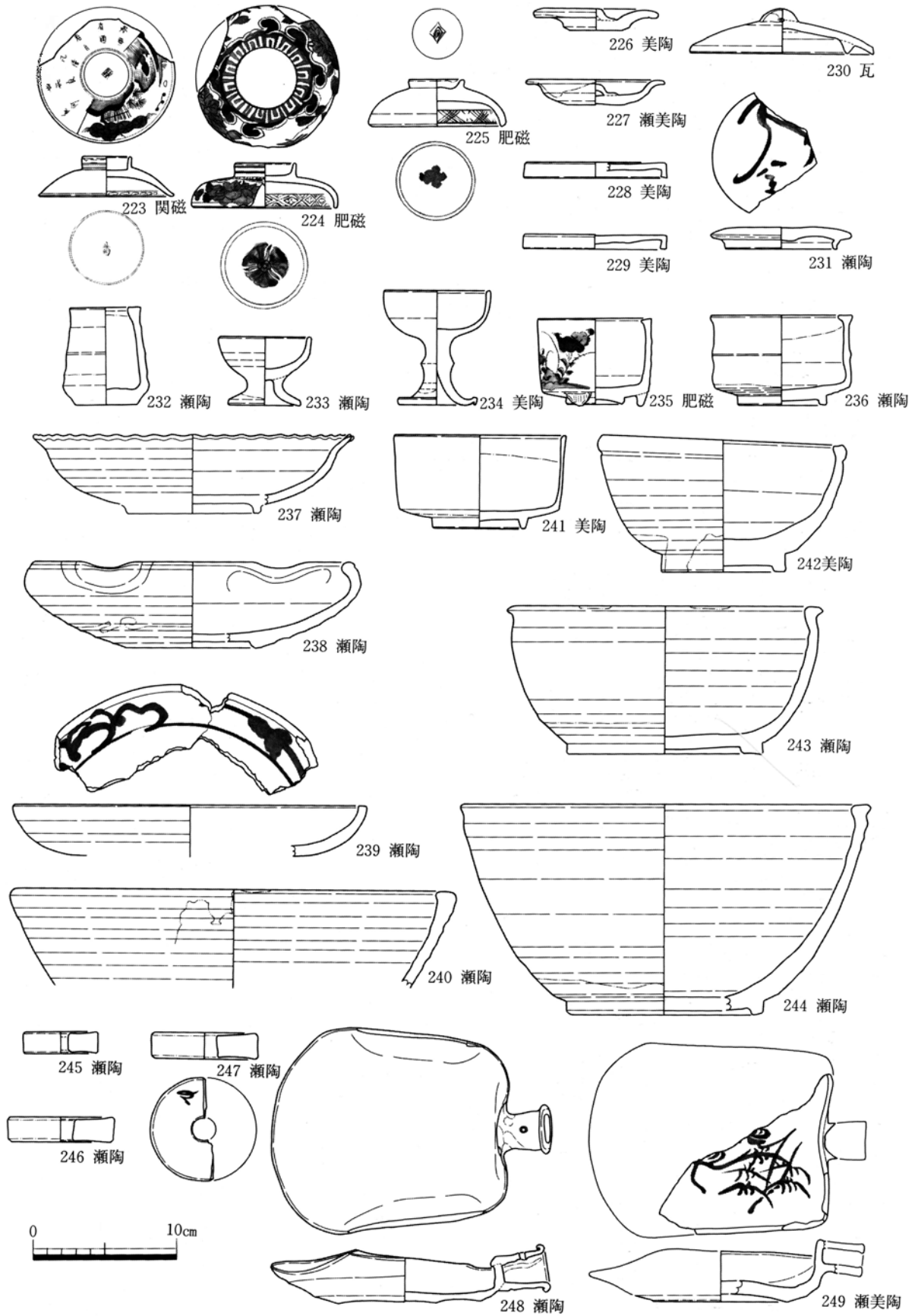
鉢は瀬戸窯産陶器大皿・丸鉢・播鉢、美濃窯産陶器丸鉢、筒形鉢等がある。美濃窯産陶器丸鉢は灰釉こね鉢(242)である。238は瀬戸窯産陶器輪花大皿で、底部は碁笥底に造り、内面にトチン痕が残存している。瀬戸窯産陶器播鉢(285～288)は口縁部形態が8類のものが大半を占めている。これらの播鉢は藤澤編年では第9小期に位置づけられる。



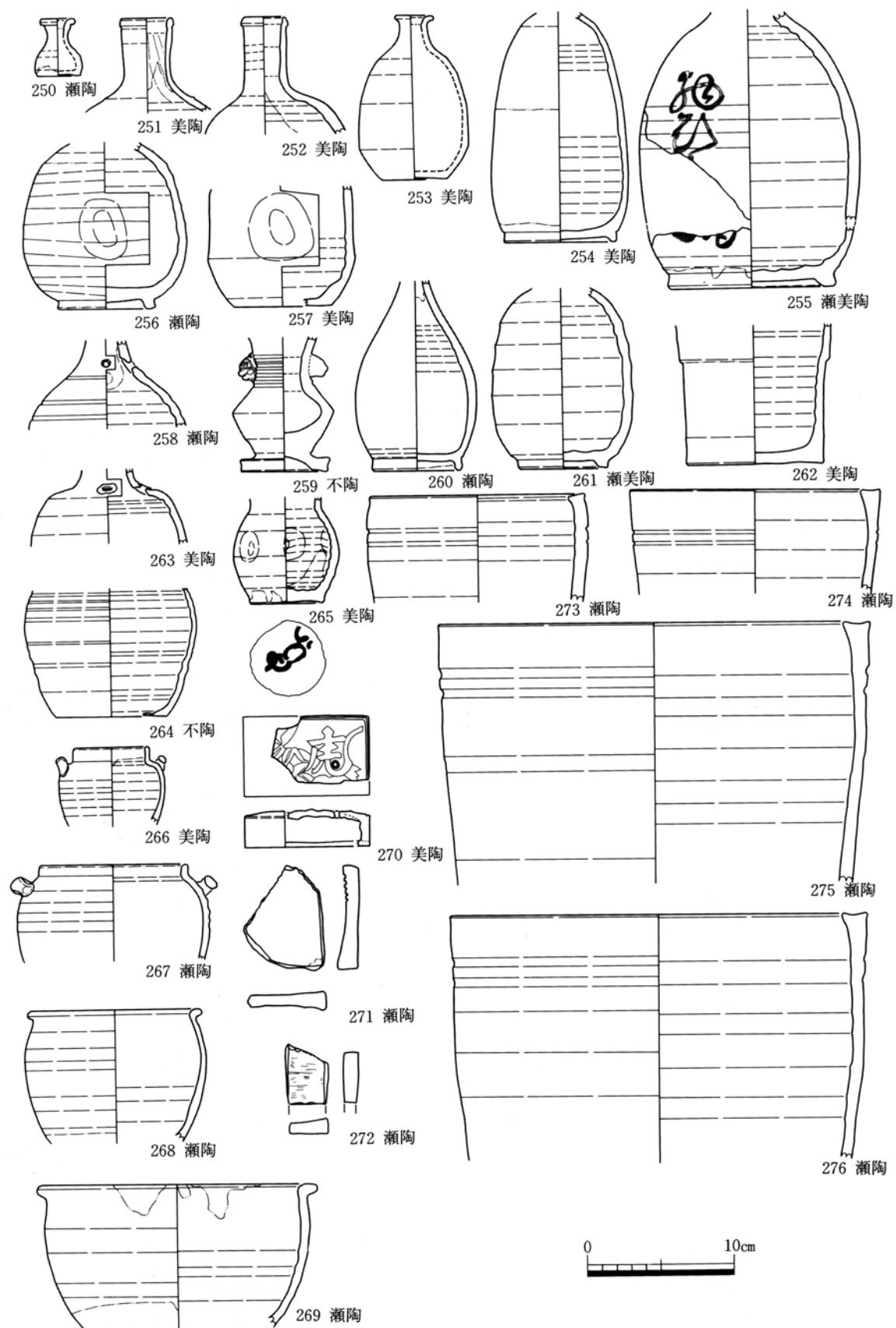
第33図 SK6735 遺物実測図 (1)



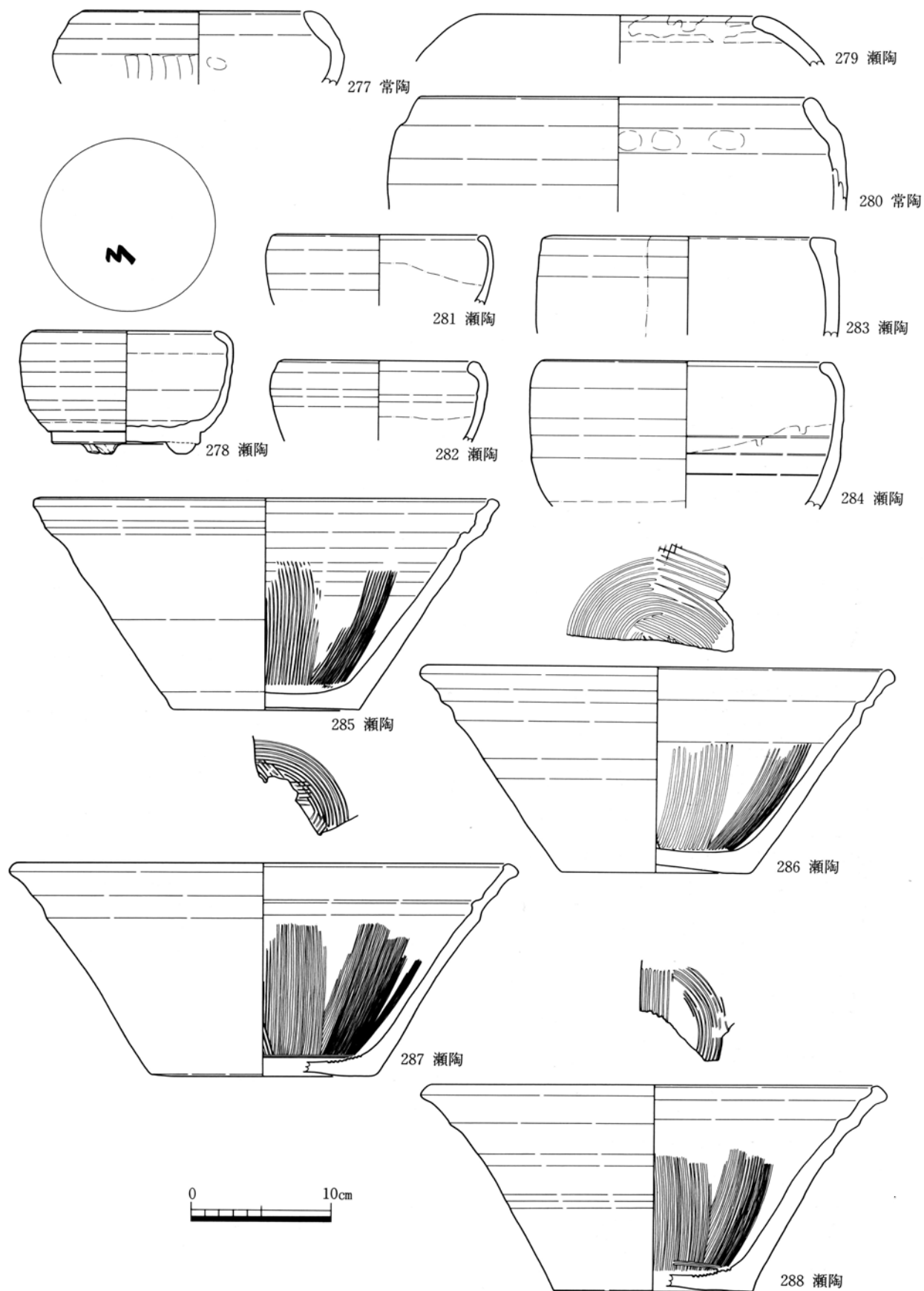
第34図 SK6735 遺物実測図 (2)



第35図 SK6735 遺物実測図 (3)

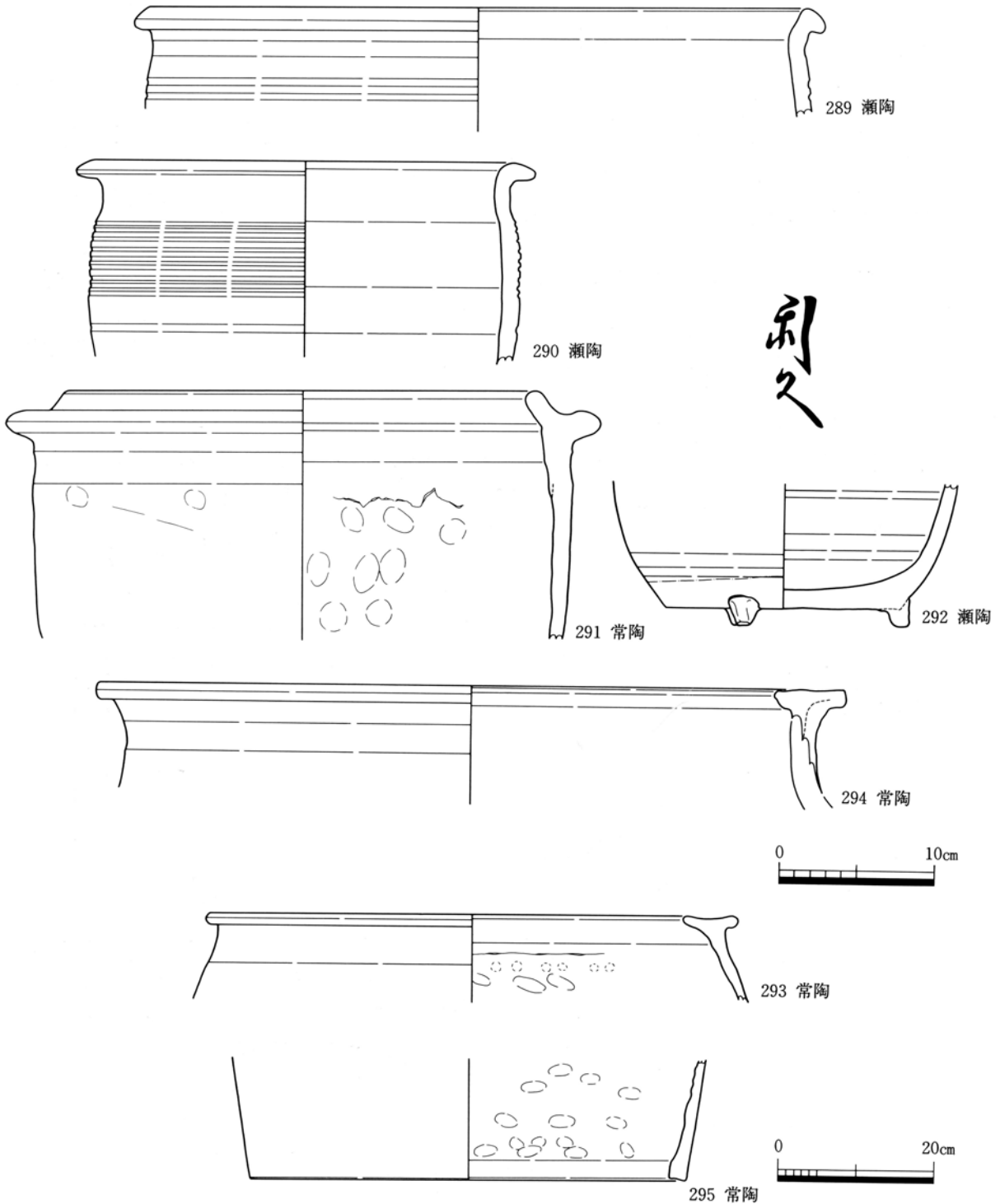


第36図 SK6735 遺物実測図(4)

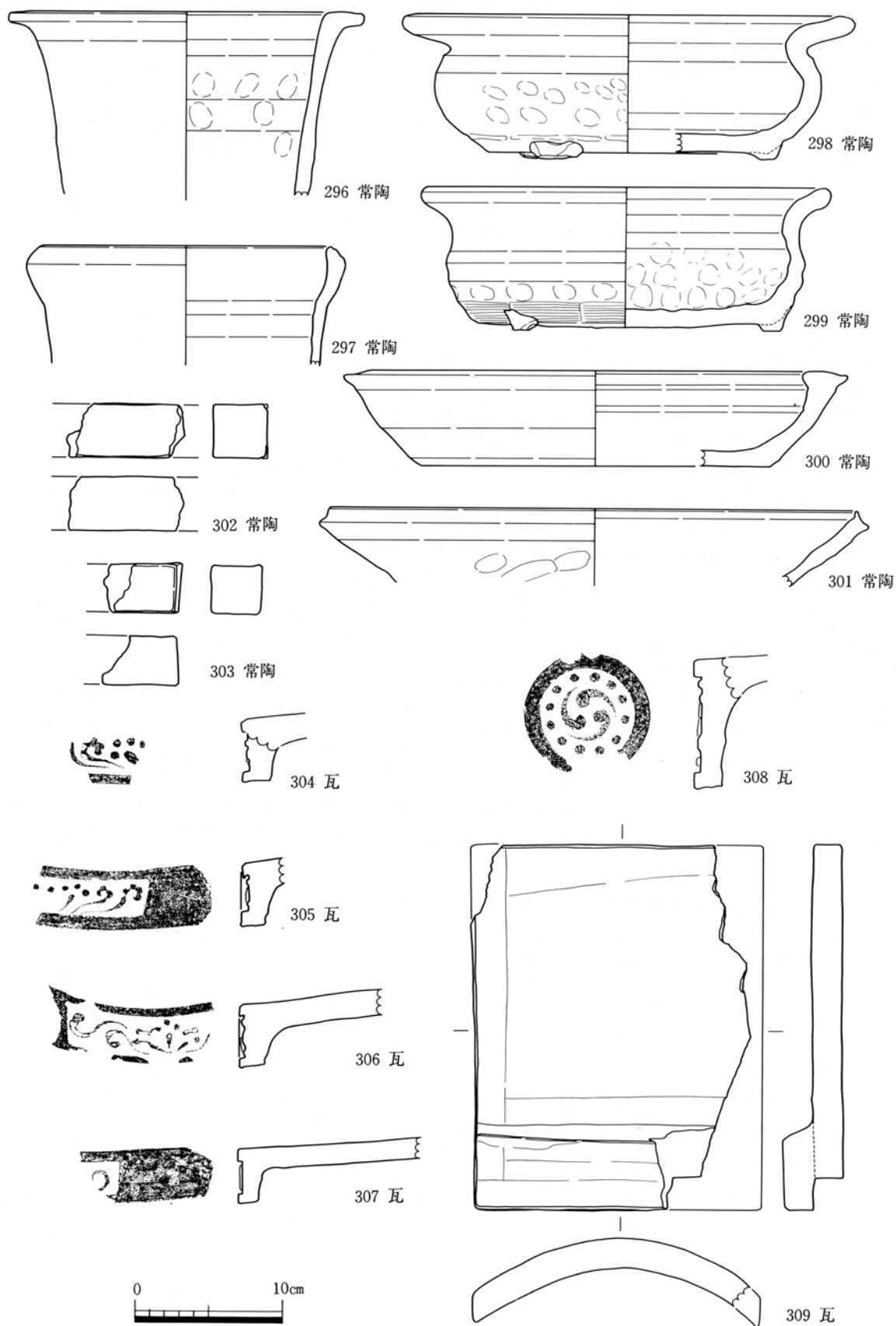


第37図 SK6735 遺物実測図 (5)

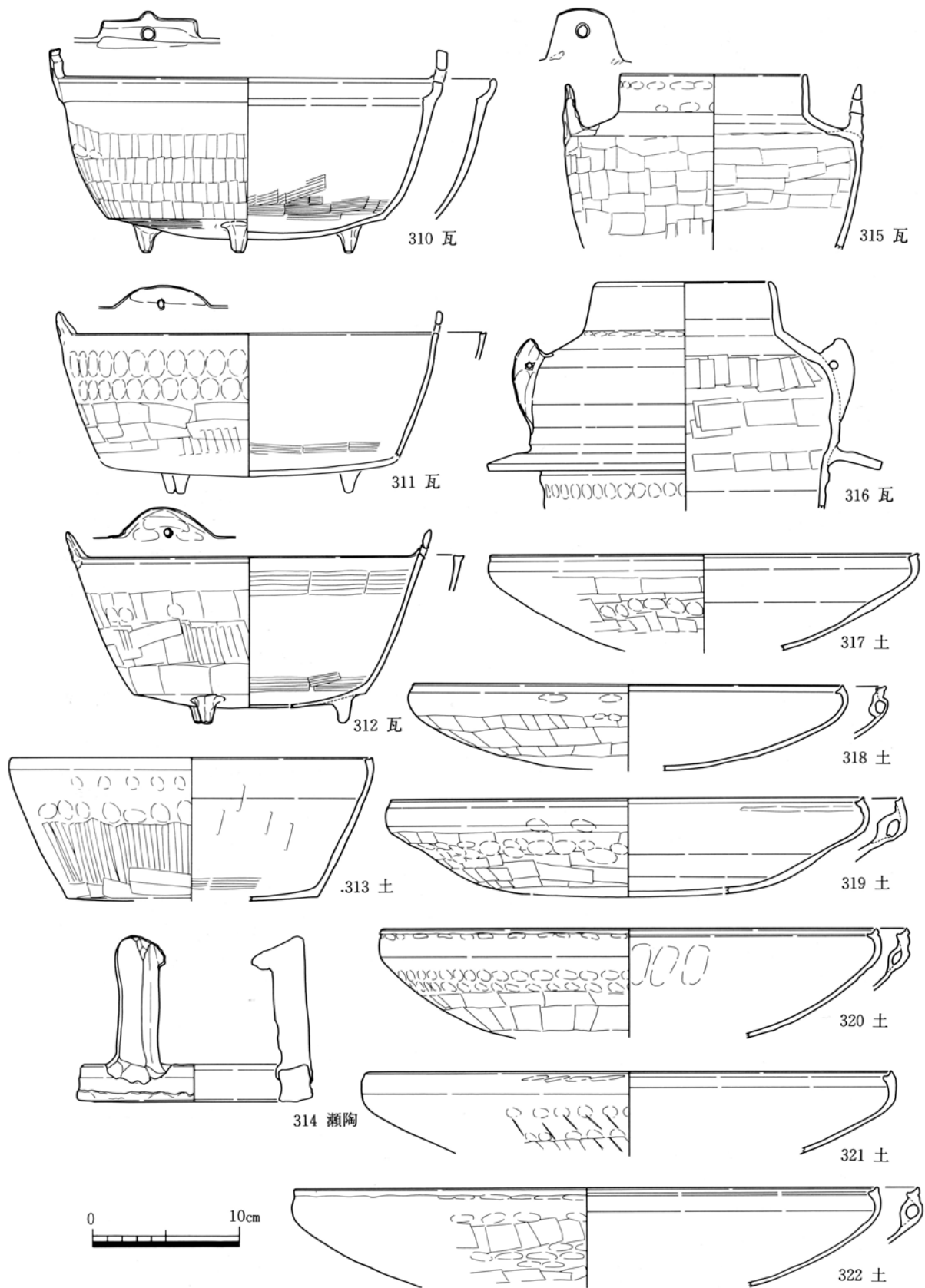
瓶は美濃窯産陶器徳利・チロリ、瀬戸窯産陶器徳利、産地不明陶器徳利・花瓶等が存在する。250は瀬戸窯産陶器の小徳利である。258と263は頸部から肩部にかけての位置に焼成後に穿孔されている。259は産地が特定できない花瓶である。黄白色の緻密な胎土で内面には灰釉が施されているが、外面には黒色漆が塗布されており陶胎漆器と考えられる。獅子頭の耳が付着している。255は瀬戸窯産陶器徳利で、体部には刻書と呉須絵で文字が記されている。264は備前窯産陶器と推定される産地不明の瓶で無釉の焼締製品である。



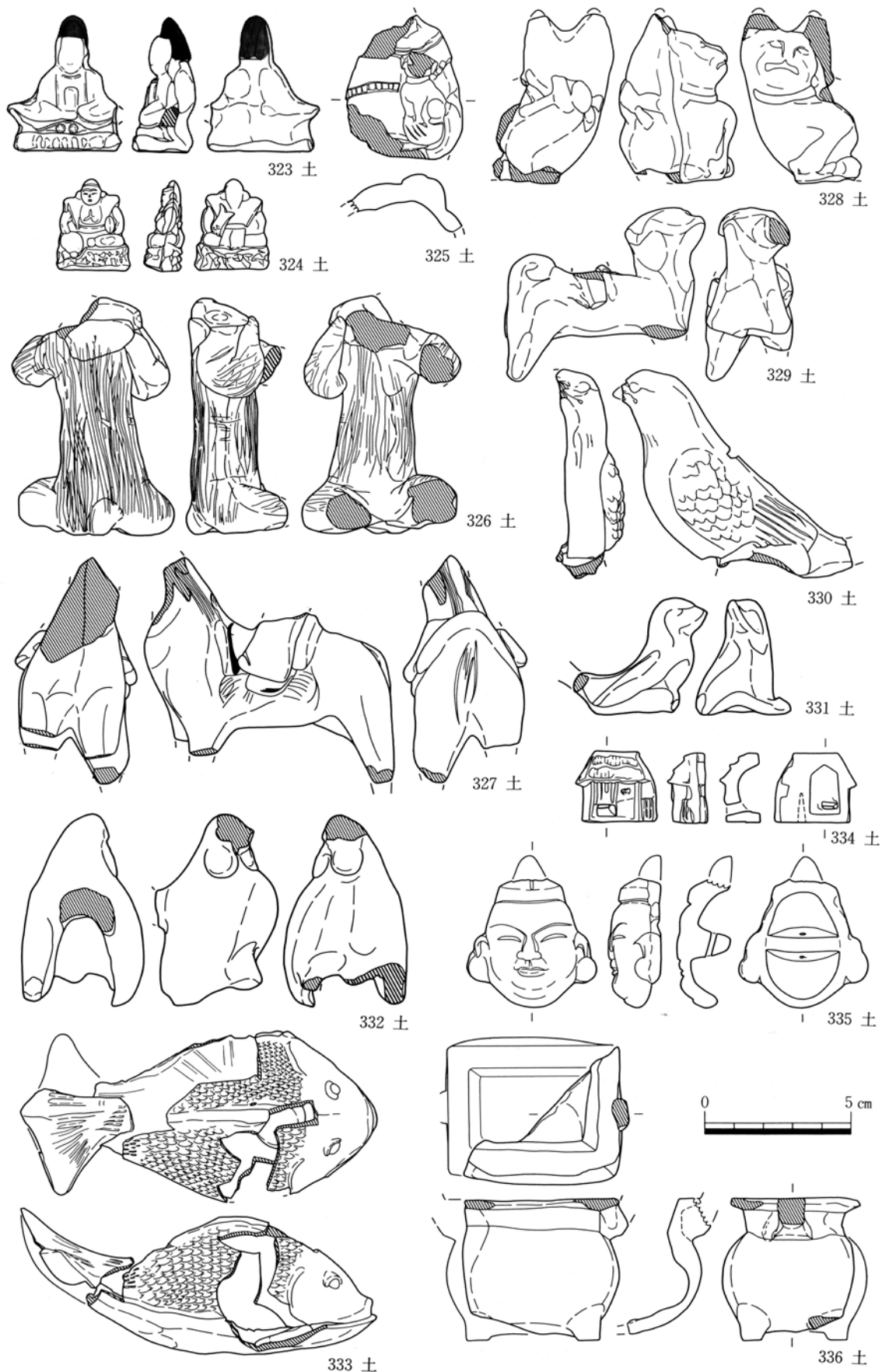
第38図 SK6735 遺物実測図 (6) (293・295は S = 1 : 8)



第39図 SK6735 遺物実測図 (7)



第40図 SK6735 遺物実測図(8)



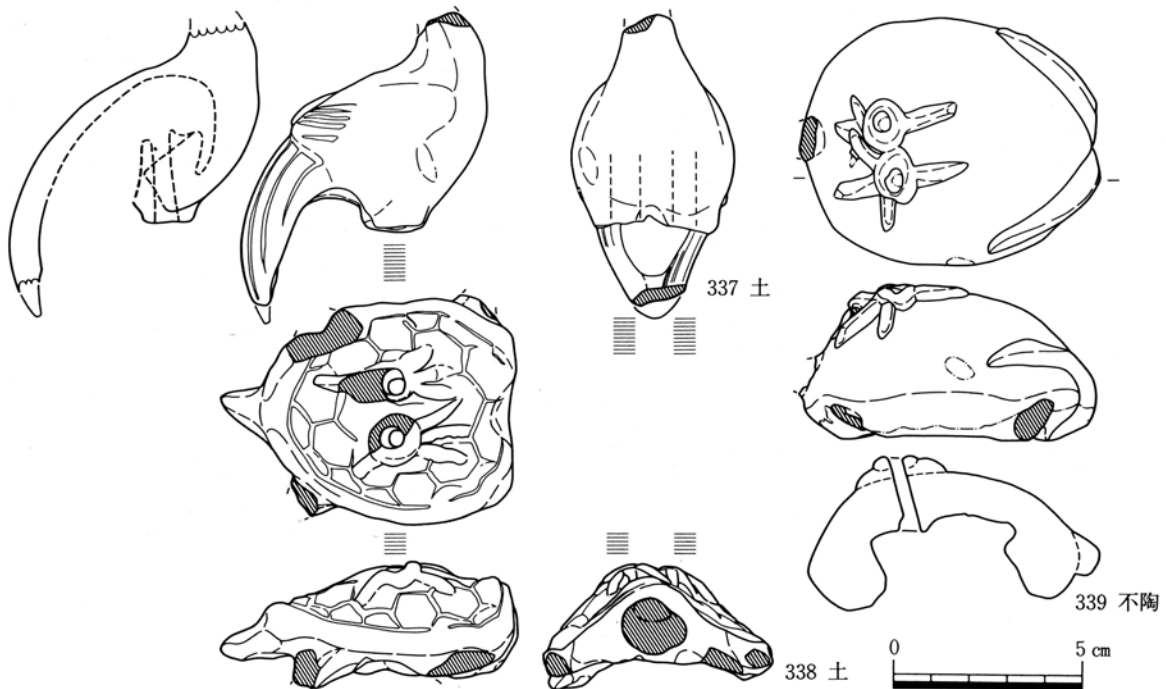
第41図 SK6735 遺物実測図(9)

壺は美濃窯産陶器双耳壺（266）等がある。口縁部が内傾する無頸壺の形態をなす火鉢類は、瀬戸窯産陶器と常滑窯産陶器のもの等がある。常滑窯産陶器無頸壺（277・280）は口縁端部のみを横ナデしてやや肥厚するタイプである。瀬戸窯産陶器火鉢は口径が15cm以下の大きさのもの（278・281・282）と20cm前後の規模のもの（283・284・292）とが存在する。

甕は瀬戸窯産陶器の製品と常滑窯産陶器の製品がある。瀬戸窯産陶器甕は胴丸形で体部上位に沈線が多数存在するもの（289・290）と筒形の半胴甕（275・276）がある。常滑窯産陶器甕は口縁部の断面形がY字形の小形甕（291）と口縁部の断面形がT字形の大形甕（293・294）に区分できる。291の内面には褐白色の付着物が多量に存在している。

鍋・釜は瓦器双耳鍋・釜、土師器内耳鍋・炮烙鍋がある。瓦器双耳鍋は、底部外面に板状圧痕が、体部外面に横方向のヘラケズリ痕が残存し、内面は体部下位にハケメが残る他は調整痕が不明である。耳の形状から、平坦な頂部に突起を持つⅠ類（310）と丸く盛り上がる形状となるⅡ類（311・312）に区分できる。Ⅰ類は口縁部を強くナデて受け口状の段を持って丁寧に作られており、Ⅱ類よりも古いタイプかも知れない。瓦器釜は鏝を持たないもの（315）と鏝を持つもの（316）がある。土師器内耳鍋（313）は体部外面下半部を横方向にヘラケズリされている。土師器炮烙鍋（317～322）は体部が逆ハの字状に開くもので、外面は底部から口縁部に向けて板状圧痕・横方向のヘラケズリ・横ナデが施されている。炮烙鍋の内耳は、平面形で二等辺三角形の配置に3個付けられている。

陶磁器類のその他の器種として、瀬戸窯産陶器香炉（236）・戸車（245～247）・五徳（314）、美濃窯産陶器仏飯器（234）・水滴（270）、常滑窯産陶器筒形鉢（296）・土管？（297）・盤（300）・平鉢（301）・角柱状製品（302・303）がある。瀬戸美濃窯産陶器十能（249）は内面に呉須絵を施した製品で、底部に回転ヘラケズリ痕が残存している。常滑窯産陶器火鉢？（298・299）は体部が丸みを持ち口縁部が折り返されている。内面上部の屈曲部に煤が付着していることから火鉢と想定される。



第42図 SK6735 遺物実測図 (10)

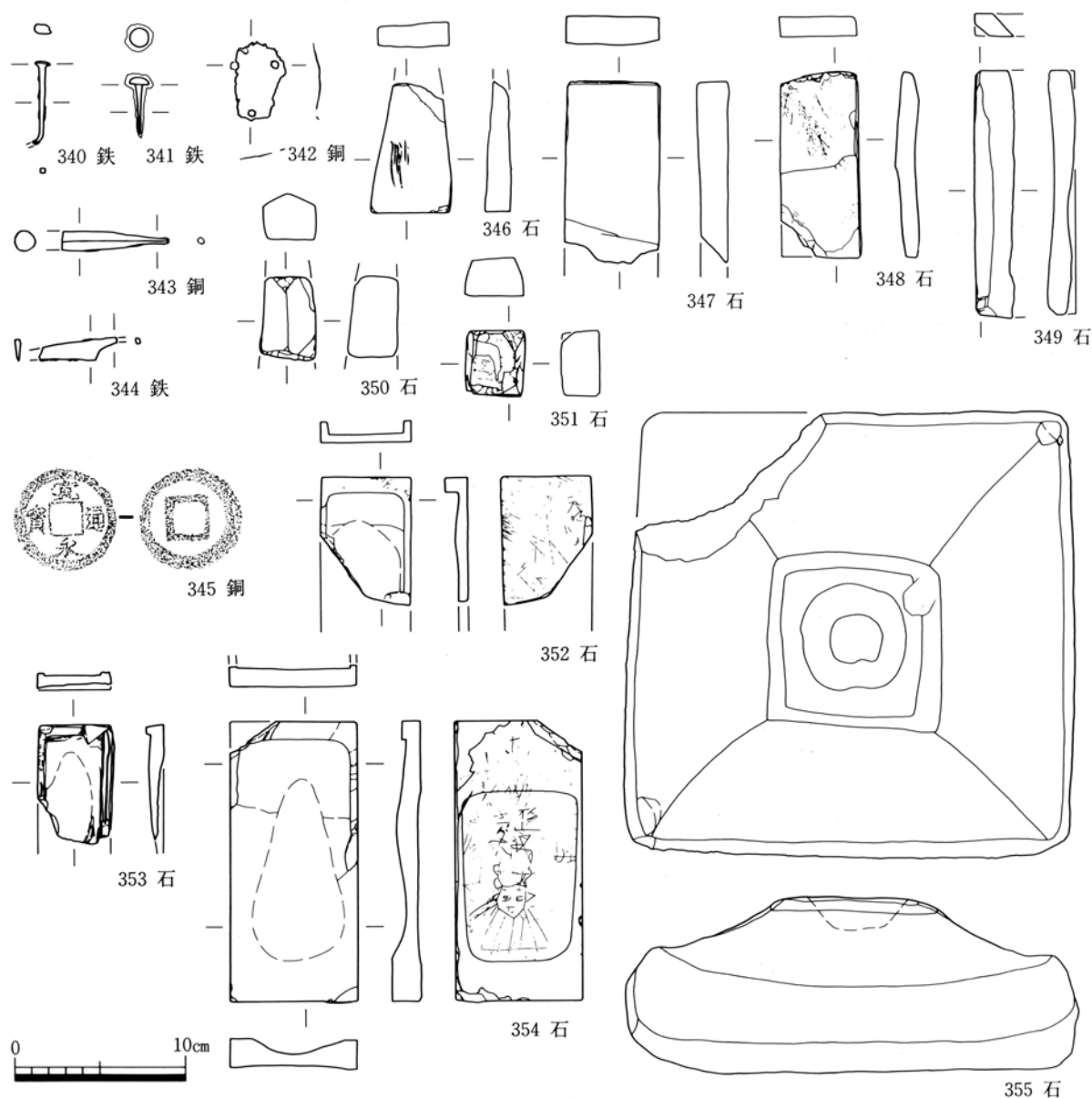
瓦は平瓦 (309)、棧瓦、軒棧瓦 (304~308) 等が存在している。

人形・玩具類は25点出土した。土師器の人形 (323~333)、ミニチュア (334)、面 (335) の他、土師器仏具 (336~338)、産地不明陶器仏具 (339) がある。327は型作りの馬であるが、上部には手捻りの人物が乗っている。333は薄手に作られた金魚の浮き人形である。

陶磁器類に墨書が記されたものには碗・戸車・瓶・火鉢がある。碗・戸車・瓶は底部外面に、火鉢は内面底部に墨書されている。数字や記号が記されるものが多く、「利休」と記されたもの (292) も見られる。

金属製品は、鉄製釘 (340)、鉄製小形刃物類 (344)、銅製金具類 (342)、銭貨 (345) 等が存在する。342はバチ形の薄い銅板に少なくとも3個の孔が穿たれており、飾金具の一種と推定される。

石製品は、五輪塔、砥石、硯が存在する。砥石は石材の種類で荒砥 (350) と中砥または仕上げ砥 (346~349・351) に区分できる。硯はいずれも長方硯 (352~354) であり、このうち354は裏面に文字と人物が刻書されている。五輪塔火輪部 (355) は比較的偏平な形状である。 (鈴木正貴)



第43図 SK6735 遺物実測図 (11) (345のみ S ≒ 2 : 3)

## 第6節 SK6691 (第44~80図356~920)

SK6691は61B区中央部で検出された巨大な廃棄土坑である。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・関西系窯産陶器・常滑窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器・肥前窯産磁器・土師器・瓦器・木製品・金属製品・石製品等の多量な遺物が出土した。広東茶碗等の器種が多くみられることから宿場町期Ⅱ-2期に属する資料と位置づけられる。

碗は瀬戸窯産陶器碗・美濃窯産陶器碗・関西系窯産陶器碗・瀬戸窯産磁器碗・関西系窯産磁器碗・肥前窯産磁器碗・木胎漆器碗等がある。器種としては広東茶碗が圧倒的多数を占め、丸碗・端反碗・箱形湯呑・小碗・沓茶碗等も認められるが、柳茶碗は全く存在しなかった。

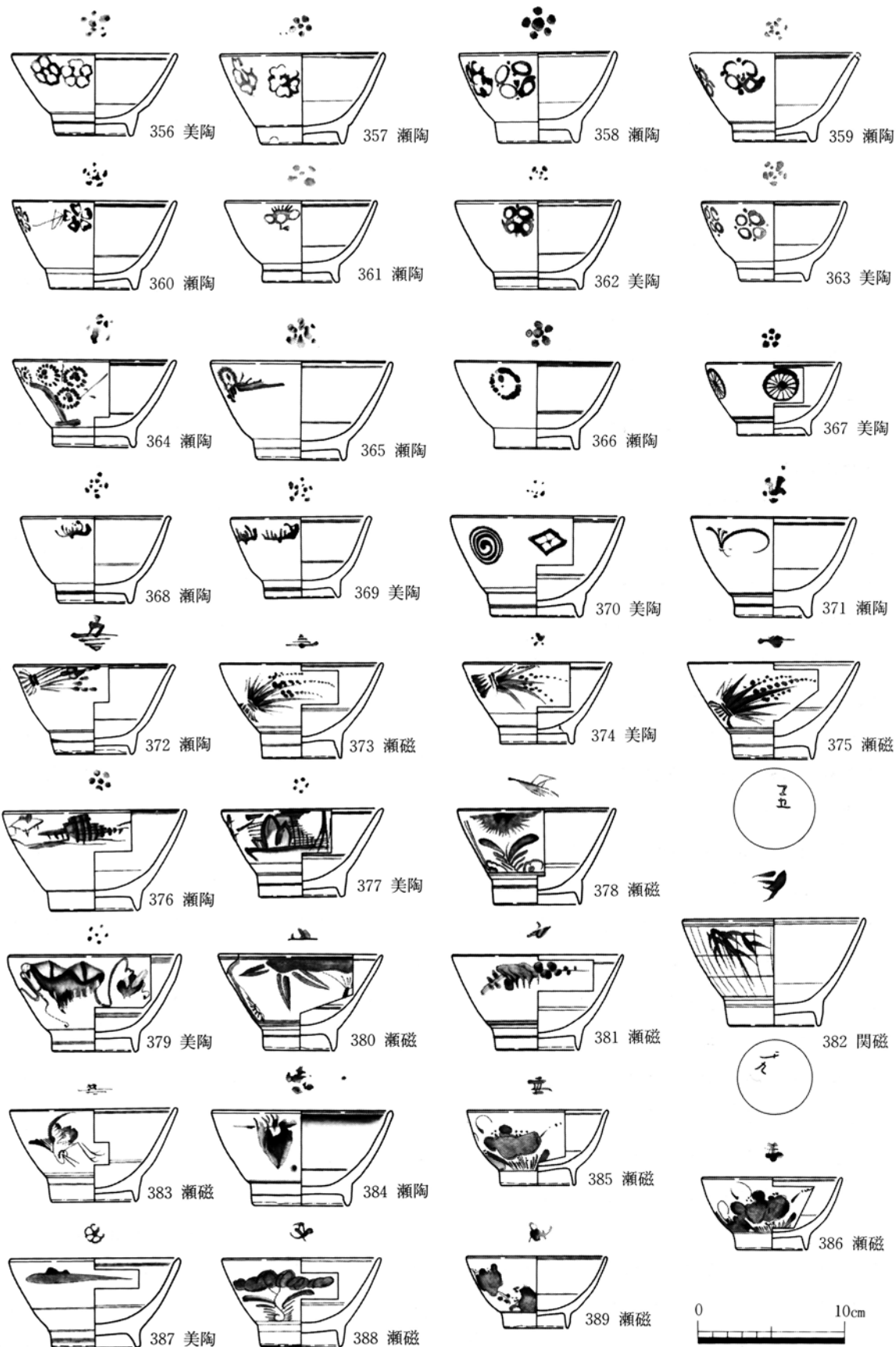
広東茶碗は美濃窯産陶器と瀬戸窯産磁器のものが多く、形態から3類に分類できる。Ⅰ類は口径が大きく内底面に平坦面を持ち体部が直線的に開くもの(365・382等)、Ⅱ類は内底面が丸みを持って凹むもの(356・370等)、Ⅲ類は小形で体部が丸みを持って立ち上がるもの(367・385等)である。また施紋については手書きによるもの(373・377等)とスタンプ(印版)によるもの(356・360等)がある。後者は桜花紋や梅花紋に多く、ほとんどの場合は施紋は3単位見られる。

端反碗は瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・関西系窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器等多様な製品が認められる。形態から小形で口縁部が外折するもの(404・405等)、小形で口縁部が僅かに反るもの(406~408等)、小形で口縁部が薄く外折する安南茶碗を模倣したもの(420)、やや大形で口縁部が緩やかに反るもの(423~425等)、やや大形で口縁部が外折するもの(432)、大形で口縁部が緩やかに反るもの(426・427・433)等に分類できる。

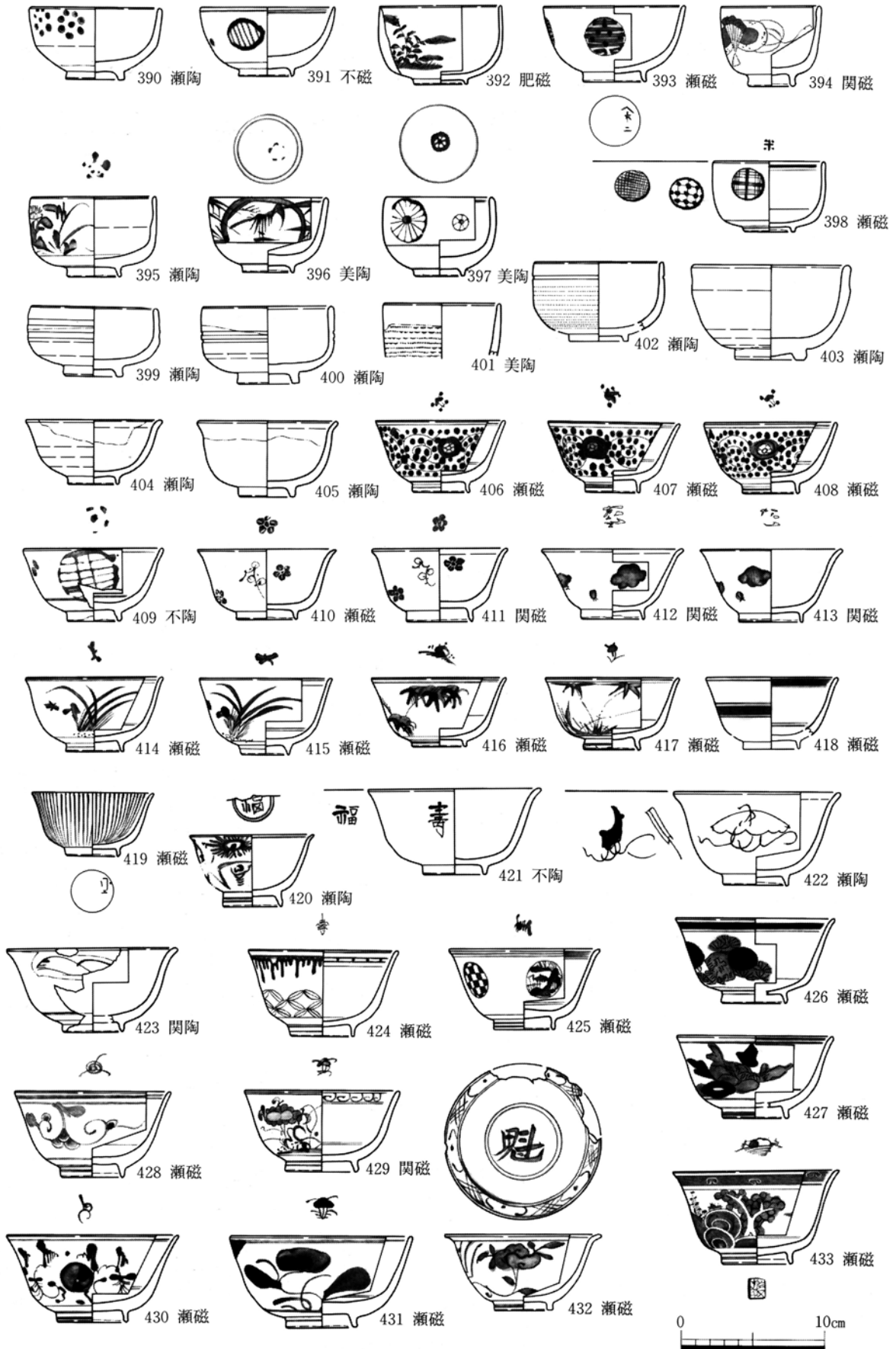
箱形湯呑は美濃窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器・肥前窯産磁器等が認められる。458は長石釉に鉄絵を施した沓茶碗で、復興(再興)織部の製品と思われる。459はうのふ釉を口縁部に流し掛けた碗で高台底面に「景正」と刻印されている。小碗は腰部が丸みを持って立ち上がるもの(461~471・489)、逆ハの字状に直線的に開く小杯タイプのもの(472~475)、端反のもの(487)、筒形のもの(488)等に区分できる。猪口は肥前窯産磁器(476・482)と瀬戸窯産陶器(477~479・483・484)があり、小形の猪口(481)も認められる。小杯は磁器と木胎漆器のものがある。507・508は関西系窯産または産地不明磁器小杯で高い高台を持ち、509は肥前窯産磁器で低い高台を持つ。503は赤色漆が塗布された木胎漆器小杯で、内面に金色の「寿」字が記されている。

木胎漆器碗は4類に区分できる。Ⅰ類は腰部に2段の稜線を持つもので、体部に突帯を持つもの(449)と口縁部が強く外反するもの(450)に細分できる。Ⅱ類は腰部に1段の稜線を持つもの(451・452)、Ⅲ類は腰部が丸く立ち上がり器壁が薄いもの(453・454・456)、Ⅳ類は腰部が丸く立ち上がり器壁が厚いもの(455)である。木胎漆器は総じて漆膜の遺存状態が不良であった。

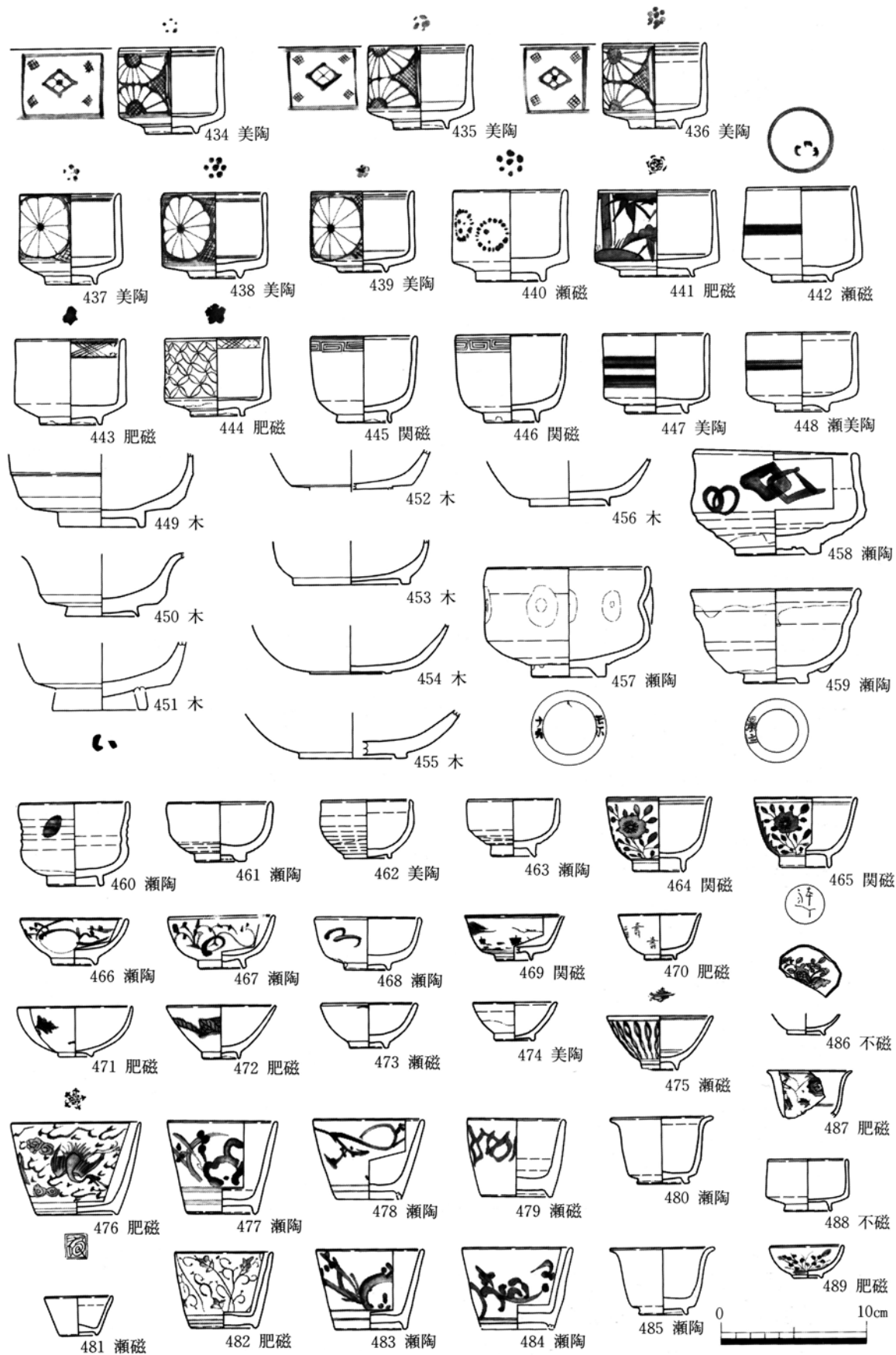
皿は瀬戸窯産陶器皿・美濃窯産陶器皿・瀬戸窯産磁器皿・肥前窯産磁器皿等があり、土師器皿は全く存在しなかった。肥前窯産磁器丸皿は18世紀後半に位置づけられるものが多い。美濃窯産陶器丸皿は内面に菊花紋を鉄絵スタンプし輪禿となるもの(552等)が目立つ。無高台皿は瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・瀬戸窯産磁器の製品があり、すべて完全な平底となっている。灯蓋は内面の突帯が口縁部よりも低いタイプのもの(517~523)である。526は貝殻状の形態をした産地不明陶器皿で、外面に貼り付けの三脚と6個の突起及び菊花のスタンプ紋が押印されている。



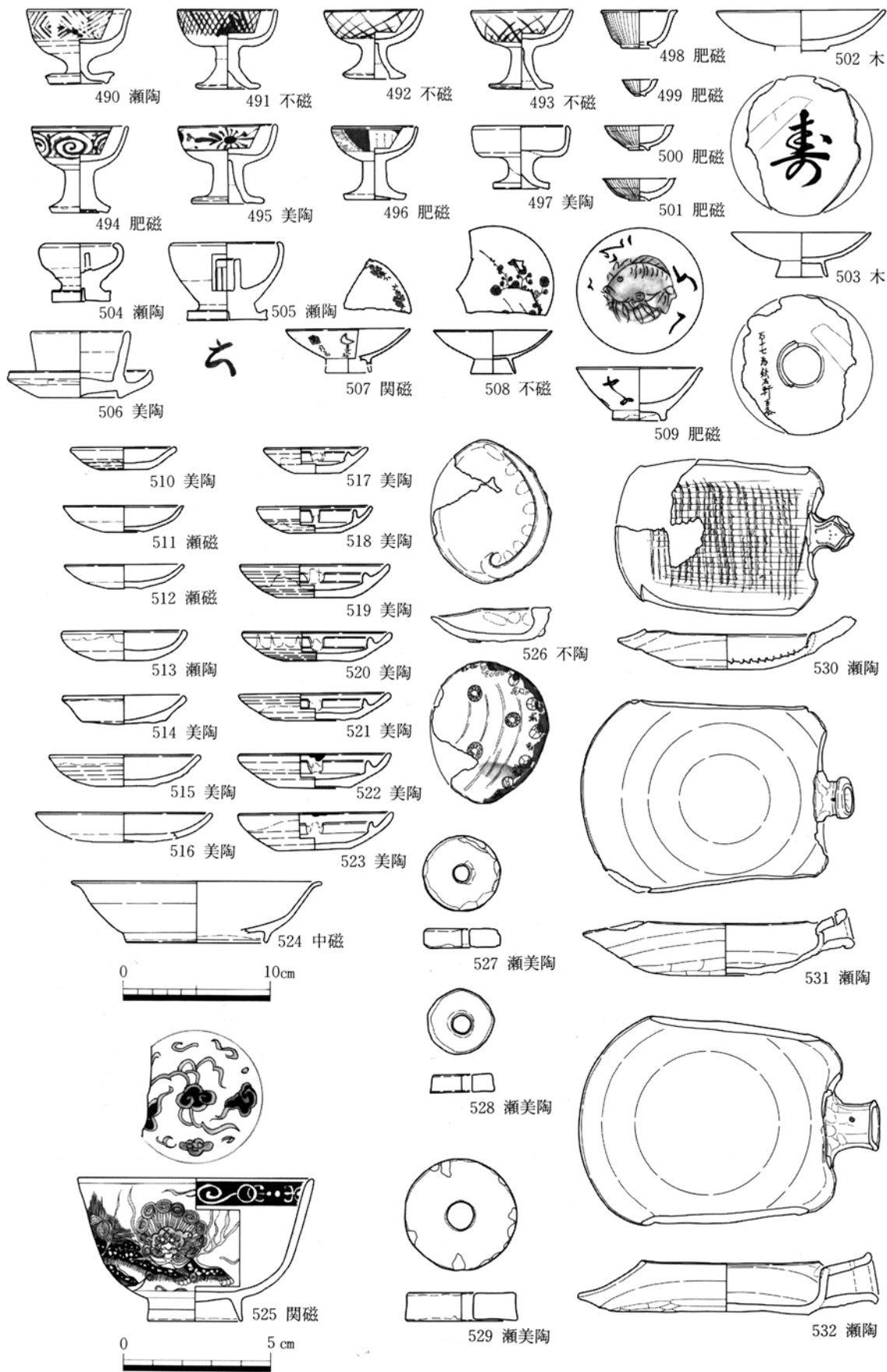
第44図 SK6691 遺物実測図(1)



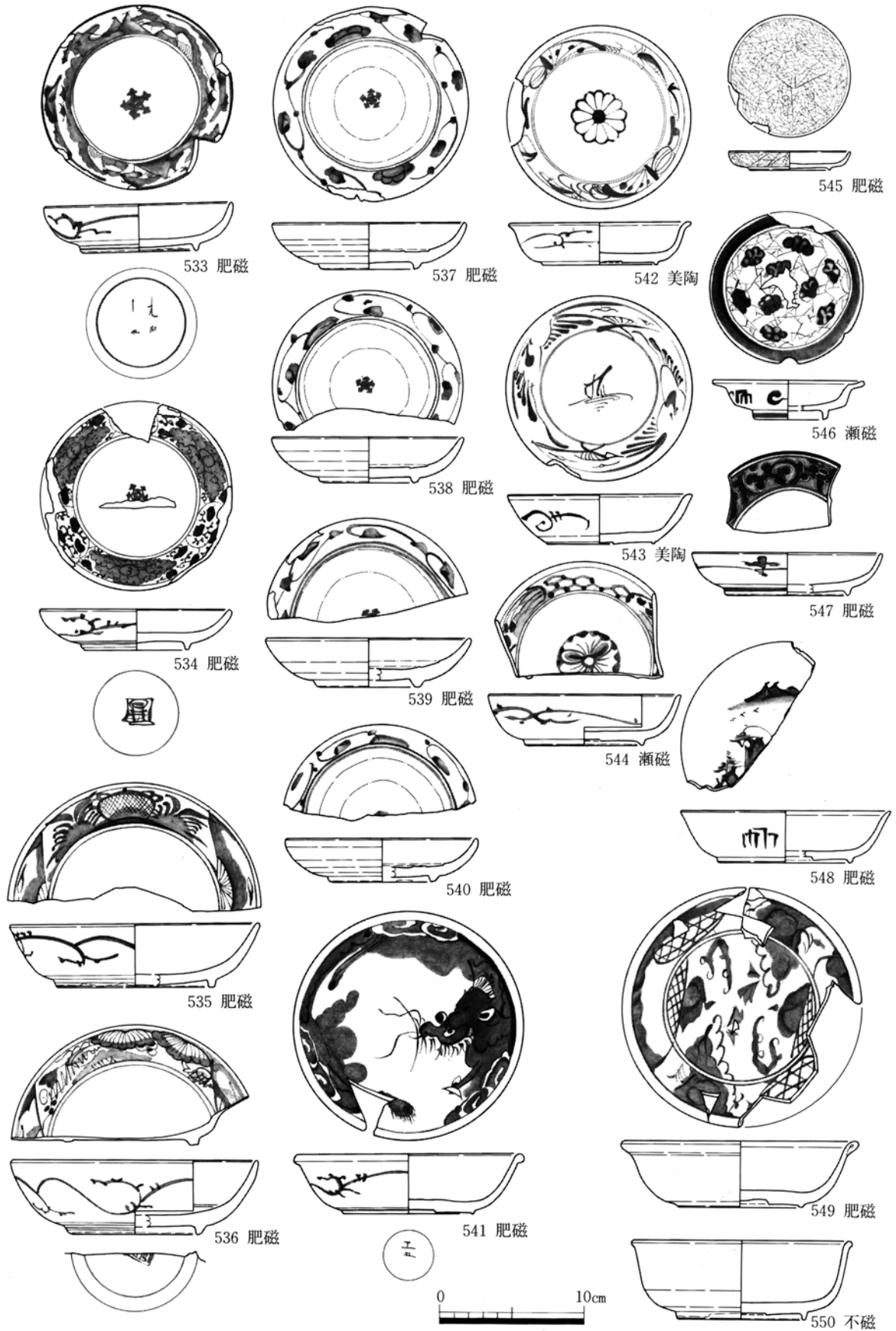
第45図 SK6691 遺物実測図(2)



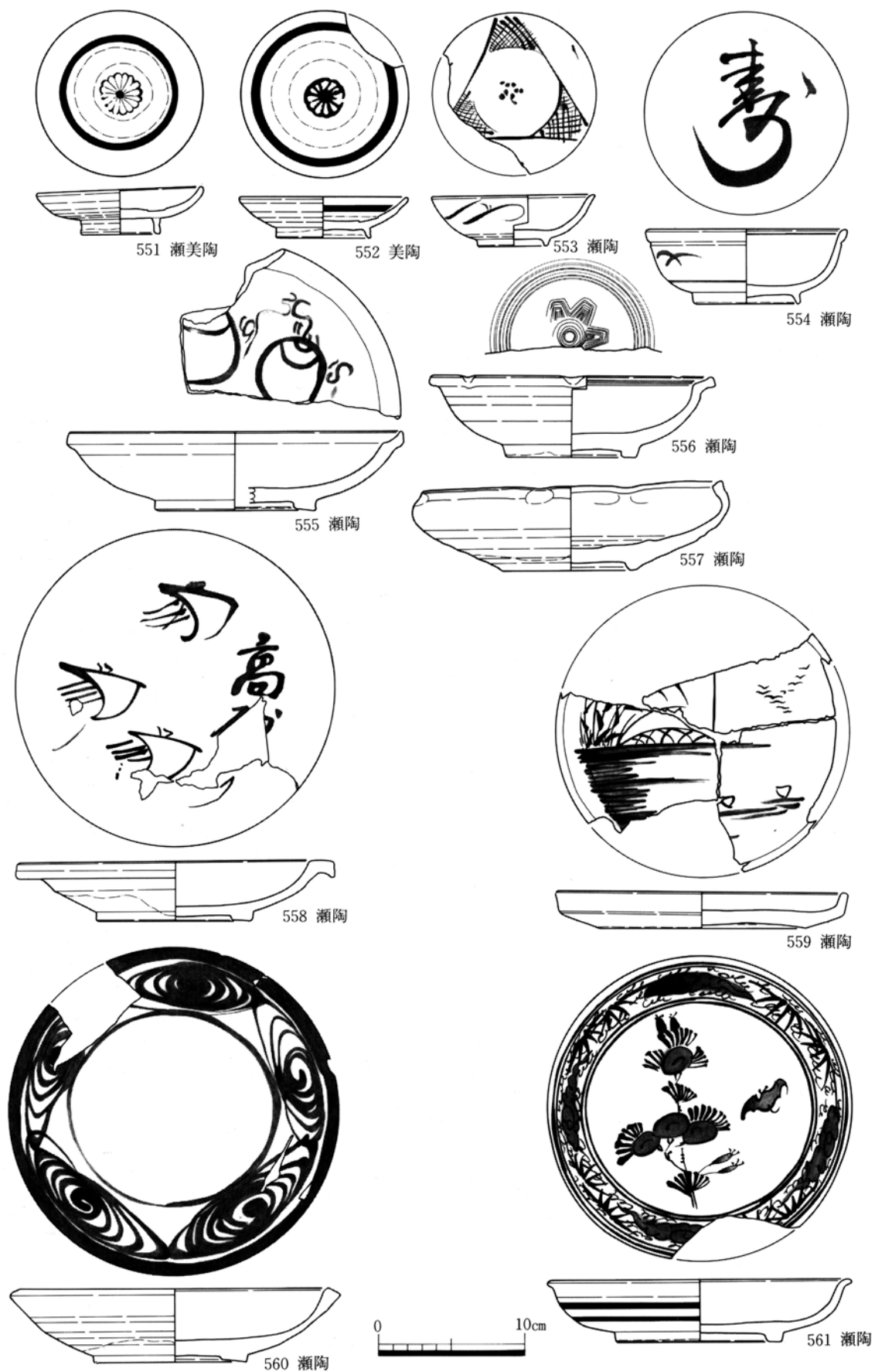
第46図 SK6691 遺物実測図 (3)



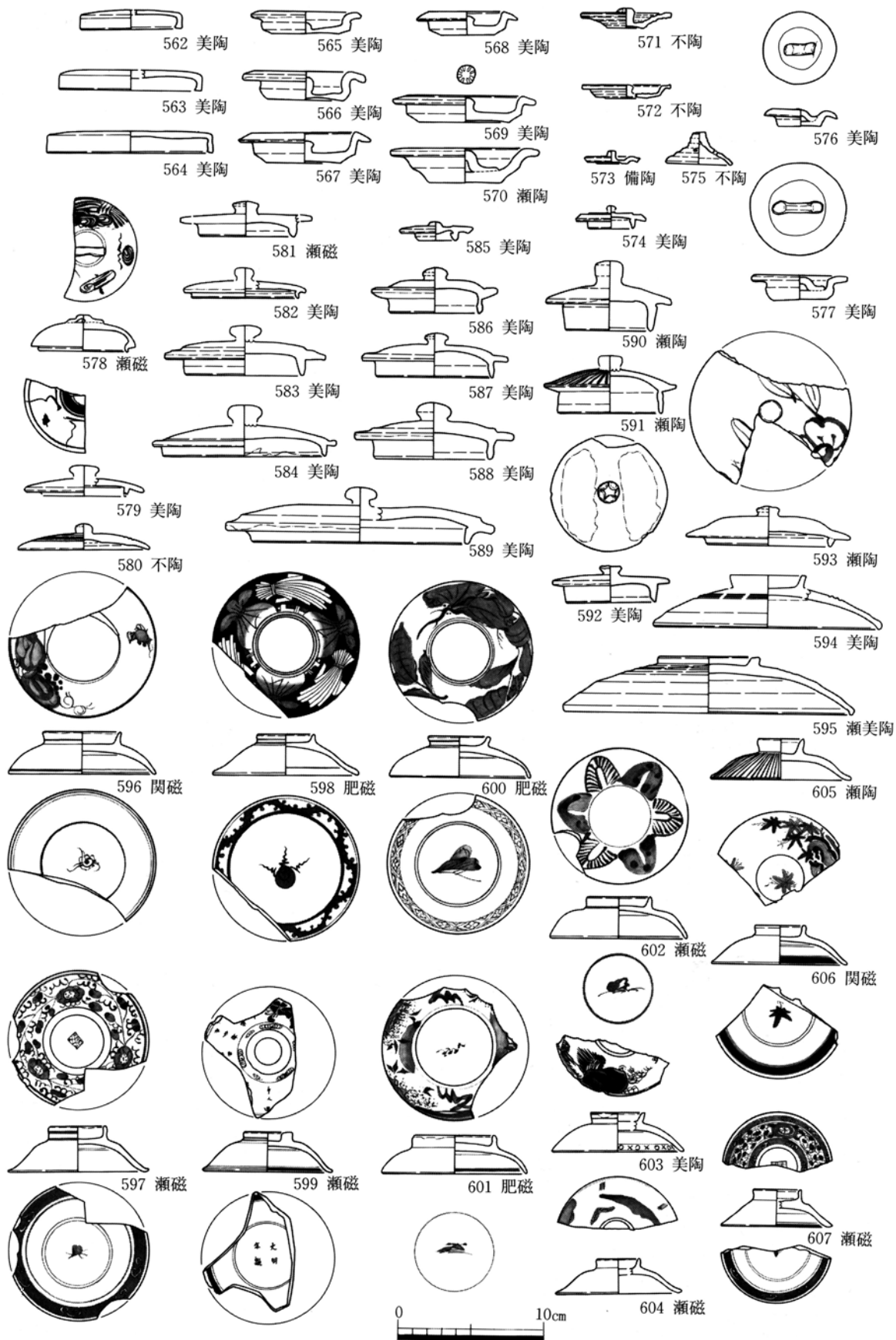
第47図 SK6691 遺物実測図 (4) (525のみ S = 1 : 2)



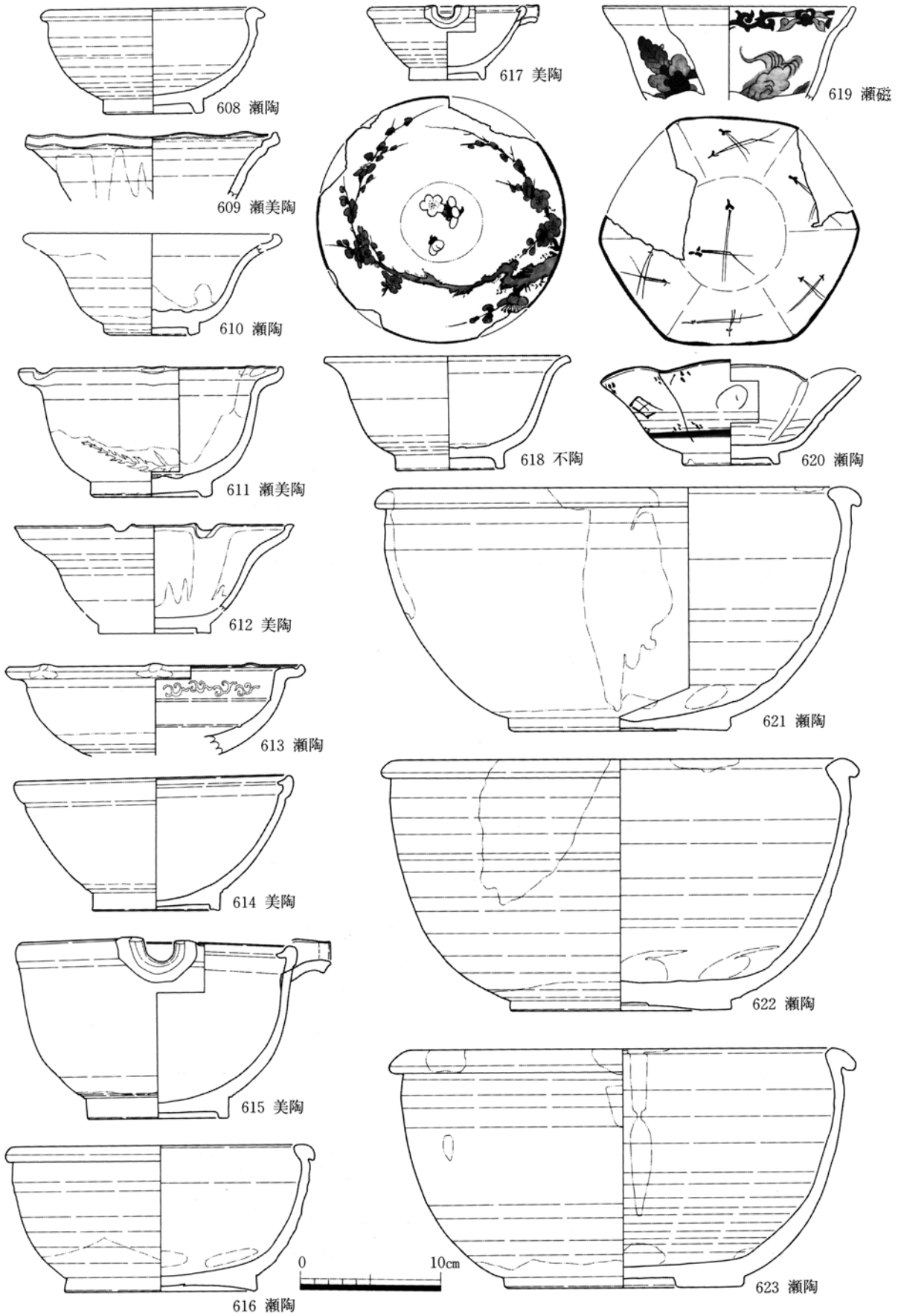
第48図 SK6691 遺物実測図 (5)



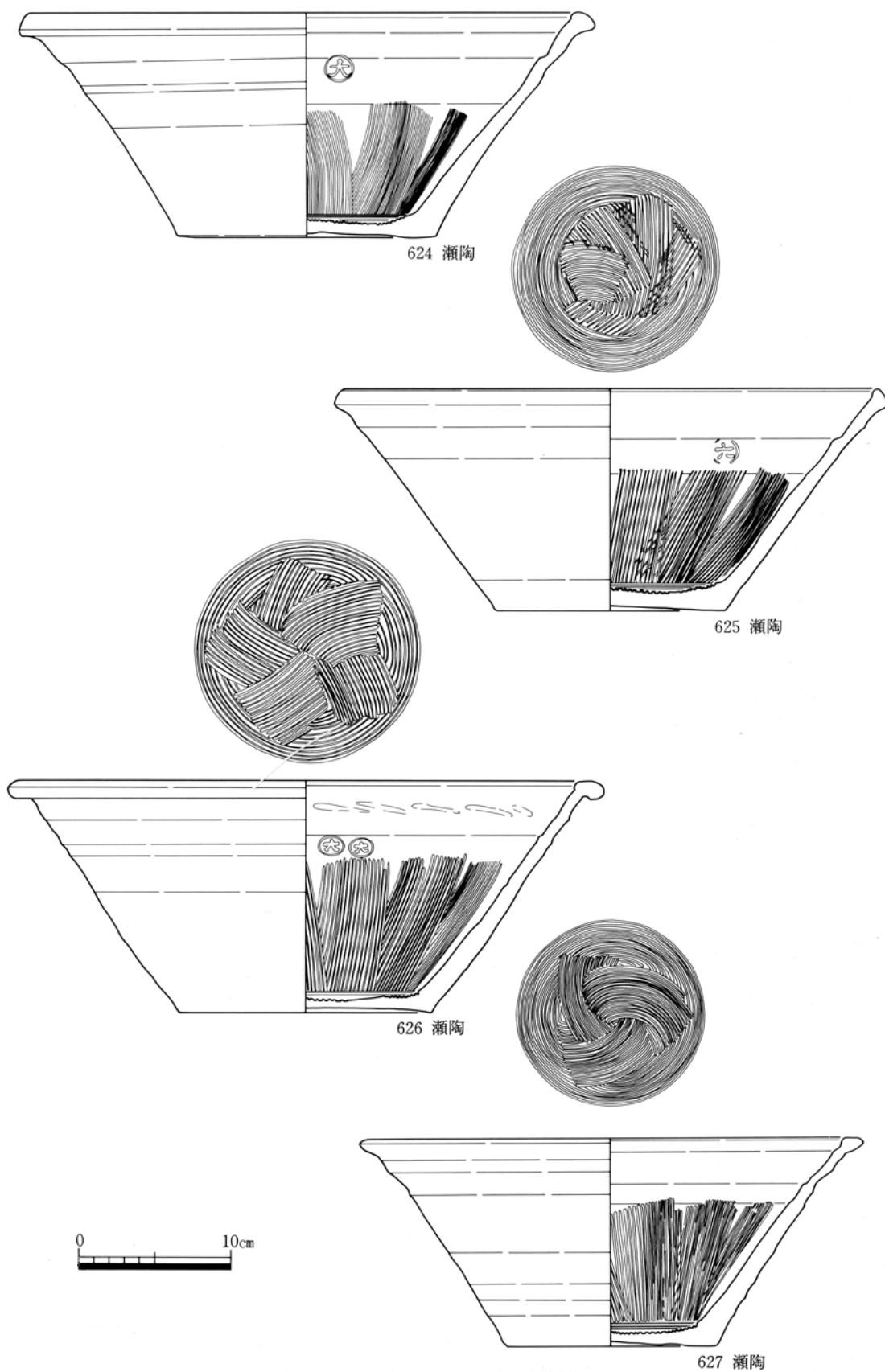
第49図 SK6691 遺物実測図 (6)



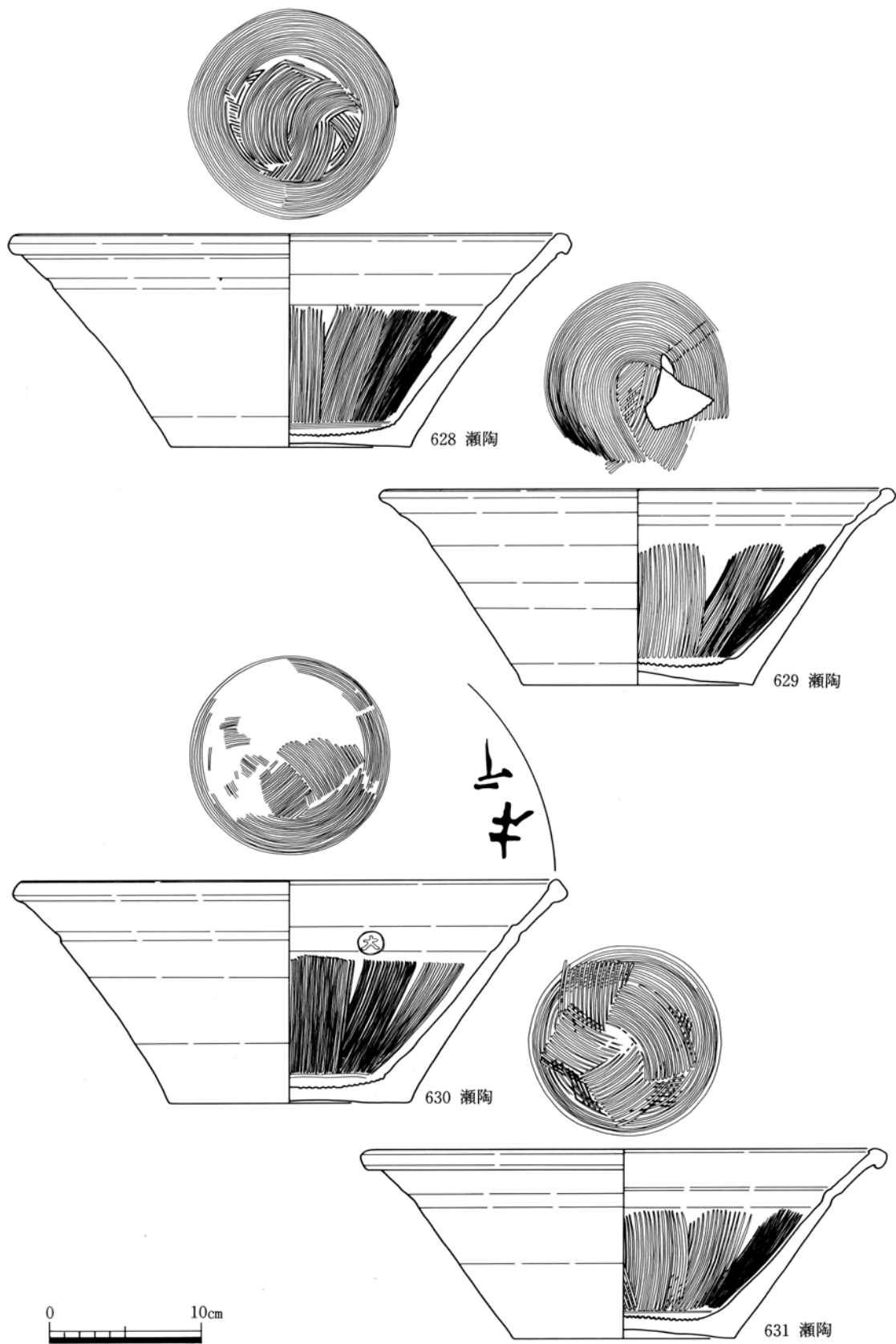
第50図 SK6691 遺物実測図 (7)



第51図 SK6691 遺物実測図 (8)

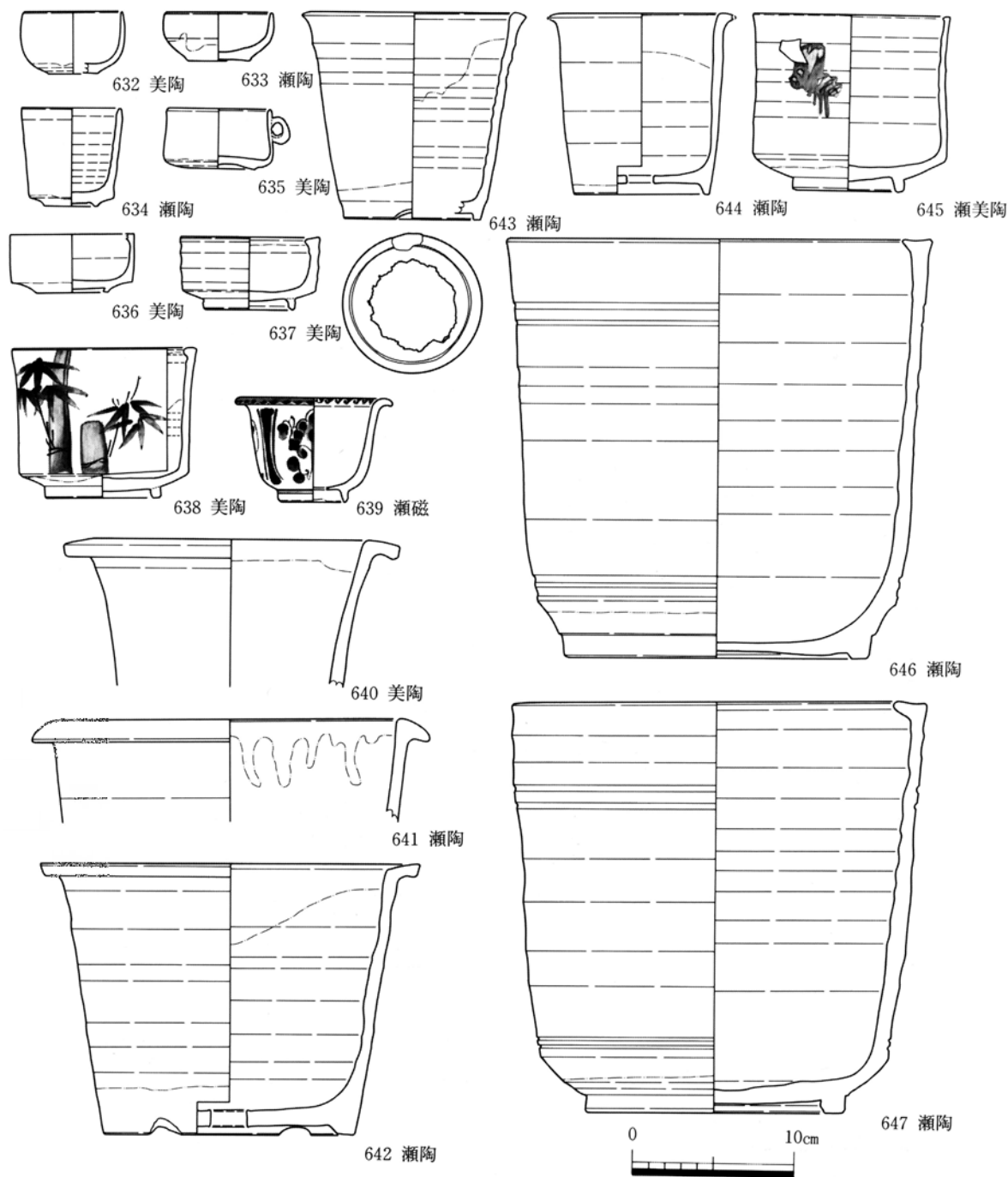


第52図 SK6691 遺物実測図(9)



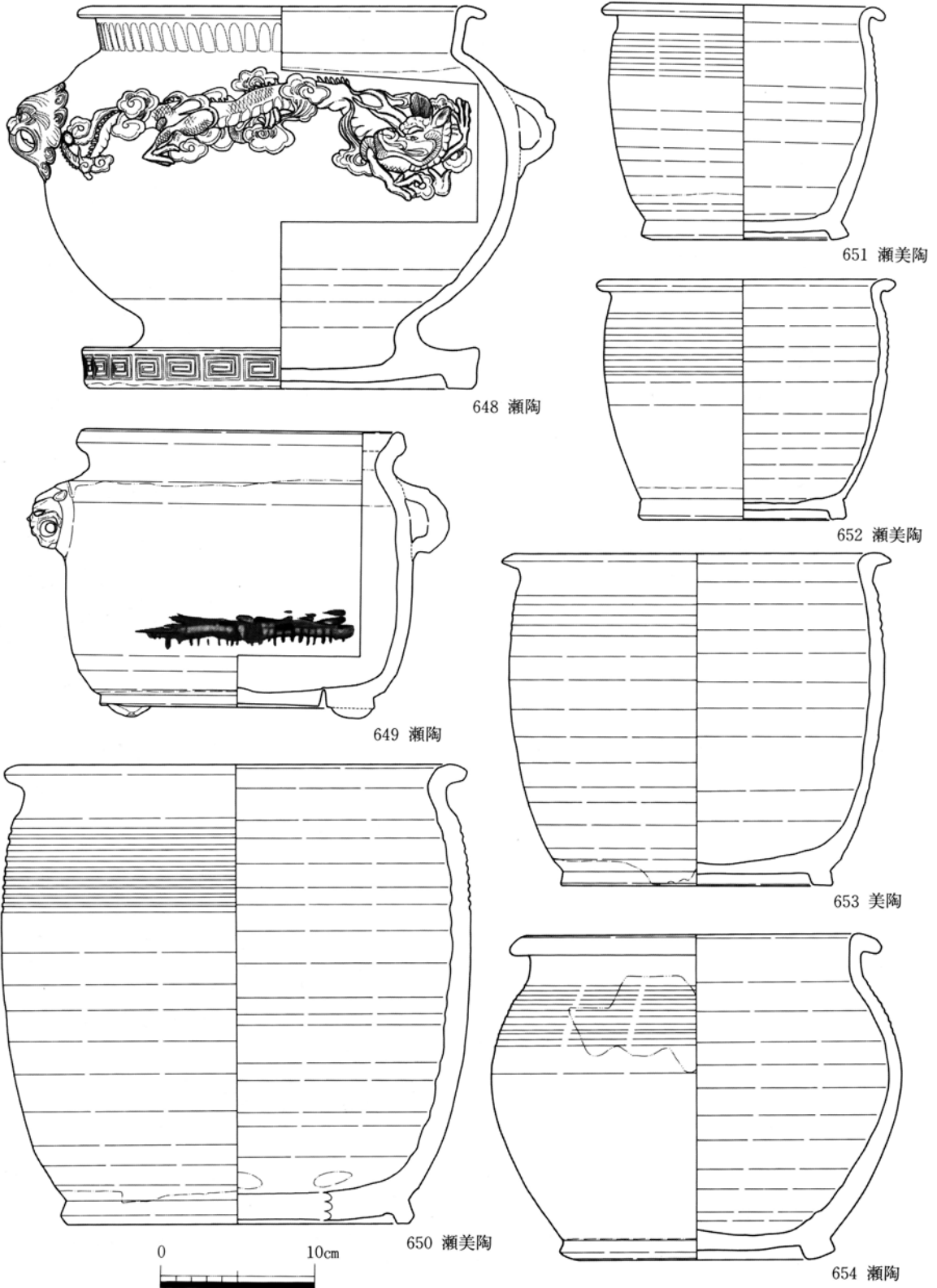
第53図 SK6691 遺物実測図 (10)

蓋は瀬戸窯産陶器蓋・美濃窯産陶器蓋・瀬戸窯産磁器蓋・関西系窯産磁器蓋・肥前窯産磁器蓋の他、産地が特定できないもの等も存在する。蓋は形態から7類に分類できる。Ⅰ類(562~564)は摘みと返しの無い偏平な形状のもので、美濃窯産陶器のみが存在する。Ⅱ類(565~573・576・577)は落し蓋で摘みを持ち折返しがあるもので、瀬戸・美濃窯産陶器の他に黒褐色の胎土を持つもの(571~573)が存在する。Ⅲ類(580)は偏平蓋で返りのない産地不明磁器蓋である。Ⅳ類(574・579・581~593)は偏平蓋で突起状の摘みを持ち返りのあるもので陶器が多く認められる。Ⅴ類(578)は摘みが紐状

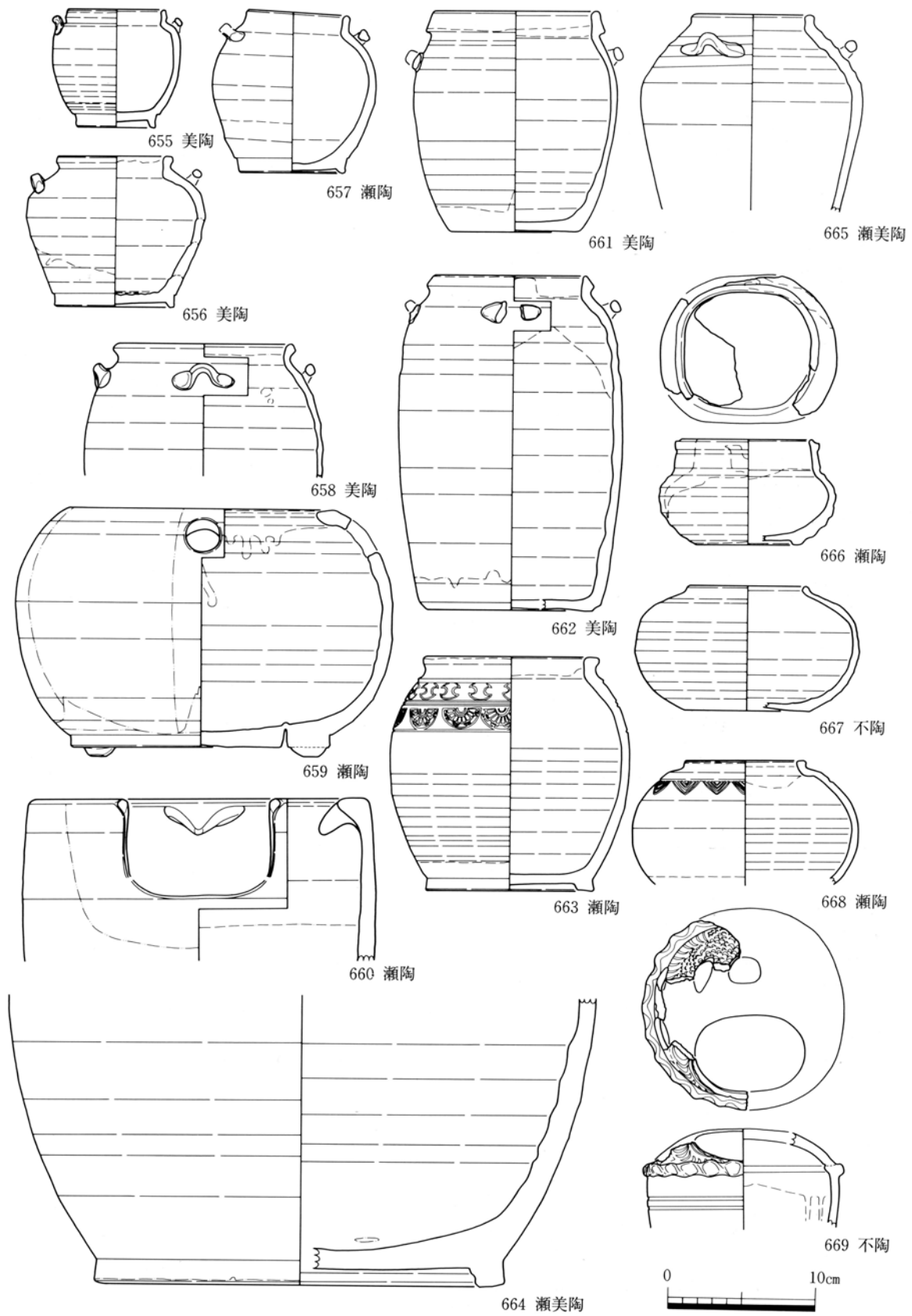


第54図 SK6691 遺物実測図(11)

で返りを持つ関西系磁器蓋である。Ⅵ類（594～607）は環状の摘みを持ち返しの無いもので、瀬戸・美濃窯産陶器は少なく、磁器製品が多い。Ⅶ類（575）は摘みと返しが無い山形の産地不明陶器蓋である。

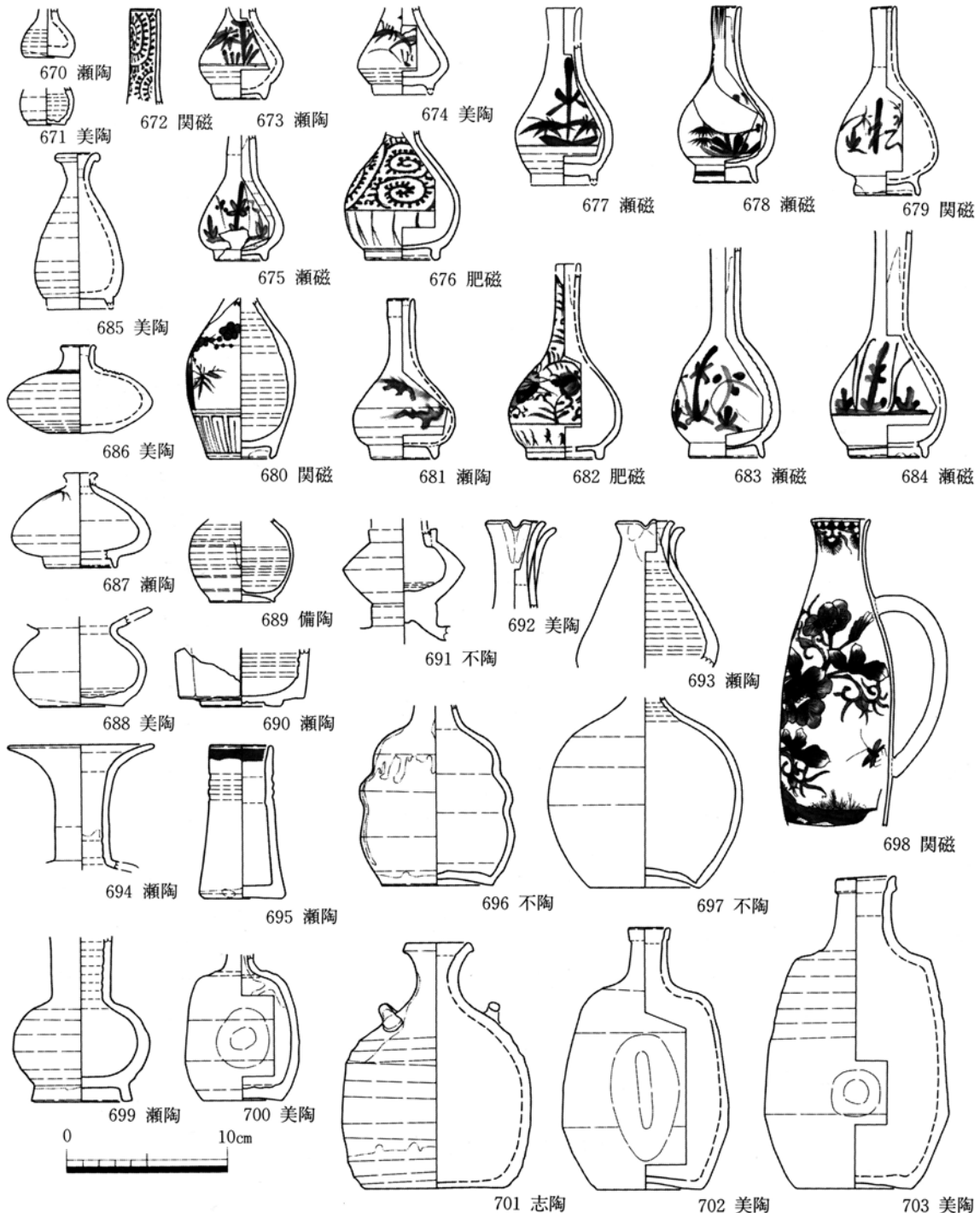


第55図 SK6691 遺物実測図 (12)

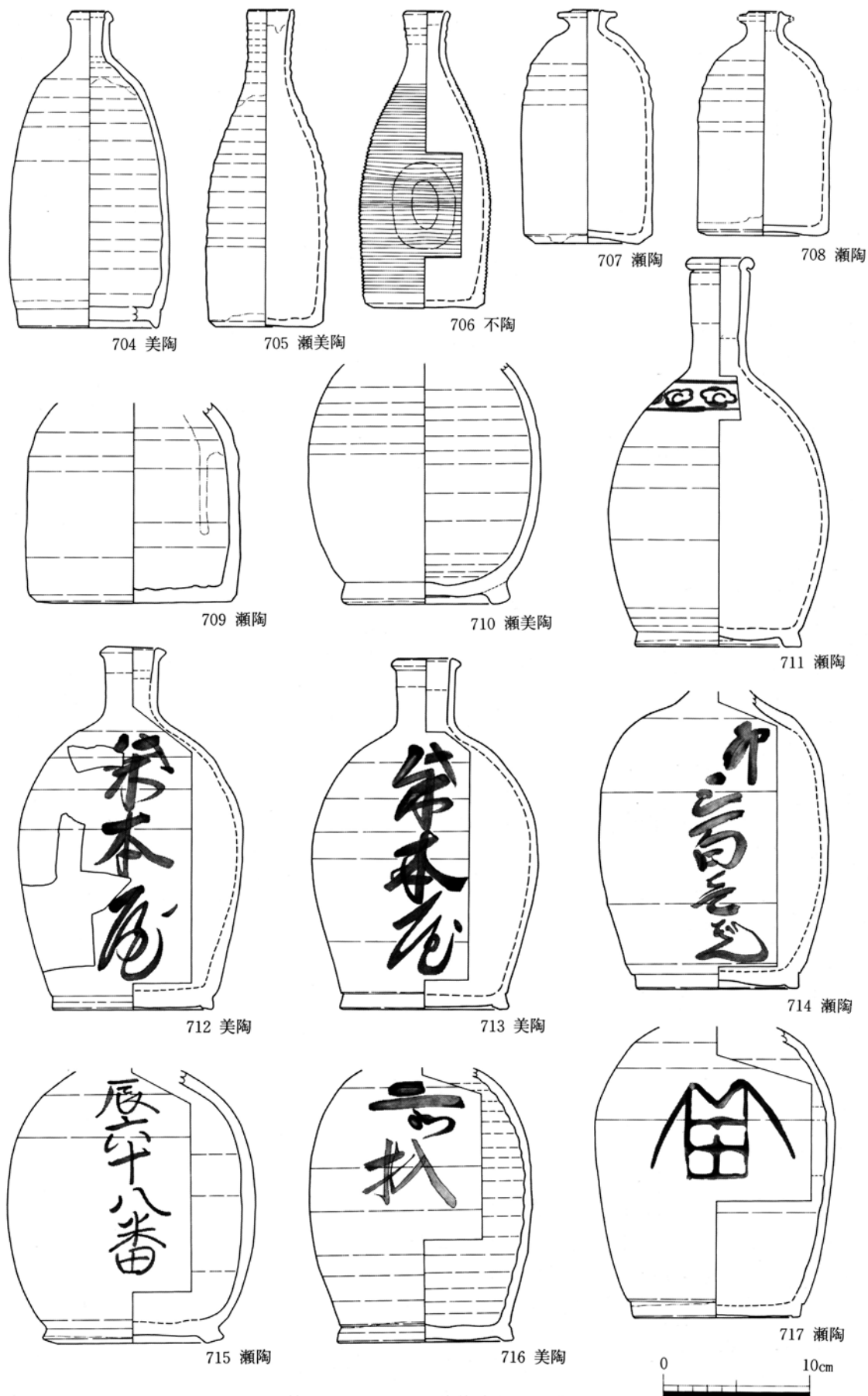


第56図 SK6691 遺物実測図 (13)

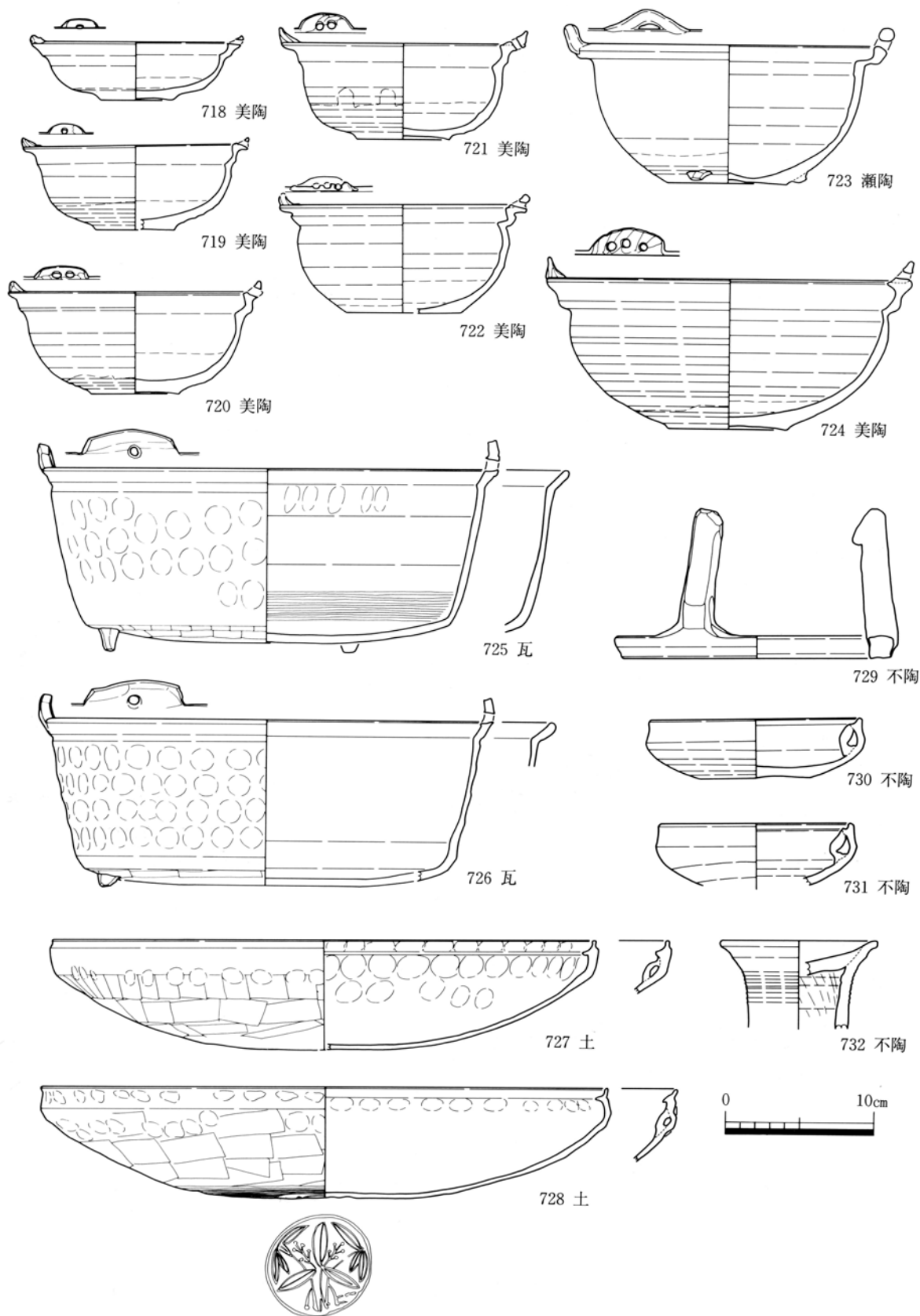
鉢は瀬戸窯産陶器丸鉢・筒形鉢・大皿・搦鉢、美濃窯産陶器丸鉢・筒形鉢・大皿、瀬戸窯産磁器丸鉢等の他、産地が特定し得ないものもいくつか認められる。611は黄白色の胎土に黒褐色粘土を塗布し透明釉を掛けたもので、体部外面の黒褐色粘土を一部掻き落として文様としている。618は黒褐色の胎土を持つ丸鉢で、内面に白土を塗布し透明釉を掛けている。見込み部分は白土を掻き落としており、内面全体に呉須絵と鉄絵で梅樹紋を描いている。搦鉢は口縁部の形態から8類に属するもの(624~631)で、藤澤編年の第10・11小期に位置づけられる。体部内面に「丸大」のスタンプが押印されているもの(624・625・630)も存在する。643は植木鉢で、底部が焼成後に更に大きく穿孔されている。



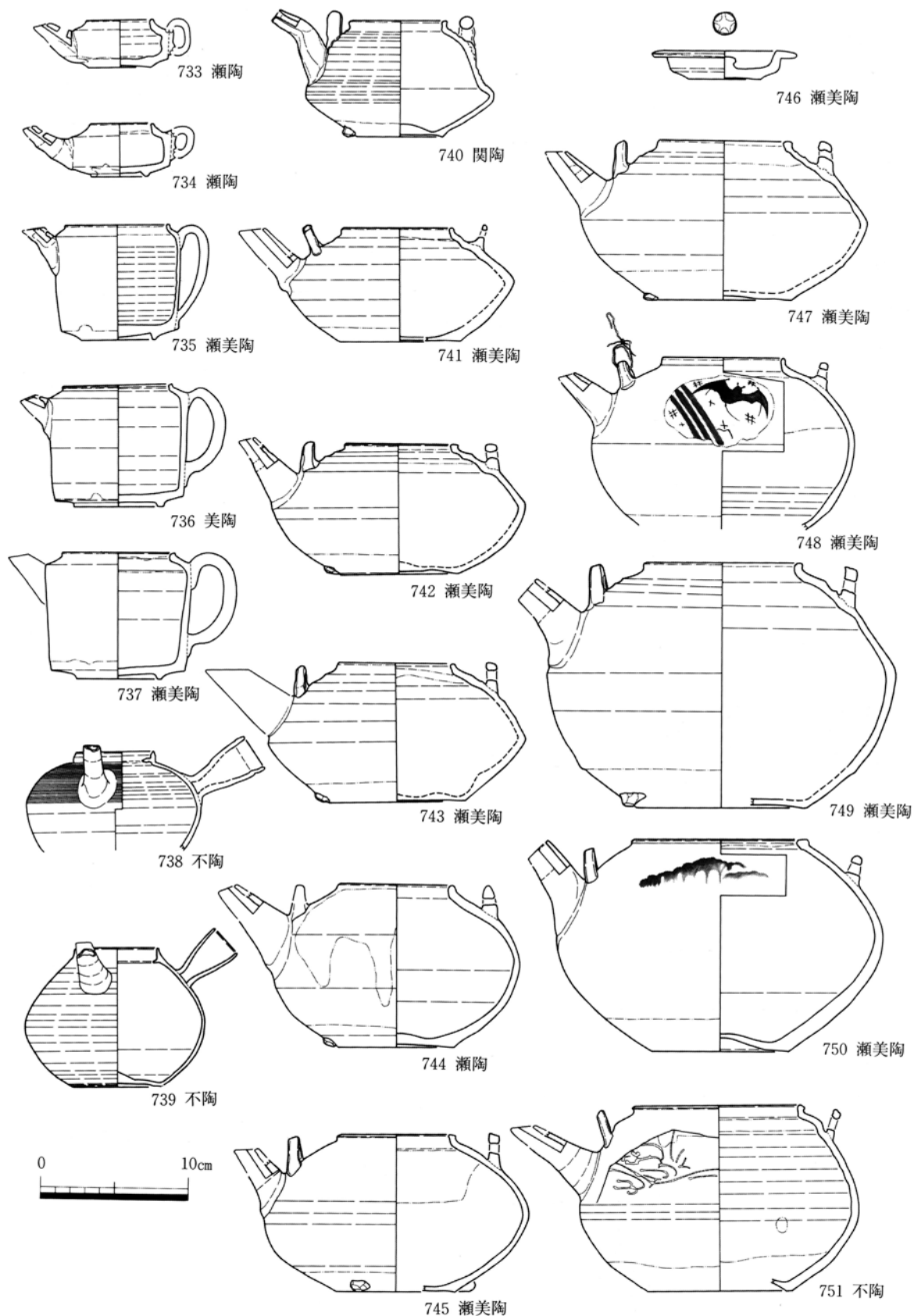
第57図 SK6691 遺物実測図 (14)



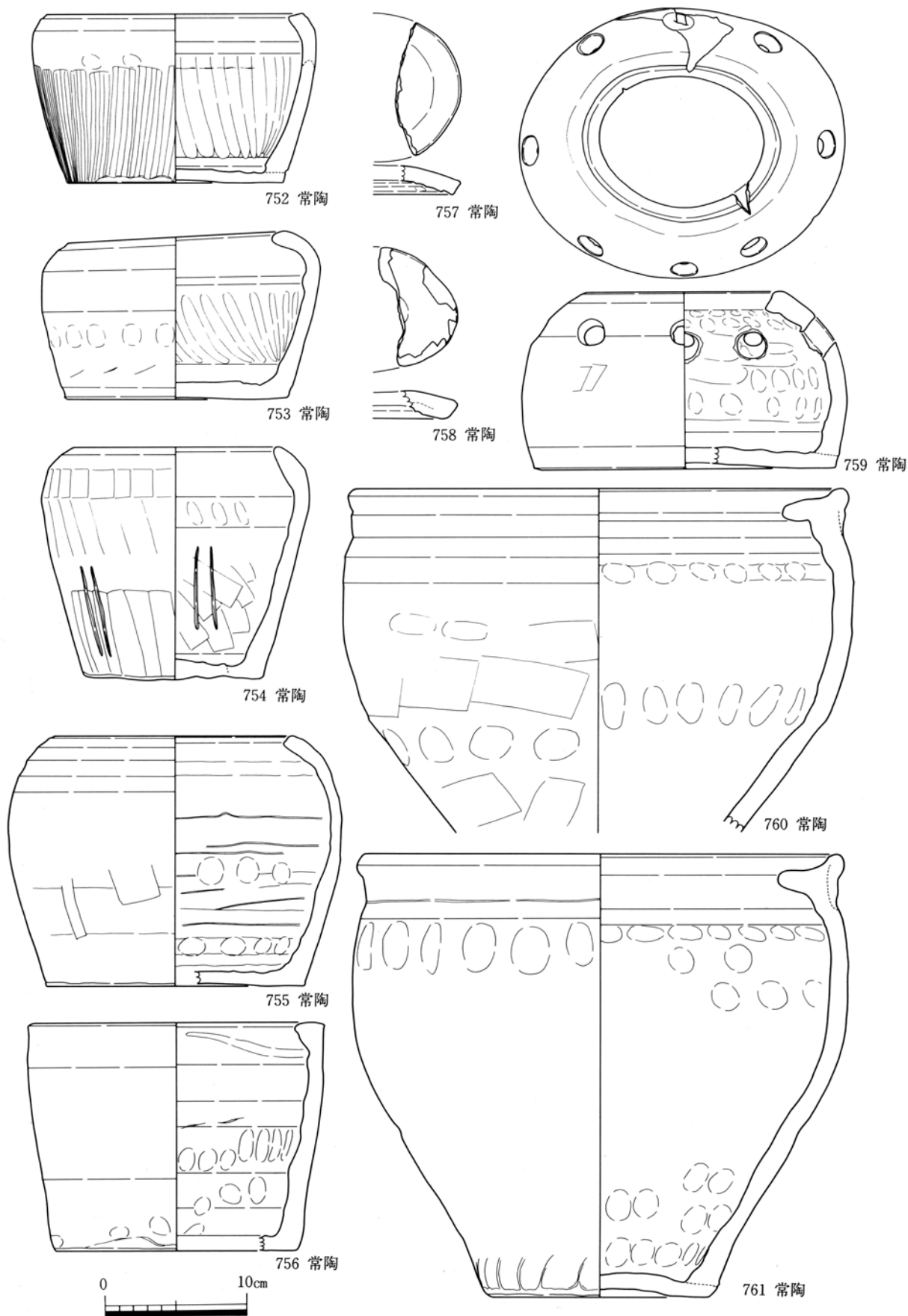
第58図 SK6691 遺物実測図 (15)



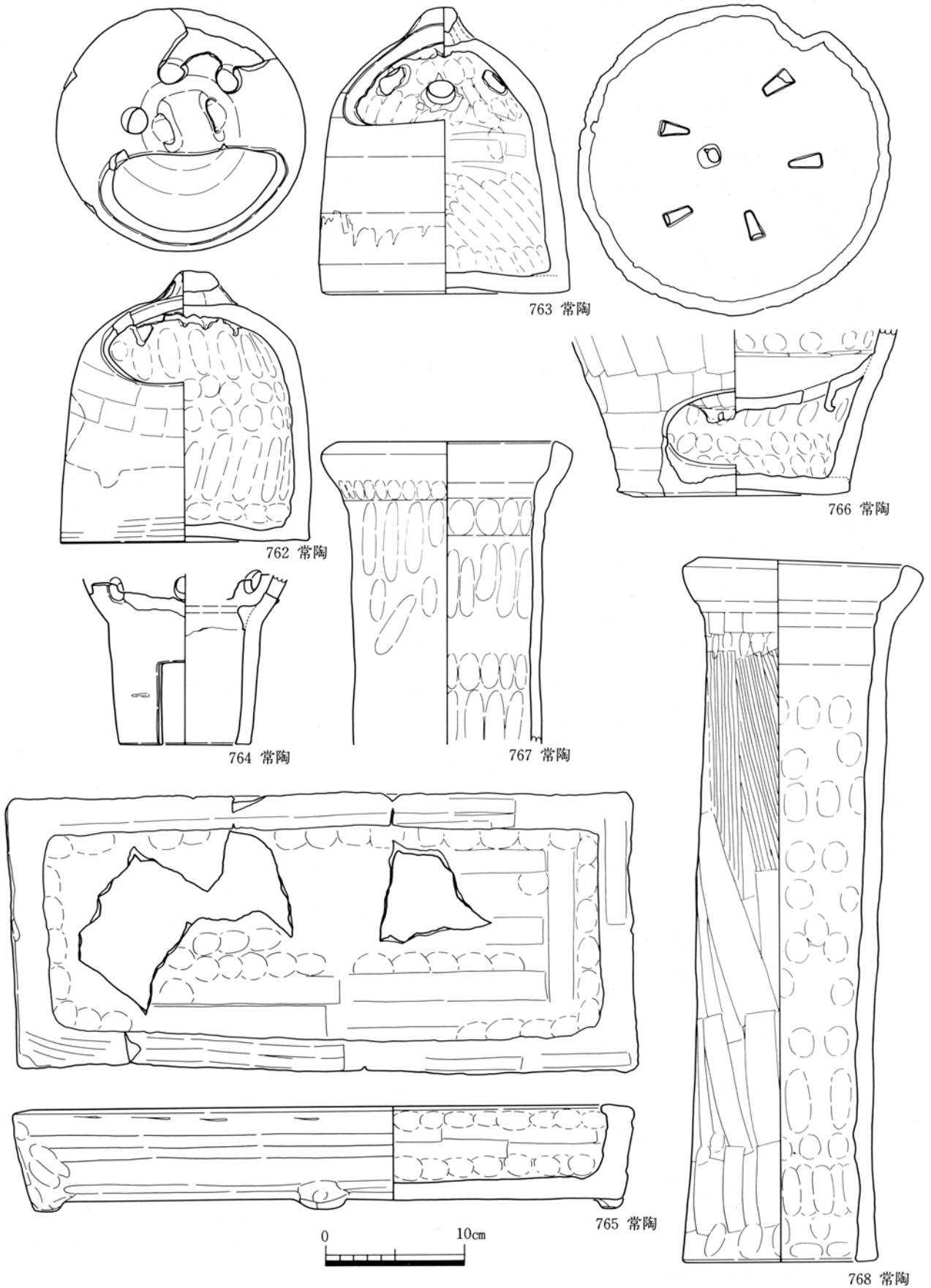
第59図 SK6691 遺物実測図 (16)



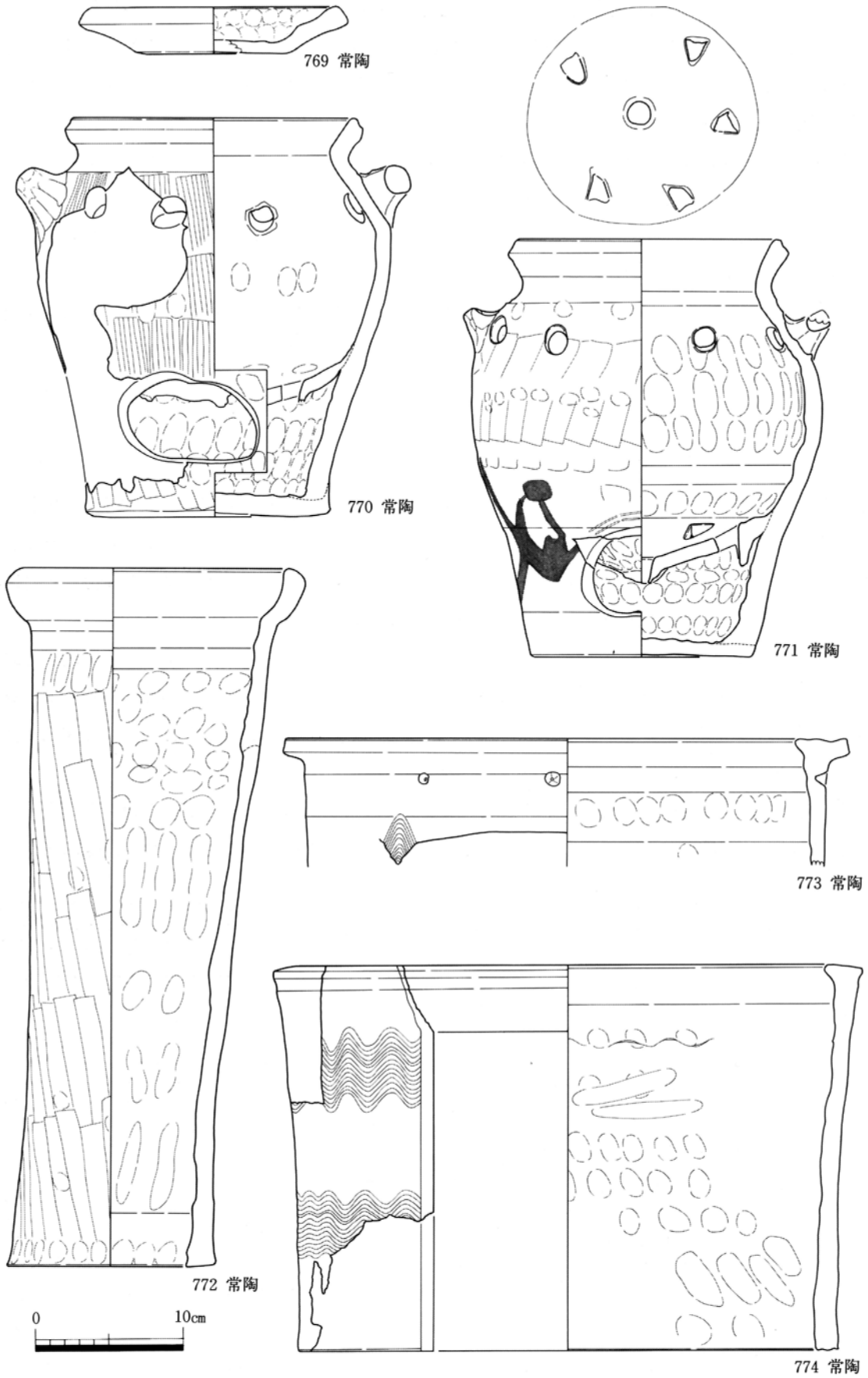
第60図 SK6691 遺物実測図 (17)



第61図 SK6691 遺物実測図 (18)



第62図 SK6691 遺物実測図 (19)



第63図 SK6691 遺物実測図 (20)

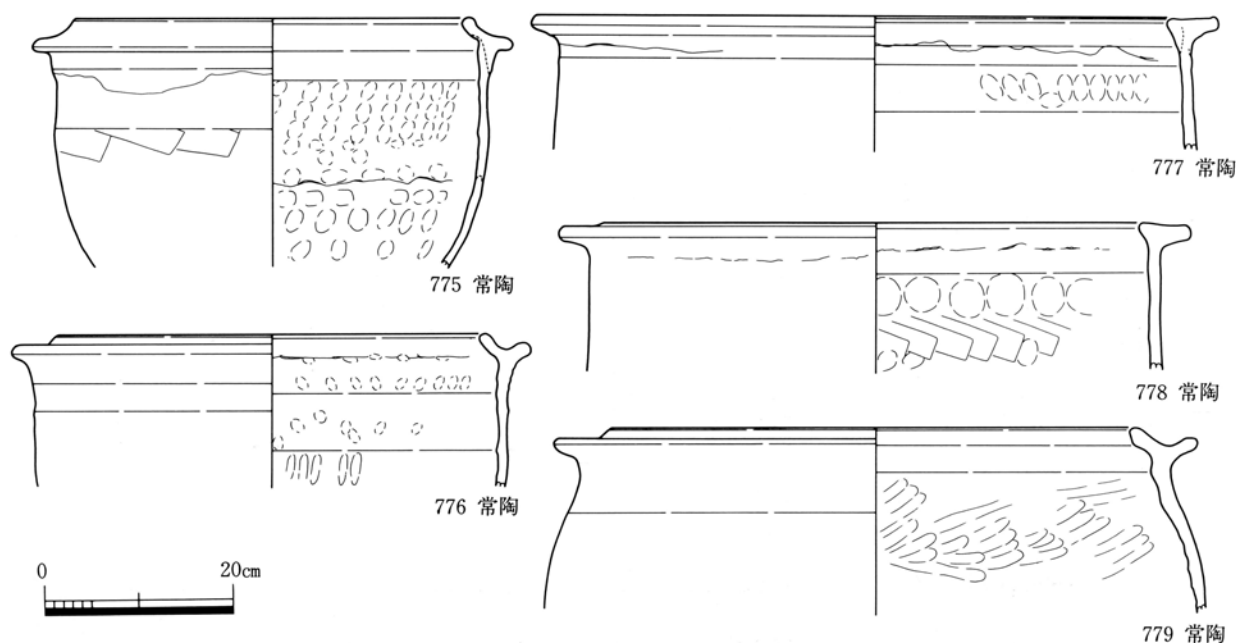
壺は美濃窯産陶器、瀬戸窯産陶器等があり、器種も双耳壺、三耳壺、短頸壺等と多様である。667は無釉短頸壺で底部が回転ヘラケズリされた産地不明陶器、669は灰釉を施した手焙り形製品である。

瓶は美濃窯産陶器瓶・瀬戸窯産陶器瓶・瀬戸窯産磁器瓶・関西系窯産磁器瓶・肥前窯産磁器瓶等多様な産地の製品があり、形状から10類に分類できる。Ⅰ類は鶴首形で高台を持つ小型徳利(672~679・681~684)、Ⅱ類は口縁部が外反し高台を持つ小型徳利(685)、Ⅲ類はⅠ・Ⅱ類より更に小形の瓶(670・671)、Ⅳ類は体部が算盤玉形の油壺(686・687)、Ⅴ類は口縁部がラッパ状に開く唾壺(688)である。Ⅵ類は丸い胴部を持つ平底の徳利で、双耳の付くもの(701)と付かないもの(696・697・709)がある。Ⅶ類は口縁部が直線的に延びる平底の徳利で、片口を持つもの(692・693・698)と持たないもの(705・706)がある。Ⅷ類は口縁部を折り返して縁帯を持つ平底の徳利で、体部が凹むもの(700・702・703)と凹まないもの(704)がある。Ⅸ類は口縁部が横に広がる平底の徳利(707・708)である。Ⅹ類は高台を持つ大形徳利(710~717)で、このうち712~717は呉須で①地名(清洲宿・二ツ杖等)、②店名(柴本屋・山田等)、③番号(卯三百壱ばん・辰六十八番等)が記されている。

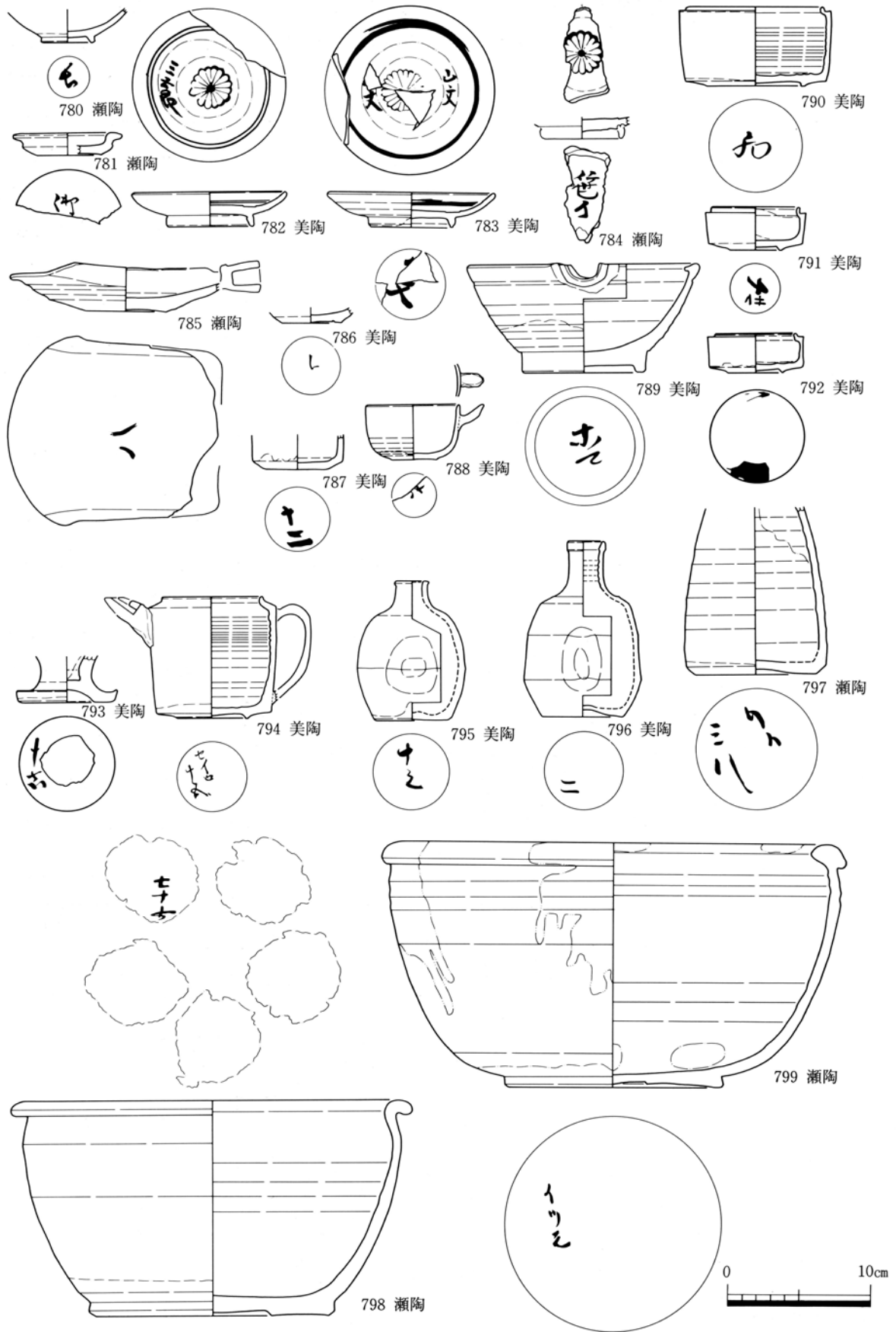
鍋は美濃窯産陶器双耳鍋(718~722・724)・瀬戸窯産陶器双耳鍋(723)・瓦器双耳鍋(725・726)・土師器炮烙鍋(727・728)等があり、釜は全く認められなかった。瓦器双耳鍋の耳は頂部が偏平となっている。728は底部に沢渦紋のスタンプが押印されており、炮烙鍋製作の際の外型に施された文様が転写されたものと推測される。730・731は産地不明陶器の小形炮烙鍋で内面には著しく黒色の付着物が存在している。732は頂部の平坦面に煤が多量に付着している。

汁次・土瓶は瀬戸・美濃窯産陶器の他に産地不明の陶器が多く存在する。738・739は暗褐色の胎土を持つ急須で産地は特定できない。土瓶は形状から3類に区分できる。Ⅰ類は体部中央が広がり算盤玉形の形状になるもの(741~747)であり、この類が最も多く認められる。Ⅱ類は球状の体部を持つもの(748~751)で大形のものが多い。Ⅲ類は体部上方が膨らむ形状(740)である。

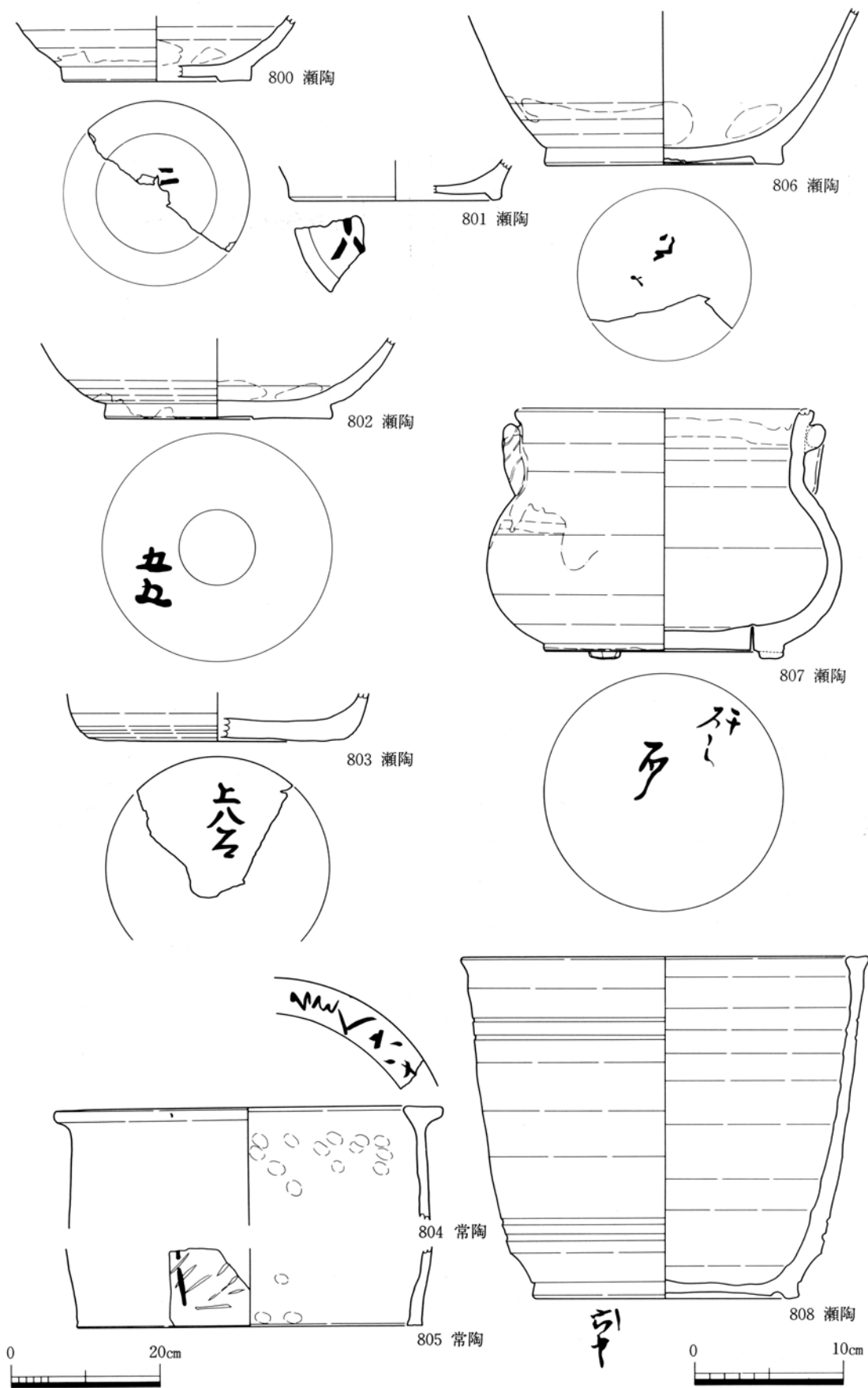
常滑窯産陶器は無頸壺、筒形鉢(756)、甕、火器、土管、蓋(757・758)等の器種が存在する。無頸壺は体部に多数の孔を持つもの(759)と持たないもの(752~755)に区分され、口縁端部に面を



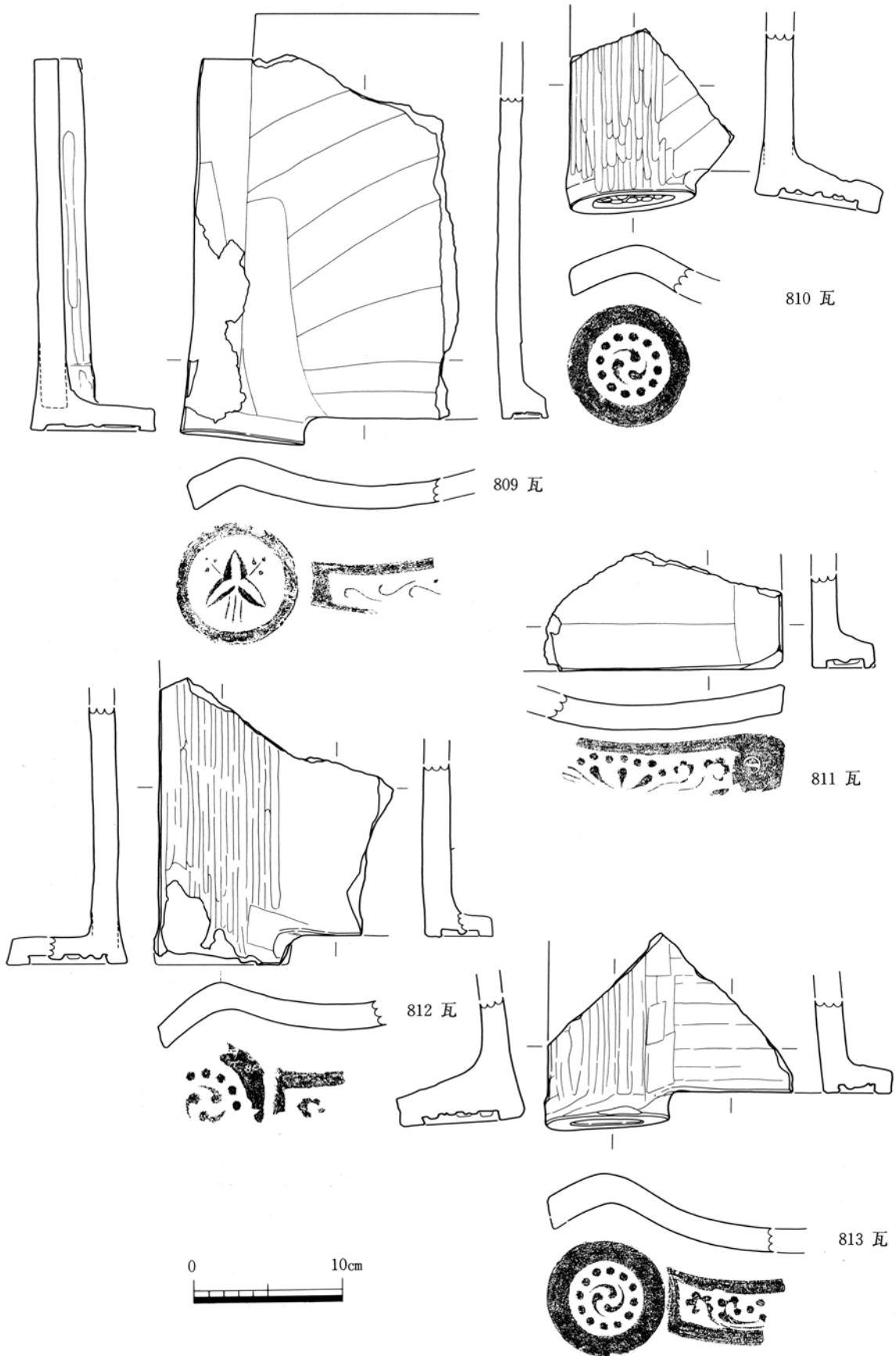
第64図 SK6691 遺物実測図 (2) (全てS = 1 : 8)



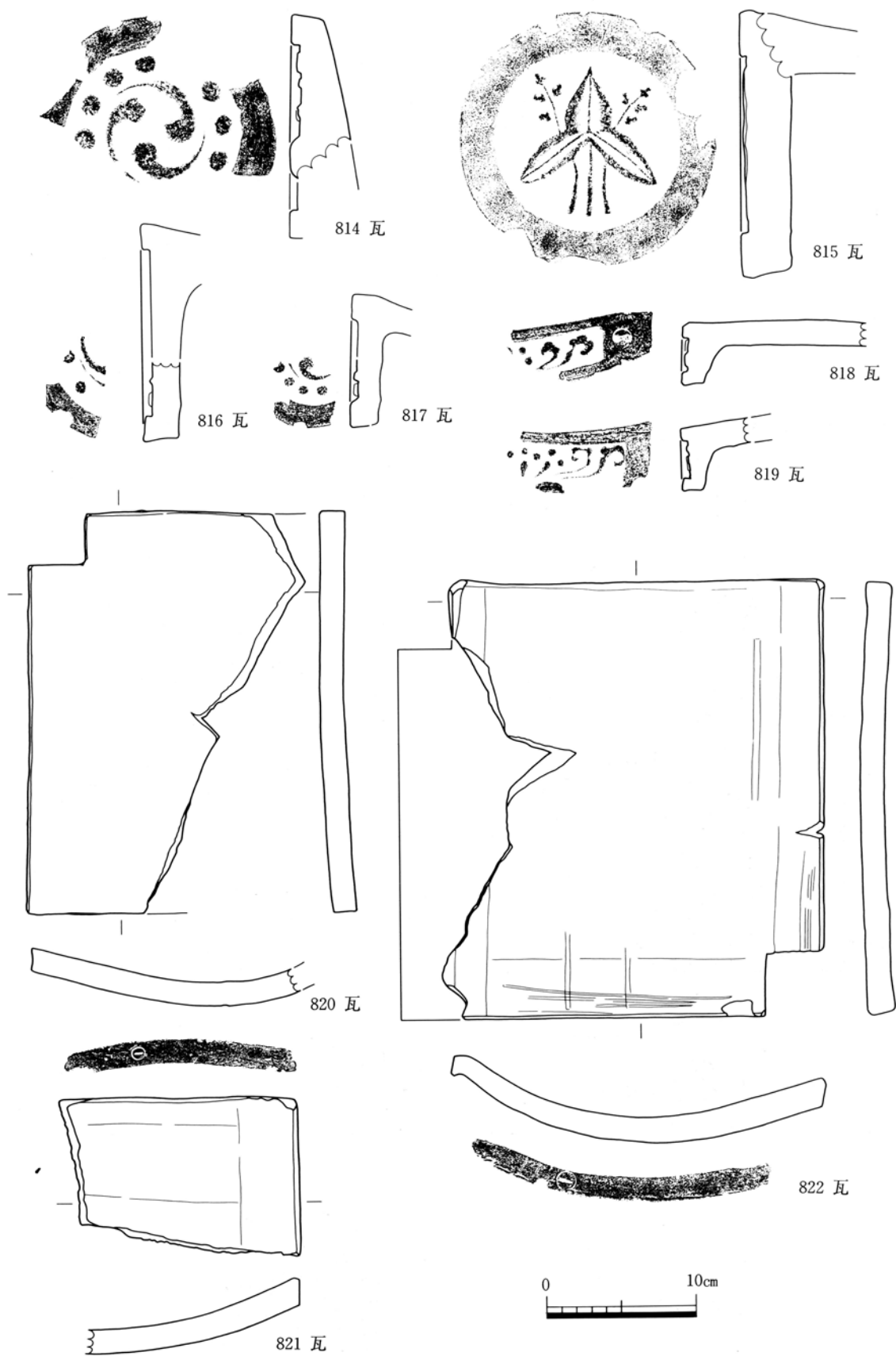
第65図 SK6691 遺物実測図 (2)



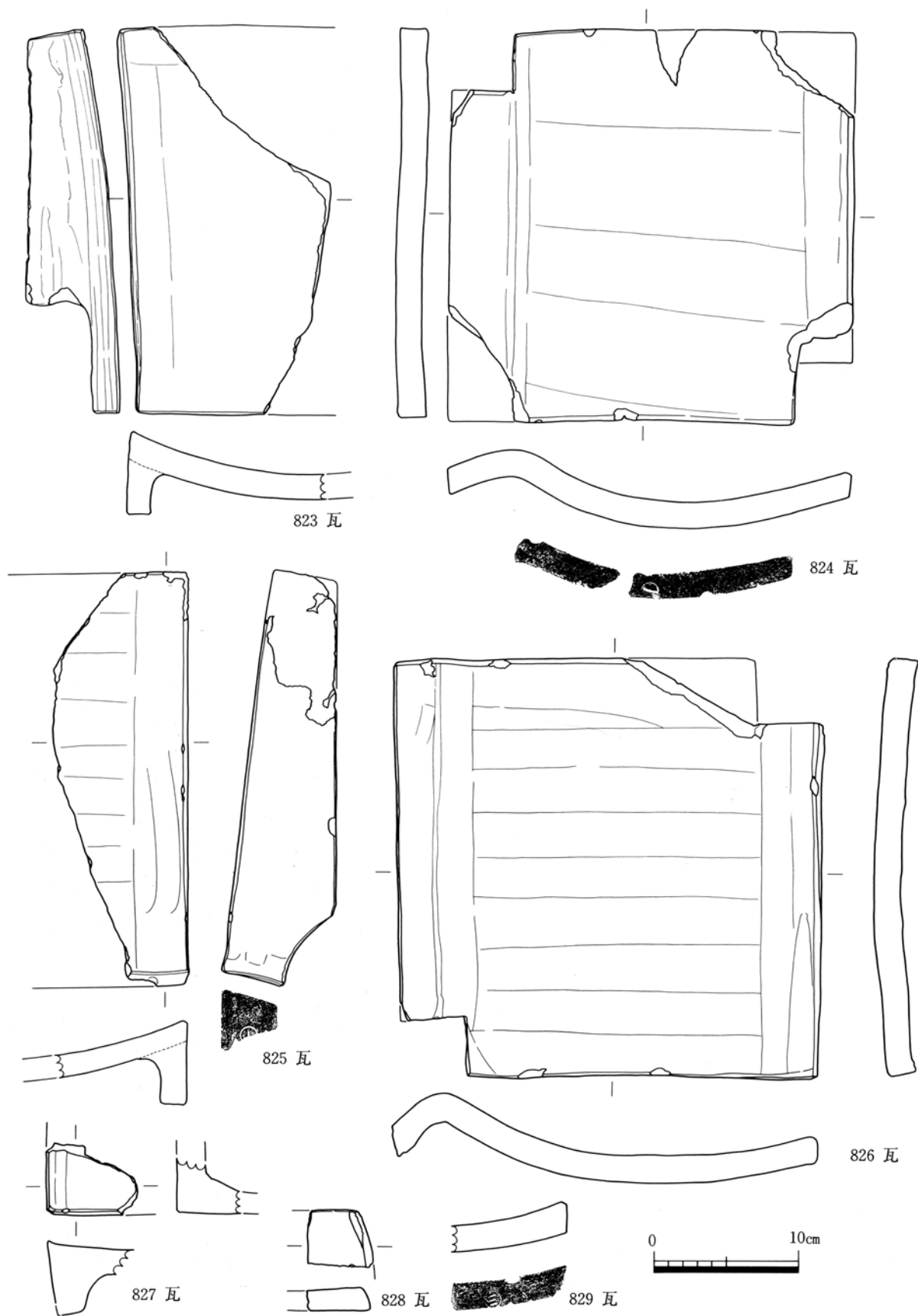
第66図 SK6691 遺物実測図 (23) (804・805は S = 1 : 8)



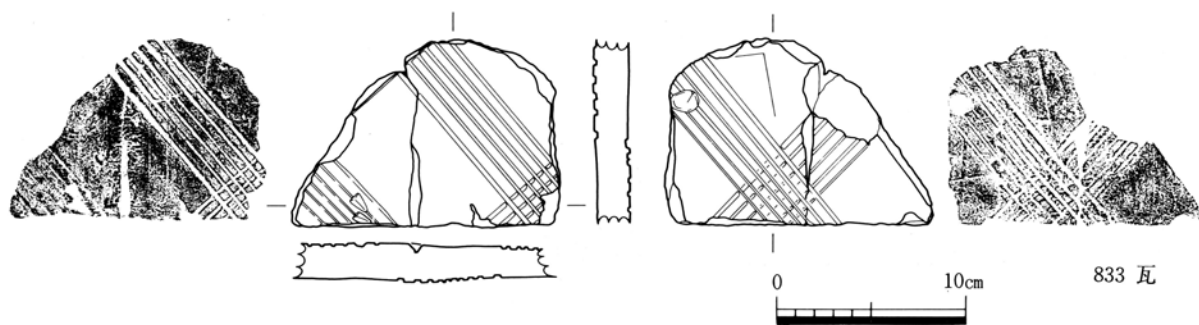
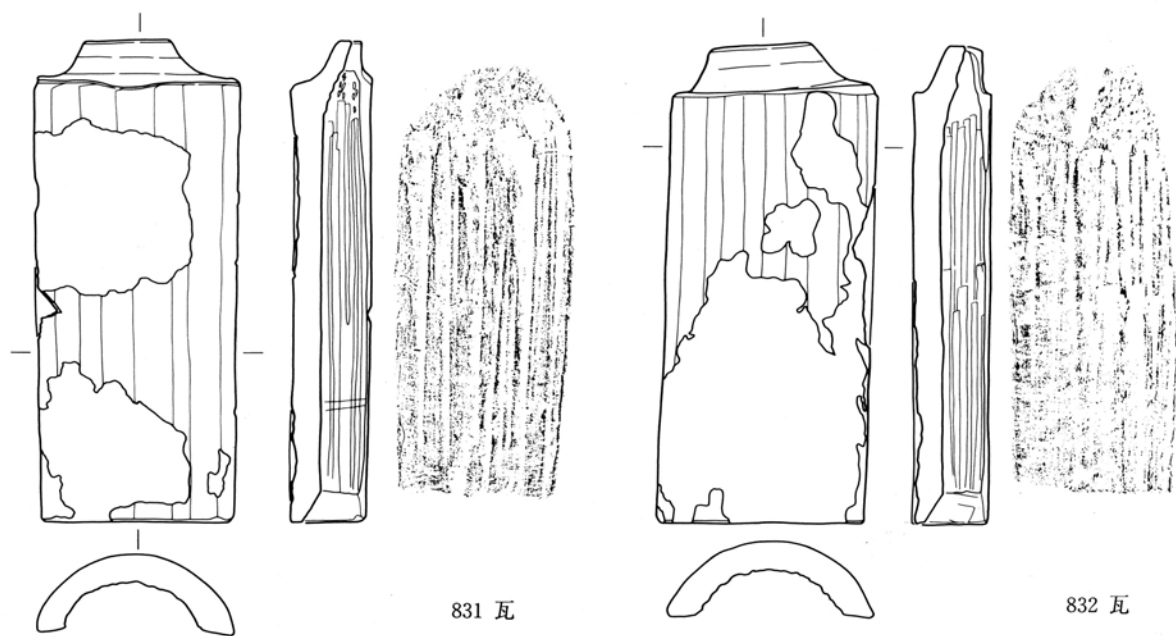
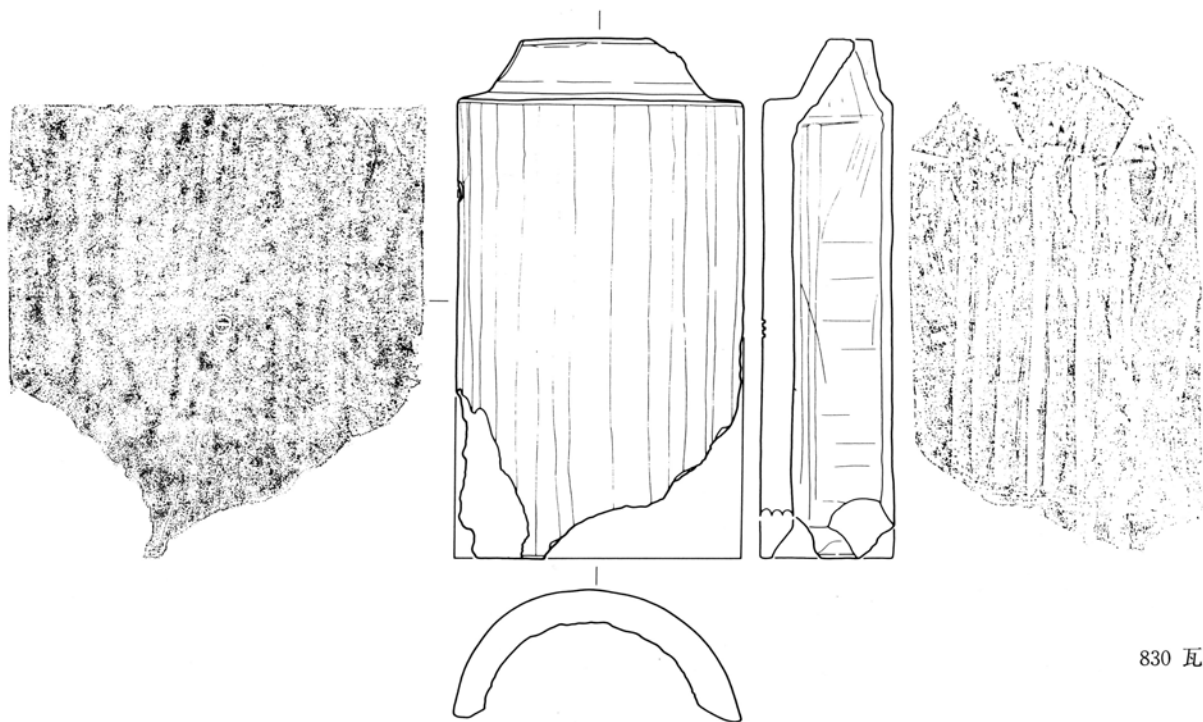
第67図 SK6691 遺物実測図 (24)



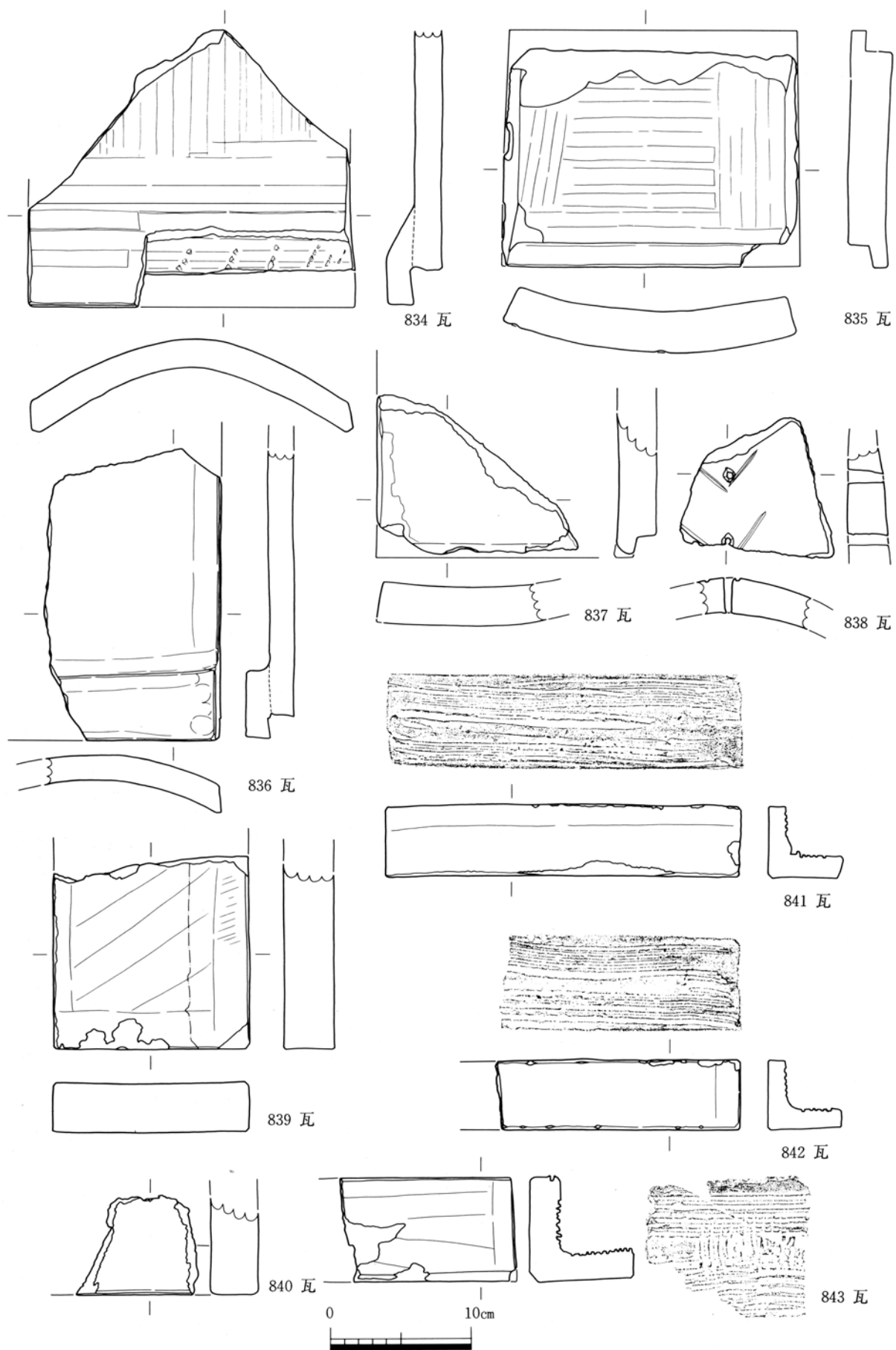
第68図 SK6691 遺物実測図 (25)



第69図 SK6691 遺物実測図 (26)

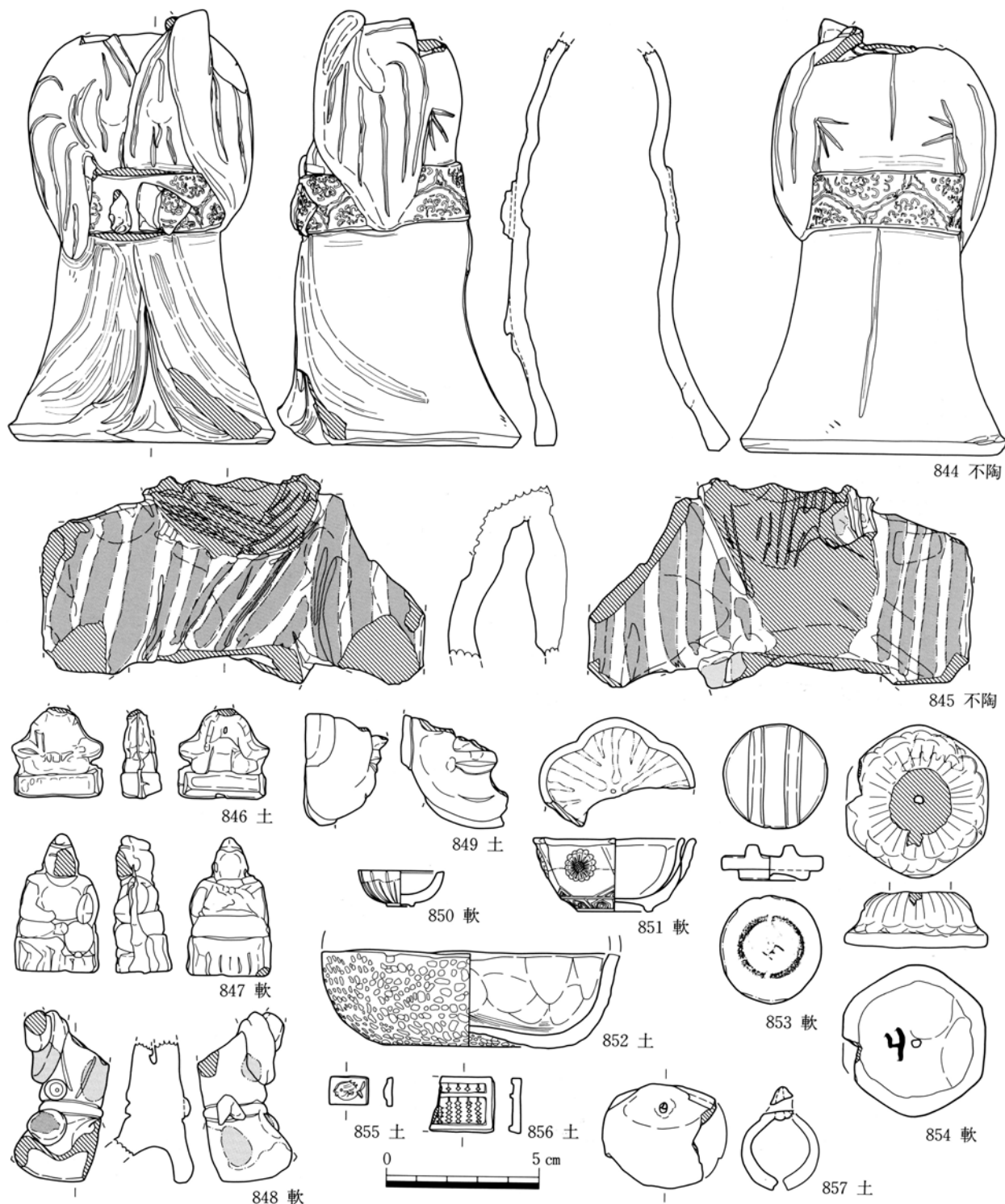


第70図 SK6691 遺物実測図 (27)

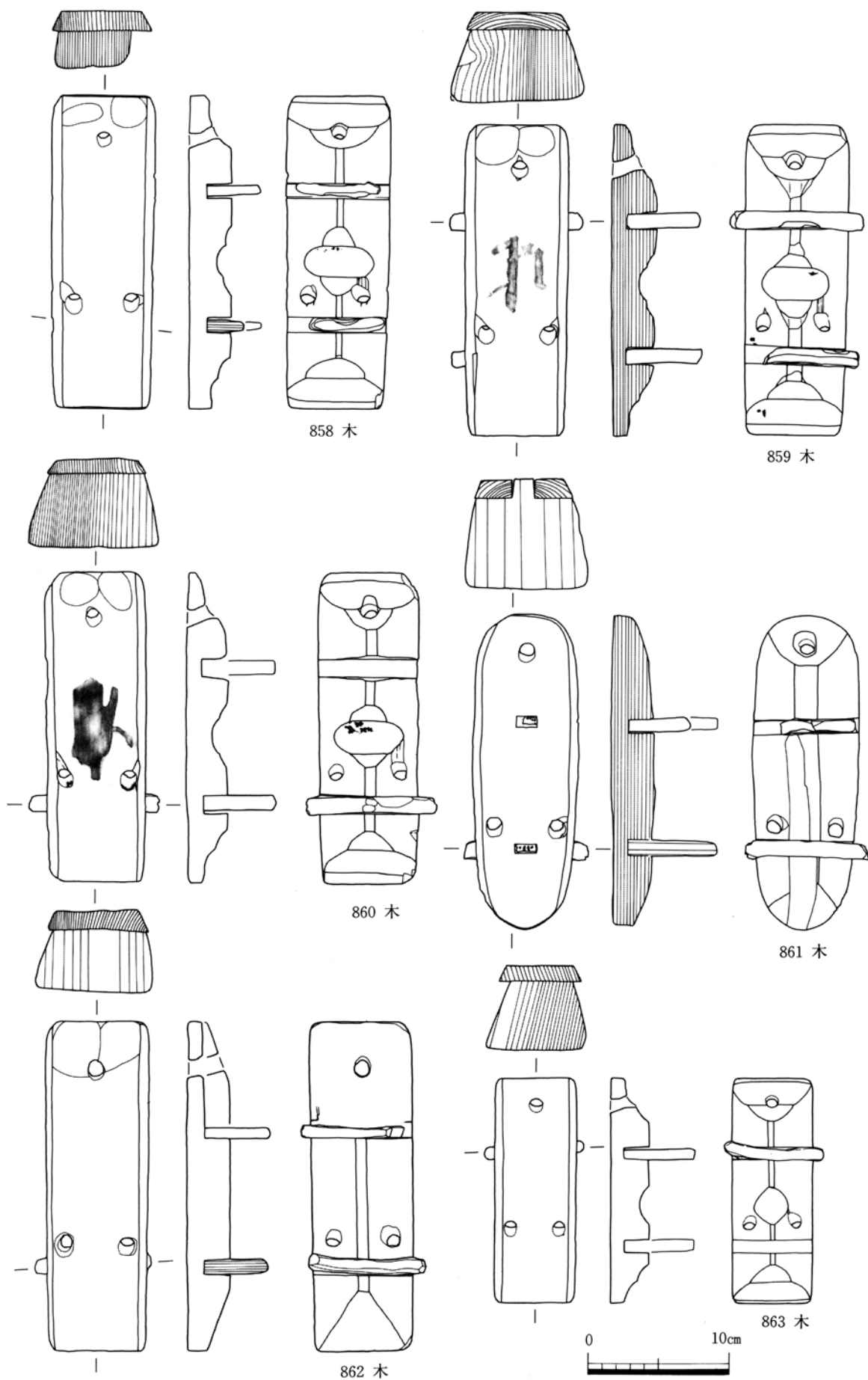


第71図 SK6691 遺物実測図 (28)

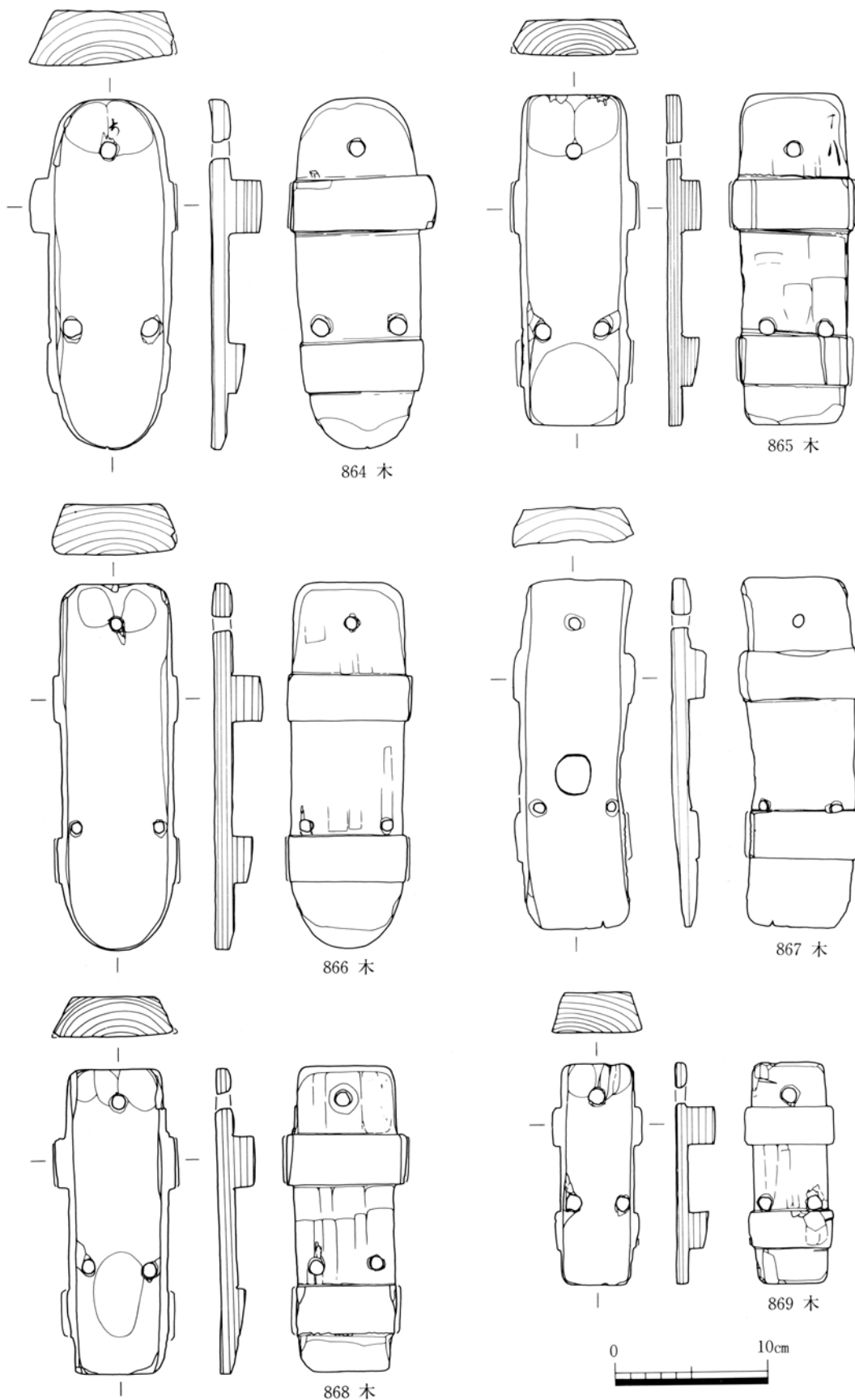
持つもの (752・755・759) と持たないもの (753・754) にも区分できる。甕は小形甕 (760・761) と大形甕 (775~779) が存在する。前者は内側の突帯が内傾した口縁部を持ち、後者はY字またはT字状の口縁部となっている。火器は5類に区分できる。Ⅰ類はドーム状の体部に窓が1個存在し、孔3個と吊り手1個が付属するもの (762・763) である。Ⅱ類は壺形の体部に中底を持ち、体部下半部には窓が、体部上方には多数の孔が穿たれ、吊り手が2個存在するもの (766・770・771) である。



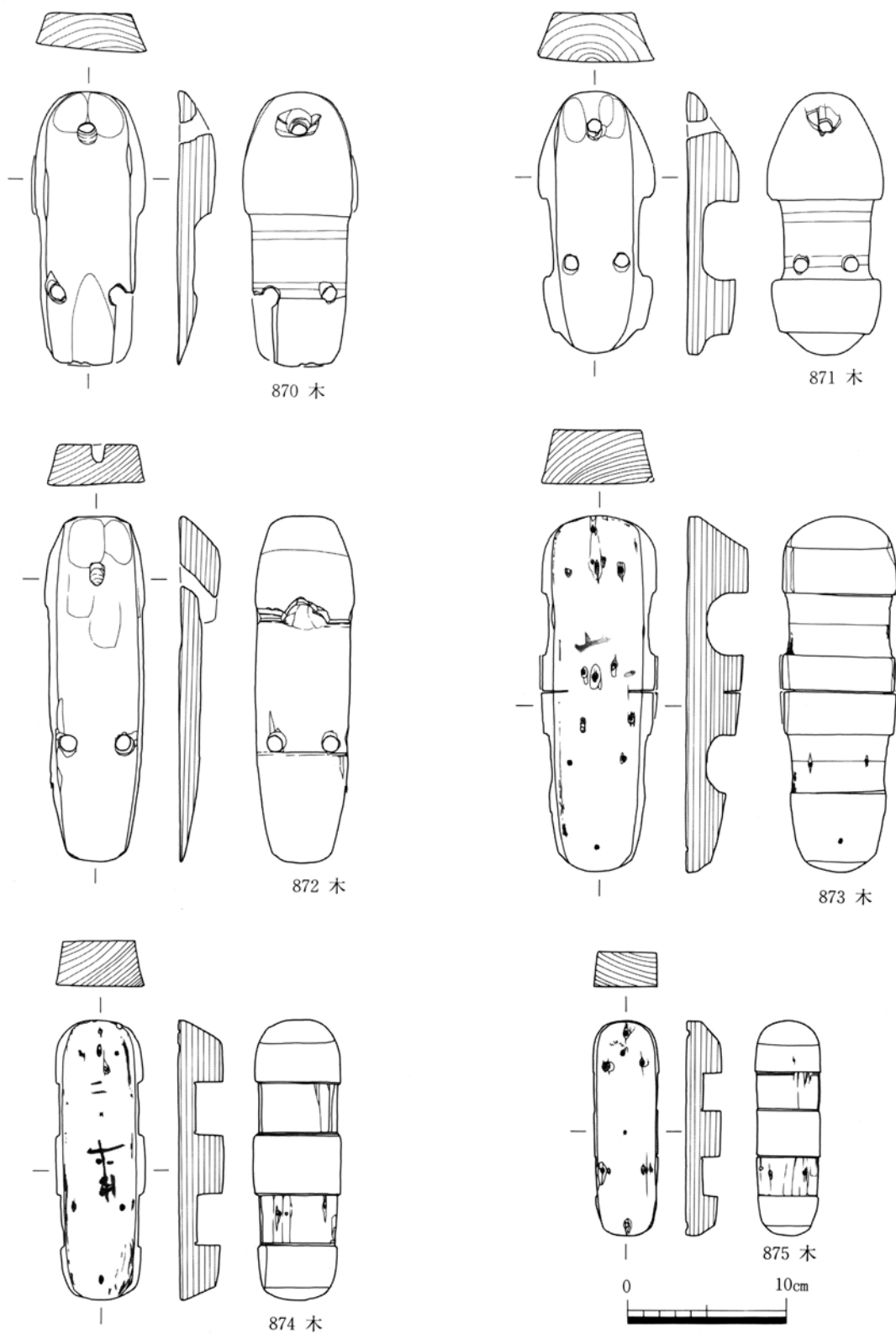
第72図 SK6691 遺物実測図 (29)



第73図 SK6691 遺物実測図 (30)



第74図 SK6691 遺物実測図 (31)



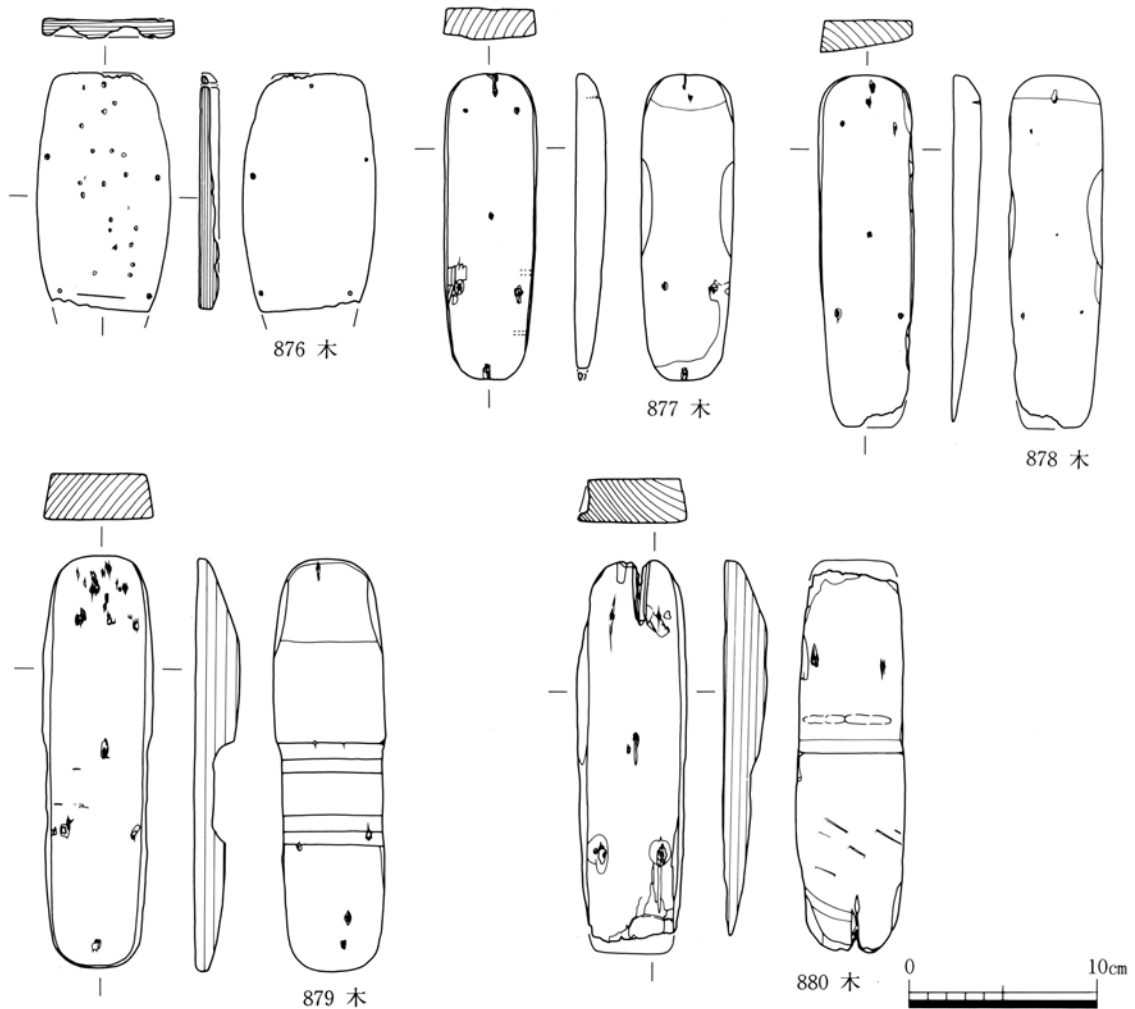
第75図 SK6691 遺物実測図 (32)

いわゆる「蚊いぶし」と呼ばれる器種である。Ⅲ類は全体の形状が不明であるが、底を持たない筒状の体部が上方で開き孔を持つもの(764)、Ⅳ類は平面形が長方形の浅鉢形で口縁端部に面を持つもの(765)、Ⅴ類は底を持たない筒形の製品で長方形の窓を持つ「くど」と考えられるもの(773・774)である。土管(767・768・772)は口縁部が受け口状になっている。

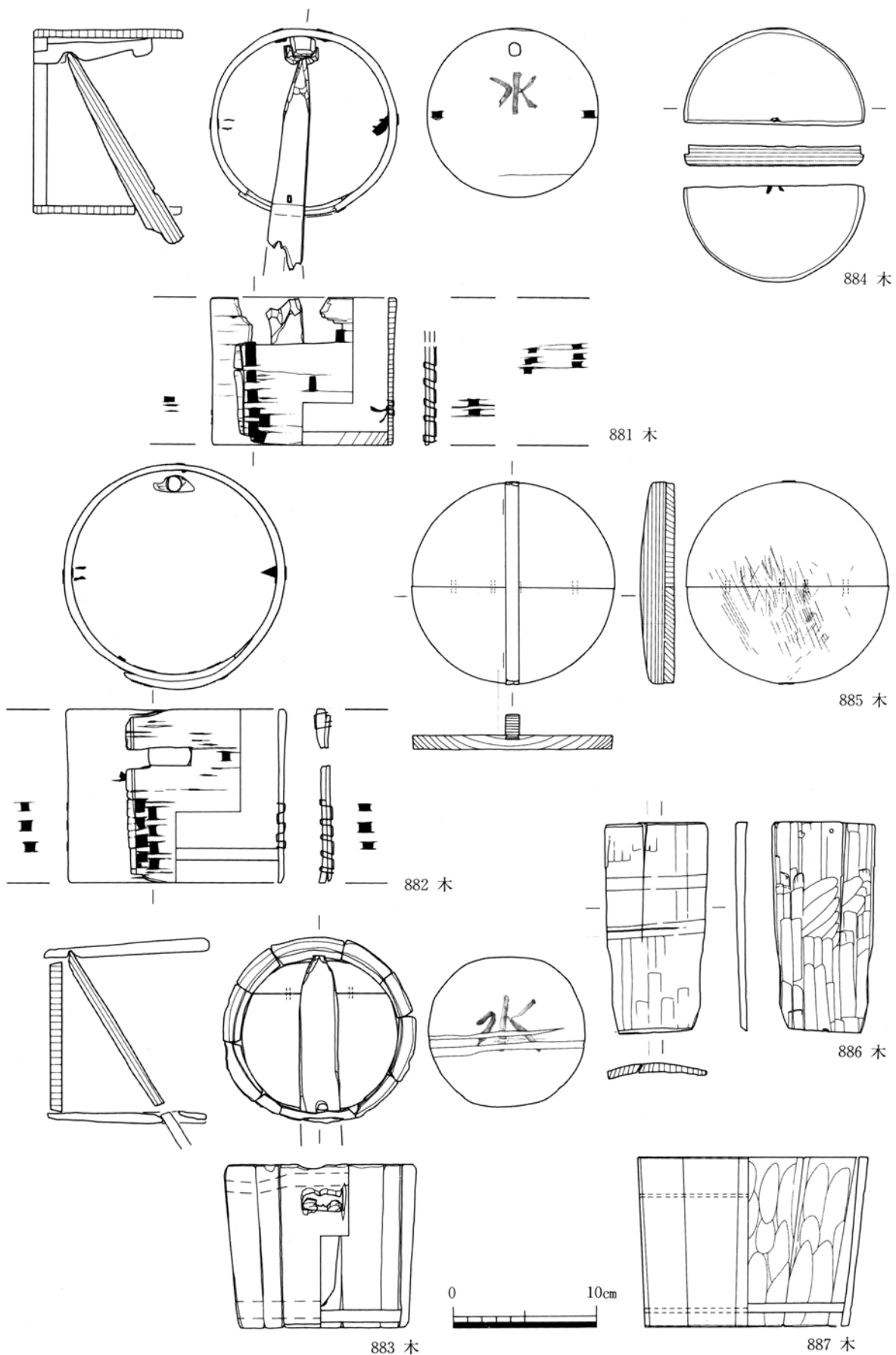
墨書が記された製品は皿類、鉢類、瓶類が多く、僅かに碗類、壺類等が認められる。墨書される部位は底部外面が多いが、底部内面(782・783・798)、体部内面(630)、体部外面(805)、口縁端部(804)に記されるものも見られる。

瓦は軒棧瓦、軒丸瓦、平瓦、丸瓦、棧瓦、道具瓦等が存在する。軒棧瓦は瓦当紋から2類に区分できる。軒棧瓦Ⅰ類は、丸瓦部に沢渦紋を、平瓦部に3反転の唐草紋を配置するもの(809)である。軒棧瓦Ⅱ類は、丸瓦部に左巻巴紋と珠紋12個を配置し、平瓦部に3子葉の中心飾りと2反転の唐草紋を配置するもの(810~813・817~819)である。軒丸瓦も同様に、沢渦紋を持つⅠ類(815)と左巻巴紋に珠紋を12個配置するⅡ類(814)に区分できる。平瓦の端面には丸一のスタンプ紋が押印されるもの(821・822・824・825・829)がある。丸瓦は内面にコピキB・布目・叩き痕が残存している。

人形・玩具類は、36点出土した。土師器の人形(846・849)・ミニチュア(852)・芥子面(855・856)・鈴(857)、軟質陶器の人形(847・848)・ミニチュア(850・851・853・854)、産地不明陶器人形(844・



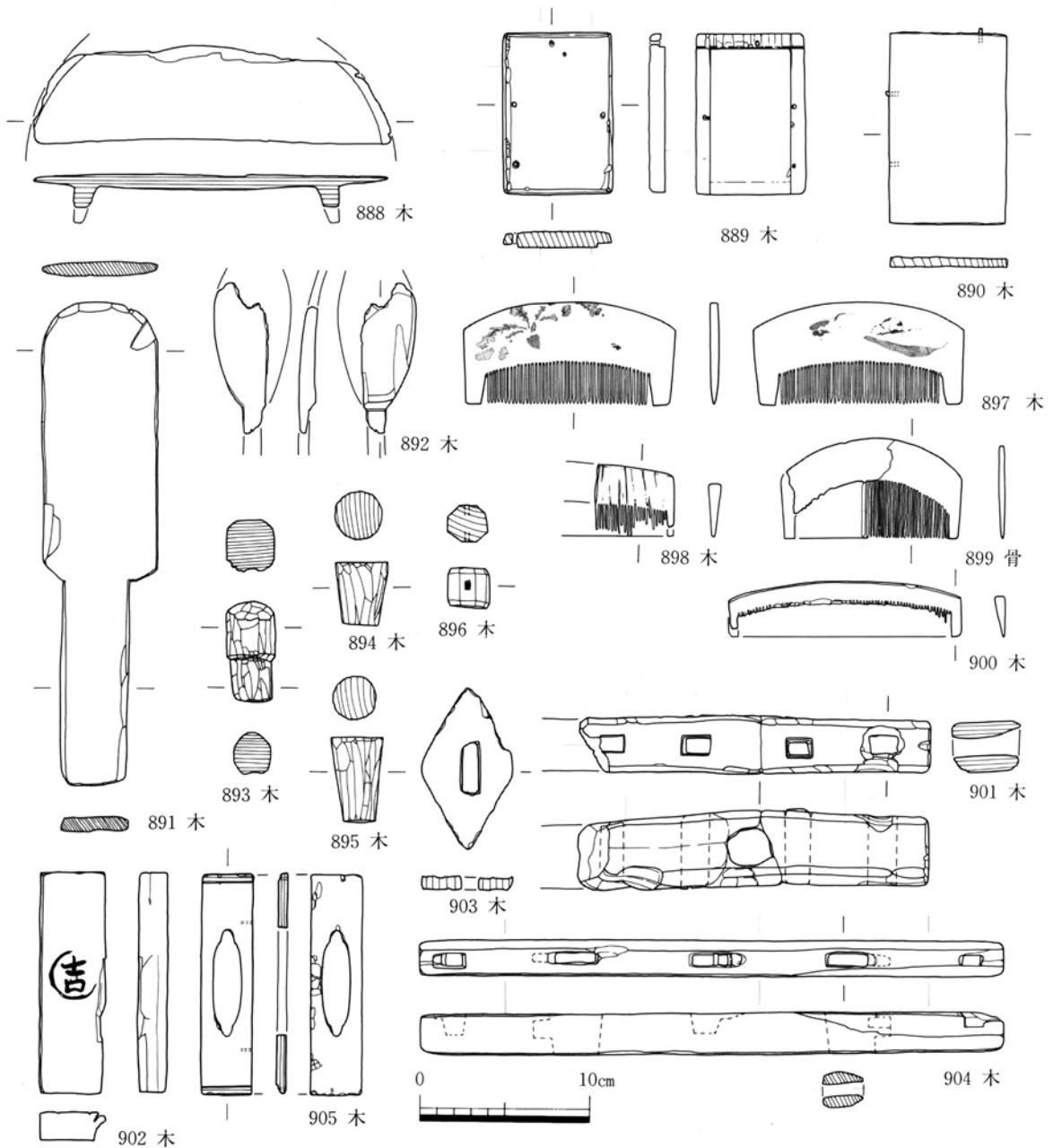
第76図 SK6691 遺物実測図(33)



第77図 SK6691 遺物実測図 (34)

845) 等がある。854は灯笼の台座部分で裏底に墨書が記されている。844は朱泥のような肌理の細かい赤褐色の胎土で、外面に光沢を持つ部分が認められる人物像である。上半身と下半身を別々に製作して接合している。下半身は粘土紐巻き上げ成形、上半身は板作り型押し成形と思われる。帯の文様と着物のしわは手描きで表現されている。

木製下駄は連歯下駄・差歯下駄・板草履に大別できる。差歯下駄は歯を差し込むほぞが貫通し平面形が楕円形となるもの(861)とほぞ孔が貫通せず平面形が長方形のもの(858~860・862・863)がある。また、下駄本体下面中央部の削りが2段になるもの(858~860)、1段になるもの(863)、削らないもの(861・862)にも区分できる。連歯下駄は歯部の製作方法から3類に分類できる。I類は平面形が長方形の歯部を削り出しているもの(864~869)、II類は中央部と後部のみを削っているも

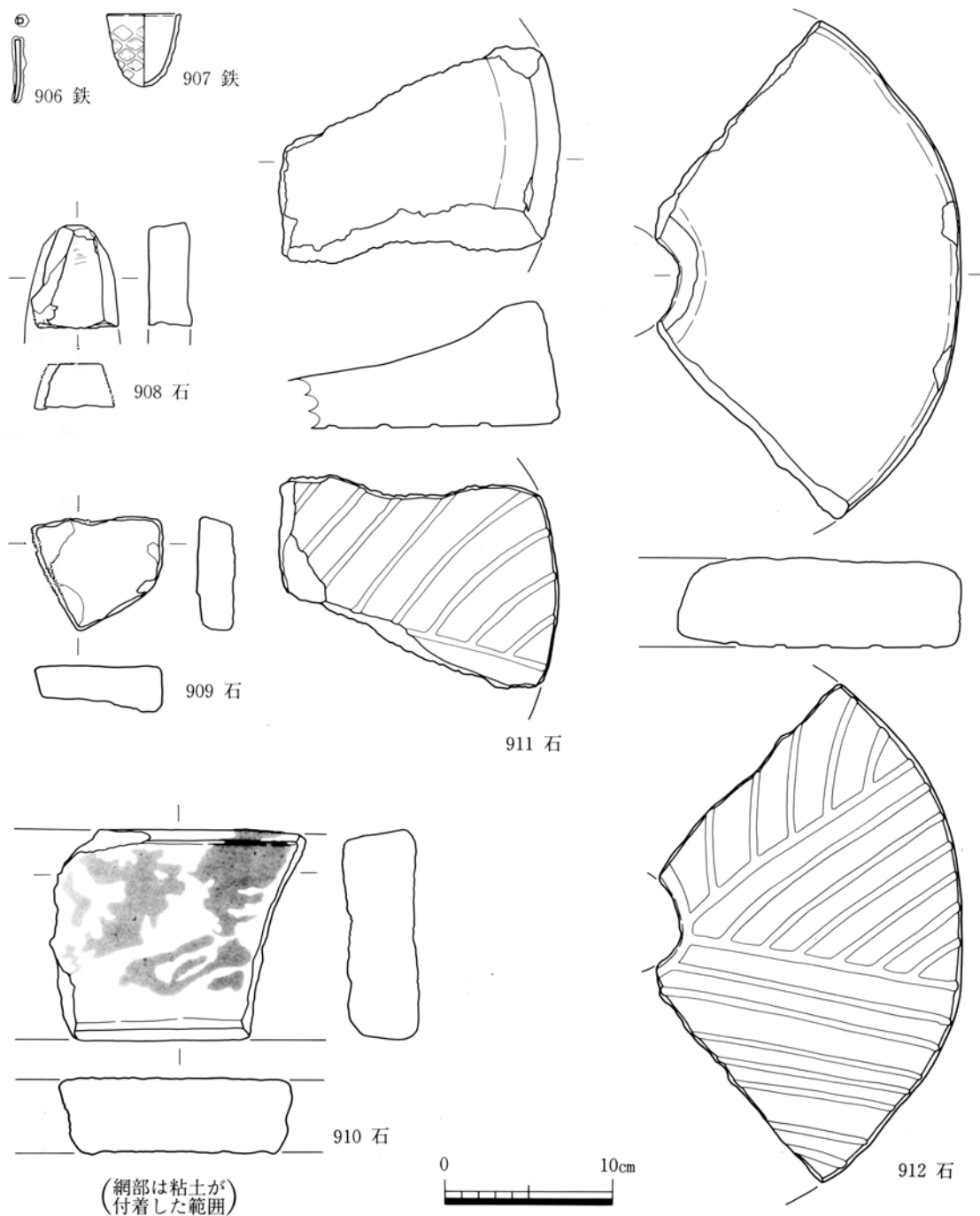


第78図 SK6691 遺物実測図 (35)

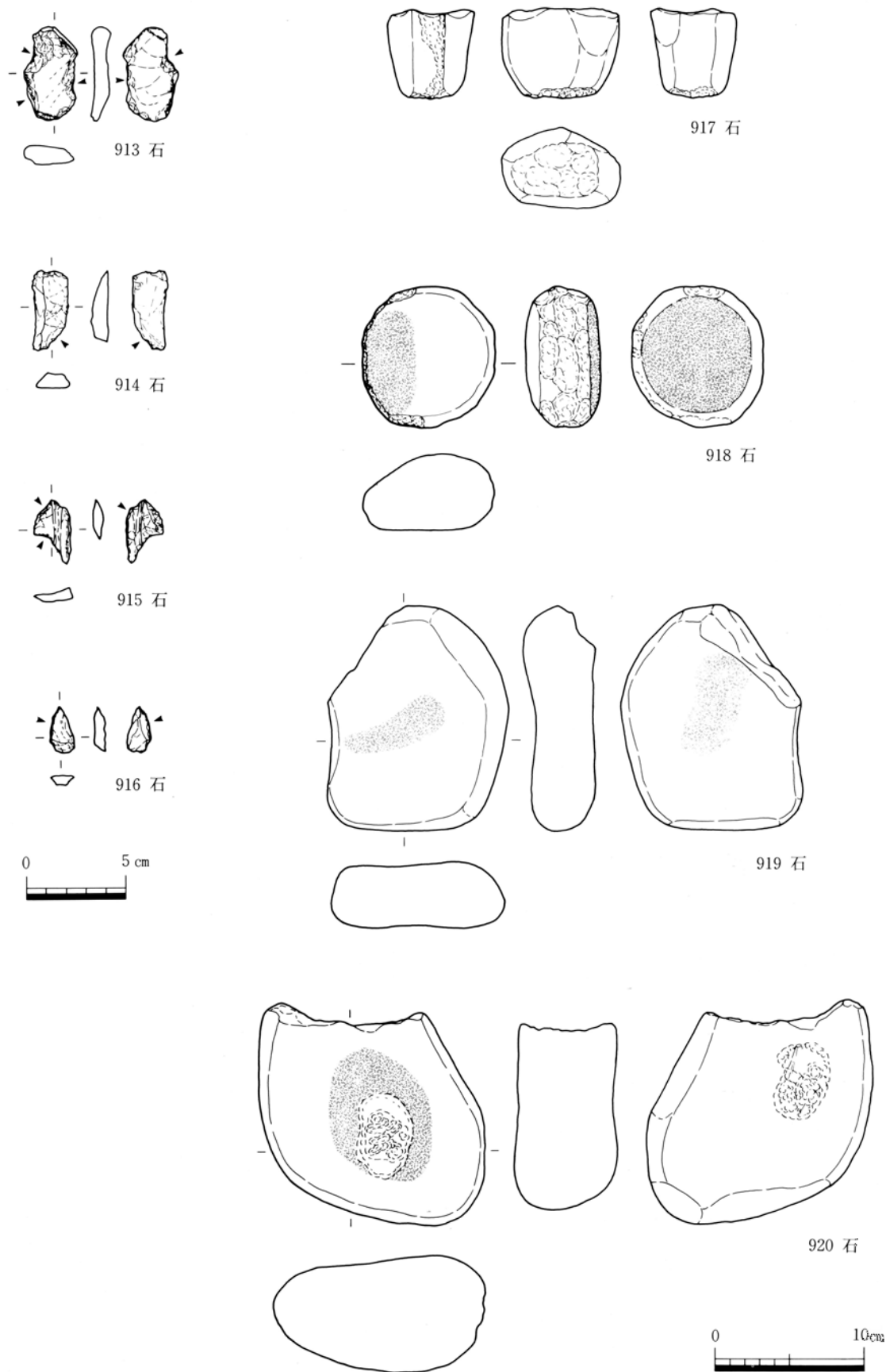
の(870~872)、Ⅲ類は中央部を2列削って歯部が3本となるもの(873~875)である。板草履は本体中央を削るもの(879・880)と削らないもの(876~878)があり、全て多数の釘孔が穿たれている。

その他の木製品には、曲物桶柄杓(881・882)、結桶柄杓(883)、結桶(886・887)、箱物(889・890)等の容器類、横櫛(897・898・900)、木胎漆器杓子(892)等の道具類の他901・903~905のような建具類の一部も存在する。柄杓の底板には「水」と墨書されているもの(881・883)がある。

石製品は火打ち石(913~916)・叩き石(917・918)・擦石(919・920)・砥石(908・909)・石臼(911・912)等が存在する。917・918には敲打痕が、917~920には石材の平坦面に摩滅した痕跡が残存している。910は表面に粘土が付着し被熱された直方体の石材で竈か炉に使用されたものであろう。  
(鈴木正貴)



第79図 SK6691 遺物実測図(36)



第80図 SK6691 遺物実測図 (37) (913~916はS = 1 : 3)

## 第7節 人形・玩具類 (第81~84図921~1001)

人形・玩具類の総数は350 (474) 点である<sup>(1)</sup>。その内遺構からの出土は161 (217) 点で全体の半数近くを占めた。材質は土師器及び軟質陶器が中心であるが、一部に陶器、磁器、ガラス製品も含む。種別は人形、ミニチュア、面、面型、芥子面、鈴などがあり、他にミニチュア製品製作用の雌型も出土した。

以下、内容について種別ごとに説明していくこととする。人形・玩具類の大部分は人形とミニチュアで、人形が全体のおよそ半数、ミニチュアが4分の1を占めている (付表3)。

人形には神像、人物、動物を象ったものの3種類がある。神像に類するものには天神、恵比須、大黒の他、布袋、達磨、福助などがあった。但し、同形のものには323の天神が5点出土した以外にはない。人物には童子、唐子、虚無僧などがある。動物には猿、馬、犬、猫、鳩、鶏、鷹、雀、稲荷狐、蛙、亀、金魚などがある。このうち猫が最も多く、12点出土している。この大部分が328・964と同形で大きさも殆ど同じであった。次に多かったのが雀で、8点出土している。いずれも331と同形の手捻りのものだが、大きさや仕上げにへらを使用するかどうかにより若干の違いがある。一部には茶と黒の彩色が残っていた。なお、鳥には笛になっているもの (966・967)、魚と亀には浮き人形になっているもの (333・958) がある。

ミニチュアでは器物を象ったものと建造物を象ったものの2種類がある。器物には碗、土 (鉄) 瓶、土鍋、蓋などがあった。建造物には灯籠、橋、茶室、鳥居、神輿などがあるが、いずれも中・小型品である。

芥子面 (けしめん) とは、片面のみを型成形で立体的に抜き出した、極小型の「面子」と考えられている土師器の製品である<sup>(2)</sup>。全部で12点出土しており、モチーフには神像、人物、唐傘小僧? (985) の他、算盤、硯、魚付の皿? (855) などの器物を象ったものもあった。裏面はへらで削り落しになっているが、指で押圧してくぼませたもの (929・930・931・982)、なでて滑らかにしたもの (855・856) などもある。これらがすべて「芥子面」と称されるものに当たるかどうかには問題があるが、他の人形と区別して取り合えずこの名称を使用しておく。

面は、5 (6) 点出土した。335、988、989は人物を象ったもので、裏側の土手状になった部分に孔が開けられている。989の鼻には木目が付いており、これらは表裏二面の木型によって粘土をプレスして作られたものと推定できる。他にやや大型のものに990の恵比須がある。これはこめかみに孔が開けられている。

面型は小型の雌型で、粘土をつめて形を抜き出して遊ぶものである。991が1点のみ出土している。

鈴は全部で48 (52) 点出土した。この中には『清洲城下町遺跡Ⅳ』で報告された戦国時代に属すると考えられる鈴は一切含まれていない。形の判別できるもののうち、857・993と同形の鈴が13点、992と同形の中着形の鈴が6点でその殆どを占めている。前者には赤い彩色の残るものがあった。

ガラス製品で「おはじき」らしきものが3点あった。1000・1001は表裏両面を型押しされており、頂部にへた状のはみだしがある。

その他に、ミニチュア製作用の雌型が2点出土している。SD6078から出土した933は灯籠の台座部分の雌型と思われる。998は碗または皿の雌型で、924はかなり小型になるが、この雌型で製作したものと類似している。雌型はどちらも素焼で彫りがあまく、原型の造りも粗雑なものである。

円板状の泥面子は1点も出土していない。焼物のかけらを丸く打ち欠いた転用円板は、近世陶器で作られたものも多数出土しているが、今回は時間の都合上カウントできなかった。

遺構の共伴遺物から確認できる人形・玩具類の出現の時期は、宿場町Ⅰ－2期からⅡ－1期にかけてである。Ⅰ期では937の天神の他、数点の破片がある。Ⅰ－2期からⅡ－1期にかけては977の神輿、SD6078出土品（921～933）等がある。

人形・玩具類がまとまって出土する遺構が現れるのはⅡ－1期からである。SD6078からは20（32）点、SK6735からは25（36）点が出土している。Ⅱ－2期ではSK6691から36（60）点、SX4015から16（18）点が出土しているが、Ⅱ－1期の遺物と形の共通するものは殆どない。

大きさは大部分が15cm以下の中・小型品で、20cm以上に達するような大型品はわずかである。大型品では陶器製の845の人物立像の他、破片から形の推定できるものに、人物（849）、狎（962）、天神等があった。

文字資料としては、853の蓋と1001のガラス製おはじきに浮印が、956の猿、961の稲荷狐、968の鍋、854・975の灯籠、998の雌型に墨書がある。

最後に、本調査地点出土の人形・玩具類の全体的な特徴を以下にまとめておくこととする。

- 1 人形・玩具類の出現は、18世紀後半以降である。18世紀前半までの遺構からは殆ど出土しない。
- 2 同形で複数以上出土している人形は、323の天神、921の童子座像、327の馬、328・964の猫、330の鷹、手捻りの331の雀、332の鶏などである。天神を除けば、これらが少なからず出土することは名古屋城三の丸遺跡の各調査地点にも共通する傾向である。本調査地点においてはこれらはすべて18世紀末から19世紀初頭の遺構から出土している。
- 3 ミニチュアは種類が少ない。器物形では碗、蓋、土鍋、土瓶などに限られ、こんろ類がない。建造物形では灯籠が大部分を占める。
- 4 名古屋城三の丸遺跡ではこれまで殆ど報告されてこなかった芥子面が若干出土している。
- 5 名古屋城三の丸遺跡と比較すると、全体的に出土量が少ない。名古屋城三の丸遺跡のうち出土量の比較的少なかった営林署地点<sup>(3)</sup>では調査面積（概数）比で1㎡あたり0.112点であったのに対して、本調査地点では0.016点、遺物出土量の多い本町地区に限っても0.030点で圧倒的に少ない。
- 6 円板形の泥面子は1点も出土していない。

以上の他に、本調査地点において2点の製作用の雌型が出土したことは、名古屋周辺の近世人形・玩具類の生産状況を考える上で一つの注目すべき事例といえよう。（八木佳素実）

註（1） 数値は識別可能な限りの個体数である。（ ）内は接合前破片数。

（2） 松井かおる（1991）「型抜き遊びについて」『江戸在地系土器の研究Ⅰ』。

（3） 松田訓編（1995）『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第60集。

第4表 人形・玩具類観察表

図版	遺構番号	材質	種別	形状	成形法	胎土色/精粗/焼成	釉・彩色	高	幅	奥行	備考	
	140	SK4287	土師器	ミナツア/鈴	太鼓	型/前後? 中空 底孔0.5	黄灰色/精	彩色(赤)	残 6.2	7.5	6.7	内部に玉沙
	323	SK6735	土師器	人形	天神	型/半面 裏指サキ 孔無	黄白色/硬	彩色(黒/烏帽子)	4.6	残 3.8	2.1	分析No14
	324	SK6735	土師器	人形	恵比寿	型/前後 底孔0.3×2.2	橙白色/精		3.1	2.5	1.3	完形
	325	SK6735	土師器	人形	唐子/舟持ち	型/前後 中空	黄白色/硬		残 4.9	残 4.0	残 2.1	
	326	SK6735	土師器	人形	猿	手捻り 丸?目	黄白~黒灰色/精		残 8.1	残 5.2	残 3.4	
	327	SK6735	土師器	人形	馬・人	型/左右・手 中空 人左足孔0.3×残1.0	黄白色/硬	彩色(黒/靴・履)	残 7.7	残 4.2	残 8.5	分析No15
	328	SK6735	土師器	人形	猫	型/前後 中空 底孔0.5	橙白~灰白色		残 5.8	4.0	残 4.1	
	329	SK6735	土師器	人形	犬・人	手捻り	黄灰色		残 5.9	残 3.0	残 6.8	
	330	SK6735	土師器	人形	鷹	型/左右 中空 底孔0.5	黄白色		残 7.2	残 2.3	残 7.8	
	331	SK6735	土師器	人形	雀	手捻り	橙白色		4.0	3.2	残 4.5	分析No17
	332	SK6735	土師器	人形	鶏	手捻り 底開口	黄白色/軟		残 6.5	残 4.2	残 4.2	分析No18
	333	SK6735	土師器	人形/浮	金魚	型/上下 中空 頂部孔0.1 薄手 内雲母	黄白~淡褐色		推 5.0	推 6.2	推12.1	下腹に粘土の重り
	334	SK6735	土師器	ミナツア	茶室	貫め型/前後 底孔0.3×1.0	黄灰色/精		2.4	2.8	1.3	完形。入口は開口
	335	SK6735	土師器	面	恵比寿?	貫め型/前後 土手部孔0.2	灰褐色/粗		残 4.4	残 4.4	1.8	
	336	SK6735	土師器	仏具/香炉	香炉	型/対角線	黄白色/精	黒色漆	残 4.9	残 5.3	残 4.7	
	337	SK6735	土師器	仏具/燗台	燗	型/左右? 底開口 脚部孔0.6×2?	黄白~黒色/精	黒色漆	残 7.8	4.3	残 6.5	
	338	SK6735	土師器	仏具/燗台	龜	型/半面 裏指サキ 頂部孔0.6×2?	黄白~黒色/精	黒色漆	3.3	残 6.1	残 7.8	鶴足付き
	339	SK6735	陶器	仏具/燗台	龜	手捻り 頂部孔0.6×2?	黄褐色/粗	鉄軸	4.1	残 6.6	残 8.0	鶴足付き
	844	SK6691	陶器	人形	人物	紐作り・型? 底開口	褐色/精。砂粒含/硬	自然釉	残28.5	17.3	15.8	
	845	SK6691	陶器	人形	人物	手捻り 底開口? 接合部に楯目痕	黄白色/精/硬	長石釉。鉄絵。呉須絵(帯、襟?)	残6.9	残12.6	残 4.2	
	846	SK6691	土師器	人形	天神	型/前後 底孔0.3×残2.3	黄灰色		残 2.9	2.9	1.3	
	847	SK6691	軟質陶器	人形	恵比寿	型/前後 孔無	橙白色/精	鉛釉(透明/全面)	4.5	2.7	1.9	
	848	SK6691	軟質陶器	人形	釣人?	手捻り 右腰孔0.2×0.4	橙白色/軟	鉛釉(透明。緑斑。茶/腰提子)	残 5.6	残 3.1	残 2.8	
	849	SK6691	土師器	人形	人物	型/前後 中空 布目	褐色/軟		残 3.6	残 3.5	残 2.7	
	850	SK6691	軟質陶器	ミナツア	碗	型/半面	白色	鉛釉(緑)	1.1	2.8	0.9	
	851	SK6691	軟質陶器	ミナツア	鉢	型/半面?	黄白色	鉛釉(透明。緑)	2.4	5.2	2.2	底部のみ
	852	SK6691	土師器	ミナツア	袖でんぼ	型/上下	灰白色/精		残 3.1	5.0		内面双付着
	853	SK6691	軟質陶器	ミナツア	釜蓋	型/上下	淡褐色/精	鉛釉(透明)	1.1	2.2	3.4	分析No7。浮印「口」
	854	SK6691	軟質陶器	ミナツア	灯籠	型/半面 裏指サキ 底孔0.3	橙白色	鉛釉(透明。緑斑)	残 1.9	4.7	5.0	分析No8。墨書「上」
	855	SK6691	土師器	芥子面	魚付き皿?	型/半面 裏サ	橙白色/精	彩色(赤)	0.9	1.2	0.2	完形
	856	SK6691	土師器	芥子面	算盤	型/半面 裏サ	黄灰色		1.8	残 2.1	0.3	
	857	SK6691	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.3	灰色/精	彩色(赤)	3.5	残 3.7	残 1.8	
	921	SD6078	土師器	人形	童子/座像	型/前後 中空 底孔0.3	淡褐色/軟		残 5.5	5.5	残 4.8	分析No19
	922	SD6078	土師器	人形	布袋	型/前後 中空	淡褐色/粗/軟		残 5.1	残 4.1	残 1.3	
	923	SD6078	土師器	人形	唐子	型/前後 底孔0.2×残1.5	黄白色		残 1.8	残 2.4	残 1.0	
	924	SD6078	土師器	ミナツア	皿	型/半面	黄白色		1.0	3.2	1.4	
	925	SD6078	陶器	ミナツア	土瓶	ろくろ 板状紐孔0.4	黄白色/精	灰釉	残 2.2	推 2.5		
	926	SD6078	軟質陶器	ミナツア	土瓶	ろくろ	黄白色/精	鉛釉(透明。緑斑。茶斑)。露胎	3.9	3.8	2.5	
	927	SD6078	軟質陶器	ミナツア	土瓶	型/上下	黄白色/精	鉛釉(透明。緑斑)	残 1.8	2.0		分析No20
	928	SD6078	軟質陶器	ミナツア	蓋?	型/半面 裏サ	橙白色	鉛釉(透明)。露胎	残 1.6	4.4		
	929	SD6078	土師器	芥子面	天神?	型/半面 裏指サキ。ハカズリ	黄白~黒灰色/精		残 2.1	残 2.0	1.1	
	930	SD6078	土師器	芥子面	恵比寿?	型/半面 裏指サキ。ハカズリ	橙白色/精		残 2.2	残 1.7	1.1	
	931	SD6078	土師器	芥子面	恵比寿?	型/半面 裏指サキ。ハカズリ	白色		残 1.7	残 1.1	残 0.5	
	932	SD6078	土師器	鈴		手捻り	褐色/粗	彩色(赤)	2.8	2.9	残 1.9	
	933	SD6078	土師器	鐘型	灯籠	型/半面 [内法1.9×7.4×8.2]	橙白色/精/軟		3.0	残 5.0	残 6.6	
	934		軟質陶器	人形	天神	型/前後 孔無	灰白色	鉛釉(黄緑/全面)	残 2.1	3.0	1.4	前後面0.2mmもズレ
	935		土師器	人形	天神	型/前後 底孔0.3×2.0	淡褐色		3.0	2.6	1.5	ほぼ完形
	936	SD6077	軟質陶器	人形	天神	型/前後 孔無	橙白色	鉛釉(透明/全面。緑斑)	4.3	3.7	2.0	完形
	937	SK6698	土師器	人形	天神	型/前後 底孔0.1×2.1	橙白色		3.6	3.5	2.1	ほぼ完形
	938		軟質陶器	人形	天神	型/前後 底孔0.2×1.7	橙白色/精/硬	鉛釉(透明。緑/白座。茶/上衣)	残 3.7	4.0	2.3	
	939		土師器	人形	福助	型/前後 中空 孔無	淡褐色/精		3.9	3.7	1.9	
	940		土師器	人形	人物/神	型/前後 底孔0.3×2.2 外雲母	橙白~灰白色/精		5.1	2.4	1.8	完形
	941		軟質陶器	人形	童子/団扇持ち	型/前後 孔無	橙白色/精	鉛釉(透明/全面)	3.8	2.7	1.9	
	942	SK6363	軟質陶器	人形	童子/馬乗り	型/前後 中空	白色/硬	鉛釉(透明。黄/靴。緑/上衣。茶/襟。たてがみ。斑)	残 6.3	残 5.1	残 1.1	完形
	943		土師器	人形	人物	手捻り・型(顔面)	淡褐~黒灰色/精		残 3.3	残 1.9	残 2.2	
	944		土師器	人形	唐子/ツバ 持ち	型/前後 中空	黄白色/精/硬		残 4.7	残 3.2	残 2.1	
	945		土師器	人形	人物	型/前後 中空	白色/硬		残 4.2	2.2	残 1.2	
	946		土師器	人形	人物	型/前後 中空 頸部縮込	橙白~黒灰色/軟		残 5.5	残 3.8	残 2.3	
	947		土師器	人形	連磨	型/前後 中空 孔無	黄灰色		3.7	2.5	2.5	完形
	948		土師器	人形	地藏?	流し型?/前後 中空	黄灰色/精/軟	彩色(黄/後頸部)	残 2.7	残 2.5	残 2.5	
	949		土師器	人形	少年	型/前後 底開口	黄白色/硬	彩色(黄/本。緑/袴)	残 3.8	4.2	4.5	分析No3
	950		土師器	人形	少女	型/前後 中空 底孔0.3	白色/精	彩色(ピンク/上衣)	残 5.6	5.2	残 5.4	
	951	SK4128	土師器	人形	人物	型/前後 中空 左脇腹孔0.3	黄白~黒灰色/精/硬		残 9.5	残 4.6	残 2.7	
	952		磁器	人形?	福助	型/前後 中空 肩部孔0.4×2?	白色/光沢なし	透明釉。上絵(濃赤/唇。襟。袖。薄赤/くまどり。襟。袖。黄/袴。黒/目・眉・耳・髭)	残 6.6	残7.0	残3.7	水滴?
	953		磁器	人形	福助	流し型?/前後 中空 底孔1.5 薄手	白色	透明釉。上絵(黄/袴。黄褐/唇・袴。黄緑/袴。金/眉。黒/目・眉・髪)	5.7	6.5	4.1	完形
	954		磁器	人形	人物	型/上下 中空 底孔0.1	白色/光沢あり	透明釉。上絵(赤褐)	残 2.4	3.4	7.5	
	955		磁器	人形	力士	型/前後 中空? 孔無	白色	透明釉。上絵(赤褐/唇・まわし。靑緑/裾。薄黒/目・髪)	4.8	2.8	2.5	完形
	956		土師器	人形	猿	板作り・手 底開口 1単位9本の楯目	黄白色/硬		残10.6	残 7.9	残 6.3	分析No6。墨書「ハ」
	957		土師器	人形	猿	手捻り 1単位6本の楯目	黄白色	彩色(赤茶)	残 8.1	残 5.5	残 4.1	
	958		磁器	人形	龜	型/上下 中空 頂部穴0.1以下	白色	透明釉。上絵(薄黄・金・濃茶/甲羅)	2.6	4.4	6.0	完形

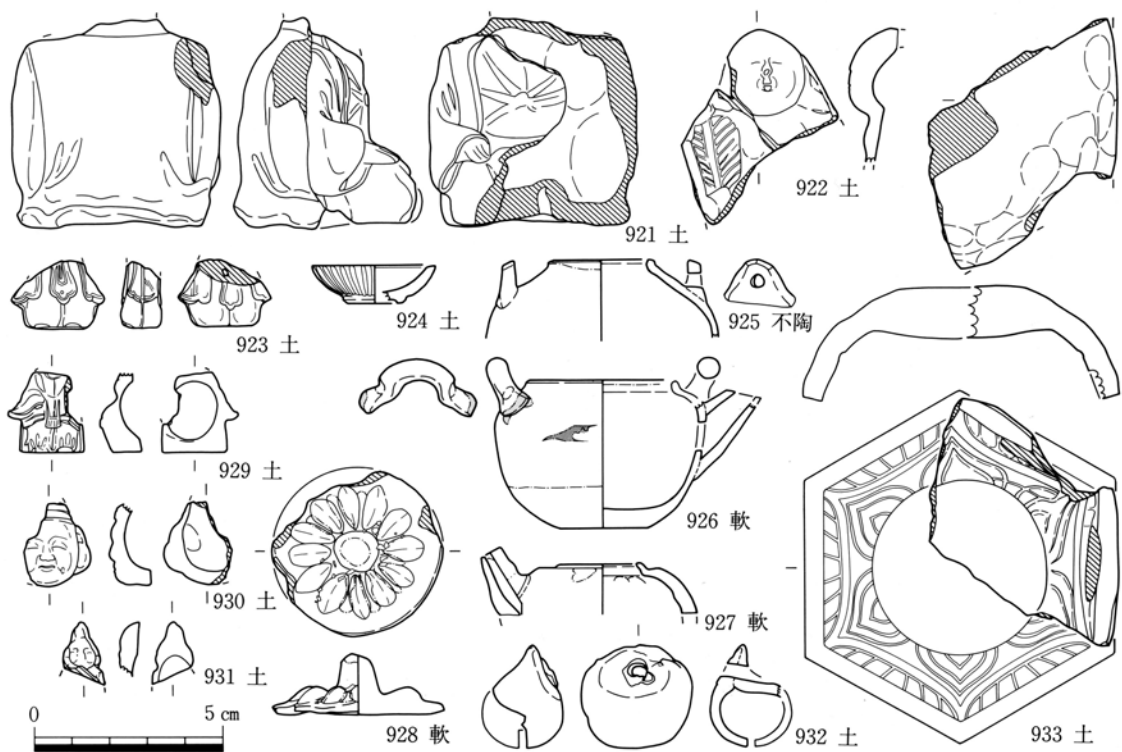
※成形欄の「孔」の後は、孔直径×深さ (cm単位) を数字のみ記載する。

※法量の単位はcmである。

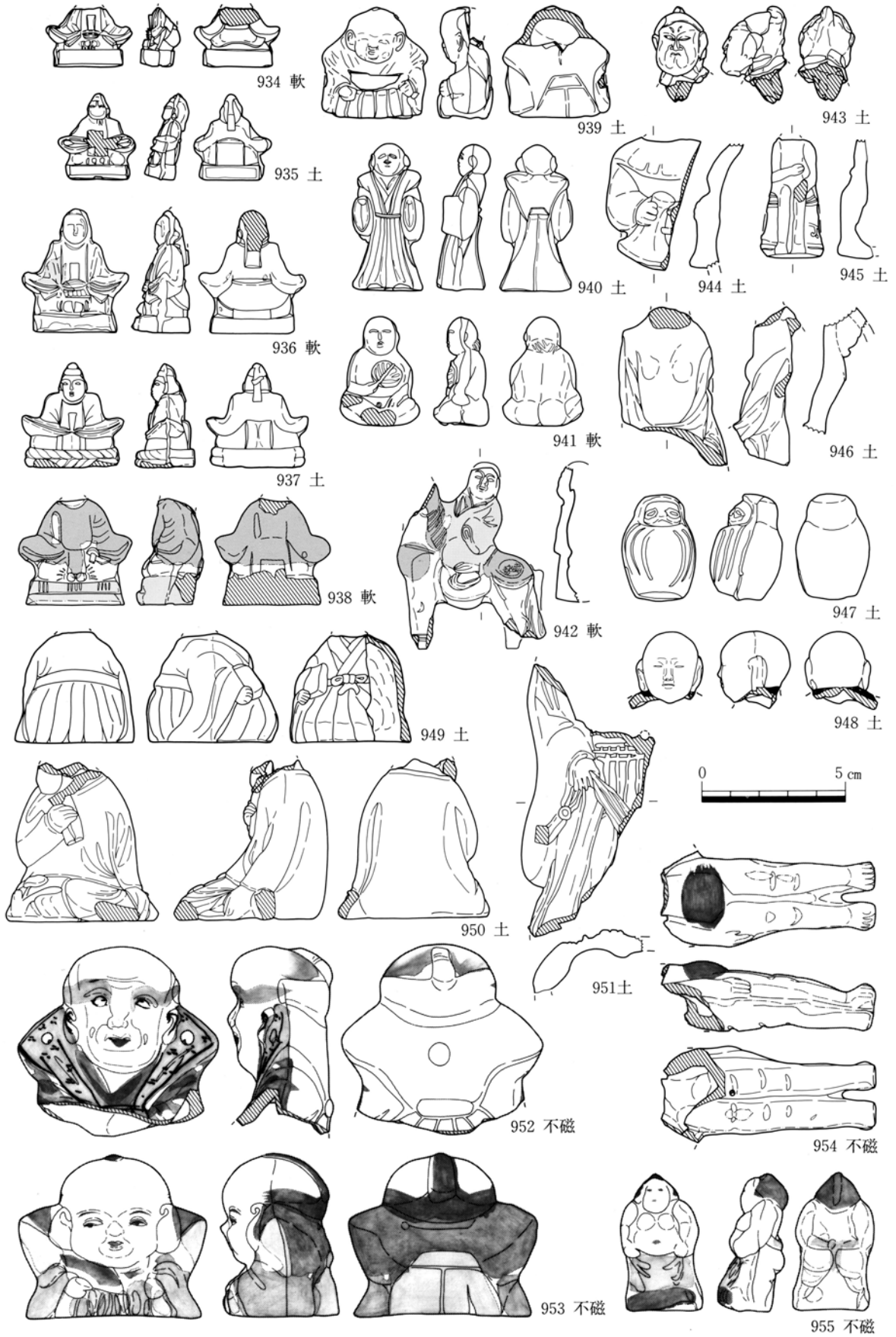
※器物形ミニチュアの法量は、「幅」欄に口径を、「奥行」欄に底径を記載する。

第5表 人形・玩具類観察表

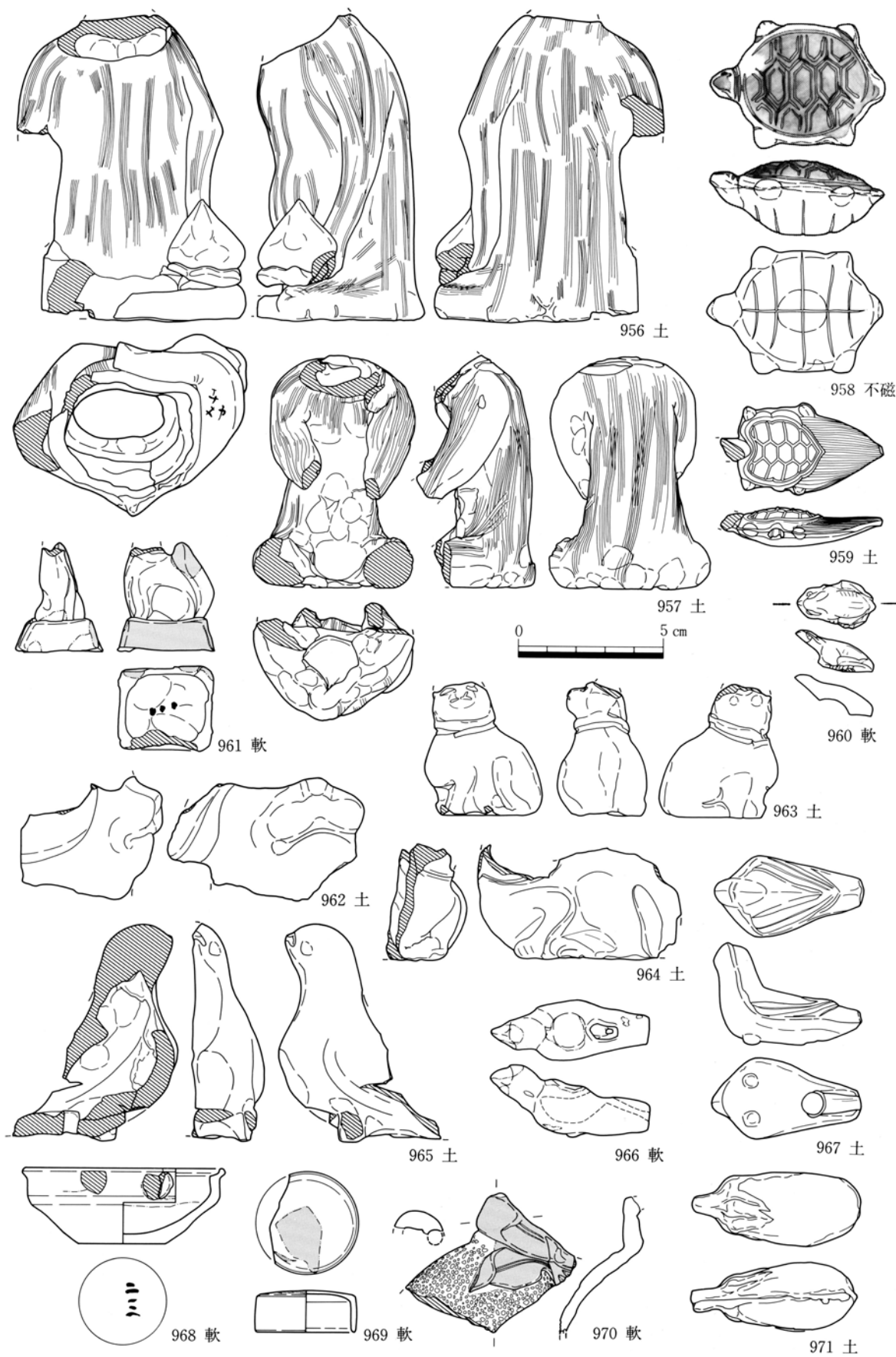
図版	遺構番号	材質	種別	形状	成形法	胎土色/精粗/焼成	軸・彩色	高	幅	奥行	備考
	959	土師器	人形	亀	型/上下? 左脇腹孔0.6×1.2	黄白色/精/硬		1.3	3.1	残 5.6	
	960	軟質陶器	人形	蛙	型/半面 底指サ	黄白色/精	鉛釉(緑)	1.4	1.6	2.7	ほぼ完形
	961	軟質陶器	人形	箱崎狐	型/左右 半面(台座)	淡褐~黄白色	鉛釉(透明 緑/台座・尾), 白化粧/体部	残 3.8	残 3.3	3.0	
	962	土師器	人形	犬	型/前後 中空 布目	黄白色		残 4.3	残 6.8	残 4.8	分析No1
	963	土師器	人形	猫	型/前後 中空 底孔0.1	淡褐色/粗		残 4.6	3.1	4.0	
	964	土師器	人形	猫	型/前後 中空 底孔0.7	黄白色		残 4.0	残 2.7	7.0	分析No10
	965	土師器	人形	鳩	型/左右 中空 底孔0.5	黄灰~灰色/精		7.5	残 2.5	残 5.6	
	966	軟質陶器	人形/笛	鳩	手捻り 中空 吹口孔0.2	橙白色	鉛釉(透明/全面 緑斑)	2.5	2.1	5.5	完形
	967	軟質陶器	人形/笛	鳩	型/上下 吹き口孔0.8	黄灰色/精/軟		3.5	2.8	5.1	完形
	968	軟質陶器	ミナブ	土鍋	ろくろ	黄白色/精/硬	鉛釉(透明 緑斑)	2.6	6.7	3.0	墨書「二三」, 底部双付着
	969	軟質陶器	ミナブ	蓋	ろくろ	橙白色/精	鉛釉(透明 緑斑 茶斑)	1.5	3.4		内面双付着
	970	軟質陶器	ミナブ	袖でんぼ?	型/前後? 中空 へた部孔0.5	黄白色/硬	鉛釉(黄 緑/葉)	残 4.8	残 5.9	残 3.3	
	971	土師器	ミナブ	茄子	型流し?/上下 中空 薄手	白色/精/硬		残 2.3	5.8	2.6	
	972	土師器	ミナブ?	火焰宝珠	型/半面? 裏指サ	黄白色/硬		4.5	推 4.1	1.1	
	973	軟質陶器	ミナブ	灯籠	型/前後 半面(台座) 中空 孔無	褐色/粗	鉛釉(透明), 白化粧+青/台座	残 6.7	6.6	5.8	
	974	土師器	ミナブ	灯籠	型/前後 中空	淡褐色/精	彩色(白 黄/籠部 1面 茶)	残 4.6	残 4.4	推 4.2	
	975	軟質陶器	ミナブ	灯籠/台座	型/半面 裏指サ	橙白色/精/硬	鉛釉(透明 緑)	残 1.5	残 4.8	残 4.5	墨書「五」
	976	軟質陶器	ミナブ	灯籠/笠	型/半面+手(宝珠)	橙白色/精/硬	鉛釉(透明 緑)	残 2.7	残 4.8	残 4.0	
	977	土師器	ミナブ	神輿	型/対角線 底孔0.3×3.0	黄白~黒灰色/精		残 3.5	2.3	2.3	
	978	軟質陶器	ミナブ	鳥居	型/半面 裏サグズリ	褐色/精	鉛釉(透明 緑/頂部), 白化粧/頂部	残 3.8	残 4.9	残 0.9	
	979	土師器	人形?	仏像光背?	型/半面 裏指サ	黄白色		残 2.4	残 3.1	残 0.7	
	980	軟質陶器	人形?	人物	型/半面 裏サ	黄白色/精/硬	鉛釉(透明 緑斑)	3.1	2.4	1.4	底面にも紋様?あり
	981	土師器	芥子面	恵比寿	型/半面 裏サグズリ	白色		残 2.2	1.9	0.7	
	982	土師器	芥子面	弁才天?	型/半面 裏指サ+サグズリ	橙白色/精		残 2.1	1.6	0.7	
	983	土師器	芥子面	力士?	型/半面 裏サグズリ	橙白色		2.9	1.6	0.7	
	984	土師器	芥子面	人物	型/半面 裏サグズリ	橙白色		1.6	残 1.3	0.5	
	985	土師器	芥子面	唐傘小僧	型/半面 裏サグズリ	黄灰色/軟		残 2.9	1.9	0.8	
	986	土師器	芥子面	福良雀	型/半面 裏指サ 雲母	橙白色/精/硬		3.1	2.8	0.9	分析No2
	987	土師器	芥子面	観	型/半面 裏サグズリ	淡褐色/精/硬		1.6	0.7	0.2	
	988	土師器	面	人物	實め型/前後	橙白色/軟		残 2.7	残 2.6	1.6	分析No9
	989	土師器	面	人物	實め型/前後 土手部孔0.2	黄褐色		残 4.1	4.4	1.5	
	990	土師器	面	恵比寿or大黒	型/半面 裏サ 右こめかみ孔0.4	橙白色/精	彩色(ベツ~紅)	残 4.8	残 5.7	2.6	
	991	土師器	面型	人物	型/半面 裏指サ	橙白色/精		1.4	4.1	5.1	分析No11, 完形
	992	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.2	黄白色/硬		3.5	4.0	2.9	
	993	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.3	淡褐色/硬	彩色(赤)	4.0	4.5	2.8	
	994	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.3	黄灰色/軟		3.6	3.0	残 2.7	
	995	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.2	橙白色/粗/軟		3.6	2.7	2.8	分析No12
	996	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.3	黄灰色/軟		2.2	残 2.0	残 1.6	
	997	土師器	鈴		手捻り 紐孔0.1	黄灰色/硬		1.2	1.1	1.2	
	998	土師器	鉢型	皿?	型/半面 指サ (内法1.6×4.5×1.5)	橙白色/精/軟		2.3	5.8	5.8	分析No4, 墨書?
	999	SK8150	ガラス	おはじき?	?	青色		1.2	1.4	0.4	完形
	1000	ガラス	おはじき?	お多福	實め型/前後	無色		1.9	1.5	0.8	完形
	1001	ガラス	おはじき?	植物	實め型/前後	淡青色		2.2	2.2	0.6	完形, 浮印「木々」



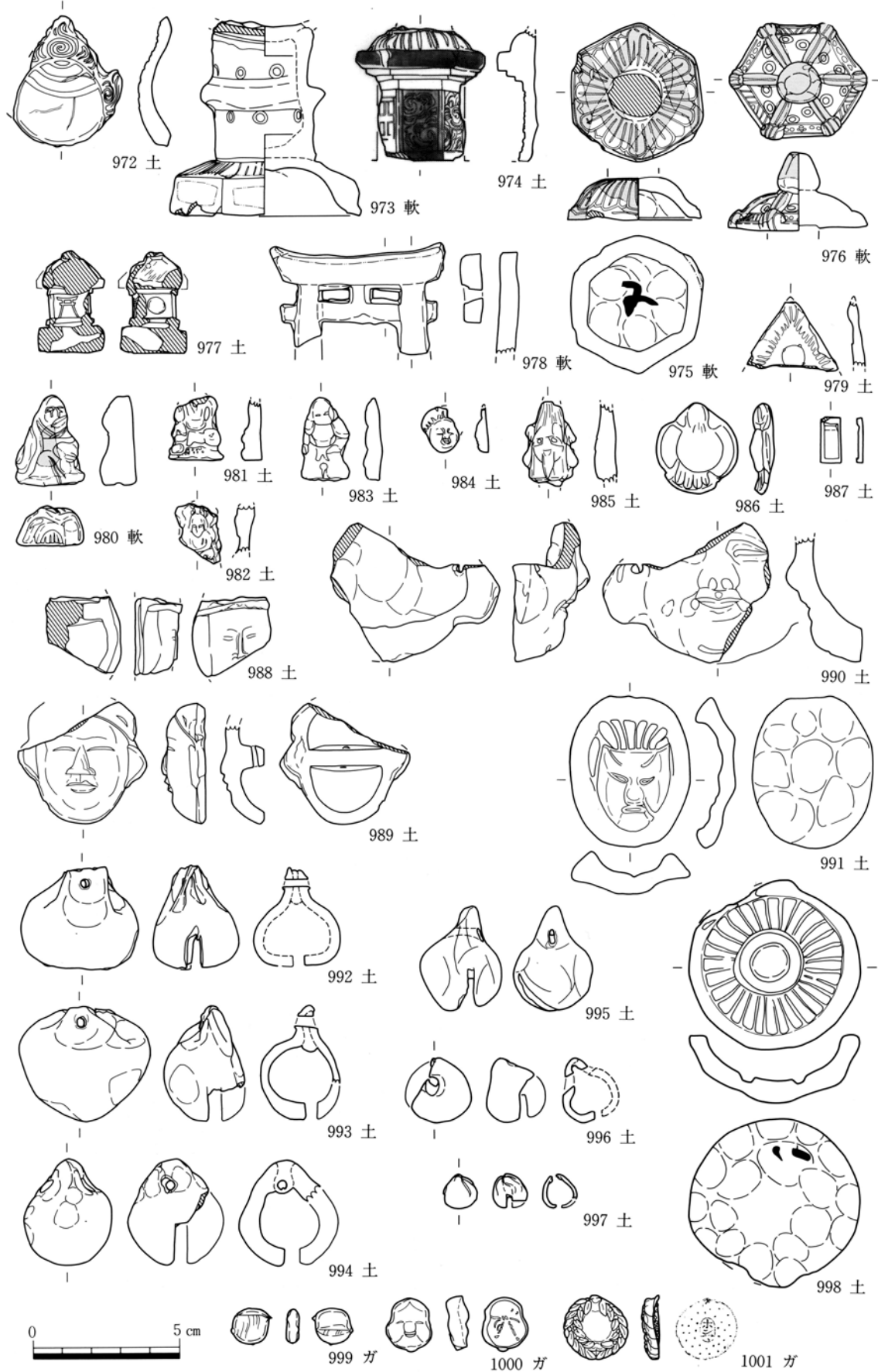
第81図 人形・玩具類実測図(1)



第82図 人形・玩具類実測図(2)



第83図 人形・玩具類実測図(3)



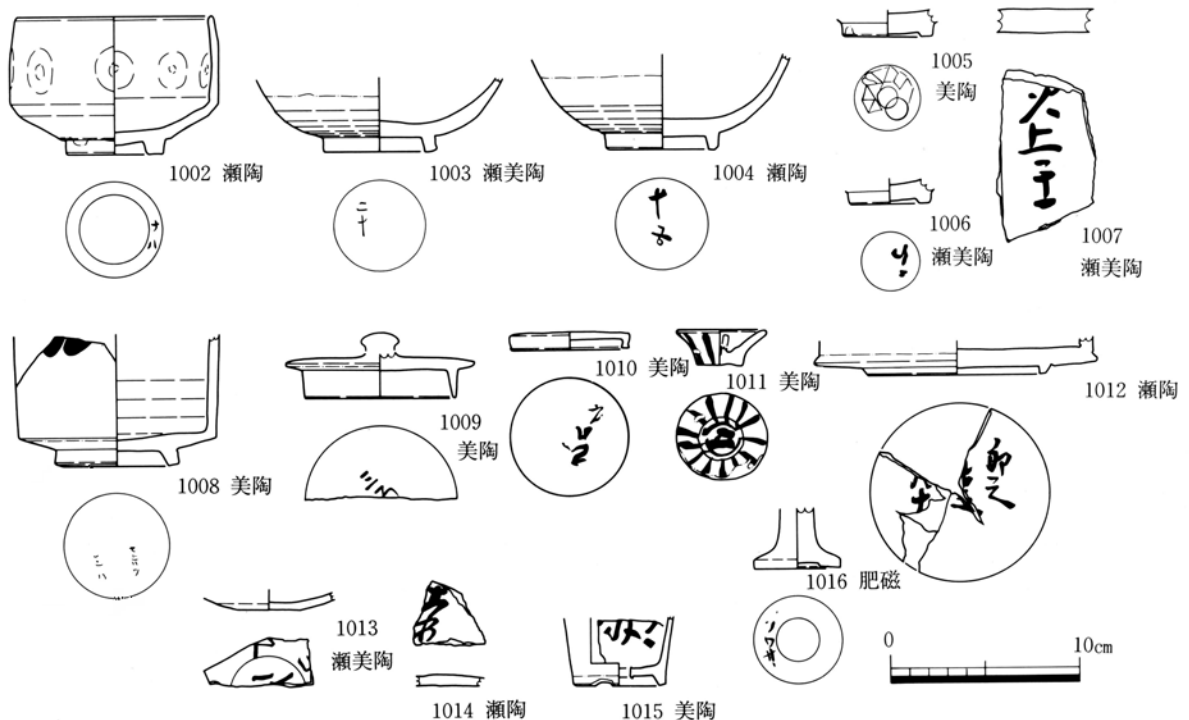
第84図 人形・玩具類実測図(4)

## 第8節 墨書 (第85図1002~1016)

ここでは墨書が施された陶磁器類について報告する。遺構から出土した宿場町期の墨書資料は全部で62点を数える。このうち瀬戸窯産陶器または美濃窯産陶器が全体の約9割を占めており、この他に常滑窯産陶器と肥前窯産陶器等が存在するのみである。墨書される器種は、碗類が11点、皿類が7点、鉢類が20点、瓶類5点等となっており、鉢類が最も多く認められ、この中でもこね鉢が多い。また、墨書される部位は大半が外面底部であるが、鉢類・蓋類等には内面に記されるものも存在する。例外的なものとして、常滑窯産陶器甕は体部外面、常滑窯産陶器井筒は口縁端部に記されるものも見られる。

墨書される記述内容は大きく4類に区分できる。墨書Ⅰ類は数字を記述したものである。稀に末尾に「石」等の単位を記したものも認められる。墨書Ⅱ類はカタカナを記したもので、機能を表現したと考えられるものやこれに数字を組み合わせたもの等が存在する。墨書Ⅲ類は漢字を記したもので、主に人名や屋号と思われる内容が記載されている。常滑窯産陶器甕に記された「宿」は「清洲宿」を表現したものと考えられる。墨書Ⅳ類は記号または幾何学的な文様を記載したもので、意味が不明なものが多い。この類は碗・蓋等の供膳具に多く見られるようである。

また、墨書とは異なるが、ガラス継ぎ（焼継）が施された製品の一部には、その材料で文字を記載する場合が多く認められる。記入されるのは瀬戸・関西系・肥前等の各窯産磁器に限定され、器種は碗類・皿類の供膳具のみである。記載部位は底部外面のみで、内容は仮名と数字の組み合わせが大半を占めている。文字の色調は、ほぼ透明なものと同赤色になるものの2者が認められる。（鈴木正貴）



第85図 墨書陶磁器実測図

第6表 遺構出土墨書・ガラス継ぎ文字一覧表

図版番号	調査区	遺構番号	産地	材質	器種	墨書部位	種別	記述内容
171	89B	SK6735	瀬戸	陶器	平碗	外面底部	墨書	「十四」
178	89B	SK6735	瀬戸	陶器	平碗	外面底部	墨書	「×」
247	89B	SK6735	瀬戸	陶器	車利	外面底部	墨書	「九」
265	89B	SK6735	瀬戸	陶器	小型徳丸	外面底部	墨書	「□」
278	89B	SK6735	瀬戸	陶器	火鉢	内面底部	墨書	「□」
292	89B	SK6735	瀬戸	陶器	火鉢	内面底部	墨書	「利休」
630	61B	SK6691	瀬戸	陶器	口縁丸	内面底部	墨書	「ホテ」
780	61B	SK6691	瀬戸	陶器	丸蓋	外面底部	墨書	「□」
781	61B	SK6691	瀬戸	陶器	丸皿	内面底部	墨書	「御□」
782	61B	SK6691	瀬戸	陶器	丸皿	内面底部	墨書	「三五郎」
783	61B	SK6691	瀬戸	陶器	丸皿	内面底部	墨書	「山文□文」・「□文」
784	61B	SK6691	瀬戸	陶器	丸皿	内面底部	墨書	「笹々カ」
785	61B	SK6691	瀬戸	陶器	十徳	外面底部	墨書	「八」
786	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小型利鉢	外面底部	墨書	「□」
787	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「十二」
788	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「□」
789	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「□□」
790	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「□」
791	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「□□□」
792	61B	SK6691	瀬戸	陶器	筒形利鉢	外面底部	墨書	「□」
793	61B	SK6691	瀬戸	陶器	花瓶	外面高台	墨書	「□□」
794	61B	SK6691	瀬戸	陶器	花瓶	外面高台	墨書	「□□」
795	61B	SK6691	瀬戸	陶器	花瓶	外面高台	墨書	「セイロ十五」
796	61B	SK6691	瀬戸	陶器	花瓶	外面高台	墨書	「十三」
797	61B	SK6691	瀬戸	陶器	花瓶	外面高台	墨書	「六カ」
798	61B	SK6691	瀬戸	陶器	利鉢	外面底部	墨書	「□□□□」
799	61B	SK6691	瀬戸	陶器	利鉢	外面底部	墨書	「七十方」
800	61B	SK6691	瀬戸	陶器	利鉢	外面底部	墨書	「イツモ」
801	61B	SK6691	瀬戸	陶器	植木鉢	外面底部	墨書	「二」
802	61B	SK6691	瀬戸	陶器	植木鉢	外面底部	墨書	「□八」
803	61B	SK6691	瀬戸	陶器	植木鉢	外面底部	墨書	「五五」
804	61B	SK6691	瀬戸	陶器	井戸側	外面口縁	墨書	「上八石」
805	61B	SK6691	瀬戸	陶器	井戸側	外面口縁	墨書	「石□六□」
806	61B	SK6691	瀬戸	陶器	利鉢	外面底部	墨書	「□」
807	61B	SK6691	瀬戸	陶器	利鉢	外面底部	墨書	「□」
808	61B	SK6691	瀬戸	陶器	瓶掛鉢	外面底部	墨書	「□石□」
1002	61A	SX4015	瀬戸	陶器	筒形鉢	外面底部	墨書	「六十」
1003	61A	SX4015	瀬戸	陶器	腰折碗	外面高台	墨書	「十八」
1004	61A	SX4015	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	「二十」
1005	63C	SD6001	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	「十五」
1006	63C	SX4009	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	幾何学紋
1007	91B	SK7016	瀬戸	陶器	大形製	外面底部	墨書	「水カ」
1008	61D	SD7005	瀬戸	陶器	筒形蓋	外面底部	墨書	「火土□」
1009	62C	SE4044	瀬戸	陶器	筒形蓋	外面底部	墨書	「七上ハツ三八」
1010	61A	SE4097	瀬戸	陶器	筒形蓋	内面底部	墨書	「三□」
1011	61A	SX4015	瀬戸	陶器	筒形蓋	内面底部	墨書	「□□□(異筆)」
1012	62C	SE4040	瀬戸	陶器	筒形鉢	外面底部	墨書	幾何学紋
1013	89E	SD6078	瀬戸	陶器	無高台	外面底部	墨書	「□之□□八十」
1014	89E	SK6659	瀬戸	陶器	無高台	外面底部	墨書	「□□□」
1015	89E	SD6078	瀬戸	陶器	植木鉢	内面底部	墨書	「□□」
1016	89B	SK6710	瀬戸	陶器	植木鉢	内面底部	墨書	「三十八」
	61A	SK4116	瀬戸	陶器	無高台	外面底部	墨書	「□ワサ」
	63C	SD4041	瀬戸	陶器	大形製	外面底部	墨書	「□」
	89B	SD6068	瀬戸	陶器	大形製	外面底部	墨書	「□」
	89B	SD6092	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	「□」
	89B	SK6710	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	「□」
	89B	SK6710	瀬戸	陶器	丸碗	外面底部	墨書	「×」
	89E	SD6078	瀬戸	陶器	水筒	外面底部	墨書	「□」
	89E	SD6078	瀬戸	陶器	水筒	外面底部	墨書	「□の」
	89E	SX6010	瀬戸	陶器	丸鉢	外面底部	墨書	「□□や」
	92C	SK4477	瀬戸	陶器	丸鉢	外面底部	墨書	「□宿」
	93A	SE4007	瀬戸	陶器	丸鉢	外面底部	墨書	「□」
375	61B	SK6691	瀬戸	磁器	広東茶碗	外面底部	ガラス継ぎ	「エ□」
382	61B	SK6691	瀬戸	磁器	広東茶碗	外面底部	ガラス継ぎ	「タ九」
393	61B	SK6691	瀬戸	磁器	広東茶碗	外面底部	ガラス継ぎ	「□□□」
419	61B	SK6691	瀬戸	磁器	広東茶碗	外面底部	ガラス継ぎ	「□□」
465	61B	SK6691	瀬戸	磁器	広東茶碗	外面底部	ガラス継ぎ	「大十□□」
541	61B	SK6691	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「エ□」
	61A	SX4015	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「キホ□」
	61B	SK6691	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「き九十」
	61B	SK6691	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「五八」
	61B	SK6691	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「八七」
	63C	SE4069	瀬戸	磁器	肥前磁器	外面底部	ガラス継ぎ	「さ五一」

## 第9節 井戸側出土資料

この節では、井戸側を構成する遺物を一括して取り上げる。前章第6節で分類した通り井戸側の材料として結桶・瓦・漆喰・常滑窯産陶器が存在する。

### A 結桶（『清洲城下町遺跡Ⅳ』資料編表22を参照）

現在残存する宿場町期に属する井戸に用いられた結桶は13基18点が存在する。全て宿場町期Ⅱ期に属し、最大径は60cm～95cm、器高は70cm～157cmに分布する。内面と外面に鋸による切断痕が残存するもの（SE4026・SE4027・SE4028・SE4073・SE4076・SE4077の各井戸側）が大半を占め、精良な板材を割裂法のみで製板された確実な結桶は認められない。側面は台カンナで調整され、格子状の傷や穴が開けられたものも見られる。

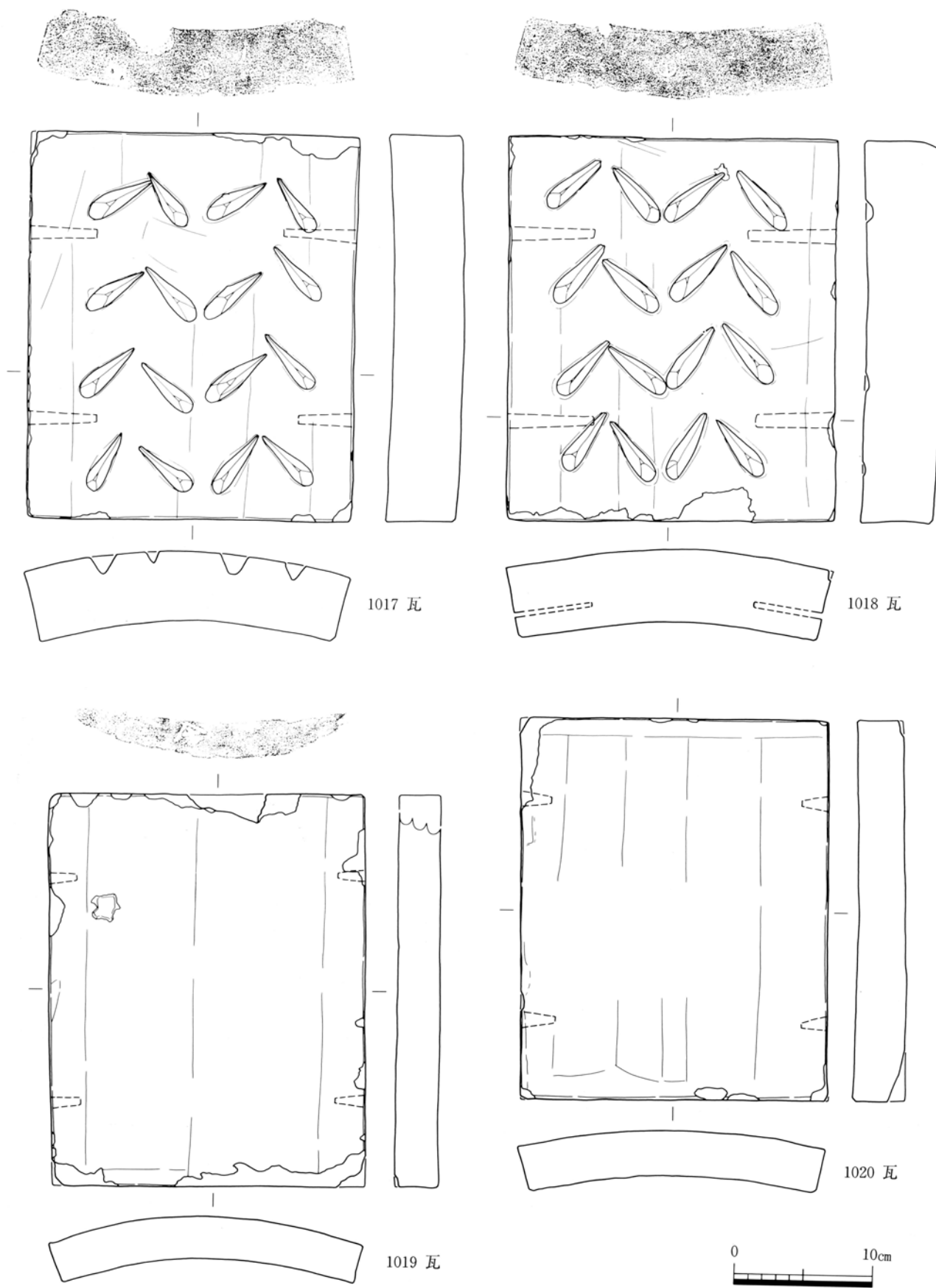
### B 瓦（第86・87図1017～1023）

宿場町期の瓦積井戸はSE4021・SE4030等が存在する。これらは厚手平瓦状の瓦を8枚用いて円筒を作り、これを漆喰で接続しながら積み重ねている。井戸側用瓦は側面に接合のための長方形の穴が上下2ヶ所に設けられている。井戸側用瓦は3類に分類できる。Ⅰ類は凸面に巨大な刺突紋が4列16個施されるもの（1017・1018）、Ⅱ類は凸面に巨大な刺突紋が4列12個施されるもの（1021～1023）、Ⅲ類は凸面に刺突紋が存在しないもの（1019・1020）である。Ⅰ類は厚さが約5.0cmと厚く、Ⅱ類とⅢ類は厚さが約3.0cmと薄いものである。

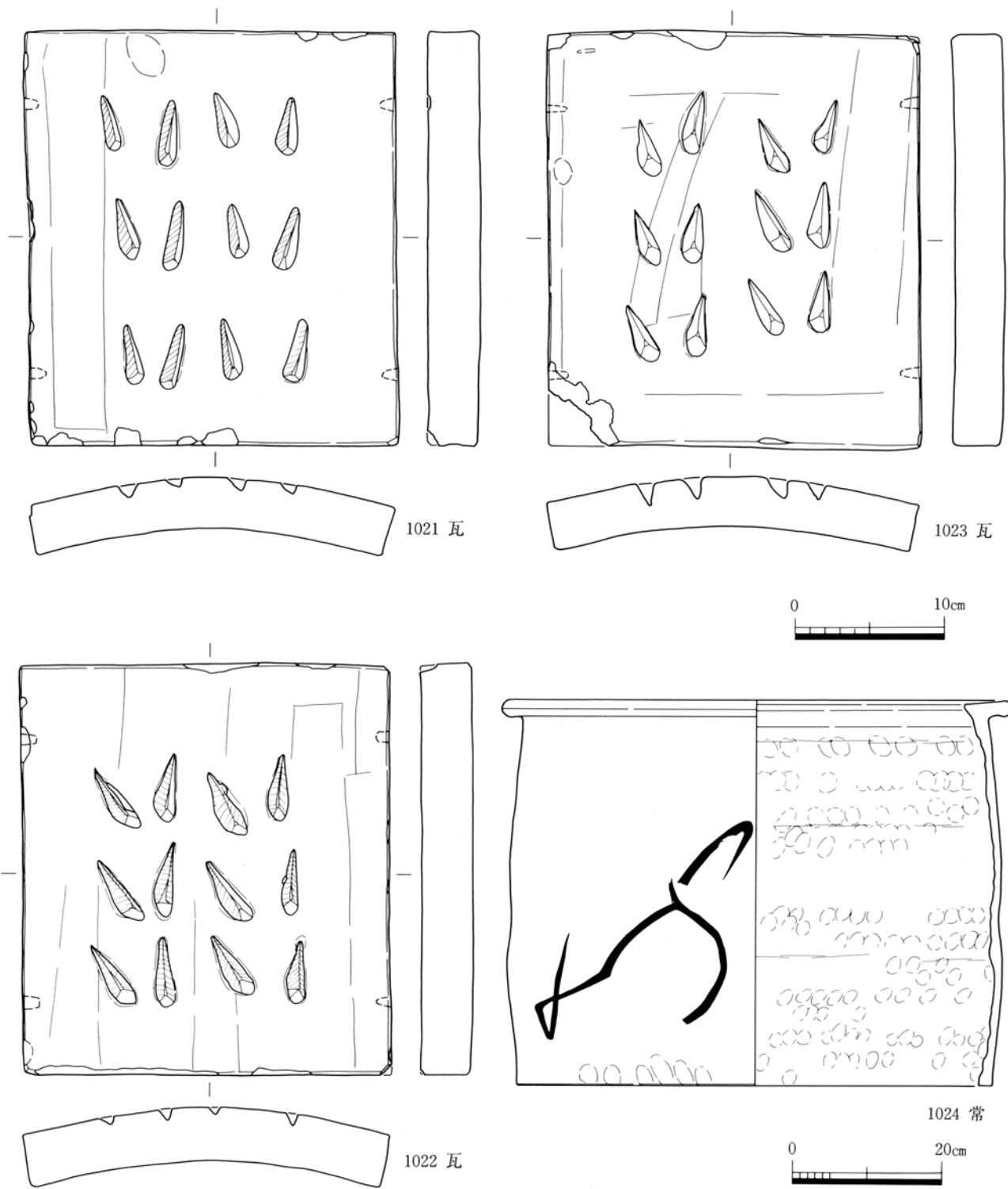
### C 常滑窯産陶器（第87図1024）

陶製井戸に用いられる井戸側は、常滑窯産陶器の赤物製品の井筒である。この製品は井戸専用に焼成されたもので、円筒状の形態をなしている。SE4016から出土した井筒は胴部が丸みを持ち、口縁部がY字形となっているものである。SE6078から出土した井筒（1024）は胴部が直線的に垂直に立ち上がり、口縁部はT字形となっているものである。体部の外面には墨書が記されている。

（鈴木正貴）



第86図 井戸側実測図(1)

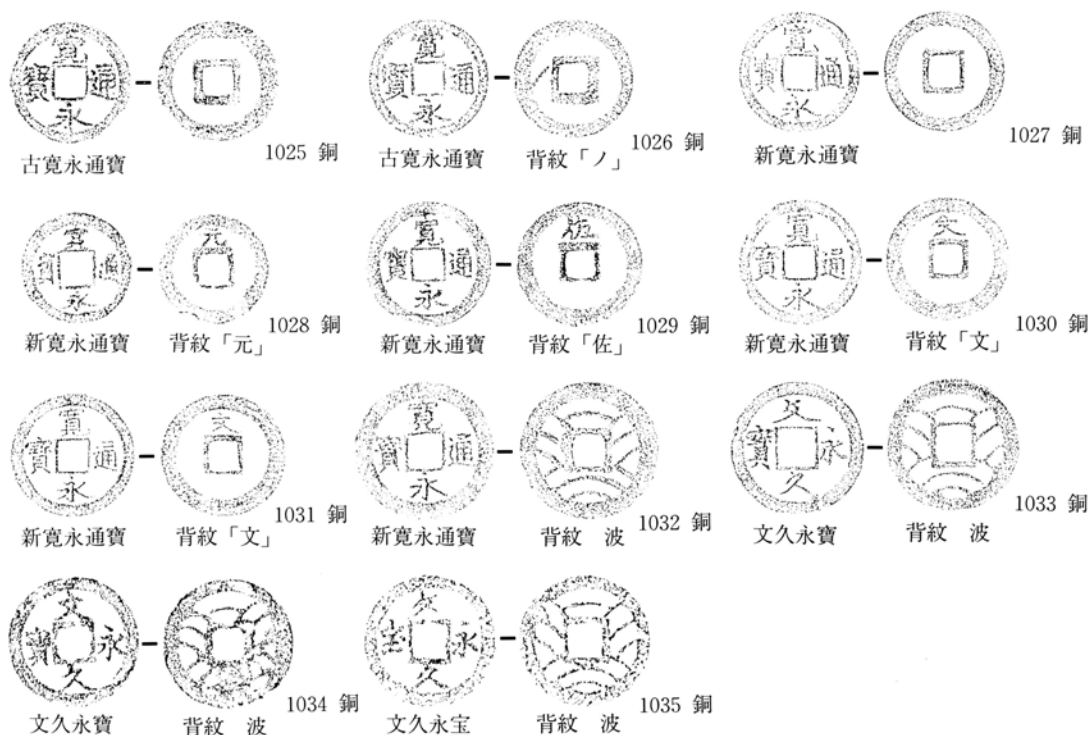


第87図 井戸側実測図 (2) (1024はS = 1 : 8)

## 第10節 金属製品 (第88図1025~1035)

宿場町期の金属製品は多岐に亙る製品が存在すると思われるが、宿場町期の遺構から出土したものの以外の製品については時期が特定できない側面があり、宿場町期の金属製品の抽出は困難を伴う。ここでは、個別の遺構出土資料では十分に紹介できなかった錢貨に関してのみ取り上げて報告することにした。

宿場町期の錢貨は総数111枚出土しており、錢種は寛永通宝 (1025~1032) 105枚と文久永宝 (1033~1035) 6枚が認められる。寛永通宝は一般的に古寛永通宝 (1025・1026) と文銭 (1030・1031) と新寛永通宝 (1027等) に区分でき、それぞれ26枚、11枚、68枚出土している。新寛永通宝は、背紋に波紋を持ついわゆる「波銭」9枚 (1032)、背紋に「元」と記されるもの3枚 (1028)、背紋に「佐」と記されるもの3枚 (1029) 等がある。調査区別に出土量を検討すると61A区・62C区・89E区・61D区で多く出土しているが、特定の傾向は看取できなかった。(鈴木正貴)



第88図 金属製品 (錢貨) 拓影図 (S ≐ 2 : 3)

## 第Ⅷ章 自然科学分析

## 第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法

### A はじめに

清洲城下町遺跡(朝日西遺跡を含む)からは、城下町期(1478年~1613年)と宿場町期(1613年~1891年)の遺構・遺物が多数検出されており、その中には多数の漆器資料も含まれている。本節では本遺跡から出土した漆器の製作技法について、自然科学的手法を用いた調査を行ったので、その結果を報告する。

### B 調査の方法

一般に漆器の製作は、原木から木地をつくり挽き物・板物の形態にする木胎製作の工程と、その木胎に下地及び漆を塗布し、装飾、研磨作業を行う漆工の工程から成り立っている。このような漆器資料の製作技法を調査することは、個々の資料の性格を正確に把握する上で有効な方法であり、それらが出土した遺構・遺跡の性格を考える上でも意味があろう。本稿では、漆器資料の製作技法に関する調査として、まず形態、漆塗り表面の状況を表面観察した後、①用材選択、②木取り方法、③漆膜面の漆塗り構造、④色漆の使用顔料等の項目別に自然科学的な手法を用いた分析を行った。以下に、項目別に調査方法を記す。

#### ① 用材選択(樹種鑑定)

樹種の同定作業は、出土木材の内部形態の特徴を顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、遺物本体をできるだけ損傷しないように破切面等オリジナルでない面から木口・柀目・板目の三方向の切片をカミソリの刃を用いて作成した。切片は常法に従い脱水し、検鏡プレパラートに仕上げた。

#### ② 木取り方法

挽き物類である漆器資料の木取り方法の調査は、樹種鑑定の切片作成時に同時に行った。

#### ③ 漆膜面の塗り構造

まず、肉眼で漆器資料の漆塗表面の状態を観察した後、簡易顕微鏡を用いて細部の観察を行った。次に漆器資料の表面洗浄作業の際に出た1mm×3mm程度の漆剥落片を採取し合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルダイトGY1251 JP.ハードナーHY837)を包埋させた後、断面を研磨し、漆膜の厚さ・塗り重ね構造・顔料粒子の大きさ・下地の状態について顕微鏡観察を行った。

#### ④ 色漆の使用顔料の定性分析

色漆に用いられた顔料の無機物に関する定性分析には、先の漆膜剥落片をカーボン台に取り付け、日立製作所S-415型の走査電子顕微鏡に堀場製作所EMAX-2000エネルギー分散型X線分析装置(X線マイクロアナライザー)を連動させてそれを用いた。分析設定時間は500SEC.分析ポイントは30倍スポット照射。なお、分析チャートの補正には、Geochemical Journal vol.P175-192(1974)「1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference sample JG-1 grandiorite and JB-1 basalt」Atusi Ando and othersのJG-1,JB-1サンプルを用いた。

## C 調査結果

今回、調査を行った漆器資料は合計770点である。これらについて、前項で項目別に記した方法を用いて調査を行った。その結果を第8表に示す。

まず、挽き物類である本漆器資料の形態をみると、椀・蓋・皿形を中心にしており、それぞれ当時の基本的な飲食器類である飯椀・汁椀・菜椀等に対応するものと考えられる<sup>(1)</sup>。また、板物類は箱物・曲物の部材破片を中心としており、いずれも日常生活什器である各種調度品類に対応するものであろう。

### ① 用材選択 (樹種鑑定)

個々の資料の材の利用 (用材選択) の状況をみると、挽き物類では広葉樹のブナ・クリ・コナラ (もしくはクヌギ) ・その他シイノキ等のブナ科・トチノキ・カツラ・カエデ属・ケヤキ等のニレ科・ミズメ (もしくはアサダ) ・ハンノキ・その他のカバノキ科・サクラ亜属等のバラ科・シオジ等のモクセイ科・ミズキ・ホオノキ材等が、板物類では針葉樹のヒノキ・スギ・アスナロ材等が、その他の器種ではタケ・イスノキ材等が確認され、合計で22種を数える。

末沢 (1975) の研究によると、近世以降のろくろ挽き物である漆器類の用材には、早晚材の組織差が少ない広葉樹の散孔材、もしくは環孔材ではあるが靱性がある材を適材であるとしている (第7表)。また、板物である漆器類の用材には、アテ (アスナロ) ・ヒノキを最良材とし、ネズコ・サワラ・ヒバ・スギ・モミ・マツ等の針葉樹を適材であるとしている<sup>(2)</sup>。この点を考慮に入れて、本漆器資料の用材選択の傾向をみると、挽き物類・板物類ともに最良材であるケヤキ等ニレ科の材・ヒノキ材などと、かたや加工や入手の容易さという大量生産の点からみて、廉価で一般性が高いとされるトチノキ材・ブナ材・スギ材などの2種類のグループに分かれた。

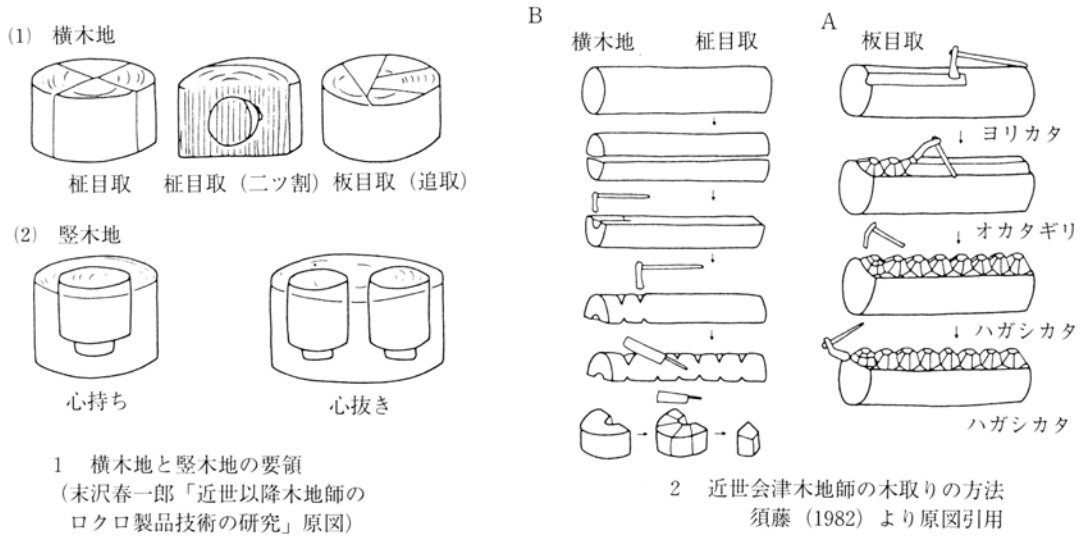
### ② 木取り方法 (第89図)

挽き物類である漆器資料の木取り方法は、いずれも横木地が中心であり、板目取りと柁目取りの2種類が見い出された。中・近世の挽き物類である漆器椀の木取り方法の多くは材の割れ、狂いを考慮に入れて、木芯を外した横木地を用いる例が大半であり、本漆器資料の木胎製作の工程もその範疇に入るものである。すなわち、それぞれの材の性質を考慮に入れたものであった可能性が理解される<sup>(3)</sup>。

A 環 孔 材	a. ケヤキ系 ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリ ギリ、クリ、ヤマゲワなど	木目が明瞭に表れる。堅硬であるが靱性もあり、木皿 など薄手の物に適する。
B 散 孔 材	b. サクラ、カエデ系 イタヤカエデその他のカエデ 類、ヤマザクラ、ウワミズザ クラ、ミズメなど	白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。 割れ狂いが少なく、やや堅さはあるが加工は容易。下 地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。
	c. ブナ、トチノキ系 トチノキ、ブナ、ミズキ、カ ツラ、ホオノキなど	軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも 多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大である。
	d. エゴノキ系 エゴノキ、アオハダなど	白く軽軟で加工が容易である。仕上げは見た目によく、 彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくに エゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割 れにくいので使用に適する。

橋本鉄男(1979)『ろくろ、ものと人間の文化史31』などを参考にして作成

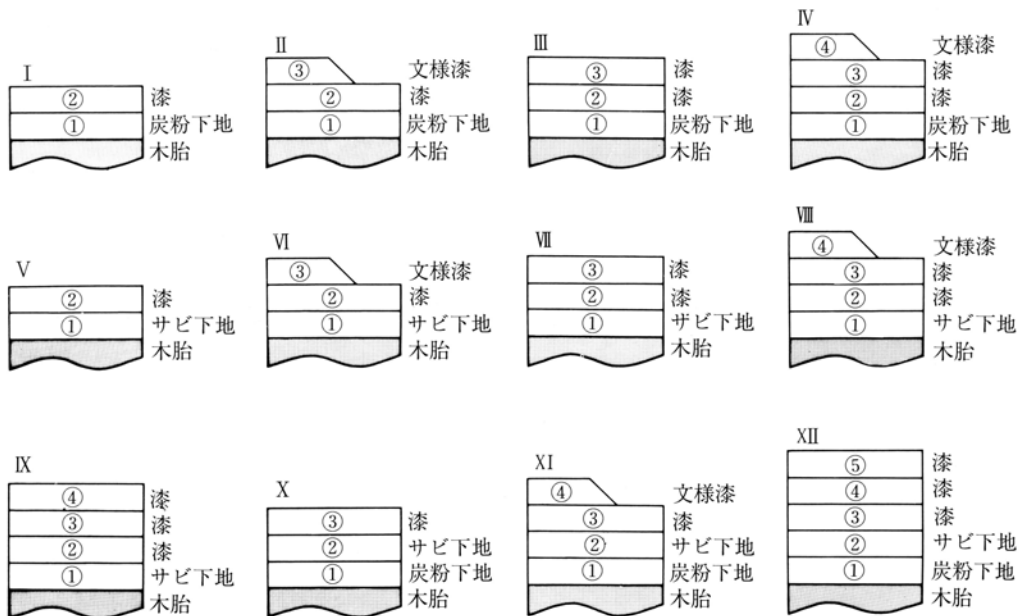
第7表 ろくろ挽き物の用材分類一覧表



第89図 近世以降の漆器 (挽き物類) の木取り方法

③ 漆膜面の塗り構造

個々の漆器表面の漆塗り技法をみてる。塗りは地と文様からなり、本漆器資料の場合、無文様で地塗りのみの資料と家紋等の漆絵文様を地外面に描く資料に分かれた。漆塗り面の構造、特に各漆器資料の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、無機物を含んでいないためピークがほとんど見出されない資料と、Al (アルミニウム)・Si (シリカ)・K (カリウム)・Ca (カルシウム)・Fe (鉄) 等粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークが認められる資料に分けられた (第91図)。さらにこれらを顕微鏡観察することにより、前者を炭粉を柿渋やにかわ等に混ぜて用いる炭粉下地 (代用下地)、後者を細かい粘土もしくは珪藻土を生漆等に混ぜ



第90図 漆塗り構造の分類

て用いるサビ下地（堅下地もしくは本下地ともいう）と理解した。また、地の漆塗り層は、いずれも1層塗りから3～4層塗りまで見出しされ、口縁部分や高台縁部分に布着せ補強を施したり、9層塗り（No490）等の多層塗り構造を持つ資料もいくつか存在する。なお、本漆器資料の加飾はいずれも地の上塗り層の上に描かれていた。

このような近世漆器の製作技法のあり方を示す民俗事例の1つに、新潟県糸魚川市大所のナカシマ家小椋丈助氏による実用に即した近世木地師、漆器碗の製作技法に関する口承資料がある<sup>(4)</sup>。それによると以下のように各漆器ランク別の工程をよく示している。

〈上品〉 布着せ補強（碗の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く）→サビ下地（砥の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布）→下塗り（生漆）→上塗り（生漆に赤色系顔料もしくは黒色系顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒色系漆）の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。

〈下品〉 炭粉下地（柳や松煙を柿渋に混ぜて用いるサビ下地の代用下地）→上塗り（生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入して用いる粗悪な漆）。

〈中品〉 下品とほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したり、ミガキを丁寧にししたりする。下品よりかなり持ちが良い。

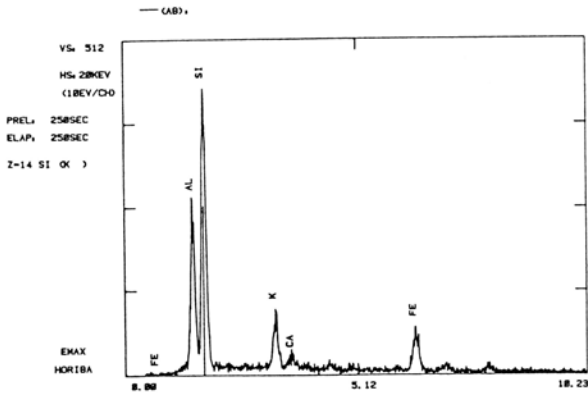
この事例を参考にして、本漆器資料の塗り構造をみてもと、きわめて簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料から、やや堅牢で複雑な多層塗り構造を持つ優品資料まで、いくつかのランクに分類されることがわかった（第90図）。

#### ④ 色漆の使用顔料の定性分析

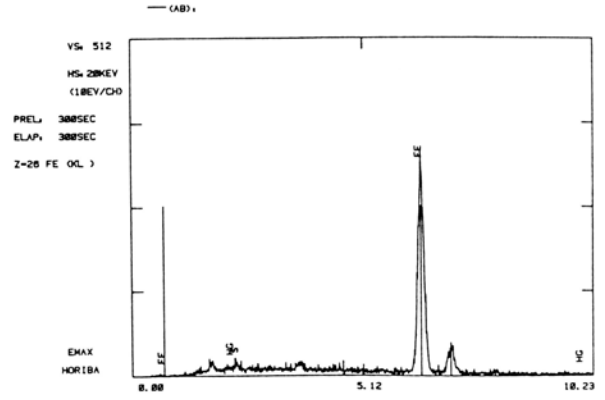
色漆の性質についてみる。赤色系漆の使用顔料の定性分析結果では、Fe（鉄）のピークが強く認められる資料（第92図）、Hg（水銀）およびS（硫黄）のピークが強く認められる資料（第93図）、その両者が強く認められる資料（第94図）の3種類に分けられた。これらをさらに顕微鏡観察することで、それぞれベンガラ（酸化第二鉄 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）、朱（辰砂もしくは水銀朱 $\text{HgS}$ ）、ベンガラ+朱の異なる赤色系顔料を用いた赤色系漆であると理解した。ベンガラ・朱ともに赤色系顔料としての歴史は古いが、近世以降の漆器資料の顔料としては、江戸中期以降幕府の統制物資となる朱に比較して、ベンガラの方が廉価で一般的であったようである<sup>(5)</sup>。しかし、本漆器資料の場合、朱を使用する実例がきわめて多く、その様相が大きく異なることが理解された。

次に金粉状装飾（金彩）・銀粉状装飾（銀彩）の定性分析結果では、Au（金）・Ag（銀）のピークが認められる資料（第95図・第97図）の他、Sn（スズ）やAs+S（石黄、硫化ヒ素）のピークが強く認められる資料が確認された（第96図・第98図）。この結果は、本漆器資料の金粉状装飾（金彩）・銀粉状装飾（銀彩）として、金粉・銀粉自体を使用する例とともに、石黄粉や錫粉等の代用金粉を使用する例の存在を示すものと理解され、個々の漆器資料の性格を考える上で一つの指標となろう。

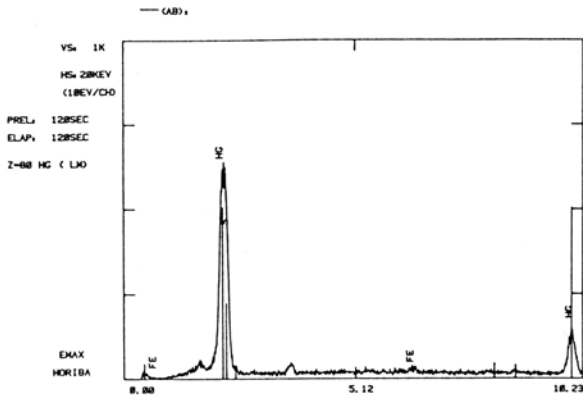
いずれにしても、本漆器資料を製作技法の面からみると、簡素で量産型のつくりで極めて実用に即した日常什器から堅牢で複雑な漆工技法を有する優品に至るまで、いくつかのランク別のグループに分類され、その前者が占める割合が高いようである<sup>(6)</sup>。さらに各年代別（時期別）にこれらの品質組成の傾向をまとめてみると、それぞれ若干の差異が認められた（第99図）。 （北野信彦）



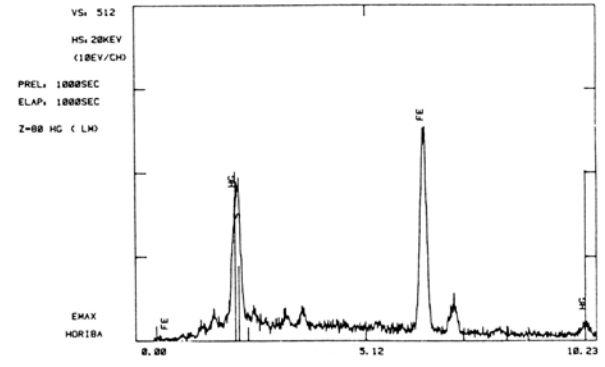
第91図 サビ下地 (粘土鉱物もしくは珪藻土)



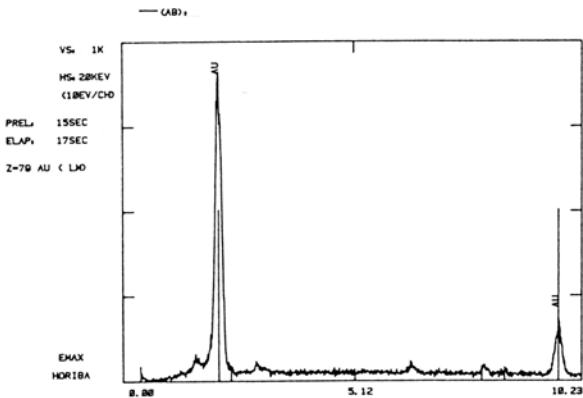
第92図 赤色系漆 ベンガラ ( $Fe_2O_3$ )



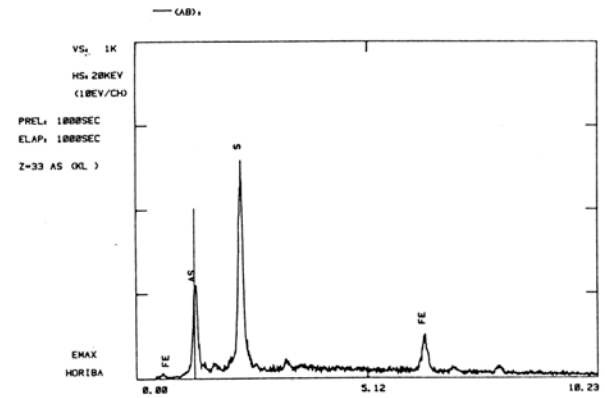
第93図 赤色系漆 朱 ( $HgS$ )



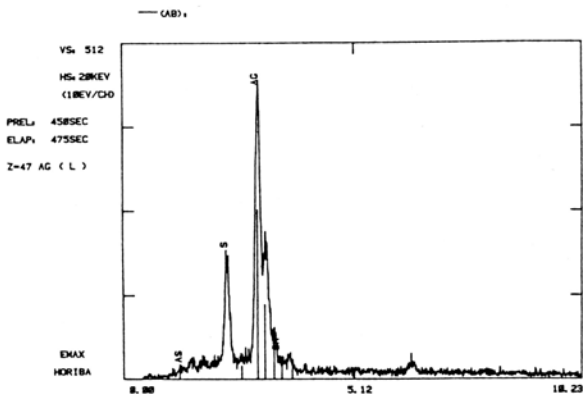
第94図 赤色系漆 朱+ベンガラ ( $HgS+Fe$ )



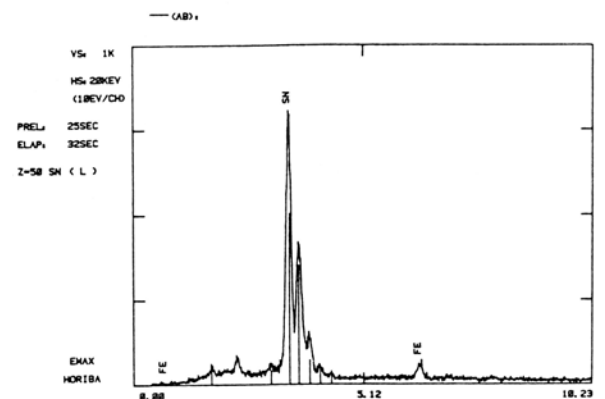
第95図 金粉状装飾 (金彩) 金 ( $Au$ )



第96図 石黄 (硫化ヒ素 $As+S$ )

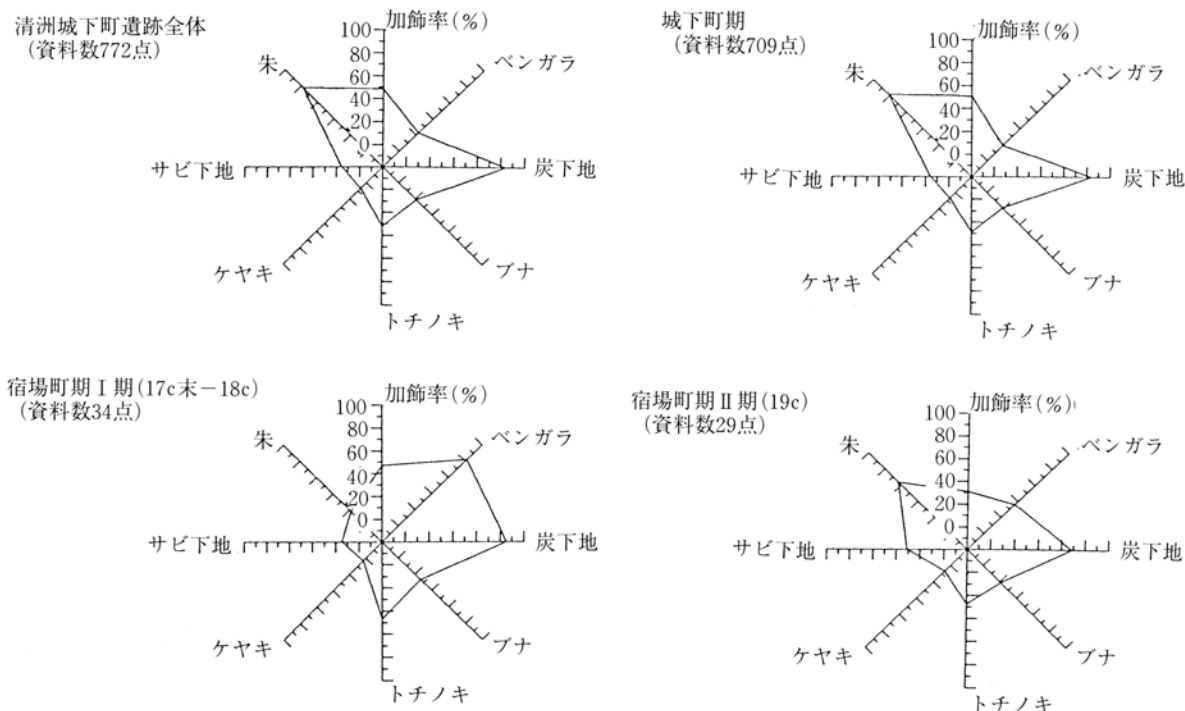


第97図 銀粉状装飾 (金彩) 銀 ( $Ag$ )



第98図 金粉状装飾 (金彩) 錫 ( $Sn$ )

X線分析結果



第99図 年代別出土漆器資料の品質組成の傾向 (集計例)

註 (1) 一覧表に記載した木胎漆器碗および皿の器種分類は以下のとおりである。基本的には、鈴木正貴 (1992) 「清須城下町から出土した漆器について」『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集で用いた分類を参考にして一部を改変した。 (鈴木正貴補筆)

- 碗A——口縁部が直線的または内彎し、高い高台を持つ碗。
- 碗B——口縁部が直線的または内彎し、低い高台を持つ碗。
- 碗C——法量が小さい小碗。
- 碗D——口縁部が外反し、高い高台を持つ碗。
- 碗E——腰部に稜線を持つ碗。
- 皿A——口縁部が内彎する皿。
- 皿B——口縁部が外反する皿。

- (2) 末沢春一郎 (1975) 「近世以降木地師のロクロ製品製作技法の研究」『京都大学農学部林学科卒業論文』、橋本鉄男 (1979) 『ろくろ ものと人間の文化史31』法政大学出版局。
- (3) 須藤護 (1982) 『日本人の生活と文化⑤暮らしの中の木器』日本観光文化研究所編 ぎょうせい。
- (4) 文化庁文化財保護部編 (1974) 『木地師の習俗 民俗資料選集2』国土地理協会。
- (5) 輪島市教育委員会 (1973) 『輪島市史 第六巻 資料編』。
- (6) 北野信彦 (1990) 「近世尾張における生活什器として出土漆器資料」『愛知大学総合郷土研究所 紀要35巻』愛知大学、北野信彦 (1992) 「近世武家社会における生活什器として漆器資料」『愛知大学総合郷土研究所 紀要38巻』愛知大学。

第8表 漆器一覧表

凡例

- 1 「報告書」は本センター刊行の報告書名の略称を示した。
- 2 「時期」は『清洲城下町遺跡IV』・『清洲城下町遺跡V』に示された区分に統一した。
- 3 「木取り」は横木地板目取りをA、横木地柃目取りをBとした。
- 4 「表面」は表面塗り技法を内（内面）・外（外面）・文様の項目に分けて、色を表示した。
- 5 「顔料」は使用顔料の定性分析結果を内・外・文様の項目に分けて記載した。
- 6 「構造」は漆膜面の塗り構造を、第90図の分類に従って内・外の項目に分けて記載した。
- 7 高台内・口縁部の塗り技法は備考に一括した。
- 8 膜面のみ遺存したもの、容器ではないもの等の内外面の区分が困難なものは、全て「外」に記述した。

番号	報告書	調査区	新遺構番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
1	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	香合身	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
2	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
3	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	輪B	広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱			I	I	
4	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	輪不明	クリ	B	赤	黒		朱			I	I	
5	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	輪B	カバノキ科	A	赤	赤		朱	朱		I	I	
6	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱・V'ji			I	I	
7	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1		広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱			I	I	
8	清洲I	G2E	SD118	城II-1~III-1		カバノキ科	A	赤	赤		朱・V'ji	朱・V'ji		I	I	
9	清洲I	G2E	SD121	城	輪B	バラ科	A	赤	黒		朱・V'ji			I	I	
10	清洲I	G2E	SD121	城	輪不明	ブナ	B	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒
11	清洲I	G2E	SD121	城	輪B	ケヤキ	A	赤	黒		朱			I	I	
12	清洲I	G2E	SD121	城	輪C	クリ	A	赤	黒		朱・V'ji			I	I	
14	清洲I	G2F	SD114	城	輪不明	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱・V'ji		朱	I	II	
15	清洲I	G2F	SD114	城	輪A	ブナ	A	黒	黒	内-赤			朱	II	I	
16	清洲I	G2F	南14f	-	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
17	清洲I	G2E	SD121	城III	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
18	清洲I	G2I	SD126	城III-1	輪B	クリ	A	黒	黒					I	I	
19	清洲I	G3E	SD136	城I	不明	トチノキ	B	赤	黒					I	I	
20	清洲I	G3E	SD136	城I	不明	トチノキ	A	赤	黒		V'ji			I	I	
21	清洲I	G3E	SD136	城I	輪B	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
22	清洲I	G3E	SD136	城I	輪B	広葉樹散孔材	A	赤	黒		V'ji			I	I	
23	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	V'ji		朱	I	II	
24	清洲I	G3E	SD136	城I	輪A	クリ	B	赤	黒		朱			I	I	
25	清洲I	G3E	SD136	城I	輪B	カエデ属	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	IV	
26	清洲I	G3E	SD136	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
27	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	ケヤキ	A	黒	黒					VI	VII	
28	清洲I	G3E	SD136	城I	輪B	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
29	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	クリ	B	赤	黒		朱			I	I	
30	清洲I	G3E	SD136	城I	輪A	カツラ	A	赤	黒	外-赤	V'ji		朱	III	II	
31	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱・V'ji		朱	I	II	
32	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			朱・V'ji	I	II	
33	清洲I	G3E	SD136	城I	III	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
34	清洲I	G3E	SD136	城I	香合身	サクラ亜属	A	赤	黒		朱			VI	V	
35	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	クリ	A	黒	黒					I	I	
36	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明			黒	黒					VI	I	
37	清洲I	G3E	SD136	城I	輪不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
38	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪	不明材			黒						V	
39	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪不明	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	
40	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪A	クリ	A	赤	黒		V'ji			III	III	高台内-刻書
41	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	V'ji		朱	I	II	
42	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪A	クリ	A	黒	黒					I	I	
43	清洲I	G3F	SD101	城II-1~III-1	輪不明	トチノキ	B	赤	黒		朱			I	I	

番号	報告書	調査区	新遺構番号	時期	器種	器種	本取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
44	清洲Ⅰ	63P	SD101	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	折敷底板	ヒノキ	A	黒	黒		朱			I・Ⅳ	I・Ⅳ	内一漆
45	清洲Ⅰ	63P	SD101	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀A	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
46	清洲Ⅰ	63P	SD101	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱(バヅ)		朱	I	Ⅱ	
47	清洲Ⅰ	63P	SD101	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀B	ケヤキ	B	赤	赤	高台内-赤	朱(バヅ)	朱	朱	Ⅳ	Ⅳ	高台-黒
48	清洲Ⅰ	63P	SE104	城Ⅱ-2	椀不明	トチノキ	A	赤	赤		朱	朱		I	I	
49	清洲Ⅰ	63P	北ノツツ	-	椀不明	ケヤキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I+I	I+Ⅱ	
50	清洲Ⅰ	63P	北ノツツ	-	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		バヅ			I	I	
51	清洲Ⅰ	63G	SD112	城Ⅰ	椀B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
52	清洲Ⅰ	63G	SD112	城Ⅰ	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
53	清洲Ⅰ	63G	SD112	城Ⅰ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
54	清洲Ⅰ	63B	SD116	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
55	清洲Ⅰ	63B	SD116	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
56	清洲Ⅰ	63B	SD116	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
57	清洲Ⅰ	63B	SD117	城Ⅱ-1~Ⅲ-2	椀不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	バヅ		朱	I	Ⅱ	
58	清洲Ⅰ	63B	SD117	城Ⅱ-1~Ⅲ-2	椀不明	ブナ	B	赤	赤		朱	朱		I	I	
59	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	クリ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	Ⅱ	Ⅱ	
60	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	黒	黒					I	I	高台内-刻書
61	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	折敷底板	スギ	A	赤	赤		朱	朱		V	Ⅳ	
62	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	赤	黒		バヅ			I	I	
63	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀不明	キオノキ	A	赤	黒	外-赤	バヅ		朱(バヅ)	I	Ⅱ	
64	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀B	クリ	A	赤	黒		バヅ			Ⅲ	Ⅲ	
65	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱(バヅ)		朱	I	Ⅱ	
66	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀不明	クリ	A	赤	黒	外-赤	バヅ		朱(バヅ)	I	Ⅳ	
67	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱(バヅ)		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
68	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
69	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	皿A	ケヤキ	B	赤	赤	高台内-赤	朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	布着せ、高台-黒
70	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	動物桶底板	ヒノキ	A	黒	黒					I	I	
71	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	折敷底板?	スギ?	A	赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	
72	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅳ	高台内-刻書
73	清洲Ⅰ	63E	SD110	城Ⅱ-1~Ⅱ-2	不明				黒						I	裏面のみ
74	清洲Ⅰ	63E	SD111	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
75	清洲Ⅰ	63E	SD111	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
76	清洲Ⅰ	63E	SD111	城Ⅱ-1~Ⅲ-1	椀不明	ブナ	B	赤	黒		朱			Ⅲ	Ⅲ	
77	清洲Ⅰ	63E	SE112	-	不明	ヒノキ	B	赤	赤		バヅ	バヅ		I	I	
78	清洲Ⅰ	63L	SD137	城Ⅲ-1	ヘラ	スギ	B	赤	赤		朱	朱		Ⅲ	Ⅲ	
79	清洲Ⅰ	63L	SD137	城Ⅲ-1	椀A	クマシデ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
80	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
81	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	皿A	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		X	X	
82	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀B	クリ	A	赤	黒		朱			I	I	
83	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀B	クリ		赤	黒	外-赤	バヅ		朱	I	Ⅱ	
84	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	ブナ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	Ⅱ	Ⅱ	
85	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ケヤキ	A	赤	黒		朱			V	Ⅳ	布着せ
86	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	折敷底板?	ヒノキ		黒	黒					Ⅲ	Ⅲ	上端面-黒
87	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	動物板	ヒノキ		黒	黒					I	I	
88	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
89	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱(バヅ)		朱	I	Ⅱ	
90	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	Ⅱ	
91	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	動物桶底板	ヒノキ?		黒	黒					I	I	
92	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅱ	餅杓	針葉樹		黒	黒					Ⅲ	Ⅲ	
93	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅱ	不明			赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	裏面のみ
94	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	ケヤキ	B	赤	黒		朱			Ⅲ	I	高台内-刻書
95	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	クリ	B	赤	黒	内-赤	バヅ		朱	Ⅱ	I	
96	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	クリ	A	赤	黒	外-赤	バヅ		朱(バヅ)	I	Ⅱ	高台内-刻書
97	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	シオジ	B	赤	赤		朱	朱		V	V	
98	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ブナ科	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
99	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	
100	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ブナ	B	赤	黒		朱			Ⅲ	Ⅲ	
101	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
102	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
103	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	クリ	B	赤	黒		バヅ			I	Ⅲ	
104	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	広葉樹散孔材	B	赤	赤		朱	朱		Ⅲ	Ⅲ	
105	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	シオジ	B	赤	赤		朱	朱		V	V	
106	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	バヅ		朱	I	Ⅱ	
107	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅲ	
108	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	椀不明			黒	黒					I	I	
109	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	不明	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
110	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	バヅ		朱	I	Ⅱ	
111	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	不明	針葉樹		黒	黒					Ⅳ	Ⅳ	
112	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	不明	ブナ	B	黒	黒					Ⅲ	Ⅲ	
113	清洲Ⅱ	59A	XR03	城Ⅲ	不明	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	
114	清洲Ⅱ	59A	検出	-	折敷底板?	針葉樹		黒	黒					V	V	
115	清洲Ⅱ	59A	北ノツツ	-	椀不明	クリ	B	赤	黒	外-赤	バヅ		バヅ	I	Ⅱ	
116	清洲Ⅱ	59A	北ノツツ	-	椀A	ケヤキ	A	赤	黒		朱			V	V	
117	清洲Ⅱ	59B	SD29	城Ⅲ	動物板	針葉樹		黒	黒					Ⅳ	Ⅳ+V	上端面-黒
118	清洲Ⅱ	59C	SD16	城Ⅰ~Ⅲ	椀B			黒	黒	高台内-赤			朱	Ⅳ	Ⅳ	高台-黒
119	清洲Ⅱ	59C	SD16	城Ⅰ~Ⅲ	折敷底板	針葉樹		黒	黒					Ⅲ	Ⅲ	
120	清洲Ⅱ	59C	SD16	城Ⅰ~Ⅲ	折敷底板	針葉樹		赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	

清洲城下町遺跡V

番号	報告書	調査区	新透視番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
121	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	不明板	ケヤキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	X	X I	
122	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	輪B	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅳ	
123	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	輪B	クリ	A	赤	黒		朱			I	I	
124	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	輪不明	広葉樹		赤	赤		朱	朱		V	V	口縁部-黒
125	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱+V'j			I	I	
126	清洲Ⅱ	59C	SD16	城1~Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材		赤	黒		V'j			I	I	
127	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱+V'j		朱	I	Ⅱ	
128	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
129	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	スダジイ	A	黒	黒	外-赤			朱	Ⅲ	Ⅳ	高台内-刻書
130	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	ブナ科	B	赤	黒	外-赤			朱	I	Ⅱ	
131	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅱ	
132	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	ケヤキ?	A	黒	黒					I	I	
133	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	サクラ亜属	B	赤	黒		朱			I	I	
134	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	ⅢC	ケヤキ	A	赤	黒		朱			V	Ⅵ	
135	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	黒	赤			朱		I	I	高台-黒
136	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	ⅢB	トチノキ	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	I	Ⅱ	高台-黒
137	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	カバノキ科	A	赤	赤		V'j	V'j		Ⅲ	Ⅲ	高台-黒
138	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	カワラ	B	赤	黒	外-赤	朱+V'j		朱	I	Ⅱ	
139	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱+V'j		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
140	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
141	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪A	カバノキ科	B	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒-輪反
142	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅳ	
143	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	キオノキ	B	赤	黒		朱			I	I	
144	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
145	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
146	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	A	赤	黒		朱			I	I	
147	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅲ	
148	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱+V'j		朱	I	Ⅱ	
149	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
150	清洲Ⅱ	59C	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
151	清洲Ⅱ	59D	SD16	城1~Ⅲ	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
152	清洲Ⅱ	59D	SD65	中,城1~Ⅱ	輪B	ハンノキ?	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
153	清洲Ⅱ	59D	SD65	中,城1~Ⅱ	輪不明	広葉樹散孔材	B	赤	赤		朱	朱		Ⅲ	Ⅲ	
154	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅱ	
155	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
156	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅱ	
157	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	シイノキ?	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅱ	
158	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	カヌデ属	B	黒	黒	内-赤			朱	Ⅱ	I	
159	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	ブナ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	Ⅱ	Ⅱ	
160	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅱ	
161	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅱ	
162	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	折敷板	針葉樹		黒	黒					I	I	
163	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
164	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
165	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	高台内-刻書
166	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	ⅢB	広葉樹散孔材	A	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒
167	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
168	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	サクラ亜属	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
169	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅳ	
170	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
171	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
172	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅱ	
173	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒-刻書
174	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
175	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	不明材		赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
176	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	ⅢB	トチノキ	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	I	Ⅱ	高台-黒-輪反
177	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	曲物桶底板?	不明材		黒	黒					I	I	
178	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A		黒						I	
179	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
180	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	曲物桶底板	広葉樹		赤	黒		朱			Ⅷ	Ⅷ+Ⅷ	口縁部-黒
181	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
182	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	クリ	B	赤	黒		朱			Ⅲ	I	
183	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	コナラ?	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
184	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	B	黒	黒	内-外-赤			朱	Ⅳ	Ⅳ	
185	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	トチノキ	A	黒	黒					Ⅲ	Ⅲ	
186	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	折敷板	針葉樹		黒	黒					I	I	
187	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		Ⅷ	Ⅷ	
188	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱		朱	I	I	
189	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	カワラ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
190	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	クリ	A	赤	黒		V'j			I	I	
191	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	カワラ	A	赤	黒	外-赤	V'j		朱	I	Ⅱ	
192	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪B	シオジ	A	赤	黒		V'j			I	I	高台内-刻書
193	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	
194	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	輪不明	トチノキ	B	黒	黒	外-赤	朱		朱	I	I	
195	清洲Ⅱ	59D	SD66	城1~Ⅱ	建具部材	針葉樹		黒	黒					I	I	
196	清洲Ⅱ	59D	SD68	城1~Ⅱ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅳ	
197	清洲Ⅱ	59D	SD68	城1~Ⅱ	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅱ	

番号	報告書	調査区	新遺構番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
198	清洲Ⅱ	S9D	SK226	縄Ⅰ~Ⅱ	柄杓	ヒノキ?		黒	黒					I	I	
199	清洲Ⅱ	60B	SD42	縄Ⅲ	椀B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
200	清洲Ⅱ	60B	SD44	縄Ⅲ	椀A	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		X	X	
201	清洲Ⅱ	60B	SD44	縄Ⅲ	椀C	ケヤキ	B	赤	黒	内-金	朱		Au	V	VI	
202	清洲Ⅱ	60B	SD44	縄Ⅲ	椀B	ケヤキ	A	赤	黒		朱			多層	多層	
203	清洲Ⅱ	60F	SD08	縄Ⅰ~Ⅱ	椀A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱	I	II	
204	清洲Ⅱ	61A	SD49	縄Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱		朱	I	II	
205	清洲Ⅱ	61A	SD49	縄Ⅲ	椀B?	ブナ	B	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	I	
206	清洲Ⅱ	61A	147f	-	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
207	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	折敷俵版	ヒノキ		赤	赤		朱	朱		VI	VI	
208	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀B	カブラ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
209	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		VI	VI	
210	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
211	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱	I	II	
212	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
213	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ケヤキ	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	VI	VI	高台-黒
214	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	ⅢA	広葉樹		赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
215	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		VI	VI	
216	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱+朱?			I	I	
217	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	香合身	ケヤキ	A	黒	黒					VI	VI	
218	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱+朱?	I	II	
219	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
220	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀B	カバノキ科	A	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱	I	II	
221	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀B	クルミ科	A	赤	赤		朱	朱		I	I	
222	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀A	クリ	A	黒	黒					I	I	
223	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀B	クリ	A	赤	赤		朱+朱?	朱+朱?		I	I	
224	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
225	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	ⅢA	サクラ亜属	B	赤	赤	高台内-赤	朱		朱	I	I	高台-黒
226	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	折敷俵版	ヒノキ	B	黒	黒					V	V	布着せ
227	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	クリ?		赤	黒		朱			I	I	
228	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱+朱?	I	II	高台-黒
229	清洲Ⅱ	61B	SD49	縄Ⅲ	椀A	トチノキ	A	赤	黒		朱+朱?			I	I	
230	清洲Ⅱ	61B	SD70	縄Ⅰ~Ⅱ	椀A	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
231	清洲Ⅱ	61B	147f	-	椀不明	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
232	清洲Ⅱ	61B	検出	-	椀A?	ケヤキ	A	黒	黒					VI	VI	
233	清洲Ⅱ	61B	検出	-	椀A	コナラ	B	赤	黒		朱			I	I	
234	清洲Ⅱ	61B	検出	-	椀A	クリ	A	赤	黒		朱			I	I	
235	清洲Ⅱ	61B	検出	-	椀A	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	II	
236	清洲Ⅱ	61B	西147f	-	椀B	トチノキ	A	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	II	
237	清洲Ⅲ	92A	SK216	縄Ⅰ-1	不明			赤	赤				朱	III	III	裏面のみ
238	清洲Ⅳ	61A	覆瓦	-	下駄	針葉樹			赤			朱			III	
239	清洲Ⅳ	61B	検出	-	椀?	トチノキ	A	赤	赤	内-金	朱	朱	Au	VI	V	
240	清洲Ⅳ	61C	SK7014	縄Ⅲ-2	椀B	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
241	清洲Ⅳ	61C	SK7014	縄Ⅲ-2	椀B	ブナ	B	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	I	
242	清洲Ⅳ	61C	SK7014	縄Ⅲ-2	椀A	サクラ	B	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	III	II	
243	清洲Ⅳ	61C	SK7014	縄Ⅲ-2	椀B	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
244	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱+朱?		朱+朱?	I	II	
245	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	ケヤキ	B	赤	黒		朱			VI	V	
246	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀	タケ		赤	赤		朱	朱		I	I	
247	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		X	X	
248	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	サクラ亜属	B	黒	黒					I	I	
249	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	バラ科	A	赤	赤		朱+朱?	朱		I	I	
250	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱+朱?			I	II	
251	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	折敷底版?	ヒノキ		赤	黒					VI	VI	
252	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
253	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	折敷俵版?	針葉樹		赤	黒		朱			VI	VI	
254	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
255	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	不明	不明材		赤	黒	外-赤	朱		朱	X	X I	布着せ
256	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	ブナ	B	赤	黒		朱			I	III	
257	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
258	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	人形	ヒノキ	B	赤	黒		朱			I	I	
259	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
260	清洲Ⅳ	61C	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	ブナ	A	赤	黒		朱+朱?			I	I	
261	清洲Ⅳ	61C	147f	-	椀	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		VI	VI	
262	清洲Ⅳ	61C	147f	-	椀B	ケヤキ	B	赤	黒		朱			VI	V	
263	清洲Ⅳ	61C	検出	-	椀A?	ケヤキ	A	黒	黒					VI	VI	
264	清洲Ⅳ	61C	検出	-	不明	広葉樹微孔材		赤	黒		朱+朱?			I	I	
265	清洲Ⅳ	61C	検出	-	不明	不明材		黒	黒					VI	VI	
266	清洲Ⅳ	61C	検出	-	不明	不明材		赤	黒		朱			I	I	
267	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	サクラ亜属	A	黒	黒					I	I	
268	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	バラ科	B	赤	黒		朱+朱?			I	I	
269	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	トチノキ	B	赤	黒	外-高台内-赤	朱+朱?		朱	I	II	
270	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
271	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
272	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
273	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
274	清洲Ⅳ	61D	SK7029	縄Ⅲ-2	椀A	ブナ	B	赤	クルミ	外-赤	朱		朱,As+S	I	IV	

清洲城下町遺跡V

番号	報告書	調査区	新記録番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
275	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪A			赤	赤	外-黒、高台内-赤	朱	朱	朱	I	IV	高台-クルミ
276	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪A	広葉樹環孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	
277	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	皿A	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
278	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪A			赤	赤	外-黒	朱	朱		I	II	
279	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪B	ブナ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
280	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
281	清洲IV	61D	SE1029	城Ⅲ-2	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
282	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
283	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
284	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
285	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
286	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪不明	クルミ科	B	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
287	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
288	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	ホノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
289	清洲IV	62C	KR4001	城I	皿A	サクラ垂隔	A	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	高台-黒
290	清洲IV	62C	KR4001	城I	皿B	トチノキ	B	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	I	II	高台-黒
291	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪不明	トチノキ	B	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
292	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
293	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	高台内-刻書
294	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
295	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
296	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
297	清洲IV	62C	KR4001	城I	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤、高台内-赤	朱		朱	I	II	高台-黒
298	清洲IV	62C	SD4042	宿	不明板	カツラ	A		黒							Ⅷ
299	清洲IV	62C	SE4596	城I	不明	ケヤキ?		赤	赤		朱	朱		Ⅷ	Ⅷ	裏面のみ
300	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪B	カツラ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
301	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
302	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	サクラ垂隔	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
303	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
304	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪B	カツラ	B	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	
305	清洲IV	62C	SE5200	城I	不明	広葉樹環孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
306	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	カツラ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
307	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
308	清洲IV	62C	SE5200	城I	皿?	ブナ	A	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	高台-黒
309	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪B	ブナ	B	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	
310	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
311	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
312	清洲IV	62C	SE5200	城I	香合蓋	バラ科	A	赤	黒		朱			V	V	
313	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	カツラ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
314	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪A	ブナ	A	赤	黒		朱			I	I	
315	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
316	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪B	サクラ垂隔	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
317	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
318	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	ブナ	A	赤	黒		朱			III	III	
319	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪不明	カツラ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
320	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
321	清洲IV	62C	SE5200	城I	輪A	ブナ	B	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
322	清洲IV	62C	SR0001	城Ⅲ-2	残物不明	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		Ⅷ	Ⅷ	
323	清洲IV	62C	SR0001	城Ⅲ-2	輪A	ブナ	B	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	I	高台内-刻書
324	清洲IV	62C	フジ	-	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
325	清洲IV	62C	フジ	-	輪B	クルミ科?	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
326	清洲IV	62C	覆瓦	-	皿A?	トチノキ	A	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	IV	
327	清洲IV	62C	検出	-	不明				赤			朱				Ⅷ 裏面のみ
328	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪B	クルミ科	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
329	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪B?	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
330	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪A	クルミ科	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
331	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	杯	トチノキ	A	赤	黒	内-金-黒	朱	朱	As+S	VI	VI-I	高台-赤
332	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
333	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪A?	ホノキ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
334	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪B	ブナ	B	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
335	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪不明	トチノキ	B	赤	赤		朱	朱	朱	I	II	
336	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪不明	サクラ垂隔	B	赤	赤		朱	朱	朱	III	III	
337	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
338	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪A	ケヤキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	V	VI	
339	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	不明				赤			朱				Ⅷ 裏面のみ
340	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪B?	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
341	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
342	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	不明	炭化材		赤			朱			I		
343	清洲IV	62D	SR0001	城Ⅲ-2	不明				黒	外-赤			朱			Ⅷ 裏面のみ
344	清洲IV	62D	検出	-	輪不明			赤	赤		朱	朱		Ⅷ	Ⅷ	口縁部-黒
346	清洲IV	62G	SD0015	城I	皿A			赤	赤	高台内-黒	朱	朱		X	X-I	口縁部-黒
347	清洲IV	62G	フジ	-	輪A	クリ	B	赤	黒	外-赤				I	II	
348	清洲IV	63C	SD0001	城Ⅲ	皿A	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		Ⅷ	Ⅷ	
349	清洲IV	63C	SD0001	城Ⅲ	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
350	清洲IV	63C	SD0001	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
351	清洲IV	63C	SD0001	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
352	清洲IV	63C	SD0001	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	

番号	報告書	調査区	新記録番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
353	清洲IV	63C	H77f	-	輪不明	ブナ	B	赤	赤		△ヅリ	△ヅリ		I	I	
354	清洲IV	63C	H77f	-	輪A	トチノキ	A	赤	黒		△ヅリ			I	I	
355	清洲IV	63C	H77f	-	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤,高台内-金	△ヅリ		△ヅリ,As+S	I	II	
356	清洲IV	63C	H77f	-	輪E	トチノキ	A	赤	赤		△ヅリ	△ヅリ		I	I	
357	清洲IV	63C	H77f	-	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-金-赤	△ヅリ		As+S	I	II	
358	清洲IV	63C	H77f	-	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		△ヅリ	I	II	
359	清洲IV	63C	東H77f	-	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		△ヅリ	I	II	
360	清洲IV	63C	東H77f	-	輪E	ブナ	B	赤	赤		△ヅリ	△ヅリ		I	I	
361	清洲IV	63C	東H77f	-	不明	ブナ	B	黒	黒					III	III	
362	清洲IV	63C	東H77f	-	輪B	トチノキ	A	赤	黒		△ヅリ			I	I	
363	清洲IV	63D	SI8401	城III-2	輪B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	I	II	
364	清洲IV	63D	SI8401	城III-2	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
365	清洲IV	63D	西H77f	-	輪C	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
366	清洲IV	63R	XR1002	城III-2	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-高台内-赤	△ヅリ		朱	I	II	
367	清洲IV	63R	XR1002	城III-2	輪A	ブナ	B	赤	赤	外-黒	朱	朱		I	II	高台-黒,高台内-刻書
368	清洲IV	63R	XR1002	城III-2	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
369	清洲IV	63R	XR1002	城III-2	輪不明			赤	黒		朱			I	I	
370	清洲IV	63R	XR1003	城III-2	輪B	ブナ	A	赤	黒	高台内-赤			朱	I	II	
371	清洲IV	63R	検出	-	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱			III	I	
372	清洲IV	63A	XR1001	城III	輪A	トチノキ	B	赤	黒		朱+△ヅリ			I	II	
373	清洲IV	63A	SD1003	城III	輪不明	カバノキ科	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
374	清洲IV	63A	SD1003	城III	不明板	ヒノキ			黒						I	
375	清洲IV	63A	SI1016	城III	輪BorIII A	ブナ	B	赤	赤		朱	朱		III	III	高台-黒
376	清洲IV	63A	SI1042	-	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
377	清洲IV	63A	SI1442	-	輪不明	ケヤキ	A	赤	赤	外-黒	朱	朱		X	XI	
378	清洲IV	63B	検出	-	輪E	ブナ	B	赤	赤	高台内-金	△ヅリ	△ヅリ	As+S	I	II	
379	清洲IV	63B	検出	-	蓋	ヒノキ?	B	黒	赤		△ヅリ	△ヅリ		III	III	
380	清洲IV	63C	SI6435	城I	輪A	ミズメ	B	赤	黒	外-赤	朱+△ヅリ		朱	I	II	
381	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪E	ブナ	B	赤	赤		△ヅリ	△ヅリ		I	I	
382	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪E	ブナ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	高台内-刻書
383	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪不明	コナラ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	III	II	
384	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪不明	トチノキ	B	赤	黒		△ヅリ			I	I	
385	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪B	トチノキ	A	赤	黒		△ヅリ			I	I	
386	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪不明	ブナ	A	赤	赤		△ヅリ	△ヅリ		I	I	
387	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-黒	△ヅリ		As+S	I	II	
388	清洲IV	63E	SD6001	城III	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-黒	△ヅリ		As+S	I	II	
389	清洲IV	63E	SI6227	城II-1	輪A	クリ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		△ヅリ	I	II	
390	清洲IV	63E	SI6227	城II-1	輪A	クリ	B	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱+△ヅリ	I	II	
391	清洲IV	63E	SI6007	城II-1~III-1	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
392	清洲IV	63E	SI6007	城II-1~III-1	輪A	トチノキ	B	赤	赤		朱			I		
393	清洲IV	63E	東H77f	-	折敷板	ヒノキ		黒	黒					I	I	
394	清洲IV	63F	SD7002	城III-2	輪A	コナラ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
395	清洲IV	63F	SD7002	城III-2	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱+△ヅリ		朱	I	II	
396	清洲IV	63F	SD7002	城III	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
397	清洲IV	90B	XR4001	城I	輪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	I	II	
398	清洲IV	90B	XR4001	城I	輪不明	ケヤキ	B	赤	黒		朱			III	III	右寄せ
399	清洲IV	90B	XR4001	城I	輪不明	ブナ	B	赤	赤		朱+△ヅリ	朱+△ヅリ		III	III	
400	清洲IV	90B	SE4022	窓II-2	輪	不明材		赤	赤		朱	朱		III	III	
401	清洲IV	90B	SE4023	窓II	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	
402	清洲IV	90B	SE4023	窓II	輪不明	トチノキ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
403	清洲IV	90B	SE4023	窓II	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	I	II	
404	清洲IV	90B	SE4023	窓II	輪A	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
405	清洲IV	90B	SE4023	窓II	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱+△ヅリ		朱	I	II	
406	清洲IV	90B	SE4025	城III	輪不明	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	△ヅリ		△ヅリ	I	II	
407	清洲IV	90B	SE4025	城III	輪A	シオジ	A	黒	黒	外-赤			朱	多層	II	(内-6層)
408	清洲IV	90B	SE4025	城III	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱+△ヅリ		朱	I	II	
409	清洲IV	90B	SE4025	城III	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
410	清洲IV	90B	SE4029	城III	輪B	サクラ亜属	A	赤	黒		朱			I	I	高台内-刻書
411	清洲IV	90B	H77f	-	輪B	クリ	A	赤	黒		△ヅリ			I	I	
412	清洲IV	90B	検出	-	輪不明	クリ	B	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	I	I	
413	清洲IV	90B	検出	-	輪不明	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
414	清洲IV	90B	検出	-	折敷板	ヒノキ	A	赤	赤		朱	朱		III	III	
415	清洲IV	90B	検出	-	輪A	トチノキ	A	黒	黒	内-外-高台内-赤			朱	I	IV	
416	清洲IV	90B	検出	-	輪不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
417	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
418	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪B?	シオジ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
419	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	カバノキ科	A	赤	黒		朱			I	I	
420	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	コナラ	A	赤	黒	外-赤	△ヅリ		朱	I	II	
421	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ブナ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
422	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
423	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
424	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ミズキ	A	赤	黒		△ヅリ			I	I	
425	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱+△ヅリ		朱	I	II	
426	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ハンノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
427	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
428	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ブナ	A	黒	黒					I	I	
429	清洲IV	90D	XR4001	城I	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	

清洲城下町遺跡V

番号	報告書	調査区	新遺構番号	時期	基壇	柱種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
430	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
431	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	黒	黒					III	III	
432	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	B	赤	黒		朱			I	II	
433	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	シオジ	B	赤	赤		朱	朱		VI	VI	口縁部-黒
434	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	カバノキ科	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
435	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
436	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
437	清洲IV	90D	RK4001	城I	不明			黒	赤			朱		V	V	裏面のみ
438	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
439	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
440	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
441	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	カエデ属	A	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒
442	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カツラ	A	赤	黒		朱			III	III	
443	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カエデ属	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
444	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱			I	I	
445	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
446	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
447	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	B	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	II	
448	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	サクラ亜属	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
449	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	シオジ	A	黒	黒					I	I	
450	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カツラ	A	黒	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
451	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カバノキ科	B	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	
452	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	黒	黒	内-赤			朱	II	I	
453	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
454	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カバノキ科	A	黒	黒	内-外-赤	朱		朱	II	II	
455	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
456	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	クリ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
457	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	ブナ	A	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	高台-黒
458	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	カバノキ科	A	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	高台-黒
459	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	黒	黒	内?外-赤			朱	I	II	
460	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
461	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	I	II	
462	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	カツラ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
463	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	A	赤	黒		朱			I	I	
464	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ミズキ	B	赤	黒					I	I	
465	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	A	赤	赤		朱	朱	朱	III	III	
466	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
467	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	III	
468	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
469	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
470	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	カツラ	B	赤	黒		朱			I	I	
471	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	B	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	
472	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
473	清洲IV	90D	RK4001	城I	曲物橋側板	ヒノキ	A	黒	黒					I	I	
474	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	広葉樹散孔材	B	黒	黒					I	I	
475	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
476	清洲IV	90D	RK4001	城I	曲物橋底板	ヒノキ	A	黒	黒					I	I	
477	清洲IV	90D	RK4001	城I	曲物橋側板	ヒノキ	A	黒	黒					I	I	
478	清洲IV	90D	RK4001	城I	折敷側板	ヒノキ	A	赤	赤					VI	VI	上縁部-黒
479	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	ブナ	A	赤	赤		朱		朱	I	I	
480	清洲IV	90D	RK4001	城I	刀形代	バラ科	B	黒	黒							
481	清洲IV	90D	RK4001	城I	曲物橋側板	ヒノキ	A	黒	黒					I	I	
482	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
483	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			III	I	
484	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
485	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
486	清洲IV	90D	RK4001	城I	ⅢA	ブナ属	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	I	II	高台-黒
487	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	カツラ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
488	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
489	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱	朱	朱	III	IV	高台内-刻書
490	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
491	清洲IV	90D	RK4001	城I	ⅢA	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
492	清洲IV	90D	RK4001	城I	ⅢA	広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱			I	I	
493	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
494	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
495	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
496	清洲IV	90D	RK4001	城I	木地掩	ブナ	A									
497	清洲IV	90D	RK4001	城I	ⅢA	ブナ	A	赤	黒		朱			I	I	
498	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	赤	赤		朱	朱	朱	I	I	高台-黒
499	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
500	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	シオジ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
501	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	高台内-刻書
502	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩B	コナラ?	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
503	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	トチノキ	A	赤	黒		朱	朱	朱	I	I	
504	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A?	ブナ	A	黒	黒	内-赤			朱	II	I	
505	清洲IV	90D	RK4001	城I	掩A	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
506	清洲IV	90D	RK4001	城I	ⅢA	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	

番号	報告書	調査区	新造機番号	時期	器種	樹種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
507	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
508	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	広葉樹散孔材		黒	黒	外-赤			朱	I	II	
509	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
510	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪C	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
511	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
512	清洲IV	90D	XR4001	城I	III A	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
513	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪A	ブナ	B	黒	黒					I	I	
514	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	カバノキ科?	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
515	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
516	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
517	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪A	カバノキ科	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
518	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
519	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
520	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪C	広葉樹散孔材	A	赤	黒		朱			III	I	
521	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪A	カバノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	II	
522	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒		朱			I	I	
523	清洲IV	90D	XR4001	城I	繪不明	シオジ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
524	清洲IV	90D	SX4703	城I	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
525	清洲IV	90D	検出	-	繪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
526	清洲IV	90D	検出	-	繪不明	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
527	清洲IV	90D	検出	-	繪不明	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
528	清洲IV	90D	検出	-	繪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	
529	清洲IV	90D	検出	-	漆?			黒	黒							芯持材
530	清洲IV	90D	検出	-	繪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
531	清洲IV	91A	SD6048	城II-1	不明				赤			朱		VI		裏面のみ
532	清洲IV	91A	SD6006	城III	不明			赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	裏面のみ
533	清洲IV	91A	SX6038	城III	不明				赤			朱		V		裏面のみ
534	清洲IV	91A	SX6213	城II	不明				赤			朱	V+V	V+V		裏面のみ
535	清洲IV	91A	SX6221	城II-2	不明				赤			朱		V		裏面のみ
536	清洲IV	91A	攪乱	-	不明				赤			朱		VI		裏面のみ
537	清洲IV	91A	検出	-	不明				赤			朱		I		裏面のみ
538	清洲IV	91A	検出	-	漆物層底版	ヒノキ	B	赤	赤	内-黒	朱		朱	V	V	裏面のみ
539	清洲IV	91A	検出	-	不明				赤			朱		V	V	裏面のみ
540	清洲IV	91A	検出	-	不明			赤	赤		朱		朱	V	V	裏面のみ
541	清洲IV	91A	検出	-	不明			赤	赤		朱		朱	VI	VI	裏面のみ
542	清洲IV	91A	検出	-	不明				赤			朱		V		裏面のみ
543	清洲IV	91B	SE7010	城III	小丸			黒	赤		朱		朱	VI	VI	裏面のみ
544	清洲IV	91B	SX7402	城III	不明				赤			朱		VI		裏面のみ
545	清洲IV	91B	SX7402	城III	不明				赤			朱		V+VI		裏面のみ
546	清洲IV	91B	SX7402	城III	繪A	ハンノキ	B	赤	赤		朱		朱	I	II	
547	清洲IV	91B	SX7418	城III	不明				黒	外-赤			朱		II	裏面のみ
548	清洲IV	91B	Hvzf	-	不明	不明材			赤			朱		III		裏面のみ
549	清洲IV	91B	Hvzf	-	不明				赤			朱		VI		裏面のみ
550	清洲IV	91B	検出	-	繪不明	サクラ亜属	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
551	清洲IV	91B	検出	-	繪不明	ケヤキ	A	赤	赤		朱		朱	V	V	
552	清洲IV	91B	検出	-	不明				黒					VI		裏面のみ
553	清洲IV	91B	検出	-	繪不明	ケヤキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	V	VI	
554	清洲IV	91B	東Hvzf	-	繪B	トチノキ	B	黒	黒	外-赤			朱	I	II	
555	清洲IV	91B	東Hvzf	-	繪不明	ケヤキ		赤	赤		朱		朱	X	X	
556	清洲IV	91B	東Hvzf	-	繪不明	トチノキ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
557	清洲IV	91B	東Hvzf	-	繪不明				赤			朱		V		裏面のみ
558	清洲IV	91C	SX8074	城III-1	不明				赤			朱		V		裏面のみ
559	清洲IV	92C	XR4001	城I	繪B	サクラ亜属	A	赤	黒?		朱			I	I	
560	清洲IV	92C	検出	-	繪不明	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
561	清洲IV	92C	検出	-	繪不明	サクラ亜属	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
562	清洲IV	92C	検出	-	繪B	クリ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	II	II	
563	清洲IV	92C	検出	-	漆	イスノキ			黒							
564	清洲IV	92C	検出	-	III B	カバノキ科	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	I	II	高台-黒, 端反
565	清洲IV	92C	検出	-	折敷側板?	カツラ	B	赤	赤		朱	朱		V	VI	
566	清洲IV	92C	表土	-	折敷側板?	ヒノキ	A	黒	黒					VI	VI	
567	清洲IV	92C	表土	-	繪不明	トチノキ	A	赤	赤	外-黒	朱	朱	As+S	III	IV	
568	清洲IV	92C	表土	-	漆物版	ヒノキ	B	赤	赤					VI	VI	
569	清洲IV	92C	表土	-	漆物版	ヒノキ		黒	黒					VI	VI	
570	清洲IV	92C	表土	-	漆物版	スギ	B	透								
571	清洲IV	92D	表土	-	結構底版	スギ		赤	赤		朱	朱		VI	VI	
572	清洲IV	92E	検出	-	繪A	トチノキ	B?		黒	黒					I	
573	清洲IV	92E	検出	-	不明			赤	黒		朱			I	I	裏面のみ
574	清洲IV	92E	検出	-	不明				赤		朱			VI		裏面のみ
575	清洲IV	92F	検出	-	繪A	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
576	清洲IV	92F	検出	-	不明				黒			朱				多層 5層, 裏面のみ
577	清洲IV	92F	検出	-	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
578	清洲IV	92F	検出	-	繪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
579	清洲IV	92F	検出	-	繪不明	サクラ	A	黒	黒					I	I	
580	清洲IV	立会	SX8074	城I	繪B	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
581	清洲IV	立会	SX8074	城I	繪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
582	清洲V	91B	SX6691	窟II-2	繪B	ケヤキ	A	黒	黒					VI+VII	VI	
583	清洲V	91B	SX6691	窟II-2	繪B	ブナ		赤	黒		朱			I	I	

清洲城下町遺跡V

番号	報告書	調査区	新調査番号	時期	器種	器種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考
584	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪E	トチノキ	A	黒	黒					I	I	
585	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪E	ブナ		黒	黒					I	I	
586	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪B	ブナ		赤	黒		朱			I	I	
587	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪E	広葉樹散孔材		赤	黒	外-赤	朱		朱	I	I	
588	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪不明			赤	赤		朱	朱		多層	多層	裏面のり、右寄せ
589	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪E	トチノキ	A	赤	赤		朱	朱		I	I+I	
590	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪B	ホノノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
591	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪B	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
592	清洲V	61B	SE6691	室0-2	杯	ケヤキ?	A	赤	赤		朱	朱		V	VI	口縁部-黒
593	清洲V	61B	SE6691	室0-2	杯	広葉樹散孔材	B	赤	赤	内-外-金	朱	朱	Au	VI	V+VI	
594	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪E	広葉樹散孔材		赤	赤		朱	朱		V	I・V	
595	清洲V	61B	SE6691	室0-2	建築部材?	針葉樹		黒	黒					V	V	
596	清洲V	61B	SE6691	室0-2	動物桶底板	針葉樹		黒	黒					I	I	
597	清洲V	61B	SE6691	室0-2	建築部材?	針葉樹		黒	赤			朱		V	V	上端面-赤
598	清洲V	61B	SE6691	室0-2	箱物板	スギ			黒						V	
599	清洲V	61B	SE6691	室0-2	箱物板	針葉樹			黒						I	
600	清洲V	61B	SE6691	室0-2	輪A	トチノキ	A	赤	赤	外-赤	朱+朱		朱	I	II	
601	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-黒	朱		Ag	I	II	
602	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪A	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
603	清洲V	63C	SD4026	室1-1	皿A	トチノキ	A	赤	黒	外-黒	朱		Au	I	II	
604	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪不明	トチノキ	B	赤	黒		朱			I	I	
605	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪不明	トチノキ		赤	赤		朱	朱		I	I	
606	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪E	ブナ	B	赤	赤		朱	朱		I	I	
607	清洲V	63C	SD4026	室1-1	不明			黒	赤			朱		V	V	裏面のり
608	清洲V	63C	SD4026	室1-1	輪不明	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
609	清洲V	63C	SD4026	室1-1	皿A	ブナ	B	赤	黒	外-黒	朱		Ag	I	II	
610	清洲V	63C	SD4026	室1-1	皿A	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		V	V	
611	清洲V	63C	SD4045	室II	不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
612	清洲V	63C	SE5222	室0-1	輪不明	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I	
613	清洲V	63C	SE5222	室0-1	箸	タケ		赤	赤		朱	朱		III	III	
614	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪不明	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		V	V	
615	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪蓋	カワラ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
616	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪B	ブナ	B	赤	黒		朱			I・V	I	
617	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
618	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-黒	朱		Ag	I	II	
619	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-黒	朱		Ag	I	II	
620	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪B	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I	
621	清洲V	63C	SI4009	室1-1	折敷側板	アスナロ	B	赤	赤		朱	朱		I	I	上端面-黒
622	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪A	トチノキ	A	赤	赤		朱			I	II	
623	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-黒、高台内-赤	朱		Ag,As+S	I	I	
624	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	III	II	
625	清洲V	63C	SI4009	室1-1	箱物板	ヒノキ	B	黒	黒	内-赤			朱	II	I	
626	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪E	トチノキ	A	赤	赤		朱	朱		I	I	
627	清洲V	63C	SI4009	室1-1	輪不明	カワラ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
628	清洲V	91A	SE6679	室I	折敷底板?			赤	黒		朱			I	I	
629	清洲V	91A	SE6679	室I	折敷側板		A	赤	黒		朱			V	VI	上端面-赤
630	清洲V	91A	検出	-	蓋	カバノキ科	A	赤	赤	外-金	朱	朱	Sn	III	IV	
631	清洲V	91A	検出	-	不明				赤			朱		V+V		裏面のり
632	清洲V	91A	栗坪?f	-	輪その他	ブナ	B	赤	黒+金		朱	Sn		I	II・V	
633	清洲VI	93D	(93DS01)	城I	箱物				黒							
634	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明	カワラ	A	赤	黒		朱			III	III	
635	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱+朱		朱	I	II	高台内-刻書
636	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
637	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪A	カエデ属	B	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒
638	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	香合身	サクラ垂属	B	赤	黒		朱			I	I	
639	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	動物桶底板	ヒノキ	B									
640	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明	カワラ	B	赤	黒?		朱+朱			I	I	
641	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明			赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
642	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	動物桶底板	ヒノキ		黒	黒					I	I	
643	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪A	クリ	B	赤	黒		朱			I	I	
644	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	シロジ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
645	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	ケヤキ	A	赤	赤		朱	朱		VI	VI	
646	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	皿A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱+朱		朱	I	II	高台内-刻書
647	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明	ホノノキ	B	赤	黒		朱			I	I	
648	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
649	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明	カワラ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
650	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪A	クリ	B	赤	黒		朱		朱	I	I	高台内-刻書
651	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪A	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
652	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	高台内-刻書
653	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	高台内-刻書
654	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	ハンノキ	B	赤	黒		朱			I	I	
655	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪不明	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
656	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	II	
657	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	動物桶底板	ヒノキ		黒	黒					I	I	
658	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	動物桶底板	ヒノキ	B		黒					I	I	
659	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	
660	清洲VI(予定)	93D	(93DS01)	城I	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	III	II	

番号	報告書	調査区	新遺構番号	時期	器種	器種	木取	表面(内)	表面(外)	表面(文様)	顔料(内)	顔料(外)	顔料(文様)	構造(内)	構造(外)	備考	
661	九州Ⅷ(予定)	9D	(S0SD001)	城Ⅰ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
662	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	輪A	ブナ	B	赤	黒		朱			Ⅲ	I		
663	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	輪B	シオジ	A	黒	黒					I	I		
664	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	輪B	シオジ		黒	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
665	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	輪B	トチノキ	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱	朱	Ⅲ	Ⅲ	高台-黒	
666	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	不明	広葉樹		赤	黒		朱			I	I		
667	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	輪不明	ブナ	B	赤	黒	内-外-赤	朱		朱	0	0		
668	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	ⅢA	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		Ⅶ	Ⅶ	高台-端、口縁部-黒、右着せ	
669	朝日西	59A	SD200	城Ⅱ	蓋	ヒノキ?		黒	黒					多層	多層		
670	朝日西	59A	SE76	中	輪B	ブナ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	0	0	高台内-刻書?	
671	朝日西	59A	SE76	中	輪不明	シオジ		赤	黒		朱			I	I		
672	朝日西	59A	SE77	中	不明	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			いびじ	0	0		
673	朝日西	59A	北474	-	輪A	トチノキ	A	黒	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0		
674	朝日西	59B	SE82	城Ⅲ	蓋	針葉樹		黒-赤	黒-赤		朱	朱		0	0		
675	朝日西	59C	SE82	城Ⅲ	香合蓋	広葉樹散孔材	B	赤	黒		朱			I	I		
676	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	ケヤキ	A	赤	赤	外-黒	朱	朱		X	X		
677	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	ブナ	B	黒	黒					I	I		
678	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
679	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材	B	赤	赤		朱	朱		V	V		
680	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材	B	赤	赤		いびじ	いびじ		I	I	高台-黒	
681	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	トチノキ	B	黒	黒	外-赤			いびじ	I	0		
682	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	0		
683	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	0		
684	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	曲物桶底版	針葉樹		黒	黒					Ⅳ	Ⅳ		
685	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材	A	赤	黒	外-赤	いびじ		朱	I	0		
686	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	0		
687	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	ブナ?	A	赤	黒	外-赤	いびじ		いびじ	I	0		
688	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	広葉樹散孔材	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
689	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
690	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	ⅢA	ケヤキ	A	赤	赤	高台内-赤	朱	朱		Ⅶ	Ⅶ	高台-口縁部-黒	
691	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱+いびじ		朱	I	0		
692	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤	朱		朱	0	0		
693	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A			赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0		
694	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	折敷底版	ヒノキ		黒	黒								
695	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	ブナ	A	赤	黒	高台内-赤	朱		朱	I	0		
696	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A?	クリ	A	赤	黒		朱			I	I		
697	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0		
698	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	B	黒	黒	内-外-赤	朱		朱	0	0		
699	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	黒	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
700	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A?	クリ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
701	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B?	ケヤキ	B	黒	黒					X	X		
702	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
703	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪不明	ブナ	B	赤	黒		朱			I	I		
704	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
705	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0		
706	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	ブナ	A	黒	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
707	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	箱物板	ヒノキ		赤	黒		朱			X	X		
708	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	曲物桶	針葉樹		黒	黒					I	I		
709	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	0	0		
710	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
711	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	黒	黒	内-外-赤			朱	0	0	高台内-刻書	
712	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	クリ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	Ⅳ		
713	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A	クリ	A	赤						Ⅲ			
714	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	香合身	ブナ	A	黒	黒					I	I		
715	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	柄杓	針葉樹		黒	黒					I	I		
716	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪A			赤	黒	外-赤	朱		朱	I	0		
717	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	香合蓋			黒	黒		朱	朱		多層	多層	5層(黒-朱重ね)	
718	朝日西	59D	SD177	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	赤	黒	外-赤	いびじ		朱	I	0		
719	朝日西	59E	SE32	-	輪A	ブナ	B	黒	黒	外-赤	朱			I	0		
720	朝日西	60A	SK503	中	ⅢA			黒	黒	内-外-赤	朱		朱	0	0	高台内-刻書	
721	朝日西	60D	SD222	城Ⅲ	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	I	Ⅳ		
722	朝日西	60D	SD222	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	0		
723	朝日西	60D	SD222	城Ⅲ	輪A	ブナ	B	黒	黒					I	I	高台内-刻書	
724	朝日西	60D	SD222	城Ⅲ	輪B	トチノキ	A	赤	黒		朱			I	I		
725	朝日西	60D	SD222	城Ⅲ	輪不明	ブナ	A	赤	黒	外-黒	いびじ		朱	I	0		
726	朝日西	60E	SD200	城Ⅲ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0	高台内-刻書	
727	朝日西	60E	SD214	城Ⅲ	輪A	ブナ	B	赤	黒		朱		朱	I	I	高台内-刻書	
728	朝日西	60E	SD214	城Ⅲ	輪B	クリ	B	赤	赤		朱	朱		I	I	高台-黒	
729	朝日西	60E	SD219	中	不明				黒						I		
730	朝日西	60E	SD222	城Ⅲ	輪不明	トチノキ	A	黒	黒	外-赤			朱	I	0		
731	朝日西	60E	SD222	城Ⅲ	輪A	トチノキ	A	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	I	0	高台内-刻書	
732	朝日西	60E	SD222	城Ⅲ	輪	ブナ	A	赤	黒	外-赤	朱		朱	Ⅲ	0		
733	朝日西	60E	SD222	城Ⅲ	ⅢA	ケヤキ	B	赤	赤		朱	朱		Ⅳ	Ⅳ	高台-黒、口縁部-黒	
734	朝日西	60E	SD222	城Ⅲ	輪A	ブナ	B	黒	黒	内-外-赤			朱	0	0	高台内-刻書	
735	朝日西	60E	SK541	城Ⅰ~Ⅱ	輪B	ブナ	B	赤	黒	外-高台内-赤	朱		朱	Ⅲ	0	高台内-刻書	
736	朝日西	60E	SK549	城Ⅲ	輪A?	シデ属	B	赤	黒		朱			I	I	高台内-刻書	

## 第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析

### A はじめに

全国各地に残されていた窯跡出土須恵器を大量に採集して分析した結果、K、Ca、Rb、Srの4因子がとくに有効に地域差を表示することが明らかになった。現在、これら4因子は母岩の長石類に由来したのと考えられている。この他、ソーダ長石に由来したとみられるNaや雲母、角閃石、輝石などの鉄化合物から由来したとみられるFeも地域差を表示する場合がある。地域差を示す元素をまとめて化学特性という。土器のもつ化学特性は余程大量の添加物でもない限り、素材として使用した粘土の化学特性である。そして、粘土の化学特性は母岩を構成する鉱物（化合物）の種類に支配される。このように、窯跡出土須恵器にみられる地域差は人為的なものではなく、地質的なものである。そうすると、上記の元素は土師器や弥生土器などのような須恵器以外の土器の胎土の化学特性をも表示するはずである。現在、これらの土器胎土の化学特性に関する基礎データもこつこつと集積されつつある状況である。

これまでのデータをみる限り、古代・中世では粘土を運んだ例はない。素材となる粘土を求めて窯を設定し、運搬したのは製品の土器であった。しかし、運搬手段が発達している現代では陶器製品のみならず、粘土をも運搬することは周知の事実である。近世ではどうであろうか。もし、遠方から粘土を搬入していると、同一の産地で作られた製品を分析しても、まとまりのないデータが得られることになり、供給先の遺跡から出土した土器は分類が不可能なくらい複雑な胎土をもつはずである。このことを確かめるには、実際に、近世の土器片を分析してみなければわからない。

本節では、清洲城下町遺跡や名古屋城三の丸遺跡等から出土した近世土師質人形<sup>(1)</sup>の蛍光X線分析の結果について報告する。なお、分析した試料の内容は第9表の通りである。

### B 分析方法

須恵器の場合と同様、土師質人形の表面を研磨して釉などの付着物を除去したのち、100メッシュ以下に粉碎された粉末試料をプレスして固め、内径20mm、厚さ5mmのコイン状の錠剤試料を作成して蛍光X線分析を行った。

蛍光X線分析には波長分散型の分析装置（理学電機製3270型機）を使用した。この装置には同時に48個の試料が装填できる自動試料交換機が連続されている。通常、48試料のうちの1個は必ず、岩石標準試料JG-1である。JG-1は定量分析のための標準試料であるとともに、自動分析が定常状態で進行したことを確認するためのモニターとしての役割をもっている。

データ解析には本来、多変量解析法を使用するのであるが、本報告ではわかりやすく説明するため、K-Ca分布図とRb-Sr分布図を使用することにした。

## C 分析結果

分析値は第10表に提示した。全分析値は同時に測定された標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化された値で表示されている。

第100図は清洲城下町遺跡出土人形のK-Ca分布図である。No. 9、21、22、23、24、26の6点を除いて他の試料はよくまとまって分布していることがわかる。また、第101図にはRb-Sr分布図を描いたが、ここでも、No. 9、21、22、23、24、26の6点は集団から大きくずれている。第101図ではNo. 5も大きくずれている。そこで、まとまって分布した試料をA群として一括し、これらを包含するようにしてA群領域を描いた。A群領域は定性的にしか領界を表わさないが、類似性を比較する場合には、十分対照領域として使用できる。A群に分類された試料はK、Ca、Rb、Srの4因子からみて、類似した胎土をもっていると判断される。これらはFe、Na因子でも類似していることは第10表からもわかる。

第102図と第103図には、それぞれ名古屋城三の丸遺跡出土人形のK-Ca分布図とRb-Sr分布図を示した。第102図には第100図で描いたA群領域を、第103図には第101図で描いたA群領域をそれぞれ描くと、名古屋城三の丸遺跡出土の人形の大部分もA群領域に分布することがわかる。しかも、第10表よりFe、Na因子でも類似していることがわかる。従って、これらの清洲城下町遺跡および名古屋城三の丸遺跡出土の人形は同じ素材粘土で作られていたわけであり、もし、粘土を運搬していないと仮定すると、同じ産地で作られた人形であると考えられる。なお、名古屋城三の丸遺跡出土の人形でA群に分類されなかったのはNo. 28、32、33、34、35、38、41、45、48、55、59の11点である。

次に、これら未分類の試料の中に類似した胎土をもつものがないかどうかを第101～103図から探してみた。そうすると、近接して分布するNo. 21、28、41の3点はFe、Na因子でも類似しており、これら3点をB群として分類することにした。

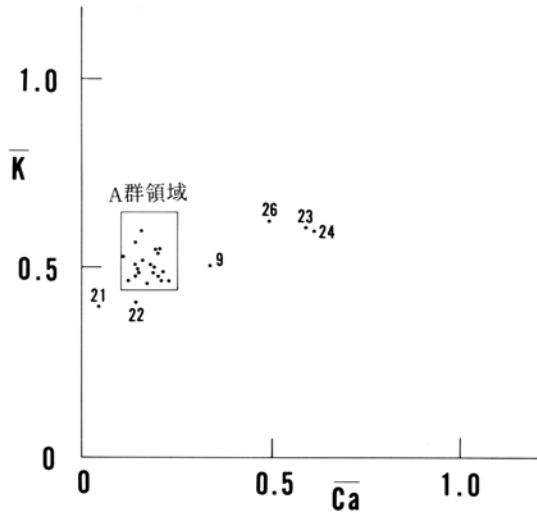
以上の分類結果は、第10表の中央に示されている。清洲城下町遺跡と名古屋城三の丸遺跡出土の人形の胎土はA群が43点、B群が3点、未分類試料が15点で、意外にまとまっていることがわかった。このことはA群の人形については1ヶ所で製作しており、製品を清洲城下町遺跡や名古屋城三の丸遺跡へ供給したことを示唆している。1ヶ所と考えられる人形産地は窯跡出土須恵器の分布位置と比較すると、三河側ではあり得ない。尾張あるいは知多半島を考えなければならないだろう。

また、「型作り」、「手捻り」等の人形成形技法と胎土との間には特に関係がなく、また「犬」とか「鳥」とかの人形の形態<sup>(2)</sup>と胎土の間にも関係がないことが判明した。しかし、鈴に関しては形態と胎土との間に一定の関係があり、鈴C・Dタイプ<sup>(3)</sup>はA群に、鈴AタイプはB群に分類され、さらに鈴B・Eタイプは未分類の胎土であった。

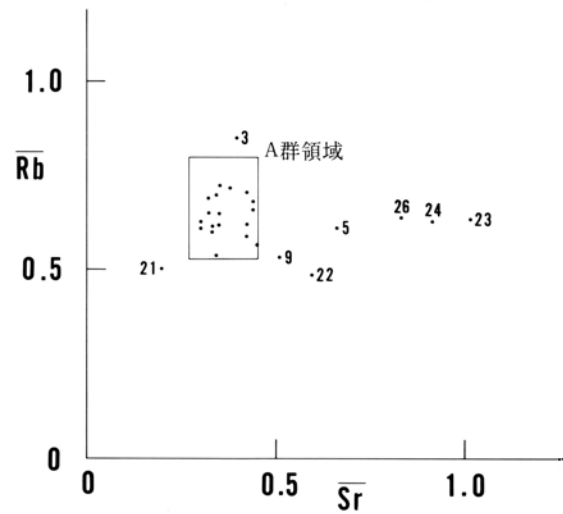
B群の胎土には第10表からみてわかるように、Na量が少ない点が注目される。B群の人形の産地はA群とは別場所であり、尾張地域内か、美濃地域の可能性もある。

未分類試料の中にはNo. 34のように、他の試料に比べてFe、Na量が多いものがあり、必ずしもまとまった化学特性をもつ胎土ではない。従って、同一場所で作られた人形であるかどうかはわからない。

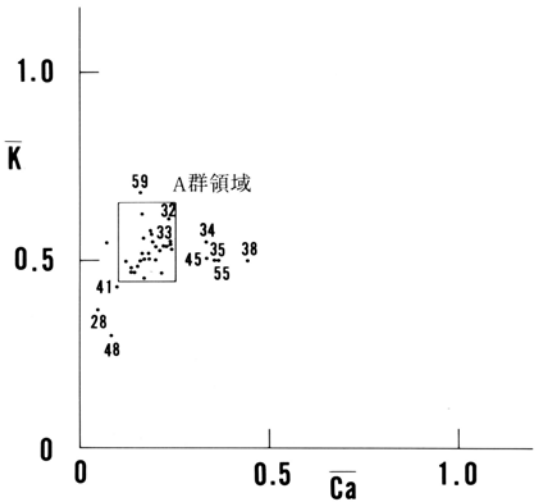
次に、三河地域にある西尾城遺跡、吉田城遺跡、それに、尾張地域にある古渡城遺跡出土人形のK-Ca分布図を第104図に、またRb-Sr分布図を第105図に示す。7点の試料のうち、古渡城遺跡のNo. 67は明らかにA群の胎土であるが、他はA群でもB群でもない。このうち、No. 62、63は第104・105図のみならず、Fe、Na因子でも類似しており、これをC群とした。同様に、No. 65、66も互いに類似し



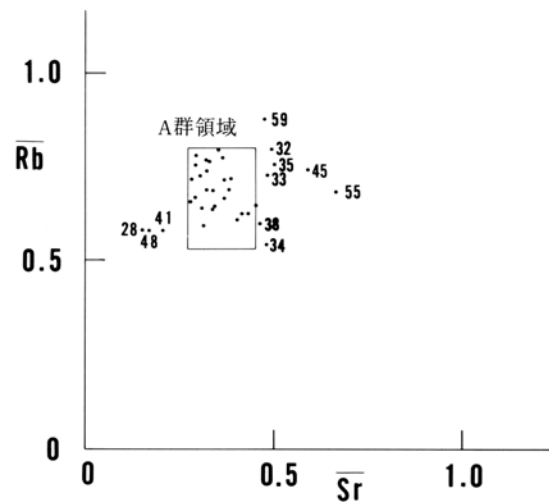
第100図 清洲城下町遺跡出土人形のK-Ca分布図



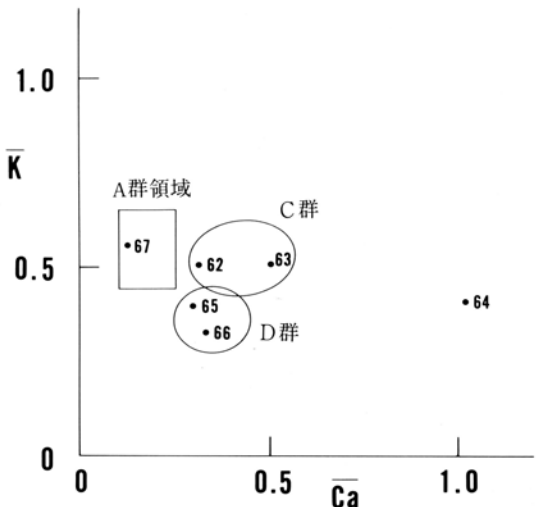
第101図 清洲城下町遺跡出土人形のRb-Sr分布図



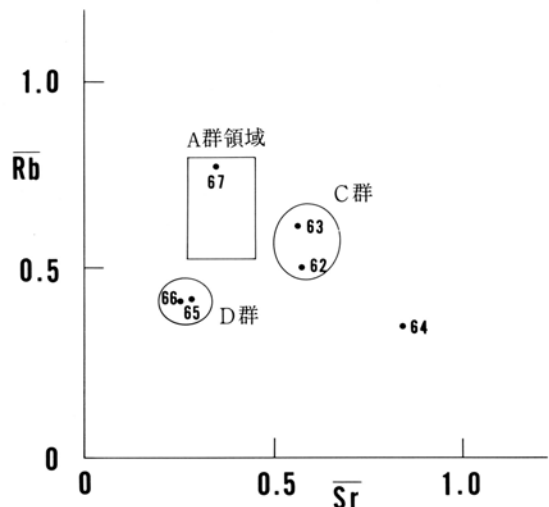
第102図 名古屋城三の丸遺跡出土人形のK-Ca分布図



第103図 名古屋城三の丸遺跡出土人形のRb-Sr分布図



第104図 西尾城遺跡、吉田城遺跡、古渡城遺跡出土人形のK-Ca分布図



第105図 西尾城遺跡、吉田城遺跡、古渡城遺跡出土人形のRb-Sr分布図

た化学特性をもっており、D群とした。No. 64のみは全く異質の胎土である。C、D群はA群領域に比べて、K、Rb量が若干少ないのが特徴であり、須恵器や中世陶器の胎土を参考にすると、三河地域の粘土を素材とした人形と推察される。在地産の人形ということになる。No. 64のみは異質の胎土であり、Ca、Sr量が異常に高い。何かの混入物があったのか、それとも、尾張、三河地域以外の地からの搬入品かのいずれかが考えられる。

近世の土師質人形の胎土はもっとばらつくものかと予想していたが、意外によくまとまっており、中世陶器と同様、特定の産地で在地の粘土を使い、人形を製作していたことが伺われる。(三辻利一)

註 (1) 本項では「人形」の名称により、人形、ミニチュア、面、面型、鈴、雌型、泥面子、及び戦国時代の土犬を総称する。

(2) 以下の試料は形態・大きさがほぼ一致しているものである。

「馬(+人)」 No. 15・60 「童子座像」 No. 19・58

「鷹」 No. 16・45・63 「狎抱き童子」 No. 36・59

(3) 鈴は形態によって便宜的にA～Eの5タイプに分類した。

鈴Aタイプ 紐は方形を呈し、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

胴に1条の沈線が巡る。戦国時代に属する。

鈴Bタイプ 紐は台形を呈し、紐孔と平行方向に鈴口が開けられる。戦国時代に属する。

鈴Cタイプ 紐は角状に振り上げられ、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

鈴Dタイプ 紐は巾着状にたたみこまれ、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

体部は横広の球形を呈する。

鈴Eタイプ 紐はたたみこまれた後扁平に指で押圧され、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

体部は横広の球形を呈する。

(八木佳素実補筆)



第106図 土師器鈴分類図 (S = 1 : 4)



第107図 蛍光X線分析関連遺跡位置図

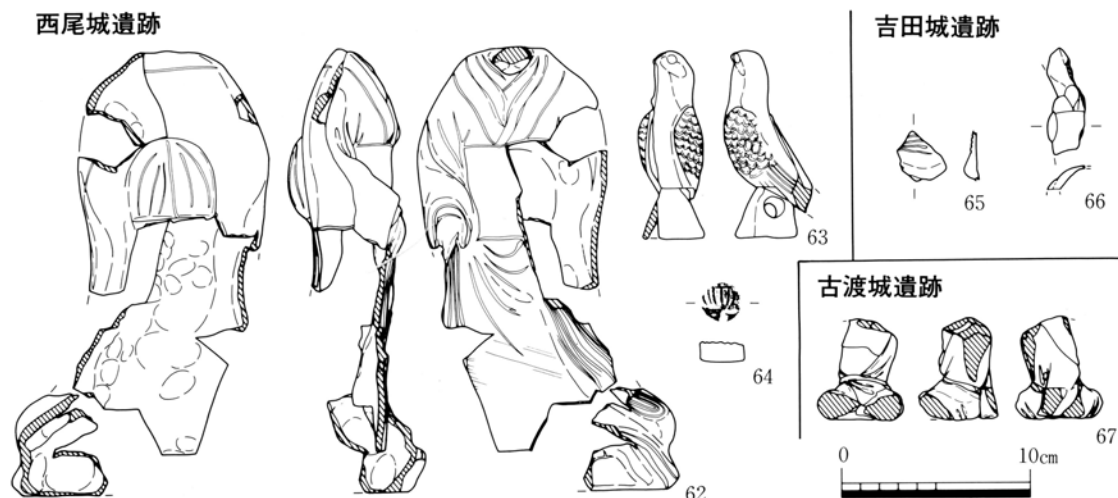
清洲城下町遺跡



名古屋城三の丸遺跡



第108図 胎土分析試料実測図(1)



第109図 胎土分析試料実測図 (2)

第9表の凡例

- 1 「遺構番号」は各報告書記載の遺構番号である。( )内は旧遺構番号である。
  - 2 「成形法」の「孔」の後の数値は、孔直径×深さ (cm単位) を表す。
  - 3 法量の単位はcmである。
  - 4 器物形ミニチュアの法量は、「幅」欄に口径を、「奥行」欄に底径を記載した。
  - 5 「備考」の「報文」は以下の参考文献の略称、数字は図版番号である。
- 報文1 鈴木正貴編 (1994) 『清洲城下町遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集  
 報文2 鈴木正貴編 (1995) 『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集  
 報文3 梅本博志編 (1990) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集  
 報文4 梅本博志編 (1990) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第16集  
 報文5 金子健一編 (1992) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅲ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第37集  
 報文6 遠藤才文編 (1993) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集  
 報文7 川井啓介編 (1992) 『吉田城遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第26集  
 報文8 南山大学古渡城発掘調査会 (1993) 『古渡城遺跡』南山大学大学院先史考古学研究报告第1冊
- 6 「時期」は資料自体の時期ではなく、出土遺構の時期 (主として共伴遺物の年代観による) を表す。
  - 7 「登録番号」は発掘調査毎に付けた遺物の整理番号である。既報告分の未発表資料の登録番号は今回改めて追加した番号である。

第10表の凡例

- 1 「分類」は本文中に記された分類基準を記載した。
  - 2 「色調」は胎土の色調を表面観察した結果である。鈴木正貴による。
  - 3 「胎土」・「備考」は胎土の表面肉眼観察による結果である。永草康次による。
- 「胎土」は以下の分類を用いた。

- A Mfが比較的多いもの。一般に砂礫が少な目で素地は細かい。
  - A 1 Micaがほとんど含まれないもの。
  - A 1 Micaを若干量伴うもの。
- B Btが多いもの。砂礫が多いものが多い。
- C MfもMicaもほとんど含まないもの。
  - C 1 Chを伴うもの。
  - C 2 Chを伴わないもの。
- D その他・不明

「備考」等に用いた略号は以下の通りである。

Mf	有色鉱物 (雲母を除く)	Mv	白雲母
Mica	雲母	Ch	チャート岩片
Bt	黒雲母	VG	火山ガラス

No.	遺跡名・調査区	遺構番号	種別	形状	成形法	釉・彩色	高	幅	奥行	備考	時期	登録番号
1	清洲城下町 61A	SK4015	人形	犬	型/前後 中空 布目		残 4.3	残 6.8	残 4.8	報文2-962	19C中～後	61A E- 109
2	清洲城下町 61A	SK4015	芥子面	福良雀	型/半面 裏指押 雲母		3.1	2.8	0.9	報文2-986	19C中～後	61A E- 117
3	清洲城下町 61A	(表土)	人形	童子	型/前後 底開口	彩色(透明緑)	残 3.8	残 4.2	残 4.5	報文2-949	—	61A E- 103
4	清洲城下町 61A	(攪乱14)	雄型	皿	型/半面 指押		2.3	5.8	5.8	報文2-998	—	61A E- 121
5	清洲城下町 61A	(検出IV)	鈴	Bタイプ	手捻り 紐孔0.1		3.4	3.5	3.2	報文1-490と同形?	—	61A E- 127
6	清洲城下町 61A	(表土)	人形	猿	板作り・手捻り 底開口		残10.6	残 7.9	残 6.3	報文2-956	—	61A E- 107
7	清洲城下町 61B	SK6691	ミニチュア	釜蓋	型/上下	鉛釉(透明)	1.1	2.2	3.4	報文2-853	19C中～後	61B E- 593
8	清洲城下町 61B	SK6691	ミニチュア	灯籠	型/半面 裏指押 底孔0.3	鉛釉(透明緑)	残 1.9	残 4.7	残 5.0	報文2-854	19C中～後	61B E- 594
9	清洲城下町 63C	(SK02)	面	人物	實め型/前後		残 2.7	残 2.6	残 1.6	報文2-988	近世	63C E- 242
10	清洲城下町 89B	(SD03)	人形	猫	型/前後 中空 底孔0.7		残 4.0	残 2.7	残 7.0	報文2-964	—	89B E- 303
11	清洲城下町 89B	SK6710	面型	人物	型/半面 裏指押		1.4	4.1	5.1	報文2-991	近世	89B E- 304
12	清洲城下町 89B	SK6700	鈴	Cタイプ	手捻り 紐孔0.2		3.6	2.7	2.8	報文2-995	近世	89B E- 306
13	清洲城下町 89B	SK6700	鈴	Dタイプ	手捻り		残 2.8	残 3.1	残 3.1	報文2-992と同形	近世	89B E- 308
14	清洲城下町 89B	SK6735	人形	天神	型/半面 裏指押 孔無	彩色(黒)	4.6	残 3.8	2.1	報文2-323	18C末～19C初	89B E- 283
15	清洲城下町 89B	SK6735	人形	馬+人物	型/左右・手 中空 左足孔0.3×残1.0	彩色(黒)	残 7.7	残 4.2	残 8.5	報文2-327	18C末～19C初	89B E- 287
16	清洲城下町 89B	SK6735	人形	鷹	型/左右 中空		残 4.4	残 3.5	残 1.8	報文2-330と同形	18C末～19C初	89B E- 309
17	清洲城下町 89B	SK6735	人形	雀	手捻り		4.0	3.2	残 4.5	報文2-331	18C末～19C初	89B E- 291
18	清洲城下町 89B	SK6735	人形	鶏	手捻り 底開口		残 6.5	残 4.2	残 4.2	報文2-332	18C末～19C初	89B E- 292
19	清洲城下町 89E	SD6078	人形	童子/座像	型/前後 中空 底孔0.3		残 5.5	残 5.5	残 4.8	報文2-921	18C末～19C初	89E E- 151
20	清洲城下町 89E	SD6078	ミニチュア	土瓶	型/上下	鉛釉(透明緑)	残 1.8	2.0		報文2-927	18C末～19C初	89E E- 157
21	清洲城下町 89E	SD6023	鈴	Aタイプ	手捻り 紐孔0.2		残 3.8	3.4	3.3	報文1-318と同形	16C中	89E E- 177
22	清洲城下町 61C	(SK01)	土犬		手捻り		4.0	2.4	残 4.2	報文1-1481	—	61C E- 15
23	清洲城下町 63R	NR1002	土犬		手捻り		残 1.2	1.8	残 2.7		17C初～前	63R E- 51
24	清洲城下町 89A	SK1030	土犬		手捻り		残 3.2	残 2.4	残 3.8	報文1-1474と同形	16C末～17C前	89A E- 11
25	清洲城下町 89E	SK6652	土犬		手捻り		残 2.8	残 2.3	残 4.1	報文1-1479と同形?	18C前	89E E- 178
26	清洲城下町 89E	(検出II)	土犬		手捻り		残 3.4	残 3.2	残 4.8		—	89E E- 179
27	名古屋城三の丸 63B	SK414	人形	子守	手捻り 底開口		残11.4	残 4.8	残 4.2	報文4-1503と同形	近世	63B E-6033
28	名古屋城三の丸 63F	SD 01	鈴	Aタイプ	手捻り 紐孔0.1		4.6	3.4	3.4		15C後～16C後	63F E-5856
29	名古屋城三の丸 90	SD 07	土犬		手捻り		残 2.3	残 2.4	残 4.4	報文5-48と同形?	18C後	90 E-1657
30	名古屋城三の丸 90	SD 14	人形	天神	型/前後 孔無	鉛釉(透明緑)	5.1	残 3.8	2.3	報文2-936と同形?	17C後	90 E-1658
31	名古屋城三の丸 90	SD 17	人形	雀	手捻り		4.0	4.9	2.4	報文3-849と同形	18C後	90 E-1659
32	名古屋城三の丸 90	SD 17	鈴	Eタイプ	手捻り 紐孔0.4		3.5	残 3.8	残 2.4	報文2-857と同形	18C後	90 E-1660
33	名古屋城三の丸 90	SD 22	ミニチュア	壺	型/前後	鉛釉(緑)	残 4.6		3.1		19C前	90 E-1661
34	名古屋城三の丸 90	SK 04	人形	子守	手捻り		残 4.0	残 3.2	残 2.4	報文5-25と同形	17C後～19C前	90 E-1662
35	名古屋城三の丸 90	SK 44	人形	福助?	型/前後 中空 布目 薄手	彩色(黒)	残 6.8	残 8.0	残 4.0		19C前	90 E-1663
36	名古屋城三の丸 90	SK 44	人形	童子/狛抱き	型/前後 中空 底孔0.2	鉛釉(透明茶)	残 6.3	残 3.4	残 2.3		19C前	90 E-1664
37	名古屋城三の丸 90	SK 44	ミニチュア	籠	型/半面? 底開口 布目 薄手		3.4	6.5	6.2		19C前	90 E-1665
38	名古屋城三の丸 90	SK 47	人形	大黒	實め型/前後		残 2.4	1.9	1.3	報文5-12と同形?	19C前	90 E-1666
39	名古屋城三の丸 90	SK 47	面型	人物?	型/半面 裏指押		残 1.0	残 3.0	残 3.5		19C前	90 E-1667
40	名古屋城三の丸 90	SK 52	鈴	Cタイプ	手捻り 紐孔0.2		3.5	残 2.6	残 2.5	報文4-1615と同形	18C前	90 E-1668
41	名古屋城三の丸 90	SK 52	人形	恵比寿	型/前後 底孔0.3×2.0		残 4.8	残 4.5	残 2.7		18C前	90 E-1669
42	名古屋城三の丸 90	SK 78	ミニチュア	摺鉢	ろくろ?		残 2.0		推 3.2		18C後	90 E-1670
43	名古屋城三の丸 90	SK 78	人形	西行	型/前後		残 5.2	残 4.8	残 0.7	報文5-2(部分)	18C後	90 E-1540
44	名古屋城三の丸 90	SK 84	人形	西行	型/前後 底開口	彩色(黒)	残 5.0	残 4.5	残 2.1	報文5-14と同形	19C前	90 E-1671
45	名古屋城三の丸 90	SK 84	人形	鷹	型/左右 中空 底孔0.4		残 6.1	残 2.2	残 7.8	報文3-851と同形	19C前	90 E-1672
46	名古屋城三の丸 90	SK 84	人形	鶏	手捻り		5.1	2.8	残 4.5	報文5-51と同形小型	19C前	90 E-1673
47	名古屋城三の丸 90	SK 87	人形	人物	手捻り		残 4.9	残 5.0	残 4.9	報文4-1501と同形	18C後	90 E-1674
48	名古屋城三の丸 90	SK 87	ミニチュア	湯釜	ろくろ		1.7	2.7	1.3		18C後	90 E-1675
49	名古屋城三の丸 90	SK143	人形	猫	型/前後 中空 頸孔0.4		残13.2	残16.2	残 7.1	報文5-60と同形?	18C後	90 E-1676
50	名古屋城三の丸 90	SK143	ミニチュア	橋	手捻り	鉛釉(透明)	残 2.3	残 5.1	残 4.0		18C後	90 E-1677
51	名古屋城三の丸 90	SK144	ミニチュア	器台	ろくろ	鉛釉(透明緑茶)	3.7	5.5	2.9	報文4-1558と同形	18C後	90 E-1678
52	名古屋城三の丸 90	SK162	ミニチュア	灯籠	型/前後 中空 孔無 布目	鉛釉(透明緑)	残 4.3	2.4	2.2		19C前	90 E-1679
53	名古屋城三の丸 90	SK163	人形	「教盛」	型/前後 中空 布目		残 1.0	残 4.1	残 3.1	報文5-4(部分)	19C前	90 E-1542
54	名古屋城三の丸 90	SK164	人形	鳩	型/左右 中空 底孔0.4		6.9	残 4.3	残 9.4	報文2-965と同形	19C前	90 E-1680
55	名古屋城三の丸 90	検出	人形	鳩児	手捻り 右腰孔0.2(底まで貫通)		残 4.8	残 3.3	残 2.3		近世	90 E-1681
56	名古屋城三の丸 90	検出	人形	猿	手捻り・型/半面		残 7.8	残 4.5	残 3.5	報文5-39と同形	近世	90 E-1682
57	名古屋城三の丸 91	SK101	人形	西行	實め型/前後 孔無	鉛釉(透明緑)	残 4.0	2.2	1.7		19C中	91 E-6001
58	名古屋城三の丸 91	SK101	人形	童子/座像	型/前後 中空		7.2	残 5.8	残 3.5	報文6-3と同形	19C中	91 E-6002
59	名古屋城三の丸 91	SK101	人形	童子/狛抱き	型/前後 中空 底孔0.2	鉛釉(透明茶)	残 6.4	3.3	2.1		19C中	91 E-6003
60	名古屋城三の丸 91	SK101	人形	馬	型/左右 中空 孔無	彩色(黒)	残 9.8	残 4.2	10.0	報文5-9と同形	19C中	91 E-6004
61	名古屋城三の丸 91	SK333	人形	童子/牛乗り	型/前後 底孔0.3×1.8	鉛釉(透明緑茶)	残 5.8	2.9	6.9	報文6-6	19C中	91 E-5006
62	西尾城 59ANH	(砂層)	人形	「立娘」	型/前後 中空 布目	彩色(白)	残24.0	残13.5	残 7.2		—	
63	西尾城 59ANH	(土ボ 溝)	人形	鷹	型/左右 中空 底孔0.4 台座孔1.1		9.9	3.4	残 4.6		—	
64	西尾城 59ANH	(基盤直上六)	泥面子	帆船?	型/半面		1.0	2.3	2.3		—	
65	吉田城 90	検出	人形	福助	型/前後 中空		残 2.6	残 2.6	残 0.8	報文7-327(部分)	近世	90 E- 327
66	吉田城 90	(上面清掃)	人形	?	型/前後 中空		残 5.6	残 2.0	残 1.2		近世	90 E- 362
67	古渡城	SD 15	人形	人物	手捻り		残 5.4	残 4.6	残 4.2	報文8-172	18C後	

第9表 蛍光X線分析試料一覧表

No.	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	色調	胎土	備考
1	0.506	0.137	1.03	0.629	0.303	0.194	A	黄白色	A 1	
2	0.477	0.198	1.18	0.726	0.349	0.137	A	橙白色	A 1	Mf少なめ VG含む 表面にはBt+Mv (Bt>Mv)
3	0.547	0.190	0.931	0.849	0.394	0.217	A	黄白色	C 2	
4	0.470	0.232	1.28	0.618	0.442	0.167	A	橙白色	A 1	砂礫少なめ VG含む 表面にはBt
5	0.537	0.202	1.13	0.610	0.655	0.152	未分類	橙白色	A 1	VGやや多く含む(色付ガラスあり)
6	0.494	0.209	1.18	0.662	0.435	0.211	A	黄白色	A 1	淘汰悪い
7	0.534	0.105	1.65	0.619	0.333	0.147	A	淡褐色	B	
8	0.553	0.202	0.979	0.574	0.452	0.168	A	橙白色	A 1	砂礫多い
9	0.513	0.335	1.79	0.537	0.510	0.148	未分類	橙白色	A 1	Mf少なめ
10	0.480	0.143	1.34	0.652	0.318	0.163	A	黄白色	A 1	表面にはMv
11	0.499	0.145	1.32	0.605	0.332	0.172	A	橙白色	A 1	
12	0.601	0.157	1.61	0.593	0.423	0.136	A	橙白色	A 1	砂礫多い
13	0.565	0.140	1.65	0.718	0.376	0.126	A	黄白色	A 1	やや赤み強い
14	0.488	0.154	1.25	0.700	0.335	0.204	A	黄白色	A 1	VG含む
15	0.523	0.159	1.33	0.693	0.322	0.224	A	黄白色	A 1	表面には多量のBt
16	0.472	0.207	1.17	0.678	0.436	0.198	A	橙白～黒灰色	A 2	表面のBt混入か?
17	0.474	0.127	1.22	0.614	0.302	0.146	A	橙白色	A 1	
18	0.509	0.176	1.26	0.705	0.422	0.205	A	黄白色	A 1	Mf少なめ
19	0.491	0.185	1.33	0.651	0.347	0.156	A	淡褐色	A 1	表面にはMv VG含む
20	0.496	0.189	1.08	0.621	0.347	0.189	A	黄白色	A 1	Mf少なめ
21	0.402	0.044	1.58	0.503	0.196	0.044	B	橙白色	A 1	砂礫多い割にMf少なくCh混ざる C 1?
22	0.411	0.140	1.58	0.462	0.590	0.116	未分類	黄白色	A 1	
23	0.611	0.592	1.82	0.637	1.010	0.489	未分類	黄褐色	B	Mica (Bt) 少なめ
24	0.604	0.612	1.64	0.627	0.908	0.450	未分類	黄褐色	A 2	砂礫やや多い Ch含む
25	0.464	0.170	1.40	0.542	0.340	0.153	A	橙白色	A 1	
26	0.626	0.490	1.96	0.638	0.827	0.423	未分類	茶褐色	B	Bt大きい Ch含む
27	0.496	0.122	1.45	0.661	0.275	0.135	A	黄白色	A 1	
28	0.372	0.048	1.36	0.578	0.152	0.034	B	淡褐色	C 1	砂礫多い
29	0.474	0.136	1.37	0.744	0.320	0.136	A	淡褐～黒灰色	A 1	Mf少なめ
30	0.562	0.168	1.22	0.630	0.412	0.173	A	黄白色	A 2	やや淘汰悪い
31	0.505	0.171	1.19	0.729	0.301	0.134	A	橙白色	A 2	表面のBt混入か?
32	0.608	0.231	1.34	0.797	0.487	0.146	未分類	橙白色	A 2	表面のBt混入か? VG含む
33	0.566	0.190	1.19	0.731	0.477	0.182	未分類	橙白色	A 2	
34	0.549	0.330	2.70	0.545	0.479	0.302	未分類	褐色	A 1	素地やや粗い
35	0.501	0.348	1.58	0.758	0.499	0.159	未分類	茶褐色	A 2	表面には多量のMv
36	0.481	0.136	0.899	0.689	0.383	0.142	A	黄白色	A 1	
37	0.536	0.232	1.07	0.779	0.359	0.159	A	黄白色	A 1	
38	0.498	0.444	2.94	0.596	0.463	0.196	未分類	褐色	B	砂礫多くBt大きい 表面にはMv やや茶色み
39	0.541	0.233	0.875	0.719	0.367	0.193	A	黄白色	A 1	VG含む
40	0.521	0.182	1.65	0.723	0.384	0.147	A	黄白色	A 1	Mf少なめ
41	0.431	0.097	1.04	0.580	0.205	0.052	B	淡褐～黄白色	C 1	砂礫多い 表面桃色で断面白
42	0.577	0.190	2.36	0.607	0.402	0.130	A	褐色	B	
43	0.527	0.244	1.60	0.716	0.280	0.127	A	褐色	B	Mica (Bt) 少なめ
44	0.499	0.155	1.52	0.643	0.309	0.153	A	黄白色	D	砂礫少なく不明 表面には多量のMv
45	0.505	0.333	1.47	0.744	0.586	0.146	未分類	橙白～灰白色	A 1	表面にはMv(裏面にもあり)
46	0.508	0.179	1.19	0.670	0.369	0.198	A	橙白～灰白色	C 2	VG含む
47	0.534	0.111	1.02	0.796	0.347	0.093	A	橙白色	A 2	Mf, Mica (Bt+Mv) ともに少なめ
48	0.295	0.084	1.81	0.476	0.168	0.026	未分類	褐色	B	Bt多い (Mvも含む)
49	0.486	0.151	1.28	0.692	0.317	0.148	A	黄白～橙白色	A 1	Mf少なめ 表面には多量のBt
50	0.448	0.165	1.31	0.585	0.309	0.168	A	淡褐色	C 2	VG多い 素地細かい
51	0.554	0.066	0.832	0.758	0.289	0.080	A	白色	A 1	
52	0.551	0.237	0.957	0.647	0.343	0.189	A	橙白色	A 1	
53	0.550	0.191	1.53	0.784	0.294	0.190	A	淡褐色	B	砂礫多いがMica (Bt) 少ない VG含む
54	0.516	0.168	1.19	0.766	0.321	0.151	A	黄白色	A 1	表面には多量のMv
55	0.495	0.364	1.81	0.685	0.663	0.138	未分類	橙白色	A 1	やや赤み強い
56	0.471	0.140	1.39	0.666	0.294	0.138	A	黄白色	A 1	砂礫少なめ
57	0.628	0.157	1.35	0.770	0.325	0.073	A	黄白色	A 1	VG含む
58	0.473	0.215	1.11	0.653	0.453	0.202	A	黄白色	A 1	やや砂礫多い 表面にはBt
59	0.677	0.156	1.11	0.881	0.471	0.141	未分類	橙白色	A 1	
60	0.502	0.196	1.29	0.687	0.342	0.193	A	黄白色	A 1	表面には多量のBt
61	0.540	0.197	1.21	0.628	0.433	0.148	A	黄白色	D	砂礫少なく不明
62	0.508	0.379	2.19	0.511	0.574	0.268	C	淡褐色	B	Bt>Mv
63	0.509	0.496	1.37	0.616	0.563	0.150	C	橙白～黒灰色	A 2	Btは少なめ
64	0.410	1.020	3.52	0.349	0.842	0.441	未分類	褐色	D	Bt, Mfを含むが黒色岩片(?)を多くともなう
65	0.402	0.298	2.29	0.427	0.277	0.081	D	褐色	B	Mv≥Bt
66	0.333	0.330	1.13	0.415	0.249	0.080	D	淡褐色	B	Mica (Bt+Mv) 少なめ
67	0.556	0.124	1.03	0.780	0.345	0.100	A	黄白～灰色	A 1	砂礫細かい

第10表 蛍光X線分析結果等一覧表

### 第3節 金属滓分析

#### A はじめに

本節では、清洲城下町遺跡から出土した金属滓（金属塊を含む）に関する自然科学的な調査の結果を報告する。分析の主眼は、金属生産工程や製鉄原料の推定を行うことによって、清須城下町における製鉄・鍛冶の諸様相を解明することを目的としている。

#### B 分析の方法

今回の金属滓（金属塊）の調査は次の工程を経ている。まず、本書が対象とする調査区から出土した金属質の遺物のうち、表面観察及びX線写真から金属滓と判断・推定されるものを全て抽出し分析対象とした。次に、①全金属滓（金属塊）の肉眼観察及び簡易な検査を行い一覧表を作成した後に、②特に分析が必要と思われる32点については自然科学的な分析を実施した。自然科学的な調査は川鉄テクノロジー株式会社分析・評価センターの岡原正明・伊藤俊治の分析結果による。

##### ① 肉眼観察及び簡易検査の調査方法

全金属滓（金属塊）703点について以下の12項目の調査を実施した。

- a 種別 表面観察及びX線写真から金属種類と滓または塊の区分を便宜的に実施した。
- b 重量 資料の全重量を0.1g単位で計測した。
- c 着磁度 直径30mm・1300 Gauss（0.13 Tesla）のリング状フェライト磁石を用いて、着磁反応を示す距離を測定し、0から4までの5段階に着磁度を区分して表示した。

0——全く反応しないもの	3——2 cm～3 cmの範囲で着磁反応するもの
1——0 cm～1 cmの範囲で着磁反応するもの	4——3 cm～4 cmの範囲で着磁反応するもの
2——1 cm～2 cmの範囲で着磁反応するもの	
- d 形状 資料の形状を礫状・偏平・凹凸・椀型等に区分して表記した。

なお、形状の判定は川鉄テクノロジー株式会社によるものと異なる場合がある。
- e 完欠 資料の遺存状況を示した。
- f 発泡 資料中に気泡の痕跡が存在するものに○を記載した。
- g 小石粒 資料中に小石粒を包含するものに○を記載した。
- h 植物残痕 資料中に植物繊維状の圧痕等が残存するものに○を記載した。
- i 木炭 資料中に木炭を包含するものに○を記載した。
- j 炉材 資料表面に炉材の一部と思われる粘土・石材が付着するものに○を記載した。
- k ガラス質 資料中にガラス質（透明な部分）を包含するものに○を記載した。
- l 備考 資料表面の付着物・固着（粘土等と共に水酸化鉄が固着した現象を指す）の有無等の特記事項を記載した。

## ② 自然科学的な調査方法

全資料中から更に詳細な分析が必要と認められた32点については、以下の5種の自然科学的な調査を適宜実施した。分析した資料及びその内容の一覧は、第11表の備考欄に示している。

### a 外観の観察と写真撮影

各種試験用試料を採取する前に、資料の両面をmm単位まであるスケールを同時写し込みで撮影した(第110~112図)。また、試料採取時の特異部分についても撮影を行った。

### b 化学成分分析

化学成分分析はJ I Sの分析法に準じて行った<sup>(1)</sup>。

鉄滓は、製鉄に使用した原料の推定と生産工程のどの部分で発生した鉄滓かを判断するデータを得るために、18項目について調査した。鉄塊は、原料鉄源やどのような加工が行われていたのかを判断するために、13項目について分析した。また、銅滓は22項目、銅塊は21項目、鉛塊は9項目について各々成分分析を実施した。なお、各々の項目別の具体的な分析方法に関しては、第12~16表に併記した。

### c 顕微鏡組織写真

まず鉄塊については、試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨(鏡面仕上)した。その後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、熔融状況や介在物(鉱物)の存在状態等から加工状況や材質を判断した。鉄滓・銅滓の場合にも、鉄塊同様に処理・観察をおこない、製鉄・鍛冶過程での状況を推定した。原則として100倍と400倍で撮影したが、必要に応じて低倍率での撮影も行った(第113・114図)。

### d X線回折測定

試料を粉碎して板状に成形しX線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれの固有の反射(回折)をするX線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定した。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定された(第115~118図)。

### e EPMA(X線マイクロアナライザー)による観察

高速電子線を2 $\mu$ m $\phi$ 程度に絞って、分析対象試料面に照射し、その微小部に存在する元素から発生する特性X線を測定するもので、金属鉄中の介在物、鉄滓の成分構成、金属銅や金属鉛と同伴する金属を視覚で確認するために、二次元の面分析を行った。また、EPMAに付属する特性X線分光分析装置(EDX)を用いて、1点のみ高速定性分析を実施した。

## C 調査結果

肉眼観察及び簡易検査の結果は、第11表に示した。金属滓(金属塊)試料の総数は703点で、これを発掘調査区ごとに整理している。また、自然科学的な調査の結果は、b化学成分分析は分析した32点全てのデータを第12~16表に示したが、a外観観察と写真・c顕微鏡組織写真・dX線回折測定による分析結果は、その結果の一部のみを提示した(第110~118図)。なお、提示した結果以外のデータは(財)愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

## D 考察 I 製鉄に関する分析結果

### ① 鉄の生産工程と鉄滓

鉄・鉄製品の生産は大きく製錬・精錬鍛冶・鍛造または鋳物の工程を経て行われる。鉄滓は各工程の中で発生するものであり、各工程固有の特徴を持つ鉄滓が生成される。この鉄滓の発生を鉄の生産工程から大きく分類すると、以下の4種が存在する。

製錬滓	砂鉄や鉄鉱石を還元して、酸素を取り除き、金属鉄を取り出す時に発生するもの。炉内滓や炉底滓及び炉外流出滓等がある。
精錬鍛冶滓	製錬でできた鉄塊から、更に不純物を取り出して加工しやすい状態の鉄塊にする時に生成するもの。大鍛冶滓。
鍛錬鍛冶滓	鉄を加熱・鍛打して、鉄製品を作っていく過程で生成する鉄滓。小鍛冶滓。その生成過程により、椀型鍛冶滓・鍛造剥片・湯玉状鉄滓等の形となる。
鋳物滓	鉄を溶解し、鋳型に流し込んで鋳物を作る時に生成するもの。

また、製鉄原料についても、大きく砂鉄を用いるものと鉄鉱石を用いるものに分けることができる。

### ② 自然科学的な調査による資料の分類

自然科学的な調査を実施した25点の製鉄関連の資料を、上述の生産工程からみた分類に基づいて整理すると、以下のようにまとめられる。

種別	資料番号
製錬鉄滓	108・152
精錬鉄滓	65・173・428・444・496・503・622・623
原料砂鉄？	(444・503)
原料鉄鉱石？	(173・496)
精錬椀型鉄滓	14・30・44・116・150・153・158・508・516・582
原料砂鉄？	(14・44・153・508・582)
原料鉄鉱石？	(30・150・516)
銹化鉄塊	39・106・107・110・617

### ③ 製錬鉄滓

製錬鉄滓の自然科学的な特徴を具体的な事例を取り上げ、詳述する。

製錬鉄滓（資料番号108-61A区）

滓断面の顕微鏡写真（第113図）によると、灰白色の酸化第一鉄（ウスタイト： $\text{FeO}$ ）<sup>(2)</sup>の結晶が集まった部分、針状のファイヤライト（ $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ）<sup>(3)</sup>が観察される。ファイヤライトは鉄製錬時の高温の下（溶融状態）で滓の中に出現する鉱物である。さらにウスタイト中に灰色六角板状の結晶があるが、これはウルボスピネル（ $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ）<sup>(4)</sup>で砂鉄製錬の際、原料のチタニウム分が多い場合に特徴的に現れる。

化学成分分析の結果でも、 $\text{TiO}_2$ が0.36%となっている。また造滓成分の値は68.8%と多く、全鉄分（T.Fe）は19.4%と低い。一方、アルカリ金属（ $\text{Na}_2\text{O} \cdot \text{K}_2\text{O}$ ）が多く含まれており製錬過程で炉壁などの粘土類を溶解したものではないかと推測される。

X線回折ではウスタイトの存在ピークは検出されなかったが、四三酸化鉄（マグネタイト： $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ）<sup>(5)</sup>

の他多量のファイヤライトや石英（シリカ：SiO<sub>2</sub>）の存在が認められ（第115図）、顕微鏡観察結果とほぼ一致する。

以上の考察を総合すると、この滓は精錬鉄滓や鍛冶鉄滓ではなく、製錬鉄滓と考えられる。

#### ④ 精錬鍛冶鉄滓

精錬鍛冶鉄滓は形状から精錬鉄滓と精錬椀型鉄滓に分けられる。また、化学成分分析値からTiO<sub>2</sub>・V・Cuや燐（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）が多い資料と少ない資料にも分類できる。化学成分分析値の差異は、鉄原料の相違を物語っているだろう。以下に、上述した2種の区分を組み合わせた各類の具体的事例を取り上げる。

##### 精錬椀型鉄滓—原料砂鉄（資料番号14—61A区）

大きさが50×35mm、底部に礫を噛み込んだ扁平な椀型鉄滓と見られる資料である（第111図）。

低倍率の実体顕微鏡写真（第114図）では、金属鉄が錆化した緻密なオキシ水酸化鉄<sup>(6)</sup>と推定される黒色物が認められる。また滓断面の写真では、密に析出した繭状のウスタイトの部分と針状のファイヤライトと板状のチタニウムを含むウルボスピネルの結晶が観察される。X線回折のピーク観察（第116図）でも、同様の結果となっている。

化学成分分析でFeOが48.3%、T.Feが47.4%の値を示すことから、この資料は鉄滓であることが判る。造滓成分は34.54%とやや多い。TiO<sub>2</sub>は0.30%、Vは0.010%とやや多い。X線回折ではウルボスピネルは検出できなかったが、ウスタイトやファイヤライトが多く存在すると示唆された。

以上の結果を総合すると、砂鉄を原料とした精錬鉄滓と推定できる。

##### 精錬椀型鉄滓—原料鉍石（資料番号30—61A区）

大きさが90×60mmのコロッケ状の肉厚の椀型鉄滓と見られる資料である（第111図）。

滓断面の顕微鏡による観察（第114図）から、繭状のウスタイトと若干のファイヤライトの針状結晶が認められる。X線回折の結果（第117図）もウスタイトと若干のファイヤライトおよび鉍物質のピークが観察され、顕微鏡による知見と一致する。

化学成分分析でT.Feは56.4%でその大部分は60.1%のFeOが占めている。造滓成分は21.2%であり、TiO<sub>2</sub>は0.08%、Vは0.003%と少ない。反対にCuは0.015%と多い。

以上の結果を総合すると、精錬鉄滓と推定できる。

##### 精錬鉄滓—原料砂鉄（資料番号444—91A区）

赤褐色の滓と灰黒色のガラス状部分に分かれた塊であり、金属鉄の反応がある。

実体顕微鏡による視野の範囲には、滓および金属鉄は認められなかったが、黒く見える鉄滓が観察された。この部分のEPMAによる面分析では、Fe、Si、Al、Caなどの元素の酸化物で形成されていることが判る。化学成分分析ではT.Feは27.3%と値が低かったが、この中で金属鉄（M.Fe）が17.6%も含まれていた。また、造滓成分の値は62.2%と多い。TiO<sub>2</sub>は0.31%、Vの含有量も0.023%と多い。またCuの値も0.12%が高い。

これらの結果から、この資料は精錬鉄滓と考えられる。

##### 精錬鉄滓（資料番号622—91A区）

大きさが30×45mmの中央に亀裂のある、残存金属鉄を含む資料である。着磁度は強い。

実体顕微鏡による観察では、中央部に鉄の錆化した部分が認められる。X線回折の結果では、ウス

タイトとファイヤライトとが存在する。また、EPMAによる面分析では、酸化鉄とAl、Caおよび少量のTiを含有するファイヤライトが観察される。残存金属鉄の化学成分分析結果によると、Cは0.096%と極めて少ない。SiやAlはやや多い。しかし、TiO<sub>2</sub>およびVの含有量はそれぞれ0.004%、0.001%と非常に少なく、Cuも0.005%と少ない。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の値が0.020%とやや高い。

以上の結果から、この資料は金属を含む精錬鉄滓といえる。

#### ⑤ 銹化鉄塊

銹化鉄塊中の鉄塊は、非金属介在物が少なく、比較的純度が高いものである。銹化鉄塊は金属中の炭素分が少ないものと多いものに区分できる。

##### 銹化鉄塊－炭素少量（資料番号106-61A区）

銹化進行中の3個に分割されている資料である。この他小片2個がある。着磁度は強い。

実体顕微鏡の観察では、付着した土に包まれて緻密な鉄銹が黒く見える。この写真の視野に写っていないが、化学成分分析の結果では金属鉄（M.Fe）が10.7%も含まれている。酸化第二鉄（ヘマタイト：Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）<sup>(7)</sup>が45.6%、C.W.（結合水）が5.51%存在することから、鉄塊が酸化してオキシ水酸化鉄に変化したものと考えられる。

##### 銹化鉄塊－炭素多量（資料番号617-91A区）

径20～25mmの梅干し大の、衝撃で割りがかれた部分のある褐色の銹に覆われた資料である。メタルチェッカーで残存金属が認められ、従って着磁度は強い。

実体顕微鏡による観察では、金属鉄の銹化した部分や金属は観察されなかった。しかし、別の箇所から金属鉄を取り出して化学成分分析を行った。

その結果によると、Cが3.37%も含まれていた。TiO<sub>2</sub>およびVの含有量はそれぞれ0.001%と非常に少なかったが、Cuは0.055%と多い。また、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の値が0.240%と非常に高い。

これらの結果を総合すると、この資料は炭素分の高い鉄を含む銹化鉄塊と考えられる。

#### ⑥ 原料について

一般に製鉄に使用された原料が砂鉄か否かを判定する場合、鉄滓や金属鉄の介在物（不純物）にチタン（TiO<sub>2</sub>）やバナジウム（V）が含まれているので、これらの元素の多寡で判断することができる。同様に、原料に鉍石が用いられた時は、砂鉄にほとんど存在しないが鉄鉍石に含まれる銅等の元素が入ってくるので、その量によって判断が可能となる。

今回の分析・調査では、製錬鉄滓、精錬鉄滓あるいは鉄塊中の金属鉄の化学成分分析の値で、TiO<sub>2</sub>・V・Cuや燐（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）が多い資料と少ない資料が混在した。このことから、鉄原料は砂鉄と鉍石の2種類であった可能性が高いと考えられる。つまり、鉄原料・鉄製品が1ヶ所のみではなく、2ヶ所以上の生産地域から入手されたのではないかと推定される。

#### ⑦ 鉄滓の分布からみる清須城下町における製鉄

以上、自然科学的な調査による鉄滓（鉄塊）の分類を行い、どの生産工程から生成した鉄滓（鉄塊）か、あるいはどのような原料を用いたかを個々に推定した。これらを発掘調査区別にみると、

61A区 製錬鉄滓1、精錬椀型鉄滓4（うち砂鉄2、鉍石2）、精錬鉄滓1、銹化鉄塊4

61C区 製錬鉄滓1、精錬椀型鉄滓3（うち砂鉄1、鉍石1）、精錬鉄滓1（うち鉍石1）

91A区 精錬椀型鉄滓3（うち砂鉄2、鉍石1）、精錬鉄滓6（うち砂鉄2、鉍石1）、銹化鉄塊1

のようにまとめられる。上記25点における調査では、調査区別の原材料や工程上の差異は特に認められない。ただし、61A区と61C区で製錬鉄滓が認められ、五条橋地区及び南部地区で鉄製錬が行われた可能性が生じたことは興味深い。

また、自然科学的な調査を実施しなかったものも含めて、鉄滓（鉄塊）の分布状況を検討すると、以下のような特徴が読み取れる。

- a 鉄滓の分布は61A区・61C区・61D区・63C区・89B区・91A区に偏って多く出土している。
- b このうち、椀型鉄滓（肉眼観察による）は61C区・91A区で10点以上出土した。
- c 61C区・61D区で出土した鉄滓（特に椀型鉄滓）の大部分はSK7029から出土している。なお、SK7029からは羽口等の製品も比較的多量に認められる遺構である。

これらの結果から、鉄滓は特定の地区（①五条橋地区北部61A区・②本町地区南半部89B区と91A区・③南部地区北部61CD区）に集中して認められ、この地区に製鉄関連の遺構（すなわち製鉄関連の職人が活動した場所）が存在した可能性が高い。そのうち、①五条橋地区北部61A区、及び③南部地区北部61CD区では製錬鉄滓を持つことから、製錬または製錬された材料を持ち込んで行う精錬鍛冶（大鍛冶）が行われた可能性が指摘されよう。また、②本町地区南半部89B区と91A区では多量の椀型鉄滓を含む精錬鉄滓が多いことから、精錬鍛冶または鍛練鍛冶（小鍛冶）が行われた可能性がある。

なお、鉄滓の時期は特定し難い点も多いが、およそ以下の通りである。

五条橋地区北部61A区	宿場町期Ⅱ期（一部城下町期の可能性も残る）
本町地区南半部89B区と91A区	城下町期Ⅱ－2期～城下町期Ⅲ期
南部地区北部61CD区	城下町期Ⅲ－2期

各時期における地点の性格は、いずれも短冊型地割が並ぶ町屋と考えられる。

## E 考察Ⅱ 製銅に関する分析結果

### ① 自然科学的な調査による資料の分類

自然科学的な分析を行った銅滓は6点を数え、銅の純度と鉛・錫の添加量によって区分できる。

種別	資料番号
金属銅を含む銅滓	28・328・507
銅・青銅を含む青銅滓	376・424・473

### ② 銅滓

銅滓は金属銅の含有量が約95%の純度の高いものと、純度の低いものがある。前者は銅の加工品や銅鑄物あるいは青銅の製造のために使用されたものであろう。

金属銅を含む銅滓－純度が高い（資料番号328－63C区）

径約30mmの濃緑黒色で凹凸と突出部が多い、偏平な塊資料である（第112図）。メタルチェッカーの検査で金属の反応があった。資料断面の実体顕微鏡による観察では、中央部に滓とともに凝固した気孔の多い金属銅が認められた。

金属の化学成分分析によると、Cuが97.7%と非常に高く、Pbが0.32%、Asが0.31%存在する。Sn等の他の元素も非常に少ない。従って、金属部分は純粹の金属銅に近いといえる。またE PMAによ

る面分析の結果をみても、Cuの存在パターンのみが検出されたので純銅であることが確かめられた。したがって、この資料は銅を溶解した際の金属銅を含む銅滓である。

金属銅を含む銅滓—純度が低い（資料番号28—61A区）

大きさが径35mmで緑青色部が一面に分布する塊で、木炭片の噛み込みがある。

低倍率の実体顕微鏡による断面の写真で白く見えるところが金属銅である。金属部分の顕微鏡組織は蜂の巣状になっていて、凝固が比較的ゆっくり進んだものと見受けられる。

銅滓の化学成分分析値をみると、銅（Cu）が58.7%と多く、さらに鉛（Pb）が5.71%、砒素（As）が5.23%存在する。灼熱減量（Ig-loss）は4.10%であった。試料を採取する前に極力木炭を取り除いたが、その一部が残ったのと結晶水等によるものと考えられる。青銅に一般に含まれる錫（Sn）は0.22%と少なかった。Asは原料とした銅鉱石に含まれていたものがそのまま残ったものと考えられる。

銅鉱石には通常これほど多くのPbを含まないので、合金や鑄造を目的とし、製錬途中あるいは銅の溶解中に添加したとしか考えられない。なお銅滓の分析値の合計が100%にならないのは、金属元素等を全て金属として計算しているためである。

滓部分のX線回折の結果（第118図）では、金属銅の存在は検出できなかったが、銅化合物の酸化第一銅（Cu<sub>2</sub>O）、塩化第一銅（CuCl）やアタカマイト〔Cu<sub>2</sub>Cl(OH)<sub>3</sub>〕のピークが認められた。塩素（Cl）が何処から取り込まれたのかは明らかではないが、地下水や農薬等の影響が考えられる。

以上の結果からこの資料は金属銅を含む金属溶解過程での銅滓と推定される。

### ③ 青銅滓

青銅滓はCuにPb単独、あるいは更にSnが多量に添加されている資料がある。青銅の鑄造品の作成が行われており、そこで鑄造のための溶解と成分の調合がなされていたことが示唆される。

青銅を含む青銅滓（資料番号473—91A区）

径が約40mmで灰緑色の繊維痕の多い銅滓と思われる資料である（第112図）。木炭痕も観察される。

化学成分分析によると、Cuが47.7%、Snが6.59%、Pbは26.7%も含まれていた。なお、これらの元素は全て金属ベースで分析値を求めているから、各々の分析項目の合計が100%にはなっていない。しかし、前記の3元素のみの合計は81.0%に達し、この値を基準にとる（100として）と、Cuが58.9%、Snが8.1%、Pbが33.0%となり、鉛の非常に多い青銅であるといえる。

これらの考察からこの資料は、溶解あるいは鑄造時の青銅を含む青銅滓といえる。

### ④ 銅滓の分布からみる清須城下町における製銅

銅滓（青銅滓）は総数9点のみであり、このうち半数以上の5点が91A区から出土している。また五条橋地区南部の63C区と90C区でも各1点ずつの銅滓（青銅滓）が認められる。Pb・Snの含有量が比較的多いことも考えあわせると、本町地区及び五条橋地区南部の一角で青銅の鑄造活動が行われた可能性が指摘されよう。なお、銅滓の時期は特定できないものが多い。

## F 考察Ⅲ 鉛に関する分析結果

### ① 鉛塊の自然科学的な調査

金属鉛の自然科学的分析は、1点のみ実施した。高純度の金属鉛であり、驚くべき資料であった。

金属鉛（資料番号413-89E区）

長さ80mm×幅30mmの白灰色の溶融金属が凝固したような塊状の資料で、金属反応がある（第112図）。

実体顕微鏡による断面の観察では、運河のような模様が一面に観察される。資料の表面部分を含む断面のEPMAによる面分析では、金属鉛の他にアルミニウム（Al）が一様に分散して含まれている。特に表面部分に多く存在している。このことはEPMAによる高速定性分析の結果からも理解できる。

化学成分分析でもPbは99.0%と多量に存在し、他元素（As、Sn、ZnやCu）の含有量は非常に少ない。

以上の結果からこの資料は純度の高い金属鉛といえる。

### ② 鉛塊（鉛滓）の分布からみた清須城下町における製鉛

鉛塊（鉛滓）は89E区のみで認められた。自然科学的な調査を実施した資料は1点のみであったが、純度が極めて高いものである。この結果、89E区での製鉛あるいは鉛加工（例えば鉄砲玉製作等）が行われた可能性が指摘されるが、いずれかは特定できない。また、時期も特定できない。

## G まとめ

以上の分析の結果を箇条書にまとめる。

- ① 製鉄工程のうち、製練・精錬に関わる鉄滓（鉄塊）が確認された。
- ② 製鉄原料として、砂鉄と鉄鉱石の二種が使用された可能性が考えられる。
- ③ 61A区・91A区・61CD区等に偏重して鉄滓が出土しており、製鉄は特定地区で行われただろう。
- ④ 鉄滓集中部は、城下町期Ⅱ-Ⅲ期・宿場町期Ⅱ期の町屋推定域に相当する。
- ⑤ 製銅工程のうち、銅を溶解または青銅の鑄造に関わる銅滓（青銅滓）が確認された。
- ⑥ 鉄の場合と同様、五条橋地区南部・91A区に偏重して銅滓が存在している。
- ⑦ 鉛塊は89E区のみで確認され、89E区で鉛に関わる製造が行われた可能性が指摘できる。

今回の分析では、限られた資料に関してのみ自然科学的な調査を実施したもので、決して充分なものとは言えないが、多くの成果も得ることができた。今後の更なる調査を期待したい。（鈴木正貴）

- 註 (1) 分析結果表（第12表）に記載されている全鉄分（Total Fe=T.Feと表示）の量と、その後に記載されている金属鉄（M.Fe）、酸化第一鉄（FeO）および酸化第二鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）との関係は、後者2つは酸化鉄を示しており、それらの中の鉄（Fe）の量と金属鉄（M.Fe）を合計したものが前者の全鉄分（T.Fe）となる。
- (2) ウスタイト：Wustite（FeO）は白色の繭玉または葡萄の房状の結晶を指す。
- (3) ファイヤライト：Fayalite（2FeO・SiO<sub>2</sub>）は褐色針状やレース状の長い結晶を指す。
- (4) ウルボスピネル：Ulvospinel（2FeO・TiO<sub>2</sub>）は淡褐色の角尖状～六角形状の結晶を指す。
- (5) マグネタイト：Magnetite（Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>）は白色で多角盤状または樹枝状の結晶を指す。
- (6) 水分との接触が多い鉄滓には、水分と酸化第二鉄とが結合したオキシ水酸化鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・H<sub>2</sub>O=2FeOOH）が生成する。
- (7) ヘマタイト：Hematite（α-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）は赤褐色～赤紫色を呈す。

第11表 金属滓（金属塊）一覽表

番号	調査区	新透標番	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発泡	小石粒	錆物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
1	G1A	SD4011	鉄滓	14.8	2	塊状	欠損							固着多く不明
2	G1A	SD4003	鉄滓	31.2	2~3	塊状	欠損							小片多数 鉄塊?
3	G1A	SD4002	鉄塊	19.2	3	塊状	欠損?	○						白色付着物有
4	G1A	SE4002	鉄滓	78.0	3	塊状	欠損	○		○				
5	G1A	SE4004	鉄滓	119.6	3	塊状凹凸	欠損	○	○					紫色付着物有
6	G1A	SE4004	鉄滓	82.0	3~4	塊状扁平	欠損	○	○	○				赤紫色付着物有
7	G1A	SE4004	鉄滓	124.6	3~4	塊状凹凸	欠損	○	○					
8	G1A	SE4004	鉄滓	139.4	2~4	塊状	欠損	○	○	○	○			
9	G1A	SE4004	鉄滓	81.5	1~2	塊状	欠損	○	○	○	○			
10	G1A	SE4004	鉄滓	96.6	2	塊状凹凸	欠損	○	○	○				
11	G1A	SE4004	鉄滓	71.2	2	塊状	欠損?	○		○				
12	G1A	SE4004	鉄滓	48.8	2~3	塊状	完形	○						
13	G1A	SE4004	鉄滓	51.2	2~3	塊状	欠損	○		○				
14	G1A	SE4004	鉄滓	37.1	2	碗型	欠損	○		○				成分・組織・X線・外観
15	G1A	SE4004	鉄滓	45.1	2~3	塊状	欠損	○	○	○				
16	G1A	SE4004	鉄滓	25.4	2~3	塊状	欠損	○		○				
17	G1A	SE4004	鉄滓	11.2	1~2	扁平	欠損	○	○					
18	G1A	SE4004	鉄滓	18.0	2	塊状	欠損	○	○	○				
19	G1A	SE4004	鉄滓	6.6	2~3	塊状	欠損?	○	○					
20	G1A	SE4004	鉄滓	91.1	3	塊状	欠損	○		○			○	
21	G1A	SE4004	鉄滓	61.0	2~3	塊状	欠損	○	○	○				紫色付着物有
22	G1A	SE4004	鉄滓	37.8	1~3	塊状	欠損	○	○		○	○		紫色付着物有 羽口部に付着
23	G1A	SE4004	鉄滓	10.8	2	塊状	欠損	○	○		○			
24	G1A	SE4004	鉄滓	6.3	2	塊状	欠損	○		○				
25	G1A	SE4004	鉄滓	2.4	1~2	塊状	欠損	○						藍色付着物有
26	G1A	SE4004	鉄滓	0.3	1	塊状	欠損	○			○			
27	G1A	SE4004	鉄滓	0.3	1	塊状	欠損	○			○			
28	G1A	SE4116	鋼滓	27.8	0	扁平	欠損	○		○				成分・組織・X線・外観
29	G1A	SE4121	鉄滓	25.2	2	塊状	欠損	○						黄色付着物有
30	G1A	SE4121	鉄滓	206.0	2~3	碗型	欠損	○		○				成分・組織・X線・外観
31	G1A	SE4137	鉄滓	4.2	3	塊状	欠損	○						
32	G1A	SE4137	鉄滓	39.6	2~3	塊状	欠損	○					○	白色付着物有
33	G1A	SE4188	鉄滓	16.1	1~2	塊状	欠損	○						小片多数
34	G1A	SE5010	鉄滓	18.7	2~3	塊状	完形							固着多く不明
35	G1A	SA4010	鉄滓	11.7	2~3	扁平凹凸	欠損	○		○				
36	G1A	SA4010	鉄滓	78.0	1~2	塊状	欠損	○	○	○		○	○	緑褐色付着物有
37	G1A	SA4010	鉄滓	34.9	2~3	扁平	欠損	○		○				
38	G1A	SA4010	鉄滓	29.6	2~3	塊状	欠損			○				固着多く不明
39	G1A	SA4010	鉄塊	25.9	4	塊状	欠損			○				成分・組織・E-P・外観
40	G1A	SA4010	鉄滓	12.6	1~2	塊状凹凸	欠損?	○	○				○	
41	G1A	SA4010	鉄滓	4.2	1	塊状	欠損	○						
42	G1A	H7f	鉄滓	79.7	1~2	塊状	欠損	○						固着多く不明
43	G1A	H7f	鉄滓	411.2	2~3	扁平凹凸	欠損	○	○				○	
44	G1A	H7f	鉄滓	101.5	2~3	碗型	欠損	○	○	○	○			成分・組織・X線・外観
45	G1A	H7f	鉄滓	375.1	2~3	塊状扁平	欠損	○	○	○			○	土砂付着?
46	G1A	H7f	鉄滓	357.1	2	扁平凹凸	欠損?	○		○				
47	G1A	H7f	鉄滓	2.5	1~2	塊状	欠損	○	○					小片
48	G1A	H7f	鉄滓	196.5	3	塊状凹凸	欠損	○	○	○		○		羽口部に付着
49	G1A	H7f	鉄滓	143.0	2~3	塊状	欠損	○	○	○	○			
50	G1A	H7f	鉄滓	80.3	2~4	扁平凹凸	欠損	○		○	○			
51	G1A	H7f	鉄滓	105.1	2~3	塊状	欠損	○	○					
52	G1A	H7f	鉄滓	91.0	2~4	塊状凹凸	欠損	○	○	○				
53	G1A	H7f	鉄滓	146.4	3	塊状	欠損	○	○					鉄塊?
54	G1A	H7f	鉄滓	57.9	2	塊状	欠損	○	○					紫色付着物有
55	G1A	H7f	鉄滓	77.7	3	塊状	欠損	○	○					紫色付着物有
56	G1A	H7f	鉄滓	42.1	1~3	塊状扁平	欠損	○	○			○		
57	G1A	H7f	鉄滓	30.6	2	塊状扁平	欠損	○	○			○	○	
58	G1A	H7f	鉄滓	51.6	2~3	塊状	欠損	○		○	○			
59	G1A	H7f	鉄滓	45.7	2~3	塊状扁平	欠損	○		○				
60	G1A	H7f	鉄滓	44.8	2~3	塊状扁平	欠損	○		○				
61	G1A	H7f	鉄滓	35.8	1~3	塊状	欠損			○	○			固着多く不明
62	G1A	H7f	鉄滓	34.0	2	塊状凹凸	欠損	○		○				
63	G1A	H7f	鉄滓	31.8	2~3	塊状扁平	欠損	○	○					
64	G1A	H7f	鉄滓	20.1	2~3	凹凸	欠損	○	○				○	
65	G1A	H7f	鉄滓	56.7	3	碗型	欠損	○	○	○				鉄塊? 成分・組織・X線・外観
66	G1A	H7f	鉄滓	24.3	2~3	塊状	欠損	○	○				○	紫色付着物有 石に付着
67	G1A	H7f	鉄滓	35.9	1~2	塊状	欠損	○	○					灰色付着物有
68	G1A	H7f	鉄滓	13.4	1~2	塊状	欠損	○	○					灰色付着物有
69	G1A	H7f	鉄滓	23.7	3	塊状	欠損	○	○					
70	G1A	H7f	鉄滓	13.2	2	塊状	欠損	○	○					
71	G1A	H7f	鉄滓	14.1	2~3	扁平	欠損	○	○					

番号	調査区	新通標番	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発泡	小石粒	植物残痕	木炭	碎材	ガラス質	備考
72	G1A		鉄滓	3.2	1	礫状	欠欠	○						
73	G1A		鉄滓	13.1	2~3	礫状	欠欠	○		○				
74	G1A		鉄滓	15.5	2~3	礫状	欠欠	○	○					
75	G1A		鉄滓	12.7	2~3	扁平	欠欠	○		○				灰色付着物有
76	G1A		鉄滓	7.6	3	礫状	欠欠	○	○					
77	G1A		鉄滓	2.6	1	礫状	欠欠				○			固着多く不明
78	G1A		鉄滓	1.5	1~2	礫状	欠欠	○	○			○		
79	G1A		鉄滓	0.6	1	礫状	欠欠	○		○				
80	G1A		鉄滓	0.8	2~3	礫状	欠欠	○						
81	G1A		鉄滓	0.4	1~2	礫状	欠欠	○						
82	G1A		鉄滓	239.9	2~3	礫状	欠欠	○	○	○		○		
83	G1A		鉄滓	146.6	2~3	礫状扁平	欠欠	○		○				
84	G1A		鉄滓	91.7	2~3	礫状	欠欠	○	○					表面藍色に光る
85	G1A		鉄滓	49.6	3~4	礫状	欠欠	○	○					紫色付着物有
86	G1A		鉄滓	6.7	3	礫状	欠欠	○	○					紫色付着物有
87	G1A		鉄滓	5.1	1~2	礫状	欠欠	○	○	○				鉄塊?
88	G1A		鉄滓	4.9	3	礫状	欠欠	○	○					紫色付着物有
89	G1A		鉄滓	2.3	2	礫状	欠欠	○	○				○	
90	G1A		鉄滓	3.1	3	礫状	欠欠	○	○					
91	G1A		鉄滓	2.9	3	礫状	欠欠	○						
92	G1A		鉄滓	2.1	3	礫状	欠欠	○	○				○	
93	G1A		鉄滓	1.9	2	礫状	欠欠	○	○					
94	G1A		鉄滓	2.0	2~3	礫状	欠欠	○	○					
95	G1A		鉄滓	1.7	2	礫状	欠欠	○	○					
96	G1A		鉄滓	0.9	2	礫状	欠欠	○	○					
97	G1A		鉄滓	0.6	3	礫状	欠欠	○	○					
98	G1A		鉄滓	0.6	2~3	礫状	欠欠	○	○					
99	G1A		鉄滓	0.5	2	礫状	欠欠	○	○					赤褐色付着物有
100	G1A		鉄滓	0.5	3	礫状	欠欠	○						
101	G1A		鉄滓	3.9	1~2	礫状	欠欠							小片多数
102	G1A		覆乱	22.6	2~3	礫状扁平	欠欠?							小片多数 鉄塊?
103	G1A		検出	12.6	3	礫状	欠欠?							固着多く不明
104	G1A		検出	68.1	2~3	礫状扁平	欠欠	○		○				
105	G1A		検出	165.4	3	輪型	欠欠	○		○				
106	G1A		検出	25.4	3	礫状	欠欠?							小片多数 成分・組織・X線・外観
107	G1A		検出	34.6	3	礫状	欠欠?							成分・組織・X線・外観
108	G1A		検出	27.0	2	礫状	欠欠	○						成分・組織・X線・外観
109	G1A		検出	6.7	2~3	凹凸	欠欠	○	○				○	金色付着物有(黄鉄鉱?)
110	G1A		検出	141.6	3	礫状	欠欠?							小片多数 成分・組織・EP・外観
111	G1A		検出	24.2	1~2	礫状	欠欠?	○		○				
112	G1A		検出	242.6	2~4	礫状扁平	欠欠	○	○	○				紫色付着物有
113	G1A		検出	16.6	1~2	礫状扁平	欠欠	○	○	○		○		3小片
114	G1A		検出	16.6	3~4	礫状	完形?							固着多く不明 鉄塊?
115	G1A		検出	36.5	2~3	礫状	欠欠?	○			○			
116	G1A		検出	124.6	2	輪型	欠欠	○	○	○				成分・組織・X線・外観
117	G1A		検出	52.2	3	礫状	欠欠?							
118	G1A		検出	76.8	2~3	礫状	欠欠	○	○				○	
119	G1A		検出	75.3	1~3	礫状	欠欠	○		○				固着多く不明
120	G1A		検出	45.2	2	礫状	欠欠	○		○				紫色付着物有
121	G1A		検出	0.3	1	礫状	欠欠	○						
122	G1A		検出	17.1	3	礫状	欠欠							固着多く不明 土製品に付着?
123	G1A		検出	19.3	1	礫状	欠欠?							固着多く不明
124	G1A		検出	15.5	1~2	扁平	欠欠	○		○				
125	G1A		検出	14.2	1~2	礫状	欠欠	○						
126	G1A		検出	1.4	1~2	礫状	欠欠	○						
127	G1A		検出	20.3	3~4	礫状	完形							固着多く不明 鉄塊?
128	G1B	SD6032	鉄塊	2.7	2~3	礫状	欠欠							固着多く不明
129	G1B		検出	1.8	1~2	礫状	欠欠	○				○		
130	G1B		検出	30.3	1~2	礫状扁平	欠欠	○	○	○			○	
131	G1B		検出	36.2	2	輪型	欠欠	○	○					土砂付着?
132	G1B		検出	14.9	2	礫状	欠欠	○		○				
133	G1B		検出	2.5	0~1	礫状	欠欠	○						黄色付着物有
134	G1B		検出	4.6	1~2	礫状	欠欠	○						
135	G1B		検出	4.9	1~2	礫状	欠欠	○						黄鉄鉱らしき発泡有
136	G1B		検出	37.3	2~3	礫状扁平	欠欠	○		○				
137	G1C	SD7004	鉄滓	21.2	2	扁平凹凸	欠欠	○						
138	G1C	SK7029	鉄滓	7.5	1~3	礫状	欠欠	○	○			○	○	
139	G1C	SK7029	鉄滓	16.5	1~2	礫状	欠欠?	○					○	石に付着?
140	G1C	SK7029	鉄滓	15.1	2~3	輪型	欠欠	○			○	○		
141	G1C	SK7029	鉄滓	12.4	1~2	礫状	欠欠	○	○				○	紫色付着物有
142	G1C	SK7029	鉄滓	26.0	4	扁平凹凸	欠欠	○			○			緑青付着

清洲城下町遺跡V

番号	調査区	新遺構番号	種別	重量(g)	着磁度	形状	完欠	発色	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
143	B1C	SE1029	鉄滓	155.2	2~3	輪型	欠損	○			○			
144	B1C	SE1029	鉄滓	94.7	3~4	輪型	欠損	○				○		
145	B1C	SE1029	鉄滓	147.1	2~3	輪型	欠損	○	○		○			紫色付着物有
146	B1C	SE1029	鉄滓	44.1	2~3	凹凸	欠損	○	○			○	○	羽口部に付着
147	B1C	SE1029	鉄滓	76.9	2~3	凹凸	欠損	○	○		○	○		暗緑色付着物有
148	B1C	SE1029	鉄滓	1.5	2	塊状	欠損	○	○					紫色付着物有 石に付着
149	B1C	SE1029	鉄滓	162.2	3	輪型	欠損	○	○			○	○	紫色付着物有
150	B1C	SE1029	鉄滓	154.3	3	輪型	欠損	○	○		○			紫色付着物有 成分・組織・外観
151	B1C	SE1029	鉄滓	146.3	2~3	輪型	欠損	○	○			○		
152	B1C	SE1029	鉄滓	180.0	2~3	輪型	欠損	○	○		○	○	○	乳白色付着物有 成分・外観
153	B1C	SE1029	鉄滓	233.3	2~3	輪型	欠損	○	○		○	○		緑青付着 成分・組織・玉縁・外観
154	B1C	SE1029	鉄滓	225.9	2~3	輪型	欠損	○	○	○	○			紫色付着物有
155	B1C	SE1029	鉄滓	278.1	2~3	輪型	欠損	○	○	○	○	○		
156	B1C	SE1029	鉄滓	11.4	2	凹凸	欠損	○	○		○			
157	B1C	SE1029	鉄滓	181.6	2~3	輪型	欠損	○	○	○				紫色付着物有
158	B1C	SE1029	鉄滓	157.3	3	輪型	欠損	○	○	○				紫色付着物有 成分・組織・外観
159	B1C	SE1029	鉄滓	106.6	2~3	輪型	欠損	○	○		○			紫色付着物有
160	B1C	SE1029	鉄滓	32.8	2~3	扁平	欠損	○	○	○	○			紫色付着物有 他2小片
161	B1C	SE1029	鉄滓	63.6	2~3	輪型	欠損	○	○	○	○	○		紫色、乳白色付着物有
162	B1C	SE1029	鉄滓	63.3	2	凹凸	欠損	○	○	○	○			紫色、暗緑色付着物有
163	B1C	SE1029	鉄滓	20.5	3	凹凸	欠損	○	○					紫色付着物有
164	B1C	SE1029	鉄滓	20.3	2~3	凹凸	欠損	○	○				○	青色付着物有
165	B1C	SE1029	鉄滓	6.7	2	凹凸	欠損	○	○				○	紫色付着物有
166	B1C	SE1029	鉄滓	24.3	1~2	塊状	欠損	○	○				○	紫色付着物有 石に薄く付着
167	B1C	SE1029	鉄滓	15.2	2	扁平凹凸	欠損?	○						藍色付着物有
168	B1C	SE1029	鉄滓	26.8	2	塊状凹凸	完形	○						
169	B1C	SE1029	鉄滓	17.2	2~3	扁平	欠損	○			○			
170	B1C	SE1029	鉄滓	2.3	1~2	塊状	欠損	○				○		
171	B1C	SE1029	鉄滓	7.1	1~2	扁平凹凸	欠損	○	○				○	紫色付着物有
172	B1C	検出	鉄滓	52.2	2	輪型	欠損	○					○	土砂付着
173	B1C	検出	鉄滓	63.9	2~3	輪型	欠損	○	○					成分・組織・外観
174	B1C	検出	鉄滓	18.9	2	塊状	欠損	○						
175	B1C	検出	鉄滓	3.7	1	扁平	欠損	○	○					
176	B1C	表土	鉄滓	13.7	1~2	扁平	欠損	○						土砂付着
177	B1D	SE1029	鉄滓	50.7	2~3	塊状	完形	○						
178	B1D	SE1029	鉄滓	100.2	3	輪型	完形	○	○	○	○		○	紫色付着物有
179	B1D	SE1029	鉄滓	32.7	3	塊状	欠損	○	○		○			乳白色付着物有
180	B1D	SE1036	鉄滓	215.3	2~3	輪型	欠損	○						土砂付着 暗紫色付着物有
181	B1D	SE1037	鉄塊	64.9	2~4	輪型	欠損	○	○				○	全体に紫色付着物有
182	B1D	SE1037	鉄滓	116.9	2	塊状凹凸	欠損	○		○				
183	B1D	SE1037	鉄滓	24.2	2~3	凹凸	完形	○						
184	B1D	SE1037	鉄滓	44.9	2	凹凸	完形	○		○				紫色付着物有
185	B1D	SE1037	鉄滓	26.2	2~3	扁平	欠損	○	○	○				
186	B1D	SE1037	鉄滓	9.7	2	塊状	欠損	○	○			○	○	
187	B1D	SE1037	鉄滓	24.4	1~2	塊状	欠損	○						土砂付着
188	B1D	SE1037	鉄滓	11.9	2~3	塊状	完形	○		○				
189	B1D	SE1037	鉄滓	12.1	2~3	塊状	欠損	○	○					
190	B1D	SE1037	鉄滓	13.9	2	扁平凹凸	欠損	○						
191	B1D	SE1037	鉄滓	6.4	2	凹凸	欠損	○	○				○	
192	B1D	SE1037	鉄滓	14.0	2	扁平	欠損	○						
193	B1D	SE1037	鉄滓	11.0	1~2	凹凸	欠損	○	○					
194	B1D	SE1037	鉄滓	14.1	2	凹凸	欠損?	○						
195	B1D	SE1037	鉄滓	6.4	1~2	凹凸	欠損	○	○					
196	B1D	SE1037	鉄滓	11.4	2~3	凹凸	欠損	○	○				○	
197	B1D	SE1037	鉄滓	10.0	2	扁平凹凸	欠損	○						
198	B1D	SE1037	鉄滓	6.1	1~2	凹凸	欠損	○	○				○	
199	B1D	SE1037	鉄滓	4.9	2	凹凸	欠損?	○						
200	B1D	SE1037	鉄滓	5.8	1~3	塊状	欠損?	○	○					鉄釘に付着
201	B1D	SE1037	鉄滓	2.1	1~2	凹凸	完形?	○						
202	B1D	SE1037	鉄滓	4.7	2	凹凸	完形?	○	○				○	
203	B1D	SE1037	鉄滓	10.5	2	塊状	欠損	○	○					
204	B1D	SE1037	鉄滓	8.1	2	塊状	欠損	○	○				○	
205	B1D	SE1037	鉄滓	4.6	2	凹凸	欠損	○	○				○	
206	B1D	SE1037	鉄滓	1.7	1~2	塊状凹凸	欠損	○						紫色付着物有
207	B1D	SE1037	鉄滓	3.5	2~3	塊状凹凸	欠損	○	○				○	
208	B1D	SE1037	鉄滓	120.0	2~3	輪型	欠損	○	○	○				
209	B1D	SE1037	鉄滓	101.4	2~3	凹凸	欠損	○	○	○				
210	B1D	SE1037	鉄滓	136.8	2~3	扁平凹凸	欠損	○		○				
211	B1D	SE1037	鉄滓	85.1	2~3	塊状	欠損	○		○				
212	B1D	SE1037	鉄滓	55.6	2~3	輪型	欠損	○		○				
213	B1D	SE1037	鉄滓	74.3	2~4	塊状凹凸	欠損	○	○				○	

番号	調査区	新遺構番	種別	重量(g)	着磁度	形状	完欠	発泡	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
214	61D	SK7037	鉄滓	50.5	2	礫状凹凸	欠履	0		0				紫色付着物有
215	61D	SK7037	鉄滓	49.9	2~3	礫状凹凸	欠履	0	0	0				
216	61D	SK7037	鉄滓	69.4	2~3	礫状凹凸	欠履	0	0		0		0	紫色付着物有
217	61D	SK7037	鉄滓	55.8	3	礫状凹凸	欠履	0	0					紫色付着物有
218	61D	SK7037	鉄滓	40.0	3	礫状凹凸	欠履	0	0	0				紫色付着物有
219	61D	SK7037	鉄滓	21.1	2	礫状凹凸	欠履	0	0	0				
220	61D	SK7037	鉄滓	23.1	2	礫状凹凸	欠履	0						
221	61D	SK7037	鉄滓	26.1	2~3	扁平凹凸	欠履	0	0					
222	61D	SK7037	鉄滓	20.8	2~3	礫状凹凸	欠履	0	0					
223	61D	SK7037	鉄滓	6.0	2	礫状	欠履	0						
224	61D	SK7037	鉄滓	35.0	3	礫状凹凸	欠履?	0		0				
225	61D	SK7037	鉄滓	25.1	2	礫状凹凸	欠履?	0						紫色付着物有
226	61D	SK7037	鉄滓	19.2	2~3	扁平凹凸	欠履	0	0				0	IVに付着
227	61D	SK7037	鉄滓	16.3	2	扁平凹凸	欠履?	0						
228	61D	SK7037	鉄滓	10.4	2	扁平凹凸	欠履	0						
229	61D	SK7037	鉄滓	12.5	2	礫状凹凸	欠履	0						紫色付着物有
230	61D	SK7037	鉄滓	16.1	2~3	礫状	欠履	0						
231	61D	SK7037	鉄滓	4.0	2~3	礫状	欠履	0						割れ目藍色に光る?
232	61D	SK7037	鉄滓	17.7	3	礫状	欠履	0						
233	61D	SK7037	鉄滓	10.8	2~3	礫状凹凸	完形?	0						
234	61D	SK7037	鉄滓	12.1	1~2	礫状	欠履?	0						
235	61D	SK7037	鉄滓	19.4	2~3	礫状	欠履	0	0				0	
236	61D	SK7037	鉄滓	16.5	1~2	礫状凹凸	欠履	0						
237	61D	SK7037	鉄滓	18.7	2	扁平	欠履	0						
238	61D	SK7037	鉄滓	15.3	1~2	扁平	欠履?	0	0					
239	61D	SK7037	鉄滓	9.3	1~2	扁平凹凸	欠履	0				0		
240	61D	SK7037	鉄滓	16.3	2	礫状	欠履	0						紫色付着物有
241	61D	SK7037	鉄滓	12.4	2~3	礫状	欠履	0						紫色付着物有
242	61D	SK7037	鉄滓	17.0	3	礫状	欠履	0	0					
243	61D	SK7037	鉄滓	5.8	1~2	扁平凹凸	欠履	0						
244	61D	SK7037	鉄滓	7.9	2	凹凸	欠履	0	0					
245	61D	SK7037	鉄滓	8.6	1~2	礫状凹凸	欠履	0	0					
246	61D	SK7037	鉄滓	7.1	3	礫状	欠履	0	0					
247	61D	SK7037	鉄滓	8.5	2~3	凹凸	欠履	0						
248	61D	SK7037	鉄滓	4.3	3	礫状	欠履	0	0					表面光る
249	61D	SK7037	鉄滓	11.9	1~2	礫状凹凸	欠履	0						
250	61D	SK7037	鉄滓	7.9	1~2	礫状凹凸	欠履	0	0	0				
251	61D	SK7037	鉄滓	8.5	2	礫状凹凸	欠履	0		0				
252	61D	SK7037	鉄滓	9.5	3	礫状凹凸	欠履	0	0					
253	61D	SK7037	鉄滓	12.3	2~3	礫状	欠履?	0						
254	61D	SK7037	鉄滓	7.5	1~2	礫状	欠履	0	0					
255	61D	SK7037	鉄滓	9.5	2~3	礫状凹凸	欠履	0	0					
256	61D	SK7037	鉄滓	16.2	1~2	礫状凹凸	欠履	0		0				表面光る
257	61D	SK7037	鉄滓	9.7	1~2	礫状凹凸	欠履?	0	0					
258	61D	SK7037	鉄滓	6.7	2	凹凸	欠履?	0		0				
259	61D	SK7037	鉄滓	8.3	1	礫状	欠履	0						
260	61D	SK7037	鉄滓	5.6	2	礫状	欠履	0	0					
261	61D	SK7037	鉄滓	8.1	2~3	礫状	欠履	0	0					
262	61D	SK7037	鉄滓	4.3	1~2	凹凸	欠履	0	0					
263	61D	SK7037	鉄滓	3.8	2~3	礫状	欠履	0	0					
264	61D	SK7037	鉄滓	6.9	3	礫状	欠履	0	0					乳白色付着物有
265	61D	SK7037	鉄滓	7.2	1~2	礫状凹凸	欠履	0	0					
266	61D	SK7037	鉄滓	3.9	1~2	礫状	欠履	0						
267	61D	SK7037	鉄滓	4.6	2~3	扁平	欠履	0	0					
268	61D	SK7037	鉄滓	5.7	3	礫状	欠履	0	0					
269	61D	SK7037	鉄滓	3.0	2~3	礫状凹凸	欠履	0	0				0	
270	61D	SK7037	鉄滓	4.7	3~4	礫状凹凸	欠履?	0	0	0				
271	61D	SK7037	鉄滓	4.4	2~3	礫状	欠履	0	0					
272	61D	SK7037	鉄滓	6.6	2~3	礫状	欠履	0	0					
273	61D	SK7037	鉄滓	3.0	1~2	凹凸	欠履	0	0					
274	61D	SK7037	鉄滓	1.9	2	礫状	欠履	0	0					
275	61D	SK7037	鉄滓	1.6	2	礫状	欠履	0	0			0	0	
276	61D	SK7037	鉄滓	1.4	1~2	礫状	欠履	0	0					
277	61D	SK7037	鉄滓	2.2	2~3	礫状	欠履	0						
278	61D	SK7037	鉄滓	2.9	2~3	礫状	欠履	0						紫色付着物有
279	61D	SK7037	鉄滓	1.3	2	礫状	欠履	0	0					
280	61D	SK7037	鉄滓	3.9	2	礫状	欠履	0						
281	61D	SK7037	鉄滓	2.3	2~3	礫状凹凸	欠履	0						
282	61D	SK7037	鉄滓	2.0	3	礫状	欠履	0		0				
283	61D	SK7037	鉄滓	1.4	1~2	礫状	欠履	0	0					
284	61D	SK7037	鉄滓	1.9	3	礫状	欠履	0						

清洲城下町遺跡V

番号	調査区	新遺構番	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠完	発色	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
285	61D	SK7037	鉄滓	2.2	2	礫状	欠損?	○						
286	61D	SK7037	鉄滓	1.5	3	礫状	欠損	○	○					
287	61D	SK7037	鉄滓	0.3	1	礫状	欠損	○						
288	61D	SK7037	鉄滓	0.6	2	礫状	欠損	○						紫色付着物有
289	61D	SK7037	鉄滓	0.5	2	礫状	欠損	○	○					
290	61D	SK7037	鉄滓	0.5	2	礫状	欠損	○						
291	61D	SK7037	鉄滓	0.5	2	礫状	欠損	○						
292	61D	SK7037	鉄滓	0.3	2~3	礫状	欠損	○						表面光る 紫色付着物有
293	61D	検出	鉄滓	110.2	3	礫状	欠損	○						
294	62C	NR4001	鉄滓	205.8	3	碗型	欠損	○		○				
295	62C	SE4041	鉄滓	5.8	1	礫状	欠損	○		○		○	○	
296	62C	SE4043	鉄滓	6.1	1~2	礫状凹凸	欠損	○	○				○	
297	62C	W7f	鉄滓	6.6	1	礫状	欠損	○	○			○	○	
298	62C	検出	鉄滓	62.8	2~3	扁平凹凸	欠損	○		○				
299	62C	検出	鉄塊	72.5	3	扁平	欠損							鉄延長?
300	62C	検出	鉄滓	11.9	1	扁平	欠損	○				○		炉材部に対混入?
301	62C	検出	鉄滓	34.0	2	礫状扁平	欠損	○		○				
302	62C	検出	鉄塊	48.7	3~4	扁平	欠損							鉄延長?
303	62C	検出	鉄塊	33.0	3	扁平	欠損							鉄延長?
304	62C	検出	鉄塊	10.1	3	礫状扁平	欠損							鉄延長?
305	62C	検出	鉄塊	4.5	2~3	礫状扁平	欠損							鉄延長?
306	62C	検出	鉄滓	4.7	1	礫状扁平	欠損							
307	62C	検出	鉄滓	3.2	1~2	礫状扁平	欠損							
308	62C	検出	鉄滓	1.0	1~2	礫状扁平	欠損							小片
309	62C	検出	鉄滓	18.7	1~2	礫状	欠損?	○	○					
310	62C	検出	鉄滓	9.7	1~2	礫状	欠損	○	○	○		○	○	
311	62G	SK3038	鉄塊	15.0	3	礫状	欠損							固着多く不明
312	62W	検出	鉄滓	40.5	3~4	礫状扁平	欠損	○						紫色付着物有
313	62W	検出	鉄滓	27.1	1~2	礫状扁平	欠損	○	○					赤紫色付着物有 Wに付着
314	63A	検出	鉄滓	2.8	2	礫状	欠損	○						固着多く不明
315	63A	北W7f	鉄滓	57.9	2~3	礫状	欠損	○		○				
316	63B	SD4005	鉄滓	25.3	2~3	礫状	欠損	○	○	○				紫色付着物有
317	63B	SK4030	鉄滓	71.1	0~2	礫状	欠損	○				○		平面をもつ炉材に付着
318	63B	SK4794	鉄滓	10.9	1~2	礫状	欠損	○						固着多く不明
319	63B	-	鉄滓	14.2	3	礫状	欠損	○						固着多く不明
320	63B	検出	鉄滓	200.9	2~3	碗型	欠損?	○		○				
321	63B	検出	鉄滓	12.2	2	礫状	欠損	○						紫色付着物有 Wに付着
322	63B	検出	鉄滓	11.9	1~2	礫状	欠損	○		○				
323	63C	SD4026	鉄滓	40.8	2~3	扁平	欠損?	○		○				紫色付着物有
324	63C	SD4026	鉄滓	32.0	3	礫状	欠損	○			○			固着多く不明
325	63C	SD4026	鉄滓	6.5	3	礫状	欠損	○						
326	63C	SD4026	鉄滓	141.7	3~4	礫状	欠損	○		○				固着多く不明
327	63C	SD4026	鉄滓	8.3	2	扁平	欠損	○	○				○	
328	63C	SD4026	銅滓	19.3	0	扁平凹凸	欠損?	○		○	○			金色付着物有 成分・X線・外観
329	63C	SE4066	鉄滓	70.7	2	礫状扁平	欠損?	○						固着多く不明
330	63C	SK4008	鉄滓	67.9	3	礫状	欠損	○	○	○	○			
331	63C	SK4009	鉄滓	26.6	2	礫状	欠損	○	○				○	
332	63C	SK4009	鉄滓	31.8	2~3	礫状凹凸	欠損	○						
333	63C	SK4009	鉄滓	55.1	2~3	礫状扁平	欠損?	○	○					紫色付着物有
334	63C	SK4009	鉄滓	28.1	2~3	礫状	欠損	○		○				
335	63C	SK4009	鉄滓	149.5	3	碗型	欠損	○		○		○		
336	63C	SK4009	鉄滓	14.5	2	礫状	欠損	○	○			○		
337	63C	SK4009	鉄滓	36.5	3	扁平凹凸	欠損?	○		○	○			紫色付着物有
338	63C	SK4009	鉄滓	33.2	2~3	礫状	欠損	○						固着多く不明
339	63C	SK4009	鉄滓	14.9	2	礫状凹凸	欠損	○		○				
340	63C	SK4009	鉄滓	22.7	2~3	礫状	欠損	○		○		○		
341	63C	SK4009	鉄滓	67.7	3	扁平	欠損?	○	○		○			
342	63C	SK4009	鉄滓	4.0	0~1	礫状	欠損	○				○		炉材部に対混入?
343	63C	SK4009	鉄滓	6.9	2	扁平凹凸	欠損?	○		○			○	
344	63C	SK4009	鉄滓	74.9	3	碗型	欠損?	○			○			紫色付着物有
345	63C	SK4009	鉄滓	14.3	1~2	礫状凹凸	欠損	○	○					紫色付着物有
346	63C	SK4009	鉄滓	19.7	2	扁平凹凸	欠損	○		○				紫色付着物有
347	63C	W7f	鉄滓	1.2	3	礫状	欠損	○						
348	63C	W7f	鉄滓	21.0	2	礫状	欠損?	○			○			固着多く不明
349	63C	W7f	鉄滓	11.9	3	礫状扁平	欠損	○						固着多く不明 鉄塊?
350	63C	W7f	鉄滓	4.7	2~3	礫状	欠損	○						紫色付着物有
351	63C	W7f	鉄滓	72.1	2~3	礫状	欠損?	○	○		○			方形穴有
352	63C	W7f	鉄滓	47.0	3~4	礫状	欠損?	○	○		○			
353	63C	W7f	鉄滓	104.0	2~3	礫状扁平	欠損	○	○		○			紫色付着物有
354	63C	W7f	鉄滓	6.1	2~3	礫状	欠損	○		○	○			
355	63C	W7f	鉄滓	25.2	2~3	礫状扁平	欠損	○						紫色付着物有

番号	調査区	新選標番	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発泡	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
356	83C	117f	鉄滓	10.9	1~2	塊状	欠欠	0	0	0			0	
357	83C	-	鉄滓	11.9	3	塊状	欠欠	0	0				0	
358	83C	-	鉄滓	1.5	2~3	塊状	欠欠	0	0				0	
359	83C	-	鉄滓	1.0	3	塊状	欠欠	0						
360	83C	検出	鉄滓	21.2	1~2	塊状凹凸	欠欠?	0						
361	83D	検出	鉄滓	16.9	3	塊状	欠欠?	0	0					紫色付着物少量有
362	83D	検出	鉄滓	4.9	2	塊状	欠欠?	0						
363	83D	検出	鉄滓	4.0	2	塊状	欠欠	0	0					紫色付着物有
364	83R	117f	鉄滓	9.8	2	塊状	欠欠	0						固着多く不明
365	83R	117f	鉄滓	237.9	2~3	塊状	欠欠?	0			0			固着多く不明 赤色木胎漆器片付着
366	83R	検出	鉄滓	15.5	3	塊状	欠欠?	0						
367	83R	検出	鉄滓	95.1	2~3	塊状扁平	欠欠	0						固着多く不明 鉄蓮板状?
368	83R	検出	鉄滓	100.5	2~3	碗型	欠欠?	0						固着多く不明
369	83R	検出	鉄滓	99.6	3	塊状	欠欠	0						固着多く不明
370	83R	検出	鉄滓	30.1	1~2	塊状	欠欠	0	0					
371	83S	検出	鉄滓	159.6	2~3	塊状扁平	欠欠?	0			0			
372	83S	検出	鉄滓	28.9	2	塊状	欠欠?	0						
373	83B	SD6011	鉄滓	14.6	2	塊状	欠欠	0	0			0	0	紫色付着物有
374	83B	SD6011	鉄滓	5.2	1~3	扁平	欠欠	0				0		土製品に付着
375	83B	SD6046	鉄滓	11.6	2	塊状	欠欠?	0		0				
376	83B	SD6046	銅滓	5.9	0	塊状	欠欠	0	0		0			赤色、褐色付着物有 成分-X線-外観
377	83B	SD6056	鉄滓	7.5	1~2	扁平	欠欠	0			0			
378	83B	SD6056	鉄滓	4.0	1~2	塊状	欠欠?	0						
379	83B	SD6068	鉄滓	25.3	2	塊状	欠欠	0	0	0				
380	83B	SD6068	鉄滓	36.5	2	塊状扁平	欠欠	0						
381	83B	SD6099	鉄滓	200.9	1~2	塊状	欠欠	0	0			0	0	
382	83B	SD6099	鉄滓	109.4	2~4	塊状扁平	欠欠	0						
383	83B	SD6009	鉄滓	59.7	2	塊状	欠欠	0	0	0				
384	83B	SD6009	鉄滓	13.2	2	塊状	欠欠	0						
385	83B	SE6164	鉄滓	36.0	3	塊状扁平	欠欠	0	0					鉄塊?
386	83B	SE6164	鉄滓	7.2	2	塊状	欠欠	0		0				固着多く不明
387	83B	SE6442	鉄滓	47.9	1~2	塊状	欠欠	0	0			0	0	
388	83B	117f	鉄滓	2.5	1	塊状	欠欠	0						
389	83B	-	鉄滓	41.6	2~3	塊状	欠欠	0	0	0	0		0	
390	83B	-	鉄滓	37.4	1~2	塊状	欠欠	0				0		
391	83B	-	鉄滓	34.9	1	扁平	欠欠	0				0	0	
392	83B	-	鉄塊	45.5	2	塊状	欠欠	0		0	0			
393	83B	検出	鉄滓	18.0	1	扁平	欠欠	0		0		0		
394	83B	検出	鉄滓	83.6	3~4	碗型	欠欠?	0		0				紫色付着物有
395	83B	検出	鉄滓	69.4	3	碗型	欠欠?	0						
396	83B	検出	鉄滓	134.9	3	碗型	欠欠	0		0				
397	83B	検出	鉄滓	159.8	3	塊状	欠欠	0	0	0				
398	83B	検出	鉄滓	149.2	2	塊状	欠欠?	0		0				
399	83B	検出	鉄滓	16.7	2	塊状凹凸	欠欠	0		0				
400	83B	検出	鉄滓	19.2	2	塊状	欠欠	0						紫色付着物有 鉄塊?
401	83B	検出	鉄塊	95.3	3	塊状	欠欠	0						固着多く不明
402	83B	東117f	鉄滓	4.1	2	塊状	欠欠	0					0	
403	83B	東117f	鉄滓	3.8	1~2	塊状	欠欠	0	0			0		
404	83C	検出	鉄滓	14.3	2~3	扁平	欠欠	0	0	0				赤色付着物有
405	83C	検出	鉄滓	47.7	1~2	扁平凹凸	欠欠?	0						
406	83C	検出	鉄滓	4.1	2	扁平	欠欠	0				0		緑青付着 紫色付着物有 19fに付着
407	83D	検出	鉄滓	11.3	3	塊状	欠欠	0			0			
408	83E	SD6001	鉄滓	7.9	2~3	塊状	欠欠	0						固着多く不明
409	83E	SD6018	鉄滓	219.3	3	塊状凹凸	欠欠	0	0	0				紫色付着物有
410	83E	SD6018	鉄塊	13.0	2~3	扁平	欠欠	0						
411	83E	検出	鉄滓	4.3	3	塊状	欠欠	0						固着多く不明
412	83E	検出	鉄滓	122.7	3	塊状	欠欠	0	0				0	土砂付着
413	83E	検出	銅塊	134.5	0	扁平	欠欠?	0						成分-外観
414	83E	検出	銅塊	13.7	0	扁平凹凸	欠欠?	0						
415	83E	検出	銅塊	17.4	0	塊状凹凸	欠欠?	0						
416	83E	検出	銅塊	6.6	0	塊状	欠欠?	0						
417	83F	検出	鉄滓	7.9	0~1	塊状	欠欠	0				0	0	紫色付着物有
418	83F	検出	鉄滓	0.9	0~1	塊状	欠欠	0						
419	83F	検出	鉄滓	8.9	1~2	扁平	欠欠	0						石に薄く付着
420	90A	SD0003	鉄滓	194.8	3	塊状	欠欠?	0	0	0				
421	90A	SD0003	鉄滓	20.1	1~2	塊状	欠欠	0				0		紫色付着物有
422	90B	117f	鉄滓	11.2	3	扁平	欠欠	0						銅滓、緑青付着
423	90C	-	鉄滓	63.3	3	塊状	欠欠?	0						固着多く不明
424	90C	検出	銅滓	24.2	0	塊状凹凸	欠欠	0					0	紫色、褐色付着物有 成分-X線-外観
425	90Pa	検出	鉄滓	13.4	1~2	塊状扁平	欠欠	0	0					紫色付着物有
426	90Pb	検出	鉄滓	16.6	3	塊状	欠欠	0						固着多く不明

清洲城下町遺跡V

番号	調査区	新透標番	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発泡	小石粒	薪物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
427	91A	SD0023	鉄滓	98.6	3	礫状扁平	欠欠	○		○				
428	91A	SD0023	鉄滓	102.3	3	礫状	欠欠	○						成分・組織・X線・外観
429	91A	SD0012	鉄滓	4.2	2	礫状	欠欠	○						
430	91A	SD0025	鉄滓	7.6	2	礫状	完形	○	○				○	
431	91A	SD0025	鉄滓	207.5	2~3	礫状	欠欠?	○	○	○				
432	91A	SD0025	鉄滓	155.4	2~3	礫状	欠欠	○		○				
433	91A	SD0059	鉄滓	48.2	1~2	礫状	欠欠							固着多く不明 鉄塊?
434	91A	SD0059	鉄滓	99.5	2~3	扁平	欠欠?	○					○	固着多く不明
435	91A	SD0059	鉄滓	4.7	1	礫状扁平	欠欠	○						
436	91A	SD0059	鉄滓	49.6	2	礫状扁平	欠欠	○						
437	91A	SD0071	鉄滓	3.6	1~2	礫状	欠欠	○	○				○	紫色付着物有
438	91A	SD0095	鉄滓	4.8	2~3	礫状	完形?							固着多く不明
439	91A	SE0002	鉄滓	130.9	2~3	碗型	欠欠	○						固着多く不明
440	91A	SE0004	鉄滓	2.6	3	礫状	欠欠							固着多く不明
441	91A	SE0012	鉄滓	16.7	2~3	礫状	完形?							固着多く不明
442	91A	SE0025	鉄滓	19.4	3	礫状	完形?	○						固着多く不明
443	91A	SE0031	鉄滓	21.4	2	凹凸	欠欠	○		○				
444	91A	SE0031	鉄滓	9.0	3	礫状	欠欠	○				○	○	成分・組織・X線・外観
445	91A	SE0031	鉄滓	15.8	3	礫状	欠欠	○		○				小片多数
446	91A	SE0010	銅滓	2.0	1	礫状	完形							固着多く不明
447	91A	SE0016	鉄滓	42.7	1~3	礫状	欠欠			○				固着多く不明
448	91A	SE0066	鉄滓	26.1	3	礫状	欠欠							小片多数 鉄塊?
449	91A	SE0151	鉄滓	31.3	2	扁平凹凸	欠欠?	○		○				
450	91A	SE0151	鉄滓	28.3	2~3	礫状	完形			○				固着多く不明
451	91A	SE0151	鉄塊	10.5	3~4	礫状扁平	欠欠							
452	91A	SE0151	鉄滓	68.1	2~3	碗型	欠欠	○	○	○				
453	91A	SE0151	鉄滓	22.5	2~3	礫状	欠欠			○				
454	91A	SE0151	鉄滓	36.4	2~3	礫状	欠欠	○		○				
455	91A	SE0151	鉄滓	81.7	2~3	礫状	欠欠			○	○			固着多く不明
456	91A	SE0151	鉄滓	7.6	2~3	礫状扁平	欠欠?			○				固着多く不明
457	91A	SE0151	鉄滓	27.3	2	礫状扁平	欠欠	○		○				
458	91A	SE0151	鉄滓	69.4	2	礫状扁平	欠欠	○	○					
459	91A	SE0151	鉄滓	51.9	2~3	礫状扁平	欠欠	○	○	○				
460	91A	SE0151	鉄滓	16.7	3	礫状	完形	○						固着多く不明
461	91A	SE0151	鉄滓	15.4	1~3	礫状	欠欠				○			固着多く不明 鉄塊?
462	91A	SE0151	鉄滓	159.7	3	碗型	欠欠	○	○	○				固着多く不明
463	91A	SE0151	鉄滓	64.2	1~2	礫状	欠欠	○				○	○	
464	91A	SE0151	鉄滓	25.1	2~3	礫状	完形	○						固着多く不明
465	91A	SE0151	鉄滓	4.1	3	礫状	欠欠?	○						固着多く不明
466	91A	SE0151	鉄滓	8.0	2~3	礫状	欠欠	○		○			○	
467	91A	SE0151	鉄滓	8.1	2~3	礫状	完形?	○						固着多く不明
468	91A	SE0151	鉄滓	12.2	2~3	扁平	欠欠	○						
469	91A	SE0151	鉄滓	22.1	2~3	礫状	完形?				○			固着多く不明
470	91A	SE0151	鉄滓	24.6	2~3	礫状	完形?	○						固着多く不明
471	91A	SE0151	鉄滓	6.9	1~2	礫状	欠欠	○				○		
472	91A	SE0151	鉄滓	7.1	2	礫状	欠欠	○				○		固着多く不明
473	91A	SE0151	銅滓	48.8	0	扁平	欠欠?	○		○	○			X付着 成分・外観
474	91A	SE0151	鉄塊	6.1	3	礫状扁平	欠欠							
475	91A	SE0152	鉄滓	10.6	2~3	扁平凹凸	欠欠	○	○				○	
476	91A	SE0152	鉄滓	20.8	1~2	扁平凹凸	欠欠	○	○				○	
477	91A	SE0152	鉄滓	17.1	2	扁平	完形?							固着多く不明 鉄塊?
478	91A	SE0152	鉄滓	10.6	2~3	礫状扁平	欠欠							固着多く不明 鉄塊?
479	91A	SE0152	鉄滓	11.4	2	礫状扁平	欠欠							鉄塊?
480	91A	SE0176	鉄滓	42.0	1~2	礫状	欠欠	○	○	○	○	○	○	
481	91A	SE0177	鉄滓	62.6	2	礫状	欠欠	○		○				
482	91A	SE0219	鉄滓	1.7	3	礫状	欠欠	○	○					
483	91A	SE0219	鉄滓	28.6	2~3	礫状	欠欠	○						乳白色付着物有? 固着多く不明
484	91A	SE0366	鉄滓	23.6	1~2	礫状	欠欠							
485	91A	SE0409	鉄滓	118.7	2~3	礫状	完形			○	○			固着多く不明 鉄塊?
486	91A	SE0415	鉄滓	61.2	2~3	礫状扁平	完形?	○						固着多く不明
487	91A	SE0415	鉄滓	10.9	2	礫状	欠欠	○				○		
488	91A	SE0415	鉄滓	28.6	2~3	礫状扁平	欠欠	○		○				固着多く不明
489	91A	SE0416	鉄滓	1.8	2	礫状	欠欠	○				○		銅滓粒面付着?
490	91A	SE0419	鉄滓	27.7	3~4	礫状	完形?	○		○				固着多く不明
491	91A	SE0438	鉄滓	19.4	1~2	扁平	欠欠	○		○				
492	91A	SE0438	鉄滓	24.8	2~3	碗型	欠欠	○		○				
493	91A	SE0530	鉄滓	37.2	3	扁平凹凸	欠欠	○		○			○	
494	91A	SE0570	鉄滓	17.4	2	礫状	欠欠							小片多数 鉄塊?
495	91A	SE0570	鉄滓	8.6	2	礫状	欠欠							鉄塊?
496	91A	SE0570	鉄滓	140.8	2~4	礫状扁平	欠欠	○		○				固着多く不明 成分・組織・X線・外観
497	91A	SE0570	鉄滓	11.6	2	礫状	欠欠	○						

番号	調査区	新遺構番号	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発泡	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
488	91A	SE6570	鉄滓	28.5	2	塊状	欠損	0		0				
489	91A	SE6570	鉄滓	62.8	3	塊状	欠損	0		0	0			灰白色付着物有
500	91A	SE6571	鉄滓	16.9	2~3	塊状	欠損	0	0					紫色付着物有
501	91A	SE6586	鉄滓	33.7	3	塊状	欠損	0						
502	91A	SE6599	鉄滓	12.5	3	塊状	欠損?							因着多く不明 鉄塊?
503	91A	SE6687	鉄滓	60.5	2~3	凹凸	欠損	0						HN?に付着 成分・組織・X線・外観
504	91A	SE6687	鉄滓	6.0	1~2	塊状	欠損	0		0				
505	91A	SE6687	鉄滓	16.2	3	扁平	完形?							因着多く不明 鉄塊?
506	91A	SE6698	鉄滓	47.2	2	塊状	欠損	0						
507	91A	SE6704	銅滓	6.0	0	塊状	完形?							因着多く不明 成分・X線・外観
508	91A	SE6751	鉄滓	910.7	2~3	塊状	欠損?	0		0	0			成分・組織・X線・外観
509	91A	SE6755	鉄滓	2.6	2~3	塊状	完形							因着多く不明
510	91A	W7f	鉄滓	32.2	2	塊状	欠損	0	0		0			
511	91A	W7f	鉄滓	252.2	2~3	筒型	欠損	0		0	0	0		
512	91A	W7f	鉄滓	36.3	2	塊状	欠損	0	0			0		
513	91A	W7f	鉄滓	36.9	2~3	扁平	欠損?							土砂付着
514	91A	W7f	鉄滓	46.0	2~3	塊状	完形							土砂付着
515	91A	-	鉄滓	46.7	2	塊状	完形							土砂多く付着
516	91A	-	鉄滓	114.2	2~3	筒型	欠損?	0			0			紫色付着物有 成分・組織・X線・外観
517	91A	-	鉄滓	9.1	3	扁平	完形?							因着多く不明 鉄塊?
518	91A	-	鉄滓	2.8	2~3	扁平凹凸	欠損	0	0					
519	91A	-	鉄滓	30.1	2~3	塊状	欠損		0				0	因着多く不明
520	91A	-	鉄滓	8.6	2~3	塊状	欠損							中心に白色物有 因着多く不明
521	91A	-	鉄滓	114.1	2	筒型	欠損?	0						土砂付着
522	91A	覆瓦	鉄滓	4.8	1~2	扁平凹凸	欠損	0		0				
523	91A	覆瓦	鉄滓	71.9	2	扁平	欠損	0				0	0	
524	91A	覆瓦	鉄滓	2.8	3	扁平	欠損							土砂付着
525	91A	覆瓦	鉄滓	16.6	3	扁平	完形?							因着多く不明
526	91A	覆瓦	鉄滓	11.9	2~3	塊状	欠損?		0					因着多く不明 鉄塊?
527	91A	検出	鉄滓	33.2	3	扁平	完形							土砂多く付着
528	91A	検出	鉄滓	16.4	1~2	扁平	欠損							石に付着 断面黒色
529	91A	検出	鉄滓	4.8	1	塊状	欠損	0	0				0	全体的にM 30貫女滓
530	91A	検出	鉄滓	36.9	1~2	塊状	欠損	0	0			0	0	
531	91A	検出	鉄滓	9.3	1~2	塊状	完形?							因着多く不明
532	91A	検出	鉄滓	63.6	2	塊状凹凸	欠損							
533	91A	検出	鉄滓	13.0	2~3	塊状	欠損							
534	91A	検出	鉄滓	51.7	1~2	塊状	欠損	0		0				
535	91A	検出	鉄滓	17.1	2	塊状	欠損	0						
536	91A	検出	鉄滓	16.1	2	塊状	欠損	0						
537	91A	検出	鉄滓	4.2	1~2	塊状	欠損	0						石に付着
538	91A	検出	鉄滓	4.1	2	塊状	欠損							因着多く不明
539	91A	検出	鉄滓	29.1	2~3	塊状	完形?	0						因着多く不明
540	91A	検出	鉄滓	20.8	2~3	塊状	完形	0						因着多く不明
541	91A	検出	鉄滓	4.3	1~2	塊状	欠損	0	0					
542	91A	検出	鉄滓	11.6	1~2	塊状	欠損	0	0			0	0	鉱物塊含む?
543	91A	検出	鉄滓	41.4	1~2	塊状	欠損	0		0		0	0	HN?に付着
544	91A	検出	鉄滓	3.9	2~3	塊状	欠損							因着多く不明
545	91A	検出	鉄滓	13.4	2~3	塊状	欠損							因着多く不明 鉄塊?
546	91A	検出	鉄滓	187.6	2~3	筒型	欠損	0		0		0		小片多数
547	91A	検出	鉄滓	41.5	2~3	塊状凹凸	欠損	0	0	0				
548	91A	検出	鉄滓	22.7	2~3	塊状	完形							因着多く不明
549	91A	検出	鉄滓	46.4	3~4	塊状	欠損?							鉄塊?
550	91A	検出	鉄滓	17.2	3~4	塊状	欠損							鉄塊?
551	91A	検出	鉄滓	10.8	2	塊状	欠損							因着多く不明
552	91A	検出	鉄滓	17.1	2	塊状	欠損	0						
553	91A	検出	鉄滓	17.6	2	塊状	欠損	0	0					因着多く不明
554	91A	検出	鉄滓	13.4	2	塊状凹凸	欠損	0	0	0				
555	91A	検出	鉄滓	52.6	2~3	塊状	欠損							因着多く不明 鉄塊?
556	91A	検出	鉄滓	31.8	2~3	塊状	欠損	0	0					鉄塊?
557	91A	検出	鉄滓	45.0	3	塊状	欠損	0						
558	91A	検出	鉄滓	186.1	2	塊状	欠損	0		0		0		
559	91A	検出	鉄滓	115.8	2~3	筒型	完形		0		0			因着多く不明
560	91A	検出	鉄滓	94.2	2~3	筒型	欠損	0		0	0	0		
561	91A	検出	鉄滓	2.6	1	塊状凹凸	欠損	0						
562	91A	検出	鉄滓	7.6	3	扁平	欠損	0		0				
563	91A	検出	鉄滓	65.8	2~3	筒型	欠損	0	0					
564	91A	検出	鉄滓	14.5	2~3	扁平凹凸	完形?	0						
565	91A	検出	鉄滓	11.1	3	塊状扁平	完形			0				鉄塊?
566	91A	検出	鉄滓	18.0	1~2	凹凸	欠損	0	0					
567	91A	検出	鉄滓	52.7	2~3	塊状凹凸	欠損	0						因着多く不明
568	91A	検出	鉄滓	20.2	2	塊状扁平	欠損	0		0				

清洲城下町遺跡V

番号	調査区	新遺構番号	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠欠	発色	小石粒	植物残痕	木炭	和材	ガラス質	備考
569	91A	検出	鉄滓	32.4	2~3	礫状	欠欠	○	○			○	○	紫色付着物有
570	91A	検出	鉄滓	16.6	2~3	礫状	欠欠	○	○					鉄塊?
571	91A	検出	鉄滓	25.9	2~3	扁平	欠欠?	○	○					
572	91A	検出	鉄滓	72.3	2~3	礫状扁平	欠欠	○	○				○	
573	91A	検出	鉄滓	79.1	2	碗型	欠欠	○	○	○		○		
574	91A	検出	鉄滓	41.9	3~4	礫状扁平	完形	○						固着多く不明 鉄塊?
575	91A	検出	鉄滓	15.6	3	扁平凹凸	完形	○		○				固着多く不明
576	91A	検出	鉄滓	12.5	3	礫状	完形	○						固着多く不明 鉄塊?
577	91A	検出	鉄滓	18.6	3~4	礫状	欠欠	○						
578	91A	検出	鉄滓	115.1	3~4	礫状	完形?	○		○				固着多く不明
579	91A	検出	鉄滓	38.6	1	礫状	欠欠	○	○			○		
580	91A	検出	鉄滓	190.8	3	礫状	完形	○		○				固着多く不明
581	91A	検出	鉄滓	10.5	3	礫状	完形	○						固着多く不明
582	91A	検出	鉄滓	302.4	2~3	碗型	欠欠	○		○				固着多く不明 成分・組織・X線・外観
583	91A	検出	鉄滓	47.5	3	扁平凹凸	欠欠	○		○	○			
584	91A	検出	鉄滓	85.1	2~3	扁平凹凸	欠欠?	○		○				固着多く不明
585	91A	検出	鉄滓	9.7	2~3	礫状	欠欠?	○						固着多く不明
586	91A	検出	鉄滓	19.4	1~2	礫状扁平	欠欠	○	○			○		
587	91A	検出	鉄滓	115.7	3	礫状	欠欠	○		○				固着多く不明
588	91A	検出	鉄滓	242.6	3~4	碗型	欠欠	○		○				固着多く不明
589	91A	検出	鉄滓	52.2	2~3	礫状扁平	完形?	○						固着多く不明 鉄塊?
590	91A	検出	鉄滓	52.5	2~3	礫状	完形	○						固着多く不明
591	91A	検出	鉄滓	21.9	3	礫状	欠欠	○	○					
592	91A	検出	鉄滓	15.9	2	礫状	欠欠	○		○				
593	91A	検出	鉄滓	19.0	2~3	礫状	欠欠	○			○			固着多く不明
594	91A	検出	鉄滓	6.7	2~3	礫状	完形	○						固着多く不明
595	91A	検出	鉄滓	13.7	2	礫状扁平	欠欠	○						
596	91A	検出	鉄滓	26.9	2~4	礫状	完形?	○						固着多く不明
597	91A	検出	鉄滓	8.4	1~2	礫状	欠欠	○						
598	91A	検出	鉄滓	14.2	2~3	礫状	欠欠	○						固着多く不明
599	91A	検出	鉄滓	75.0	2~3	礫状扁平	欠欠	○	○					片面のみ固着多く不明
600	91A	検出	鉄滓	30.1	2~3	礫状	欠欠?	○	○					固着多く不明
601	91A	検出	鉄滓	4.2	3	礫状	完形?	○						
602	91A	検出	鉄滓	161.6	2~3	礫状	欠欠	○		○				鉄塊?
603	91A	検出	鉄滓	35.3	2	礫状	欠欠	○						小片多数
604	91A	検出	鉄滓	10.0	3	礫状	完形?	○						固着多く不明
605	91A	検出	鉄滓	17.8	2	凹凸	欠欠	○		○				
606	91A	検出	鉄滓	4.3	2~4	礫状	完形?	○		○				
607	91A	検出	鉄滓	14.2	2~3	礫状	欠欠	○						
608	91A	検出	鉄滓	12.9	2~3	礫状	欠欠	○	○	○				
609	91A	検出	鉄滓	162.9	1~2	碗型	欠欠?	○						固着多く不明
610	91A	検出	鉄滓	5.6	3	礫状	欠欠	○						
611	91A	検出	鉄滓	239.1	3~4	礫状	欠欠	○	○					鉄塊?
612	91A	検出	鉄滓	6.4	2~3	礫状	欠欠	○	○					鉄釘頭含む
613	91A	検出	鉄塊	42.4	3~4	礫状	欠欠	○						青味がかる
614	91A	検出	鉄滓	13.9	2	礫状	欠欠	○						中に鋼含む?
615	91A	検出	鉄滓	34.9	2	礫状	欠欠	○						
616	91A	検出	鉄滓	25.5	0~2	礫状	欠欠	○	○			○	○	紫色付着物有
617	91A	検出	鉄塊	20.0	3	礫状	欠欠	○						固着多く不明 成分・組織・外観
618	91A	検出	鉄滓	5.4	1	扁平凹凸	欠欠	○	○					石に付着?
619	91A	検出	鉄滓	52.9	2~3	礫状	欠欠	○		○				固着多く不明
620	91A	検出	鉄滓	12.6	1~2	礫状	欠欠	○				○	○	
621	91A	検出	鉄滓	11.2	3	扁平	欠欠	○		○				
622	91A	検出	鉄滓	40.0	3~4	礫状	完形?	○						固着多く不明 鉄塊? 成分・組織・E.P・外観
623	91A	検出	鉄滓	34.4	1	扁平	欠欠	○		○				成分・組織・X線・外観
624	91A	検出	鉄滓	79.0	2	礫状	欠欠	○	○	○				
625	91A	検出	鉄滓	28.9	2	礫状	欠欠	○		○				
626	91A	検出	鉄滓	49.9	2~3	礫状	完形	○						固着多く不明
627	91A	検出	鉄滓	23.3	2	礫状	欠欠?	○						固着多く不明
628	91A	検出	鉄滓	25.0	2~3	扁平	欠欠	○	○	○			○	
629	91A	検出	鉄滓	5.3	2	礫状凹凸	欠欠	○						
630	91A	検出	鉄滓	11.7	1~2	扁平	欠欠	○						
631	91A	検出	鉄滓	4.2	1~2	礫状	欠欠	○						
632	91A	検出	鉄滓	82.0	3	礫状	完形	○			○			固着多く不明
633	91A	検出	鉄滓	2.7	1~2	礫状	欠欠	○						
634	91A	検出	鉄滓	18.3	3	礫状	欠欠	○						
635	91A	検出	鉄滓	13.3	2~3	扁平	欠欠?	○						固着多く不明
636	91A	検出	鉄滓	13.5	2~3	礫状扁平	欠欠	○						14A'口縁に付着? 鋼滓付着
637	91A	検出	鋼滓	2.6	2	礫状	完形	○						固着多く不明
638	91A	検出	鋼滓	1.5	0	礫状	欠欠	○						固着多く不明 紫色の鋼?
639	91A	検出	鉄滓	323.9	2~3	碗型	欠欠	○	○	○	○			固着多く不明

番号	調査区	新遺構番号	種別	重量(g)	着磁度	形状	欠完	発泡	小石粒	植物残痕	木炭	炉材	ガラス質	備考
640	91A	検出	鉄滓	6.6	1	扁平	欠損	○				○		
641	91A	検出	鉄滓	11.5	2	礫状	欠損	○						
642	91A	検出	鉄滓	4.2	1~2	礫状	欠損	○						
643	91A	検出	鉄滓	17.9	2~3	礫状	完形?			○		○		固着多く不明
644	91A	検出	鉄滓	14.5	2	扁平凹凸	欠損	○	○					
645	91A	検出	鉄滓	10.9	2~3	礫状	欠損	○	○			○		
646	91A	検出	鉄滓	3.3	2	礫状	欠損	○	○					
647	91A	検出	鉄滓	9.0	2~3	扁平	欠損	○						
648	91A	検出	鉄滓	10.6	2	扁平凹凸	欠損	○						小片多数
649	91A	検出	鉄滓	74.0	2~3	礫状扁平	欠損?	○	○					
650	91A	検出	鉄滓	59.4	2~3	礫状	欠損	○	○					604と同材だが接合せず
651	91A	検出	鉄滓	7.2	2~3	礫状	欠損	○		○				
652	91A	検出	鉄滓	9.0	3	礫状	欠損	○		○				固着多く不明
653	91A	検出	鉄滓	7.9	1~2	礫状	完形?	○		○				固着多く不明
654	91A	検出	鉄滓	1.6	2~3	礫状	欠損	○	○			○		
655	91A	検出	鉄滓	0.7	3	礫状	欠損	○						
656	91A	検出	鉄滓	2.5	3	礫状	欠損	○	○					3小片
657	91A	検出	鉄滓	9.4	3	礫状	欠損							固着多く不明 乳白色付着物有? 鉄塊?
658	91A	検出	鉄滓	5.7	3	礫状	欠損							固着多く不明 鉄塊?
659	91A	検出	鉄滓	8.0	3	礫状	欠損							固着多く不明 鉄塊?
660	91A	検出	鉄滓	5.1	3	礫状	欠損							固着多く不明 鉄塊?
661	91A	検出	鉄滓	3.4	3	礫状	欠損		○					固着多く不明 鉄塊?
662	91A	検出	鉄滓	3.6	3	礫状	欠損							固着多く不明 鉄塊?
663	91A	検出	鉄滓	1.9	3	礫状	欠損							鉄塊?
664	91A	検出	鉄滓	10.0	2~3	礫状	欠損							21小片
665	91A	検出	鉄滓	44.7	2	礫状	欠損?	○		○				
666	91A	検出	鉄滓	18.4	1~2	礫状扁平	欠損	○				○	○	
667	91A	検出	鉄滓	4.2	0~2	凹凸	欠損	○	○					石に付着?
668	91A	検出	鉄滓	2.4	1	凹凸	欠損	○	○					石に付着?
669	91A	検出	鉄滓	1.3	2	礫状	欠損	○						
670	91A	検出	鉄滓	12.6	3	礫状	欠損							固着多く不明
671	91A	検出	鉄滓	14.9	2	礫状	欠損	○	○		○	○		
672	91A	検出	鉄滓	10.2	3	礫状扁平	欠損	○	○		○			固着多く不明
673	91A	表土	鉄滓	28.1	1~2	扁平	完形							鉄延板状?
674	91A	表土	鉄滓	22.9	2	礫状	欠損	○	○			○		紫色付着物有
675	91A	表土	鉄滓	79.7	2	礫状	欠損	○	○					
676	91A	表土	鉄滓	247.9	3	碗型	欠損	○	○	○	○			固着多く不明
677	91B	SD7017	鉄滓	106.4	2~3	碗型	欠損			○				固着多く不明
678	91B	ST7061	鉄滓	23.0	2~3	礫状	完形?	○						
679	91B	検出	鉄滓	137.0	3~4	碗型	欠損	○			○			碗形棒が2個重なる
680	91B	検出	鉄滓	12.9	2~3	礫状	完形?							固着多く不明
681	91B	検出	鉄滓	77.4	3~4	礫状	完形?			○	○			固着多く不明
682	91B	検出	鉄滓	19.7	3	礫状	完形							固着多く不明
683	91B	検出	鉄滓	100.4	2~3	礫状	完形							固着多く不明
684	91B	検出	鉄滓	46.1	2~3	礫状	欠損	○	○				○	土砂付着
685	91B	検出	鉄滓	24.2	1~3	礫状扁平	欠損	○				○	○	
686	91B	検出	鉄塊	22.4	3	礫状	完形							固着多く不明 鉄塊?
687	91B	検出	鉄滓	15.8	2~3	礫状	欠損?							固着多く不明
688	91B	検出	鉄滓	4.9	2~3	礫状	完形							固着多く不明
689	91B	検出	鉄滓	37.9	2~3	扁平	欠損	○	○	○				
690	91B	検出	鉄滓	20.1	3	扁平	欠損							固着多く不明
691	91B	検出	鉄滓	3.3	2~3	礫状	欠損	○						固着多く不明
692	91B	検出	鉄滓	19.1	3	礫状凹凸	欠損	○						
693	91B	検出	鉄滓	12.8	2~3	扁平	欠損	○						
694	91B	検出	鉄滓	2.6	1~2	礫状	欠損	○	○					紫色付着物有
695	91B	検出	鉄滓	15.4	2	礫状凹凸	欠損	○	○	○			○	石に付着
696	91B	検出	鉄滓	167.9	1~3	礫状	完形?							固着多く不明
697	91B	東147f	鉄滓	39.8	0~1	礫状	欠損	○				○	○	紫色付着物有
698	91B	東147f	鉄滓	9.1	2~3	礫状扁平	欠損	○						紫色付着物有
699	91B	東147f	鉄滓	4.0	3	扁平	完形?	○						紫色,赤紫色付着物有
700	91B	東147f	鉄滓	7.2	2	扁平	欠損	○	○					
701	91B	東147f	鉄滓	59.6	1	礫状	欠損	○				○	○	緑色,透明緑色,黒色のガラス質
702	91B	東147f	鉄滓	107.4	2~3	礫状	完形?	○	○		○			
703	91B	表土	鉄滓	2.0	3	礫状	完形?	○						固着多く不明

第12表 化学成分分析結果一覧表 (鉄滓関係)

	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	MnO	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	C	V	Cu	C.W
14	47.4	0.11	48.3	14	27	5.43	1.72	0.39	0.3	0.13	0.5	<0.01	1.08	1.61	0.083	0.01	0.001	0.4
30	56.4	0.22	60.1	13.6	15.4	3.18	2.05	0.56	0.08	0.16	0.36	<0.01	0.36	2.53	0.053	0.003	0.041	0.66
44	30.8	0.11	26.7	14.2	43.3	8.16	2.31	0.75	0.24	0.22	0.47	<0.01	1.44	2.98	0.33	0.004	0.002	0.96
65	61.3	0.11	67.1	12.9	12.6	1.94	1.27	0.44	0.02	0.18	0.37	<0.01	0.63	1.3	0.022	0.01	0.002	0.07
106	48	10.7	7.04	45.6	20.7	3.42	0.25	0.09	0.03	0.1	1.44	<0.01	0.61	0.84	0.74	0.004	0.003	5.51
107	46.1	0.56	7.9	56.3	21.6	4.05	0.33	0.18	0.05	0.1	1.13	<0.01	0.69	0.93	0.63	0.003	0.003	5.5
108	19.4	0.22	16.5	9.09	53.6	11	3.3	0.91	0.36	0.23	0.65	0.01	2.2	3.64	0.056	0.005	0.003	0.42
110	48.7	24	2.73	32.3	26.9	4.39	0.43	0.11	0.05	0.08	0.9	<0.01	0.95	1.21	2.07	0.003	0.015	4.22
116	57.1	0.11	62.5	12.1	16.7	2.88	1.11	0.35	0.02	0.21	0.65	<0.01	0.56	1.49	0.1	0.015	0.002	0.82
150	58.8	3.69	56.6	15.9	13.3	1.89	1.86	0.28	<0.01	0.15	0.57	<0.01	0.26	1.1	0.42	0.001	0.022	1.21
152	13.6	0.11	7.33	11.1	62.1	12.6	1.59	0.61	0.23	0.18	0.18	<0.01	1.78	3.61	0.027	0.002	0.004	0.24
153	45.3	0.34	44.6	14.7	24.1	4.84	1.95	0.86	0.13	0.33	1.7	<0.01	0.51	3.54	0.44	0.003	0.01	1.04
158	60.3	2.46	58.3	17.9	13.4	2.33	0.69	0.28	0.03	0.12	0.36	<0.01	0.28	0.73	0.3	0.005	0.005	1.1
173	57.4	0.22	64.7	9.88	17.6	2.89	1.84	0.51	0.05	0.13	0.31	<0.01	0.53	1.2	0.023	0.003	0.072	0.24
376	3.45	1.9	2.01	0.01	63.2	14.3	1.86	1.1	0.11	0.24	0.61	0.03	2.97	5.01	0.077	0.001	2.4	0.4
428	61.3	0.67	62.8	16.8	11.9	1.8	0.65	0.37	0.01	0.16	0.86	<0.01	0.34	0.6	0.1	0.006	0.003	1
444	27.3	17.6	4.88	8.45	43.2	9.54	8.81	0.63	0.31	1.12	0.29	0.12	0.35	1.4	2.03	0.023	0.12	1.2
496	57.7	0.45	42.8	34.3	14.4	2.27	0.23	0.18	0.06	0.09	0.48	<0.01	0.29	0.48	0.14	0.004	0.067	2.26
503	44	0.67	34.3	23.9	28.6	5.18	1.03	0.37	0.15	0.13	0.39	<0.01	0.64	1.65	0.2	0.004	0.009	2.54
508	51	0.67	27.9	41	21.2	2.44	0.22	0.16	0.17	0.1	0.23	<0.01	0.22	1.08	0.43	0.034	0.001	3.54
508	54.4	0.67	53.3	17.6	21.4	2.06	0.96	0.21	0.06	0.14	0.18	<0.01	0.16	1.1	0.09	0.006	0.001	1.56
516	58.5	0.45	64	11.9	14.9	2.42	1.54	0.28	0.03	0.12	0.38	<0.01	0.32	0.96	0.12	0.003	0.03	0.98
582	56.3	0.34	57.8	15.8	17.2	3.26	1.69	0.49	0.28	0.19	0.29	<0.01	0.39	1.12	0.097	0.03	0.002	1.15
623	47.7	0.34	54.6	7.06	27.1	4.18	2.69	0.68	0.07	0.18	0.44	<0.01	0.74	1.87	0.059	0.003	0.003	0.64

【分析手法】 分析手法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

T.Fe：三塩化チタン還元ニクロム酸カリウム滴定法

M.Fe：臭素メタノール分解-EDTA滴定法

FeO：ニクロム酸カリウム滴定法

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>：計算

C.W：カーブフィッシャー法

SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>

CaO, MgO, TiO<sub>2</sub>

MnO, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O

Na<sub>2</sub>O, Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, V, Cu：ICP発光分光分析法又は原子吸光法

C：燃焼-赤外線吸収法

第13表 化学成分分析結果一覧表 (鉄塊関係)

	C	Si	Mn	P	S	V	Cu	Ca	Mg	Al	Ni	Ti	Cr	Fe
39	1.05	0.07	<0.01	0.03	0.04	0.002	0.003	0.027	0.008	0.016	0.001	0.001	0.001	残
617	3.37	<0.01	<0.01	0.24	0.09	0.001	0.055	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	残
622	0.096	0.05	<0.01	0.02	0.1	0.001	0.005	0.005	0.005	0.024	0.001	0.004	0.001	残

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

C, S : 燃焼-赤外線吸収法  
 Si, Mn, P } : ICP発光分光分析法  
 V, Cu, Al }  
 Ca, Mg : 原子吸光法  
 Ni, Ti, Cr }

第14表 化学成分分析結果一覧表 (銅滓関係)

	Cu	Sn	Pb	Zn	Sb	As	Nb	Mn	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Ni	S	P	Bi	Ag	Igloss
28	58.7	0.22	5.71	0.02	0.33	5.23	0.02	0.02	0.6	9.78	1.76	0.77	0.07	0.03	0.42	0.43	0.08	0.21	0.04	<0.01	0.05	4.1
424	35.6	13.4	15	0.1	0.05	0.08	0.01	0.01	2.4	10.6	2.13	5.63	0.33	0.09	0.58	1.36	0.06	0.32	0.04	<0.01	0.02	3.08
473	47.7	6.59	26.7	0.07	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	0.5	9.2	1.36	0.34	0.03	0.04	0.22	0.25	0.04	0.55	0.07	<0.01	0.04	2.74

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Cu : 電解重量法  
 Sn, As, Nb } : ICP発光分光分析法  
 S : 燃焼-赤外線吸収法  
 TiO<sub>2</sub>, SiO<sub>2</sub> }  
 P, Bi } : 原子吸光法  
 Igloss : 重量法  
 Pb, Zn, Sb, Mn, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> }  
 Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO, MgO }  
 K<sub>2</sub>O, Ni, Ag }

第15表 化学成分分析結果一覧表 (銅塊関係)

	Cu	Sn	Pb	Zn	Sb	As	Nb	Mn	Fe	Si	Al	Ca	Mg	Ti	Na	K	Ni	S	P	Bi	Ag
328	97.7	0.02	0.32	0.01	0.08	0.31	0.01	0.01	0.04	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.009	<0.01	<0.01	0.01
507	94.7	0.06	0.51	0.03	0.04	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.001	<0.01	<0.01	0.02

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Cu : 電解重量法  
 Sn, As } : ICP発光分光分析法  
 S : 燃焼-赤外線吸収法  
 Nb, Ti } : 原子吸光法  
 Si, P, Bi }  
 Pb, Zn, Sb, Mn }  
 Fe, Al, Ca, Mg }  
 K, Ni, Ag }

第16表 化学成分分析結果一覧表 (鉛塊関係)

	Pb	As	Sn	Sb	Zn	Cu	Bi	Fe	Ag
413	99	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02

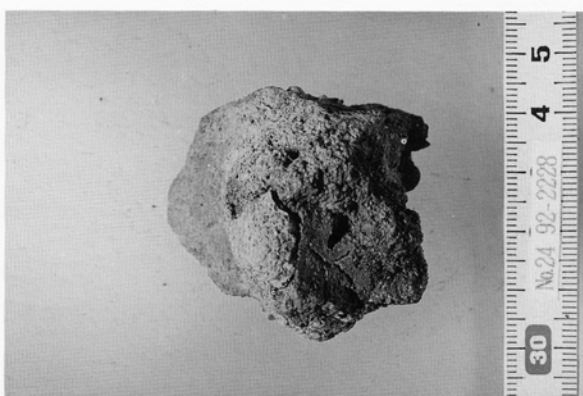
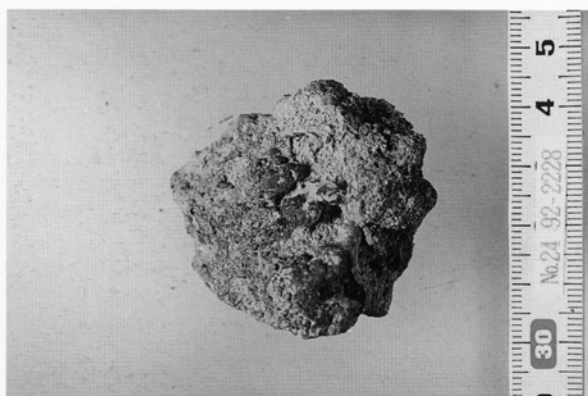
【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Pb : 容量法 (EDTA滴定)  
 As, Sn, Sb } : ICP発光分光分析法  
 Zn, Cu, Bi }  
 Fe, Ag }

単位 : % (m/m)



製錬鉄滓 (資料 108)



精練鉄滓、原料砂鉄? (資料 503)

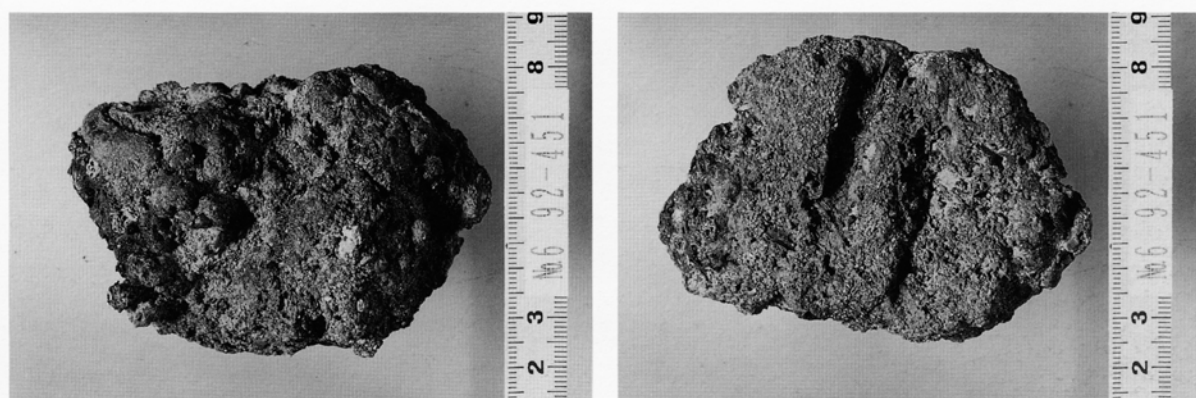


精練鉄滓、原料鉍石? (資料 173)

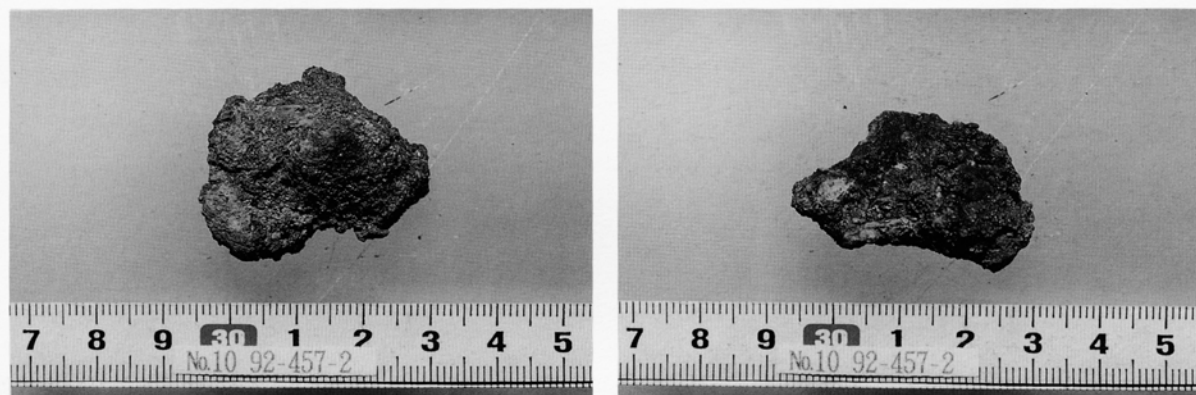
第110図 鉄滓外観写真 その1



精練椀型鉄滓、原料砂鉄？ (資料 14)

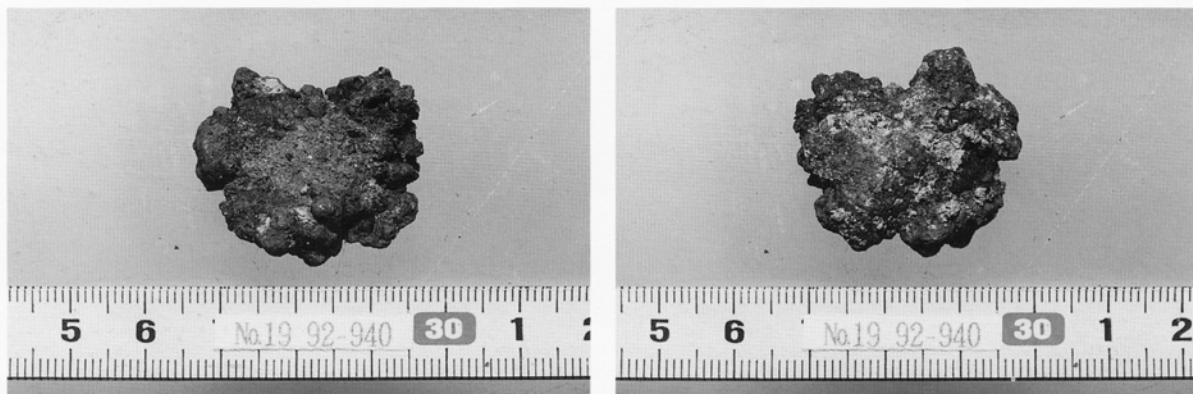


精練椀型鉄滓、原料鉍石？ (資料 30)

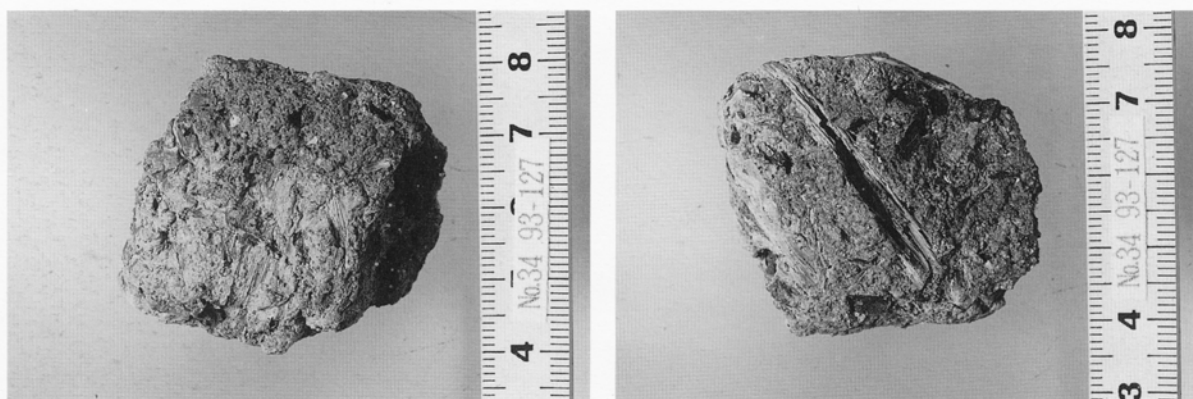


銹化鉄滓 (資料 39)

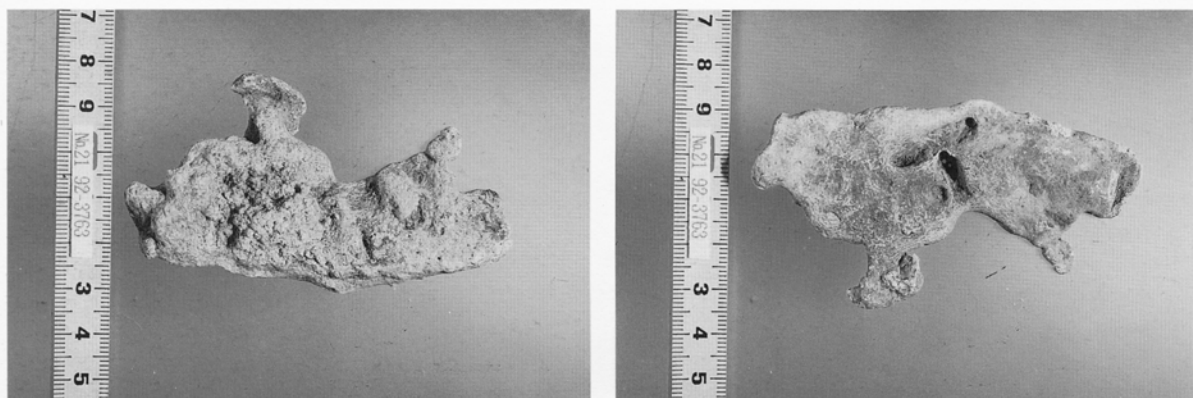
第111図 鉄滓外観写真 その2



銅 滓 (資料 328)

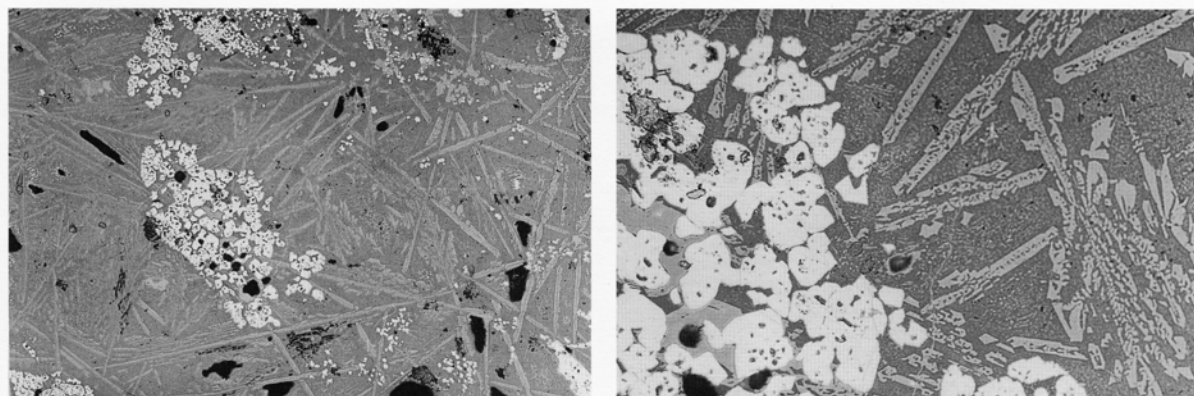


青銅 滓 (資料 473)

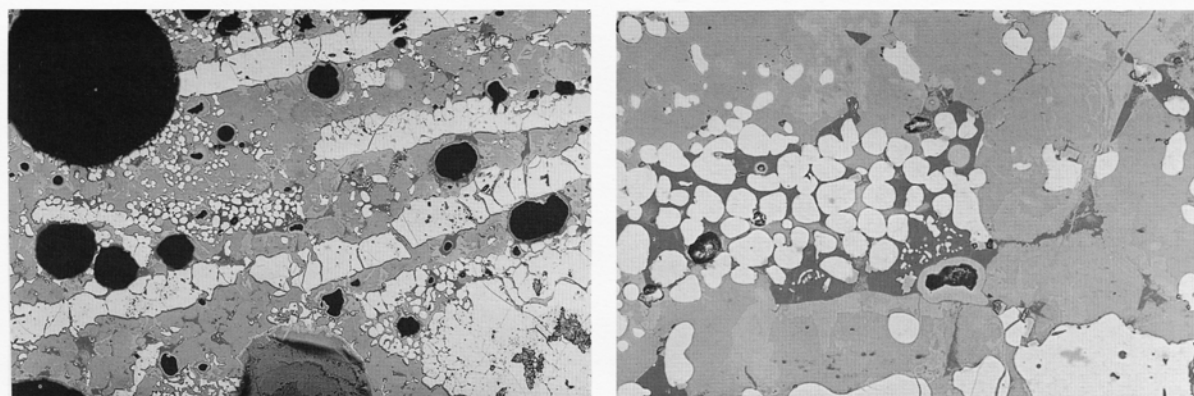


金 属 鉛 (資料 413)

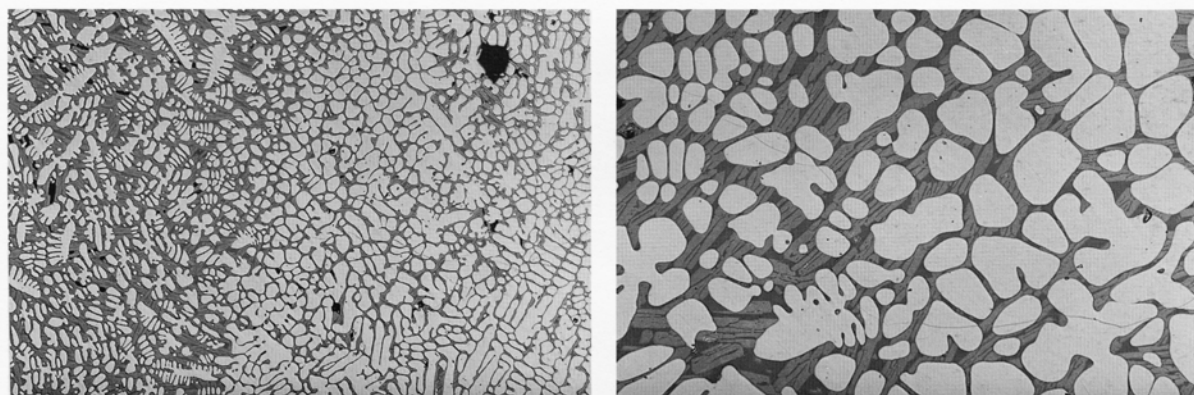
第112図 銅、青銅滓および金属鉛の外観写真



製練鉄滓 (資料 108、左：100倍、右：400倍)



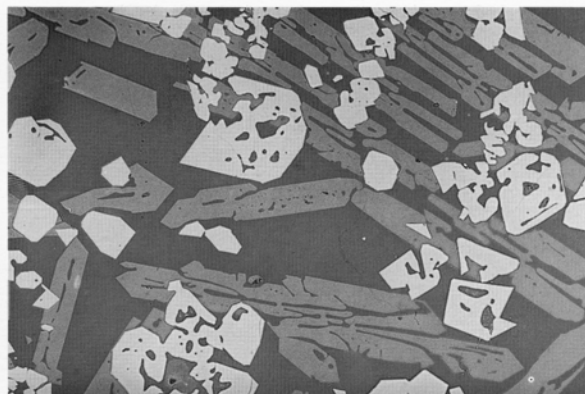
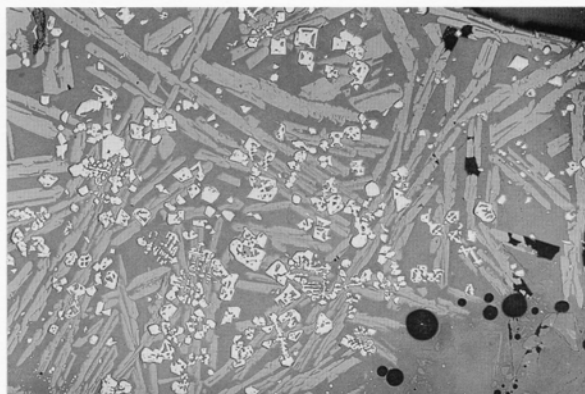
精練鉄滓、原料砂鉄? (資料 503、左：100倍、右：400倍)



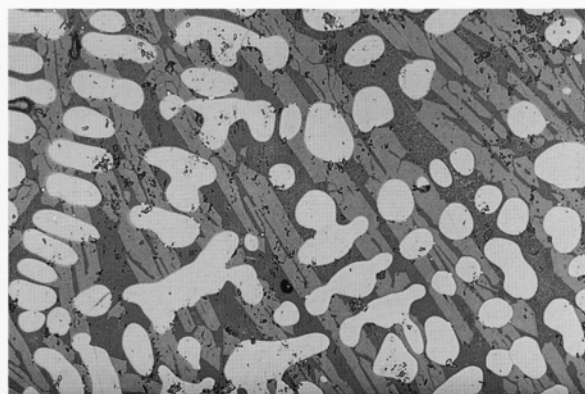
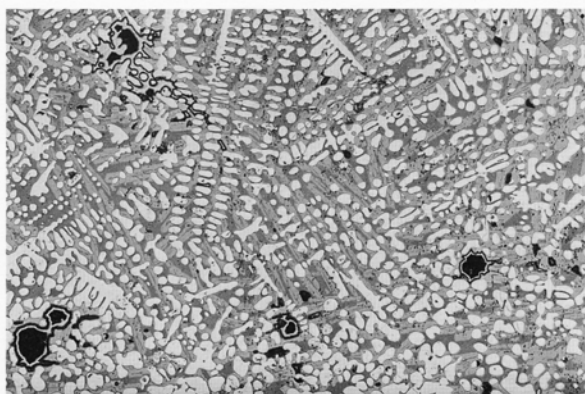
精練鉄滓、原料鉍石? (資料173、左：100倍、右：400倍)

第113図 鉄滓顕微鏡写真 その1

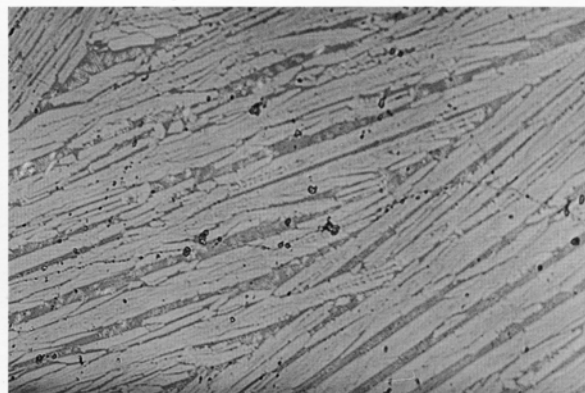
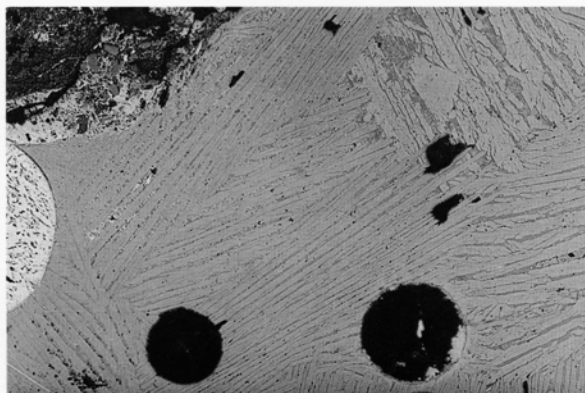
(第113図、第114図とともに掲載の都合上、写真を60%に縮小した)



精練椀型鉄滓、原料砂鉄？ (資料14、左：100倍、右：400倍)

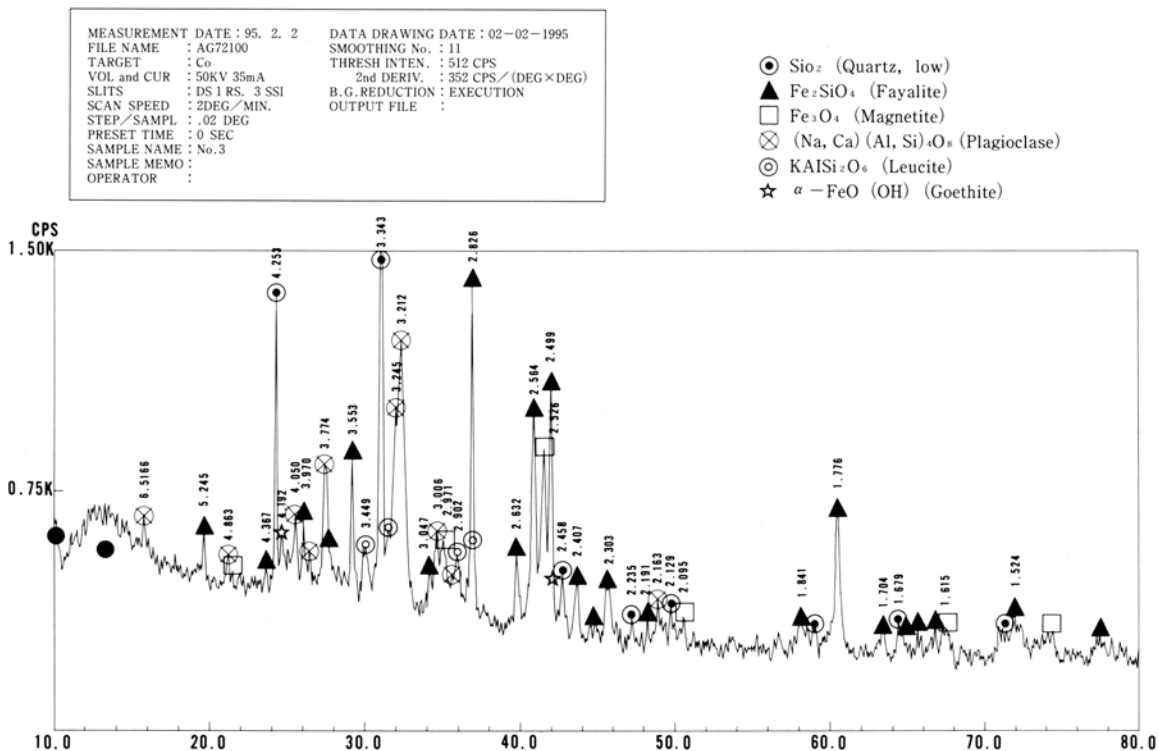


精練椀型鉄滓、原料鋳石？ (資料30、左：100倍、右：400倍)

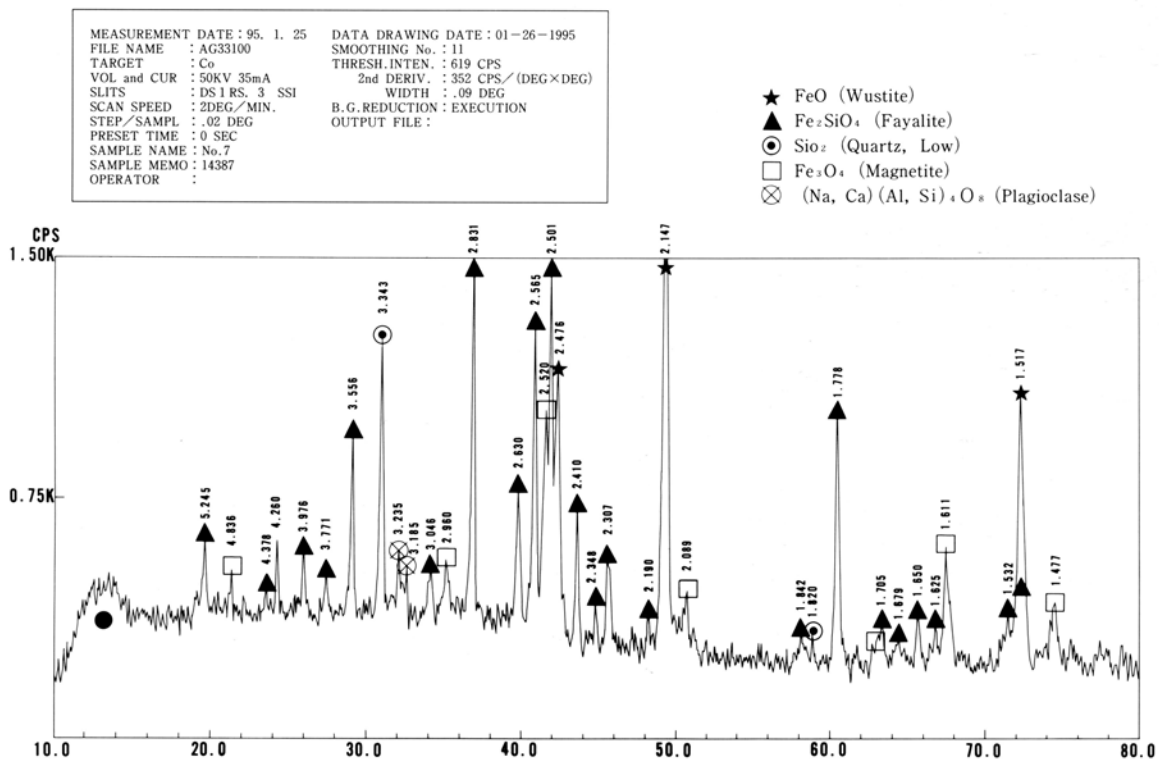


銹化鉄塊 (資料39、左：100倍、右400倍)

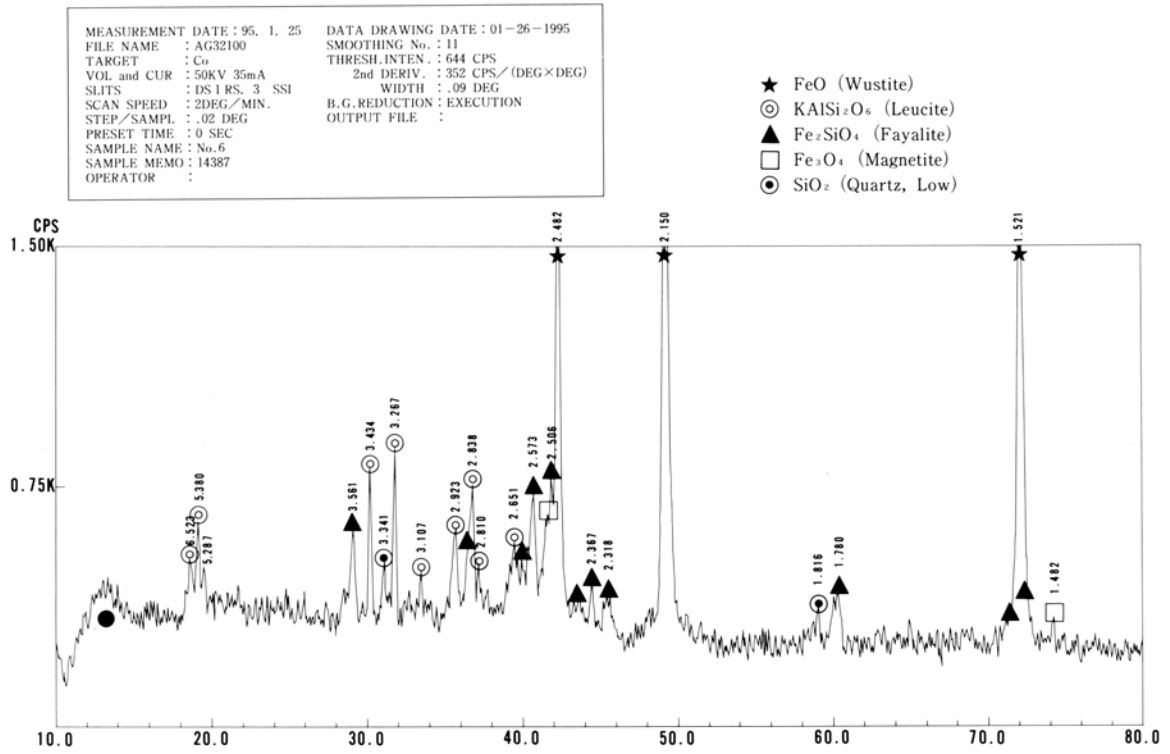
第114図 鉄滓顕微鏡写真 その2



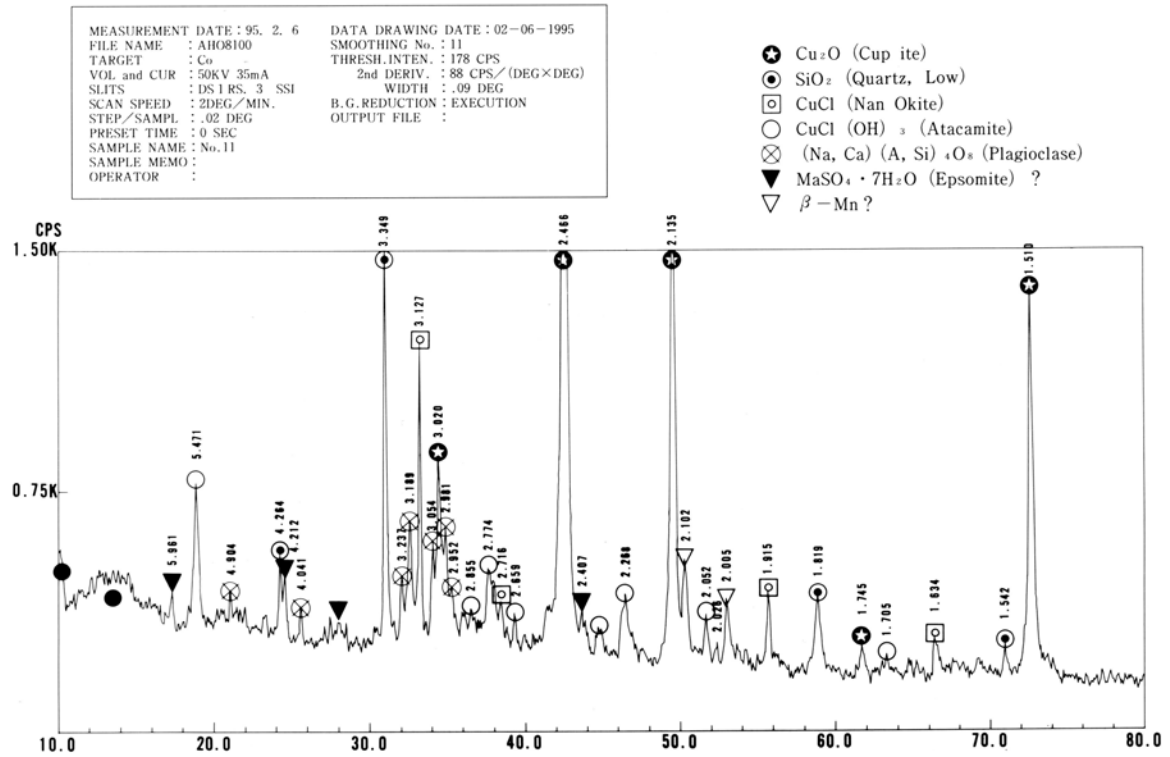
第115図 製練鉄滓 (資料108) のX線回折分析チャート



第116図 精練梘型鉄滓 (原料砂鉄? 資料 14) のX線回折分析チャート



第117図 精鍊椀型鉄滓（原料砂鉄？資料 30）のX線回折分析チャート



第118図 銅滓（資料 28）のX線回折分析チャート

## 第4節 人骨に施された傷について

### A はじめに

自然河道（旧五条川）と推測される遺構NR4001から多くの自然遺物とともにヒトの頭蓋骨が出土した。この人骨には刀創と思われる傷が無数に施されている。本論では、この人骨について形態および傷の記載を行う。

### B 資料

本資料は、骨片ごとにやや歪が生じているものの保存状態は良好である。欠損部分は以下の通りである。後頭骨は左最上項線付近から下部、右上項線から下部を欠損する。左側の欠損部の上部には切断面が認められる。右側頭骨は前部の一部と茎状突起などの頭蓋底部分を欠損する。乳様突起は残存する。左側頭骨は前部および頭蓋底部分と乳様突起の先端を欠損するが、左右ともに頬骨は欠損し、頬骨突起のみ残存する。右頭頂骨はほぼ全部が残存する。左頭頂骨は鱗状縫合および冠状縫合付近を欠損する。ラムダ付近の左右の頭頂骨が一部欠損している。前頭骨は左右側頭線以下を欠損する。顔面の骨はすべて欠損している（第119図）。

本資料の性別は、乳様突起が大きいこと、前頭隆起の間隔が広いこと、眉上丘が発達していること、外後頭突起がよく発達していることから男性と推定される。また年齢については、矢状縫合および冠状縫合が内側でのみ癒着し、人字縫合は一部完全に癒着しているが部分的に開離していることから、熟年～老年であると推定される。また、頭蓋最大長が184mm、頭蓋最大幅132mmと計測されることから、長幅示数71.7となり長頭に属する。また外後頭突起がよく発達していることなど、中世の人骨に見られる特徴を備えている（京都大学霊長類研究所毛利俊雄氏の御教示による）。

### C 損創

本資料は、矢状縫合を頭頂部で左右に横断するものをはじめとする多くの傷が施されている。以下に主な傷について、長さや傷の伸びる方向などを鈴木（1954）に従って記載を行う。

#### ① 上面観で観察される傷

矢状面に対しほぼ垂直に交差する傷は大きなもので4本、小さなものは無数に認められる。

最大のものは、ナジオンより147mm後方の点と左右の耳をむすぶ線上に延びている。創長は175mm、最大幅は12mm、創線角（上面観において正中矢状線となす角度。矢状方向を0度とし、時計周りに進む。）は90度である。頭頂部において外板から内板までを切断している。切断面は少なくとも3面認められる。それぞれの創面角（耳眼水平面となす角度で、左側面観において顔面の方向を0度とする。）は、前方に位置するものから順に40、80、140度である。40度と140度の面をなす創面は、曲面をなしている。創面の観察より、まず前方に傾いた面が形成され、次いで後方に傾く面が、最後にほぼ正中面をなす面がつけられたと考えられる。また、創線と平行な条線が数本認められる。

矢状面に対して垂直な傷は、大きなもので8本確認することができる。ナジオンからの距離は、前方のものより88、103、132、137、170、173、190、225mmとなり、132mmのものはナジオンを通るものである。創長は18、22、20、14、10、8、12、18mm、創線角は90、95、85、90、80、90、85、70度で

ある。創面角は60～70度をなす。いずれも外板のみを切断する程度の浅いものである。なお、これら前頭骨および右頭頂骨後部に見られる傷の付近には、これらにほぼ平行に走る無数の小さな条線が観察される。

矢状面に対して水平の傷が、頭蓋骨を切断する傷よりも後方に7本認められる。最も大きいものは、創長60mm、創線角80度、創面角約70度で、矢状縫合を横切っている。外板のみを切断している。断面は左側に傾くV字をなしている。また頭蓋骨を切断している創によって斬られている。

この傷の左右にはそれぞれ3本ずつ合計6本の傷が頭頂面より観察される。

右頭頂骨にあるものは、縫合線より46、47、55mm離れたところに存在する。傷の中心のナジオンからの距離はいずれも175mm程度である。創長はそれぞれ20、32、32mmである。創線角はほぼ0度である。創面角はいずれも測定できないが、断面はいずれも下方に傾いたV字をなしている。

左頭頂骨には31、39、50mmのところ矢状面に対し平行な傷が存在する。それぞれの創長は28、30、40mmである。創線角はほぼ0度である。傷の断面形は上方に傾いたV字をなしている。またこれらの傷と平行になる小さな傷が無数に観察される。

#### ② 右側面観で観察される傷

右側面では、鱗状縫合に沿うように延びる傷が頭頂骨上に多数認められる。まず鱗状縫合の上部付近の頭頂骨に2本認められる。創線角は耳眼線に対してほぼ10度をなす。創長は頭頂に近いものから50、20mm、いずれも外板のみにつけられた傷で板障には至っていない。断面はV字をなす。またエンタミオンより20mm程度上部には、耳眼面に対し20、10度をなす傷が確認される。創長はともに40mmである。下部の傷はアステリオンの10mm上方からのびており、側頭骨までおよんでいる。いずれも板障までは至っていない。

また鱗状縫合の上部につけられた傷の上方の長径50mm、短径20mmの楕円形をなす範囲には、耳眼面に対し170度をなす細かい条線が認められる。他に側頭骨の道上稜および乳突上稜には擦られたような跡がみられる。また、外耳口の上部には3本の垂直な傷が認められる。創長は前方に位置するものから、7、5、7mmである。傷の断面はいずれも前方に広がったV字をなしている。

#### ③ 左側面観で観察される傷

左側面では、鱗状縫合の部分が欠損しているために大きな傷を正確に捉えることができないが、左側頭骨と左頭頂骨に残された傷の方向から、耳眼面とほぼ平行な方向に大きな傷が存在したと推定される。推定される傷は、人字縫合より約4cm後方から頬骨突起の上方まで延びる創長約45mmのものである。傷の深さは不明であるが、左側頭骨に残る切断面の観察から、外板、板障、内板までを切断している。創線角は約120度、創面角は約60度である。傷の断面はなめらかである。他にエンタミオンの上方に2本の傷が認められる。矢状縫合からの距離は100、110mmである。創長は2本とも40mmで、耳眼線となす角度は170、150度である。またこれらの傷の上にはこれらに平行な条線が多数みられる。

前頭骨の左側頭線付近に小さな平行な傷数本が認められるとともに、擦られて滑らかになっている。小さな傷は創線角70度、耳眼線に対し約50度の角度をなしている。

左右の鱗状縫合付近の傷は、互いに平行ではなくねじれの関係にある。

#### ④ 後頭面観で観察される傷

後頭骨には、先に述べた左側頭骨からのびる傷の他に、外後頭隆起より約35mm上には敲打によって

破損したと思われる三角形の傷が認められる。この傷は、矢状線よりもやや右側に位置しており、矢状線から右方向に広がる三角形を成している。矢状線に最も近い頂点が最深部にあたり、深さは約2.7mmで板障まで至っている。

#### D まとめ

清洲城下町遺跡で出土した傷を施された人骨について、その性別、年齢を推測するとともに、傷についての観察記載を行った。その結果、正中面に水平な傷は前方に、矢状面と平行な傷は後方にと、傷の方向と施された位置には偏りがあることが判明した。また傷面の観察から、傷を施した時期が生前もしくは死後間もない頃と推定された。

今回記載を行った頭蓋骨のように無数の傷を施された人骨は、1953年の鎌倉材木座の発掘調査で多数出土している（鈴木1953）。鎌倉材木座で出土した傷のある人骨について、傷の方向および平行な傷の間隔から、合戦の際につけられたものではなく、頭部から頭軟部をはぎ取るために施された傷であると推定されている（鈴木1953）。今回報告を行った清洲城下町遺跡出土の人骨の傷についても、平行な傷が多くみられることなどから、同様な推測を行うことができる。

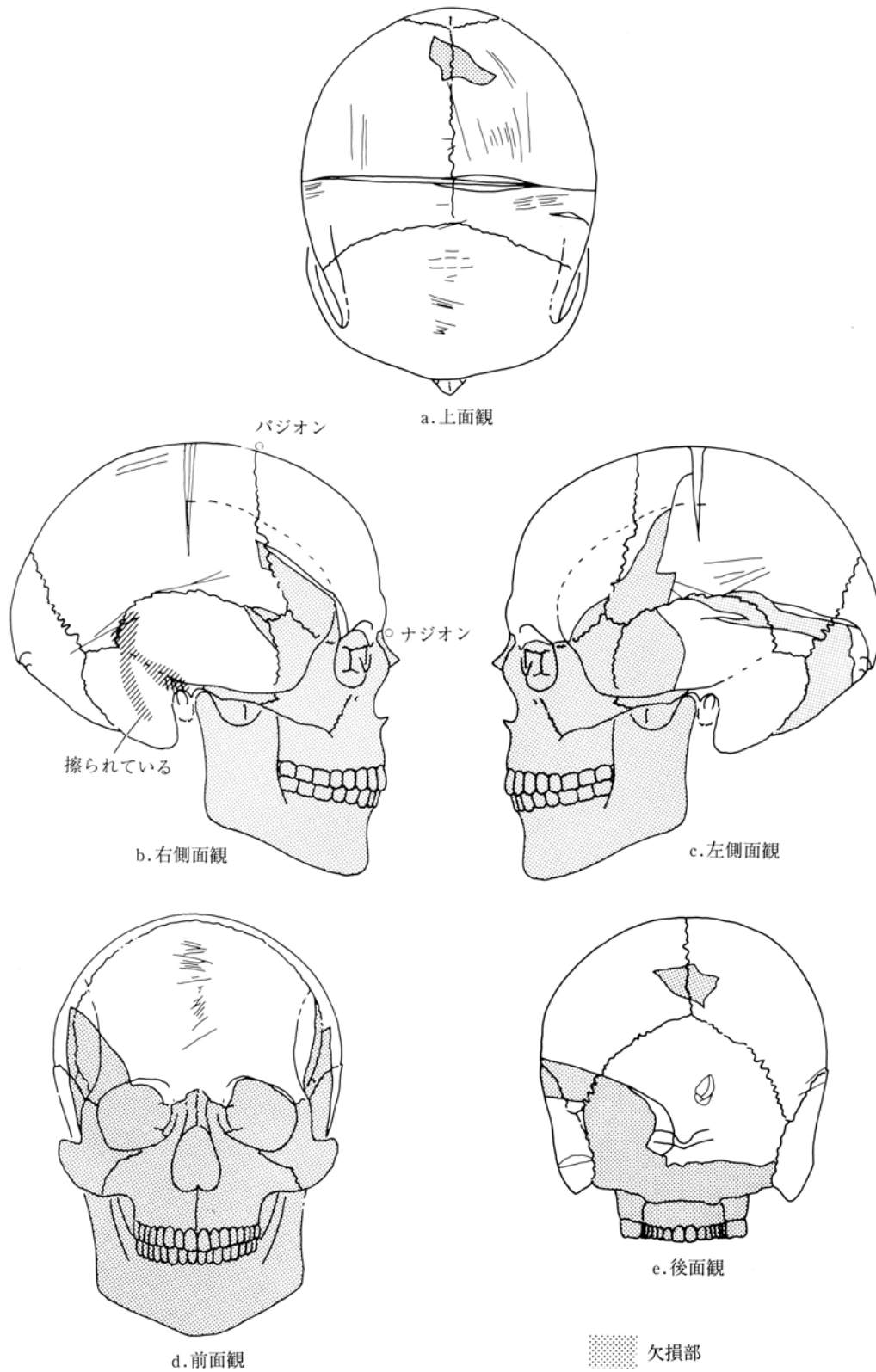
#### 謝 辞

本論をまとめるにあたり、京都大学霊長類研究所の毛利俊雄先生には、人骨の性別および年齢の推定をして頂くとともに、傷に関して御教示を頂いた。また、奈良国立文化財研究所の松井章先生、京都大学名誉教授の池田次郎先生からは貴重な御教示を頂いた。記して感謝の意を表します。

(堀木真美子)

#### 参考文献

- 池田次郎・多賀谷昭 (1979) 「刀傷のある中世人骨頭蓋について」『人類学雑誌87(3)』, 347-351
- Iwataro MORIMOTO (1987) Note on the Technique of Decapitation in Medieval Japan. *J. Anthrop. Soc. Nippon*, 95 (4), 477-489.
- Iwataro MORIMOTO・Kazuaki HIRATA (1992) A Decapitated Human Skull from Medieval Kamakura. *J. Anthrop. Soc. Nippon*, 100 (3), 349-358.
- 鈴木尚 (1958) 「人骨の損傷」『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』岩波書店, 30-57, 63-66.



第119図 NR4001出土人骨

## 第5節 獣骨にみられる傷について

清洲城下町遺跡から出土したシカ・ウシ・イヌの骨には、人工的に傷をつけられたものが数点含まれていた。本節では、それらの獣骨につけられていた傷の観察報告を行う。

シカ 頭骨 (90D Xb-120) (第120図-1)

左右の角座下部で角が切断された頭骨。切断面の形状からのこぎり状のもので切断されたと推測される。右の角座下部には、切断面に平行な3本の傷が認められる。傷長は下部のものより18.7、17.8、24.8mm。また上部2本は互いに平行である。左角の断面は後方が欠けており、前方を切断してゆき、最後に後方に向かって折られたものと考えられる。

シカ 頭骨 (63R Xb-007)

頭頂骨を含んだ右角座前半部。角座付近の前方には4本の傷が認められる。断面は少なくとも2面認められる。角座の切断面に対し垂直な傷も認められる。

シカ 角 (90C Xb-006)

又の部分。主幹を又の上下で切断したもの。下位のものには枝の伸長方向に伸びる面で、上方の面は主幹に対し垂直な面でそれぞれ切断されている。

シカ 左脛骨 遠位端 (90D Xb-017) (第120図-4)

遠位端上部で骨体と切り離されている。切断面は少なくとも3面確認される。1面は後方から、残り2面は右側からつけられたものと思われる。後面の切断面の下位には2本の傷が認められる。切断の順序は右側からはじまり、最後に後方から切込みをいれてゆき割れたと推測される。

シカ 左脛骨 骨体および近位端 (90D Xb-027)

骨体中央の全面に2本の平行な傷が認められる。傷の方向は骨軸方向に対して垂直である。上位から3.7×0.5mm、5.3×1.2mm。

シカ 右脛骨 骨体および近位端 (90D Xb-024) (第120図-3)

近位端後面の三角稜部分は破損しており、残存部には獣の歯痕が無数につけられている。骨体中央の全面に、骨軸に対してほぼ垂直な曲線が3本観察される。

シカ 左寛骨 (雌) (90D Xb-115)

寛骨臼の後部に15mmの直線的な傷。

シカ 右寛骨 (雄) (90B Xb-006) (第120図-2)

寛骨臼の右外側に7mmの傷。腸骨部分に水平面とほぼ平行な27.8mmの傷が1本、内側部分には骨体に対して斜めに4.5mmのものが3本認められる。恥骨部分に外側から6.2、12.4mmと2本の傷が認められる。また座骨の一部がそがれている。

ウシ 左橈骨 (62C Xb-021)

骨体中央前面および後面に、13.0、7.0、8.8、12.0mmの4本の傷が認められる。骨の保存状態が不良のため、何によって傷つけられたのかは不明である。

ウシ 右肩甲骨 (62C Xb-022) (第120図-5)

肩甲骨棘から上縁にいたる長さ43.5mm、深さ2.8mmの傷。

イヌ 頭骨 (90D Xb-112・118) (第120図-6)

頭頂骨の後部に1×4mmの傷。正中線に対し45°右に振った角度をなす。

イヌ 軸椎 (90B Xb-040) (第120図-7)

棘突起後部に、矢状面に対してほぼ垂直な方向でつけられたもの。長さ15.8mm。

イヌ 胸椎 (90B Xb-003) (第120図-9)

関節面が左右不対称となっている。右側の面が上方へずれている。

イヌ 腰椎 (90B Xb-001) (第120図-8)

椎体の左側に前下方向から後上方に延びる20.3mmの傷。

イヌ 左上腕骨 骨体 (90D Xb-021)

骨体中央部よりやや上方に骨軸に対し垂直な方向に7.4mmの傷。中央部より下部には打ち欠いた傷2点。

イヌ 右大腿骨 近位端 (90B Xb-004) (第120図-10)

大転子下部に3本、大腿骨頭と小転子の間に2本。骨軸に対してほぼ垂直である。

以上16点の獣骨につけられた傷について、各資料毎に簡単な記載を行った。これらの傷は、おもに動物の解体時や、獣骨の加工時につけられた人為的なものと思われる。また獣の歯痕のある獣骨(90DXb-024)が見られることから、解体された獣などがすぐに埋められたのではなく、ある期間放置されていたことが推測される。

これまで、自然遺物から推測される食生活に関する研究は、遺物の種類や量等から、おもに縄文時代の遺跡で多く行われてきた。しかし、1994年の広島県草戸千軒町遺跡の報告では、魚骨やイヌの骨に解体痕が見られること等から、中世の人々の食生活を推定する研究が進められている。そのなかでも特にイヌの骨にも解体痕が見られることから、イヌも食されていたと推測されている(松井1994)。今回調査した清洲城下町遺跡から出土したイヌにも、加工以外の目的でつけられた傷が見られること(90B Xb-112・118・001)から、シカやウシと同様に、イヌも食されていた可能性が考えられる。

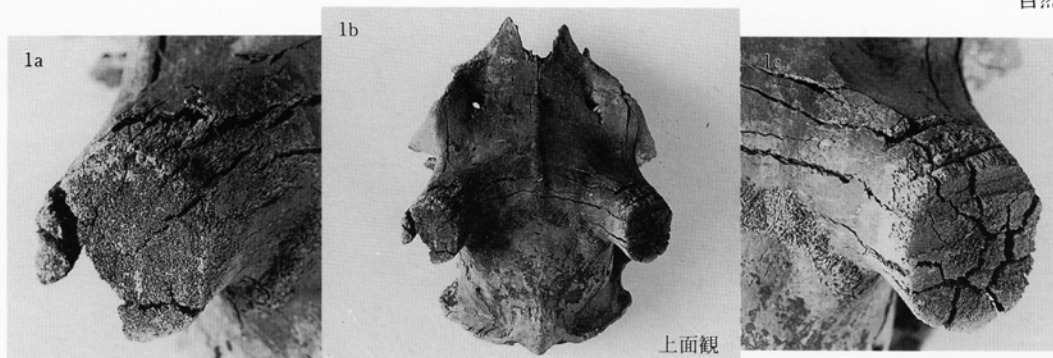
今後、中世の遺跡から出土する自然遺物につけられた傷などから、当時の人々の食生活はもとより、調理方法などが解明されてゆくことと思われる。

## 謝 辞

出土した遺物の同定および傷に関して、奈良国立文化財研究所の松井章氏の御指導・御教示を頂きました。また愛知教育大学の河村善也氏には現生骨格標本を借用させて頂きました。記して感謝の意を表します。  
(堀木真美子)

## 文 献

松井 章(1994)「草戸千軒町遺跡第36次調査出土の動物遺存体」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所. 343-364



1a

1b

1c

上面観

左角座部分

右角座部分



2a



下方観

恥骨部



2c



上方観

腸骨部



3a



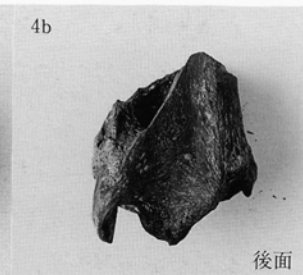
3b

三角稜部

全体



4a



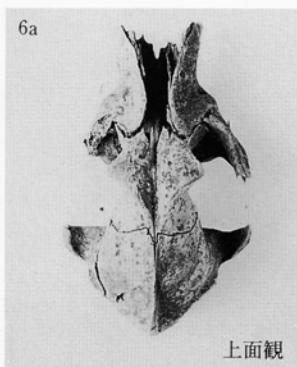
4b

前面

後面



5



6a

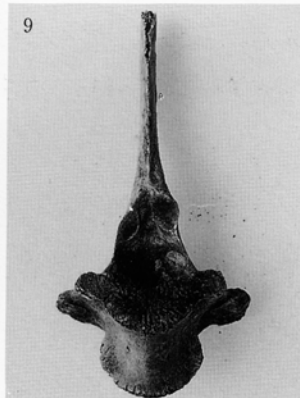
上面観



7



8



9



10a



10b



6b

頭頂部

第120図 獣骨にみられた傷



# 第Ⅸ章 考 察

## 第1節 清須城下町の遺物様相

### 1 はじめに

前書（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）では、城下町期を3期（6小期）に区分して遺構の変遷を検討した。しかし、前書にはその基準となる各時期の遺物の具体的様相が必ずしも明確にされているわけではなく、この点を総体的に解決しておく必要がある。ここでは、城下町期の遺物編年・様相を考察し、次節の清須城下町の復元へつなげることとしたい。

### 2 研究史と分析の方法

清洲城下町遺跡から出土する城下町期の遺物は、基本的に消費地から出土する遺物群の様相である。そこでは、各種の製品が他所から搬入され、使用された後に、廃棄されたものが出土遺物となるのである。従って、消費地遺跡の遺物編年は、複数の種別・生産地の製品の編年の集合体と考えた方が整理し易いであろう。つまり、消費地遺跡出土遺物の様相を編年として構造的にまとめるためには、形式・型式・様式という概念のみに押し込めて分析するのではなく、多様な内容を持つ形式を材質・産地・器類・器種等に分解した方が無理がないと思われる。これは先史時代の考古学での「系統」・「〈系〉」等という概念が存在して形式を包括しているのに対応する。特に戦国時代においては、ある程度は材質・産地の区分が可能であるためにこうした概念の分解が適切であろう。

こうした遺物の性格を考慮して、小野正敏はアセンブリッジ（Assemblage）という概念を提示した<sup>(1)</sup>。アセンブリッジとは、遺跡・区画・遺構単位における生活の道具全体の組成を意味しており、どのように使用されたかという点に関心が寄せられた視点である。特に、専門化された生産地と流通機構が確立された時代においては、流通の問題としての各遺跡別の産地組成という問題が重要となり、小野はこの点を明確に提示したのであ

る。更に、これを押し進めていくと組成の数量化が問題となり、現在では様々な数量化の手法が用いられている。

一方、実際の遺跡の構造を理解する上で基本となる事柄の一つは時期（年代）設定であり、このために年代の物差しとしての遺物編年が必要となる（もちろん編年自体をタイムスケールのみ矮小化させることを意図するわけではない）。多様な器種の年代観を把握する必要があるのである。

従って、本節の分析は、各器種の形態上の変化（タイムスケール）の把握を第一義とするが、更に押し進めて、遺物様相の画期・遺構と遺跡を理解するためのアセンブリッジ（組成）を検討する足がかりを得ることを目的としている。

具体的に消費地遺跡で編年を組むに当たり、各器種（形式）の型式学的検討を重ねるのであるが、特にその遺跡で出土する主要器種の型式細分を主体に置くのが望ましいと思われる。特殊器種を基準に据えると、特殊である故の使用の特性・廃棄の特殊性が反映される可能性が高く、誤差が生じ易いと考えられるからである。

さて、筆者は前著で清洲城下町遺跡の遺物を産地材質・器類・器種のランクを用いて整理した。この分類をもとにした、清須城下町から出土した遺物の主要器種は何であろうか。産地材質別にみると、土師器と瀬戸美濃窯産陶器が全体の8割以上を占め、次いで常滑窯産陶器、中国窯産陶磁器、木製品等が存在する。このうち、土師器皿、土師器鍋・釜、瀬戸美濃窯産陶器碗・皿・播鉢が主要5器類となっている<sup>(2)</sup>。従って、分析に際してはこの5器類を中心に分析すればよいと思われる。

では、それぞれの編年について個別に研究史を振り返り、清須城下町において認められる問題点を整理してみる。

### 3 各編年の研究史と問題点

主要5器類に関するこれまでの編年研究を、ここで産地材質別に振り返っておく。

#### A 土師器

土師器には皿、鍋、釜の他に、蓋、火容、壺などがある。土師器皿と土師器鍋・釜については若干の考察が存在するが、その他の器種に関しては出土量が少ないため、様相は詳らかではない。

土師器皿については、佐藤公保<sup>(3)</sup>の一連の研究があり、12世紀以降の尾張地域の土師器皿の変遷を明らかにした。残された課題として、戦国時代の土師器皿を更に詳細に形式分類を行い、清須城下町の土師器皿の様相を把握することが挙げられる。

また、土師器鍋・釜については佐藤公保<sup>(4)</sup>と鈴木正貴<sup>(5)</sup>の分析がある。佐藤は愛知県内を分析の範囲として器種構成の変遷を明らかにした。鈴木はこれを受けて鍋・釜の器種分類を改めて再編し、15世紀後半から18世紀前半までを2期7段階に編年区分を試みた。清須城下町に関連する部分は、鈴木編年のⅠ期1段階からⅡ期2段階に相当する。

土師器皿・鍋・釜の編年研究は、まず器種構成と概略の変遷を明らかにした後に、各器種の形式変化の把握を試みる手順を経ている。今後は形式分類の厳密化と各器種の系譜や併行関係の把握が問題となろう。

#### B 瀬戸美濃窯産陶器

瀬戸美濃窯産陶器の大窯編年研究は赤塚幹によっても始められ、檜崎彰一が提示した五期区分<sup>(7)</sup>が定説化した。五期区分は特殊器種や釉薬の出現を画期とする大窯編年で、井上喜久男氏が更にⅠ期とⅡ期を細分し年代観を提示した<sup>(8)</sup>。この編年は、各器形の型式学的な変遷が把握されてなく、消費地遺跡での時期決定に明確な基準が無い点や、大窯Ⅳ期のような1形式5年という区分が消費地遺跡での資料では十分に抽出できない点などが問題となっている。これに対し、藤澤良祐の主要器種の型式の変遷と組み合わせを重視した5段階区分<sup>(9)</sup>

と、伊藤嘉章の匣鉢詰め方法と器形の組み合わせと施釉方法の変遷を一体的に捉えた前後2様式4段階区分<sup>(10)</sup>等が提出されている。

一方、消費地遺跡の出土資料を用いた編年的研究も試みられているが、生産から廃棄までの期間を考慮する必要があり、資料操作に難しい側面が認められる。藤澤良祐<sup>(11)</sup>と鈴木正貴<sup>(12)</sup>等は消費地遺跡の時期決定に際しては、消耗率の激しい(消費サイクルの短い)器種による分析が有効であるとしている。このように、生産の様相と消費の様相のずれが存在する事情から、消費地遺跡における遺物様相の分析には新たな視点が求められている。時期の設定を主眼に置くのであれば、生産地から提示された形式編年を基準に遺物様相を考える方法が容易かつ適切であると思われる。

ここでは、消費地遺跡の分析であるため、主要器種の型式変遷を重視した藤澤良祐の大窯編年5段階区分を参考にした。また、清須城下町の遺物様相の初期は、大窯期よりも以前の窯窯段階の時期を包含しており、この編年については同じく藤澤良祐の説<sup>(13)</sup>を参考にした。しかし、個別の器種分類や変遷については変更を加えている。

### 4 主要5器類の分類

ここでは主要5器類(土師器皿、土師器鍋・釜、瀬戸美濃窯産陶器碗、瀬戸美濃窯産陶器皿、瀬戸美濃窯産陶器挿鉢)を細分類する。

#### A 土師器皿

土師器皿は前著(『清洲城下町遺跡Ⅳ』)ではロクロ成形と非ロクロ成形に2大別し、各々3類に細分した。ここでは、ロクロ成形と非ロクロ成形の大別をそのまま依拠しつつ、分類の再編成を試みた。

ロクロ成形A類———口径が12~18cmの大形土師器皿で、体部下半と体部上方の外表面を強くヨコナデ(2段ヨコナデ)して、結果として体部が外反するもの。器壁は比較的厚く、底部が僅かに

突出する形態である。

ロクロ成形B類——口径が8～18cmの大形土師器皿で、体部下端部から口縁端部まで直線的に逆「ハ」の字状に開くもの。器壁は比較的薄く、体部にはロクロ引きで生じた凹凸の痕跡が存在する。

ロクロ成形C類——口径が10～16cmのやや大形の土師器皿で、体部下半部が丸みを帯びて立ち上がり口縁部が内彎するもの。底部内面中央部は凹み、内面の底部と体部の境界部を強くヨコナデされる。器壁は厚く、底部が僅かに突出する場合がある。

ロクロ成形D類——口径が8～12cmの中形土師器皿で、体部下半と体部上方の外表面を強く2段ヨコナデされたもの。口縁部は外反し、器壁はやや厚く、底部が僅かに突出する。

ロクロ成形E類——口径が8～12cmの中形土師器皿で、体部下端から口縁部まで逆「ハ」の字状に開くが、口縁端部がつまむようにやや強くヨコナデされたもの。底部内面中央は凹むものが多い。なお、ロクロ成形B類との区分は困難である場合が多い。

ロクロ成形F類——口径が6～10cmのややの小形土師器皿で、器高が低く、体部がつまみ上げられるようにヨコナデされ直線的に開くもの。器壁は薄い。

ロクロ成形G類——口径が4～6cmの小形土師器皿で、器高が著しく低く、内面のみヨコナデされて直線的に開くもの。底部の切り離しは乱雑である。非ロクロ成形土師器皿を模倣したものであろう。

非ロクロ成形A類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部を上方につまみ上げるようにヨコナデされるもの。底部内面は一回転のヨコナデをし、底部外面は指オサエまたは無調整である。

非ロクロ成形B類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部外面のみを上方につまみ上げる

ようにヨコナデされるもの。器高は著しく低く、底部内面は一回転のヨコナデをする。

非ロクロ成形C類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部にヨコナデが存在せず、指オサエで体部をつまみ上げているもの。底部内面は一回転のヨコナデをする。

非ロクロ成形D類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部にヨコナデが存在せず、底部と体部の境界が不明瞭なもの。底部内面は一方のナデが施されるものが多い。

非ロクロ成形E類——口径が12～18cmの大形土師器皿で、口縁部が肥厚するもの。内面は一回転のヨコナデをし、体部外面にもヨコナデが存在する。

各類は各々共存しながら消長していたと思われる、この分類は型式分類というより器種（形式）分類に当てはまるものである。なお、各器種の細分及び型式学的な変化の傾向が若干認められる。

ロクロ成形A類——体部が強く外反する第1型式、やや弱く外反する第2型式、緩やかに外反する第3型式に区分でき、第1型式から第3型式へ変化している。

ロクロ成形D類——器高が高く口縁端部に面を持つ第1型式、器高が高く口縁端部に面を持たない第2型式、器高が低い第3型式に分類でき、第1型式から第3型式へ変化している。

この他の器種については、変化の傾向は認められるものの、それを定義することは困難であるため、図示のみに止めた。

## B 土師器鍋・釜

土師器鍋の器種分類は、鈴木分類<sup>(14)</sup>を使用する。

鍋A類——半球型の鉢形煮炊具で、鐙があるもの。羽付鍋。

鍋Ba類——半球型の鉢形煮炊具で、鐙がなく、内耳があるもの。口径は27cm以上の大形内耳鍋。

鍋Bb類——半球型の鉢形煮炊具で、鐔がなく、内耳があるもの。口径は21～26cmの中形内耳鍋。

鍋Bc類——半球型の鉢形煮炊具で、鐔がなく、内耳があるもの。口径は20cm以下の小形内耳鍋。

鍋C類——極めて浅い鉢形煮炊具で、鐔がなく、内耳があるもの。炮烙鍋。

釜A類——壺形煮炊具で、鐔があるもの。

釜B類——壺形煮炊具で、鐔がないもの。

鍋C類と釜B類は城下町期Ⅱ-2期以降に見られる器種で、その他の器種はほぼ城下町期を通じて存在している。主な器種の型式的变化は以下の通りである。

鍋A類——体部上方が直立し鐔から上部が高いものを第1型式、口縁部がやや内傾し鐔から上部が低いものを第2型式とする。第1型式から第2型式への変化が認められる。

鍋Bb類——口縁部が直線的に伸びるものを第1型式、口縁部が内傾し体部と底部の境界が明瞭なものを第2型式、体部下半が丸みを持ち体部と底部の境界が不明瞭になるものを第3型式、体部が直立し桶形を呈するものを第4型式とする。第1型式から第3型式への変化が認められ、第4型式は第3型式に並行している。

鍋Ba類——鍋Bb類と同様の分類が可能であるが、鍋Bb類第4型式に相当する形状は今のところ存在しない。

鍋Bc類——鍋Bb類と同様の分類が可能と思われるが、詳細は不明である。

釜A類——直口する口縁部が高く伸び紐状の耳が付属する第1型式、直口する口縁部が低く紐状の耳が付属する第2型式、直口する口縁部が低く板状の耳が付属する第3型式が認められ、第1型式から第3型式への変化が認められる。

釜B1類——直口する口縁部が低く紐状の耳が付属するものと、直口する口縁部が低く板状の

耳が付属するものに区分される。

#### C 瀬戸美濃窯産陶器碗

瀬戸美濃窯産陶器碗は前著（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）で6器種に分類し、特に天目茶碗は口縁部と底部を各々6類に区分した。ここでは天目茶碗について再分類を試みる。

天目茶碗は器高によって2系列に分類できる。但し、城下町期Ⅱ-1期以前においては、この区分は明瞭ではない。

天目茶碗Ⅰ類——器高が比較的高いもの。

天目茶碗Ⅱ類——器高が比較的低いもの。

それぞれの天目茶碗は、口縁部と高台の形態から6型式に区分できる。第1型式は口縁部が短くくびれ化粧掛した輪高台のもの（口縁部1類・底部1類）である。第2型式は口縁部が直立し口唇部が玉縁状になり化粧掛した輪高台のもの（口縁部2類・底部2類）である。第3型式は口縁部が直立して外反し化粧掛した内反高台のもの。（口縁部3類・底部3類）である。第4型式は口縁部が直立して外反しくびれた部分がやや肥厚する化粧掛けのないもの（口縁部4または5類・底部4または5類）である。第5型式は口縁部がS字状になり化粧掛けのないもの（口縁部4または5類・底部4または5類）である。第6型式は口縁部の直立部分の高さが高く高台も高いもの（口縁部6類・底部6類）である。

天目茶碗の年代的な序列は、両類とも第1型式から順に第6型式へという変遷を辿ったと思われる。

#### D 瀬戸美濃窯産陶器皿

瀬戸美濃窯産陶器皿は前著（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）で11器種に分類した。ここでは前著の分類をそのまま採用することとし、この記述を省略する。

各器種は各々共存しながら消長していたと思われるが、なお、一部の器種で細分及び型式学的な変化の傾向が若干認められる。以下に特徴的な変

化の認められる器種を取り上げ、説明する。

腰折皿——器高が高い第1型式と低い第2型式が認められ、第1型式から第2型式へ変化する。

折縁皿——口縁部の屈曲が明瞭である第1型式、屈曲がやや緩やかで端部の摘み上げが明瞭である第2型式、屈曲が緩やかで摘み上げも弱い第3型式に区分でき、第1型式から第3型式へ変化している。

重圏皿——螺旋状圏線で口縁端部が内傾する第1型式、螺旋状圏線で口縁部が直線的に延びる第2型式、同心円状圏線で無釉の第3型式、同心円状圏線で錆釉が施された第4型式に区分でき、第1型式から第4型式へ変化している。

#### E 瀬戸美濃窯産陶器播鉢

瀬戸美濃窯産陶器播鉢は前著(『清洲城下町遺跡IV』)で11器形に分類した。ここでは前著の分類をそのまま採用するが一部を細分した。

播鉢1類——口縁部の内側に突帯が巡るもの。

播鉢2類——口縁端部を内側に屈曲させ、上方に伸ばしたもの。

播鉢3類——口縁端部に面を持ち、断面形が三角形になるもの。

播鉢4類——口縁端部に凹線状の凹みが巡るもの。

播鉢5類——口縁端部を外側に折り返し、玉縁状に丸くなるもの。

播鉢6類——口縁端部を外側に折り返して縁帯を作り、上端部が丸まっているもの。

播鉢7類——口縁端部を外側に折り返して縁帯を作り、上端部が平らな面となるもの。

播鉢8類——口縁部に内傾するやや幅広な平坦面を持ち、平坦面が丸みを持つもの。

播鉢8a類——平坦面が僅かに外側に傾くもの。

播鉢8b類——平坦面が水平あるいは僅かに内側に傾くもの。

播鉢9類——口縁部に内傾するやや幅広な平坦面を持ち、平坦面が凹むもの。

播鉢10類——口縁部に内傾する平坦面直下に段を持ち、上端部が平らな面を持つもの。

播鉢11類——口縁部に内傾する平坦面直下に段を持たず、屈曲する形態となるもの。

上記の分類は型式分類に属すると思われる、瀬戸美濃窯産陶器播鉢の型式学的な変化は、藤澤も分類しているように、2系列にまとめることができる(但し播鉢1類を除く)。I類は播鉢2類から7類までを含むもの、II類は播鉢8類から11類までを含むものと整理できる。これらは各々2類→3類→4類→5類→6類→7類と、8a類→8b類→9類→10類→11類という時間的な変化が認められるものである。

## 5 城下町期の遺物編年

以上の分類を踏まえた上で、各時期の遺物の様相を概述する。

### A 城下町期I期

基準資料はI SD136・I SD112・IVNR4001等である。

主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形A類・B類・D類・F類、土師器皿非ロクロ成形A類・B類・C類・E類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類、土師器釜A類、天目茶碗、縁釉皿・腰折皿・端反皿、播鉢1類・2類・3類・4類・8a類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と考えられるものは、瀬戸美濃窯産陶器灰釉丸碗・平碗・台付碗・平鉢・花瓶・袴腰形香炉・鍋・釜、常滑窯産陶器平鉢、中国窯産磁器白磁割高台皿、中国窯産磁器青花碗I類・碗VI①類・皿I類・皿II類等が存在する。

城下町期I期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期I-1期は、IVNR40014群・5群等を基準資料とする。天目茶碗第1型式、縁釉皿、

腰折皿第1型式、重圈皿第1型式、播鉢1類・2類、土師器皿ロクロ成形A類・D類第1型式、土師器鍋B類第1型式が存在する段階である。

城下町期Ⅰ-2期は、IVNR40012群・I SD136等を基準資料とする。天目茶碗第2型式、端反皿、腰折皿第2型式、重圈皿第2型式、播鉢3類・4類・8a類、土師器皿ロクロ成形A類・D類第2型式、土師器鍋B類第2型式が存在する段階である。

B 城下町期Ⅱ期

基準資料はI SD110・IVSK6571等である。特に清洲城下町遺跡では城下町期Ⅱ-1期の良好な一括資料に恵まれない傾向があり、名古屋城三の丸遺跡Ⅳの資料<sup>(15)</sup>を参考資料として用いた。

主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形C類・E類・F類、土師器皿非ロクロ成形A類・B類・D類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類・C類、土師器釜A・B類、天目茶碗、丸皿・稜皿・折縁皿・内禿皿、播鉢5類・6類・8b類・9類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と認定されるものは、中国窯産磁器青花碗Ⅱ類・碗Ⅷ類・皿Ⅰ類・皿Ⅲ類等が存在する。

城下町期Ⅱ期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期Ⅱ-1期は、I SD110・名古屋城三の丸遺跡ⅣSK303等を基準資料とする。天目茶碗第3型式、丸皿・稜皿、播鉢5類・8b類が存在する段階である。

城下町期Ⅱ-2期は、IVSK6571等を基準資料とする。天目茶碗第4型式、折縁皿第1型式・内禿皿・菊皿、播鉢6類・9類が存在する段階である。土師器鍋C類・釜B類が出現する段階でもある。

C 城下町期Ⅲ期

基準資料はⅡSD39・IVSK7029等である。

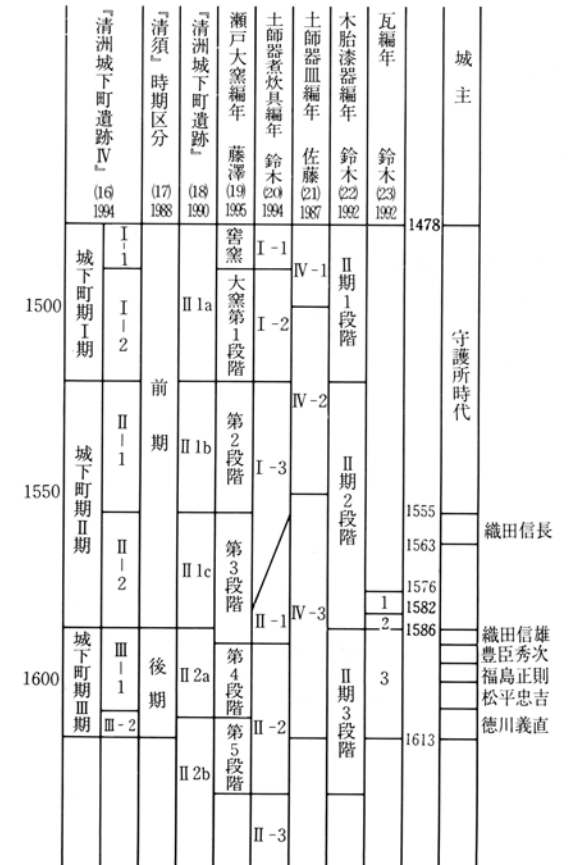
主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形C類・E類・F類・G類、土師器皿非ロクロ成形

D類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類・C類、土師器釜A類・B類、天目茶碗、長石釉皿、折縁皿、播鉢7類・10類・11類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と認定されるものは、瀬戸美濃窯産陶器沓茶碗・向付、備前窯産陶器、唐津窯産陶器、中国窯産磁器青花碗Ⅲ類・碗Ⅳ類・碗Ⅵ類・碗Ⅷ類・皿Ⅵ類・皿Ⅸ類等が存在し、多様な生産地からの製品が認められる。

城下町期Ⅲ期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期Ⅲ-1期は、IVSK6151等を基準資料とする。天目茶碗第5型式、折縁皿第2型式、播鉢7a類・10類、土師器釜A類第3型式等が存在する段階である。

城下町期Ⅲ-2期は、IVSK7029等を基準資料とする。天目茶碗第6型式、折縁皿第3型式、菊



第121図 各編年対照図

皿5類、播鉢7b類・11類、土師器皿口クロ成形G類が存在する段階である。

## 6 各時期の年代観

以上概略であるが、城下町期を3期6小期区分した。この項では、上記の時期区分とこれまでの編年との対応関係と年代観を問題としたい。

### A これまでの編年との対応関係

これまでの編年との対応関係は第121図の通りである。

### B 年代観

年代観を考察するためには、①これまで分析された編年案の年代を参考にする方法、②遺跡固有の年代または遺跡の画期を基準にする方法、③共伴する紀年銘資料をもとに考える方法の3者がある。

#### ① 編年案の年代観

これまでの編年案の中で、具体的な年代観を考察したものは少なく、瀬戸美濃窯産陶器の年代観が存在するのみである。井上編年<sup>(24)</sup>と藤澤編年<sup>(25)</sup>共に年代観が提示されているが、ここでは藤澤編年の年代観を記述しておく。

大窯第1段階——1490年頃～1520年頃

大窯第2段階——1520年頃～1555年頃

大窯第3段階——1555年頃～1590年頃

大窯第4段階——1590年頃～1610年頃

大窯第5段階——1610年頃～1630年頃

#### ② 遺跡固有の年代

地層の堆積状況から判定される年代として、地震痕が挙げられる。このうち、城下町期に関連するものとして天正13年11月（1586年1月）に発生した天正地震が存在する<sup>(26)</sup>。上記区分との対応関係は、城下町期Ⅱ期とⅢ期の境にこの地震が位置づけられる。

また、遺跡が持つ歴史的背景による年代観がある。これによれば、①遺跡の本格的な開始を守護所移転の1478年に当てること（城下町期Ⅰ期の開

始を1478年とする）、②遺跡の終末を清須越し完了の1613年に当てること（城下町期Ⅲ期の終末を1613年とする）、③遺跡全体を包括する総構え構築を織田信雄の清須入城に当てること（城下町期Ⅱ期とⅢ期の境界を1586年とする）の3つが取り上げられよう<sup>(27)</sup>。

#### ③ 紀年銘資料

清洲城下町遺跡から出土した紀年銘資料はこれまで5種存在する。

1 永正5年（1508年）11月23日銘木製卒塔婆

IVNR4001出土（城下町期Ⅰ－2期）

2 天正14年（1586年）銘丸瓦

ⅡSD39出土（城下町期Ⅲ期）

3 文禄2年（1593年）銘瀬戸美濃窯産陶器碗

西SD200（城下町期Ⅲ期）

4 慶長3年（1598年）銘木製卒塔婆

西SD200（城下町期Ⅲ期）

5 慶長4年（1599年）銘木製卒塔婆

西SD200（城下町期Ⅲ期）

#### ④ まとめ

以上の事実を踏まえ現状での年代観を当てはめると以下の通りである。

城下町期Ⅰ－1期——1478年頃～1490年頃

城下町期Ⅰ－2期——1490年頃～1520年頃

城下町期Ⅱ－1期——1520年頃～1555年頃

城下町期Ⅱ－2期——1555年頃～1586年

城下町期Ⅲ－1期——1586年～1610年頃

城下町期Ⅲ－2期——1610年頃～1613年頃

### C 遺物からみる画期の設定

これまで前著『清洲城下町遺跡Ⅳ』に従って、城下町期の3期6小期区分をベースに分析を進めた。この区分は、遺構の時期を決定する際に全遺跡的な統一基準をあらかじめ設けるために、瀬戸美濃窯産陶器を主体に設定した。また、6小期を3期に大別した理由は、比較的時期のまとまりが容易に認められる段階が城下町期Ⅰ期と城下町期Ⅲ期であり、城下町期Ⅱ期の様相が明確でないた

め、結果として暫定的な大別を行わざるを得なかったからである。

今、改めて瀬戸美濃窯産陶器等を除く器種構成から遺物変遷をみると、城下町期Ⅱ－2期に一つの画期を読み取ることができる。この画期は土師器鍋C類、土師器釜B類、瓦の登場と土師器皿口クロ成形A類・B類・D類の消滅、土師器皿非口クロ成形A類・B類の減少という現象を引き起こしている。この区分は土師器や瓦といった在地的な遺物に認められる画期と評価できよう。

ここで問題となる点は、瀬戸美濃窯産陶器を主にして導かれた3期6小期区分と、在地的な遺物に認められる画期の現象が年代的に合致するか否かという点である。すなわち、前項では城下町期Ⅱ－2期を1555年頃～1586年に比定して考えたが、土師器や瓦に認められる変化の画期を同様に1555年頃に位置づけられるか否かという問題に置き換えられよう。根拠を明確に示すことはできないが、遺構展開との関わりの中で、後者の画期は城下町期Ⅱ－2期の中で起こった現象という可能性もまた残されているのである。少なくとも瓦についてはその出現の<sup>1470</sup>期を1576年に当てる考察があり<sup>(28)</sup>、城下町期Ⅱ－2期の遺物様相は複雑であり、細分化して更に検討を進める必要がある。

## 7 まとめ

以上、清須城下町に関わる遺物の編年・年代観について記述し、次節での立論の前提となる時期区分を設定した。しかしながら、城下町期Ⅱ－2期という城下町期にとって重要な年代について疑問が残されており、この点を保留せざるを得ない筆者の力量不足を認めなければならない。今後の課題としたい。  
(鈴木正貴)

## 補註

第Ⅸ章全体では、清須城関連の遺構の記載に際しては次の方式を採用した。

- ① 財愛知県埋蔵文化財センターが調査した調査区内、報告書刊行済の遺構は「報告書名の略号+報告書使用の遺構名」で表記した。報告書名の略号は以下のとおりである。

『清洲城下町遺跡』(1990) ————— I  
 『清洲城下町遺跡Ⅱ』(1992) ————— II  
 『清洲城下町遺跡Ⅲ・外町遺跡』(1994) — III  
 『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994) ————— IV  
 『清洲城下町遺跡Ⅴ』(1995) ————— V  
 『廻間遺跡』(1990) ————— 廻  
 『朝日西遺跡』(1992) ————— 西

- ② 財愛知県埋蔵文化財センターが調査した調査区内、報告書未刊行の遺構名は「発掘調査区+遺構名」で表記した。

- ③ 清洲町教育委員会が調査した調査区内、報告書刊行済の遺構は「報告書名の略号+報告書使用の遺構名」で表記した。報告書名の略号は以下のとおりである。

『清洲城下町遺跡Ⅰ』(1987) ————— ①  
 『清洲城下町遺跡Ⅱ』(1990) ————— ②

- ④ 清洲町教育委員会が調査した調査区内、報告書未刊行の遺構名は「発掘調査区の略号+遺構名」で表記した。発掘調査区の略号は以下のとおりである。

「ふれあい広場地点」 ————— ふ  
 「本丸地点」 ————— 本  
 「助七西市場線地点」 ————— 助  
 「清洲町勤労福祉会館地点」 ————— 勤

註(1) 小野正敏(1985)「出土陶磁よりみた十五・十六世紀における画期の素描」『ミュージアムNo. 416』。

(2) 清洲城下町遺跡における主要5器類の出土量の割合は、瀬戸美濃窯産陶器碗が6.6%・皿が10.8%・播鉢が8.7%、土師器皿が38.8%・鍋と釜が18.0%となっている。ただしこの数値は『清洲城下町遺跡Ⅳ』遺構出土資料の破片数合計をもとに計算した。

(3) 佐藤公保(1986)「中世土師器研究ノート(1)」『年報昭和60年度』(財愛知県埋蔵文化財センター、佐藤公保(1987)「中世土師器研究ノート(2)」『年報昭和61年度』(財愛知県埋蔵文化財センターがある。

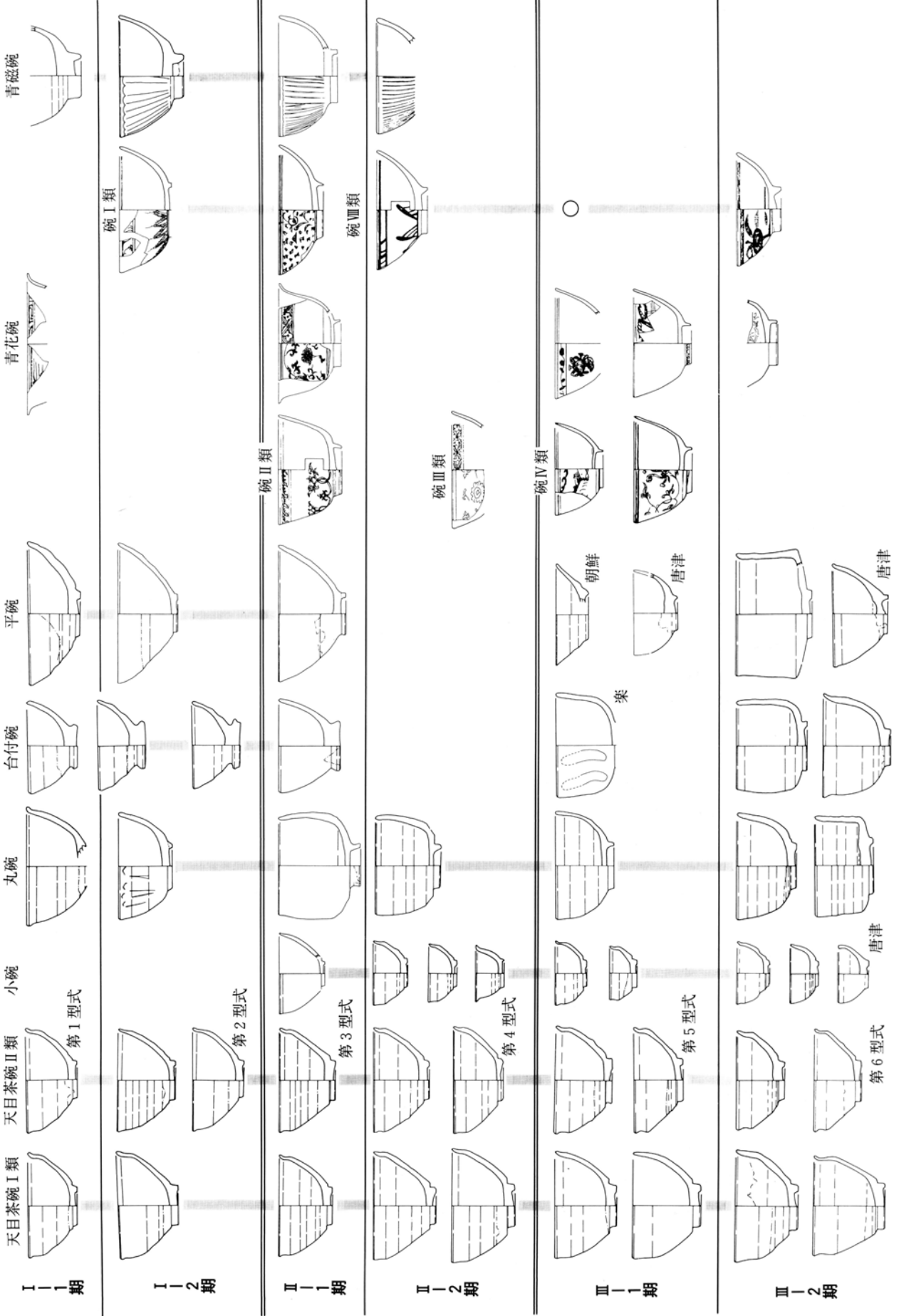
- (4) 佐藤公保 (1989)「尾張の土師器煮炊具」『マージナルNo. 9』。
- (5) 鈴木正貴 (1994)「戦国時代の尾張型煮炊具の歴史的様相」『考古学フォーラム 4』。
- (6) 赤塚幹也 (1969)『瀬戸市史・陶磁史篇一』。
- (7) 橋崎彰一 (1976)『美濃の古陶』光琳社出版等多数の文献がある。
- (8) 井上喜久男 (1985)「16世紀の瀬戸・美濃窯」『中近世土器の基礎研究』、井上喜久男 (1988)「美濃窯の研究 (一) 一十五・十六世紀の陶器生産」『東洋陶磁第十五・十六号』、井上喜久男 (1992)『尾張陶磁』ニューサイエンス社。
- (9) 藤澤良祐 (1986)「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 V』、藤澤良祐 (1993)『瀬戸市史・陶磁史篇四』。
- (10) 伊藤嘉章 (1988)「瀬戸・美濃における大窯生産」『岐阜市歴史博物館研究紀要第 2 号』。
- (11) 藤澤良祐 (1991)「城館出土の瀬戸・美濃大窯製品」『中世の城と考古学』新人物往来社。
- (12) 鈴木正貴 (1990)「尾張の城館遺跡出土の陶磁器」『考古学フォーラム 1』。
- (13) 藤澤良祐 (1984)「“古瀬戸”概説」『美濃陶磁歴史館報Ⅲ』
- (14) 前掲註(5)と同じ。
- (15) 遠藤才文編 (1993)『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集。
- (16) 前掲註(9)と同じ。
- (17) 梅本博志 (1986)「清洲城下町遺跡」『年報昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター等による。
- (18) 鈴木正貴編 (1990)『清洲城下町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。
- (19) 前掲註(9)と同じ。
- (20) 前掲註(5)と同じ。
- (21) 前掲註(3)後者の文献による。
- (22) 鈴木正貴 (1992)「清須城下町から出土した漆器について」『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集。
- (23) 鈴木とよ江「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。
- (24) 前掲註(8)と同じ。
- (25) 前掲註(9)と同じ。
- (26) 森勇一・鈴木正貴 (1989)「愛知県清洲城下町遺跡における地震痕の発見とその意義」『活断層研究 7』他。
- (27) 清須城の改修を1586年以前に比定する案も認め

られる。次節を参照。

- (28) 前掲註(23)と同じ。

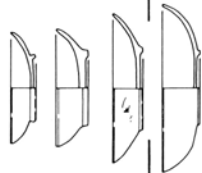
中国産磁器

瀬戸美濃窯産陶器



第122図 清洲城下町遺跡 陶磁器碗類編年表 (S=1:6)

木胎漆器



中国窯産磁器

青花皿



皿II類

皿I類

白磁皿



重圈皿



第1型式



第2型式



稜皿



皿III類



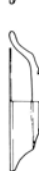
粗

瀬戸美濃窯産陶器

端反皿



腰折皿



第1型式



丸皿 (内禿皿)



第2型式



折縁皿

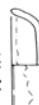


第1型式



第2型式

縁袖皿



I 1 1 期



I 1 2 期



II 1 1 期



II 1 2 期

菊皿



第1型式



III 1 1 期



III 1 2 期



唐津

唐津



第3型式



III 1 2 期

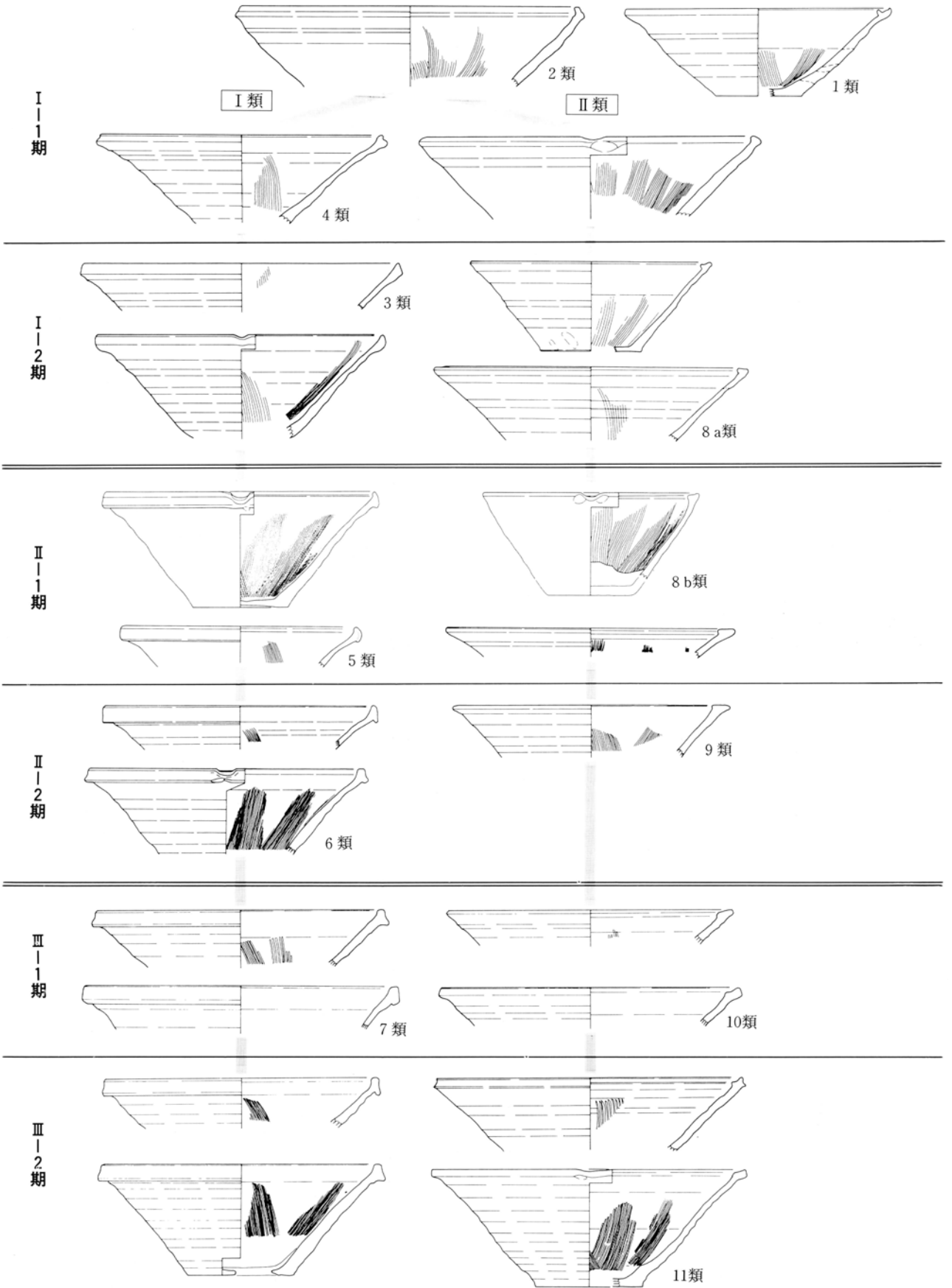


青磁

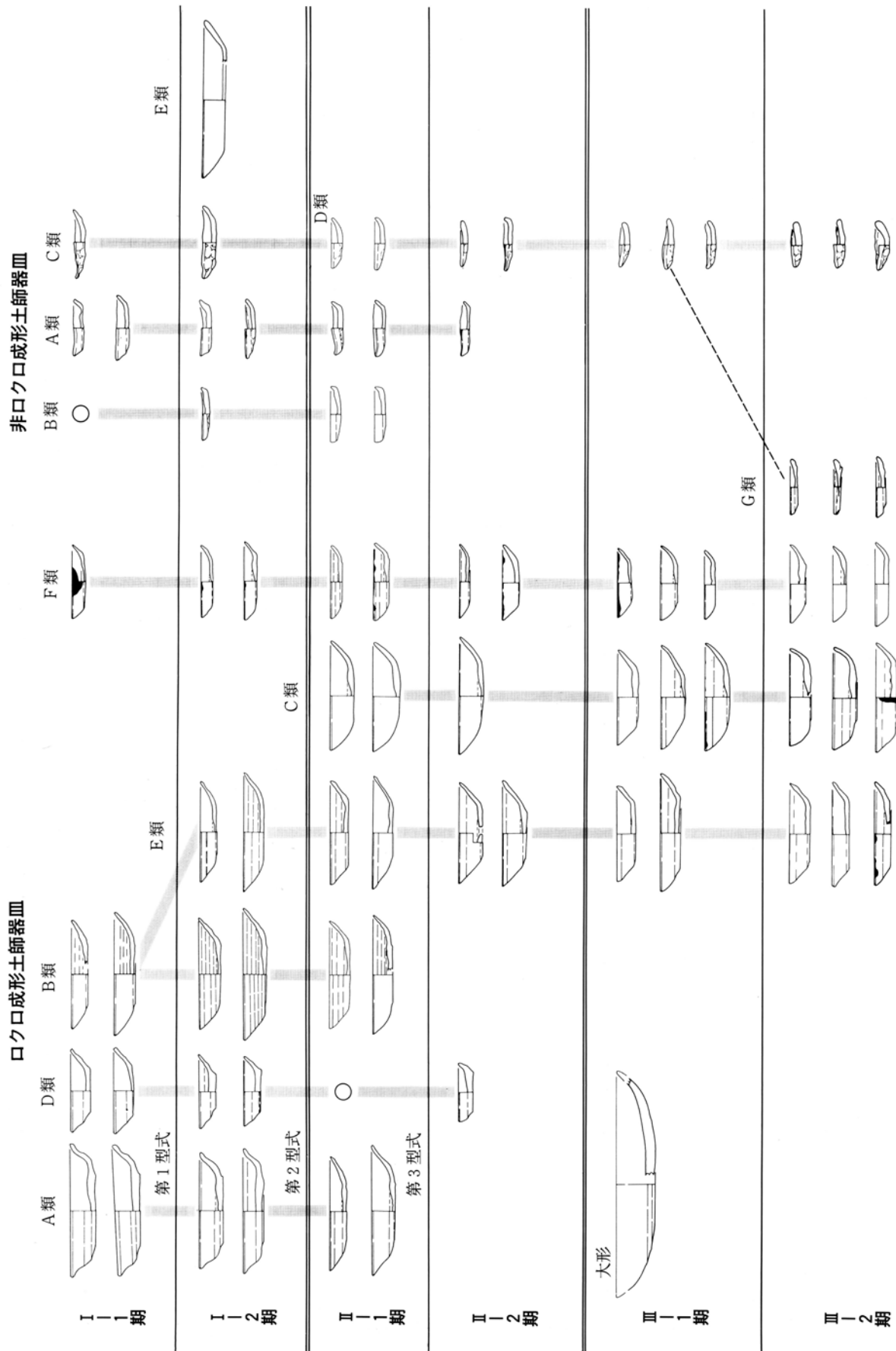


青磁

第123図 清洲城下町遺跡 陶磁器皿類編年表 (S = 1 : 6)

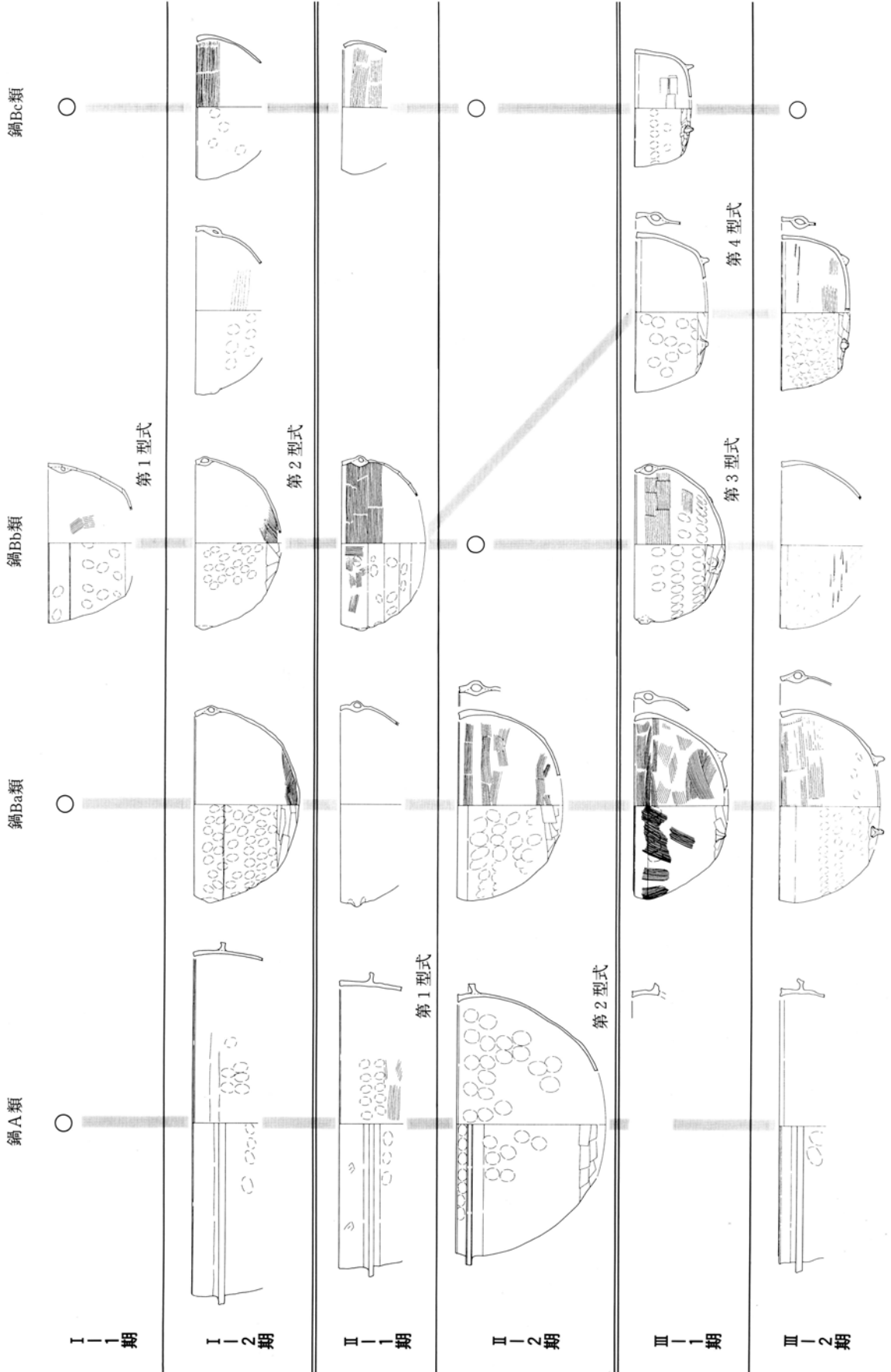


第124図 清洲城下町遺跡 瀬戸美濃窯産陶器播鉢編年表 (S = 1 : 8)



第125図 清洲城下町遺跡 土師器皿類編年表 (S = 1 : 6)

土師器鍋



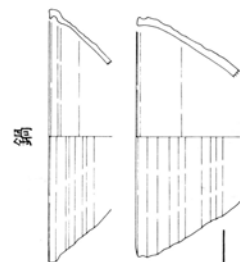
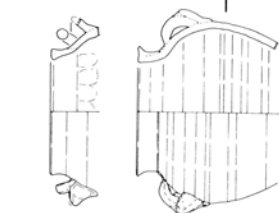
第126図 清洲城下町遺跡 土師器鍋・釜類編年表(1) (S=1:8)

土師器鍋・釜

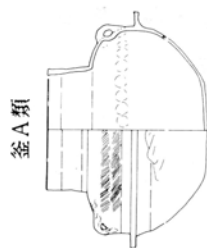
瀬戸美濃窯産陶器



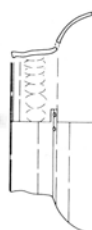
釜



鍋



釜A類



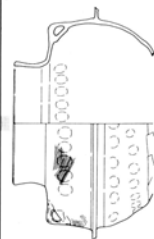
I-1-1期

I-1-2期



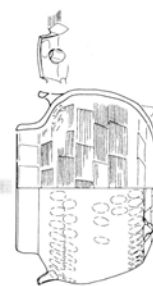
II-1-1期

釜B類

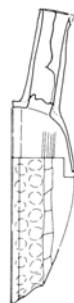


II-1-2期

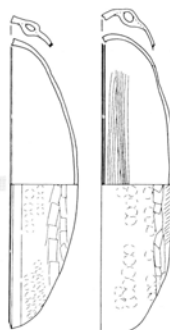
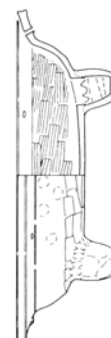
鍋C類



III-1-1期



III-1-2期



第127図 清洲城下町遺跡 土師器鍋・釜類編年表(2) (S=1:8)

## 第2節 清須城下町の復元的研究 (1995年覚書)

### 1 はじめに

本節では、これまでの発掘調査で得られた成果をもとにして、戦国時代の清須城下町の復元を試みる。

清須城下町の復元的な研究は様々な方法で試みられてきた。古くは文献史料と地誌の事績を積み重ねて「斯波時代」・「織田時代」・「徳川時代」の各時期の復元案を包括的に提示した林良幹の著作<sup>(1)</sup>がある。近年では各時期別に様々な方法で復元案が提示されている。文献史学からは中部よし子<sup>(2)</sup>・高牧實<sup>(3)</sup>・小島道裕<sup>(4)</sup>・下村信博<sup>(5)</sup>等が論考を提出している。これらは織豊政権の都市政策・城下町経営を論点に据えたものが多く、ほとんどが都市構造の概念的な復元案となっている。その中で特に下村信博は、丹念に清須関連の史料を抽出して清須城下町の複雑な発展過程を想定した。歴史地理学的な考察として、小林健太郎<sup>(6)</sup>・金原宏<sup>(7)</sup>・千田嘉博<sup>(8)</sup>の論文がある。金原は昭和期の地籍図と航空写真<sup>(9)</sup>を活用して城下町前期と後期の清須城下町を、千田は明治17年の地籍図<sup>(10)</sup>を材料にして天正14年以降の清須城下町の構造を各々復元した。特に、千田論文は城郭プランの解釈と曲輪内部の構造復元を試みた点が画期的であった。考古学的な復元案には遠藤才文<sup>(11)</sup>・梅本博志<sup>(12)</sup>・佐藤公保<sup>(13)</sup>の考察がある。これらは発掘調査で得られた成果をどう評価するかという視点から居館・屋敷の構造・規模等を分析したものである。具体的かつ実証的な研究であるが、時期区分が前期と後期の2区分に留まっている<sup>(14)</sup>こと等に再検討する余地が残されている。

ここでは、こうした先行研究を踏まえた上で、これまで発掘調査で判明した成果を、前節で検討したⅢ期6小期区分を用いて、城下町構造の変遷を考察する。分析の方法は、まず各時期の遺構変遷を把握した上で区画の認定と性格の推定を行い、

更に明治17年作成の地籍図等を利用した歴史地理学的な研究手法を援用して調査区周辺を含めた考察を実施した。なお、『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994)第Ⅴ章<sup>(15)</sup>では地区毎に区画展開のあり方と画期を検討し、時期を①城下町期Ⅰ期・②城下町期Ⅱ-1期・③城下町期Ⅱ-2期・④城下町期Ⅲ期の4期にまとめており、今回もこの4期区分案を使用した。

これまで発掘調査された地点は、清洲城下町遺跡(名古屋環状2号線地点<sup>(16)</sup>・県道新川清洲線地点<sup>(17)</sup>・県道清洲新川線地点<sup>(18)</sup>・五条川河川改修地点<sup>(19)</sup>・大和製本地点<sup>(20)</sup>・ふれあい広場地点<sup>(21)</sup>・本丸地点<sup>(22)</sup>・助七西市場線地点<sup>(23)</sup>・勤労福祉会館地点<sup>(24)</sup>、朝日西遺跡<sup>(25)</sup>、廻間遺跡<sup>(26)</sup>、外町遺跡<sup>(27)</sup>がある。ここでは、以下のように各調査地点を12地区<sup>(28)</sup>に区分して、地区毎に論を進めたい(第128図)。

本丸地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点本丸地区・本丸地点)

田中町北部地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点田中町地区・県道清洲新川線地点北部・大和製本地点・ふれあい広場地点)

田中町南部地区——清洲城下町遺跡(県道清洲新川線地点中央部・県道新川清洲線地点・勤労福祉会館地点)

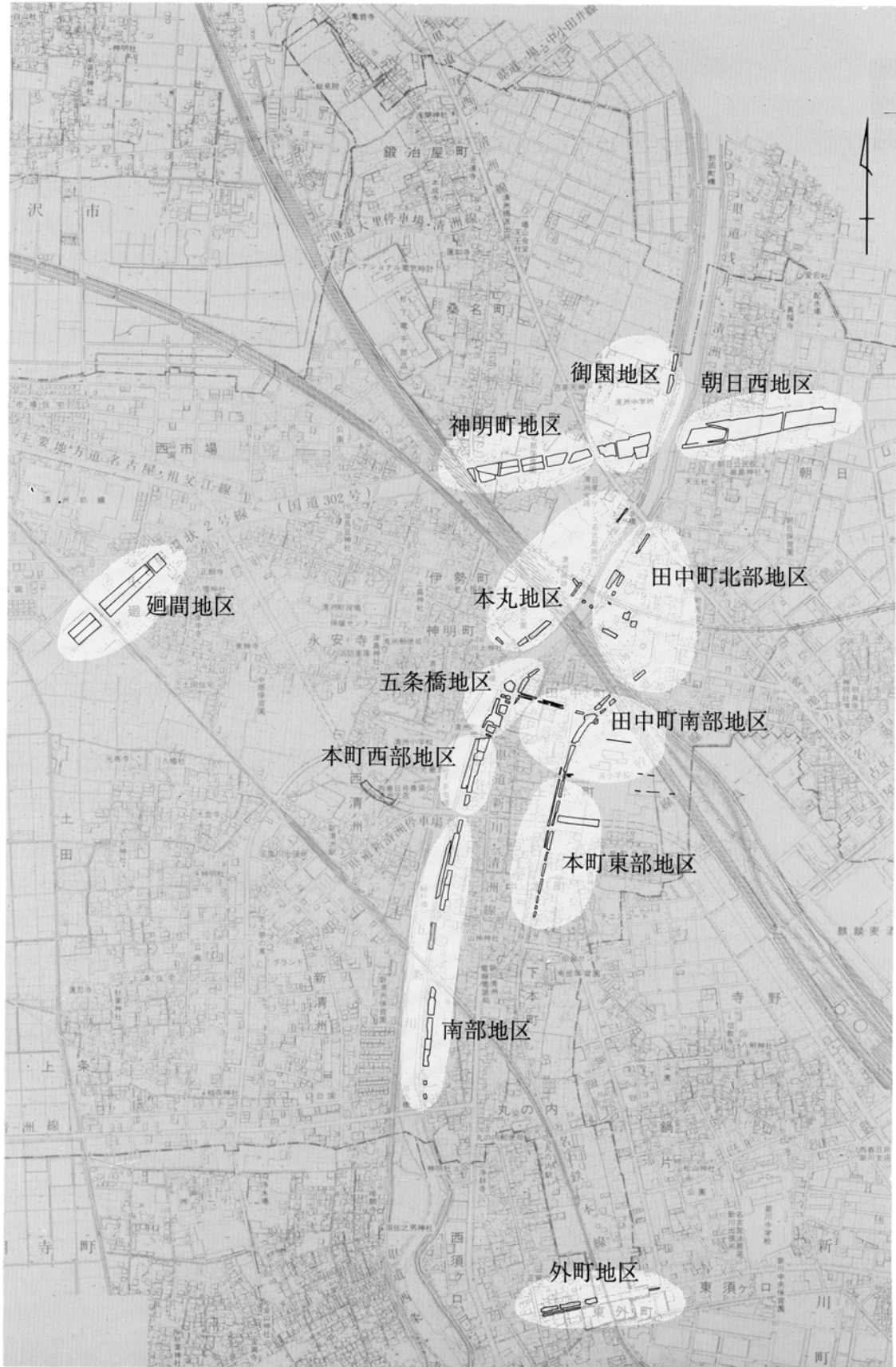
五条橋地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点五条橋地区)

本町東部地区——清洲城下町遺跡(県道清洲新川線地点南部・助七西市場線地点)

本町西部地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点本町地区)

御園地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点御園地区・名古屋環状2号線地点東部)

神明町地区——清洲城下町遺跡(名古屋環



第128図 清洲城下町遺跡地区割図 (S = 1 : 15000)  
 (「清洲町全図 1 : 10000」清洲町 昭和53年作成をもとにした)

状2号線地点西部)

朝日西地区——朝日西遺跡

南部地区——清洲城下町遺跡（五条川河川改修地点南部地区）

廻間地区——廻間遺跡

外町地区——外町遺跡

なお、本節で提示した各地区・各時期の遺構復元図は、明治17年に作成された地籍図（愛知県公文書館所蔵）をもとに、調査区・遺構・遺構復元等を加えて編集したものである<sup>(29)</sup>。

## 2 区画の分類と概要

個別の地区及び時期の分析に入る前に、区画の形態分類を実施し、その概要と性格を記述する。

### A 溝の分類

区画は、一般に溝や柵列等の境界を示す区画施設によって設定され、清須城下町においては多くは溝によって区画されている。溝はその形態と規模から以下のように区分される。

堀——幅15m以上の規模を持つ溝。

溝Ⅰ類—幅10m前後の規模をもつ溝。

溝Ⅱ類—幅4~7m、深さ1m以下の規模をもつ溝。

溝Ⅲ類—幅4~5m、深さ1m前後の規模をもつ溝。

溝Ⅳ類—幅1~2.5m、深さ50cm以上の規模をもつ溝。

溝Ⅴ類—幅1~2m、深さ50cm以下の規模をもつ溝。

溝Ⅵ類—幅1m以下の規模をもつ溝。

区画施設Ⅹ類—遺構検出されない程度の区画施設。

こうした溝の規模の格差は、直接的には防御機能や象徴機能の優劣を反映しており、結局は区画された居住者の階層が表現されていると考えられるよう。

### B 区画の形態分類

区画を規模（面積）と平面プランで以下の6類に区分できる。

区画Ⅰ類—区画幅が10~15mの長方形区画。約400m<sup>2</sup>。

区画Ⅱ類—一辺が30m前後の方形区画。約1000m<sup>2</sup>。

区画Ⅲ類—一辺が45m前後の方形区画。約2000m<sup>2</sup>。

区画Ⅳ類—区画施設が非直線的な不定形区画。

区画Ⅴ類—一辺が100m以上の方形区画。面積が10000m<sup>2</sup>を超える大型方形区画である。

区画Ⅹ類—区画認定が困難であるもの。

区画（屋敷）の面積が居住者の階層を反映することは既に考察されており、清須城下町でも同様であったと推定される。

### C 区画の概要と性格

区画と溝は一定の対応関係が認められ、おおよそ以下の通りの3パターンに区分できる。

区画Ⅰ・Ⅱ類——溝Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類・区画施設Ⅹ類

区画Ⅲ類——溝Ⅲ類

区画Ⅴ類——溝Ⅰ類

上記の3パターンの区分は、区画と溝の各分類が居住者の階層を反映する点を考慮すると、清須城下町の居住者に3つの階層が存在することを示していると考えられる。また、各区画の分布傾向をみると、①区画Ⅴ類が遺跡の中心部に所在すること、②区画Ⅲ類が区画Ⅴ類の周辺に集中すること、③区画Ⅰ・Ⅱ類は中心部に所在しないことが伺える。以上の点から、以下のように各区画の居住者の性格を推定できる。

区画Ⅴ類——最上級クラスの居住域—居館

区画Ⅲ類——上級クラスの居住域—武家屋敷・

寺院・神社

区画Ⅰ・Ⅱ類—下級クラスの居住域—町屋

では、上記の分類を基準に各時期の清須城下町の構造を検討してみる。

## 3 城下町期Ⅰ期

城下町期Ⅰ期は瀬戸美濃窯産陶器編年の窖窯後期第4段階~大窯第1段階に当り、尾張守護所が清須に移転した文明10（1478）年頃~1520年頃を指している。この時期の遺構は、本丸地区・田中町北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町

西部地区・御園地区・神明町地区で確認されている。

#### A 本丸地区

94A区で溝または河川状の大規模な遺構が検出され、土師器皿等の遺物が多量に出土している。遺構配置の復元には至らないが、城下町期I期に遺構が展開していたと考えられる。

この地点では、清須城主郭と上畠神明社の存在が予想されている。清須城主郭に関しては、少なくとも清須城最終段階にはこの本丸地区に所在したことが確実であるため、その存在が城下町期I期に遡っていたことが推定されよう。一方上畠神明社に関しては、当初現清洲公園あたりに所在したものを移したと伝承されている。移転の年代は諸説が認められるが、天正11(1583)年末の織田信雄禁制<sup>(30)</sup>等から、天正11(1583)年までは上畠神明社が本丸地点に所在し、1586年の城域拡張に伴い移転したと考える説<sup>(31)</sup>が有力である。

梅本博志はこうした点や発掘調査の成果等を整理して、城下町期前期の清須城の主郭は五条川東岸にあると予想し<sup>(32)</sup>、この推定は今日では定説化しつつある。しかしながら、後述するように梅本説もその後の発掘調査結果から一部訂正を迫られており、「北矢蔵」をどう考えるかという点等に問題が残されている。現段階では、城下町期I期の本丸地区に関する問題を解決する決定的な資料がなく、今後の重要な課題となっている。ここでは、清須城最終段階にはこの本丸地区に所在した点と、土師器皿が多量に出土した点を評価して、城下町期I期から清須城主郭が存在したと仮定したい。

#### B 田中町北部地区

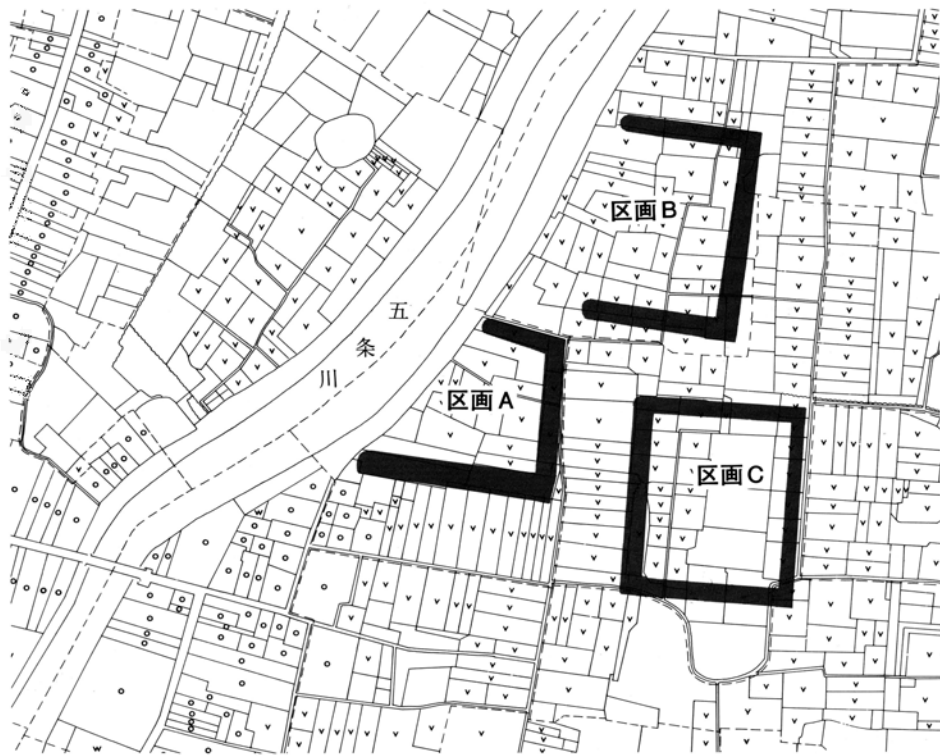
大和製本地点・ふれあい広場地点・93D区で溝I類が、90A区・62G区で溝Ⅲ類が各々検出されている。溝I類の配置及び遺物出土状況等から、溝I類で囲まれた大型方形区画の存在が推定される。

大和製本地点SD01は南北方向に走る溝I類で、明治17年地籍図による細長い畑地の位置に当たっている。細長い畑地は地籍図では「コ」の字状に連続しており、区画V類(一辺約100mの大型方形区画)の「区画A」が想定される。この区画Aは、梅本博志が城下町期前期の居館として<sup>(33)</sup>、千田嘉博が城下町期最末期の馬出し機能を果たした曲輪として<sup>(34)</sup>各々指摘しているものである。

一方、ふれあい広場地点SD01は東西方向に走る溝I類で西端部は収束している。明治17年地籍図及び現地地形からはこの溝の存在は看取できない。また、93D区SD01は南北方向に走る溝I類で、明治17年地籍図による細長い畑地の位置に当たっている。前者のふれあい広場地点SD01に関しては、梅本博志がこの溝の北部に城下町期前期の区画V類の「区画B」が存在すると想定した(案I:第129図)。この案Iを採用すると、93D区SD01はその規模から区画A・Bと異なる同規模の区画Cを囲む西溝であると推定せざるを得ない。しかし、この説は93D区SD01では遺物が西側から投棄されていた状況と矛盾している。従って、ふれあい広場地点SD01と93D区SD01は、区画Aから各々50m前後離れた位置にあること等から、区画Aの外側を更に大きく方形に区画する施設であると推定する案が新たに考えられよう(案II:第130図)。

ここでは案IIを採用し、二重の堀で囲まれた大型方形区画の「区画A」を想定する。内郭一辺約100m、外郭一辺約200mの規模を持つ区画Aの性格は、主郭に匹敵することから城主クラスの居館と推定し得る。また、内郭と外郭の幅50m前後の空間は、その性格を推定する材料を持たないが、おそらく45mを単位とする武家屋敷が想定されよう。なお、ふれあい広場地点SD01は62M区IV SD3021と対応して外郭を構成しており、ふれあい広場地点SD01が収束する部分では出入り口(喰い違い虎口?)が設定されていたと考えられる。

これに対し、90A区と62G区で確認された溝Ⅲ



第129図 田中町北部地区 (城下町期 I 期) 案 I

(S = 1 : 5000)

62M区



第130図 田中町北部地区 (城下町期 I 期) 案 II

(S = 1 : 2500)

類は、大型方形区画の区画内施設と考えるよりも、後述する田中町南部地区や本町西部地区で認められる区画Ⅲ類を構成する溝であると想定する方が妥当であろう。IVSD3004とIVSD3015の溝心心間距離は約125mを測り、おそらく3区画分の区画Ⅲ類が、この間に存在した可能性を指摘できる。

C 田中町南部地区（第131図）

県道清洲新川線地点中央部と勤労福祉会館地点で溝Ⅲ類が多数検出されている。これらの溝は方格地割をなし、溝の間隔は約45mを測る。こうした状況から、田中町南部地区では区画Ⅲ類が多数構成されていたと考えられる。各々の区画Ⅲ類を構成する溝Ⅲ類は、隣接する区画と共有するものと、溝2本で道路を形成していたものの2者が存在する。なお、県道新川清洲線地点では、溝Ⅲ類が検出されていないため区画Ⅲ類の広がり確認できないが、土坑等は存在するため何等かの居住域だったと推定される。

I SD101とI SD110に囲まれた区画を区画0001、I SD112に囲まれた区画を区画0002、I SD111とI SD118東西溝に囲まれた区画を区画0003、L字に屈曲したI SD118に囲まれた区画を区画0004、I SD118とI SD122に囲まれた区画を区画0005、I SD122とI SD136南北溝に囲まれた区画を区画0006、L字に屈曲したI SD136に囲まれた区画を区画0007とし、区画Ⅲ類を7基確認することができたことになる。溝Ⅲ類に挟まれた道路は、日吉神社西から延びる南北道路SF0001と区画0001と区画0003の間の東西道路SF0002が推定されよう。

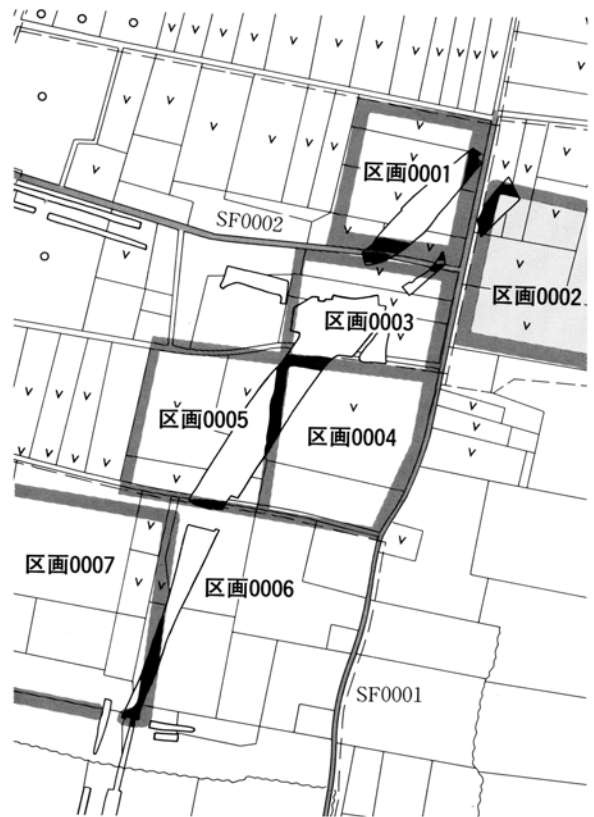
『清洲城下町遺跡』（1990）では、Ⅱ1a期とⅡ1b期に時期区分し、区画0002と区画0004と区画0007は先行してⅡ1a期に登場し、残りの区画はⅡ1b期に出現して規格性の高い区画配置を構成していたと考えた。しかしその後、63F区・63G区間の立会調査での南北道路SF0001の検出状況等を踏まえて遺物を再検討した結果、Ⅱ1a期とⅡ1b期の間に画期的な遺構配置の変遷を考えるよ

りも、7基の区画Ⅲ類は共存し溝の埋積過程に差異があったと考える方が妥当と思われる。

これら区画Ⅲ類は、区画Ⅴ類に次ぐ規模の区画であることから、基本的には武家屋敷と推定できる。しかし、卒塔婆や「正眼寺」刻書硯等が出土する溝Ⅲ類も認められることから、一部では寺院と推定される区画が混在していたと考えられよう。

D 五条橋地区（第132図）

旧五条川IVNR4001が蛇行しながら南流し、これに付属する溝等の遺構が若干存在するのみである。城下町期Ⅰ期の段階では、IVNR4001は東寄りに蛇行していたと思われ、この後次第に埋積を繰り返して、流路は西へ移動したものと考えられる。遺物の出土量の豊富さ、塔婆類等信仰に伴う遺物の出土等から、人間活動が活発であったことが想定され、川港・市場・「無縁の場」の存在を予想したい。



第131図 田中町南部地区（城下町期Ⅰ期）  
(S = 1 : 2500)

E 本町西部地区 (第133図)

田中町南部地区と同様、溝Ⅲ類が多数検出されており、溝の間隔はほとんどが約45mを測っている。これらの溝は区画Ⅲ類を構成していたと考えられ、区画6002～区画6006が想定される。区画6002のみが南北幅約20mを測り、規模が半分となっている。この地区の溝Ⅲ類は隣接する区画と共有していることから、調査区内での道路は想定できない。

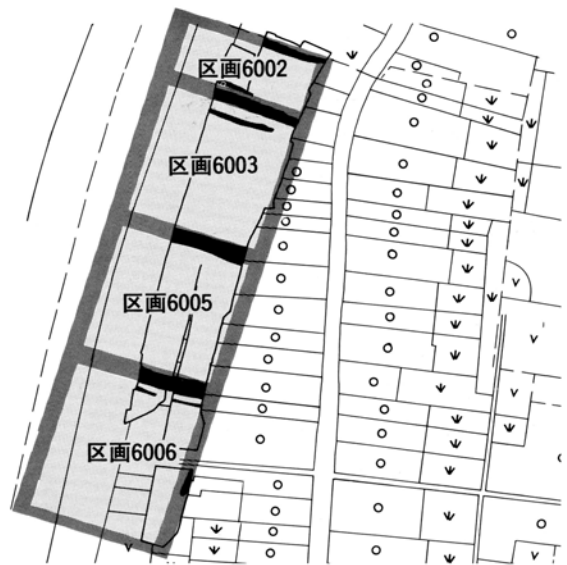
区画の面積からこれらの区画Ⅲ類の性格は武家屋敷と想定される。遺構の配置も整然として規格性をもっていることから、計画的な武家屋敷の建設が行われたと言えよう。

F 御園地区 (第134図)

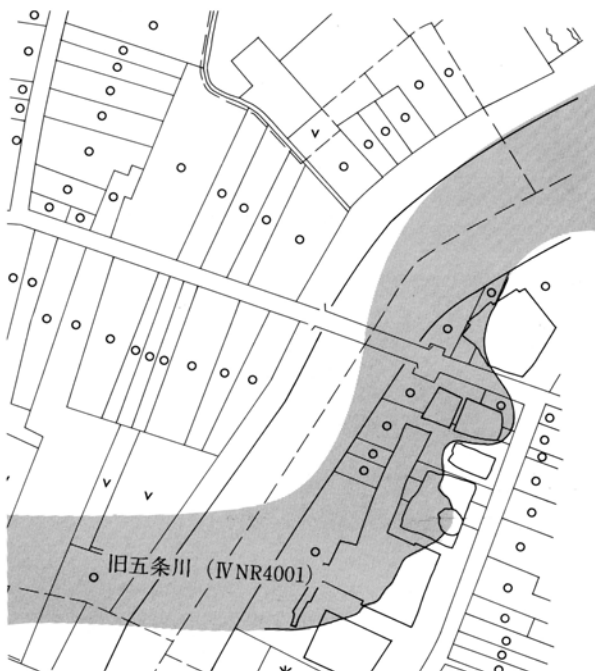
御園神明社門前に相当する地点で、中小の溝群等小規模な遺構が認められる。梅本博志は城下町前期前期のこの地区を、規格性に乏しい遺構群で一律的な空間構成を持たないと評価し、当地が御園神明社門前であることについて触れている<sup>(35)</sup>。また、『清洲城下町遺跡Ⅱ』(1992)では、小規模な区画溝で構成された可変的な屋敷と評価し、門

前に広がっていた町屋の遺構群と推定した。

東部ではまず、ⅡSD78とⅡSD79との溝心心間距離は約4mを測り、東西道路SF0003があったと考えられる。南北方向に走る溝ⅡSD75と道路SF0003で囲まれた空間を区画0008とする。区画0008の規模は復元できないが、方形区画と想定され内部に井戸ⅡSE29が存在する。区画施設が区画Ⅲ類よりも脆弱であるため、区画Ⅲ類よりも独立性が低い武家屋敷と推定される。また、60E区では小規模な溝Ⅳ類または溝Ⅵ類があり(Ⅱ



第133図 本町西部地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S = 1 : 2500)



第132図 五条橋地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S = 1 : 2500)



第134図 御園地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S = 1 : 2500)

SD42・ⅡSD44・ⅡSD47・ⅡSD48・ⅡSD49・ⅡSD50等)、頻繁な遺構変遷が想定される。ただしこの部分では特定の区画は検出しにくく、該期の井戸は確認できなかった。

この結果、東部では一辺25m以上の方形区画が、西部では小規模遺構群が展開しており、御園地区は武家屋敷（東部）と不定形の町屋（西部）が混在する地区と評価し直せるのではないだろうか。

#### G 神明町地区（第135図）

この地区では、溝Ⅲ類ⅡSD66・溝Ⅳ類ⅡSD08等が認められるが、その他の遺構は確実に城下町期Ⅰ期から存在していたか不明である。梅本博志は、ⅡSD66やⅡSD08等で囲まれた一辺90m四方の方形区画を想定し、この地区から信仰関連の遺物が比較的多量に出土していることから寺院の存在を推定した<sup>(36)</sup>。

ⅡSD66とⅡSD08で囲まれた方形区画を区画0009とする。梅本博志はⅡSD66とⅡSD08に平行する溝が存在し道路を構成したと推定したが、これが同時期であると認定できるか否かは疑問である。また、梅本はⅡSD66以東のⅡSD16で囲まれている不定形の区画を想定したが、ⅡSD16がこの時期まで遡るか否かについてもやはり疑問が残る。



第135図 神明町地区（城下町期Ⅰ期）  
(S = 1 : 2500)

ここでは区画0009・ⅡSD66とⅡSD68で囲まれた小区画0010を認定したい。ⅡSD66の西肩部には板塀状遺構が倒壊した部材が散乱しており、区画0009は周囲に木造区画施設が建てられていたことが分かる。区画0009の性格は、梅本と同様、出土遺物等から寺院を想定したい。

#### H 遺跡の範囲と「総構え」

ここで『信長公記』<sup>(37)</sup>に記載された「町口大堀」と「惣構」について触れておく。梅本博志はこれらの記載を、幹線道路の南北の「町口」に自然地形に対応する「大堀」が存在し、柵列等による「惣構」が形成され、「城戸」が設けられたと比定した。そして、北の「城戸」を現在の天王社地点、南の「城戸」を現在の清洲東小学校地点に想定した<sup>(38)</sup>。

これまでの発掘調査の結果、城下町期Ⅰ期の遺構の分布に関しては、五条川東岸では90A区から91A区までの旧五条川流路に沿って形成された自然堤防上に展開していることが判明している<sup>(39)</sup>。梅本は、遺構の展開をほぼ南北に広がる形で想定し遺跡の南端を清洲東小学校地点としたが、この説は一部修正が求められよう。南北道路SF0001は、山王社（日吉神社）が城下町期Ⅰ期に現在の位置に存在したものとすれば、南北に延び宮（熱田）迄道として機能していたと考えてよいと思われる。これに対し、本町西部地区に広がる遺構群が流路に沿ってどこまで展開するかは不明であり、その末端部の状況もまた不明である。ここでは旧五条川が再び屈曲して南下する地点まで遺跡が展開していたと考えたい。また、「町口大堀」の推定地はこれまでの成果からは読み取ることができないと言わざるを得ない。

#### I 城下町期Ⅰ期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる（第136図）。

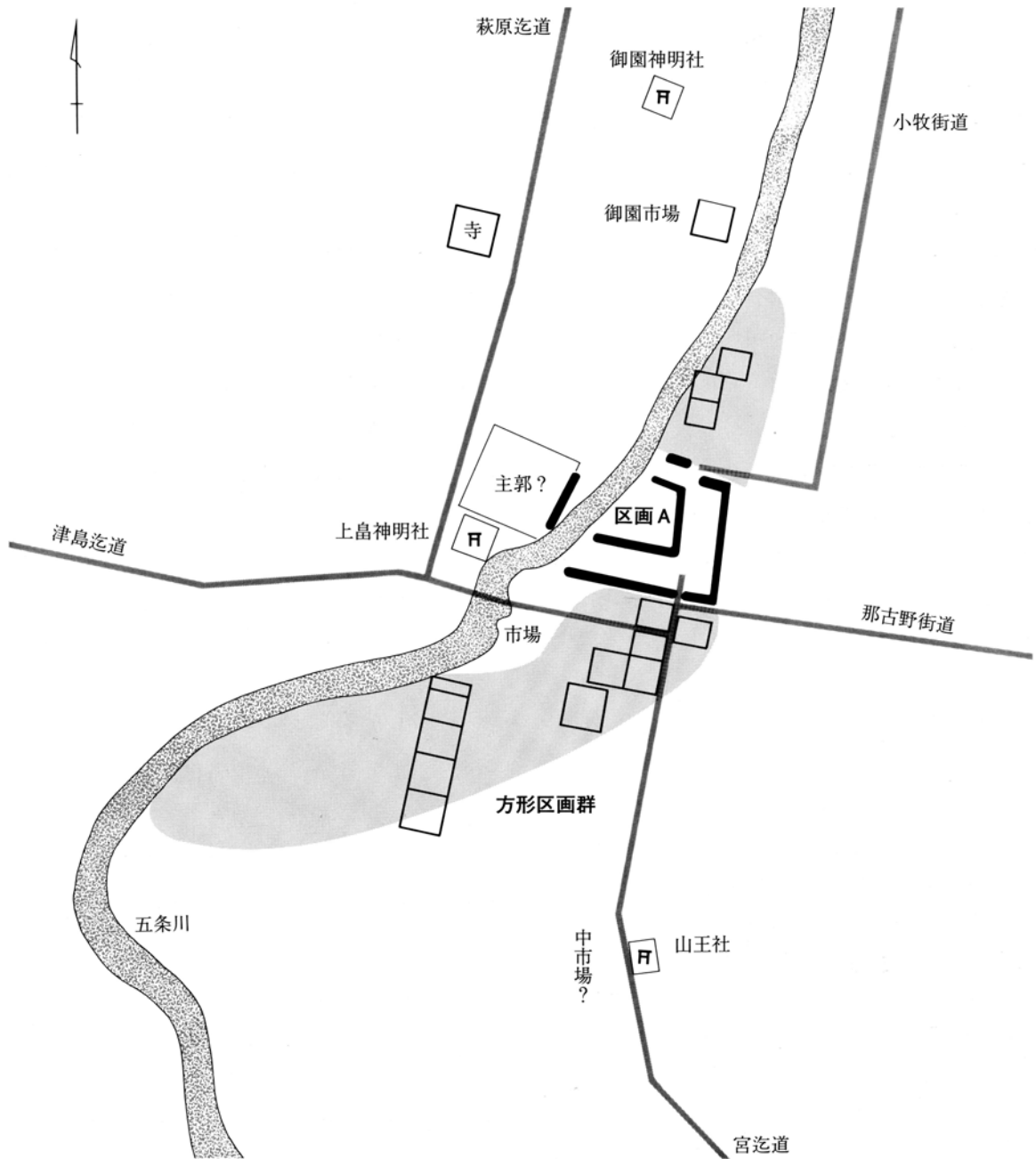
五条川西岸では、本丸地区の状況が不明であるが、土師器皿を多量に含有する溝または川の遺構の存在と城下町期Ⅲ期の本丸推定地であること等

から、主郭の存在を想定したい。主郭の北部には方形区画と不定形居住域が混在しており、武家屋敷と定形化する前の形態の町屋（市）が並立していたと考えられる。また寺院の存在も想定される。

一方、五条川東岸では一辺200mクラスの方形状区画と、一辺45mクラスの方形状区画が展開している。遺構は五条川の自然堤防上に展開し、中心部に居館、居館の北部と南西部に方形状区画の武家屋

敷や寺院、五条川流路の屈曲部に川港が展開している。方形状区画群を貫く南北道路は居館に通じており、居館は南北に出入口が設定されていたであろう。

五条川兩岸とも、主郭・居館（あるいは神社等）を中心とする求心的な遺構展開を示している。遺構展開も規格性が随所で認められ、ある程度の計画的な城下町建設が実施されたと思われる。しか



第136図 城下町期Ⅰ期の清須城下町復元想定図 (S<sub>1</sub> = 1 : 10000)

し、求心的な構造は比較的狭い範囲にしか及んでおらず、個々の武家屋敷についてもその独立性は高いと言わざるを得ない。また、遺構群全体を大きく包括する「総構え」施設は遺構として全く検出されていない状況も併せると、この段階の清須は多元的な構造であったと思われる。

#### 4 城下町期Ⅱ－1期

城下町期Ⅱ－1期は瀬戸美濃窯産陶器編年の大窯第2段階に相当し、1520年頃～1555年頃の期間を指している。この時期の遺構は、本丸地区・田中町北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町西部地区・御園地区・神明町地区で確認されている。遺構配置は基本的には城下町期Ⅰ期と大きく変更しない。一部に遺構の消長や居住域の拡大が見られる。

##### A 本丸地区

城下町期Ⅰ期と同様の遺構配置が想定されるが、該期の遺物の出土量は少ないようである。この段階に、本丸地区は居住空間としての機能が低くな

った可能性や遺構密度が低下した可能性が指摘されよう。ここでは、この地点が主郭としての機能分化をより鮮明に達成されていく途中過程であると評価し、前者の可能性を採用する。

##### B 田中町北部地区 (第137図)

城下町期Ⅰ期とほぼ同様の遺構配置が認められるが、一部で変更点が見られる。区画Aはこの段階も継続して存在していたと思われるが、外郭を囲む溝93D区SD01等は城下町期Ⅰ期には大半が埋積されており、城下町期Ⅱ－1期には比較的浅い落込みとなっている。従って、二重の溝で囲まれた区画Aは、この段階で一重の溝で囲まれた一辺100m前後の区画V類 (大型方形区画) に変化したと考えられる。

90A区と62G区で確認された溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類は、城下町期Ⅰ期と同様に存在していたと思われる。一部で溝や井戸等の掘り直しが認められる。

田中町北部地区は城下町期Ⅰ期と同様、居館として区画A、武家屋敷として区画Ⅲ類が展開して



第137図 田中町北部地区 (城下町Ⅱ期以降)  
(S = 1 : 2500)

いたが、区画Aの規模の縮小化が行われ、該期の遺物出土量も少なくなっている。求心的な勢力の弱体化と居住性の低下が伺える。

C 田中町南部地区（第138図）

城下町期Ⅰ期と同様、溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開するが、消滅していく区画も認められる。I SD112・I SD136は城下町期Ⅱ期の遺物を含まないことから、これらの溝で囲まれた区画0002と区画0007が消滅したと考えられる。道路SF0001・SF0002は城下町期Ⅰ期と同様に機能していたと思われる。

この地区は武家屋敷として機能していたものの、屋敷が展開する範囲は縮小したと思われる。

D 五条橋地区（第139図）

IV NR4001の出土遺物は圧倒的多数の城下町期Ⅰ期のものの他に、城下町期Ⅱ-Ⅰ期のものも含有している。このことから、城下町期Ⅱ-Ⅰ期には旧五条川IV NR4001は徐々に埋積されたと考え

られるが、機能は低下しつつも川港的な性格をまだ残していたと思われる。県道新川清洲線地点西部では、城下町期Ⅰ期段階に旧五条川に隣接した沼沢地であった部分が完全に陸地化している。ただし、追加された空間は、新たに井戸や区画溝が設置されておらず、居住域として利用されていないようである。

E 本町西部地区（第133図）

城下町期Ⅰ期と同様、溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開している。遺構配置は基本的には全く変更点は認められず、武家屋敷と推定できる。

F 御園地区（第140図）

東部では、城下町期Ⅰ期で認められた道路SF0003がこの段階でⅡSD85に切られ廃絶されている。この結果、区画0008は城下町期Ⅱ-Ⅰ期には廃絶もしくは施設の変更が行われたと思われる。なお、ⅡSD85は溝Ⅲ類であることから、田中町南部地区で見られる規模の方形区画が展開していた可能性も指摘できる。一方西部では、小規模の溝群の掘り直しが依然として繰り返されたと思われる。



第138図 田中町南部地区（城下町期Ⅱ期）  
(S = 1 : 2500)



第139図 五条橋地区（城下町期Ⅱ期以降）  
(S = 1 : 2500)

G 神明町地区 (第141図)

城下町期Ⅰ期の溝ⅡSD66は廃絶され、新たに溝ⅡSD62・ⅡSD63・ⅡSD18・ⅡSD19等が存在する。L字状に屈曲するⅡSD18及びⅡSD19は各々区画0012と区画0013を囲んでいたと考えられる。両者の溝で挟まれた狭い空間は道路SF0004と推定できる。区画0012と区画0013は方形区画と思われるが規模は特定できない。溝の規模から判断して区画Ⅲ類の武家屋敷よりも少しランクが低い区画であると想定したい。

ⅡSD18とⅡSD19の南北溝の西側には、井戸が南北に配列している部分があり、更にその奥に溝ⅡSD62が存在する。井戸はⅡSE23～ⅡSE27があり、井戸の設置間隔は北から8.0m、4.5m、5.5m、6.5mを測る。これらの状況から、ⅡSD18・19南北溝に西接する道路SF0005を想定し、SF0005の西に間口が狭く東西方向に細長い区画Ⅰ類(区画0014～区画0018)が配列していたと推定できる。こうした短冊型地割の各屋敷には井戸が設置され、ⅡSD62は屋敷裏手の背割線になるだろう。この結果、城下町期Ⅱ-1期段階から常設店舗の町屋の存在が伺えることとなる。井戸は各屋敷毎に専属の井戸を持っており、共同井戸ではない。

更にⅡSD62の西部には、城下町期Ⅰ期から存在する一辺90m四方の方形区画0009が継続して存在している。寺院と推定されよう。

以上の結果を整理すると、神明町地区では、道路SF0005の東に中クラスの方角区画(武家屋敷)、SF0005の西に短冊型地割の町屋、更に奥に寺院が存在することになる。

H その他の地区

以上7地区以外の地区では、城下町期Ⅱ-1期の良好な遺構群は検出されていない。しかしながら、朝日西地区等の地区では該期の遺物も出土することから、遺跡の範囲拡大の傾向も読み取れるかも知れない。

I 城下町期Ⅱ-1期の清須城下町構造

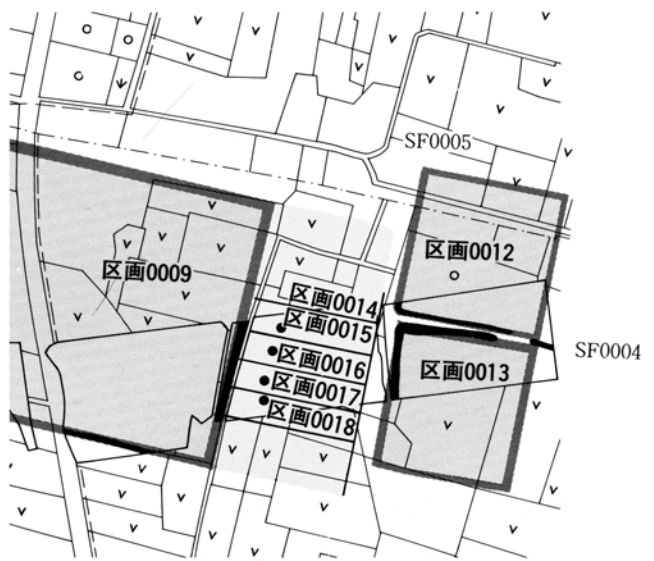
以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第142図)。

五条川西岸では、本丸地区に主郭を想定したいが遺物が僅少である。主郭北部には武家屋敷?、小規模の武家屋敷、短冊型地割の町屋、寺院等が隣接して展開している。

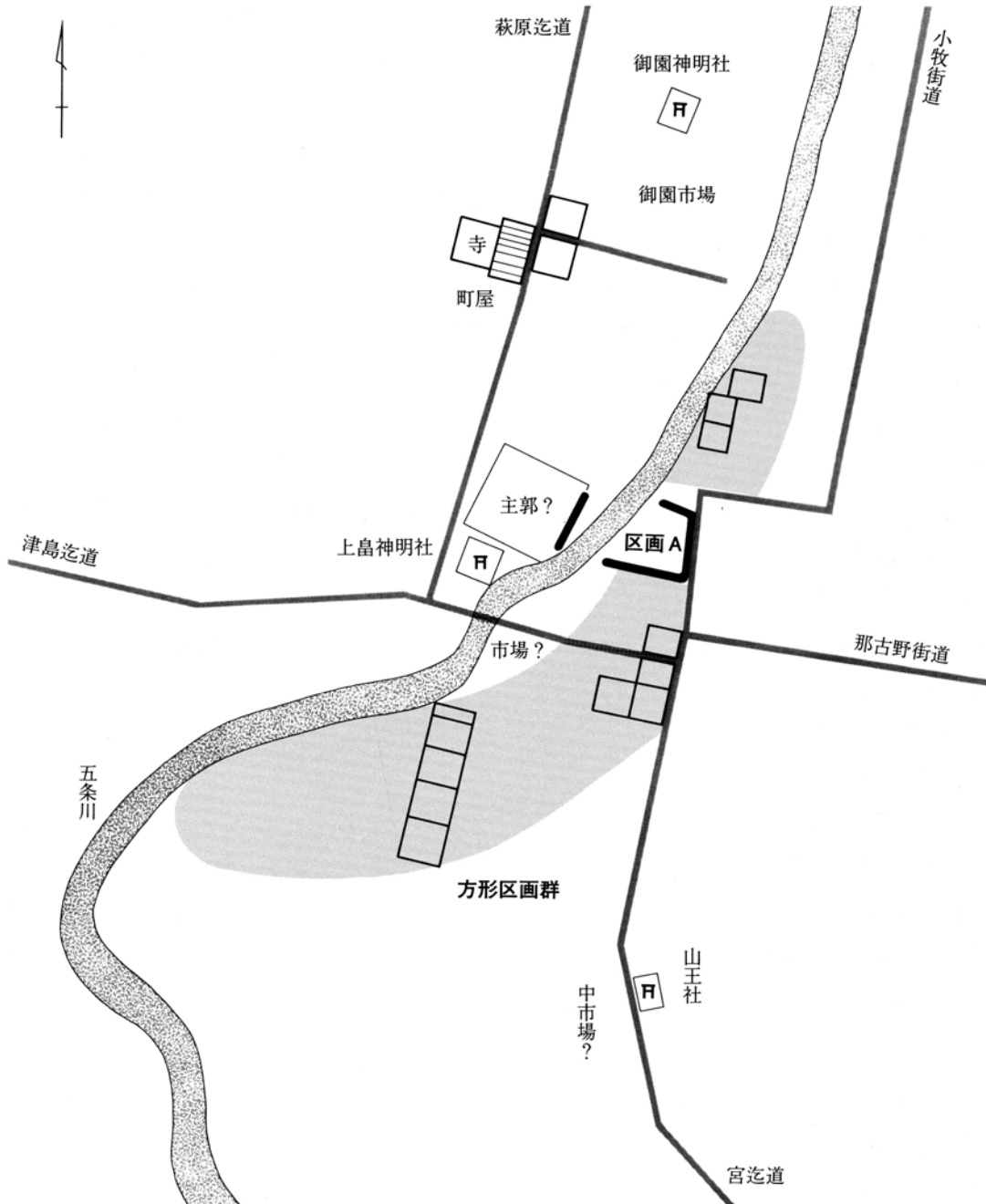
一方、五条川東岸では一辺100mクラスの区画Ⅴ類(居館)、一辺45mクラスの区画Ⅲ類(武家屋敷)が展開するが、規格性は増すものの区画の



第140図 御園地区 (城下町期Ⅱ期)  
(S = 1 : 2500)



第141図 神明町地区 (城下町期Ⅱ期)  
(S = 1 : 2500)



第142図 城下町期Ⅱ-1期の清須城下町復元想定図 (S=1:10000)

数量自体はやや減少している。

城下町期Ⅰ期の遺構配置と同様であるが、小規模の武家屋敷と短冊型地割の町屋の出現に大きな画期が認定できる。ただ、一部の区画が消滅し、遺物の出土量（特に瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階に属する遺物）も減少する傾向が認められ、遺跡の繁栄は一旦頭打ちの状況であったと考えられる。

### 5 城下町期Ⅱ-2期

城下町期Ⅱ-2期は、瀬戸美濃窯産陶器編年の大窯第3段階に相当し、1555年頃～1586年の天正地震・天正大改修までの期間を指している。ただし、この段階の時期区分は細分・再編成の必要が認められ、以下の記述全てが必ずしも同時期に存在した事柄と確定できない事情があることを付記しておく。この時期の遺構は、本丸地区・田中町

北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町西部地区・御園地区・神明町地区・朝日西部地区で確認されている。遺構配置は基本的には城下町期Ⅱ－Ⅰ期と同様であるが、特定地区で大きな改変が実施されている。

A 本丸地区

城下町期Ⅰ期と同様の遺構配置が想定されるが、該期の遺物の出土量は城下町期Ⅱ－Ⅰ期よりも更に少なくなるようである。一方、瓦の分析から城下町期Ⅱ－Ⅱ期を細分できる可能性が指摘されている。

主郭部分の瓦の使用については、土山公仁が岐阜城出土の同範瓦の存在から天正4年（1576）に最古の瓦葺建物が存在すると論じた<sup>(40)</sup>。鈴木とよ江は更にこの論を進め、軒瓦を3期（1期1576～1582、2期1582～1586、3期1586～1613）に区分した<sup>(41)</sup>。また、瓦の使用地点は出土量の分布から本丸地区に限定されると考えられている<sup>(42)</sup>。こうした成果から、本丸地区には1576年頃に瓦葺建物の主郭構造物が建設され、1582年頃には建物の改築または増築が実施された可能性が指摘されるよう。

ただし、こういった分析結果は、これまでの遺構の検出状況から読み取ることができず、遺構配置の細かい時期区分は極めて困難である。

B 田中町北部地区（第137図）

城下町期Ⅱ－Ⅰ期とほぼ同様の遺構配置が認められる。区画Aはこの段階も一重の堀で囲まれた空間として存在していたと思われる。城下町期Ⅰ期では外郭を囲んでいた溝93D区SD01はやはり比較的浅い落込みとなっている。北部の90A区と62G区も溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開している。

居館として区画A、武家屋敷として区画Ⅲ類が展開していたが、区画Ⅲ類内の該期の遺物出土量は少なくなっており、居住性の低下が伺える。

C 田中町南部地区（第138図）

城下町期Ⅱ－Ⅰ期と同様の遺構展開を見せる。溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類（区画0001・区画0003・区画0004・区画0005）の存在が想定される。『清洲城下町遺跡』のⅡ1c期に対応する段階であり、各々の区画内の遺構配置または構造の変化は若干認められる。また道路については、道路SF0001・SF0002が城下町期Ⅰ期から引き継いで機能していたと思われる。

この地区は、整然と配置された武家屋敷として機能していたと思われる。

D 五条橋地区（第139図）

IVNR4001は城下町期Ⅰ期から徐々に埋積されているが、城下町期Ⅱ－Ⅱ期の遺物出土量は非常に少なくなっていることから、城下町期Ⅱ－Ⅱ期にはほとんど調査区範囲内のIVNR4001は埋積されたと思われる。この地区の遺構・遺物はほとんどなく居住域とは考えられない。

E 本町西部地区（第143図）

城下町期Ⅰ期～Ⅱ－Ⅰ期まで存在した溝Ⅲ類が城下町期Ⅱ－Ⅱ期には埋め立てられ、区画Ⅲ類



第143図 本町西部地区（城下町期Ⅱ－Ⅱ期以降）  
（S = 1 : 2500）

(区画6002～区画6006)は廃絶されている。そして井戸・礎石建物・土坑が掘削され、新たな空間構成を創出している。明確な区画施設は検出されなかったが、井戸が南北に一定間隔で配列して確認されたことから、東西方向に細長い地割(短冊型地割)が展開していたと推定できる。既に『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994)で区画6007～区画6025が想定されている。

区画6009～区画6024を推定する根拠として取り上げた井戸の間隔は、北から約4.0m、約5.5m、約4.0m、約7.5m、約5.5m、約12.5m、約15.0m、約7.0m、約8.0m、約15.5m、約5.5m、約5.5m、約8.5m、約6.0m、約20.0m、約13.5mを測る。この結果、井戸の間隔はおよそ5.0m、7.5m、15.0mの3種に区分でき、これがすなわち短冊型地割の間口の規模に対応していると考えられる。従って、区画6009～区画6024の間口は5.0m、7.5m、15.0mの3種類の規模が認められる。また各々の区画の奥行は25m以上と推定される。区画6009～区画6024と区画6007・6008・6025との間には道路状の遺構が存在しないこと、及び区画6009～区画6024の遺構配置が東側に井戸を持ち西側に建物を建てていること等から、区画6009～区画6024と区画6007・6008・6025との間に背割線が存在したと考えられる。なお、区画6025には井戸の配列が確認できないが、調査区外に存在する可能性もあり、区画6025の性格は確定できない。

以上の結果から、この地点では方形区画の武家屋敷が短冊型地割の町屋あるいは下級武家屋敷に改変されていることが判明した。改変に当たっては溝を埋積すると同時に厚さ20cm前後の整地が行われている。調査地点は旧五条川が西へ屈曲する地点に相当し、付近に川港的施設の存在も予想されることから、蔵屋敷的な町屋遺構群であった可能性も考えられる。

#### F 御園地区(第140図)

東部・西部ともに城下町期Ⅱ-1期と同様であ

ったと推測される。一辺45m規模の方形区画が存在した可能性は存在するものの、明確に武家屋敷であったと裏づける状況ではない。

#### G 神明町地区(第141図)

城下町期Ⅱ-1期と同様の遺構配置である。道路SF0005の東に中クラスの方形区画(武家屋敷)、SF0005の西に短冊型地割の町屋、更に奥に方形区画の寺院が存在するといった様相である。区画内の内部構造の変遷は不明である。

#### H 朝日西地区

朝日西地区の城下町期Ⅱ-2期の遺構は、これまでのところほとんど認識されていないのが現状であるが、該期の遺物を主体とする遺構が全くないわけではなく、城下町期Ⅱ-2期の遺構は存在する。

筆者が現在まで確認した城下町期Ⅱ-2期の遺構は西SD42、西SE61、西SE62等である。溝Ⅲ類西SD42は朝日西地区西部を南北方向に走り、この西側が道路であった可能性がある。これ以外の区画施設を抽出できなかったため、区画規模と性格の判定は困難であるが、溝の規模から武家屋敷を囲む溝の一部であったと考えられよう。西SE61、西SE62は朝日西地区中央部にあり、東部から中央部までの範囲に城下町期Ⅱ-2期の遺構群が展開していたと想定できる。

以上の結果から、城下町期Ⅱ-2期には朝日西地区の開発が着手され、おそらく武家屋敷(あるいは寺院)が建設されていたのではないかと考えられる。しかし、未だ本格的な開発は次の段階を待たなくてはならなかったのである。

#### I 城下町期Ⅱ-2期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第144図)。

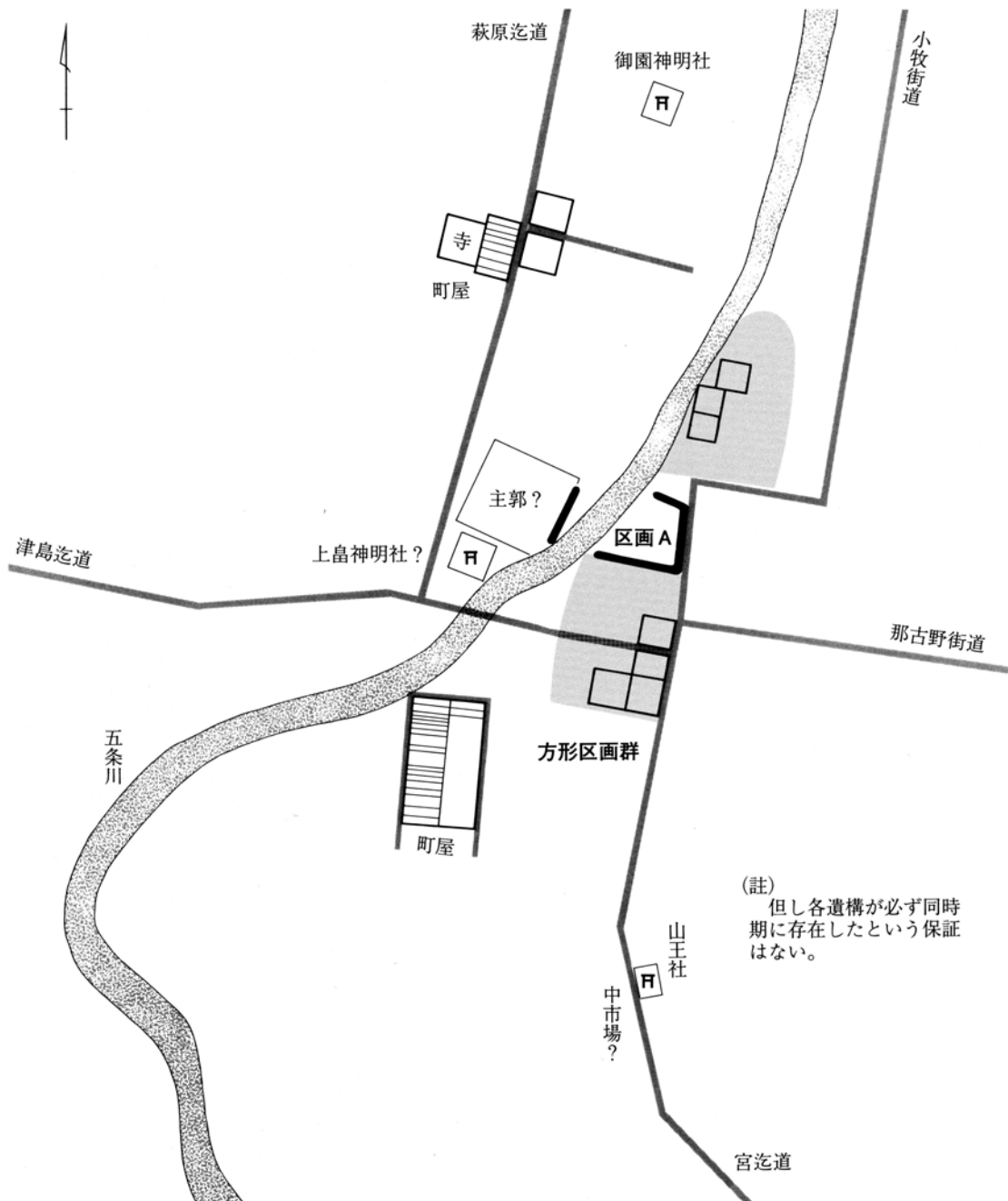
五条川西岸では、城下町期Ⅱ-1期と同様の遺構展開である。恐らく、本丸地区に主郭・北部に武家屋敷・町屋・寺院が混在する地域が広がっていたと思われる。1576年頃には、主郭に瓦葺建物

が登場したと思われる。

五条川東岸では、一辺100m規模の区画V類(居館)、一辺45m規模の区画Ⅲ類(武家屋敷)の他に短冊型地割の町屋が出現する。町屋は一辺45m規模の区画Ⅲ類(武家屋敷)が展開する一部地域を廃絶した後に建設されており、武家屋敷と町屋の配置に関して、城下町構造の大きな改変が実施された。また、朝日西地区で遺跡の拡大も認めら

れた。

この結果、五条川両岸に、主郭(居館)・方形区画の武家屋敷・短冊型地割の町屋が展開する形と成ったことになる。また、一辺45m規模の方形区画の武家屋敷は城下町期I期に比べかなり減少しており、この傾向は次の段階にも引き継がれていった。家臣の独立性がこの段階に弱体化されていった過程も読み取れるのではないだろうか。



第144図 城下町期Ⅱ-2期の清須城下町復元想定図 (S=1:10000)

## 6 城下町期Ⅲ期

城下町期Ⅲ期は、瀬戸美濃窯産陶器の大窯第4～5段階に相当し、天正14年（1586）の天正地震と天正大改修～慶長18年（1613）の名古屋城移転（清須越）までの期間を指している。この時期は更に2時期に細分が可能であるが、ここでは一括して取り扱う。この時期の遺構はほぼ遺跡全域で確認されており、清須城下町の最盛期に相当している。また遺跡全体を包括する総構えの堀が掘削されていた段階でもある。

### A 本丸地区

城下町期Ⅲ期の本丸地区の遺構は、主郭を囲む内堀が3カ所で検出されたのみで、内側の主郭構造は調査事例に乏しく全く不明である。千田嘉博は城下町期Ⅲ期の清須城中枢部の構造復元を、絵図と地籍図等を利用して歴史地理学的に行っている<sup>(43)</sup>。これによれば、主郭+馬出しという曲輪構成をもち、天守閣に多間櫓が合体した複合天守閣、もしくは天守閣に塀囲みの櫓台が付属した姿と復元した。

発掘調査で確認された内堀は、清洲町教育委員会調査の清洲公園トイレ建設地点（伝天主台跡西部）<sup>(44)</sup>、92F区、94A区があり、これらは調査区の範囲内では堀の規模が特定できないほどの巨大な規模を誇っている。特に94A区では、堀の内部からは石垣の基礎構造と多量の瓦が出土しており、<sup>(45)</sup>本格的な瓦葺建物が存在したと考えられる。現地表面で石垣が存在しないのは、清須城廃城段階において徹底的に破壊され、資材を名古屋城に運び去っていったためと考えられる。なお、発掘調査成果による主郭の構造復元は現段階では困難である。

### B 田中町北部地区（第137図）

区画Aは一辺約100m規模の区画として依然として存在していたと考えられる。梅本博志は区画Aについて、遺物の出土量は少なくふれあい広場地点SD01のみが機能していることから、五条川

東岸の「馬出し」として転用されたと理解した<sup>(46)</sup>。千田嘉博も、三方を堀で囲まれる形から馬出しの機能を果たした曲輪の可能性があるとした<sup>(47)</sup>。これに対し筆者は、区画A＝馬出しの機能とする考えに固執せず、これまでの調査で日常生活に関連する遺物が僅少であるものの、城下町期Ⅰ期以来居館として機能してきた空間は、やはり依然として儀礼的な空間として存在していたのではないかと推測したい。

これに対し、北部の90A区・62G区では、溝Ⅲ類が完全に消滅し方形区画は存在しないようである。また、区画Aに東接する地点では、地籍図では短冊型地割が読み取ることができ、町屋が想定されているが、現状では不明である。

### C 田中町南部地区（第145図）

城下町期Ⅱ－2期と同様に溝Ⅲ類が数条存在するものの、区画Ⅲ類の内部は更に細分されており、区画Ⅱ類が展開する空間構成に変化している。



第145図 田中町南部地区（城下町期Ⅲ期）  
(S = 1 : 2500)

溝Ⅲ類は、I SD110・I SD111・I SD118南北溝・I SD128等が残存している。これらに囲まれた区画0001はI SD103・I SD104で構成される道路SF0006、I SD106・I SD107で構成される道路SF0007で各々細区分され区画0001a・区画0001b・区画0001c・区画0001dが存在している。また区画0006では井戸の配置から区画0006a・区画0006b・区画0006cに分かれる可能性がある。これ以外の区画ではこのような事例が検出されなかったが、おそらく同様の遺構変遷があったものと推測できる。

この田中町南部地区では、独自性の強いやや面積の広い方形区画の武家屋敷から、面積にして4～8分の一の面積の屋敷地に変貌している。これらの区画の評価は、佐藤公保は区画溝内に集住する従属性の強い中・小家臣団の居住域と考えた<sup>(48)</sup>。筆者も同様に、下級家臣団が居住した武家屋敷を想定したい。なお、これらの遺構配置の改変に際して、溝Ⅲ類の埋め立てや整地は実施されていないことを付記しておく。

D 五条橋地区 (第139図)

城下町期Ⅲ期も、Ⅱ期と同様であったと考えられるが、詳細は不明である。この地点に関するコメントはこれまでもほとんど見られない。顕著な遺構群が検出されていないことから、南に存在する中堀の内側の空間として広場が存在した可能性を考えたい。

E 本町西部地区 (第143図)

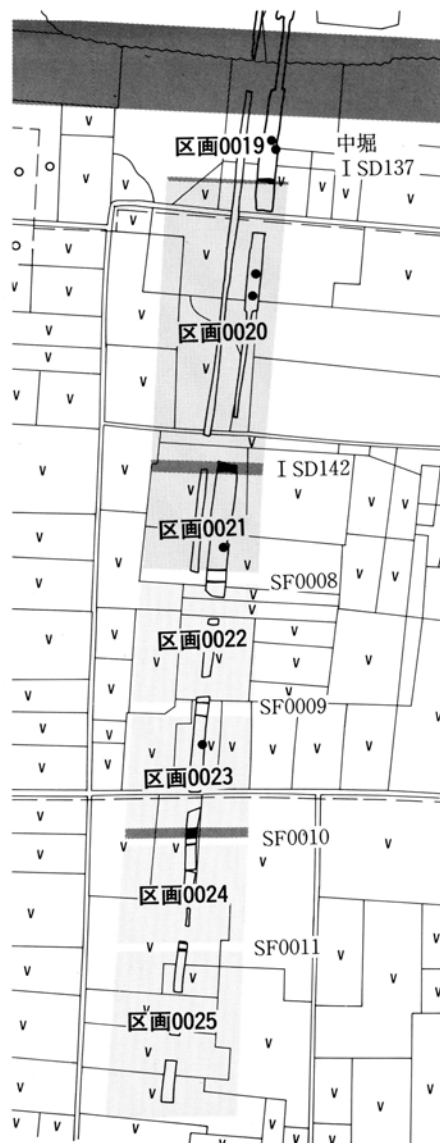
城下町期Ⅱ-2期の遺構群(短冊型地割)は、天正地震(1586年発生)によって倒壊したものと考えられている。これを受け、城下町期Ⅲ期には整地を実施して、前代と同様の屋敷地を再興している。空間構成は城下町期Ⅱ-2期とほとんど変化することなく建て替えられており、一部で屋敷地の統合が行われている。また、この地点の北端部には、中堀ⅣSD6001が新たに掘削されており、隣接する五条橋地区とは完全に隔絶されている。

発掘調査地点は、中堀ⅣSD6001が収束し出入口に相当する地点であり、おそらくこの地点の西側に主要街道が通っていたと推定される。

中堀の掘削により、空間は町屋と(軍事的)広場に明確に区分され、空間組成は計画的な構成となっている。そして主要街道沿いに短冊型地割の町屋が、地震等の様々な障害を越えてなお再建されているのである。

F 本町東部地区 (第146図)

この地区は城下町期Ⅱ期までは、遺構・遺物がほとんど存在しない地区であったが、城下町期Ⅲ



第146図 本町東部地区 (城下町期Ⅲ期)  
(S = 1 : 2500)

期になると遺構・遺物が急増している。遺構は、地区北端部の中堀 I SD137をはじめ、溝Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類・井戸・土坑等である。発掘調査区が狭小であるため、区画規模の正確な把握は困難であるが、『清洲城下町遺跡』によれば寺院、町屋等の性格が想定されている<sup>(49)</sup>。また、佐藤公保は、中堀 I SD137から溝Ⅲ類 I SD142までの空間は区画溝内に集住する中小家臣団の居住域、I SD142以南の空間は南北方向に細長い短冊型地割が展開した空間と考察した<sup>(50)</sup>。千田嘉博は地籍図から南北に長い長方形街区に東西に細長い短冊型地割が並ぶ復元案を提示している<sup>(51)</sup>。

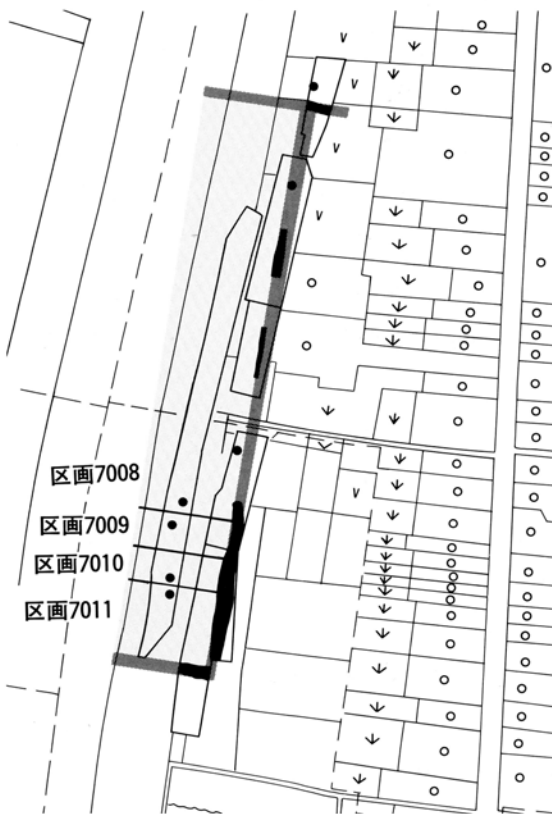
中堀 I SD137から溝Ⅲ類 I SD142までの空間は、I SD140と井戸が存在する。I SD140と I SD142の間隔は約90mを測り、これまで見てきた区画規模に合致する数値となっているが、内部の遺構構成がこの時期の田中町南部地区南半部に類似することから、佐藤と同様、中小家臣団の居住域と推定する。I SD143と I SD144で構成される東西道路SF0008から I SD142までの空間は、約45m四方の方形区画0021が推定され、石仏等が出土していることから寺院と想定する。道路SF0008から南の空間は、I SD148と I SD149で構成される東西道路SF0009、I SD153と I SD154で構成される東西道路SF0010、I SD156と I SD157で構成される東西道路SF0011が、各々約45m間隔で展開しており、規格性の高い長方形区画(区画0022～0025)が存在している。長方形区画の内部構造は、明確な遺構群が検出されていない現状では不明と言わざるを得ないが、ここでは町屋と推定しておく。

#### G 南部地区(第147・148図)

南部地区は、城下町期Ⅱ期までは遺構・遺物はほとんどなく、城下町期Ⅲ期に本格的に機能し始める区域である。遺構は区画溝・井戸・土坑等がある。これらの遺構群は『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994)によれば、東西に細長い短冊型地割が並ぶ部分と、特定の区画が認定されない部分と、最

南部の方形区画が想定されている。また、短冊型地割が成立する段階も城下町期Ⅲ-1期に位置づけられるものと、城下町期Ⅲ-2期に位置づけられるものがある。従って、この地点の開発年代の全てを天正14年の大改修に比定できない。どの城主の年代に当地の開発が行われたかは特定できないが<sup>(52)</sup>、城下町域の拡大は徐々に進行していったものと考えられる。

区画7008～区画7011は、井戸間距離の平均値から間口12m前後を測る東西方向に細長い区画Ⅰ類(短冊型地割)の空間で、IV SD7023は背割線に相当すると考えられる。奥行は30m以上を測るものと思われる。この短冊型地割の成立は城下町期Ⅲ-2期と考えられる。更に南部の調査区では、区画8001～区画8003及び区画8007～区画8010の短冊型地割またはそれと類似する空間が存在する。区画8001～区画8003はIV SD8008とIV SD8010で区分された空間であるが、居住空間として確定でき

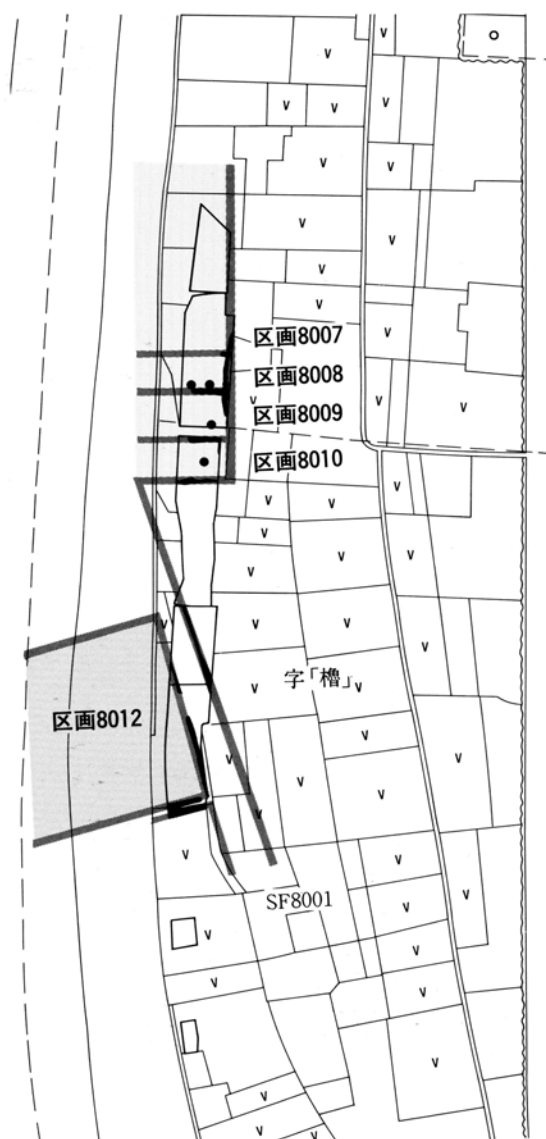


第147図 南部地区(1) (城下町期Ⅲ期)  
(S = 1 : 2500)

るか否かはやや疑問である。成立は城下町期Ⅲ－1期に属する。一方、区画8007～区画8010の短冊型地割は確実に井戸を持つ空間で町屋と推定可能な部分である。東西方向に細長く間口は約12m、奥行は15m以上を測る。区画8007～区画8010の成立は城下町期Ⅲ－2期である。

最南部の空間構成は、南北道路ⅣSF8001とⅣSD8031・ⅣSD8032で囲まれた方形区画8012が存在する。字「槽」の地名が残存していること、及び遺物が極めて少量しか出土しなかったことから、軍事的な施設を考えたい。

H 御園地区 (第149図)



第148図 南部地区(2) (城下町期Ⅲ期)  
(S = 1 : 2500)

城下町期Ⅲ期の御園地区では、巨大な堀が2条掘削され、前代に比べ大きく空間構成が異なっている。

内堀ⅡSD39は南北方向に、中堀ⅡSD52は東西方向に走っており、この2本の堀で囲まれた空間(区画D)が設定されている。千田嘉博は区画Dを北の丸推定地の曲輪からはみ出す曲輪で、中枢部から一步踏み出し北へ橋頭堡の役割をもつものと評価した<sup>(53)</sup>。区画D内には、長方形の土坑(ⅡSK195～ⅡSK202等)が規則的に配列しており、槽状建築物の存在が想定される<sup>(54)</sup>。

ⅡSD52以北の空間は、ⅡSD52に隣接する部分では特に遺構がみられないのに対して、89A区と63R区では、短冊型地割の町屋を推定し得る遺構群が存在している。

御園地区では、城下町期Ⅱ期までの空間構成を完全に否定して、城郭中枢部の一部として取り込まれ、その外側(北側)は新たに居住域を設けている。権力者の意図が強く反映された地区と評価できる。

I 神明町地区 (第149図)

神明町地区の城下町期Ⅲ期の遺構は、規模の大きいやや不定形の溝ⅡNR03・ⅡSD16等があり、面積の大きい空間が創出されている。

ⅡNR03とⅡSD16に挟まれた不定形の空間を区画E、L字に屈曲するⅡSD16で囲まれた空間を区画Fとする。このうち区画Fは名古屋市蓬左文庫所蔵『春日井郡清須村古城絵図』<sup>(55)</sup>に記載された「樹木屋敷」に相当すると考えられる。区画内の構造は詳らかではないが、空間の規模からみて、区画E及び区画Fは武家屋敷であったと評価できる。

短冊型地割の町屋や小規模武家屋敷を廃絶して、比較的大規模な武家屋敷に改変されており、御園地区の遺構変遷と連動した地点と思われる。

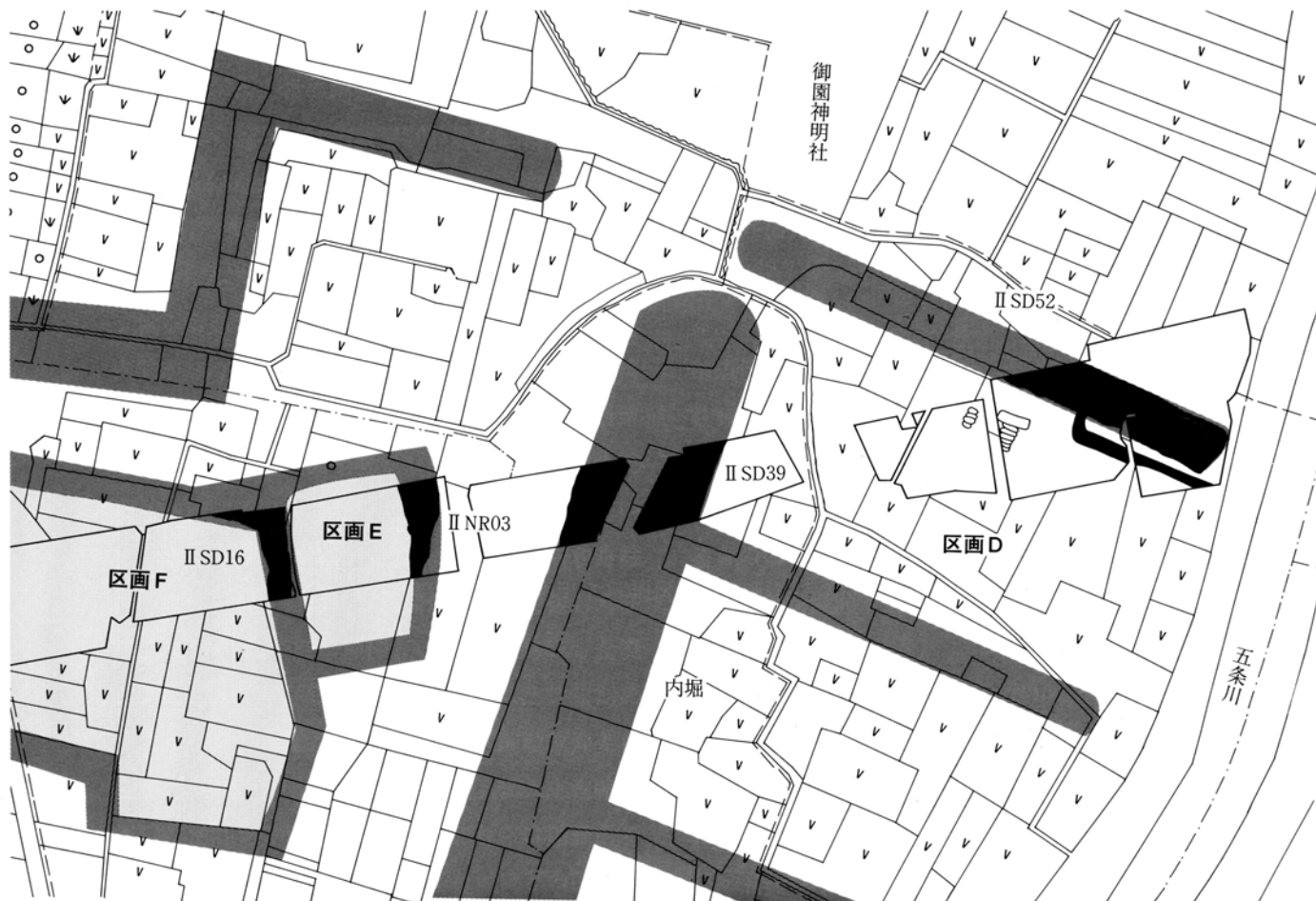
J 朝日西地区 (第150図)

朝日西地区は、城下町期Ⅲ期になると城下町期

II-2期に比べ格段に遺構・遺物が増大している。この地区の遺構配置については、遠藤才文<sup>(56)</sup>と佐藤公保<sup>(57)</sup>が詳細な分析を実施している。佐藤によれば、調査区東端部に清須城外堀西SD222が

あり、外堀沿いに寺社地、主要街道沿いに短冊型地割の町屋が展開し、広場と溝を介して五条川沿いに武家地と町屋が展開すると復元されている。

朝日西地区の城下町期Ⅲ期の遺構は、外堀西



第149図 御園・神明町地区 (城下町期Ⅲ期) (S = 1 : 2500)



第150図 朝日西地区 (城下町期Ⅲ期) (S = 1 : 2500)

SD222を除くと、溝Ⅲ類・溝Ⅳ類・溝Ⅴ類・井戸・土坑等がある。朝日西地区は南北方向に走る溝等で大きく5区に区分できる。西SD24・西SD26等で区画される西側のエリアを朝日西Ⅰ地区とする。西SD24・西SD26等の溝群と、西SD89・西SD93・西SD116・西SD118の溝群で挟まれるエリアを朝日西Ⅱ地区とする。西SD89・西SD93・西SD116・西SD118の溝群と、西SD153・西SD158等の溝群に挟まれたエリアを朝日西Ⅲ地区とする。西SD153・西SD158等の溝群と、西SD177とその延長上ラインに挟まれたエリアを朝日西Ⅳ地区と定義する。更に西SD177とその延長上ライン以東のエリアを朝日西Ⅴ地区とする。

朝日西Ⅰ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東側が区画された空間で、南部に井戸が密集している。細かい規模の屋敷地を想定することは難しく一辺45m前後を測る方形区画0026を想定したい。屋敷の規模から武家屋敷を想定したいが、区画施設の脆弱さ等から有力家臣の屋敷とは考えにくい。

朝日西Ⅱ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東西両側を挟まれた空間である。西SD26と西SD27の溝心間距離は約3mを測ることから道路SF0012が想定され、Ⅰ地区とⅡ地区は道路によって区画されていることになる。Ⅱ地区のやや東寄りの部分に南北一列に配列する井戸群が認められ、これまでの分析と同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。なお、西

SD89・西SD93・西SD116・西SD118等の溝群については、溝心間距離が約1mと狭いことから、道路と考え難く区画溝(背割線)と考えられる。

朝日西Ⅲ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東西両側を挟まれた空間である。西SD153と西SD155の溝心間距離は約3mを測ることから道路SF0013が想定される。Ⅲ地区のやや東寄りに南北一列に配列する井戸群が認められ、Ⅱ地区同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。

朝日西Ⅳ地区は、西を小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類で、東を比較的大規模な溝Ⅲ類で囲まれた地区である。区画中央部に南北一列に配列する井戸群が認められ、Ⅱ地区同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。

朝日西Ⅴ地区には溝Ⅲ類が数条検出されている。西SD177以東で西SD189以南の空間を区画0030、西SD189以北で西SD200以西の空間を区画0029、西SD200で囲まれた空間を区画0032、西SD200以北の空間を区画0031と定義する。これらの区画群は一辺が約45mを測る方形区画で、区画の形状は城下町期Ⅰ期の区画Ⅲ類と類似している。ただし、出土遺物に卒塔婆等宗教的色彩の強い遺物が多い点と清須城の外郭部分に相当する点から、寺院跡と想定できる区画群である。

このように朝日西地区は大きく3つの空間構成が認められる。西端部には規模の小さい溝で囲ま



第151図 廻間地区(城下町期Ⅲ-2期)(S=1:2500)

れた方形区画、中央部には短冊型地割列が3列、東端部には規模の大きい溝による方形区画が各々存在している。このうち中央部の短冊型地割は複数列認められることから、一本街村状の町屋ではなく、長方形街区が計画的に配置された町屋が建設されたものと言えよう。

#### I 廻間地区 (第151図)

廻間地区では東西方向の溝V類と井戸群が検出されている。この地区の構造的復元は佐藤公保によって行われている。佐藤は東西方向の溝を津島迄道に比定し、井戸群が東西に配列することから南北に細長い地割が東西に並ぶ短冊型地割を想定した<sup>(58)</sup>。ここでもこの案をそのまま踏襲する。なお、出土遺物は微量であるが、城下町期Ⅲ-2期に位置づけられる遺構群である。

この地点は清須城外堀よりも外側に位置することから、主要街道(津島迄道)沿いのみ展開した外町としてその性格を考えたい。

#### J 外町地区

外町地区では、性格不明の溝1条が検出されているのみである。従って、遺構の展開状況は明らかにし得ないが、清須城の南部においても廻間地区と同様に外町が展開していた可能性を物語る。

#### K 遺跡の範囲と「総構え」

以上の分析結果から、城下町期Ⅲ期において、清須城下町はその範囲を最大の規模に発展させている。更にこれらの町並みを「総構え」の堀によって囲郭している。「総構え」の堀はこれまで金原宏<sup>(59)</sup>や千田嘉博<sup>(60)</sup>等によって様々な方法で復元が試みられており、おおよその位置は確定されつつある。こうした復元案の堀の位置は、発掘調査でも矛盾することがなくほぼ確定的であるといえよう。但し、「総構え」の設定された時期については、堀出土遺物の評価の仕方等様々な問題があるために、天正14年と断定する段階にはなお至っていないのが現状である<sup>(61)</sup>。

#### L 城下町期Ⅲ期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第152図)。

五条川西岸では、本丸地点に馬出しを持つ主郭の存在が想定され、瓦葺建物が存在している。主郭北部には「樹木屋敷」等に比定される規模の大きい方形区画が想定され、武家屋敷が展開していた。

一方、五条川東岸では区画Aが存在するものの、軍事的または儀礼的施設の一部に格下げとなっている。城下町期Ⅱ-2期に区画I類に変化しなかった残りの一辺45m規模の方形区画は、面積が4分の1程度の小規模方形区画に再編成されている。一方、南部地区や朝日西地区は新たな居住空間として短冊型地割の町屋、方形区画の寺院が建設されており、この傾向は「総構え」外部の街道沿いに外町を形成するまでに至っている。

清須城下町の規模拡大は、城下町期Ⅲ-1期よりも城下町期Ⅲ-2期により一層進展したと考えられる。

## 7 清須城の城郭・城下町構造の変遷

以上、4時期に区分して各時期の清須城下町構造の具体的な様相を検討してきた。こうした構造がどのような背景や歴史的意義をもって変化したのかをこの項で概観する。

### A 城下町期I期

城下町期I期の清須城・城下町は、矩形の堀を巡らせた大規模な館型城郭<sup>(62)</sup>を中心に、周囲には小規模な堀を持つ方形区画が展開している。館型城郭は、機能分化型山城とセットになって関東・中部～四国・北部九州に分布する形式であり、清須城で見られるような大規模な館型城郭+方形区画群で構成される拠点の城郭は他に、尾張国岩倉城<sup>(63)</sup>、美濃国枝広館<sup>(64)</sup>等で確認されている。

城下町期I期の清須で特に問題となる点は、主郭の位置である。五条川西岸部は、城下町期Ⅱ-2期以降に著しく遺構が改変されたと思われ、地



萩原迄道

清洲城下町遺跡V



津島迄道



小牧街道

御園神社  
町屋

寺

樹木屋敷

町屋

本丸

上島神社

区画A

那古野街道

小規模方形区画

五条川

町屋

寺

町屋

山王社

町屋

町屋

槽?

第152図 城下町期Ⅲ期の清須城下町復元想定図

(S = 1 : 10000)

宮迄道

籍図や現地地形による推定は困難であり、発掘調査による成果を待つより他ない。しかし、城下町期Ⅱ－Ⅱ期以降の主郭が西岸部に所在し、かつ城下町期Ⅰ期の遺物が多量に存在することは、主郭またはそれに相当する遺構が西岸部にあったことを想定させる。一方、五条川東岸には二重の堀で囲まれた居館があり、これも主郭にふさわしい存在である。従って、清須城は主郭相当の遺構が五条川を挟んで対峙する形態となっている。

こうした「2つの主郭」の存在はどのように解釈されるだろうか。第一説には、あたかも方形館と山城に機能分化させた<sup>(65)</sup>ように、政治・生活機能と軍事機能を分化させた結果生じたものであるという考えがある。また第二説には、『信長公記』<sup>(66)</sup>に記載されている「北矢蔵」・「南矢蔵」に対応させる考えがある。後者の説に関連して、梅本博志はやや強引であるとしながらも『信長公記』を丹念に読み解いて、

「北矢蔵」＝軍事的色彩の強い守護代織田氏の館  
 「南矢蔵」＝形式的な「守護所」であり、狭義の「清洲の城」とされた斯波氏の「御殿」と推定した<sup>(67)</sup>。梅本は各々を五条川東岸の2つの方形区画に比定したが、五条川両岸に存在する「2つの主郭」に比定する方が妥当と考えられる。すなわち、

「北矢蔵」＝五条川西岸の「主郭」  
 「南矢蔵」＝五条川東岸の「主郭」

である。このように推定すると、城下町期Ⅱ期以降に五条川東岸の「主郭」の規模や機能の縮小することと守護家の衰退が対応する点が興味深い。

次に、五条川東岸にある二重の堀で囲まれた城郭の形態について考察する。浅野弘一は尾張国の織田一族の城館は複郭・二重堀の特徴を持つと論じている<sup>(68)</sup>が、今回の清須の事例もこれに該当する形態と思われる。ただし、内郭と外郭の空間が他の城郭と異なって非常に広く設定されている点が特徴である。おそらくは内郭と外郭の空間に

居住域が設定されており、ここに城主直属の家臣団が居住した可能性が考えられる。

城主直属家臣団以外の一族・有力家臣は城郭周辺に展開する方形区画に屋敷を構えていただろう。方形区画は個別に堀を持つ独立性の高い形態であり、城主には完全に従属していないものと思われる。一方、神社や河原等の無縁の原理が働く場所に市場が存在しており、その形態は常設ではなく仮設的なものであった。従って、市場・町屋の存在は一定の計画性をもつ都市計画の中で設立されたものではないが、結果として、武家屋敷と市場・町屋は立地が異なって存在している。

こうした状況は、前川要のいう武士と商工業者が混在する「織豊系城下町の第一様式」<sup>(69)</sup>のモデルとは一部異なる形態である。むしろ居館を中心に武家屋敷・市町が広がる同心円構造<sup>(70)</sup>を呈していた城下町構造であったと評価できよう。

#### B 城下町期Ⅱ－Ⅰ期

城下町期Ⅱ－Ⅰ期において変化した点は、区画Aの規模縮小と小規模武家屋敷・短冊型地割の町屋の出現である。五条川東岸にある区画Aの外郭が撤去されることにより、内郭と外郭の空間に居住した直属家臣団が城主の庇護から解き放たれ、小規模武家屋敷等に移動した可能性が考えられる。また、区画Ⅲ類の武家屋敷は減少傾向にある。従って、少なくとも五条川東岸においては城主の求心力は低下していることが伺える。

また、五条川流路の微妙な移動に伴い河原に設定された市場は低調となり、一方で街道沿いに短冊型地割の町屋（常設店舗）が出現している。このことから、商職人の定住または城主に取り込まれていったことが伺える。短冊型地割の町屋が、一本街村状に展開したのか、長方形街区を伴っていたのかは現時点では詳らかではない。長方形街区を伴うと仮定すれば、前川要の「織豊系城下町の第二様式」に近似しているが、むしろ街道筋の町屋に隣接して武家屋敷や寺院が存在する形態と

して捉えれば、一乗谷朝倉氏遺跡の構造に類似している<sup>(71)</sup>と評価できる。

### C 城下町期Ⅱ－Ⅱ期

城下町期Ⅱ－Ⅱ期においては、五条川西岸部の主郭構造の発展と区画Ⅲ類の武家屋敷の一部が町屋に変化した点の2点が大きく異なっている点である。

主郭構造の発展は、瓦葺建物・石垣の出現に象徴的に現れており、こうした特徴は織豊系城郭の特徴<sup>(72)</sup>に合致する事例である。また、区画Ⅲ類の武家屋敷が町屋に変化した点は、独立性の強い家臣団が従属化（弱体化）する一方で、商職人の取り込みが進行していった事を物語っている。

問題はこうした現象が、いつ、どのような契機で発生したのかという点である。武家屋敷から町屋への変化した時期は、町屋を創設する際に廃絶された武家屋敷の区画溝の遺物を検討すると、基本的に瀬戸美濃窯産陶器の大窯第3段階の遺物は若干存在するもののほとんど含まないことから、1560年頃と考えられる。一方、主郭構造の発展については、同範瓦の分析による研究<sup>(73)</sup>があるのみである。歴史的契機に着目すれば、織田信雄が尾張国を領有した段階<sup>(74)</sup>や、小牧長久手の戦いの緊張時（天正11・12年）<sup>(75)</sup>に清須城整備の画期が求められる。しかし、依然として城下町期Ⅱ－Ⅱ期の開始年代は、論拠のある詳細な見解はない。

また、本町西部地区の町屋構造がかなり大規模な展開をみせており、かつ城下町期Ⅲ期にまで継続していることから、この遺構展開状況が城下町期Ⅲ期に成立したと思われる「総構え」的な城下町構造を前提としていた可能性が考えられる。つまり、「総構え」的な城下町構造が城下町期Ⅱ－Ⅱ期まで遡る可能性があると言い換えられる。「総構え」の評価の仕方と先に触れた年代は、今後の重要な課題であるといえよう。

この段階の城下町構造は前川要の「織豊系城下町の第三様式」に該当するだろう。いずれにして

も商職人の集住が顕著に認められ、武家屋敷の展開状況が詳細には解らないが、方形区画の減少している状況は確認される。

### D 城下町期Ⅲ期

この段階は「総構え」の創設が画期的な出来事であり、これに伴い清須城下町の範囲は急速に拡大した。Ⅲ期の中での詳細な遺構の拡大・展開状況は論証できないが、周縁部に離れて行くにつれて遺構の展開は時期的に遅れていくようである。

清須城中枢部の構造はこの段階には確実に成立したと見られ、これに伴い五条川西岸部の中小規模武家屋敷や町屋・寺院は廃絶され、規模の大きい武家屋敷等に再編成されている。一方、五条川東岸部は区画Aが形骸化しつつも遺存したが、他の地区では中小家臣団や商職人居住域がある程度地区区分されて展開する状況がより一層進展する。

この段階の城下町構造は前川の「織豊系城下町の第四様式」に該当するが、家臣団全体と商工業者が完全に空間的に分離するとは断定できない。また、「総構え」の範囲内でも湿地状の立地条件を持つエリアでは遺構は空白となっている一方で、街道沿いに外町が形成される部分も存在する。「総構え」構築の結果、遺構配置上武家屋敷と町屋の一元的な把握が達成されたと考えられるが、微細に検討すれば「総構え」内部の構造は様々な条件によって多様な状況を呈していたと思われる。しかしながら、清須城下町域の急速な拡大は、城主の権力の飛躍的な強化を物語っているであろう。

## 8 まとめ

清須城・城下町の段階的発展過程を詳細に検討した結果、2つの館型城郭を核にして広がる独立性の強い家臣団集団が展開する形で成立した清須城は、徐々に商職人を城下に定住させて取り込む傾向で変遷し、城下町期Ⅲ期に飛躍的な発展を達成した。このような遺構の推移は五条川西岸部と東岸部では異なっており、最終的には西岸部の主

郭が強化された形になっている。

本稿は、1994年度末現在までの発掘調査の成果をもとに想定した復元案であり、今後の調査で見解を改める必要が生じる場合もあるであろう。またいくつかの仮定を用いて論を進めており、この仮定が崩れれば見解も異なってくる。この意味で、この復元案は確定的なものではなく、現段階での仮説である。しかし、こうした仮説を随時提示することが遺跡の調査をより高度にし、遺跡の評価を高めていくことにつながるものと考えており、こうした背景をもとにこの稿は成立している。大方のご叱正・ご教示を賜わりたく思う。

(鈴木正貴)

註(1) 林良幹(1943)『清須城懐古録』。

- (2) 中部よし子(1979)「織田信長の城下町経営」『ヒストリア82』。
- (3) 高牧實(1982)「織豊政権と都市」『講座日本の封建都市第1巻』文一総合出版。
- (4) 小島道裕(1984)「戦国期城下町の構造」『日本史研究257』。
- (5) 下村信博(1989)「文献からみた清須城下町の変遷」『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。
- (6) 小林健太郎(1985)『戦国城下町の研究』大明堂。
- (7) 金原宏(1986)「清洲城下町の堀の復元」『年報昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (8) 千田嘉博(1989)「清須城とその城下町—地籍図による復元的考察—」『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。
- (9) 昭和13年作成の「清洲町・新川町土地宝典」と昭和21年米軍撮影の航空写真を各々用いている。
- (10) 明治17年作成の愛知県公文書館所蔵「地籍字分全図」7ヶ村分を用いている。
- (11) 遠藤才文(1985)「遺跡としての清洲城下町」『埋蔵文化財愛知No. 1』。
- (12) 梅本博志(1989)「信長期における清須城下町の様相」『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。
- (13) 佐藤公保(1989)「考古資料からみた16世紀後半の清須城下町」『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。
- (14) II期区分は梅本博志が初めて提示した。梅本博志(1986)「清洲城下町遺跡」『年報昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (15) 鈴木正貴編(1994)『清洲城下町遺跡IV』愛知

県埋蔵文化財センター調査報告書第53集。

- (16) 小澤一弘編(1992)『清洲城下町遺跡II』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。
- (17) 鈴木正貴編(1990)『清洲城下町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。
- (18) 鈴木正貴他編(1994)『清洲城下町遺跡III・外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集。
- (19) 鈴木正貴編(1994)『清洲城下町遺跡IV』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集。
- (20) 梅本博志編(1987)『清洲城下町遺跡I』清洲町教育委員会。
- (21) 高橋信明(1989)「清洲城下町遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報4 昭和62年度』愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (22) 野口哲也(1990)「清洲城下町遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報5 昭和63年度』60—61頁 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター、及び、野口哲也編(1990)『清洲城下町遺跡II』清洲町教育委員会。
- (23) 野口哲也(1990)「清洲城下町遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報5 昭和63年度』64頁 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (24) 野口哲也(1994)「清洲城下町遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報9 平成4年度』愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (25) 小澤一弘編(1992)『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集。
- (26) 赤塚次郎編(1990)『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集。
- (27) 小嶋廣也他編(1994)『清洲城下町遺跡III・外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集。
- (28) ここで設定した地区区分は便宜的なもので、従来の様々な区分とは若干異なっているので注意されたい。
- (29) 遺構復元図の凡例は以下の通りである。
- |          |           |
|----------|-----------|
| ○————宅地  | ▽————畑地   |
| 無印————水田 | ▽————藪    |
| 破線————字界 | 波線————水路  |
| ●————井戸  | 網部————復元部 |
| 黒塗部————溝 |           |
- (30) 上島神明社文書『清洲町史』所収による。
- (31) 前掲註(12)。
- (32) 前掲註(12)。
- (33) 前掲註(12)。

- (34) 前掲註 (8)。
- (35) 前掲註 (12)。
- (36) 前掲註 (12)。
- (37) 奥野高広・岩沢愿彦校注 (1969)『信長公記』角川文庫による。
- (38) 前掲註 (12)。
- (39) 91A・89B区までは安定した自然堤防(シルト層)が展開しており、遺構は城下町期Ⅰ期から存在しているのに対して、89C区以南ではシルト層は薄くなり不安定な地盤となっている。こうした状況から、この地点の遺構は東西方向に展開していたと推測される。
- (40) 土山公仁 (1989)「岐阜城の瓦についてⅠ」『岐阜市歴史博物館研究紀要3』
- (41) 鈴木とよ江 (1992)「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。
- (42) 鈴木正貴 (1993)「清洲城下町遺跡」『第1回織豊期城郭研究会研究集会資料-織豊期城郭の瓦-』。
- (43) 前掲註 (8)。
- (44) 前掲註 (23)。
- (45) 福岡晃彦他 (1995)「清洲城下町遺跡」『年報平成6年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (46) 前掲註 (12)。
- (47) 前掲註 (8)。
- (48) 前掲註 (13)。
- (49) 前掲註 (18)。
- (50) 前掲註 (13)。
- (51) 前掲註 (8)。
- (52) 下村信博によれば、松平忠吉が城主の時代に清須城下町の再整備がなされ、発展が企図されているという。前掲註 (5)。
- (53) 前掲註 (8)。
- (54) 前掲註 (16)。
- (55) カラー図版は『清須-織豊期の城と都市-資料編』(1988)に掲載されている。
- (56) 前掲註 (11)。
- (57) 前掲註 (13)。
- (58) 前掲註 (13)。
- (59) 前掲註 (7)。
- (60) 前掲註 (8)。
- (61) 天正14年説は紀年銘瓦・天正地震痕との関係等が根拠となっている。
- (62) 千田嘉博 (1990)「戦国期城郭・城下町の構造と地域性」『ヒストリア129号』
- (63) 金子健一(1990)「戦国城下町岩倉の復元的考察」『年報平成元年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。
- (64) 内堀信雄(1993)「土岐氏居館推定地の発掘調査」『日本歴史 第541号』。
- (65) 前掲註 (62)。
- (66) 前掲註 (37)。
- (67) 前掲註 (12)。
- (68) 浅野弘一(1989)「尾張における中世城館の研究」『歴史研究第35号』。
- (69) 前川要 (1991)「近世城下町の成立」『都市考古学の研究-中世から近世への展開-』柏書房。
- (70) 小野正敏 (1994)「戦国期の館・屋敷の空間構造とその意識」『信濃 第46巻第3号』。
- (71) 小野正敏 (1981)「越前一乗谷の町割り」と若干の問題」『日本海地域史研究第3輯』。
- (72) 中井均 (1990)「織豊系城郭の画期-礎石建物・瓦・石垣の出現-」『中世城郭研究論集』新人物往来社。
- (73) 前掲註 (40) 及び (41)。
- (74) 織田信雄は天正14年(1586)ごろに伊勢長島城より清須城に移ったが、これ以前の天正10・11年(1582・1583)にも一時清須が居城であった。
- (75) 尾張国の各支城の改修年代が縄張り編年から天正11・12年に集中し、小牧長久手の戦いを契機としたものであるとする見解がある。千田嘉博(1990)「尾張国における織豊期城下町網の構造」『中世城郭研究論集』新人物往来社。
- (補註)  
脱稿後、遠藤才文の論考が刊行された。  
本論は氏の論考を参考にし、また直接御教示をいただいている。記して感謝したい。  
遠藤才文(1995)「あらわれた二つの都市 清須」『中世の風景を読む3 境界と鄙に生きる人々』新人物往来社。

# 第 X 章 総 括

## A 清洲城下町遺跡の調査経過と目的

清須城はその名が歴史の教科書にも登場するほどの著名な城である。そのイメージは戦国武将織田信長の居城であったことが強調され、顕彰されている。その反面、清須城そのものは近世に廃城となり、目立つ形で遺構が残らなかったため、遺跡としての認識は極めて薄弱であった。

名古屋環状二号線建設に伴う発掘調査によって、はじめてその存在が明らかになった清洲城下町遺跡の調査は既に10年を超えている。その間、様々なデータを獲得し、様々な研究が進められた。その成果は清洲町教育委員会と(財)愛知県埋蔵文化財センターによって逐次発表されている。

五条川河川改修に伴う発掘調査は清洲城下町遺跡の中心にトレンチを掘削するように調査区が設定されており、これまでの調査の中で最大の面積を調査したことになる。今後も五条川河川改修に伴う発掘調査の他、いくつかの発掘調査が行われると思われるが、この五条川河川改修に伴う発掘調査の報告が一区切りになる現段階で、発掘調査の概要がほぼ示される形となったといえよう。

こうした位置づけに立ってみれば、『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』は、これまでの調査成果をある程度総括した形で報告されるのが望ましいと思われる。筆者はそういった位置づけで『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』の編集を試みたつもりである。この試みが成功したか否か、あるいは妥当であったか否かは読者の判断に委ねたい。

## B 清洲城下町遺跡の概要

これまで明らかになった清洲城下町遺跡の概要を、以下の10点にまとめて振り返っておきたい。

### ① 遺跡の時期区分

清洲城下町遺跡は、現在の清洲町全域とほぼ一致する広大な遺跡範囲を持っている。また、戦国時代の清須城下町関連以外の時期の遺構・遺物も多数発見されており、その内容は複合的である。これらの成果は、遺跡の中心となる清須城下町（城下町期）の段階を中心に時期区分すれば、大きく城下町期以前・城下町期・城下町期以降と整理できる。従って、各々3期の様相を個別に検討することが、清洲城下町遺跡全体を理解する上で最も容易な方法と思われる。以下の記述もこの時期区分によって行っている。

### ② 城下町期以前の清須

城下町期以前の清洲城下町遺跡は、田中町地区における古墳時代後期から平安時代までの集落や、南部地区における室町時代の遺跡等が確認されている。更に清洲城下町遺跡から範囲を広げてその動向を概観すれば、朝日遺跡において縄文時代の遺構・遺物が発見されていることから、清須周辺では縄文時代から人々の生活した痕跡が残っていたことになる。縄文時代以降は、この地域の代表的な集落遺跡が清須周辺に連綿と展開することとなる。具体的に例示すれば、弥生時代の拠点的な環濠集落である朝日遺跡、古墳時代の廻間遺跡、古代の集落遺跡である清洲城下町遺跡（田中町地区）、中世の中心的な集落遺跡である朝日西遺跡等である。

こうした状況を鑑みれば、戦国時代における清須城下町の都市としての発展は、こうした歴史的な積み重ねの上に成立したものと評価できるのではないだろうか。ある日突然に、清須が出現したわけではなく、その下地となる集落が各時代にわたって存在していたのである。

### ③ 戦国時代の清須城と城下町

戦国時代の清洲城下町遺跡では、まさに清須城下町に関連する遺構・遺物が多数発見されている。1478年頃から1613年頃までの約135年間、清須城下町は本格的な発展をみせていたが、その間には多くの歴史的な変遷を経ている。

これまでのところ、清須城下町の歴史は総構え成立をメルクマールとして大きく前後2時期に区分するのが妥当とされている。本書では分析の過程として3期6小期区分を実施し、各時期の遺跡の概要を検討した。その結果、複雑な発展形態を経ながらもやはり総構え成立が重要な画期として位置づけられることは否定できないと考えられよう。問題は総構え成立（あるいは総構え的遺構群の成立）がいつであったかという点であり、これを解決するためには城下町期Ⅱ-2期の評価が極めて重要な論点となっていると思われる。

### ④ 前期清須城下町

総構え成立以前の清須城下町は、方形の堀を巡らせた屋敷を中心に市町等が展開しており、主郭相当の方形区画を中心とした求心的な遺構配置となっている。その反面、個々の屋敷は堀で囲まれて独立性を保っており、また核となる主郭相当の方形区画は複数認められている。しかも有力寺社の存在も侮れない状況であったと推定される。従って、一辺が100m以上の方形区画を成立させた当地の権力者もその支配は十分なものではなかったに相違ないと思われる。しかしながら、こうした状況は徐々に克服されていったと考えられ、個々の屋敷の独立性は失われ商職人は計画的な町割の中に取り入れられていったのである。

前期清須城下町は後期に比べ、考古学的資料以外の資料に乏しく、復元的な考察は発掘調査の進展と調査成果の読み取り方によって、大きく復元内容が左右される側面が認められる。しかも、前期として認定された時期範囲は約100年間に及び、その時間的変化も重要な課題となっている。

### ⑤ 後期清須城下町

総構え成立以降の清須城は、権力の象徴としての石垣・瓦葺建物が建築された。清須城下町も城域全体が総構えの堀によって囲まれ、城下町全体が権力者によって把握された遺構配置となっている。居住空間も武家屋敷域と町屋域とはある程度区分され、計画的な都市構造であったと推定されるが、総構え以前の地割や自然地形を完全に克服することはなく、都市計画の実現は完全なものではなかったのである。しかしながら、このような広大な敷地を持つ一つの巨大集落（都市）はこれまでの尾張にはおそらく存在しなかったものであり、尾張国における都市の歴史の一大画期であることには変わりがない。これはまた、全国的にみても有数の集落であったと評価されよう。

⑥ 清須越し

清須城は徳川義直の時代に名古屋城への移転が決定され、廃城となった。戦国時代から近世にかけて、主要な城郭が近世化に向けて移転する現象は各地で認められるが、尾張においても例外ではなかった。都市拡大における地形的な制約や、近世都市建設に当たっての中世的な要素からの脱却等が移転の理由にあげられるだろう。いずれにしても、清須城は破却され資材等は名古屋城へ運ばれたとされている。

その一方で、この清須越しによって城郭と城下町の全てが移動したという印象が、遺跡として何も残っていないかのごとき印象にすりかわってしまい、遺跡への認識が遅れたとも考えられよう。しかしながら、現実には清須に残されたもの（遺構・遺物・地名等）は多数あり、これまで検出された遺構の一部は、清須越し以降も継続しているものが存在するのである。

⑦ 清洲宿場町

城下町期以降の清須は、名古屋と大垣を結ぶ美濃街道の宿場町として機能することとなる。清洲宿の主体は五条川西岸にあり、この部分の発掘調査は行われていない。従って、清洲宿の中心的な構造は発掘調査では明らかではない。

一方、五条川東岸ではいくつかの成果が得られ、五条川河道の変遷等から宿場町期を2期4小期に区分できた。但し、この区分は宿場町の縁辺部における時期区分であり、宿場町の構造的な変化による時期区分ではない点、注意を要する。

清洲宿場町の考古学的な研究は、近世考古学の研究以上に、まだ緒についたばかりであるといえよう。しかしながら、近世における主要城郭・城下町以外の遺跡の考古学的調査としては、それなりに重要な位置づけを持っていると思われる。

⑧ 清洲宿場町の発展

五条川東岸では、1794年の五条川瀬替え以前は町屋的な遺構配置は読み取れず農村的な性格が想定される。一方、五条川瀬替え以降は街道沿いに展開する短冊型地割が成立し宿場町の拡大が認められる。こうした街道沿いの発展形態は今日まで引き続いてきた現象であり、現在もその町並みの一部が残存している。調査期間や調査方法の制約上、今回の調査ではできなかったが、遺構と古地図と現況との対比といった課題も今後は設定し得るであろう。

こうした清洲宿場町の遺構群は、近代的な都市計画の中で大きく変貌しようとしている。鉄道や道路の建設に伴い、旧来の地割等を失い、そして景観を姿を変えていく今日の状況に、新たなる画期が見いだされるように思われる。

⑨ 出土遺物の特徴

出土遺物は土器・陶磁器類をはじめ、木製品・金属製品など多種多様なものが大量に存在している。こうした遺物の検討は、個々の遺物の特徴をつかまえる作業のみならず、遺跡における遺物全容の把握のためには、数量的な検討も重要となってくると思われる。

例えば、遺物（陶磁器類）の産地組成を検討すれば、城下町期以前・城下町期・宿場町期とも瀬戸

窯・美濃窯・常滑窯及びその周辺の生産地から運ばれたものが大半を占めていることが分かり、このことが清須（尾張）地域の特徴となっている。具体的に例示すれば、古代においては須恵器の供膳具が圧倒的な占有率を持っていること、戦国時代においては瀬戸美濃窯産陶器が著しく多く中国窯産磁器の割合が異常に少ないこと、江戸時代においては瀬戸・美濃窯産陶器が著しく多く肥前窯産磁器の割合が非常に少ないこと等である。一大窯業生産地を抱えた地域の特徴が顕著に認められると評価できるのである。

#### ⑩ 遺跡の分析方法

以上の様な考古学的な成果の他に、歴史地理学的な分析方法や自然科学的な分析方法等様々な研究方法による検討が行われている。歴史地理学的な分析方法は遺跡の包括的な把握・推定に有効であった。自然科学的な分析方法は多岐にわたる。これまで清洲城下町遺跡では材質同定（樹種・漆・金属滓）・産地推定（胎土）・地形的環境（珪藻・昆虫・地形）・年代測定（年輪年代・地震痕）等が実施された。特に地震痕による年代の検討は、総構え成立前後に関わる重要な年代を決定する材料となっており、今後も注意しなければならない視点である。

こうした学際的な研究は、考古学的な分析を厳密に進めた上で行う姿勢が重要となってくると思われる。

### C 清洲城下町遺跡の今後の課題

以上極めて大ざっぱではあるが、これまでの清洲城下町遺跡の発掘調査の成果とその評価をまとめてみた。しかし、これらの成果は、清洲城下町遺跡が持つデータのほんの一部である。従って、今後の更なる調査の結果によって、その歴史像は十分塗り変えられるものと思われる。ここで、今後の課題として以下の2点について触れておきたい。

#### ①

実は私達は未だ清洲城下町遺跡の持っている内容を十分に把握していないのが現状である。まず、これまで実施された発掘調査の面積は70000㎡を超えたとはいえ、清洲城下町遺跡全体の面積の約2％に過ぎない。しかも、発掘調査は開発にともなう緊急発掘によるもののみで、調査地点に偏りが認められる。また、発掘調査された地点がすべて報告書の刊行に至っていないのが現状である。更に、報告書が刊行された部分の成果についても、限定された成果のみが公表されたものである。

このようにみていくと、本報告書が刊行されたとはいえ、残された課題と残された資料は膨大なものがあることが分かる。今後の更なる分析への努力が必要となっているといえよう。

#### ②

現在の清洲町は、清須城下町・清洲宿場町の各時代を経てきた後、大都市名古屋の近郊として発展している。開発が進展するその一方で、清須城は様々な形で顕彰され、清洲公園は市民の憩いの場となっている。清須城は観光地ともなっており、清須城への関心は高まっている。

これに対し、私達は報告書の刊行の他に、現地説明会や展示会等によって清須城下町の歴史を語るように務めてきた。しかし、私達が行ってきた普及啓蒙活動がこれで十分であるとは言い切れない側面がある。発掘調査で得られた成果を更にもっと有意義に活用する努力をする必要があると思われる。

(鈴木正貴)

## 索引

項目	ページ	項目	ページ
あ 赤塚幹也	185	上絵付	60
赤物	49,119	上島神明社	202
浅野弘一	223	雲母	140
朝日西遺跡	124,199,201,229	え 餌鉢	47
朝日西地区	201,210,212,213,214,218,219,220,221	枝広館	221
アセンブレッジ	184	X線回折	149,150,151,154
油壺	47,93	胞衣	29
洗い場	24	恵比須	110
荒砥	71	遠藤才文	199,219
安南茶碗	72	縁釉皿	188
い E P M A	149,151,152,153,155	お 桜花紋	72
石臼	108	大窯	185,190,201,208,211,215,224
石垣	215,223,229	大皿	46,60,86
石組	7,24,25	汚水溜	24,25
石列	12,14	織田信雄	190,202,224
板草履	107,108	小野正敏	184
板塀状遺構	206	おはじき	110,111
板目	124	御室茶碗	46
板目取り	125,126	沢潟紋	93,105
板物	124,125	折縁皿	188,189
一乗谷朝倉氏遺跡	223	尾呂茶碗	46,51
市場	204,223	尾張	141,143,185,221,223,224,229
一本街村	220,223	尾張守護所	201
井戸	4,16,17,18,24,35,36,38,119,205,206, 208,209,210,213,216,217,218,220	か 外郭	202,208,212,220,223
伊藤嘉章	185	蚊いぶし	47,105
井戸側	4,16,17,18,119	灰釉	46,49,51,55,58,60,66,93,188
稲荷狐	110,111	カウント	44,45,49,50,111
犬	110,141	蛙	110
イヌ	179,180	化学特性	140,141,143
井上喜久男 (井上編年)	185,190	火器	93,101
鋳物	50,150	瓦器	45,60,70,72,93
色漆	124,127	柿渋	126,127
岩倉城	221	角閃石	140
う 植木鉢	46,86	角柱状製品	70
浮き人形	71,110	景正	72
ウシ	179,180	重ね焼き痕	51
内反高台	187	花車紋	51
内禿皿	189	春日井郡清須村古城絵図	6,218
内堀	215,218	肩壺	47
畝状遺構	4,22,23,33,38,41	画期	184,190,191,199,211,224,229
うのふ釉	72	割裂法	119
馬	71,110,111	金具	51,71
馬出し	202,215,221	釜	45,47,60,70,93,184,185,186,187,188, 189,191
梅本博志	199,202,205,206,215,223	鎌倉材木座	177
漆	50,66,72,124,127,231	竈状遺構	4,26,36
漆継	50	甕	33,45,47,51,70,93,101,117
漆塗り構造	124,126,127	亀	110
漆膜面	124,126	唐傘小僧	110

清洲城下町遺跡Ⅴ

項目	ページ	項目	ページ
唐草紋	105	杭列	7
唐子	110	区画	4, 8, 15, 35, 36, 38, 41, 50, 184, 199, 201, 202, 204, 205, 206, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 220, 221, 223, 224
ガラス製品	110	区画施設	15, 35, 36, 38, 41, 201, 205, 206, 213, 220
ガラス継ぎ	50, 117	区画溝	7, 8, 38, 205, 209, 216, 217, 220, 224
唐津窯	189	釘	51, 71, 108
火輪	71	口欠け	50
川港	204, 207, 209, 213	口壺	47
瓦	16, 17, 26, 30, 60, 71, 105, 119, 191, 212, 215	沓茶碗	72, 189
瓦積井戸	16, 17, 119	くど	105
瓦葺建物	212, 213, 215, 221, 223, 229	蔵屋敷	213
寛永通宝	122	曲輪	199, 202, 215, 218
館型城郭	221, 224	け 形式	184, 185, 186, 221
環孔材	125	型式	184, 185, 186, 187, 188, 189
関西系窯	45, 60, 72, 83, 84, 93, 117	珪藻土	126
広東茶碗	46, 55, 60, 72	芥子面	105, 110, 111
顔料	124, 127	下駄	51, 107
き 生漆	126, 127	花瓶	47, 66, 188
菊花紋	72	現五条川堤防	5, 8, 10, 14, 22, 38, 55
器形	44, 45, 185, 188	こ 口縁残存率	44
木地師	127	航空写真	199
器種	44, 45, 50, 51, 55, 60, 72, 93, 105, 117, 125, 184, 185, 186, 187, 189, 191	洪水	6
輝石	140	鉦石	150, 151, 152
煙管	51	広葉樹	125
木曾川	1	香炉	51, 70
北矢蔵	202, 221, 223	小型皿	46
城戸	206	小型壺	47
木取り	124, 125, 126	小型徳利	47, 66, 93
吉祥紋	51	小型鉢	47
紀年銘	190	護岸施設	7, 29
機能分化型山城	221	五期区分	185
基盤層	1	刻印	51, 72
岐阜城	212	刻書	50, 66, 71, 204
旧五条川	6, 175, 204, 206, 209, 213	木口	124
居館	199, 201, 202, 207, 208, 210, 212, 214, 215, 221, 223	焦げ	50
清洲公園	202, 232	腰折皿	46, 188, 189
清須越し	1, 5, 190, 215, 230	腰折鉢	46
清洲宿	1, 5, 93, 117, 230	腰折碗	46, 51, 55, 60
清須城	1, 8, 29, 202, 215, 219, 220, 221, 224, 228, 22	腰鑄茶碗	46, 55, 60
清須城下町	148, 152, 154, 155, 184, 185, 191, 201, 206, 210, 213, 215, 221, 224, 229, 230, 232	五条川	1, 5, 6, 7, 35, 36, 207, 214, 219, 221, 223
清洲町史	6	五条川西岸	206, 210, 213, 221, 223, 224
器類	44, 45, 184, 185, 188, 189	五条川瀬替え	1, 5, 6, 31, 33, 60
金魚	71, 110	五条川東岸	41, 202, 206, 207, 210, 214, 215, 221, 223, 224
金彩	127	五条橋地区	4, 6, 7, 12, 24, 26, 28, 35, 41, 153, 154, 155, 199, 201, 204, 208, 209, 212, 216
銀彩	127	呉須絵	46, 49, 55, 60, 66, 70, 86
金属滓	26, 50, 148, 149	5段階区分	185
金属製品	44, 51, 58, 60, 71, 72, 122	五徳	47, 70
く 喰い違い虎口	202	こね鉢	29, 55, 59, 60, 117

項目	ページ	項目	ページ
コピキB	105	守護所	190,223
五弁花紋	60	守護代	223
小牧長久手の戦い	224	樹種	124,125
虚無僧	110	朱泥	107
五輪塔	71	樹木屋敷	218,221
コンニャク印版	60	珠紋	105
さ 材質	44,55,110,149,184	巡礼橋	6
在地	143,191	城郭	1,218,221,223,230
柵列	4,15,35,38,201,206	城郭プラン	199
笹紋	60	城下町	1,199,207,214,217,221,223,224,230
差歯下駄	51,107	城下町期	1,4,6,12,16,28,41,44,49,51,124,153,155,184,187,188,189,190,191,199,201,202,204,205,206,208,209,210,211,212,213,214,215,216,217,218,219,220,221,223,224,228,229,231
砂鉄	150,151,152,155	商工業者	223,224
佐藤公保	185,199,216,217,219,220	使用痕	44,50
サビ下地	127	城主	202,217,223,224
錆釉	60,188	商職人	223,224,228
皿	29,33,45,46,47,51,55,59,60,72,105,110,111,117,125,184,185,186,187,188,189,190,191,202,206	常設店舗	210,223
猿	110,111	消費地遺跡	184,185
棧瓦	71,105	小碗	46,72
散孔材	125	食生活	180
産地	29,45,50,60,66,71,72,83,84,86,93,105,140,141,143,184	燭台	47
産地材質	44,45,50,184,185	織豊系城郭	223,224
産地組成	50,184,231	織豊系城下町	223,224
山王社	206	織豊政権	199
し 仕上げ砥	55,71	汁次	47,51,93
寺院	201,204,206,207,210,213,217,220,221,223,224	人骨	175,177
シカ	179,180	神社	201,207,223
信楽	45	神像	110
しがらみ	7	信長公記	206,223
獅子頭	66	神明町地区	199,202,206,208,210,212,213,218
自然堤防	206,207	針葉樹	125
自然流路	4	す 水銀朱	127
下地	124,126,127	水滴	70
漆器	124,125,126,127	数量化作業	44,50
漆喰	16,18,119	頭蓋骨	175,176,177
漆喰井戸	16,18	煤	50,70,93
柴本屋	93	錫	127,153,154
杓子	108	鈴	59,105,110,141
朱	50,127	鈴木とよ江	212
錆化鉄塊	150,152	鈴木正貴	185,186
重圈皿	188,189	雀	110,111
獣骨	179,180	硯	71,110,204
十能	70	スタンプ	72,86,93,105
主郭	202,207,208,210,212,213,214,215,221,223,224,229	炭粉下地	126,127
宿場町期	1,4,5,6,7,8,10,11,12,14,15,16,17,18,22,23,24,25,26,28,29,30,31,33,34,35,36,38,41,44,45,49,51,55,58,60,72,111,117,119,122,124,153,155,230	擦石	108
		摺絵	60
		播鉢	46,51,55,59,60,86,184,185,188,189,190
		せ 青花	188,189

清洲城下町遺跡 V

項目	ページ
青磁	49
製鉄	148,149,150,152,153,155
青銅	153,154,155
精錬鍛冶	150
精錬鉄滓	150,151,152,153
製錬鉄滓	150,151,152,153
精錬碗型鉄滓	150,151,152
石黄	127
石材	12,16,24,25,26,29,30,55,71,108,148
石製品	44,51,55,60,71,72,108
石仏	217
瀬戸美濃窯	5,29,45,58,70,83,84,93,184,185,187,188,189,190,191,201,208,211,215,224
瀬戸窯	29,45,51,55,58,59,60,66,70,72,83,86,93,117,231
錢甕	47
背割線	6,210,213,217,220
錢貨	51,71,122
穿孔	46,50,59,66,86
せんじ碗	46,55,60
千田嘉博	199,202,215,217,218,221
そ 惣構	206
総構え	190,206,208,215,221,224,229
草花紋	51,55
双耳壺	70,93
双耳鍋	70,93
礎石柵列	15
礎石建物	4,12,36,213
外型	93
卒塔婆	190,204,220
外堀	219,221
外町	221,224
外町遺跡	199,201
外町地区	201,221
染付	46,49,58,60
た タール	50,55,59
台カンナ	119
太鼓	29,59
大黒	110
台付碗	188
鷹	110,111
竹製品	33
唾壺	93
叩き石	108
叩き締め層	30
建物	4,12,14,15,35,36,41,212,213
田中町地区	4,7,35,199,201,202,204,205,208,209,211,212,215,216,217,229
タマヤ	25
達磨	110
短冊型地割	35,41,153,210,211,213,214,215,216,217,218,219,220,221,223,230

項目	ページ
鍛錬鍛冶	150,153
ち 地籍図	6,41,199,201,202,215,217,221
知多半島	141
竹管	16
チャート	55
着磁度	148,151,152
茶室	110
中国窯	45,184,188,189,231
鑄造	26,154,155
長石	140
長石釉	49,51,72,189
長方形街区	217,220,223
猪口	72
チロリ	66
狎	111
つ 東柱	14
津島迄道	220,221
土山公仁	212
筒形	47,70,72,105
筒形壺	47
筒形鉢	46,51,55,59,60,70,86,93
壺	45,47,51,70,93,105,185
て 手培り	93
堤防	1,6,7,31,38
出入り口	8,12,202,207,216
鉄絵	46,51,72,86
鉄塊	149,150,152,153,155
鉄管	16
鉄鉱石	150,152,155
鉄滓	149,150,151,152,153,155
鉄砲玉	155
鉄釉	46,49,55,59,60
手捻り	71,110,111,141
天守閣	215
天正地震	1,23,190,211,215,216
天神	110,111
天目茶碗	46,51,187,188,189
転用円板	111
と 砥石	51,55,71,108
銅塊	149
道具瓦	105
銅鉱石	154
銅滓	149,153,154,155
灯蓋	46,59,60,72
童子	110,111
同心円構造	223
陶製井戸	16,18,119
陶胎漆器	66
同范瓦	212,224
灯明	50
透明釉	49,60,86
銅緑釉	49

項目	ページ	項目	ページ
道路	6,7,10,35,38,41,204,205,206,207,209,210,212,213,216,217,218,220	箱物	108,125
灯笼	107,110,111	廻間遺跡	199,201,229
土管	70,93,105	廻間地区	201,220,221
土器焼成坑	26	橋	110
土器胎土	140	箸	51
戸車	70,71	土師器	29,33,45,47,51,55,58,59,60,70,71,72,93,105,110,140,184,185,186,188,189,190,191,202,206
土坑	4,14,16,24,25,26,28,29,30,31,33,34,38,41,51,58,204,213,217,218	端反皿	188,189
常滑窯	16,18,33,45,47,49,51,60,70,72,93,117,119,184,188,231	端反碗	46,72
都市	199,223,229,230,232	畑	22
徳利	47,66,93	鉢	45,46,47,51,55,59,60,86,105,117
土瓶	47,93,110,111	鳩	110
鳥居	110	花生	47
な 内郭	202,223	羽付鍋	47,186
内耳鍋	47,70,186,187	刃物	71
中砥	55,71	盤	47,70
中掘	1,6,8,15,29,41,51,216,217,218	半胴甕	29,47,58,59,70
名古屋城	1,215,230	搬入品	143
名古屋城三の丸遺跡	45,111,140,141,189	ひ 火容	185
鍋	45,47,55,70,93,110,111,184,185,186,187,188,189,191	火打ち石	55,108
鉛塊	149,155	日吉神社	204,206
鉛ガラス	50	非円形皿	46
波銭	122	挽き物	124,125
橋崎彰一	185	柄杓	47,108
軟質陶器	105,110	肥前窯	45,51,55,60,72,83,93,117,231
南部地区	4,22,23,35,153,201,217,221	備前窯	45,66,189
に にかわ	126	砥素	154
西尾城遺跡	141	ビット	4,34
二重の掘	202,221,223	火鉢	47,70,71
鶏	110,111	乗燭	47
人形	71,105,110,111,140,141,143	平瓦	26,71,105,119
ね 猫	110,111	平鉢	46,51,70,188
粘土	25,29,31,33,86,107,108,110,126,140,141,143,148,150	平碗	46,55,60,188
の 農村	41,230	非ロクロ成形	185,186,188,189,190,191
濃尾地震	1,5,12,14	鬘盥	46,51
濃尾平野	1,6	ふ 複郭	223
軒棧瓦	71,105	福助	110
軒丸瓦	105	武家屋敷	45,201,202,204,205,206,207,208,209,210,211,212,213,214,216,218,220,221,223,224,229
鋸	119	藤澤良祐 (藤澤編年)	51,55,59,60,86,185,188,190
は 灰落し	47,51	蓋	47,51,60,83,84,93,110,111,117,125,185
梅花紋	55,58,72	二ッ杖	93
廃棄土坑	29,35,38,41,60,72	仏具	71
梅樹紋	60,86	復興織部	72
袴腰形香炉	188	仏飯器	46
白磁	49,60,188	古渡城遺跡	141
白土	60,86	文久永宝	122
刷毛目碗	55,60	噴砂	5,12,14,23
箱形湯呑	46,60,72	へ 瓶	45,47,51,66,71,93,105,117

清洲城下町遺跡V

項目	ページ	項目	ページ
紅皿	50	麦藁手	60
ベンガラ	127	無構造物井戸	16,17,18
編年	5,184,185,188,190,191,201,208,211	無高台皿	46,55,59,60,72
ほ 防空壕	34	向付	47,51,189
方形石組遺構	4,24,38	無釉	49,66,93,188
方形区画	201,202,204,205,206,207,208,209, 210,213,214,215,216,217,218,220,221, .223,224,229	め 雌型	110,111
焙烙鍋	47,55,59,70,93,187	面	71,110
墨書	50,71,105,107,108,111,117,119	面型	110
掘立柱柵列	15	も 木製構造物	25
掘立柱建物	4,12,14,38,41	木製品	17,33,51,55,58,60,72,108,184,230
布袋	110	木胎漆器	51,72,108
堀	201,212,215,218,221,223,229	盛土	1,6,22,23,31
本町地区	4,7,8,14,15,22,24,31,38,41,111,153, 154,199,201,204,205,206,208,209, 212,216,224	や 焼塩壺	47
本丸地区	4,7,35,199,201,202,206,208,210,211, 212,213,215	焼継	50,117
ま 前川要	223,224	槽	215,218
間口	35,36,210,213,217,218	屋号	117
曲物	51,108,125	屋敷	4,16,35,38,41,199,201,205,209,210, 216,220,223,229
証目	124	屋敷境	7,8,15
証目取り	125,126	柳茶碗	46,55,60,72
間仕切り	12	山田	93
櫛状配石遺構	12	ゆ 結桶	16,17,18,108,119,185
町口大堀	206	結桶井戸	16,17
町屋	35,153,155,201,205,206,207,210,211, 213,214,215,216,217,218,219,220, 221,223,224,229	湧水層	4,16
磨滅	50,108	釉薬	44,45,47,49,185
真焼	49	行平	47
丸瓦	105,190	よ 様式	184
丸皿	46,51,55,60,72,86,189	横木地	125,126
丸鉢	46,51,55,60,86	横櫓	51,108
丸碗	46,51,55,58,60,72,188	吉田城遺跡	141
み 三河	141,143	鎧茶碗	46,60
神奥	110,111	り 利休	71
溝	4,7,8,10,11,14,22,23,26,35,36,38, 41,55,201,202,204,205,206,208,209, 210,212,213,215,216,217,218,219, 220,221	稜皿	189
御園神明社	205	輪花皿	55,60
御園地区	6,7,35,199,202,205,206,208,209,212, 213,218	れ 歴史地理学	199,215,231
南矢蔵	222,223	レンガ	29
ミニチュア	29,59,71,105,110,111	連菌下駄	51,107
美濃街道	6,8,12,14,35,36,41,230	ろ 楼閣山水文	46
美濃窯	29,45,51,55,58,59,60,66,70,72,83, 86,93,117	ロクロ成形	59,185,186,188,189,190,191
宮迄道	206	炉材	148
む 無縁の場	204	わ 輪高台	187
		割高台皿	188
		碗	45,46,55,71,105,110,111,117,125, 127,184,187,188,189,190
		椀	51,55,58,60,72,185

# 1 遺構一覧表

この一覧表は、本書掲載の遺構図に収録された遺構の全てを、地区ごとにまとめたものである。従って、明らかに城下町期以前に属する遺構についてはこの表中から省略している。

## 凡 例

- 遺構番号は、本書掲載遺構図の番号である。地区ごとに通番を付けている。  
遺構記号は以下の通りである。
 

NR	——	自然流路	SD	——	溝
P	——	ピット	SE	——	井戸
SA	——	柵列	SK	——	土坑
SB	——	建物	SX	——	その他の遺構
- グリッドは平面直角座標Ⅶ系によって100mグリッドと5mグリッドを設定した。  
グリッドの名称は上2桁が100m、下2桁が5mグリッドを示している。
  - 桁目のローマ数字——100mグリッドの南北方向の位置
  - 桁目の大文字アルファベット——100mグリッドの東西方向の位置
  - 桁目の算用数字——5mグリッドの南北方向の位置
  - 桁目の小文字アルファベット——5mグリッドの東西方向の位置
- 長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をm単位で計測したものである。  
従って、本来の遺構の規模ではない。  
数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。  
また、「\*」はセクション図等の補助図面を参考にして算定した数値である。
- 時期は出土遺物の検討から古代・中世・城下町期・宿場町期に区分した。  
また、宿場町期は更にⅡ期4段階に細区分した。表記は以下の通りである。
 

宿Ⅰ	——	宿場町期Ⅰ期
宿Ⅰ-1	——	宿場町期Ⅰ-1期 (17世紀末～18世紀前半)
宿Ⅰ-2	——	宿場町期Ⅰ-2期 (18世紀後半～1794)
宿Ⅱ	——	宿場町期Ⅱ期
宿Ⅱ-1	——	宿場町期Ⅱ-1期 (18世紀末～19世紀前葉)
宿Ⅱ-2	——	宿場町期Ⅱ-2期 (19世紀中葉)
- 調査区・旧遺構番号は発掘調査当時(年報記載)の番号である。  
旧遺構番号の欠番は、出土遺物が無い等の理由から調査時点で番号を付けなかったものである。

## 本丸地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SD2005	ⅡH7-8i, 8-10h, 9-10g	残8.75	残0.83	残+0.84	宿	62N	SD001
SD2006	ⅡH4-5k, 5-6j, 6i	残7.05	残1.28	残+0.76	宿	62N	SD002

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SD2007	ⅡH4-5k, 5-7j, 6-8i, 8-10h, 9-10g	残17.53	残1.15	残+1.00	宿	62N	SD003

## 田中町地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SD3020	ⅡI8-9h	残2.05	0.64	+0.37	宿	63A	SD002
SD3022	ⅡI8-10h, 9-10g	残11.27	1.70	+0.86	宿	63A	SD001
SD3023	ⅡI8i, 8-10h, 9-10g	残12.17	4.58	+0.88	宿	63A	SD003

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK3053	ⅡI9h	残1.79	残0.68	残+0.69	宿	63A	SK002
SK3054	ⅡI9-10h	残1.65	残0.80	残+0.72	宿	63A	SK001

五条橋地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
P4017	IVG15cd	0.39	0.39	0.10	宿	61A	SK129
P4018	IVG16b	0.31	0.22	0.13	宿?	61A	P030
P4026	IVG18a	0.22	0.20	0.09	宿?	61A	P034
P4061	IVF14r	0.19	0.15	0.06	宿	93A	P141
P4069	IVF15r	0.33	0.29	0.07	宿?	93A	P327
P4071	IVF15s	0.29	0.22	0.04	宿?	93A	P312
P4072	IVF15s	0.25	0.21	0.07	宿?	93A	P336
P4073	IVF15s	0.26	0.19	0.08	宿?	93A	P335
P4074	IVF15s	0.36	0.35	0.34	宿?	93A	P104
P4075	IVF15s	0.37	0.28	0.33	宿?	93A	P105
P4076	IVF15s	0.39	0.36	?	宿?	93A	P349
P4083	IVF15t	0.28	0.23	0.11	宿	93A	P060
P4131	IVF17r	0.19	0.17	0.26	宿	93A	P144
P4144	IVF18r	0.28	0.17	0.17	宿	93A	P167
P4155	VF2m	残0.36	残0.17	?	宿?	92C	P020b
SB4001	IVF19l, 20l, VF11m	8.48	残7.45		宿II	92C	—
SB4002	IVF20m, VF1-2m	9.38	残4.21		宿II	92C	—
SB4003	IVF20n, VF1m	9.03	残1.91		宿II	92C	—
SB4004	IVF3-4p	1.93	残1.60		宿II	92D	—
SB4005	VF3o, 4-5op	8.36	6.03		宿II	92D	—
SD4001	IVG7jk, 7-8i	残11.30	残1.06	0.56	宿II	63B	SD002
SD4002	IVG7k, 7-8ij, 8h	残13.78	0.69	0.44	宿II	63B	SD004
SD4003	IVG8j, 8-9i, 9gh	残19.48	0.63	+0.53	宿II	63B	SD005
SD4004	IVG8j, 8-9i, 9h	残11.28	1.63	0.47	宿II-1	63B	SD003
SD4005	IVG9i	? 残+1.36	残+0.78		宿	63B	SD007
SD4008	IVG12def	残7.24	0.75	0.27	宿II	61A	SD001
SD4010	IVG12-13e	残5.77	0.48	0.29	宿II-2	61A	SD003
SD4011	IVG13-14e, 13-16d	残11.63	残2.24	0.86	宿II-2	61A	SD007
SD4012	IVG14b, 14-15c	残5.63	0.51	0.28	宿II	61A	SD008
SD4013	IVG14c	残1.44	0.30	残0.24	宿?	61A	SD004
SD4014	IVG16-17c	残4.63	0.61	0.29	宿	61A	SD005
SD4016	IVF19m, 20m	8.36	1.61	0.58	宿II	92C	SD001
SD4020	VF2p	残2.66	0.35	?	宿?	90B	SD003
SD4026	VF16-18efgh, 17-19i, 17j, 19h	残21.20	10.64	+1.95	宿I-1	63C	SD001, 007
SD4027	VF16-17h, 17i	4.77	1.23	+1.10	宿I	63C	SD015
SD4028	VF17ij	残7.00	残2.04	+0.89	宿I	63C	SD010
SD4043	VF18de	残6.21	0.33	0.26	宿II	63C	SD004
SD4044	VF19efg	残6.03	1.13	0.44	宿II	63C	SD003
SD4045	VF19hi	残4.83	0.40	0.05	宿II	63C	SD006
SE4002	IVG11-12fg	2.46	2.22		宿II-2	61A	SE001
SE4004	IVG17c	残2.85	残1.37		宿II-2	61A	SE004
SE4005	IVG17c	残2.07	残1.00		宿	61A	SE007
SE4006	VF2st	残+3.85	残2.07		宿	92E	SK020
SE4007	IVF14o	残1.54	残1.38		宿II-2	93A	SE013
SE4008	IVF14-15pq	2.38	2.02		宿II-2	93A	SE005
SE4011	IVF14r, 15qr	3.28	残2.82		宿II-2	93A	SE008
SE4012	IVF15op	1.98	1.88		宿II-2~	93A	SE007
SE4013	IVF15p	2.24	2.02		宿II-2	93A	SE006
SE4014	IVF15pq	3.46	残3.10		宿II-2	93A	SE003
SE4015	IVF15r	1.98	1.80		宿II-2~	93A	SE002
SE4016	IVF20l, VF11	1.84	残1.60		宿II	92C	SE004
SE4017	IVF20m, VF1m	1.78	残0.98		宿II-2	92C	SE006
SE4020	VF11m	2.08	2.08		宿II-2	92C	SE005
SE4021	VF1n	1.55	1.50		宿II-2	90B	SE001
SE4022	VF1no	残2.53	残2.34		宿	90B	SE003
SE4023	VF1o	1.74	1.44		宿	90B	SK014
SE4024	VF1o	2.27	2.08		宿	90B	SE004
SE4026	VF1p	2.29	1.81		宿II	90B	SK005
SE4027	VF1p, 2op	2.39	1.94		宿	90B	SE006
SE4028	VF1-2p	残3.16	残2.97		宿	90B	SK035
SE4030	VF2op	+2.03	1.71		宿II-2	90B	SE005
SE4031	VF3n	2.34	2.00		宿II	92D	SE001
SE4032	VF4m	残3.27	残3.35		宿II-2	92D	SE003
SE4033	VF4n	残1.87	残1.68		宿II	92D	SE002

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SE4035	VF5l	2.18	2.04		宿II	62C	SE001
SE4038	VF5-6m	(5.32)	(4.27)		宿I	62C	SE013
SE4040	VF6l, 6-7m	3.90	3.28		宿II	62C	SE004
SE4041	VF6m	(5.32)	(4.27)		宿I	62C	SE014
SE4042	VF6no	残4.00	残2.64		宿	62C	SE012
SE4043	VF6-7o	残3.54	残2.04		宿II	62C	SE003
SE4044	VF7lm	2.38	2.02		宿I-2	62C	SE006
SE4045	VF7m	残3.34	残2.14		宿II-2	62C	SE011
SE4046	VF7m	残2.67	2.19		宿II-2	62C	SE010
SE4047	VF7-8n, 8o	3.82	3.12		宿	62C	SE015
SE4048	VF8l	1.97	1.69		宿?	62C	SE016
SE4049	VF8-9m, 8n	残2.53	残1.53		宿II-2	62C	SE018
SE4050	VF8-9m	3.53	3.41		宿II	62C	SE009
SE4051	VF8-9n	残1.99	1.88		宿I-2	62C	SE005
SE4052	VF8-9o	3.52	残3.07		宿	62C	SE007
SE4053	VF8o	残1.74	残1.66	0.48	宿II-2	62C	SK003
SE4056	VF9m	2.06	1.99		宿II	62C	SE008
SE4057	VF9-10m	残4.09	残2.18		宿	62C	SE019
SE4059	VF10-11k	3.49	3.26		宿	90C	SE003
SE4060	VF10l	残4.26	残3.73		宿	90C	SE005
SE4061	VF10-11m	3.19	残2.45		宿	90C	SE004
SE4062	VF12kl	1.63	1.40		宿	90C	SE002
SE4063	VF13-14hi	2.35	2.03		宿	90C	SE009
SE4064	VF13j	2.04	1.93		宿	90C	SE006
SE4065	VF14-15j	残2.56	残2.21		宿	90C	SE007
SE4069	VF16i	残3.61	残1.76		宿II-2	63C	SE009
SE4070	VF16i	残2.30	残0.83		宿II-2~明治	63C	SE007
SE4072	VF16-17j	2.01	1.79		宿II-2~現代	63C	SE002
SE4073	VF17-18ij	3.17	2.81		宿II-2	63C	SE003
SE4074	VF18ij	残+3.27	残+2.00		宿	63C	SE010
SE4075	VF18ij	残0.90	残0.78		宿II-2~明治	63C	SE006
SE4076	VF19h	2.06	1.87		宿II-2~現代	63C	SE005
SE4077	VF19i	残3.03	残2.12		宿II-2~明治	63C	SE004
SE4096	IVG17b	1.97	1.77		宿II-2	61A	SE002
SE4097	IVG17bc	2.20	2.12		宿II-2	61A	SE003
SK4010	IVG9g	残1.47	残1.05	?	宿?	63B	SK009
SK4012	IVG9gh	残2.15	残0.61	残0.07	宿?	63B	SK008
SK4016	IVG9hi	残2.34	残1.15	残0.31	宿?	63B	—
SK4018	IVG9i	残1.34	残1.12	残0.37	宿?	63B	—
SK4036	IVG11f	残0.60	0.53	0.24	宿II	61A	SK009a
SK4038	IVG11f	0.98	0.72	0.25	宿II	61A	SK010
SK4043	IVG11f	1.08	0.48	0.28	宿II	61A	SK024a
SK4061	IVG12-13e	1.29	残0.77	0.21	宿II	61A	SK009b
SK4071	IVG12fg	1.04	0.93	0.12?	宿?	61A	SK040
SK4074	IVG13d	0.49	0.43	0.26	宿?	61A	—
SK4075	IVG13d	残1.04	残0.37	残0.44?	宿	61A	SK265
SK4084	IVG13e	1.01	0.77	0.23	宿	61A	SK085
SK4094	IVG13-14ef	残3.51	残1.50	残0.57	宿	61A	SK253
SK4096	IVG14bc	残1.12	残1.08	残0.44	宿	61A	SK256
SK4097	IVG14c	0.97	0.78	0.83?	宿I-2	61A	SK114
SK4098	IVG14c	0.77	0.69	0.28	宿	61A	SK260
SK4101	IVG14c	1.45	0.52	0.34	宿II	61A	SK112
SK4103	IVG14cd	3.05	残1.59	残0.27?	宿	61A	SK269
SK4105	IVG14d	残0.74	残0.42	残0.19	宿II	61A	SK094
SK4108	IVG14d	残0.81	残0.46	残0.43	宿	61A	SK259
SK4110	IVG14d	1.18	0.66	0.67	宿?	61A	SK262
SK4111	IVG14d	残1.36	残1.06	残0.48	宿II-2	61A	SK266
SK4112	IVG14de	1.43	0.93	0.19	宿?	61A	—
SK4113	IVG14e	推0.58	推0.45	残0.34	宿?	61A	SK273
SK4116	IVG14e	残1.38	残0.81	残0.31	宿	61A	SK101
SK4117	IVG15b	残1.13	残0.36	残0.31	宿II-2	61A	SK150
SK4118	IVG15bc	残1.96	残1.47	残0.29	宿II-2	61A	SK033
SK4119	IVG15bc	残1.18	0.87	0.16	宿II-2	61A	SK018
SK4120	IVG15bc	残5.60	残2.12	残0.68	宿	61A	SK270
SK4121	IVG15-16b	残2.17	残2.00	0.62	宿I-2	61A	SK261

付表1 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK4122	IVG15-16b	残0.77	0.77	残0.22	宿II-2~明治	61A	SK176
SK4126	IVG15cd	1.84	残0.67	0.41	宿II-2	61A	SK241a
SK4127	IVG15-16c	残1.59	残0.55	残0.42	宿	61A	SK133a
SK4128	IVG15-17c, 16d	残6.33	残1.96	残0.78	宿II-2	61A	SK002
SK4133	IVG16b	残1.00	残0.59	残0.29	宿II	61A	SK028
SK4135	IVG16b	残0.65	残0.28	残0.06	宿	61A	SK198
SK4138	IVG16-17b	残0.84	残0.46	残0.12	宿	61A	SK200
SK4141	IVG16c	残1.14	残0.92	残0.47	宿	61A	SK268
SK4143	IVG16c	0.60	0.45	0.22	宿II	61A	SK024b
SK4147	IVG16c	残0.47	残0.40	残0.33	宿II	61A	SK172
SK4148	IVG16-17c	残4.08	残1.21	残0.60	宿II	61A	SK173
SK4151	IVG17ab	1.62	0.89	0.46	宿	61A	SK205
SK4153	IVG17-18a	残1.40	残1.60	残0.63	宿II	61A	SK099
SK4154	IVG17b	残0.42	残0.42	残0.33	宿	61A	SK193
SK4161	IVG18a	0.98	0.78	0.42	宿	61A	SK213
SK4166	IVG18a	0.65	0.29	0.30	宿	61A	SK211
SK4167	IVG18a	残0.40	残0.28	残0.40	宿II-2	61A	SK241b
SK4169	IVG18a	1.20	0.97	0.50	宿	61A	SK233
SK4170	IVG18a	残0.93	残0.70	残0.40	宿II	61A	SK231
SK4172	IVG18ab	残1.36	残0.61	残0.49	宿	61A	SK218
SK4186	IVG18b	残0.41	残0.20	残0.18	宿	61A	SK234
SK4204	IVG18-19c	残0.60	残0.56	残0.14	宿	61A	SK133b
SK4213	IVG19bc	0.44	0.30	0.14	宿	61A	SK066
SK4214	IVG19bc	残1.93	残0.74	残0.25	宿II	61A	SK104
SK4221	VF2s	残1.50	残0.84	残0.34	宿	92E	SK008
SK4223	VF2-3s	残1.76	残0.62	残0.47	宿	92E	SK009
SK4224	VF2-3s	1.01	0.82	0.22	宿	92E	SK022
SK4236	VF3s	0.69	0.60	0.39	宿	92E	SK012
SK4241	IVF12-13r	0.59	0.51	0.17	宿	93A	SK068
SK4256	IVF14o	1.39	1.20	0.48	宿	93A	SK164
SK4265	IVF14r	残1.03	残0.92	0.29	宿	93A	SK096
SK4267	IVF14r	0.59	0.43	0.10	宿?	93A	P120
SK4268	IVF14r	0.78	0.61	0.29	宿?	93A	P117
SK4270	IVF14-15r	残0.70	残0.50	0.17	宿?	93A	P119
SK4271	IVF14-15r	0.64	0.56	0.19	宿?	93A	P116
SK4281	IVF14-15s	0.50	0.40	0.40	宿?	93A	P114
SK4287	IVF15n	残2.03	1.41	0.63	宿II-1	93A	SK159
SK4288	IVF15n	0.73	0.53	?	宿?	93A	SK230
SK4291	IVF15-16n	残2.30	残0.82	?	宿II-1	93A	SK065
SK4294	IVF15o	0.41	0.36	0.10	宿	93A	SK061
SK4295	IVF15q	2.71	1.67	0.39	宿?	93A	SK150
SK4296	IVF15qr	残1.04	残0.93	0.54	宿	93A	SK178
SK4299	IVF15rs	残3.69	1.28	0.33	宿I-2	93A	SK136
SK4302	IVF15s	0.53	0.34	0.11	宿?	93A	P274
SK4303	IVF15s	0.53	0.44	0.07	宿?	93A	P113
SK4304	IVF15s	0.72	0.54	0.24	宿?	93A	P111
SK4305	IVF15s	0.58	0.32	0.06	宿?	93A	P110
SK4306	IVF15s	残0.51	0.39	0.14	宿?	93A	P112
SK4309	IVF15s	0.47	0.30	0.19	宿?	93A	P108
SK4310	IVF15s	0.40	0.34	0.41	宿?	93A	P106
SK4311	IVF15s	0.52	0.36	0.27	宿?	93A	P109
SK4312	IVF15s	0.46	0.33	0.34	宿?	93A	P107
SK4313	IVF15s	0.71	残0.51	0.10	宿	93A	SK137
SK4316	IVF15s	0.48	0.38	0.01	宿?	93A	P350
SK4317	IVF15s	0.44	0.39	0.03	宿?	93A	P351
SK4318	IVF15s	0.57	0.32	0.10	宿	93A	P042
SK4320	IVF15st	0.50	0.42	0.03	宿?	93A	P348
SK4321	IVF15st	0.46	0.29	0.03	宿?	93A	P353
SK4359	IVF16q	1.19	0.93	0.16	宿	93A	SK108
SK4367	IVF16qr	0.91	0.83	0.16	宿II-1	93A	SK125
SK4370	IVF16r	1.37	1.14	0.23	宿	93A	SK126
SK4382	IVF16s	残2.50	残2.02	残*1.06	宿II-2	93A	SK053

本町地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
P6108	VF20e	0.37	0.33	0.23	宿	89E	-
P6109	VIF1g	0.38	0.32	0.27	宿	89E	-
P6110	VIF1g	0.38	0.32	0.26	宿	89E	-

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK4409	IVF17r	0.48	0.42	0.13	宿	93A	SK156
SK4420	IVF17s	0.50	0.43	0.10	宿	93A	P030
SK4434	IVF19-20m	1.72	0.78	0.15	宿	92C	SK022
SK4435	IVF19-20m	0.97	0.82	0.27	宿	92C	SK023
SK4461	IVF20n	残1.00	0.49	残0.26	宿	92C	SK049
SK4462	IVF20no	1.08	0.82	?	宿	90B	SK019
SK4463	IVF20no	2.03	残1.50	0.37	宿	90B	SK018
SK4465	IVF20o	1.35	残1.21	0.31	宿	90B	SK002
SK4477	VF1m	残3.38	2.26	0.68	宿II-1	92C	SK055
SK4478	VF1-2m	残2.62	残2.26	残0.53	宿	92C	SK069
SK4480	VF1n	残2.35	残1.02	残0.86	宿	92C	SK021
SK4481	VF1-2n	残2.98	残2.78	0.79	宿	90B	SK024
SK4482	VF1-2no	1.45	1.15	0.40	宿	90B	SK023
SK4486	VF1-2o	残2.31	残1.35	残0.60	宿	90B	SK029
SK4488	VF1-2p	3.48	2.60	残0.61	宿	90B	SK026
SK4489	VF1pq	0.53	0.40	0.10	宿	90B	SK010
SK4491	VF1q	2.42	1.36	0.76	宿	90B	SK011
SK4494	VF2m	残1.18	残0.82	残0.35	宿	92C	SK053
SK4498	VF2op	残3.02	2.31		宿	90B	SK007
SK4503	VF3n	0.76	0.55	0.14	宿	92D	SK005
SK4508	VF3-4n	残*4.07	残1.81	残*1.55	宿I-2	92D	SK001,002
SK4529	VF4-5l	残5.42	残1.71	残0.60	宿II-2	62C	SK014
SK4530	VF4no	0.79	0.60	0.19	宿	92D	SK007
SK4536	VF4o	1.59	1.10	0.30	宿	92D	SK033
SK4538	VF4o	0.69	0.67	0.18	宿	92D	SK008
SK4583	VF5o	0.85	0.75	残0.62	宿II-2	92D	SK041a
SK4625	VF7-8m	2.53	2.30	0.49	宿	62C	SK057
SK4654	VF8o	残0.90	残0.56	残0.42	宿	62C	SK024
SK4726	VF13i	0.48	0.36	0.16	宿	90C	P004
SK4963	IVG16-17b	残3.02	残4.85	残0.75	宿	61A	SK021
SK5007	IVG18b	残2.04	残1.28	0.48	宿	61A	SK346
SK5028	VF1-2st	1.60	0.80	0.35	宿	92E	SK034
SK5029	VF1-2t	0.70	0.72	0.33	宿	92E	SK035
SK5030	VF2t	残0.50	0.46	残0.43	宿	92E	SK037
SK5033	VF2t	1.13	0.66	0.12	宿	92E	SK031
SK5040	VF2t	残0.79	残0.49	残*0.65	宿	92E	SK032
SK5041	VF2t	残0.61	残0.47	残*0.34	宿	92E	P007
SK5044	VF2t	0.40	0.30	0.36	宿	92E	P010
SK5045	VF3s	0.83	0.77	0.20	宿	92E	SK025
SK5046	VF3s	0.76	0.70	0.11	宿	92E	SK024
SK5047	VF3-4s	残6.58	残2.03	残*3.17	宿	92E	SK028
SK5169	VF1n	1.41	残0.94	1.05	宿	90B	SK052
SK5178	VF4no	4.09	3.62	0.71	宿	92D	SK079
SK5220	VF15f	1.90	1.22	0.42	宿	63C	SK004
SK5221	VF15-16f	1.30	1.27	0.28	宿	63C	SK005
SK5222	VF17ij	2.74	1.79	0.56	宿II-1	63C	SK001
SK5223	VF18-19i	2.91	1.69	0.38	宿I-1	63C	SK002
SK5224	VF18e, 18-19f	2.36	1.20	0.24	宿II	63C	SK003
SK5225	VF18f	0.65	0.56	0.12	宿	63C	P003
SK5226	VF19g	0.74	0.71	0.18	宿	63C	P002
SK4002	IVF15st	残10.12	2.98	残1.02	宿II-2~	93A	SK006
SK4003	IVF15-16p	2.51	0.80	0.25	宿II-2	93A	SK001
SK4006	VF7-8n	3.23	残1.94	*0.42	宿II-2	62C	SK006
SK4007	VF14-15jk	2.58	2.24	1.07	宿II	90C	SK001
SK4008	VF17-19i, 17-18j	残7.30	残4.44	*1.15	宿	63C	SK001
SK4009	VF17-18e, 17-19fghi, 20ghi	残*22.57	残14.48	残*2.23	宿I-1	63C	SK002, SK005
SK4009	VF19f, 19-20ghi	残11.16	残4.34	*2.05	宿I-1	63C	SK005
SK4015	IVG12-13e	4.47	3.20	0.26	宿II-2	61A	SK001
SK4016	VF8o				宿?	62C	石群1
SK4017	VF17j	2.88	1.63	0.16	宿II	63C	SK004

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
P6111	VI E15q	0.33	0.28	0.20	宿I	91A	SK045
P6112	VI E15q	0.24	0.21	*0.23	宿I	91A	P001
P6113	VI E16p	0.32	0.32	0.10	宿I	91A	-

清洲城下町遺跡V

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
P6114	VI16p	0.32	0.29	0.12	宿I	91A	—
P6115	VI17p	0.35	0.34	0.10	宿I	91A	—
P6116	VI17p	0.39	0.38	0.13	宿I	91A	—
P6117	VI17p	0.36	0.19	0.08	宿I	91A	—
P6118	VI17p	0.34	0.30	0.11	宿I	91A	—
SA6005	VF20ef, VIF1fg	8.35			宿II	89E	—
SA6006	VI17-18p	4.10			宿I-2	91A	SA001
SB6017	VI14p, 15pq	4.21	3.58		宿I-2	91A	SB002
SB6018	VI16-17pq	3.89	3.90		宿I-2	91A	SB001
SD6002	VI14-5t, VIF4-5a	4.43	0.52	0.11	宿I	91A	SD109
SD6011	VI18-20t	7.66	1.48	+0.92	宿?	89B	SD012
SD6014	VI14mn, 5no	7.97	0.52	0.13	宿	91A	SD102
SD6028	VI12-14t, VIF7-11b, 8c, 12-13a	35.20	7.27	+1.57	宿II-1	61B 89B 89E	SD011 SD034 SK027
SD6031	VI18-11t	10.35	2.00	0.49	宿I?	61B	SD006
SD6032	VI19-11t, VIF9-10a	12.75	1.36	+0.93	宿II-2	61B	SD002, 007
SD6037	VI10-11t	4.04	0.35	+0.20	宿	61B	SD008
SD6047	VI13-14st, VIF14a	13.93	+1.72	+1.22	宿	89B	SD026
SD6051	VI14st, VIF14-15a	10.45	1.50	+1.02	宿	89B	SD023
SD6055	VI16-20s, VI16-1s	26.41	1.97	0.65	宿II-1	89B	SD020
SD6058	VI17-18rs	5.59	1.90	0.40	宿I-2	89B	SD028
SD6076	VF20g, VIF1g	3.18	0.95	0.23	宿I-2	89E	SD008
SD6077	VIF1ef, 2f	7.89	0.86	0.21	宿II	89E	SD001
SD6078	VI17t, VIF1-7b, 1-4c, 6-7a	39.00	4.71	+1.38	宿I-2~II-1	89E	SD007
SD6079	VIF1-3d	10.94	1.59	0.59	宿	89E	SD002
SD6080	VIF3-4cd	8.55	0.57	0.20	宿	89E	SD004
SD6081	VI12-6t, 6-7s	25.94	0.91	+0.53	宿I	91A	SD002, 105
SD6082	VI12-3st	4.10	0.29	0.07	宿I	91A	—
SD6083	VIF1-3c, 2-3b				宿	89E	SD003
SD6084	VIF5-8c	13.90	1.04	0.56	宿I-2	89E	SD009
SD6085	VI16-10s, 9r	16.24	1.84	+0.70	宿I-2	91A	SD010
SD6086	VI19r	3.81	0.59	0.12	宿I-2	91A	SD012
SD6087	VI19-11s, 10-14r	26.35	1.56	+1.18	宿I-2	91A	SD011, 108
SD6088	VI11-12q	5.55	0.60	0.15	宿I	91A	SD009
SD6089	VI11-12qr	4.44	0.60	0.20	宿I	91A	SD008
SD6090	VIF12a	2.51	0.48	0.23	宿	61B	SD003
SD6091	VI12-14t, 13-14s	8.65	2.32	+1.57	宿II-1	89B	SD016
SD6092	VI13-17r	21.26	2.70	+0.75	宿I-2	89B 91A	SD008 SK032
SD6093	VI14-16t	11.23	0.61	+0.89	宿I-2	89B	SD004
SD6094	VI15q	1.84	0.30	0.08	宿I	91A	SD005
SD6095	VI15-17p	8.37	0.60	0.15	宿I	91A	SD003
SD6096	VI16pq	6.60	0.91	+0.52	宿I	91A	SD004
SD6097	VI17-19r	8.92	0.42	0.12	宿I	89B	—
SD6098	VI17-18r	2.45	0.49	0.27	宿I	89B	—
SD6099	VI17-20r	14.66	0.48	0.26	宿I-2	89B	SD009
SD6100	VI17-20r, VI17-4r, 3-6q	42.21	1.49	+0.78	宿I	89B	SD113
SD6101	VI17-20rs	15.38	1.31	+0.93	宿I-2	89B	SD010
SD6102	VI18-19qr, 20q, VI18-2q	21.13	0.89	+0.54	宿II-1	89B	SD007
SD6103	VI18-20s	9.52	0.90	+0.56	宿II-1	89B	SD011
SD6104	VI19-20r, VI19-2qr	14.33	1.43	+0.57	宿	89B	SD104
SD6105	VI12-5q	17.52	0.90	+0.71	宿I-2	89B	SD103
SD6106	VI12-5q	15.47	0.85	0.28	宿I	89B	SD109
SD6107	VI12-5q	16.12	0.50	0.33	宿I	89B	SD110
SD6108	VI13no	6.03	1.65	0.18	宿I	91A	SD001
SD6109	VI13-4r	7.10	0.54	0.16	宿	89B	SD112
SD6110	VI13-9r	27.60	1.28	+1.04	宿I-2	89B	SD102
SD6111	VI15-8p, 5-6q	16.29	0.45	0.24	宿	89B	SD107
SD6112	VI15-9q	17.95	1.39	0.63	宿II-1	89B	SD106
SD6113	VI15-6qr, 7-8q	12.22	0.83	0.23	宿	89B	SD105
SD6114	VI18op	4.76	0.54	0.23	宿	89B	SD108
SE6023	VIF9-10ab	4.68	4.52		宿II-2	61B	SE003
SE6027	VIF10-11bc	5.84	4.53		宿	61B	SE002
SE6031	VI15-16qr	+1.43	+1.22		宿I	91A	SK030, 362
SE6047	VIF2e	1.83	1.70		宿II	89E	SE002
SE6048	VIF3-4e	1.68	1.63		宿II	89E	SE003

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SE6049	VIF4bc	1.42	1.37		宿II	89E	SE001
SE6050	VI18-19q	残1.95	残0.76		宿	89B	SE007a
SE6051	VI18pq	2.46	1.67		宿	89B	SE102
SE6052	VI13-14o	1.15	1.05		宿	89C	SE001
SK6019	VIF5a	残0.81	残0.41	0.17	宿I	91A	SK173
SK6022	VIF6t	1.95	1.70	0.37	宿I	91A	SK150
SK6024	VIF6t	残1.45?	残1.30?	0.29	宿I	91A	SK194
SK6146	VI1-2pq	6.75	5.15	+0.68	宿I	91A	SK102
SK6162	VI13-4n	2.89	残0.92	残0.29	宿I	91A	SK106
SK6479	VI17-18r	2.01	1.71	0.71	城I	89B	SK060
SK6504	VI18t	1.76	1.44	0.75	宿	89B	SK072
SK6520	VI19t	残0.72	残0.94	残0.27	宿	89B	SD033
SK6615	VI17q	残2.03	残1.39	0.28	宿	89B	SK134
SK6617	VI17-8q	1.64	1.18	0.44	宿	89B	SK132
SK6645	VF20ef, VIF1f	残6.88	残1.42	残0.42	宿I-2	89E	SK015
SK6646	VF20f	0.42	0.37	0.39	宿	89E	P003
SK6647	VF20f	0.55	0.53	0.66	宿	89E	P006
SK6648	VF20f	0.40	0.37	0.34	宿	89E	P004
SK6649	VF20f	0.40	0.34	0.37	宿	89E	P005
SK6650	VIF1f	残1.31	残0.54	残0.16	宿I-2	89E	SK016
SK6651	VF20f, VIF1fg	残1.84	0.93	0.39	宿I-2	89E	SK014
SK6652	VIF1g	残2.36	残1.94	残0.36	宿I-2	89E	SK013
SK6653	VIF1g	0.44	0.40	0.30	宿	89E	—
SK6654	VI12t	残1.38	残1.11	残0.17	宿I	91A	—
SK6655	VIF2d	1.10	0.64	0.21	宿	89E	SK021
SK6656	VIF2e	1.43	0.71	0.20	宿	89E	SK022
SK6657	VIF2f	残1.57	残0.65	0.13	宿I-2	89E	SK023
SK6658	VIF3f	1.21	1.04	0.29	宿I-2	89E	SK003
SK6659	VIF3-4d	2.78	残1.96	0.20?	宿	89E	SK008
SK6660	VIF3d	0.63	0.49	0.24	宿	89E	—
SK6661	VIF3d	残0.41	残0.34	?	宿	89E	—
SK6662	VIF4d	0.94	0.71	0.11	宿	89E	SK024
SK6663	VI14t	残1.72	残0.92	残0.14	宿I	91A	SK012
SK6664	VIF4b	残2.82	残2.19	残0.45	宿	89E	SK028
SK6665	VI15t	残2.02	残1.22	残0.18	宿I	91A	SK013
SK6666	VIF5c	残2.85	残1.11	0.47	宿	89E	SK029
SK6667	VIF5-6de	3.08	残2.20	0.33	宿I-2	89E	SK004
SK6668	VIF5de	1.40	1.29	0.25	宿	89E	—
SK6669	VI15-6rs	1.80	1.54	+0.43	宿I	91A	SK069
SK6670	VI16s	3.12	1.51	0.24	宿I	91A	SK061
SK6671	VI15-6st	残3.40	3.22	0.26	宿	91A	SK005
SK6672	VI16-7st	4.01	2.62	0.18	宿I	91A	SK006
SK6673	VIF5-6b	残0.91	残0.60	残0.14	宿	89E	SK018
SK6674	VIF6ab	1.13	0.93	1.12	宿	89E	SK030
SK6675	VIF6ab	1.50	1.18	0.89	宿	89E	SK007
SK6676	VIF6c	1.17	1.07	0.38	宿I-2	89E	SK001
SK6677	VI17r	2.04	2.03	0.18	宿I	91A	SK039
SK6678	VI17-8r	残3.03	残1.71	残+0.65	宿I	91A	SK063
SK6679	VI17-9st, 8-9r	残11.32	残6.84	残+1.10	宿II-1	91A	SK007
SK6680	VI18r	1.54	0.52	0.10	宿I	91A	SK064
SK6681	VI18r	残1.16	0.87	0.14	宿I	91A	SK065
SK6682	VI19r	0.55	0.40	0.10	宿I	91A	SK066
SK6683	VI19r	0.41	0.33	0.07	宿I	91A	—
SK6684	VI19-10qr	残2.30	残1.30	残+0.54	宿I	91A	SK059
SK6685	VI19-10r	1.70	1.55	0.18	宿I	91A	—
SK6686	VI19s	2.25	0.87	0.10	宿I	91A	SK014
SK6687	VI17-13s, 7-10t, 8-15r	残40.69	残7.19	残+1.10	宿I-2~II-1	91A	SK038, 101
SK6688	VIF9a	0.43	0.38	0.25	宿II-2	61B	P019
SK6689	VI10q	残1.68	残1.36	残0.26	宿I	91A	SK058
SK6690	VI10rs	1.69	0.30	0.10	宿I-2	91A	SK028
SK6691	VIF10-11ab	残8.04	6.55	1.45	宿II-2	61B	SK045
SK6692	VI11s	0.65	0.56	0.30	宿	61B	P009
SK6693	VIF11-12a	0.64	0.63	0.27	宿	61B	P011
SK6694	VI12q	1.52	1.04	0.11	宿I	91A	SK057
SK6695	VI13-14pq	残4.72	残2.49	残0.26	宿I	91A	SK055
SK6696	VIF13q	3.13	1.08	0.14	宿I	91A	SK037
SK6697	VIF13qr	1.02	0.66	0.11	宿I	91A	—
SK6698	VI12-13r	残2.68	残2.37	残0.38	宿I	91A	SK060
SK6699	VI13t	3.03	2.87	0.22	宿	89B	SK021
SK6700	VI13t	0.89	1.32	0.11	宿	89B	SK034

付表1 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK6701	VE14pq	2.55	1.24	残0.16	宿I	91A	SK043
SK6702	VE14q	1.41	0.71	?	宿I	91A	—
SK6703	VE14q	2.90	1.39	0.19	宿I	91A	SK054
SK6704	VE14q	1.48	1.32	0.20	宿I	91A	SK034
SK6705	VE14q	1.49	1.25	0.14	宿I	91A	SK035
SK6706	VE14q	1.66	0.77	0.14	宿I	91A	SK040
SK6707	VE14-15q	1.89	0.80	0.22	宿I	91A	SK042
SK6708	VE14r	残2.01	残0.67	残0.17	宿I	91A	SK036
SK6709	VE14t	1.14	0.94	0.14	宿	89B	SK012
SK6710	VE14-15st	7.04	2.99	0.80	宿	89B	SK016
SK6711	VE15p	0.51	0.48	0.23	宿I	91A	SK053
SK6712	VE14-15p	0.57	0.53	0.32	宿I	91A	SK052
SK6713	VE15p	0.51	0.42	0.09	宿I	91A	SK051
SK6714	VE15p	1.43	1.10	0.18	宿I	91A	SK041
SK6715	VE15p	0.82	0.56	0.18	宿I	91A	—
SK6716	VE15p	0.57	0.44	0.22	宿I	91A	SK049
SK6717	VE15p	0.51	0.47	0.08	宿I	91A	SK050
SK6718	VE15q	1.03	0.71	0.16	宿I	91A	SK048
SK6719	VE15pq	1.91	0.85	0.12	宿I	91A	SK047
SK6720	VE15q	0.42	0.42	0.22	宿I	91A	SK046
SK6721	VE15q	0.75	0.58	0.34	宿I	91A	SK031
SK6722	VE15q	残0.56	残0.18	残0.05	宿I	91A	—
SK6723	VE15q	0.57	0.48	0.30	宿I	91A	SK044
SK6724	VE15q	残0.71	残0.64	0.62	宿I	91A	PO02
SK6725	VE15t	1.33	1.08	0.20	宿	89B	SK011
SK6726	VE16pq	0.43	0.37	0.09	宿I	91A	—
SK6727	VE16pq	1.64	1.22	0.22	宿I	91A	SK026
SK6728	VE16q	0.43	0.34	0.16	宿I	91A	—
SK6729	VE16q	0.56	0.46	0.23	宿I	91A	—
SK6730	VE16q	0.44	0.39	0.08	宿I	91A	SK029
SK6731	VE16q	0.40	0.35	0.12	宿I	91A	—
SK6732	VE16-17q	0.59	0.54	0.09	宿I	91A	—
SK6733	VE16st	残0.73	残0.58	残0.24	宿	89B	PO20
SK6734	VE16t	残2.77	残2.09	?	宿	89B	SK030
SK6735	VE16-18t	6.97	3.28	+1.89	宿II-1	89B	SK001
SK6736	VE17p	0.89	0.41	0.10	宿I	91A	—
SK6737	VE17p	0.64	0.60	0.15	宿I	91A	SK015
SK6738	VE17p	0.71	0.58	0.12	宿I	91A	SK016
SK6739	VE17p	0.54	0.34	0.07	宿I	91A	SK023
SK6740	VE17p	0.85	0.66	0.30	宿I	91A	SK021
SK6741	VE17p	0.51	0.42	0.17	宿I	91A	SK022
SK6742	VE17p	0.59	0.54	0.18	宿I-2	91A	SK017

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK6743	VE17p	0.96	0.62	0.15	宿I	91A	SK020
SK6744	VE17-18p	0.57	0.53	0.16	宿I	91A	SK018
SK6745	VE17-18p	0.48	0.46	0.14	宿I	91A	SK019
SK6746	VE17pq	0.41	0.32	0.16	宿I	91A	SK024
SK6747	VE17q	0.42	0.38	0.21	宿I	91A	SK067
SK6748	VE17-18st	3.33	1.26	0.09	宿	89B	SK019
SK6749	VE17t	1.16	1.04	0.07	宿	89B	SK018
SK6750	VE18st	0.84	0.79	?	宿	89B	PO25
SK6751	VE18-19o	2.76	2.16	0.22	宿I	91A	SK011
SK6752	VE19-20o	2.67	2.60	0.21	宿I	91A	SK009
SK6753	VE19-20s	残5.98	残2.68	0.91	宿	89B	SK023
SK6754	VE20o	0.50	0.47	0.16	宿I	91A	—
SK6755	VE20p, VE1p	5.06	1.70	0.18	宿I	91A	SK008
SK6756	VE20pq	残1.93	残0.93	0.14	宿I	91A	SK025
SK6757	VE20s	+2.39	残0.75	残+1.03	宿	89B	SK029
SK6758	VE20s	残2.59	残1.48	?	宿	89B	SK028
SK6759	VE1p	1.16	1.05	0.23	宿	91A	SK004
SK6760	VE1pq	1.13	0.89	0.11	宿I	91A	SK010
SK6761	VE1qr	1.40	1.30	0.16	宿	89B	SK105
SK6762	VE1-2r	1.65	1.39	0.19	宿	89B	SK103
SK6763	VE2-3n	1.86	1.40	0.20	宿	91A	SK003
SK6764	VE2r	2.12	1.92	0.54	宿	89B	SK104
SK6765	VE3o	2.80	1.07	0.36	宿	91A	SK002
SK6766	VE4o	1.85	1.10	0.26	宿	91A	SK001
SK6767	VE5n	1.02	0.97	0.17	宿I	91A	—
SK6768	VE4-5qr	2.24	1.94	0.18	宿	89B	SK114
SK6769	VE7-8r	残2.00	残1.21	?	宿	89B	SK107
SK6770	VE8pq	0.96	0.75	0.13	宿	89B	P117
SX6010	VF4de, 5d	残5.56	残4.77	残1.75	宿	89E	SK001
SX6011	VF5de	残5.25	残1.73	残+1.29	宿	89E	SK004
SX6012	VF4-5e	残2.77	残2.28	残+1.17	宿	89E	SK003
SX6013	VE13q	残1.32	残1.03		宿I	91A	畝C
SX6014	VE15qr	残2.49	1.98	+0.32	宿	91A	SK002
SX6015	VE16t	1.53	0.75		宿?	89B	SK002
SX6016	VE18-20p, 19-20o	残8.98	残2.97		宿I	91A	畝B
SX6017	VE18-19pq	残1.93	残2.10		宿I	91A	畝D
SX6018	VE20p	残3.32	残0.78		宿I	91A	畝A
SX6019	VE20op, VE1-2op	残7.14	残5.86	残0.24	宿	91A	SK001
SX6020	VE10p, 11pq	6.07	4.92	0.44	宿	89C	SK001
SX6021	VE10-15op, 12-13q, 13-15n				宿I	89C	畝状遺構

南部地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SD7006	VEE20h1, DXE1-4h, 1-2i	残21.20	1.54	+0.80	宿II	61D	SD002
SD7035	DXE18e	残2.81	0.27	0.06	宿	89D	SD019
SD7036	DXE18e	残2.68	0.21	0.07	宿	89D	SD018
SD7037	DXE18e	残2.90	0.38	0.12	宿	89D	SD017
SD7038	DXE18e	残1.98	0.45	0.12	宿	89D	SD016
SD7039	DXE18-19e	残2.21	0.53	0.20	宿	89D	SD015
SD7040	DXE19e	残2.32	0.43	0.16	宿	89D	SD014
SD7041	DXE19e	残2.23	0.36	0.13	宿	89D	SD013
SD7042	DXE19ef	残1.52	0.37	0.06	宿	89D	SD012a
SD7043	DXE19e	残1.77	0.45	0.13	宿?	89D	SD011a
SE7009	VEE11k	1.84	1.72		宿II-2	61C	SE001a
SK7016	VEE13h	残4.39	残3.17	残0.70	宿	91B	SK385
SK7475	DXE3h	1.08	1.03	0.15	宿	61D	SK001
SK7476	DXE3i	1.00	0.72	0.52?	宿	61D	SK004
SK7477	DXE3i	0.77	0.51	0.10	宿	61D	SK003

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
SK7478	DXE3i	0.78	0.72	0.37	宿	61D	SK002
SK7479	DXE18-19e	1.95	0.74	0.10	宿	89D	SK014
SK7480	DXE19e	1.12	1.08	0.23	宿	89D	SK019
SX8007	IID9-10rs	14.25	4.58	?	宿?	91C	畝1
SX8008	IID10rs				宿?	91C	畝2
SX8009	IID10rs				宿?	91C	畝3
SX8010	IID10rs				宿?	91C	畝4
SX8011	IID11rs				宿?	91C	畝5
SX8012	IID11r				宿?	91C	畝6
SX8013	IID11rs				宿?	91C	畝7
SX8014	IID11rs				宿?	91C	畝8
SX8015	IID12rs				宿?	91C	畝9
SX8016	IID12rs				宿?	91C	畝10
SX8017	IID12rs				宿?	91C	畝11

## 2 遺物一覽表

この一覽表は、本書掲載の実測図に収録された遺物の全てをまとめたものである。

### 凡 例

- 1 遺物番号は本書掲載実測図の番号である。
- 2 遺構番号は本書掲載遺構図の番号である。  
遺構番号が無記入の遺物の出土地点は登録番号の調査区と旧遺構番号で確認できる。
- 3 容器についてはその法量をcm単位で表示した。  
数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。  
数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。
- 4 調整痕・使用痕については「内面」・「外面」に区分して表現した。  
口縁部については備考で補足記載した。
- 5 登録番号は発掘調査区ごとに遺物の整理番号をつけたものである。  
従って、遺物の収納に際してはこの番号によって整理されている。  
なお、調査区の次に記されたアルファベットは以下の略号である。

E———陶磁器・土器      M———金属製品  
W———木製品            Xb———骨角製品  
S———石製品            Xx———ガラス製品

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
1	SX4009	瀬戸陶器	丸碗	推11.6	残 6.3		長石釉、鉄絵	長石釉、鉄絵、底部露胎	白色		63C E-217	SX 05	
2	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗	推11.8	残 5.9		鉄釉、灰流し	鉄釉、灰流し、錆釉	黄白色		63C E-230	SX 05	
3	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗	推10.6	残 5.7		鉄釉、一部灰流し	鉄釉、底部露胎	黄白色		63C E-237	SX 05	
4	SX4009	瀬戸陶器	腰折碗	推 9.1	7.3	5.5	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄白色		63C E-202	SX 05	
5	SX4009	瀬戸陶器	尾呂茶碗	推11.2	7.4	6.0	鉄釉、灰流し	鉄釉、灰流し、錆釉、高台端部磨減	黄白色		63C E-211	SX 05	
6	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗	推10.4	残 6.4		鉄釉、灰流し	鉄釉、灰流し、錆釉	灰白色		63C E-212	SX 05	
7	SX4009	美濃陶器	腰折茶碗	推 9.8	6.6	推 4.8	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部磨減	灰白色		63C E-215	SX 05	
8	SX4009	美濃陶器	腰折茶碗		9.7	5.9	4.8	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部露胎	灰色		63C E-207	SX 05
9	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗		11.0	7.1	4.8	鉄釉、灰流し	鉄釉、灰流し、錆釉	灰白色		63C E-205	SX 05
10	SX4009	美濃陶器	腰折碗	推10.2	残 5.5		灰釉	灰釉、錆釉	灰黄色		63C E-213	SX 05	
11	SX4009	肥前磁器	丸碗	推11.2	6.6	4.6	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色		63C E-218	SX 05	
12	SX4009	肥前?陶器	丸碗	推11.0	6.8	5.0	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎、スグ	灰色		63C E-241	SX 05	
13	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗?		残 4.3	5.0	鉄釉	鉄釉、錆釉	灰黄白色		63C E-229	SX 05	
14	SX4009	美濃陶器	腰折茶碗		残 3.9	5.0	灰釉	鉄釉、高台端部露胎	灰白色		63C E-231	SX 05	
15	SX4009	美濃陶器	丸碗		残 4.2	4.9	長石釉	長石釉、底部露胎	灰色		63C E-214	SX 05	
16	SX4009	美濃陶器	尾呂茶碗		残 2.8	4.0	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄灰白色		63C E-236	SX 05	
17	SX4009	木	木胎漆器碗		残 12.3	6.8	赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 1	SX 05	
18	SX4009	木	木胎漆器碗		残 5.6		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 2	SX 05	
19	SX4009	木	木胎漆器碗		残 7.0	6.4	赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 3	SX 05	
20	SX4009	木	木胎漆器碗		6.0	5.1	5.8	赤色漆	赤色漆		63C W- 4	SX 05	
21	SX4009	木	木胎漆器碗		残 5.5		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 5	SX 05	
22	SX4009	木	木胎漆器碗		残 3.8		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 6	SX 05	
23	SX4009	木	木胎漆器碗		残 7.8	6.5	赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 7	SX 05	
24	SX4009	木	木胎漆器碗	推12.2	残 6.3		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W- 8	SX 05	
25	SX4009	木	木胎漆器碗		残 6.2		赤色漆	赤色漆			63C W- 9	SX 05	
26	SX4009	木	木胎漆器碗	推10.5	6.9	5.0	赤色漆	赤色漆			63C W- 10	SX 05	
27	SX4009	瀬戸陶器	丸皿	推13.4	3.0	6.2	長石釉、輪び、双付着	長石釉、底部露胎	暗灰褐色	二次的に火を受ける	63C E-206	SX 05	
28	SX4009	瀬戸陶器	丸皿	推12.8	残 2.3		灰釉	灰釉、底部露胎	灰白色		63C E-235	SX 05	
29	SX4009	瀬戸陶器	丸皿		13.0	3.1	7.6	長石釉、輪壳、双付着	長石釉、底部露胎	白～黄白色	口縁部一部欠損	63C E-208	SX 05
30	SX4009	美濃陶器	丸皿		12.4	3.1	6.6	鉄釉、重ね焼き痕	鉄釉、底部露胎	灰黄色		63C E-210	SX 05

付表2 遺物一覽表

団別	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
	31	SX4009	美濃陶器	丸皿	推12.2	3.0	推 5.6	灰釉、重ね焼き痕	灰釉、底部露胎、黒色付着物	灰褐色		63C E-201	SX 05
	32	SX4009	美濃陶器	丸皿		残 2.4	7.8	長石釉、鉄絵、ヒン痕	長石釉、高台端部露胎	黒灰色		63C E-219	SX 05
	33	SX4009	美濃陶器	饗盤		4.3		灰釉	灰釉、底部露胎、布目痕	灰色		63C E-220	SX 05
	34	SX4009	美濃陶器	小杯	推 7.4	3.5	2.8	灰釉	灰釉、底部露胎	黄灰色	口縁部欠損	63C E-216	SX 05
	35	SX4009	美濃陶器	香炉	8.8	4.1		灰釉、露胎	灰釉、露胎	灰色		63C E-221	SX 05
	36	SX4009	美濃陶器	香炉	推11.6	6.0		灰釉、露胎、双付着	灰釉、露胎	灰白色	口縁部磨減	63C E-222	SX 05
	37	SX4009	瀬戸陶器	灰落とし	推 8.0	残 5.4		灰釉、露胎	灰釉、鉄釉	灰白色		63C E-227	SX 05
	38	SX4009	木	木胎漆器蓋	11.0	3.3		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			63C W-11	SX 05
	39	SX4009	瀬戸陶器	丸鉢	推15.4	9.1	推10.2	鉄釉、露胎、ヒン痕	鉄釉、底部露胎	灰白色		63C E-224	SX 05
	40	SX4009	銅	銭貨						天禧通寶		63C M-13	SX 05
	41	SX4009	銅	銭貨						熙寧元寶		63C M-14	SX 05
	42	SX4009	銅	銭貨						聖宋元寶		63C M-15	SX 05
	43	SX4009	木	曲物桶	20.0	11.4	21.7					63C W-12	SX 05
	44	SX4009	瀬戸陶器	向付	推18.5	残 4.8		灰釉、緑釉流し	灰釉、緑釉流し、双付着	灰白色	足欠損	63C E-226	SX 05
	45	SX4009	瀬戸陶器	甕	推21.6	残 6.5		鉄釉	鉄釉	黄白色	口縁部磨減	63C E-225	SX 05
	46	SX4009	瀬戸陶器	汁次	3.9	11.8	7.4	鉄釉	鉄釉、底部露胎	灰褐～灰黄色		63C E-203	SX 05
	47	SX4009	瀬戸美濃陶器	壺		残 4.9	推 8.6	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄灰色		63C E-238	SX 05
	48	SX4009	瀬戸陶器	壺	推 7.0	7.5	7.5	鉄釉	鉄釉、灰流し、底部露胎	黄灰色	口縁部磨減	63C E-223	SX 05
	49	SX4009	瀬戸陶器	平鉢	推29.0	9.2	推13.1	灰釉、緑釉流し、ヒン痕	灰釉、底部露胎	灰白色		63C E-209	SX 05
	50	SX4009	美濃陶器	大皿	推26.2	5.7	推16.4	長石釉、鉄絵、ヒン痕	長石釉、鉄絵、ヒン出し高台、ヒン痕	黄灰色		63C E-204	SX 05
	51	SX4009	肥前陶器	平鉢	32.8	9.1	11.3	透明釉、白化粧、鉄絵、緑釉流し	透明釉、白化粧、底部露胎	赤褐色		63C E-240	SX 05
	52	SX4009	瀬戸陶器	播鉢	推34.0	残11.1		鉄釉、播目	鉄釉	黄灰色	口縁部磨減	63C E-234	SX 05
	53	SX4009	瀬戸陶器	播鉢		残 4.3		錆釉、播目	錆釉	淡褐色	口縁部磨減	63C E-232	SX 05
	54	SX4009	瀬戸陶器	播鉢	37.0	15.0	15.0	錆釉、播目、磨減	錆釉、ヒン、回転糸切痕、底部磨減	黄褐色	口縁部磨減	63C E-233	SX 05
	55	SX4009	鉄	釘								63C M-16	SX 05
	56	SX4009	鉄	釘								63C M-17	SX 05
	57	SX4009	木	箸								63C W-13	SX 05
	58	SX4009	銅・竹	煙管								63C M-18	SX 05
	59	SX4009	銅	煙管								63C M-19	SX 05
	60	SX4009	銅	留金具?								63C M-20	SX 05
	61	SX4009	鉄	釣針								63C M-21	SX 05
	62	SX4009	銅	飾金具?								63C M-22	SX 05
	63	SX4009	石	砥石						泥質凝灰岩		63C S-16	SX 05
	64	SX4009	木	横櫓								63C W-14	SX 05
	65	SX4009	木	連歯下駄								63C W-15	SX 05
	66	SX4009	木	差歯下駄								63C W-16	SX 05
	67	SX4009	木	連歯下駄								63C W-17	SX 05
	68	SX4009	木	差歯下駄								63C W-18	SX 05
	69	SX4009	常滑陶器	甕	推37.6	残20.4		指押、ヒン	ヒン、縦ヒン	明褐色	真焼	63C E-239	SX 05
	70	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	13.8	6.2	5.4	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵、高台端部露胎、磨減	黄白色	口縁部欠損	91A E-322	SK 32
	71	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	13.0	6.3	5.4	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵、高台端部露胎	黄褐色	口縁部欠損	91A E-323	SK 32
	72	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	推13.0	6.1	5.4	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵、高台端部露胎、磨減	黄白色		91A E-324	SK 32
	73	SD6092	肥前磁器	丸碗	推11.8	残 4.8		透明釉	透明釉、呉須絵	灰白色		91A E-321	SK 32
	74	SD6092	関西系?陶器	丸碗		残 5.0	推 5.0	灰釉	灰釉、高台端部露胎	灰白色		91A E-370	SK 32
	75	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	推11.4	4.9	4.0	灰釉、呉須絵、鉄絵	灰釉、底部露胎	黄灰色		91A E-328	SK 32
	76	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	11.0	4.8	4.0	灰釉、呉須絵、鉄絵	灰釉、底部露胎	黄白色		91A E-329	SK 32
	77	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	9.0	5.6	3.7	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色	口縁部欠損	91A E-325	SK 32
	78	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	推 9.2	5.5	3.8	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白～灰褐色		91A E-326	SK 32
	79	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	推 9.2	5.5	推 4.0	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		91A E-327	SK 32
	80	SD6092	美濃陶器	丸碗	推 8.6	5.2	3.2	灰釉	灰釉、底部露胎	灰黄色		91A E-336	SK 32
	81	SD6092	瀬戸陶器	丸碗	9.1	5.1	3.9	灰釉	灰釉、高台端部露胎	黄灰色		91A E-337	SK 32
	82	SD6092	瀬戸陶器	せんじ碗	11.6	5.4	4.2	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		91A E-332	SK 32
	83	SD6092	瀬戸陶器	せんじ碗	推 9.6	残 4.9		灰釉	灰釉、呉須絵	黄白色		91A E-331	SK 32
	84	SD6092	瀬戸陶器	せんじ碗	推10.7	5.2	4.4	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	白色		91A E-330	SK 32
	85	SD6092	瀬戸陶器	せんじ碗	推 9.4	5.0	4.1	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		91A E-333	SK 32
	86	SD6092	瀬戸陶器	腰鉢茶碗	推10.2	6.6	6.0	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部露胎	黄灰色		91A E-335	SK 32
	87	SD6092	瀬戸陶器	腰鉢茶碗	9.6	5.9	4.4	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部露胎	黄白色		91A E-334	SK 32
	88	SD6092	瀬戸陶器	平碗	推12.6	6.1	5.0	灰釉、白化粧	灰釉、白化粧、底部露胎	淡褐色	刷毛目	91A E-338	SK 32
	89	SD6092	瀬戸陶器	平碗	14.0	6.7	5.2	灰釉	灰釉、高台端部露胎	白色		91A E-340	SK 32
	90	SD6092	美濃陶器	丸皿	推15.8	3.2	推 8.4	灰釉、重ね焼き痕	灰釉、底部露胎	灰褐～黄色		91A E-344	SK 32
	91	SD6092	美濃陶器	丸皿	推14.3	3.9	6.3	灰釉、輪壳、重ね焼き痕	灰釉、底部露胎	灰～黄灰色		91A E-341	SK 32
	92	SD6092	美濃陶器	腰折皿	推12.8	2.2	7.3	灰釉、ヒン痕	灰釉、底部露胎	黄灰色		91A E-343	SK 32
	93	SD6092	美濃陶器	丸皿	推12.2	2.3	5.5	灰釉、重ね焼き痕	灰釉、底部露胎	灰黄色		91A E-342	SK 32
	94	SD6092	美濃陶器	無高台皿	推11.0	2.0	推 5.0	錆釉	錆釉	灰色	口縁部ヒン付着	91A E-349	SK 32
	95	SD6092	瀬戸陶器	非円形皿	15.7	3.9	7.7	鉄釉	鉄釉、底部露胎、萐苜底	黄白色	口縁部双付着、欠損	91A E-346	SK 32
	96	SD6092	瀬戸陶器	平碗		残 2.9	5.0	灰釉	灰釉、底部露胎	黄白色		91A E-339	SK 32
	97	SD6092	瀬戸陶器	蓋	10.6	1.5		無釉	灰釉	黄白色		91A E-350	SK 32
	98	SD6092	瀬戸陶器	丸鉢	推19.4	5.4	推 8.0	灰釉、ヒン痕	灰釉、底部露胎、萐苜底	黄白色	輪花	91A E-348	SK 32
	99	SD6092	瀬戸陶器	筒形鉢	推13.4	5.3	推 7.8	鉄釉、錆釉	鉄釉、底部露胎	黄白色		91A E-352	SK 32

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
100	SD6092	瀬戸陶器	筒形鉢	推14.8	6.3	推10.5	灰釉、露胎、輪ノ痕	灰釉、底部露胎	黄灰色		91A E-351	SK 32
101	SD6092	美濃陶器	大皿	推24.4	4.6	推14.4	灰釉、鉄粒、トノ痕	灰釉、底部露胎	黄灰色		91A E-345	SK 32
102	SD6092	瀬戸陶器	平鉢	推27.0	残4.2		灰釉、波状紋	灰釉	黄褐色		91A E-347	SK 32
103	SD6092	瀬戸陶器	丸鉢	推17.1	9.5	9.8	鉄釉、輪弁	鉄釉、底部露胎	黄褐色		91A E-354	SK 32
104	SD6092	瀬戸陶器	丸鉢	推15.0	8.4	推9.4	灰釉、トノ痕	灰釉、底部露胎、高台端部磨減	黄白色		91A E-356	SK 32
105	SD6092	瀬戸陶器	丸鉢	16.8	8.0	9.3	灰釉、緑釉、トノ痕	灰釉、底部露胎	黄白色		91A E-353	SK 32
106	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残5.5		鉄釉	鉄釉	黄白色		91A E-362	SK 32
107	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残6.0		鉄釉、搦目	鉄釉	黄白色		91A E-363	SK 32
108	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残6.2		鉄釉	鉄釉	淡褐色		91A E-364	SK 32
109	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残4.8		鉄釉	鉄釉	黄白色		91A E-365	SK 32
110	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残6.3		鉄釉	鉄釉	黄白色		91A E-366	SK 32
111	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残5.3		鉄釉	鉄釉	黄白色	口縁部磨減	91A E-369	SK 32
112	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢		残6.7		鉄釉、搦目	鉄釉	黄白色		91A E-368	SK 32
113	SD6092	瀬戸陶器	筒形鉢	推22.8	推10.8		鉄釉	鉄釉	黄白色	口縁部磨減	91A E-361	SK 32
114	SD6092	瀬戸陶器	筒形鉢		残10.4	推12.5	鉄釉、トノ痕	鉄釉、底部露胎、高台端部磨減	黄灰色		91A E-355	SK 32
115	SD6092	瀬戸陶器	搦鉢	推38.6	推12.4		鉄釉、搦目	鉄釉	黄白色	口縁部磨減	91A E-367	SK 32
116	SD6092	土師器	焙烙鍋	推31.8	残5.9		横ノ、ウ、板状庄痕	横ノ、指サ、ズリ、ス付着	褐色		91A E-360	SK 32
117	SD6092	土師器	焙烙鍋	推28.8	残3.2		横ノ、底部調整不明	横ノ、指サ、ズリ、ス付着	淡褐色		91A E-357	SK 32
118	SD6092	土師器	焙烙鍋	推33.8	残3.3		横ノ、底部調整不明	横ノ、指サ、ズリ、ス付着	褐色		91A E-359	SK 32
119	SD6092	土師器	焙烙鍋	推33.8	残3.1		横ノ、底部調整不明	横ノ、指サ、ズリ、ス付着	明褐色		91A E-358	SK 32
120	SD6092	石	火打石							チャート	91A S-31	SK 32
121	SD6092	石	火打石							チャート	91A S-32	SK 32
122	SD6092	石	火打石							チャート	91A S-33	SK 32
123	SD6092	石	砥石							泥質凝灰岩	91A S-34	SK 32
124	SD6092	石	砥石							泥質凝灰岩	91A S-35	SK 32
125	SD6092	石	砥石							泥質凝灰岩	91A S-36	SK 32
126	SK4287	美濃陶器	端反碗	11.8	5.8	4.4	灰釉	灰釉、底部露胎	灰白色	口縁部一部欠損	93A E-21	SK159
127	SK4287	瀬戸陶器	丸碗	9.0	5.4	3.0	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		93A E-22	SK159
128	SK4287	美濃陶器	無高台皿	10.4	1.9	4.4	錆釉	錆釉	灰黄色	口縁部M付着	93A E-18	SK159
129	SK4287	美濃陶器	無高台皿	10.5	2.0	5.0	錆釉	錆釉、底部露胎	灰白色		93A E-17	SK159
130	SK4287	美濃陶器	灯臺	8.4	2.2	5.0	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄白色		93A E-19	SK159
131	SK4287	美濃陶器	灯臺	7.8	2.0	5.4	鉄釉	鉄釉	明茶色		93A E-20	SK159
132	SK4287	瀬戸陶器	小型鉢	4.4	4.3	3.0	灰釉	灰釉、底部露胎、回転糸切痕	黄白色		93A E-16	SK159
133	SK4287	土師器	皿	7.5	1.1	4.4	横ノ	横ノ、回転糸切痕	白～淡褐色	ウ加成形、穿孔	93A E-23	SK159
134	SK4287	土師器	皿	7.3	1.0	4.4	横ノ	横ノ、回転糸切痕	白～赤白色	ウ加成形、穿孔、口縁部M付着	93A E-25	SK159
135	SK4287	土師器	皿	7.2	1.1	4.4	横ノ	横ノ、回転糸切痕	白～赤白色	ウ加成形、穿孔	93A E-24	SK159
136	SK4287	瀬戸陶器	錢罐	16.0	14.5	11.2	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄白色		93A E-11	SK159
137	SK4287	瀬戸陶器	錢罐	16.2	13.9	10.8	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄白色		93A E-12	SK159
138	SK4287	瀬戸陶器	錢罐	16.0	14.4	10.6	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄褐色	トノ痕	93A E-13	SK159
139	SK4287	瀬戸陶器	錢罐	16.0	14.3	10.5	鉄釉	鉄釉、底部露胎	黄白色	トノ痕	93A E-14	SK159
140	SK4287	土師器	ミニチュア		残6.2			彩色(赤)	黄灰色	太鼓	93A E-28	SK159
141	SK4287	瀬戸陶器	丸鉢	20.7	10.8	12.6	灰釉、トノ痕	灰釉、緑釉流し、底部露胎	黄白色		93A E-15	SK159
142	SK4287	瀬戸陶器	搦鉢	推31.0	14.8	推15.0	錆釉、重ね焼き痕	錆釉、回転糸切痕	黄褐色		93A E-26	SK159
143	SK4287	土師器	焙烙鍋	推28.0	残2.8		横ノ	横ノ、ズリ	淡褐色		93A E-27	SK159
144	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	12.0	5.2	推3.7	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	灰色		89B E-122	SX 01
145	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	12.8	5.4	4.1	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄白色		89B E-137	SX 01
146	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	12.8	5.5	3.8	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄灰色		89B E-138	SX 01
147	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	推12.8	6.2	3.6	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	灰黄色		89B E-106	SX 01
148	SK6735	瀬戸陶器	柳茶碗	推12.8	6.3	4.4	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄白色		89B E-111	SX 01
149	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	推11.8	5.9	4.4	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄白色		89B E-103	SX 01
150	SK6735	瀬戸陶器	柳茶碗	12.4	6.2	4.2	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄白色		89B E-101	SX 01
151	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	12.6	5.7	3.8	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄灰色		89B E-132	SX 01
152	SK6735	美濃陶器	柳茶碗	12.0	5.6	4.2	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄灰色		89B E-105	SX 01
153	SK6735	瀬戸美濃陶器	柳茶碗	推13.8	6.3	4.1	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	黄灰色		89B E-133	SX 01
154	SK6735	瀬戸陶器	平碗	推13.1	5.8	4.7	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		89B E-134	SX 01
155	SK6735	瀬戸美濃陶器	柳茶碗	推9.6	4.7	推3.8	灰釉	灰釉、鉄粒、底部露胎	灰黄色		89B E-140	SX 01
156	SK6735	瀬戸陶器	平碗	16.8	5.9	4.9	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		89B E-136	SX 01
157	SK6735	瀬戸陶器	平碗	13.0	6.0	5.2	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		89B E-114	SX 01
158	SK6735	瀬戸陶器	平碗	13.0	6.0	4.0	長石釉	長石釉、上絵付(赤、黄)、底部露胎	黄白色		89B E-116	SX 01
159	SK6735	瀬戸陶器	丸碗		残4.7	4.2	長石釉、上絵付(赤)	長石釉、上絵付(赤)、底部露胎	黄白色		89B E-266	SX 01
160	SK6735	瀬戸陶器	平碗	13.8	6.1	4.4	灰釉、白化粧	灰釉、白化粧、底部露胎	黄灰色		89B E-135	SX 01
161	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	推13.4	6.7	5.8	灰釉	灰釉、底部露胎	黄白色	底部穿孔	89B E-227	SX 01
162	SK6735	瀬戸陶器	平碗	推13.2	5.6	推4.8	灰釉、白化粧	灰釉、白化粧、底部露胎	淡褐色		89B E-110	SX 01
163	SK6735	美濃陶器	平碗	12.8	5.9	4.5	灰釉、白化粧	灰釉、白化粧、底部露胎	灰黄色		89B E-125	SX 01
164	SK6735	瀬戸陶器	平碗	推11.6	5.0	4.4	灰釉	灰釉、底部露胎	白色		89B E-102	SX 01
165	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	12.6	6.0	4.6	長石釉	長石釉、呉須絵、鉄粒、高台端部露胎、磨減	灰黄色		89B E-131	SX 01
166	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	11.0	5.4	4.0	長石釉	長石釉、呉須絵、鉄粒、底部露胎	黄白色		89B E-119	SX 01
167	SK6735	関西系?陶器	平碗	13.4	6.4	4.3	透明釉、白化粧	透明釉、白化粧、底部露胎	黒灰色		89B E-264	SX 01

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
168	SK6735	瀬戸陶器	腰柄茶碗	9.8	5.9	2.0	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部磨減	灰白色		89B E-120	SX 01
169	SK6735	瀬戸陶器	腰柄茶碗	9.5	残	5.6	4.0	灰釉	灰釉、鉄釉、高台端部磨減	灰白色	89B E-117	SX 01
170	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	8.7	6.0	3.6	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色		89B E-113	SX 01
171	SK6735	瀬戸陶器	平碗	12.4	6.1	3.6	灰釉	灰釉、鉄絵、底部露胎、墨書	灰白色		89B E-278	SX 01
172	SK6735	関西系?陶器	丸碗	推 8.0	残	5.5	透明釉、上絵付(?)	透明釉、上絵付	白色		89B E-268	SX 01
173	SK6735	関西系陶器	丸碗	推 8.8	残	6.5	3.9	透明釉、上絵付(灰、黄)	透明釉、上絵付(灰、黄)、露胎	白色	89B E-267	SX 01
174	SK6735	関西系陶器	丸碗	推 9.8	残	4.7	透明釉	透明釉	白色		89B E-269	SX 01
175	SK6735	瀬戸?陶器	丸碗	9.6	5.1	3.3	灰釉	灰釉、上絵付(赤、緑)、底部露胎	黄白色		89B E-109	SX 01
176	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	推 9.1	5.5	2.7	灰釉	灰釉、上絵付(緑、灰)、底部露胎	黄白色		89B E-128	SX 01
177	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	9.1	5.6	2.7	灰釉	灰釉、上絵付(赤、灰)、底部露胎	灰黄色		89B E-126	SX 01
178	SK6735	不明陶器	丸碗	8.9	6.2	4.0	灰釉	灰釉、上絵付(緑、黄、赤)、底部露胎、墨書			89B E-279	SX 01
179	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	推 9.2	残	5.0	長石釉	長石釉、上絵付(黄、灰)	黄白色		89B E-130	SX 01
180	SK6735	瀬戸陶器	せんじ碗	推 8.8	5.0	3.7	灰釉	灰釉、呉須絵、鉄絵、底部露胎	黄白色		89B E-104	SX 01
181	SK6735	瀬戸陶器	せんじ碗	9.2	残	4.6	灰釉	灰釉、呉須絵、鉄絵、底部露胎、高台端部欠損	黄白色		89B E-107	SX 01
182	SK6735	美濃陶器	腰折碗	推 10.9	4.3	推 4.0	灰釉+鉄釉	灰釉+鉄釉、高台端部露胎	灰色		89B E-139	SX 01
183	SK6735	美濃陶器	燈茶碗	7.8	6.2	5.1	鉄釉	鉄釉、灰釉、高台端部露胎	灰白色		89B E-123	SX 01
184	SK6735	瀬戸陶器	燈茶碗	8.3	6.2	3.2	緑釉	緑釉、灰釉、高台端部露胎	白色		89B E-124	SX 01
185	SK6735	美濃陶器	丸碗	12.0	8.2	6.0	灰釉	灰釉、高台端部露胎	黄灰色		89B E-112	SX 01
186	SK6735	瀬戸陶器	小碗	7.9	5.9	4.5	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄灰色		89B E-108	SX 01
187	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 9.5	5.0	推 3.6	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色	波佐見	89B E-121	SX 01
188	SK6735	肥前磁器	丸碗	9.6	5.1	3.8	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色	波佐見	89B E-143	SX 01
189	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 9.4	5.2	3.7	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色	波佐見	89B E-141	SX 01
190	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 9.6	5.0	3.8	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色	波佐見	89B E-142	SX 01
191	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 11.8	6.2	推 4.2	透明釉、呉須絵	透明釉、呉須絵	白色		89B E-147	SX 01
192	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 10.2	残	4.2	透明釉	透明釉、呉須絵	白色	波佐見	89B E-127	SX 01
193	SK6735	肥前磁器	丸碗	推 8.4	3.9	2.8	透明釉、呉須絵	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色		89B E-144	SX 01
194	SK6735	肥前磁器	小碗		3.9	3.4	透明釉	透明釉、上絵付(赤、緑、金)、高台端部露胎	白色	有田	89B E-148	SX 01
195	SK6735	肥前磁器	小碗	推 8.1	3.4	推 3.6	透明釉、上絵付(赤)	透明釉、上絵付(赤)、高台端部露胎	白色	有田	89B E-150	SX 01
196	SK6735	肥前磁器	小碗	推 7.2	3.7	2.9	透明釉	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色		89B E-224	SX 01
197	SK6735	肥前磁器	小碗	推 8.4	3.8	3.0	透明釉	透明釉、上絵付(赤)、高台端部露胎	白色	有田	89B E-149	SX 01
198	SK6735	肥前磁器	小碗	推 5.2	2.9	1.8	透明釉	透明釉、上絵付(赤)、高台端部露胎	白色	有田	89B E-174	SX 01
199	SK6735	肥前磁器	小碗	推 7.0	残	4.0	透明釉	透明釉	白色	口紅	89B E-229	SX 01
200	SK6735	肥前磁器	箱形湯呑	推 7.4	5.6	3.3	透明釉、呉須絵	透明釉、呉須絵、高台端部露胎	白色		89B E-145	SX 01
201	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	推 15.1	5.7	6.2	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵、高台端部露胎、磨減	黄白色		89B E-129	SX 01
202	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	11.2	4.9	3.8	灰釉、呉須絵、鉄絵	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-115	SX 01
203	SK6735	瀬戸陶器	丸碗	14.3	6.2	5.7	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵、高台端部露胎	黄白色		89B E-118	SX 01
204	SK6735	瀬戸陶器	無高台皿	7.5	1.5	3.6	灰釉	灰釉、底部露胎、萆苺底	黄白色		89B E-154	SX 01
205	SK6735	瀬戸陶器	無高台皿	7.6	1.4	3.2	灰釉	灰釉、底部露胎、萆苺底	黄白色	口縁部タテ付着	89B E-169	SX 01
206	SK6735	瀬戸陶器	無高台皿	6.8	1.3	4.6	灰釉	灰釉、底部露胎、回転糸切痕	黄白色		89B E-167	SX 01
207	SK6735	美濃陶器	無高台皿	9.9	1.9	4.3	灰釉	灰釉、底部露胎	灰白色		89B E-165	SX 01
208	SK6735	美濃陶器	無高台皿	10.6	2.3	4.4	錆釉	錆釉、露胎、タテ付着	灰色	口縁部タテ付着	89B E-155	SX 01
209	SK6735	美濃陶器	灯臺	11.0	2.5	4.5	錆釉	錆釉、底部露胎、重ね焼き痕	灰色		89B E-163	SX 01
210	SK6735	美濃陶器	灯臺	10.9	2.7	4.6	錆釉、重ね焼き痕	錆釉、底部露胎、重ね焼き痕	黄白色		89B E-168	SX 01
211	SK6735	美濃陶器	丸皿	11.8	3.1	6.0	灰釉、摺絵、ビン裏	灰釉、底部露胎	灰黄色		89B E-158	SX 01
212	SK6735	美濃陶器	丸皿	11.3	3.0	6.0	灰釉、摺絵、重ね焼き痕	灰釉、底部露胎、タテ付着	灰白色		89B E-157	SX 01
213	SK6735	美濃陶器	丸皿	11.7	3.5	5.8	灰釉、呉須絵、摺絵	灰釉、底部露胎	灰色		89B E-162	SX 01
214	SK6735	瀬戸陶器	丸皿	推 13.0	2.9	推 8.0	灰釉、摺絵、ビン裏	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-151	SX 01
215	SK6735	美濃陶器	丸皿	12.0	3.0	5.8	灰釉、摺絵	灰釉、底部露胎	黄灰色		89B E-164	SX 01
216	SK6735	瀬戸陶器	丸皿	推 17.4	4.0	推 7.4	灰釉、輪禿	灰釉、底部露胎	黄白色	口縁部欠損、タテ付着	89B E-170	SX 01
217	SK6735	美濃陶器	丸皿	推 15.0	4.3	6.2	灰釉、輪禿	灰釉、底部露胎	灰黄色		89B E-159	SX 01
218	SK6735	美濃陶器	丸皿	22.0	5.5	8.8	灰釉、輪禿	灰釉、底部露胎	灰白色		89B E-160	SX 01
219	SK6735	瀬戸陶器	丸皿	11.8	3.4	5.0	灰釉、呉須絵	灰釉、高台端部露胎	黄白色		89B E-152	SX 01
220	SK6735	瀬戸陶器	丸皿	推 11.9	3.4	4.5	灰釉、呉須絵	灰釉、高台端部露胎	白色		89B E-153	SX 01
221	SK6735	瀬戸陶器	丸皿	14.0	3.8	6.0	灰釉、呉須絵	灰釉、高台端部露胎	黄白色		89B E-156	SX 01
222	SK6735	瀬戸陶器	卸皿	推 16.3	3.2	6.3	錆釉、卸目	錆釉	黄白色		89B E-161	SX 01
223	SK6735	関西系磁器	蓋	9.3	2.8		透明釉、呉須絵	透明釉、呉須絵	白色		89B E-173	SX 01
224	SK6735	肥前磁器	蓋	9.8	3.1	4.0	透明釉、呉須絵	透明釉、呉須絵、露胎	白色		89B E-180	SX 01
225	SK6735	肥前磁器	蓋	9.0	3.3	3.8	透明釉、呉須絵	青磁釉、高台端部露胎、高台内透明釉、呉須絵	白色	口縁部欠損	89B E-172	SX 01
226	SK6735	美濃陶器	蓋	推 8.7	1.5	3.4	無釉	鉄釉	黄白色		89B E-175	SX 01
227	SK6735	瀬戸美濃陶器	蓋	9.2	1.7	4.0	無釉、回転糸切痕	灰釉	黄灰色		89B E-178	SX 01
228	SK6735	美濃陶器	蓋	推 10.0	1.1		露胎	灰釉	灰白色		89B E-179	SX 01
229	SK6735	美濃陶器	蓋	推 9.8	1.0		無釉	灰釉	灰白色		89B E-225	SX 01
230	SK6735	瓦器	蓋	推 12.8	3.1		横ノズ	横ノズ	灰白色		89B E-240	SX 01
231	SK6735	瀬戸陶器	蓋	推 7.5	1.6		無釉	灰釉、鉄絵	黄白色		89B E-202	SX 01
232	SK6735	瀬戸陶器	灰落とし?	4.9	6.8		緑釉、露胎	緑釉、露胎、回転糸切痕	黄白色		89B E-192	SX 01
233	SK6735	瀬戸陶器	仏飯具	6.2	4.8	4.8	灰釉	灰釉、底部露胎	黄灰色		89B E-171	SX 01

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
234	SK6735	美濃陶器	仏飯具	推7.2	8.0	5.3	灰釉	灰釉、底部露胎	黄灰色		89B E-176	SX 01
235	SK6735	肥前磁器	筒形鉢	7.8	6.0	3.8	透明釉	透明釉、呉須絵、底部露胎	白色		89B E-146	SX 01
236	SK6735	瀬戸陶器	筒形鉢	9.2	6.3	6.1	緑釉、露胎	緑釉、底部露胎	黄白色		89B E-193	SX 01
237	SK6735	瀬戸陶器	大皿	推22.0	残4.8		灰釉、ビン痕	灰釉	黄白色	ひた状	89B E-196	SX 01
238	SK6735	瀬戸陶器	丸鉢	推22.0	6.0	推9.0	灰釉、ビン痕	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-190	SX 01
239	SK6735	瀬戸陶器	大皿	推24.6	残3.5		長石釉、鉄絵	長石釉、鉄絵、重ね焼き痕	白色		89B E-197	SX 01
240	SK6735	瀬戸陶器	丸鉢	推29.6	残6.7		灰釉	灰釉、緑釉流し	黄灰色		89B E-207	SX 01
241	SK6735	美濃陶器	筒形鉢	11.8	6.4	6.5	鉄釉、露胎	鉄釉、底部露胎	黄灰色		89B E-191	SX 01
242	SK6735	美濃陶器	丸鉢	16.8	9.2		灰釉	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-194	SX 01
243	SK6735	瀬戸陶器	丸鉢	21.0	10.3	推13.6	灰釉、トシ痕	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-199	SX 01
244	SK6735	瀬戸陶器	丸鉢	推27.8	14.7	推12.4	灰釉	灰釉、底部露胎	黄白色		89B E-201	SX 01
245	SK6735	瀬戸？陶器	戸車	5.0	1.5		灰釉	灰釉、露胎	黄灰色		89B E-203	SX 01
246	SK6735	瀬戸陶器	戸車	6.9	1.8		灰釉	灰釉、露胎	黄白色		89B E-166	SX 01
247	SK6735	瀬戸美濃陶器	戸車	7.4	1.8		灰釉	灰釉、露胎、墨書	黄白色		89B E-281	SX 01
248	SK6735	瀬戸陶器	十能		4.2	9.9	錆釉	錆釉、静止アラズリ	黄灰色	ひく成形	89B E-177	SX 01
249	SK6735	瀬戸美濃陶器	十能		4.3	推9.4	灰釉	灰釉、呉須絵、重ね焼き痕	黄灰色		89B E-181	SX 01
250	SK6735	瀬戸陶器	小型徳利	2.4	3.9	3.0	灰釉、露胎	灰釉、底部露胎、回転糸切痕	灰白色		89B E-189	SX 01
251	SK6735	美濃？陶器	徳利	3.4	残6.2		錆釉、露胎	錆釉	灰褐色		89B E-230	SX 01
252	SK6735	美濃陶器	徳利	2.8	残7.9		鉄釉、露胎	鉄釉	黄灰色		89B E-186	SX 01
253	SK6735	美濃陶器	徳利	2.4	4.4	11.2	錆釉	錆釉	灰黄色		89B E-184	SX 01
254	SK6735	美濃陶器	徳利		残15.7	7.6	灰釉	鉄釉、灰釉、錆釉、底部露胎	灰黄色		89B E-183	SX 01
255	SK6735	瀬戸美濃陶器	徳利		残18.8	11.2	露胎、一部灰釉	灰釉、高台端部露胎、アラズリの上に呉須絵、トシ痕	灰白色		89B E-188	SX 01
256	SK6735	瀬戸陶器	徳利		残11.3	6.2 3.0	無釉	鉄釉、灰釉、高台端部露胎	黄白色		89B E-182	SX 01
257	SK6735	美濃陶器	徳利		残8.1	6.6	無釉	鉄釉、底部露胎	灰色	底部穿孔	89B E-228	SX 01
258	SK6735	瀬戸陶器	徳利		残6.0		鉄釉、露胎	鉄釉	黄白色	体部穿孔	89B E-256	SX 01
259	SK6735	不明陶器	花瓶		残9.2	5.8	灰釉	露胎、黒色漆、回転糸切痕	黄白色		89B E-261	SX 01
260	SK6735	瀬戸陶器	徳利		残13.1	5.8	無釉	灰釉、高台端部露胎	黄灰白色	口縁部磨減	89B E-185	SX 01
261	SK6735	瀬戸美濃陶器	徳利		残12.3	6.0	無釉	鉄釉、灰釉、底部？	灰白色		89B E-223	SX 01
262	SK6735	美濃陶器	ちろり		残9.5	9.0	灰釉	灰釉、鉄釉、底部露胎	灰白色		89B E-187	SX 01
263	SK6735	美濃陶器	徳利		残5.0		露胎	錆釉	灰色	体部穿孔	89B E-263	SX 01
264	SK6735	常滑？陶器	徳利		残8.7	推7.4	露胎	自然釉、露胎	赤褐色	朱泥？	89B E-265	SX 01
265	SK6735	美濃陶器	小型徳利？		残7.2	5.0	灰釉、露胎	灰釉、底部露胎、墨書	黄白色		89B E-277	SX 01
266	SK6735	美濃陶器	筒形壺	推4.9	残5.3		灰釉、露胎	灰釉	黄灰色		89B E-204	SX 01
267	SK6735	瀬戸陶器	筒形壺	9.8	残6.6		灰釉	灰釉	灰白色	口縁部欠損	89B E-195	SX 01
268	SK6735	瀬戸陶器	筒形壺	推11.4	残9.1		鉄釉	鉄釉、底部露胎	灰白色		89B E-212	SX 01
269	SK6735	瀬戸陶器	丸鉢	18.5	残9.8		灰釉、緑釉流し	灰釉、緑釉流し、底部露胎	黄白色		89B E-210	SX 01
270	SK6735	美濃陶器	水滴		残2.5		露胎	灰釉、型押し	灰白色		89B E-270	SX 01
271	SK6735	瀬戸陶器	不明				磨減	磨減	黄灰色	転用砥石	89B E-257	SX 01
272	SK6735	瀬戸陶器	搦鉢				錆釉、又付着	磨減	黄白色	転用砥石	89B E-260	SX 01
273	SK6735	瀬戸陶器	筒形	推14.5	残7.2		鉄釉	鉄釉	淡褐～灰褐色	口縁部欠損	89B E-209	SX 01
274	SK6735	瀬戸陶器	筒形	推16.9	残7.1		鉄釉	鉄釉	黄灰色	口縁部重ね焼き痕	89B E-208	SX 01
275	SK6735	瀬戸陶器	筒形	推29.4	残17.8		鉄釉	鉄釉	黄灰白色		89B E-198	SX 01
276	SK6735	瀬戸陶器	筒形	推28.1	残16.7		鉄釉	鉄釉	黄灰色	口縁部磨減	89B E-218	SX 01
277	SK6735	常滑陶器	火鉢	推16.0	残5.2		横子、指子	横子、板子	明褐色	赤物	89B E-249	SX 01
278	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	12.5	8.8	10.5	鉄釉、露胎、墨書	鉄釉、底部露胎	黄白色		89B E-280	SX 01
279	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	推20.0	残3.5		緑釉、錆釉	緑釉	黄白色		89B E-215	SX 01
280	SK6735	常滑陶器	火鉢	推27.8	残8.2		横子、横子	横子、板子	黄灰～淡褐色	赤物	89B E-248	SX 01
281	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	推14.9	残5.0		鉄釉、露胎	鉄釉	灰白色		89B E-213	SX 01
282	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	推13.6	残5.8		鉄釉、露胎	鉄釉	灰白色	口縁部磨減	89B E-211	SX 01
283	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	推19.0	残7.0		灰釉	上野釉、うのふ釉	黄白色		89B E-216	SX 01
284	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	推20.4	残10.5		鉄釉、露胎	鉄釉、底部露胎	黄白色	口縁部磨減	89B E-214	SX 01
285	SK6735	瀬戸陶器	搦鉢	推32.4	15.1	13.4	鉄釉、搦目、磨減	鉄釉、回転糸切痕、底部磨減	黄褐色		89B E-236	SX 01
286	SK6735	瀬戸陶器	搦鉢	推33.0	14.7	推13.4	錆釉、搦目	錆釉、底部磨減	黄白色		89B E-200	SX 01
287	SK6735	瀬戸陶器	搦鉢	推34.7	15.2	推15.9	錆釉、搦目、磨減	錆釉、回転糸切痕、底部磨減	黄灰色		89B E-205	SX 01
288	SK6735	瀬戸陶器	搦鉢	推31.7	14.8	推14.1	錆釉、搦目	錆釉	黄灰色		89B E-206	SX 01
289	SK6735	瀬戸陶器	甕	推42.0	残7.0		鉄釉	鉄釉	淡褐色		89B E-219	SX 01
290	SK6735	瀬戸陶器	甕	推26.6	残13.1		鉄釉	鉄釉	灰白色		89B E-220	SX 01
291	SK6735	常滑陶器	甕	推30.2	残16.0		横子、指子	横子、板子	淡褐～灰褐色	赤物	89B E-242	SX 01
292	SK6735	瀬戸陶器	火鉢	残9.2	14.9		露胎、墨書	鉄釉、底部露胎	黄白色		89B E-282	SX 01
293	SK6735	常滑陶器	甕	推68.0	残11.0		横子、指子	横子	淡褐色	口縁部磨減、赤物	89B E-241	SX 01
294	SK6735	常滑陶器	甕	推48.0	残6.7		横子	横子	明褐色	赤物	89B E-244	SX 01
295	SK6735	常滑陶器	井戸側	残15.5	推56.0		横子、指子	横子？	黄褐色	赤物	89B E-255	SX 01
296	SK6735	常滑陶器	筒形鉢	推21.0	残12.5		横子、指子、又付着	高台端部磨減、表面剥離	淡褐色	赤物	89B E-252	SX 01
297	SK6735	常滑陶器	土管	19.6	8.1		横子	横子	明褐色	赤物	89B E-250	SX 01
298	SK6735	常滑陶器	火鉢	推28.6	9.8	推19.0	横子、頸部又付着	横子、指子、砂敷	淡褐色	赤物	89B E-243	SX 01
299	SK6735	常滑陶器	火鉢	27.0	9.8	21.0	横子、指子、又付着	横子、指子、砂敷	淡褐色	赤物	89B E-246	SX 01
300	SK6735	常滑陶器	浅鉢	推31.6	残6.5	推23.5	横子	横子、砂敷	黄褐色	赤物	89B E-247	SX 01
301	SK6735	常滑陶器	平鉢	推36.0	残3.6		横子	横子、指子	淡黄褐色	赤物	89B E-251	SX 01
302	SK6735	常滑陶器	角柱状製品					横子、磨減	灰白～淡褐色	赤物	89B E-254	SX 01

付表2 遺物一覽表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
	303	SK6735	常滑陶器	角柱状製品				ㄱ	灰白色	赤物	89B E-253	SX 01	
	304	SK6735	瓦	軒椼瓦					灰白色		89B E-274	SX 01	
	305	SK6735	瓦	軒椼瓦					灰白色		89B E-273	SX 01	
	306	SK6735	瓦	軒椼瓦					灰白色		89B E-271	SX 01	
	307	SK6735	瓦	軒椼瓦					白色		89B E-272	SX 01	
	308	SK6735	瓦	軒椼瓦					灰白色		89B E-275	SX 01	
	309	SK6735	瓦	平瓦					灰色		89B E-276	SX 01	
	310	SK6735	瓦器	双耳鍋	26.2	14.0	19.1	横ナゲ, ㄴ, 底部調整不明	横ナゲ, ㄱ, 板状圧痕, ㄷ付着	灰色	耳表面剥離	89B E-234	SX 01
	311	SK6735	瓦器	双耳鍋	25.4	8.6		横ナゲ?, ㄴ	指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	灰褐色		89B E-237	SX 01
	312	SK6735	瓦器	双耳鍋	25.0	残13.3		横ナゲ, ㄴ	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	灰褐色		89B E-238	SX 01
	313	SK6735	土師器	内耳? 鍋	推24.8	残9.9		横ナゲ, 板ナゲ, ㄴ?	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	明褐色		89B E-258	SX 01
	314	SK6735	瀬戸陶器	五徳		11.5	推14.2	無軸	無軸	黄白色		89B E-262	SX 01
	315	SK6735	瓦器	釜	12.5	残12.1		ㄴ, ㄱ	横ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	灰白色		89B E-239	SX 01
	316	SK6735	瓦器	釜	12.0	残15.7		横ナゲ, ㄴ	横ナゲ	灰色		89B E-235	SX 01
	317	SK6735	土師器	焙烙鍋	推29.3	残6.6		横ナゲ, 底部調整不明	横ナゲ, ㄱ, ㄷ, 指ナゲ, ㄷ付着	淡褐色		89B E-231	SX 01
	318	SK6735	土師器	焙烙鍋	推29.5	残5.9		横ナゲ, ㄴ, 底部調整不明	指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	黄褐色		89B E-232	SX 01
	319	SK6735	土師器	焙烙鍋	32.4	残6.6		横ナゲ, ㄴ, 底部調整不明	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	灰褐~黒灰色		89B E-233	SX 01
	320	SK6735	土師器	焙烙鍋	推34.0	残7.5		横ナゲ, 底部調整不明	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	淡褐色		89B E-228	SX 01
	321	SK6735	土師器	焙烙鍋	推36.0	残5.6		横ナゲ, 底部調整不明	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	淡褐色		89B E-226	SX 01
	322	SK6735	土師器	焙烙鍋	推40.0	残6.8		ㄴ, ㄴ, 底部調整不明	横ナゲ, 指ナゲ, ㄱ, ㄷ, ㄷ付着	淡褐色		89B E-222	SX 01
	323	SK6735	土師器	人形		4.6			指ナゲ, 彩色(黒)	黄白色	天神, 胎土分析資料14	89B E-283	SX 01
	324	SK6735	土師器	人形		3.1				橙白色	恵比寿	89B E-284	SX 01
	325	SK6735	土師器	人形		残4.9		指ナゲ		黄白色	唐子	89B E-285	SX 01
	326	SK6735	土師器	人形		残8.1				黄白~黒灰色	猿	89B E-286	SX 01
	327	SK6735	土師器	人形		残7.7			彩色(黒)	黄白色	馬+人, 胎土分析資料15	89B E-287	SX 01
	328	SK6735	土師器	人形		残5.8		指ナゲ		橙白~灰白色	猫	89B E-288	SX 01
	329	SK6735	土師器	人形		残5.9				黄灰色	犬	89B E-289	SX 01
	330	SK6735	土師器	人形		残7.2		指ナゲ		黄白色	鷹	89B E-290	SX 01
	331	SK6735	土師器	人形		4.0				橙白色	雀, 胎土分析資料17	89B E-291	SX 01
	332	SK6735	土師器	人形		残6.5		指ナゲ		黄白色	鶏, 胎土分析資料18	89B E-292	SX 01
	333	SK6735	土師器	人形		推5.0		ナゲ		黄白~淡褐色	金魚	89B E-293	SX 01
	334	SK6735	土師器	ミニチュア		2.4				黄灰色	茶室	89B E-294	SX 01
	335	SK6735	土師器	面		残4.4				灰褐色	恵比寿?	89B E-295	SX 01
	336	SK6735	土師器	香炉		4.9		指ナゲ, ㄱ, ㄱ	黒色漆	黄白色	香炉	89B E-296	SX 01
	337	SK6735	土師器	燭台		残7.8		ナゲ	黒色漆	黄白~黒色	鶴	89B E-297	SX 01
	338	SK6735	土師器	燭台		3.3		指ナゲ	黒色漆	黄白~黒色	亀	89B E-298	SX 01
	339	SK6735	瀬戸? 陶器	燭台		4.1		無軸, 指ナゲ	鉄軸	黄褐色	亀	89B E-299	SX 01
	340	SK6735	鉄	釘								89B M- 11	SX 01
	341	SK6735	鉄	留金具								89B M- 12	SX 01
	342	SK6735	銅	飾金具							孔3ヶ	89B M- 13	SX 01
	343	SK6735	銅	煙管								89B M- 14	SX 01
	344	SK6735	鉄	小刀								89B M- 15	SX 01
	345	SK6735	銅	錢貨				微細欠傷			寛永通寶	89B M- 16	SX 01
	346	SK6735	石	礫石							粘板岩	89B S- 1	SX 01
	347	SK6735	石	礫石				微細欠傷			泥質凝灰岩	89B S- 2	SX 01
	348	SK6735	石	礫石							泥質凝灰岩	89B S- 3	SX 01
	349	SK6735	石	礫石							泥質凝灰岩	89B S- 4	SX 01
	350	SK6735	石	礫石							砂質凝灰岩	89B S- 5	SX 01
	351	SK6735	石	礫石							凝灰岩	89B S- 6	SX 01
	352	SK6735	石	硯				微細欠傷			泥質凝灰岩	89B S- 7	SX 01
	353	SK6735	石	硯							泥質凝灰岩	89B S- 8	SX 01
	354	SK6735	石	硯				刻書			粘板岩	89B S- 9	SX 01
	355	SK6735	石	五輪塔							火輪, 花崗岩	89B S- 10	SX 01
	356	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	11.0	5.6	5.2	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-108	SK 45
	357	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	11.0	6.1	5.4	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-102	SK 45
	358	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.4	6.1	5.4	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	黄白色		61B E-101	SK 45
	359	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗		残5.8	5.4	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	黄灰色		61B E-119	SK 45
	360	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.9	6.0	5.8	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄灰色		61B E-111	SK 45
	361	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.1	5.6	5.0	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	淡褐色		61B E-121	SK 45
	362	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	11.0	6.0	5.6	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	灰褐色		61B E-113	SK 45
	363	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	9.5	5.4	4.5	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-122	SK 45
	364	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.8	5.9	5.4	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-106	SK 45
	365	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	12.2	6.7	6.0	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部欠損	黄白色		61B E-109	SK 45
	366	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	11.0	5.9	5.6	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	黄白色		61B E-103	SK 45
	367	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	9.0	5.0	4.8	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	灰白色		61B E-115	SK 45
	368	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.0	5.9	4.8	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-112	SK 45
	369	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	9.3	5.5	4.9	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄灰色		61B E-114	SK 45
	370	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	11.4	6.8	5.8	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	灰色		61B E-116	SK 45
	371	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.8	6.8	4.6	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部啗減	黄白色		61B E-120	SK 45
	372	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	10.6	6.1	5.2	灰軸, 呉須絵	灰軸, 呉須絵, 高台端部欠損	黄白色		61B E-107	SK 45

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
373	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	10.9	6.4	5.3	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-127	SK 45
374	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	9.9	5.5	4.8	灰釉, 呉須絵, 白色付着物	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰色		61B E-104	SK 45
375	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	11.5	6.6	5.3	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-126	SK 45
376	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	12.2	6.8	6.0	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-110	SK 45
377	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	10.6	6.0	5.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄灰色		61B E-118	SK 45
378	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	推10.6	6.5	推 6.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-124	SK 45
379	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	11.4	6.6	5.6	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-117	SK 45
380	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	推11.0	6.5	推 4.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-139	SK 45
381	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	推11.5	6.5	5.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部欠損	白色		61B E-130	SK 45
382	SK6691	関西系?磁器	広東茶碗	12.2	7.3	6.1	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-151	SK 45
383	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	11.3	6.3	5.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-128	SK 45
384	SK6691	瀬戸陶器	広東茶碗	12.0	6.5	6.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-105	SK 45
385	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	推 9.4	5.1	4.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-140	SK 45
386	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	9.4	4.9	4.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-129	SK 45
387	SK6691	美濃陶器	広東茶碗	推11.4	6.1	5.8	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-123	SK 45
388	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	10.8	6.1	5.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-170	SK 45
389	SK6691	瀬戸磁器	広東茶碗	9.5	4.9	4.3	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-125	SK 45
390	SK6691	瀬戸陶器	丸碗	8.8	5.0	3.7	灰釉	灰釉, 呉須絵, 底部露胎, 高台端部露胎, 灰釉, 呉須絵, 底部露胎, 高台端部露胎, 灰釉, 呉須絵, 底部露胎, 高台端部露胎	灰白色		61B E-143	SK 45
391	SK6691	不明磁器	丸碗	9.2	4.8	3.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-149	SK 45
392	SK6691	肥前磁器	丸碗	8.4	5.5	3.6	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-178	SK 45
393	SK6691	瀬戸磁器	丸碗	9.8	5.3	4.3	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-175	SK 45
394	SK6691	関西系磁器	丸碗	7.0	5.6	3.0	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-192	SK 45
395	SK6691	瀬戸陶器	丸碗	推 8.6	5.6	3.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-169	SK 45
396	SK6691	美濃陶器	丸碗	8.1	5.2	3.5	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰黄色		61B E-193	SK 45
397	SK6691	美濃陶器	丸碗	7.2	5.5	3.3	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰色		61B E-177	SK 45
398	SK6691	瀬戸磁器	丸碗	7.6	4.9	4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-158	SK 45
399	SK6691	瀬戸陶器	腰鎗茶碗	9.0	4.8	3.8	灰釉	灰釉, 鉄釉, 高台端部露胎, 高台端部露胎, 灰釉, 鉄釉, 高台端部露胎, 高台端部露胎	黄灰白色		61B E-190	SK 45
400	SK6691	瀬戸陶器	腰鎗茶碗	推 8.8	5.4	4.0	灰釉	灰釉, 鉄釉, 高台端部露胎	灰白色		61B E-184	SK 45
401	SK6691	美濃陶器	鐙茶碗	推 8.0	残 3.7		鉄釉	鉄釉, 灰釉	灰色		61B E-188	SK 45
402	SK6691	瀬戸陶器	鐙茶碗	推 8.8	残 4.7		緑釉	緑釉, 灰釉	黄灰色		61B E-185	SK 45
403	SK6691	瀬戸陶器	丸碗	推10.6	6.6	4.8	灰釉	灰釉, 底部露胎, ハウスリ	黄白色		61B E-181	SK 45
404	SK6691	瀬戸陶器	端反碗	推 9.2	4.5	3.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 付着物	黄白色		61B E-179	SK 45
405	SK6691	瀬戸陶器	端反碗	推 9.6	5.3	3.8	緑釉, 灰釉	緑釉, 灰釉, 高台端部露胎	黄灰色		61B E-187	SK 45
406	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	8.8	5.0	3.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-155	SK 45
407	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	8.9	4.9	3.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-156	SK 45
408	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.1	5.0	3.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-157	SK 45
409	SK6691	不明陶器	端反碗	9.6	5.1	3.6	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-137	SK 45
410	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.6	4.9	4.1	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-194	SK 45
411	SK6691	関西系?磁器	端反碗	9.4	5.1	4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-167	SK 45
412	SK6691	関西系磁器	端反碗	9.6	4.9	4.2	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-174	SK 45
413	SK6691	関西系?磁器	端反碗	9.8	5.1	4.4	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-144	SK 45
414	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.3	5.2	4.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-153	SK 45
415	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.2	5.3	1.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-163	SK 45
416	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.2	4.8	4.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-152	SK 45
417	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.2	5.0	3.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-196	SK 45
418	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	9.0	残 4.0		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-145	SK 45
419	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	8.4	4.4	3.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色	補修痕, グラス継	61B E-199	SK 45
420	SK6691	瀬戸陶器	端反碗	推 8.6	5.0	4.0	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部欠損	灰白色	口縁部欠損	61B E-142	SK 45
421	SK6691	不明陶器	端反碗	12.0	6.0	4.4	透明釉, 白化粧	透明釉, 鉄釉, 高台端部露胎	黄白色		61B E-161	SK 45
422	SK6691	瀬戸陶器	端反碗	11.4	6.6	4.6	長石釉	長石釉, 鉄釉, 高台端部露胎	灰白色		61B E-186	SK 45
423	SK6691	関西陶器	端反碗	推11.8	5.8	推 4.0	透明釉, 白化粧	透明釉, 白化粧, 鉄釉, 高台端部露胎	淡褐色		61B E-176	SK 45
424	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	10.4	6.0	4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-165	SK 45
425	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	10.4	5.6	4.0	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-150	SK 45
426	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	推11.0	5.9	推 4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-162	SK 45
427	SK6691	瀬戸?磁器	端反碗	10.6	5.8	4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-147	SK 45
428	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	10.7	6.0	4.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-138	SK 45
429	SK6691	関西系?磁器	端反碗	10.8	5.6	4.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-168	SK 45
430	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	11.8	6.1	4.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-159	SK 45
431	SK6691	瀬戸磁器	丸碗	12.4	6.3	6.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-154	SK 45
432	SK6691	瀬戸陶器	端反碗	10.8	5.3	4.1	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-189	SK 45

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
	433	SK6691	瀬戸磁器	端反碗	11.4	6.5	4.7	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色	ガラス継, 赤色漆	61B E-160	SK 45
	434	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	7.0	5.9	3.3	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-136	SK 45
	435	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	7.0	5.7	3.6	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-134	SK 45
	436	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	7.0	5.8	3.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-133	SK 45
	437	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	6.8	6.2	3.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-131	SK 45
	438	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	7.0	5.9	3.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-135	SK 45
	439	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	6.9	5.5		灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-132	SK 45
	440	SK6691	瀬戸磁器	箱形湯呑	7.8	6.3	4.7	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色	口縁端部磨減	61B E-164	SK 45
	441	SK6691	肥前磁器	箱形湯呑	8.0	5.9	5.0	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-294	SK 45
	442	SK6691	瀬戸陶器	箱形湯呑	7.2	6.5	4.0	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-173	SK 45
	443	SK6691	肥前磁器	箱形湯呑	7.4	5.9	4.2	透明釉, 呉須絵	青磁釉, 高台端部露胎	灰白色		61B E-166	SK 45
	444	SK6691	肥前磁器	箱形湯呑	6.9	5.4	3.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-295	SK 45
	445	SK6691	関西系?磁器	箱形湯呑	7.1	5.9	3.6	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-146	SK 45
	446	SK6691	関西系?磁器	箱形湯呑	推 7.4	6.0	3.6	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-141	SK 45
	447	SK6691	美濃陶器	箱形湯呑	7.0	5.5	4.0	灰釉	灰釉, 鉄絵, 呉須絵, 底部露胎	灰色		61B E-172	SK 45
	448	SK6691	瀬戸美濃陶器	箱形湯呑	7.4	5.4	3.6	灰釉	灰釉, 鉄絵, 高台端部露胎	白色		61B E-171	SK 45
	449	SK6691	木	木胎漆器椀	残 5.0	5.8		赤色漆	赤色漆			61B W- 1	SK 45
	450	SK6691	木	木胎漆器椀	残 4.4	5.0		赤色漆	赤色漆, 高台内黒色漆			61B W- 2	SK 45
	451	SK6691	木	木胎漆器椀	残 3.7			黒色漆	黒色漆, 文様赤色漆			61B W- 3	SK 45
	452	SK6691	木	木胎漆器椀	残 2.7			黒色漆	黒色漆			61B W- 4	SK 45
	453	SK6691	木	木胎漆器椀	残 3.0	8.0		黒色漆	茶色漆			61B W- 5	SK 45
	454	SK6691	木	木胎漆器椀	残 3.3	5.5		赤色漆	黒色漆			61B W- 6	SK 45
	455	SK6691	木	木胎漆器椀	残 3.3	7.4		黒色漆	茶色漆			61B W- 7	SK 45
	456	SK6691	木	木胎漆器椀	残 3.2	6.5		黒色漆	黒色漆			61B W- 8	SK 45
	457	SK6691	瀬戸陶器	拳骨茶碗	10.7	7.6	5.0	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 墨書	灰白色		61B E-180	SK 45
	458	SK6691	瀬戸陶器	杵茶碗	推 11.0	7.1	5.5	長石釉	長石釉, 鉄絵, 底部露胎	白色		61B E-182	SK 45
	459	SK6691	瀬戸陶器	丸碗	11.3	6.5	4.3	鉄釉, うのふ釉	鉄釉, うのふ釉, 底部露胎	黄灰色	「景正」スタンプ	61B E-183	SK 45
	460	SK6691	瀬戸陶器	小碗	7.4	5.7	3.8	灰釉	灰釉, 鉄絵, 底部露胎	黄白色		61B E-148	SK 45
	461	SK6691	瀬戸陶器	小碗	7.1	4.1	3.4	灰釉	灰釉, 底部露胎	黄白色		61B E-191	SK 45
	462	SK6691	美濃陶器	小碗	6.1	4.0	3.1	灰釉	灰釉, 底部露胎, 一部スタンプ	黄白色		61B E-222	SK 45
	463	SK6691	瀬戸陶器	小碗	6.2	3.9	2.9	灰釉	灰釉, 底部露胎	黄灰色		61B E-221	SK 45
	464	SK6691	関西系磁器	小碗	7.1	5.1	3.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-197	SK 45
	465	SK6691	関西系磁器	小碗	7.0	4.7	3.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, ガラス継文字	白色	ガラス継	61B E-198	SK 45
	466	SK6691	瀬戸陶器	小碗	7.1	3.2	2.8	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰黄色		61B E-225	SK 45
	467	SK6691	瀬戸陶器	小碗	7.1	3.6	2.9	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰黄色		61B E-224	SK 45
	468	SK6691	瀬戸陶器	小碗	7.0	3.6	2.9	灰釉, 緑釉	灰釉, 呉須絵, 緑釉, 高台端部露胎	黄色		61B E-223	SK 45
	469	SK6691	関西系磁器	小碗	推 8.8	3.1	推 2.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-195	SK 45
	470	SK6691	肥前磁器	小碗	推 5.5	3.6	推 2.2	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-218	SK 45
	471	SK6691	肥前磁器	小碗	推 7.7	3.4	2.4	透明釉	透明釉, 上絵付(赤, 緑, 黄), 高台端部露胎	白色		61B E-217	SK 45
	472	SK6691	肥前磁器	小碗	7.4	3.7	2.4	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 除刻文	白色		61B E-220	SK 45
	473	SK6691	瀬戸?磁器	小碗	6.5	3.1	2.6	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-216	SK 45
	474	SK6691	美濃陶器	小碗	5.6	2.6	2.6	灰釉	灰釉, 底部露胎	灰黄色		61B E-228	SK 45
	475	SK6691	瀬戸磁器	小碗	推 7.2	3.7	2.3	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-214	SK 45
	476	SK6691	肥前磁器	猪口	8.7	6.3	5.5	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-210	SK 45
	477	SK6691	瀬戸陶器	猪口	推 7.4	6.4	4.6	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 高台端部磨減	黄白~淡褐色		61B E-208	SK 45
	478	SK6691	瀬戸陶器	猪口	7.4	5.5	4.4	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台一部欠損	黄白色		61B E-209	SK 45
	479	SK6691	瀬戸磁器	猪口	6.4	5.4	4.6	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄灰色		61B E-207	SK 45
	480	SK6691	瀬戸陶器	小杯	6.8	4.6	3.5	灰釉	灰釉, 高台端部露胎	灰黄色		61B E-202	SK 45
	481	SK6691	瀬戸?磁器	猪口	4.5	2.7	2.6	透明釉	透明釉, 高台端部露胎	白色		61B E-219	SK 45
	482	SK6691	肥前磁器	猪口	6.5	5.2	4.5	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-206	SK 45
	483	SK6691	瀬戸陶器	猪口	推 7.2	5.6	推 4.6	灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 一部欠損	黄白色		61B E-203	SK 45
	484	SK6691	瀬戸陶器	猪口	推 7.4	残 5.6		灰釉	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎, 一部欠損	黄白色		61B E-205	SK 45
	485	SK6691	瀬戸陶器	小杯	推 7.0	4.6	3.2	灰釉	灰釉, 高台端部露胎, 一部欠損	灰白色		61B E-204	SK 45
	486	SK6691	不明磁器	小碗		残 1.4	2.6	透明釉, 上絵付(赤, 黄, 緑, 茶)	透明釉, 高台端部露胎	白色		61B E-212	SK 45
	487	SK6691	肥前磁器	小碗	5.6	残 3.1		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵	白色		61B E-211	SK 45
	488	SK6691	不明磁器	小碗	5.4	3.6	3.0	透明釉	透明釉, 高台端部露胎	白色		61B E-226	SK 45
	489	SK6691	肥前磁器	小碗	4.9	2.3	1.8	透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-227	SK 45
	490	SK6691	瀬戸陶器	仏飯具	6.8	5.0	4.7	灰釉	灰釉, 呉須絵, 底部露胎	黄白色		61B E-236	SK 45
	491	SK6691	不明磁器	仏飯具	6.5	5.4	4.0	透明釉	透明釉, 呉須絵, 底部露胎	白色		61B E-239	SK 45
	492	SK6691	不明磁器	仏飯具	6.5	4.7	2.6	透明釉	透明釉, 呉須絵, 底部露胎	白色		61B E-235	SK 45
	493	SK6691	不明磁器	仏飯具	6.7	4.4	5.1	透明釉	透明釉, 呉須絵, 底部露胎	黄白色		61B E-234	SK 45
	494	SK6691	肥前磁器	仏飯具	6.3	5.9	3.7	透明釉	透明釉, 呉須絵, 底部露胎	白色		61B E-240	SK 45
	495	SK6691	美濃陶器	仏飯具	6.5	5.4	4.8	灰釉	灰釉, 呉須絵, 底部露胎	灰色		61B E-238	SK 45

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
496	SK6691	肥前磁器	仏飯具	6.6	5.0	4.9	透明釉	透明釉, 上絵付(赤), 底部露胎	灰色		61B E-237	SK 45
497	SK6691	美濃陶器	仏飯具	推 6.2	4.3	3.6	灰釉	灰釉, 底部露胎	灰黄色		61B E-233	SK 45
498	SK6691	肥前磁器	小型皿	10.1	2.6	2.3	透明釉	透明釉, 高台端部露胎	白色		61B E-251	SK 45
499	SK6691	肥前磁器	小型皿	4.4	1.1	0.6	透明釉	透明釉, 底部露胎	白色		61B E-254	SK 45
500	SK6691	肥前磁器	小型皿	4.6	2.1	1.4	透明釉	透明釉, 底部露胎	白色		61B E-252	SK 45
501	SK6691	肥前磁器	小型皿	4.5	1.5	1.4	透明釉	透明釉, 底部露胎	白色		61B E-253	SK 45
502	SK6691	木	木胎漆器杯	11.6	残 2.7		赤色漆	赤色漆		口縁部黒色漆	61B W- 9	SK 45
503	SK6691	木	木胎漆器杯	9.6	3.0	3.6	赤色漆, 文様金色漆	赤色漆, 文字黒色漆			61B W- 10	SK 45
504	SK6691	瀬戸陶器	乗燭	4.5	4.0	3.9	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 回転糸切痕	黄灰色		61B E-231	SK 45
505	SK6691	瀬戸陶器	乗燭	6.8	5.3	5.4	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 回転糸切痕, 墨書	黄灰色		61B E-232	SK 45
506	SK6691	美濃陶器	乗燭	6.6	4.5	5.6	灰釉	灰釉, 底部露胎	黄灰色	口縁部露胎	61B E-300	SK 45
507	SK6691	関西系磁器	小杯	推 8.4	残 2.4		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵	白色		61B E-215	SK 45
508	SK6691	不明磁器	小杯	推 8.0	2.9	3.0	透明釉, 呉須絵	透明釉	白色		61B E-213	SK 45
509	SK6691	肥前磁器	小杯	8.5	3.6	3.5	透明釉, 上絵付(赤, 紫, 青, 黒)	透明釉, 上絵付(赤), 高台端部露胎	白色		61B E-200	SK 45
510	SK6691	美濃陶器	無高台皿	7.0	1.5	3.2	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色		61B E-244	SK 45
511	SK6691	瀬戸磁器	無高台皿	10.2	1.8	2.6	透明釉	透明釉, 底部露胎, ス付着	白色		61B E-255	SK 45
512	SK6691	瀬戸磁器	無高台皿	8.0	1.6	2.2	透明釉	透明釉, 露胎	白色	タ-付着, グラス継	61B E-257	SK 45
513	SK6691	瀬戸陶器	無高台皿	8.3	2.0	5.8	灰釉	灰釉, 露胎, 回転糸切痕	黄白色	口縁部磨減	61B E-260	SK 45
514	SK6691	美濃陶器	無高台皿	8.0	2.0	5.5	灰釉	灰釉, 露胎, 回転糸切痕	灰白色		61B E-259	SK 45
515	SK6691	美濃陶器	無高台皿	10.0	2.1	4.0	鉄釉, 重ね焼き痕	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	淡褐色	タ-付着	61B E-248	SK 45
516	SK6691	美濃陶器	無高台皿?	推12.0	残 1.4		灰釉	灰釉, 露胎	黄灰色		61B E-258	SK 45
517	SK6691	美濃陶器	灯臺	6.8	1.7	3.0	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色		61B E-245	SK 45
518	SK6691	美濃陶器	灯臺	7.6	1.8	3.6	鉄釉	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	灰色		61B E-250	SK 45
519	SK6691	美濃陶器	灯臺	10.0	2.2	4.9	鉄釉, 重ね焼き痕	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色		61B E-241	SK 45
520	SK6691	美濃陶器	灯臺	9.9	2.0	4.6	鉄釉, 重ね焼き痕	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色		61B E-243	SK 45
521	SK6691	美濃陶器	灯臺	推10.2	1.8	4.0	鉄釉, 重ね焼き痕	鉄釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	灰黄色		61B E-247	SK 45
522	SK6691	美濃陶器	灯臺	10.1	2.4	4.7	灰釉, 重ね焼き痕	灰釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色	タ-付着, 口縁部欠損	61B E-242	SK 45
523	SK6691	美濃?陶器	灯臺	10.4	2.5	4.8	灰釉	灰釉, 底部露胎, 重ね焼き痕	黄白色		61B E-249	SK 45
524	SK6691	中国磁器	端反皿	17.0	4.2	推 9.4	透明釉	透明釉, 高台端部露胎	白色	16世紀	61B E-256	SK 45
525	SK6691	関西系磁器	丸碗	7.8	4.9	推 3.2	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色	ガラス継	61B E-426	SK 45
526	SK6691	不明陶器	非円形皿		2.5		上野釉	露胎, 鉄釉, 張付文, スラフ紋	黄白色	貝形	61B E-277	SK 45
527	SK6691	瀬戸美濃陶器	戸車	4.7	1.3		灰釉, 露胎	灰釉, 露胎	灰白色		61B E-352	SK 45
528	SK6691	瀬戸美濃陶器	戸車	3.9	1.2		灰釉, 露胎	灰釉, 露胎	白色		61B E-351	SK 45
529	SK6691	瀬戸美濃陶器	戸車	7.4	1.9		灰釉, 露胎	灰釉, 露胎	黄灰色		61B E-353	SK 45
530	SK6691	瀬戸陶器	鉢皿		残 3.5		錆釉	錆釉	黄灰色	叩成形	61B E-289	SK 45
531	SK6691	瀬戸陶器	十能		4.4		錆釉	錆釉	黄白色	叩成形	61B E-290	SK 45
532	SK6691	瀬戸陶器	十能		4.2		錆釉	錆釉	淡褐色	叩成形	61B E-288	SK 45
533	SK6691	肥前磁器	丸皿	12.9	3.3	7.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色	口紅	61B E-264	SK 45
534	SK6691	肥前磁器	丸皿	13.0	2.9	7.1	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-269	SK 45
535	SK6691	肥前磁器	丸皿	推17.0	4.4	推10.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-262	SK 45
536	SK6691	肥前磁器	丸皿	推16.8	5.1	推 8.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-275	SK 45
537	SK6691	肥前磁器	丸皿	13.0	3.2	6.5	透明釉, 呉須絵, 輪壳	透明釉, 高台端部露胎	白色	波佐見	61B E-268	SK 45
538	SK6691	肥前磁器	丸皿	13.2	3.1	6.7	透明釉, 呉須絵, 輪壳	透明釉, 高台端部露胎	白色	波佐見	61B E-267	SK 45
539	SK6691	肥前磁器	丸皿	推14.0	3.4	推 6.8	透明釉, 呉須絵, 輪壳	透明釉, 高台端部露胎	白色	波佐見	61B E-265	SK 45
540	SK6691	肥前磁器	丸皿	推13.1	3.0	推 7.2	透明釉, 呉須絵, 輪壳	透明釉, 高台端部露胎	白色	波佐見	61B E-266	SK 45
541	SK6691	肥前磁器	丸皿	15.6	4.1	9.0	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 蛇の目高台軸刺ぎ, グラス継文字	白色	ガラス継	61B E-261	SK 45
542	SK6691	美濃陶器	丸皿	10.6	3.3	7.8	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 蛇の目高台軸刺ぎ	灰白色		61B E-293	SK 45
543	SK6691	美濃陶器	丸皿	12.6	3.4	7.4	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 蛇の目高台軸刺ぎ	灰白色		61B E-292	SK 45
544	SK6691	瀬戸磁器	丸皿	推13.2	8.0	3.5	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 蛇の目高台軸刺ぎ	灰白色		61B E-273	SK 45
545	SK6691	肥前磁器	丸皿	8.4	1.3	5.5	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-297	SK 45
546	SK6691	瀬戸磁器	腰折皿	10.4	2.7	4.6	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-270	SK 45
547	SK6691	肥前磁器	丸皿	推13.0	2.9	推 8.4	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色	口紅	61B E-272	SK 45
548	SK6691	肥前磁器	丸皿	推14.4	3.6	推 8.8	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 蛇の目高台軸刺ぎ	黄白色		61B E-271	SK 45
549	SK6691	肥前磁器	丸皿	16.0	4.5	8.4	透明釉, 呉須絵	青磁釉, 蛇の目高台軸刺ぎ	白色		61B E-263	SK 45
550	SK6691	不明陶器	丸皿	14.9	5.5	8.8	灰釉, 白化粧	灰釉, 白化粧, 高台端部露胎	灰白色		61B E-283	SK 45
551	SK6691	瀬戸美濃陶器	丸皿	11.2	3.2	5.2	灰釉, 鉄絵, 輪壳	灰釉, 底部露胎	黄灰色		61B E-291	SK 45
552	SK6691	美濃陶器	丸皿	11.4	2.9	6.4	灰釉, 鉄絵, 輪壳	灰釉, 高台端部露胎	黄白色		61B E-296	SK 45
553	SK6691	瀬戸陶器	丸皿	11.1	3.5	4.6	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-299	SK 45
554	SK6691	瀬戸陶器	丸皿	13.4	5.1	7.0	灰釉, 呉須絵	灰釉, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-274	SK 45
555	SK6691	瀬戸陶器	大皿	推22.6	5.4	推10.8	灰釉, 鉄絵, ビン痕	灰釉, 高台端部露胎, ス付着	暗黄灰色		61B E-276	SK 45
556	SK6691	瀬戸陶器	大皿	19.0	5.6	8.6	緑釉, 印花	緑釉, 底部露胎, 黒色付着物	灰白色		61B E-280	SK 45
557	SK6691	瀬戸陶器	大皿	20.3	5.8	9.0	灰釉, ビン痕	灰釉, 底部露胎, 高台端部磨減	黄灰色		61B E-284	SK 45
558	SK6691	瀬戸陶器	大皿	21.4	4.1	10.5	灰釉, 鉄絵, 呉須絵	灰釉, 底部露胎	灰黄色		61B E-282	SK 45
559	SK6691	瀬戸陶器	盤(行灯皿)	19.5	2.5	14.2	灰釉, 鉄絵, ビン痕	灰釉, 底部露胎, ス付着	黄白色		61B E-281	SK 45
560	SK6691	瀬戸陶器	大皿	21.0	5.3	10.3	長石釉, 鉄絵, ビン痕	長石釉, 底部露胎	黄灰色		61B E-278	SK 45
561	SK6691	瀬戸陶器	大皿	20.7	4.3	11.2	長石釉, 鉄絵, ビン痕	長石釉, 鉄絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-279	SK 45
562	SK6691	美濃陶器	蓋	6.9	1.3		露胎	灰釉	黄白色		61B E-333	SK 45
563	SK6691	美濃陶器	蓋	9.8	1.4		露胎	灰釉	灰白色		61B E-332	SK 45
564	SK6691	美濃陶器	蓋	11.4	1.5		露胎	灰釉	黄白色		61B E-331	SK 45

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
565	SK6691	美濃陶器	蓋	6.4	1.5	4.6	露胎	灰釉, 双付着	淡灰褐色		618 E-338	SK 45
566	SK6691	美濃陶器	蓋	6.4	1.9	5.1	露胎, 回転糸切痕	長石釉	灰色		618 E-339	SK 45
567	SK6691	美濃陶器	蓋	7.0	2.6	5.1	露胎	鉄釉	黄褐色	口縁部双付着	618 E-319	SK 45
568	SK6691	美濃陶器	蓋	5.0	1.6	3.6	露胎	鉄釉	灰黄色		618 E-320	SK 45
569	SK6691	美濃陶器	蓋	7.6	1.8	6.0	露胎	灰釉, 露胎, 双付着	灰黄色		618 E-336	SK 45
570	SK6691	瀬戸?陶器	蓋	8.2	2.4	4.8	露胎, 3', 回転糸切痕	鉄釉	灰褐色	口縁部磨減	618 E-318	SK 45
571	SK6691	不明陶器	蓋	6.2	2.6	1.3	無釉	自然釉	紫褐色	常滑か万古	618 E-482	SK 45
572	SK6691	不明陶器	蓋	推6.0	0.9	推2.8	無釉, 回転糸切痕	自然釉	黒灰色		618 E-483	SK 45
573	SK6691	備前陶器	蓋	推2.0	0.9		無釉	自然釉	紫褐色		618 E-485	SK 45
574	SK6691	美濃陶器	蓋	3.1	残3.1		露胎	灰釉, 露胎	灰白色		618 E-323	SK 45
575	SK6691	不明陶器	蓋	4.5	2.2		無釉	無釉, 頂部(ハ切り)	黒褐色		618 E-484	SK 45
576	SK6691	美濃陶器	蓋	3.5	1.2	2.9	露胎, 回転糸切痕	長石釉(一部鉄斑)	灰白色		618 E-334	SK 45
577	SK6691	美濃陶器	蓋	6.0	1.8	3.6	露胎, 回転糸切痕	長石釉	灰黄色		618 E-335	SK 45
578	SK6691	瀬戸磁器	蓋	6.0	2.5		透明釉	透明釉, 呉須絵	白色	口縁部露胎	618 E-340	SK 45
579	SK6691	美濃陶器	蓋	推5.0	残2.2		露胎	長石釉, 鉄絵, 露胎	淡褐色		618 E-327	SK 45
580	SK6691	美濃陶器	蓋	9.0	1.8		無釉	灰釉, 呉須絵, 列点文3条	灰黄色		618 E-481	SK 45
581	SK6691	瀬戸陶器	蓋	6.4	2.4		露胎, 錆釉	鉄釉, 錆釉, 露胎	黄灰色		618 E-312	SK 45
582	SK6691	美濃陶器	蓋	推7.2	残1.2		灰釉	灰釉	黄白色	口縁部露胎	618 E-328	SK 45
583	SK6691	美濃陶器	蓋	7.8	残2.4		露胎	灰釉, 露胎	灰白色		618 E-326	SK 45
584	SK6691	美濃陶器	蓋	推11.0	残2.2		薄い灰釉	灰釉, 露胎	灰黄色		618 E-324	SK 45
585	SK6691	美濃陶器	蓋	2.4	1.3		露胎	灰釉, 露胎	黄灰色		618 E-337	SK 45
586	SK6691	美濃陶器	蓋	6.0	3.1		露胎	鉄釉, 露胎, 双付着	白色		618 E-311	SK 45
587	SK6691	美濃陶器	蓋	7.9	3.1		露胎	灰釉, 露胎	黄白色		618 E-329	SK 45
588	SK6691	美濃陶器	蓋	7.7	3.9		露胎	灰釉, 露胎	淡褐色		618 E-325	SK 45
589	SK6691	美濃陶器	蓋	14.6	残2.5		露胎	鉄釉, 露胎	黄白色		618 E-330	SK 45
590	SK6691	瀬戸陶器	蓋	5.8	4.8		露胎	緑釉, 露胎	黄白色		618 E-321	SK 45
591	SK6691	瀬戸陶器	蓋	6.6	残3.0		薄い灰釉	灰釉, 呉須絵, 鉄絵, 露胎	黄白色		618 E-322	SK 45
592	SK6691	美濃陶器	蓋	6.0	2.5		露胎	鉄釉, 灰釉流し, 双付着	白色		618 E-313	SK 45
593	SK6691	瀬戸陶器	蓋	8.4	2.7		露胎	灰釉, 鉄絵	黄灰色	口縁部欠損	618 E-314	SK 45
594	SK6691	美濃陶器	蓋	推15.2	残2.7		灰釉, 露胎	灰釉	黄白色		618 E-317	SK 45
595	SK6691	瀬戸美濃陶器	蓋	19.5	3.9		灰釉, ビン痕	灰釉, 高台端部露胎	黄白色	口縁部欠損	618 E-285	SK 45
596	SK6691	関西系磁器	蓋	10.0	2.9		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-309	SK 45
597	SK6691	瀬戸磁器	蓋	9.6	3.1		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-304	SK 45
598	SK6691	肥前磁器	蓋	9.8	2.8		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-301	SK 45
599	SK6691	瀬戸磁器	蓋	8.8	2.7		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-310	SK 45
600	SK6691	肥前磁器	蓋	9.7	2.8		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-303	SK 45
601	SK6691	肥前磁器	蓋	9.8	2.6		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		618 E-302	SK 45
602	SK6691	瀬戸磁器	蓋	9.2	2.8		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-308	SK 45
603	SK6691	美濃陶器	蓋	推9.0	2.7		長石釉, 鉄絵	長石釉, 鉄絵, 高台端部露胎	灰白色		618 E-316	SK 45
604	SK6691	瀬戸磁器	蓋	8.6	2.4		透明釉	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-306	SK 45
605	SK6691	瀬戸陶器	蓋	9.6	2.7		灰釉	灰釉, 鉄絵, 呉須絵, 高台端部露胎	淡褐色		618 E-315	SK 45
606	SK6691	関西系磁器	蓋	9.2	2.7		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		618 E-305	SK 45
607	SK6691	瀬戸磁器	蓋	7.6	2.5		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵	白色		618 E-307	SK 45
608	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	14.0	7.4	6.4	灰釉	灰釉, 露胎	黄灰色		618 E-433	SK 45
609	SK6691	瀬戸美濃陶器	丸鉢	17.6	4.7		灰釉, うのふ軸流し	灰釉, 鉄釉	灰白色		618 E-441	SK 45
610	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢		残6.4	5.4	灰釉, 上野釉, 緑釉	灰釉, うのふ軸, 錆釉, 高台端部露胎, 磨減	黄白色		618 E-435	SK 45
611	SK6691	瀬戸美濃陶器	丸鉢	18.4	9.2	8.0	透明釉, うのふ軸, 上野釉, 黒化粧	透明釉, うのふ軸+上野釉流し, 黒化粧, 高台端部露胎, 磨減	黄白色		618 E-411	SK 45
612	SK6691	美濃陶器	丸鉢	推19.6	残6.1		鉄釉, 上野釉+うのふ軸流し	鉄釉	白色		618 E-440	SK 45
613	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	推20.8	残6.5		上野釉	上野釉, 錆釉	黄白色		618 E-439	SK 45
614	SK6691	美濃陶器	丸鉢	19.2	9.7	9.0	灰釉, ビン痕	灰釉, 底部露胎	灰白色		618 E-394	SK 45
615	SK6691	美濃陶器	丸鉢	19.0	9.8	12.9	灰釉, トシ痕	灰釉, 底部露胎	黄灰色		618 E-413	SK 45
616	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	20.0	10.4	13.2	灰釉, 露胎, トシ痕	灰釉, 底部露胎	白色		618 E-414	SK 45
617	SK6691	美濃陶器	丸鉢	10.7	5.2	5.4	灰釉	灰釉, 底部露胎	黄灰色		618 E-421	SK 45
618	SK6691	不明陶器	丸鉢	17.3	8.2	7.7	透明釉, 白化粧, 鉄絵, 呉須絵	透明釉, 高台端部露胎	黒灰色		618 E-286	SK 45
619	SK6691	瀬戸磁器	丸鉢	推18.0	残6.7		透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵	白色		618 E-298	SK 45
620	SK6691	瀬戸陶器	非円形鉢	13.5	7.5	7.0	長石釉, 鉄絵	長石釉, 鉄絵, 高台端部露胎	灰黄色	六角形	618 E-287	SK 45
621	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	31.8	17.3	15.0	灰釉, トシ痕	灰釉, 緑釉流し, 底部露胎	黄白色		618 E-461	SK 45
622	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	34.0	17.9	15.7	灰釉, トシ痕	灰釉, 緑釉流し, 底部露胎, 高台端部磨減	淡褐~灰白色	口縁部磨減	618 E-474	SK 45
623	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	29.0	17.0	17.0	灰釉, 緑釉流し, トシ痕	灰釉, 緑釉流し, 底部露胎, 高台端部磨減	黄白色		618 E-475	SK 45
624	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	36.1	14.8	15.0	鉄釉, 搦目, 磨減, スグ	鉄釉, 底部磨減	黄白色		618 E-463	SK 45
625	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	35.0	14.6	15.0	鉄釉, 搦目	鉄釉, 底部回転ハズリ	黄白色		618 E-462	SK 45
626	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	37.6	15.3	16.6	鉄釉, 搦目, スグ	鉄釉, 底部回転ハズリ	黄白色		618 E-455	SK 45
627	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	32.0	13.7	13.6	鉄釉, 搦目, 磨減	鉄釉, 底部回転ハズリ	黄白色		618 E-464	SK 45
628	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	推35.8	14.1	15.8	鉄釉, トシ痕	鉄釉, 底部回転ハズリ, 磨減	黄白色		618 E-429	SK 45
629	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	推32.6	13.0	15.0	鉄釉, 凸部のみや磨減	鉄釉, 回転糸切痕	黄白色		618 E-431	SK 45
630	SK6691	瀬戸陶器	搦鉢	35.0	14.7	15.6	鉄釉, 搦目, 磨減, 墨書	鉄釉, 底部回転ハズリ	黄白色		618 E-453	SK 45

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
631	SK6691	瀬戸陶器	播鉢	推32.6	12.5	14.6	鉄軸, 播目, 磨減	鉄軸, 底部回転ヘラズリ	黄白色		61B E-454	SK 45
632	SK6691	美濃陶器	小型鉢	6.0	3.8	3.9	鉄軸	鉄軸, 底部露胎	黄灰~灰色		61B E-400	SK 45
633	SK6691	瀬戸陶器	小型鉢	6.6	3.0	3.6	灰軸	灰軸, 底部露胎	黄色		61B E-229	SK 45
634	SK6691	瀬戸陶器	小型鉢	推 6.0	6.1	3.3	灰軸	灰軸, 底部露胎	黄白色		61B E-201	SK 45
635	SK6691	美濃陶器	小型鉢	6.2	3.7	4.3	灰軸	灰軸, 底部露胎, 回転糸切痕	灰黄色		61B E-399	SK 45
636	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	7.6	残 3.6	4.4	無軸	灰軸, 底部露胎	黄白色		61B E-416	SK 45
637	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	8.4	4.5	5.4	灰軸, 露胎	灰軸, 底部露胎	灰白色		61B E-356	SK 45
638	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	11.0	9.3	7.0	灰軸, 露胎	灰軸, 鉄軸, 底部露胎	黄灰色		61B E-362	SK 45
639	SK6691	瀬戸磁器	小型鉢	推 8.6	6.4	推 4.0	透明釉, 呉須絵	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-427	SK 45
640	SK6691	美濃陶器	植木鉢	推17.0	残 9.1		灰軸, 露胎	灰軸	灰白色		61B E-418	SK 45
641	SK6691	瀬戸陶器	植木鉢	20.8	残 6.3		鉄軸, 錆軸	鉄軸	灰白色		61B E-419	SK 45
642	SK6691	瀬戸陶器	植木鉢	23.3	16.8	15.3	灰軸, 露胎	灰軸, 底部露胎	黄白色		61B E-407	SK 45
643	SK6691	瀬戸陶器	植木鉢	12.8	12.8	8.4	鉄軸, 露胎	鉄軸, 露胎	淡褐色	焼成後穿孔	61B E-412	SK 45
644	SK6691	瀬戸陶器	植木鉢	10.0	11.3	8.3	鉄軸, 露胎	鉄軸, 露胎	黄褐色	口縁部欠損	61B E-420	SK 45
645	SK6691	瀬戸美濃陶器	筒形鉢	12.2	10.9	6.7	灰軸	鉄軸, 鉄軸, 底部露胎, 磨減	黄白色	口縁部露胎, 磨減	61B E-395	SK 45
646	SK6691	瀬戸陶器	筒形鉢	26.0	26.0	18.7	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎, 高台端部磨減	黄褐色		61B E-470	SK 45
647	SK6691	瀬戸陶器	筒形鉢	25.5	22.7	15.6	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎	黄白色		61B E-471	SK 45
648	SK6691	瀬戸陶器	瓶掛	24.4	25.0	24.8	緑軸, 薄い錆軸	緑軸, 底部露胎	黄白色		61B E-476	SK 45
649	SK6691	瀬戸陶器	瓶掛	20.0	18.1	17.4	上野軸, 灰軸, 錆軸, トシ痕	上野軸, 灰軸, 鉄軸, 錆軸	黄白色	口縁部磨減	61B E-467	SK 45
650	SK6691	瀬戸美濃陶器	壺	推30.0	30.0	推22.0	鉄軸	鉄軸, 底部露胎, 磨減	乳白色		61B E-524	SK 45
651	SK6691	瀬戸美濃陶器	壺	16.8	15.5	12.0	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎	灰黄白色		61B E-452	SK 45
652	SK6691	瀬戸美濃陶器	壺	18.6	15.7	13.0	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎	灰白色		61B E-456	SK 45
653	SK6691	美濃陶器	壺	24.0	21.7	17.4	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎, 高台端部磨減	灰白色		61B E-466	SK 45
654	SK6691	瀬戸陶器	壺	21.0	21.2	14.5	鉄軸, トシ痕	鉄軸, 底部露胎	黄白色		61B E-472	SK 45
655	SK6691	美濃陶器	筒形壺	6.5	5.2	8.0	無軸	灰軸, 底部露胎	灰色		61B E-359	SK 45
656	SK6691	美濃陶器	筒形壺	7.6	10.3	7.8	無軸	灰軸, 底部露胎	灰色		61B E-361	SK 45
657	SK6691	瀬戸陶器	筒形壺	6.8	11.1	7.0	鉄軸	鉄軸, 底部錆軸, 高台磨減	黄白色		61B E-363	SK 45
658	SK6691	美濃陶器	筒形壺	推11.6	残 9.0		鉄軸, 露胎	鉄軸	黄灰色	口縁部磨減	61B E-423	SK 45
659	SK6691	瀬戸陶器	火鉢	18.0	16.8	17.4	灰軸, 鉄軸	灰軸, 上野軸+うのふ軸流し, 錆軸	黄白色	口縁部磨減, 刃付着	61B E-465	SK 45
660	SK6691	瀬戸陶器	火鉢	推22.4	残11.0		灰軸, 薄い錆軸	灰軸, 上野軸	灰白色	口縁部磨減, 刃付着	61B E-438	SK 45
661	SK6691	美濃陶器	筒形壺	11.0	15.0	8.6	灰軸, 露胎	灰軸, 底部露胎	黄白色	口縁部露胎	61B E-408	SK 45
662	SK6691	美濃陶器	筒形壺	10.2	22.8	11.2	鉄軸, 露胎	鉄軸, 底部露胎	黄灰色	口縁部露胎	61B E-384	SK 45
663	SK6691	瀬戸陶器	筒形壺	11.4	15.9	11.4	緑軸, 灰軸	錆軸, 底部露胎, トシ痕, スタブ	黄白色	口縁部露胎	61B E-383	SK 45
664	SK6691	瀬戸美濃陶器	壺?	残19.8	推27.7		鉄軸, トシ痕	鉄軸, 露胎	白色		61B E-523	SK 45
665	SK6691	瀬戸美濃陶器	肩壺	7.8	残13.3		鉄軸	鉄軸	灰~淡褐色		61B E-422	SK 45
666	SK6691	瀬戸陶器	壺	8.6	7.2	推 6.8	鉄軸, 透明釉, 緑軸, 露胎	鉄軸, 透明釉, 上野軸流し, 底部露胎	灰白色		61B E-415	SK 45
667	SK6691	不明陶器	壺	推 7.8	8.5	推 8.4	無軸	無軸	灰白~褐色		61B E-581	SK 45
668	SK6691	瀬戸陶器	土瓶	8.0	残 8.4		緑軸, 薄い灰軸	緑軸, 露胎, スタブ	白色		61B E-410	SK 45
669	SK6691	不明陶器	壺		残 6.4		灰軸, 露胎	灰軸	灰白色		61B E-584	SK 45
670	SK6691	瀬戸陶器	小型徳利	残 3.0	2.8		無軸	灰軸, 底部露胎, 回転糸切痕	黄灰色		61B E-388	SK 45
671	SK6691	美濃陶器	小型徳利	残 2.3	2.4		無軸	灰軸, 底部露胎, 回転糸切痕	灰白色		61B E-387	SK 45
672	SK6691	関西系磁器	小型徳利	1.7	残 5.9		透明釉, 露胎	透明釉, 露胎	白色		61B E-346	SK 45
673	SK6691	瀬戸陶器	小型徳利	残 5.6	3.3		無軸	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-386	SK 45
674	SK6691	美濃陶器	小型徳利	残 5.3			無軸	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	灰色		61B E-389	SK 45
675	SK6691	瀬戸磁器	小型徳利	残 7.8	3.2		無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-347	SK 45
676	SK6691	肥前磁器	小型徳利	残 8.0	4.3		無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-377	SK 45
677	SK6691	瀬戸陶器	小型徳利	残 8.7			無軸	灰軸, 呉須絵	灰白色		61B E-385	SK 45
678	SK6691	瀬戸磁器	小型徳利	1.7	11.0	3.8	無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-348	SK 45
679	SK6691	関西系磁器	小型徳利	1.6	11.8	3.8	透明釉, 無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-371	SK 45
680	SK6691	関西系磁器	小型徳利	残10.0	推 3.7		無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-378	SK 45
681	SK6691	瀬戸陶器	小型徳利	1.6	10.0	3.8	灰軸	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-354	SK 45
682	SK6691	肥前磁器	小型徳利	残11.6	4.4		無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	灰白色		61B E-375	SK 45
683	SK6691	瀬戸磁器	小型徳利	残13.0	4.6		無軸	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-349	SK 45
684	SK6691	瀬戸?磁器	小型徳利	残14.1	4.7		透明釉, 露胎	透明釉, 呉須絵, 高台端部露胎	白色		61B E-350	SK 45
685	SK6691	美濃陶器	小型徳利	2.4	残 9.5		灰軸	灰軸, 底部露胎	灰褐色		61B E-355	SK 45
686	SK6691	美濃陶器	油壺	1.9	5.5	3.9	鉄軸, 露胎	鉄軸	灰褐色		61B E-380	SK 45
687	SK6691	瀬戸陶器	油壺	残 5.5	推 4.3		灰軸	灰軸, 呉須絵, 高台端部露胎	黄白色		61B E-345	SK 45
688	SK6691	美濃陶器	唾壺	残 5.6	5.1		灰軸	灰軸, 底部露胎	灰色		61B E-379	SK 45
689	SK6691	備前陶器?	小壺	残 5.1	4.0		無軸, 自然軸	無軸, 自然軸	紫褐色		61B E-486	SK 45
690	SK6691	瀬戸陶器	花瓶?	残 3.6	4.8		露胎	灰軸, 底部露胎	黄灰色		61B E-390	SK 45
691	SK6691	不明陶器	花瓶	残 7.0			灰軸	無軸, 黒色漆?	白色		61B E-583	SK 45
692	SK6691	美濃陶器	徳利	3.4	残 5.4		うのふ軸	うのふ軸	灰白色		61B E-372	SK 45
693	SK6691	瀬戸陶器	徳利	3.2	9.1		鉄軸, 錆軸	鉄軸	黄灰色		61B E-374	SK 45
694	SK6691	瀬戸陶器	花瓶	8.8	残 7.6		緑軸, 灰軸	緑軸	灰白色		61B E-343	SK 45
695	SK6691	瀬戸陶器	花生	推 3.8	9.6	4.6	灰軸, 呉須絵, 露胎	灰軸, 呉須絵, 底部露胎, 回転糸切痕後指ア	黄白色		61B E-344	SK 45
696	SK6691	不明陶器	徳利		11.2	6.8	鉄軸, 露胎	鉄軸, 底部露胎	灰白色		61B E-373	SK 45
697	SK6691	不明陶器	徳利		残11.8	6.8	無軸, 自然軸	無軸, 自然軸	暗紫褐色	備前?	61B E-478	SK 45
698	SK6691	関西系磁器	徳利	3.4	残19.1		透明釉, 露胎	透明釉, 呉須絵	白色		61B E-341	SK 45

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号		
	699	SK6691	瀬戸陶器	花瓶		残10.1	5.6	灰釉	鉄釉、底部露胎	灰白色		61B E-342	SK 45	
	700	SK6691	美濃陶器	徳利		残 9.1	4.8	錆釉、露胎	錆釉	灰色		61B E-376	SK 45	
	701	SK6691	志戸呂?陶器	徳利		3.9	15.3	8.6	鉄釉	鉄釉、灰釉流し、底部錆釉	黄灰色	61B E-364	SK 45	
	702	SK6691	美濃陶器	徳利		2.5	16.3	6.5	錆釉	錆釉、底部露胎	黄灰色	61B E-365	SK 45	
	703	SK6691	美濃陶器	徳利		3.4	19.5	7.2	錆釉	錆釉、底部露胎、輪ツシ痕	灰色	61B E-368	SK 45	
	704	SK6691	美濃陶器	徳利		2.2	21.7	推 9.4	鉄釉、灰釉	鉄釉、錆釉	灰色	61B E-442	SK 45	
	705	SK6691	瀬戸美濃陶器	徳利		3.0	21.7	6.7	錆釉、うのふ釉	うのふ釉、鉄釉、底部露胎	黄白色	61B E-366	SK 45	
	706	SK6691	不明陶器	徳利		2.6	20.3	6.9	鉄釉、露胎	鉄釉、底部露胎	淡褐色	61B E-367	SK 45	
	707	SK6691	瀬戸陶器	徳利		1.9	16.0	7.0	鉄釉	鉄釉、錆釉、ツシ痕	灰白色	61B E-369	SK 45	
	708	SK6691	瀬戸陶器	徳利		2.0	15.4	7.8	鉄釉、黄白色付着物	鉄釉、底部露胎	白色	口縁部欠損	61B E-370	SK 45
	709	SK6691	瀬戸陶器	徳利		残13.6	13.4	鉄釉、露胎	鉄釉、露胎、底部磨減	灰黄色		61B E-436	SK 45	
	710	SK6691	瀬戸美濃陶器	徳利		残16.5	9.0	灰釉	灰釉、一部鉄斑、ツシ痕	白色		61B E-434	SK 45	
	711	SK6691	瀬戸陶器	徳利		3.3	26.6	11.2	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄灰色	61B E-381	SK 45	
	712	SK6691	美濃陶器	徳利		3.4	24.8	10.8	灰釉	灰釉、呉須絵	灰黄色	61B E-443	SK 45	
	713	SK6691	美濃陶器	徳利		3.6	24.0	11.2	灰釉	灰釉、呉須絵、回転糸切痕、スツア	黄灰色	61B E-382	SK 45	
	714	SK6691	瀬戸陶器	徳利			20.4	11.9	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	黄白色	61B E-447	SK 45	
	715	SK6691	瀬戸陶器	徳利		残18.7	10.2	灰釉	灰釉、呉須絵、高台端部露胎、磨減	灰黄色		61B E-445	SK 45	
	716	SK6691	美濃陶器	徳利		残18.7	11.7	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎、回転糸切痕	灰色		61B E-444	SK 45	
	717	SK6691	瀬戸陶器	徳利		残19.8	11.2	灰釉	灰釉、呉須絵、底部露胎	灰黄色		61B E-446	SK 45	
	718	SK6691	美濃陶器	鍋		12.2	4.7	3.9	鉄釉、輪壳	鉄釉、底部露胎、ツギ	白色	61B E-417	SK 45	
	719	SK6691	美濃陶器	鍋		15.0	6.3	5.2	薄い錆釉、底部露胎	薄い錆釉、底部露胎、双付着	黄灰色	61B E-428	SK 45	
	720	SK6691	美濃陶器	鍋		16.8	6.9	5.9	鉄釉、底部露胎	鉄釉、底部露胎、双付着	灰褐色	61B E-393	SK 45	
	721	SK6691	美濃陶器	鍋		16.4	7.5	6.2	鉄釉、輪壳	鉄釉、底部露胎、双付着	黄白色	61B E-391	SK 45	
	722	SK6691	美濃陶器	鍋		16.3	7.9	推 7.6	鉄釉、底部露胎	鉄釉、底部露胎、双付着	灰色	61B E-437	SK 45	
	723	SK6691	瀬戸陶器	鍋		21.2	10.5	7.8	鉄釉	鉄釉、底部露胎、双付着	黄白色	61B E-392	SK 45	
	724	SK6691	美濃陶器	鍋		24.4	11.5	8.0	錆釉、輪壳	錆釉、底部露胎、双付着	白色	61B E-406	SK 45	
	725	SK6691	瓦器	双耳鍋		31.2	14.4		指ツ、横ツ、ツ	指ツ、ツ、双付着	暗灰黄色	61B E-450	SK 45	
	726	SK6691	瓦器	双耳鍋		30.4	残10.8		横ツ、ツ、ツ	横ツ、指ツ、ツ、双付着	灰黄色	61B E-460	SK 45	
	727	SK6691	土師器	焙烙鍋		36.0	残 7.4		指ツ、横ツ、ツ	横ツ、ツ、双付着、板状圧痕	灰黄色	61B E-448	SK 45	
	728	SK6691	土師器	焙烙鍋		38.2	7.5		横ツ、底部調整不明	指ツ、ツ、双付着、板状圧痕、スツア	灰黄色	61B E-449	SK 45	
	729	SK6691	不明陶器	五徳			10.1	18.0	無釉	無釉	黄灰色	61B E-360	SK 45	
	730	SK6691	不明陶器	小焙烙鍋		14.0	4.0	7.2	無釉、ツ-付着	無釉、ツ	暗褐色	61B E-580	SK 45	
	731	SK6691	不明陶器	小焙烙鍋		12.8	残 4.1		無釉、黒色化	無釉、ツ	灰褐色	61B E-582	SK 45	
	732	SK6691	不明陶器	不明		推10.2	残 6.0		露胎、黒色付着物	錆釉	白色	61B E-579	SK 45	
	733	SK6691	瀬戸陶器	乗燭		4.3	3.2	4.2	灰釉	灰釉、底部露胎	黄灰~灰色	口縁部露胎	61B E-358	SK 45
	734	SK6691	瀬戸陶器	乗燭		4.3	3.6	3.6	灰釉	灰釉、底部露胎、双付着	灰黄色	口縁部欠損	61B E-357	SK 45
	735	SK6691	瀬戸美濃陶器	汁次		7.0	7.8	4.8	無釉、双付着	鉄釉、底部露胎、双付着	灰色	61B E-425	SK 45	
	736	SK6691	美濃陶器	汁次		7.3	8.4	6.0	鉄釉	鉄釉、底部露胎	白色	口縁部露胎	61B E-409	SK 45
	737	SK6691	瀬戸美濃陶器	汁次		7.6	8.6	5.7	無釉	鉄釉、底部露胎	黄白色	口縁部露胎	61B E-424	SK 45
	738	SK6691	不明陶器	急須		5.2	残 6.7		鉄釉	無釉	黒灰色	61B E-479	SK 45	
	739	SK6691	不明陶器	急須		5.6	9.4	6.2	無釉	無釉、双付着	黒灰色	61B E-480	SK 45	
	740	SK6691	関西系陶器	土瓶		6.2	7.9	5.7	無釉	長石絵?、底部露胎	黄灰色	口縁部露胎	61B E-477	SK 45
	741	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		7.2	7.7	8.0	灰釉、露胎	灰釉、底部露胎、双付着	黄白色	口縁部露胎	61B E-405	SK 45
	742	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		7.1	8.9	7.8	鉄釉、錆釉	鉄釉、底部露胎、双付着	灰黄色	口縁部露胎	61B E-402	SK 45
	743	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		7.6	9.4	9.0	鉄釉、錆釉	鉄釉、底部露胎、双付着	黄白色	口縁部露胎	61B E-404	SK 45
	744	SK6691	瀬戸陶器	土瓶		7.5	7.8	11.1	灰釉	灰釉、うのふ釉、上野釉流し、底部露胎、双付着	黄白色	口縁部露胎	61B E-401	SK 45
	745	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		7.4	10.7	推 8.0	灰釉	灰釉、露胎、双付着	黄褐色	口縁部露胎	61B E-487	SK 45
	746	SK6691	瀬戸美濃陶器	蓋		9.4	1.9	4.9	無釉、双付着	鉄釉	白色	61B E-403B	SK 45	
	747	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		8.6	10.8	9.2	鉄釉、錆釉	鉄釉、底部露胎、双付着	白色	口縁部露胎	61B E-403A	SK 45
	748	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		8.0	残11.6		鉄釉、露胎、錆釉	鉄釉、透明釉、鉄絵、呉須絵、底部露胎、双付着	白色	口縁部露胎、耳に銅線	61B E-398	SK 45
	749	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		10.3	16.6	11.4	鉄釉	鉄釉、底部露胎、双付着	黄白色	口縁部露胎	61B E-397	SK 45
	750	SK6691	瀬戸美濃陶器	土瓶		11.6	14.4	9.2	灰釉	灰釉、鉄絵、底部露胎、双付着	黄白色	口縁部露胎	61B E-396	SK 45
	751	SK6691	不明陶器	土瓶		推11.2	12.6	推 9.6	露胎、灰釉	灰釉、白化粧施文、露胎、双付着	灰色	61B E-488	SK 45	
	752	SK6691	常滑陶器	無頸壺		18.0	12.0	15.4	縦ツ	横ツ、ツ、指ツ、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-521	SK 45
	753	SK6691	常滑陶器	無頸壺		15.0	11.5	15.5	横ツ	横ツ、指ツ、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-517	SK 45
	754	SK6691	常滑陶器	無頸壺		14.4	16.5	12.6	横ツ	横ツ、砂敷、表面剥離	暗褐色	真焼、ツ描き	61B E-522	SK 45
	755	SK6691	常滑陶器	無頸壺		12.8	18.2	16.6	横ツ	横ツ、板ツ、砂敷、底部穿孔	暗褐~黒灰色	真焼	61B E-533	SK 45
	756	SK6691	常滑陶器	筒形鉢		21.0	16.2	18.0	指ツ、横ツ	横ツ、板ツ、砂敷	赤褐色	赤物	61B E-534	SK 45
	757	SK6691	常滑陶器	蓋		残 2.0			指ツ、粗く横ツ	横ツ	黄褐色	赤物、楕円形	61B E-528	SK 45
	758	SK6691	常滑陶器	蓋		残 2.0			指ツ、横ツ	ツ、ツ、横ツ、双付着	明褐色	赤物、楕円形	61B E-529	SK 45
	759	SK6691	常滑陶器	無頸壺		12.6	12.6	20.3	指ツ、横ツ	横ツ、ツ、砂敷、双付着	黄褐色	赤物	61B E-535	SK 45
	760	SK6691	常滑陶器	甕		34.2	残24.5		横ツ、暗黄褐色付着物多量	指ツ、ツ、横ツ	黒灰色	真焼	61B E-540	SK 45
	761	SK6691	常滑陶器	甕		推33.4	31.5	15.3	横ツ、暗黄白色付着物多量	ツ、横ツ、指ツ、砂敷	黒灰色	真焼	61B E-541	SK 45
	762	SK6691	常滑陶器	手焙り?			19.7	18.0	指ツ、横ツ、双付着	横ツ、赤色塗布物、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-518	SK 45
	763	SK6691	常滑陶器	手焙り?			20.8	17.8	指ツ、双付着	横ツ、赤色塗布物、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-519	SK 45
	764	SK6691	常滑陶器	不明		残12.4	推 9.4		横ツ、横ツ、板ツ	表面黒色化	淡褐色	赤物	61B E-516	SK 45

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
	765	SK6691	常滑陶器	火鉢		7.3	指押ス、横ガ、ヨ	横ガ、砂敷	黄灰色	赤物	61B E-532	SK 45
	766	SK6691	常滑陶器	蚊燵し		残11.8	14.8 横ガ、指押ス、双付着	縦ズリ、横ガ、指押ス、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-536	SK 45
	767	SK6691	常滑陶器	土管	15.8	残2.2	指押ス、横ガ	横ガ、縦ズリ	淡褐色	赤物	61B E-457	SK 45
	768	SK6691	常滑陶器	土管	15.0	51.5	14.0 指押ス、横ガ	横ガ、縦ズリ	淡褐色	赤物	61B E-458	SK 45
	769	SK6691	常滑陶器	蓋	16.4	3.2	8.9 指押ス	黒色付着物	暗黄褐色	赤物	61B E-530	SK 45
	770	SK6691	常滑陶器	蚊燵し	推18.9	27.2	16.5 横ガ、指押ス、双付着	縦ウ、指押ス、横ガ、砂敷	淡褐色	赤物	61B E-538	SK 45
	771	SK6691	常滑陶器	蚊燵し	17.3	28.3	14.5 指押ス、横ガ、双多量	板ガ、横ガ、指押ス、砂敷	黄褐色	赤物	61B E-537	SK 45
	772	SK6691	常滑陶器	土管	18.0	47.4	14.0 指押ス、横ガ	横ガ、縦ズリ	淡褐色	赤物	61B E-459	SK 45
	773	SK6691	常滑陶器	くど?	推38.0	残8.7	横ガ、サ、双付着	横ガ、表面剥離	黄灰色	赤物	61B E-520	SK 45
	774	SK6691	常滑陶器	くど?	推39.8	26.2	推36.4 指押ス、横ガ	横板ガ、波状文	淡褐色	赤物、方形窓	61B E-531	SK 45
	775	SK6691	常滑陶器	甕	推41.2	残26.7	指押ス、横ガ	縦ウ、横ガ	赤褐色	赤物	61B E-527	SK 45
	776	SK6691	常滑陶器	甕	推45.2	残16.0	指押ス、横ガ	横ガ	淡褐色	赤物	61B E-525	SK 45
	777	SK6691	常滑陶器	井戸	推35.8	残14.2	指押ス、横ガ	横ガ	淡褐色	赤物	61B E-542	SK 45
	778	SK6691	常滑陶器	井戸	推56.8	残15.7	指押ス、横ガ?	板ガ	淡褐色	赤物	61B E-526	SK 45
	779	SK6691	常滑陶器	甕	推55.0	残19.8	指押ス、横ガ	横ガ	暗灰褐色	真焼	61B E-539	SK 45
	780	SK6691	瀬戸陶器	丸碗		残2.4	3.7 灰軸	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-493	SK 45
	781	SK6691	瀬戸陶器	蓋	推7.6	1.6	推4.4 灰軸	底部露胎、墨書	黄白色		61B E-492	SK 45
	782	SK6691	美濃陶器	丸皿	10.8	2.4	6.0 灰軸、鉄絵、輪禿、露胎	灰軸、高台端部露胎	灰白色		61B E-489	SK 45
	783	SK6691	美濃陶器	丸皿	11.4	2.4	5.6 灰軸、鉄絵、輪禿、墨書	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-495	SK 45
	784	SK6691	瀬戸陶器	丸皿		残1.0	灰軸、鉄絵、輪禿	底部露胎、墨書	黄白色		61B E-499	SK 45
	785	SK6691	瀬戸陶器	十能		残3.4	5.6 錆軸	錆軸、墨書	黄白色		61B E-500	SK 45
	786	SK6691	美濃陶器	小型徳利?		残1.0	2.0 鉄軸	露胎、墨書	灰白色		61B E-498	SK 45
	787	SK6691	美濃陶器	筒形鉢		残2.4	4.3 灰軸	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-496	SK 45
	788	SK6691	美濃陶器	小型鉢	6.4	3.8	3.1 錆軸	錆軸、底部露胎、墨書	灰色		61B E-506	SK 45
	789	SK6691	美濃陶器	丸鉢	16.0	7.6	8.4 灰軸、トシ痕	灰軸、底部露胎、輪トシ痕	黄灰色	片口	61B E-511	SK 45
	790	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	推9.4	5.5	6.8 露胎	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-490	SK 45
	791	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	6.2	3.0	3.4 灰軸、露胎	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-491	SK 45
	792	SK6691	美濃陶器	筒形鉢	5.5	2.7	3.7 灰軸、露胎	灰軸、底部露胎、墨書	灰白色		61B E-494	SK 45
	793	SK6691	美濃陶器	花瓶		残3.2	7.4 灰軸、露胎	鉄軸、灰軸流し、高台端部露胎、静 止ズリ、回転糸切痕、墨書	灰白色		61B E-503	SK 45
	794	SK6691	美濃?陶器	汁次	7.0	8.5	5.0 錆軸	鉄軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-507	SK 45
	795	SK6691	美濃陶器	徳利	2.2	9.7	5.2 灰軸	灰軸、底部露胎、墨書	黄灰色		61B E-504	SK 45
	796	SK6691	美濃陶器	徳利	2.4	12.3	5.5 薄い錆軸	薄い錆軸、墨書	黄灰色		61B E-505	SK 45
	797	SK6691	瀬戸陶器	瓶		残11.7	8.4 鉄軸	鉄軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-508	SK 45
	798	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	26.0	15.1	16.2 灰軸、トシ痕、墨書	灰軸、緑軸流し、底部露胎	黄白色		61B E-468	SK 45
	799	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢	29.9	17.1	14.5 灰軸、トシ痕	灰軸、緑軸流し、底部露胎、墨書	灰白色		61B E-473	SK 45
	800	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢		残4.4	推12.6 灰軸、トシ痕	灰軸、底部露胎、墨書	黄灰色		61B E-509	SK 45
	801	SK6691	瀬戸陶器	植木鉢?		残2.8	推13.4 鉄軸	底部露胎、墨書	黄灰色		61B E-497	SK 45
	802	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢		残5.5	15.4 灰軸、露胎、トシ痕	灰軸、底部露胎、墨書	黄灰白色		61B E-510	SK 45
	803	SK6691	瀬戸陶器	壺?		残3.2	推16.8 鉄軸、トシ痕	底部露胎、墨書	灰白色		61B E-502	SK 45
	804	SK6691	常滑陶器	井戸側	推44.0			横ガ	淡褐色	口縁部墨書	61B E-514	SK 45
	805	SK6691	常滑陶器	井戸側		残10.6	推46.0 指押ス	板ガ、墨書	淡褐色		61B E-515	SK 45
	806	SK6691	瀬戸陶器	丸鉢		残10.4	15.6 灰軸、トシ痕	灰軸、底部露胎、墨書	黄白色		61B E-512	SK 45
	807	SK6691	瀬戸陶器	瓶掛	19.0	16.7	16.0 灰軸、上野軸、露胎、錆軸	灰軸、上野軸+うのふ軸流し、底部 露胎、墨書	黄白色	口縁部欠損、磨減	61B E-451	SK 45
	808	SK6691	瀬戸陶器	筒形鉢	27.0	23.0	17.4 鉄軸、トシ痕	鉄軸、底部露胎、墨書	黄白色	口縁部磨減	61B E-469	SK 45
	809	SK6691	瓦	軒椼瓦			板ガ	板ガ、はなれ砂有	灰黄白色		61B E-543	SK 45
	810	SK6691	瓦	軒椼瓦			板ガ	板ガ、シヅキ	灰褐色		61B E-547	SK 45
	811	SK6691	瓦	軒椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ、シヅキ	灰黄色		61B E-545	SK 45
	812	SK6691	瓦	軒椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰白色		61B E-561	SK 45
	813	SK6691	瓦	軒椼瓦			板ガ	板ガ、シヅキ	灰白色		61B E-567	SK 45
	814	SK6691	瓦	軒丸瓦?				板ガ	灰白色		61B E-556	SK 45
	815	SK6691	瓦	軒丸瓦			指押ス		灰白色		61B E-560	SK 45
	816	SK6691	瓦	軒丸瓦			指ガ		灰白色		61B E-568	SK 45
	817	SK6691	瓦	軒椼瓦			指ガ		灰褐色		61B E-569	SK 45
	818	SK6691	瓦	軒椼瓦			板ガ	板ガ、双付着	黄灰色	スタブ	61B E-544	SK 45
	819	SK6691	瓦	軒椼瓦			板ガ		灰白色		61B E-565	SK 45
	820	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂	板ガ	灰白色		61B E-551	SK 45
	821	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰色	スタブ	61B E-572	SK 45
	822	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰白色	スタブ	61B E-557	SK 45
	823	SK6691	瓦	道具瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰白色		61B E-575	SK 45
	824	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰白色	スタブ	61B E-558	SK 45
	825	SK6691	瓦	道具瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰白色	スタブ	61B E-576	SK 45
	826	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	灰色		61B E-559	SK 45
	827	SK6691	瓦	道具瓦			板ガ	板ガ	灰白色		61B E-562	SK 45
	828	SK6691	瓦	瓦				磨減	灰褐色	転用磁石	61B E-546	SK 45
	829	SK6691	瓦	椼瓦			はなれ砂、板ガ	板ガ	暗灰褐色	スタブ	61B E-571	SK 45
	830	SK6691	瓦	丸瓦			布目、北ノ丸、タタ	板ガ、スタブ	灰色		61B E-573	SK 45
	831	SK6691	瓦	丸瓦			布目、北ノ丸、タタ	板ガ、表面剥離、双付着	灰白色		61B E-548	SK 45
	832	SK6691	瓦	丸瓦			布目、北ノ丸、タタ	板ガ、表面剥離、双付着	灰白色		61B E-550	SK 45

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
833	SK6691	瓦	不明				粗い巾,板デ,双付着	粗い巾,板デ,双付着	暗褐色		61B E-554	SK 45
834	SK6691	瓦	平瓦				板デ,はなれ砂	板デ	灰白色		61B E-549	SK 45
835	SK6691	瓦	平瓦				板デ	板デ	灰褐色		61B E-578	SK 45
836	SK6691	瓦	平瓦				はなれ砂,板デ	板デ	灰色		61B E-566	SK 45
837	SK6691	瓦	平瓦				磨減		灰白色		61B E-577	SK 45
838	SK6691	瓦	丸瓦				板デ	板デ,ミダキ	灰白色	孔	61B E-564	SK 45
839	SK6691	瓦	道具瓦?					板デ	灰褐色		61B E-574	SK 45
840	SK6691	瓦	道具瓦?				板デ	板デ	灰白色	ヌグ	61B E-553	SK 45
841	SK6691	瓦	道具瓦				粗い巾	板デ	灰白色		61B E-555	SK 45
842	SK6691	瓦	道具瓦				粗い巾	板デ	灰白色		61B E-570	SK 45
843	SK6691	瓦	道具瓦				粗い巾	板デ	灰白色		61B E-552	SK 45
844	SK6691	不明陶器	人形		残28.5		無釉,指サ,デ	自然釉	褐色	人物	61B E-585	SK 45
845	SK6691	不明陶器	人形		残 6.8		無釉,指サ	長石釉,鉄絵,呉須絵	黄白色	人物	61B E-586	SK 45
846	SK6691	土師器	人形		残 2.9				黄灰色	天神	61B E-587	SK 45
847	SK6691	軟質陶器	人形		4.6			鉛釉(透明)	橙白色	恵比寿	61B E-588	SK 45
848	SK6691	軟質陶器	人形		残 5.6			鉛釉(透明,緑,茶)	橙白色	釣人?	61B E-589	SK 45
849	SK6691	土師器	人形		残 3.6		布目		褐色	人物	61B E-590	SK 45
850	SK6691	軟質陶器	ミニチュア	2.8	1.1	0.9	鉛釉(緑)	鉛釉(緑),露胎	白色	碗	61B E-591	SK 45
851	SK6691	軟質陶器	ミニチュア	5.2	2.4	2.2	鉛釉(透明,緑)	鉛釉(緑),露胎	黄白色	鉢	61B E-230	SK 45
852	SK6691	土師器	ミニチュア		残 3.1	5.0	指サ,デ,双付着		灰白色	袖でんぼ	61B E-592	SK 45
853	SK6691	軟質陶器	ミニチュア					鉛釉(透明),露胎,浮印「□」	淡褐色	釜蓋,胎土分析資料7	61B E-593	SK 45
854	SK6691	軟質陶器	ミニチュア		残 1.9	5.2	無釉,指サ,墨書「上」カ	鉛釉(透明,緑)	橙白色	灯籠,胎土分析資料8	61B E-594	SK 45
855	SK6691	土師器	芥子面		0.9			彩色(赤),デ	橙白色	魚付き皿?	61B E-595	SK 45
856	SK6691	土師器	芥子面		1.8			デ	黄灰色	算盤	61B E-596	SK 45
857	SK6691	土師器	鈴		3.5			彩色(赤)	灰色		61B E-597	SK 45
858	SK6691	木	差歯下駄								61B W- 11	SK 45
859	SK6691	木	差歯下駄							墨書	61B W- 12	SK 45
860	SK6691	木	差歯下駄							墨書	61B W- 13	SK 45
861	SK6691	木	差歯下駄								61B W- 14	SK 45
862	SK6691	木	差歯下駄								61B W- 15	SK 45
863	SK6691	木	差歯下駄								61B W- 16	SK 45
864	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 17	SK 45
865	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 18	SK 45
866	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 19	SK 45
867	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 20	SK 45
868	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 21	SK 45
869	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 22	SK 45
870	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 23	SK 45
871	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 24	SK 45
872	SK6691	木	連歯下駄								61B W- 25	SK 45
873	SK6691	木	連歯下駄							釘穴あり	61B W- 26	SK 45
874	SK6691	木	連歯下駄							釘穴あり	61B W- 27	SK 45
875	SK6691	木	連歯下駄							釘穴あり	61B W- 28	SK 45
876	SK6691	木	板草履							釘穴あり	61B W- 29	SK 45
877	SK6691	木	板草履							釘穴あり	61B W- 30	SK 45
878	SK6691	木	板草履							釘穴あり	61B W- 31	SK 45
879	SK6691	木	板草履							釘穴あり	61B W- 32	SK 45
880	SK6691	木	板草履							釘穴あり	61B W- 33	SK 45
881	SK6691	木	曲物桶柄杓	13.0	10.4	12.8		墨書			61B W- 34	SK 45
882	SK6691	木	曲物桶柄杓	15.0	12.2	14.6					61B W- 35	SK 45
883	SK6691	木	結桶柄杓	13.0	11.5	11.3		墨書,タガの圧痕			61B W- 36	SK 45
884	SK6691	木	曲物桶底板	12.4	10.4	12.4					61B W- 37	SK 45
885	SK6691	木	蓋				細かい傷				61B W- 38	SK 45
886	SK6691	木	結桶側板					タガの圧痕			61B W- 39	SK 45
887	SK6691	木	結桶側板	16.0	12.0	14.2		タガの圧痕			61B W- 40	SK 45
888	SK6691	木	木胎漆器盤?								61B W- 41	SK 45
889	SK6691	木	箱物底板								61B W- 42	SK 45
890	SK6691	木	箱物底板								61B W- 43	SK 45
891	SK6691	木	ヘラ								61B W- 44	SK 45
892	SK6691	木	杓子								61B W- 45	SK 45
893	SK6691	木	栓								61B W- 46	SK 45
894	SK6691	木	栓								61B W- 47	SK 45
895	SK6691	木	栓								61B W- 48	SK 45
896	SK6691	木	栓								61B W- 49	SK 45
897	SK6691	木	横櫓								61B W- 57	SK 45
898	SK6691	木	横櫓								61B W- 50	SK 45
899	SK6691	骨角器	横櫓								61B Xb- 1	SK 45
900	SK6691	木	横櫓								61B W- 51	SK 45
901	SK6691	木	建築部材								61B W- 52	SK 45
902	SK6691	木	札								61B W- 53	SK 45

清洲城下町遺跡V

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
	903	SK6691	木	建築部材							61B W- 54	SK 45	
	904	SK6691	木	建築部材							61B W- 55	SK 45	
	905	SK6691	木	建築部材							61B W- 56	SK 45	
	906	SK6691	鉄	釘							61B M- 6	SK 45	
	907	SK6691	鉄	不明容器							61B M- 7	SK 45	
	908	SK6691	石	礫石						凝灰岩	61B S- 4	SK 45	
	909	SK6691	石	礫石						凝灰岩	61B S- 5	SK 45	
	910	SK6691	石	炉材?						砂質凝灰岩	61B S- 6	SK 45	
	911	SK6691	石	石臼						花崗岩	61B S- 7	SK 45	
	912	SK6691	石	石臼						花崗岩	61B S- 8	SK 45	
	913	SK6691	石	火打石						チャート	61B S- 9	SK 45	
	914	SK6691	石	火打石						チャート	61B S- 10	SK 45	
	915	SK6691	石	火打石						チャート	61B S- 11	SK 45	
	916	SK6691	石	火打石						チャート	61B S- 12	SK 45	
	917	SK6691	石	叩き石						濃飛流紋岩	61B S- 13	SK 45	
	918	SK6691	石	叩き石						濃飛流紋岩	61B S- 14	SK 45	
	919	SK6691	石	磨石						濃飛流紋岩	61B S- 15	SK 45	
	920	SK6691	石	磨石						濃飛流紋岩	61B S- 16	SK 45	
	921	SD6078	土師器	人形		残 5.0	指押E		灰色	童子, 胎土分析資料19	89E E-151	SD 06	
	922	SD6078	土師器	人形		残 5.1	指押E	指押E	淡褐色	布袋	89E E-152	SD 07	
	923	SD6078	土師器	人形		残 1.8			黄白色	唐子	89E E-153	SD 07	
	924	SD6078	土師器	ミニチュア	3.2	1.0	1.4	ナ?	黄白色	皿	89E E-154	SD 07	
	925	SD6078	不明・磁器	ミニチュア	推 2.5	残 2.2	無軸	灰軸	黄白色	土瓶	89E E-155	SD 07	
	926	SD6078	軟質陶器	ミニチュア	3.8	3.9	2.5	無軸	鉛軸(透明, 緑, 茶), 底部露胎	黄白色	土瓶	89E E-156	SD 07
	927	SD6078	軟質陶器	ミニチュア	2.1	残 1.8	無軸, 指押E	鉛軸(透明, 緑)	黄白色	土瓶, 胎土分析資料20	89E E-157	SD 07	
	928	SD6078	軟質陶器	ミニチュア?		残 1.6	4.5	指押E, ナ?	鉛軸(透明), 底面露胎	橙白色	蓋?	89E E-158	SD 07
	929	SD6078	土師器	芥子面		残 2.1		指押E, ケリ	黄白~黒灰色	天神?	89E E-159	SD 07	
	930	SD6078	土師器	芥子面		残 2.2		指押E, ケリ	橙白色	恵比寿?	89E E-160	SD 07	
	931	SD6078	土師器	芥子面		残 1.7		指押E, ケリ	白色	恵比寿?	89E E-161	SD 07	
	932	SD6078	土師器	鈴		2.8		彩色(赤)	褐色		89E E-162	SD 07	
	933	SD6078	土師器	鐘型	推 9.4	3.0		指押E	橙白色	灯籠	89E E-163	SD 07	
	934		軟質陶器	人形		残 2.1		鉛軸(黄緑)	灰白色	天神	89B E-300	検出II	
	935		土師器	人形		3.0			淡褐色	天神	61D E-201	表土	
	936	SD6077	軟質陶器	人形		4.3		鉛軸(透明, 緑)	橙白色	天神	89E E-164	SD 01	
	937	SK6698	土師器	人形		3.6			橙白色	天神	91A E-371	SK 60	
	938		軟質陶器	人形		残 3.7		鉛軸(透明, 緑, 茶)	橙白色	天神	61A E-101	検出V	
	939		土師器	人形		3.9	指押E		淡褐色	福助	61A E-102	攪乱11	
	940		土師器	人形		5.1			橙白~灰白色	人物	89E E-165	トノ3	
	941		軟質陶器	人形		3.8		鉛軸(透明)	橙白色	童子/団扇持ち	89E E-166	検出II	
	942	SK6363	軟質陶器	人形		残 6.3	指押E	鉛軸(透明, 黄, 緑, 茶)	白色	童子/馬乗り	61B E-598	SK 42	
	943		土師器	人形		残 3.3			淡褐~黒灰色	人物	89E E-167	検出II	
	944		土師器	人形		残 4.7	指押E		黄白色	唐子/ラッパ持ち	89F E- 11	検出I	
	945		土師器	人形		残 4.2	ナ?		白色	人物	89C E- 11	検出I	
	946		土師器	人形		残 5.5	指押E		橙白~黒灰色	人物	89B E-301	検出I	
	947		土師器	人形		3.7			黄灰色	連磨	62C E- 51	攪乱23	
	948		土師器	人形		残 2.7			黄灰色	地蔵?	61D E-202	表土	
	949		土師器	人形		残 3.8	指押E	彩色(黄, 緑)	黄白色	少年, 胎土分析資料3	61A E-103	表土	
	950		土師器	人形		残 5.6	指押E		白色	少女	61A E-104	表土	
	951	SK4128	土師器	人形		残 9.5	指押E		黄白~黒灰色	人物	61A E-105	SK 02	
	952		不明・磁器	人形?		残 6.6	無軸, 指押E	透明軸, 上絵付(濃赤, 薄赤, 黄, 黒)	白色	福助, 孔2?	91A E-372	検出II	
	953		不明・磁器	人形		5.7	無軸	透明軸, 上絵付(黄, 黄褐, 黄緑, 金, 黒)	白色	福助	61A E-106	表土	
	954		不明・磁器	人形		残 2.4	無軸, 指押E	透明軸, 上絵付(赤褐)	白色	人物	91A E-373	東トノ3	
	955		不明・磁器	人形		4.8		透明軸, 上絵付(赤褐, 青緑, 薄黒)	白色	力士	91A E-374	表土	
	956		土師器	人形		残10.6		墨書「ハム口」	黄白色	猿, 胎土分析資料6	61A E-107	一	
	957		土師器	人形		残 8.1			黄白色	猿	89B E-302	検出I	
	958		不明・磁器	人形		2.6		透明軸, 上絵付(薄黄, 金, 濃茶)	白色	亀	63B E- 11	攪乱	
	959		土師器	人形		1.3			黄白色	亀	89E E-168	検出II	
	960		軟質陶器	人形		1.4		鉛軸(緑), 底部露胎	黄白色	蛙	63S E-101	検出I	
	961		軟質陶器	人形		残 3.8	無軸, 指押E, 墨書「...」	鉛軸(透明, 緑), 白化粧	淡褐~黄白色	稲荷狐	61A E-108	攪乱14	
	962	SX4015	土師器	人形		残 4.2	布目		黄白色	犬, 胎土分析資料1	61A E-109	SK 01	
	963	SD4004	土師器	人形		残 4.6			淡褐色	猫	63B E- 12	SD 03	
	964		土師器	人形		残 4.0	指押E		黄白色	猫, 胎土分析資料10	89B E-303	SD 03	
	965	SD7005	土師器	人形		7.5	指押E, ナ?		黄灰~灰色	鳩	61C E- 51	SD 01	
	966		軟質陶器	人形/笛		2.5		鉛軸(透明, 緑), 指押E	橙白色	鳥	61D E-203	検出I	
	967		土師器	人形/笛		3.5			黄灰色	鳩	61A E-110	攪乱26	
	968		軟質陶器	ミニチュア	6.7	2.6	2.6	鉛軸(透明), 露胎	鉛軸(透明, 緑), 底部露胎, 墨書「二三」, 又付着	黄白色	土鍋	61A E-111	攪乱11
	969		軟質陶器	ミニチュア	3.4	1.5		無軸, 又付着	鉛軸(透明, 緑, 茶)	橙白色	蓋	89E E-169	検出II
	970		軟質陶器	ミニチュア		残 4.8	指押E	鉛軸(透明, 緑)	黄白色	袖でんぼ?, 孔1?	91A E-375	検出II	

付表2 遺物一覧表

図版	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
	971		土師器	ミニチュア	残 2.8				白色	茄子	61A E-112	表土
	972		土師器	ミニチュア?	4.5			指押、ケズリ	黄白色	火焰宝珠	61A E-113	攪乱11
	973		軟質陶器	ミニチュア	残 6.7		指押	鉛釉(透明、白化粧・青彩色)	褐色	灯籠/台座	61A E-114	表土
	974		土師器	ミニチュア	残 4.6		指押	彩色(白、黄、茶)	淡褐色	灯籠	61A E-115	攪乱18
	975		軟質陶器	ミニチュア	残 1.5		指押、墨書「五」	鉛釉(透明、緑)	橙白色	灯籠/台座	89E E-170	検出II
	976		軟質陶器	ミニチュア	残 2.7			鉛釉(透明、緑)	橙白色	灯籠/笠	89E E-171	検出I
	977	SK6687	土師器	ミニチュア	残 3.5				黄白~黒灰色	神輿	91A E-376	SK101
	978		軟質陶器	ミニチュア	残 3.8			鉛釉(透明、緑)、白化粧、ケズリ	褐色	鳥居	61B E-599	検出I
	979		土師器	人形?	残 2.4			指押	黄白色	仏像光背?	90F E-51	検出I
	980		軟質陶器	人形?	3.1			鉛釉(透明、緑)、フ	黄白色	人物	89E E-172	検出II
	981		土師器	芥子面	残 2.2			ケズリ	白色	恵比寿	89E E-173	検出II
	982		土師器	芥子面	残 2.1			指押、ケズリ	橙白色	弁才天?	90F E-52	検出I
	983		土師器	芥子面	2.9			ケズリ	橙白色	力士?	61A E-116	攪乱26
	984		土師器	芥子面	1.6			ケズリ	橙白色	人物	61C E-52	トコナ
	985		土師器	芥子面	残 2.9			ケズリ	黄灰色	唐傘小僧	90F E-53	検出I
	986	SX4015	土師器	芥子面	3.1			指押	橙白色	福良雀、胎土分析資料2	61A E-117	SK 01
	987		土師器	芥子面	1.6			ケズリ	淡褐色	硯	61A E-118	検出III
	988		土師器	面	残 2.7				橙白色	人物、胎土分析資料9	63C E-242	SX 02
	989		土師器	面	残 4.1				黄褐色	人物	61B E-600	検出II
	990	SE4021	土師器	面	残 4.8		押	彩色(ピンク、紅、オレンジ)	橙白色	恵比寿or大黒	90B E-18	SE 01
	991	SK6710	土師器	面型	5.1	1.4		指押	橙白色	人物、胎土分析資料11	89B E-304	SK 16
	992		土師器	鈴	3.5		フ		黄白色		89B E-305	検出II
	993		土師器	鈴	4.0		フ		淡褐色		61A E-119	攪乱
	994	SK6687	土師器	鈴	3.6		フ		黄灰色		91A E-377	SK 38
	995	SK6700	土師器	鈴	3.6		フ		橙白色	胎土分析資料12	89B E-306	SK 34
	996		土師器	鈴	2.2		フ		黄灰色		61A E-120	攪乱 6
	997	SK7475	土師器	鈴	1.2		フ		黄灰色		61D E-204	SK 01
	998		土師器	鐘型	5.8	2.3		指押、墨書?	橙白色	皿?、胎土分析資料4	61A E-121	攪乱14
	999	SK8150?	ガラス	おほじき?	1.2					青色	90F Xx-1	SK 06
	1000		ガラス	おほじき?	1.9					お多福、無色	89D Xx-1	検出I
	1001		ガラス	おほじき?	2.2			浮印「おま」		青色	91A Xx-1	検出II
	1002	SX4015	瀬戸陶器	腰折碗	推10.2	7.3	5.0	鉄釉	鉄釉、高台端部露胎、墨書	黄灰色	61A E-122	SK 01
	1003	SX4015	瀬戸美濃陶器	丸碗	残 3.8	4.9	灰釉	灰釉、底部露胎、墨書、高台部フ	黄白色		61A E-123	SK 01
	1004	SX4015	瀬戸陶器	丸碗	残 5.0	5.4	灰釉	灰釉、底部露胎、墨書	黄白色		61A E-124	SK 01
	1005	SD6001	美濃陶器	丸碗	残 1.4	4.6	長石釉	長石釉、高台端部露胎、墨書	灰白色		63C E-243	SD 14
	1006	SX4009	瀬戸美濃陶器	丸碗	残 1.3	4.2	長石釉	長石釉、底部露胎	灰黄色		63C E-244	SX 05
	1007	SK7016	瀬戸美濃陶器	大型製品			灰釉	底部露胎、墨書	白色		91B E-101	SK385
	1008	SD7005	美濃陶器	筒形鉢	残 6.9	6.2	灰釉	灰釉、底部露胎、墨書	黄白色		61D E-205	SD 01
	1009	SE4044	美濃陶器	蓋	8.0	残 2.4	露胎、墨書	鉄釉、灰釉流し、露胎	黄白色		62C E-52	SE 06
	1010	SE4097	美濃陶器	蓋	6.2	0.9	露胎、墨書	灰釉	黄白色		61A E-125	SE 03
	1011	SX4015	美濃陶器	乗燵	4.7	1.9	2.4	灰釉	露胎、回転糸切痕、墨書	灰白色	61A E-126	SK 01
	1012	SE4040	瀬戸陶器	筒形鉢	残 1.9	9.4	露胎	灰釉、底部露胎、墨書	黄白色		62C E-53	SE 04
	1013	SD6078	瀬戸美濃陶器	無高台皿	残 0.9	推 3.2	灰釉	底部露胎、墨書	黄灰色		89E E-174	SD 07
	1014	SK6659	瀬戸陶器	皿?			灰釉	底部露胎、墨書	黄白色		89E E-175	SK 08
	1015	SD6078	美濃?陶器	植木鉢	残 3.6	4.4	緑釉、露胎、墨書	鉄釉、底部露胎	黄白色		89E E-176	SD 07
	1016	SK6710	肥前磁器?	仏前磁器?	残 3.2	4.6		透明釉、高台端部露胎、墨書	黄白色		89B E-307	SK 16
	1017	SE4030	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-17	SE 06
	1018	SE4030	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-11	SE 06
	1019	SE4030	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-15	SE 06
	1020	SE4030	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-16	SE 06
	1021	SE4021	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-12	SE 01
	1022	SE4021	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-53	SE 01
	1023	SE4021	瓦	井戸側瓦			やや磨減	板フ	灰白色		90B E-14	SE 01
	1024	SE4053	常滑陶器	井戸側	66.6	52.0	63.4	指押、横フ	板フ、墨書	淡褐色	62C E-54	SX 03
	1025	SK7475	銅	銭貨						寛永通寶	61D M-7	SK 01
	1026	SK7475	銅	銭貨						寛永通寶	61D M-8	SK 01
	1027		銅	銭貨						寛永通寶	89F M-3	検出I
	1028		銅	銭貨						寛永通寶	61A M-50	検出I
	1029	SD6078	銅	銭貨						寛永通寶	89E M-13	SD 07
	1030	SK7475	銅	銭貨						寛永通寶	61D M-9	SK 01
	1031	SK7475	銅	銭貨						寛永通寶	61D M-10	SK 01
	1032		銅	銭貨						寛永通寶	61C M-10	攪乱
	1033		銅	銭貨						文久永寶	61D M-11	表土
	1034		銅	銭貨						文久永寶	61D M-12	表土
	1035		銅	銭貨						文久永寶	63C M-23	SX 02

### 3 遺物集計表

この一覧表は、調査区別に各遺物の出土量をまとめたものである。出土量の計測の方法は第Ⅶ章で記載された通りである。表1～5に記載された数値は、すべて口縁部残存率で12分の1を1単位としている。従って記載された数値は「12」で約1個体分と換算されるものである。表6～8は個体数または破片数が表示されている。なお、表6～8の数値は遺構内外を問わず、全破片数を数えたものである。

#### 目 次

表1	調査区別陶磁器・土器出土量一覧表（宿場町期）	口縁部残存率
表2	調査区別瀬戸・美濃窯産陶器器種組成表	口縁部残存率
表3	調査区別（瀬戸・美濃・常滑窯産陶器以外の陶器）器種組成表	口縁部残存率
表4	調査区別肥前窯産磁器器種組成表	口縁部残存率
表5	調査区別（肥前窯産磁器以外の磁器）器種組成表	口縁部残存率
表6	調査区別人形・玩具類出土量一覧表	個体数・破片数
表7	調査区別人形・玩具類器種組成表	個体数・破片数
表8	調査区別銭貨器種組成表	個体数





表3 調査区別（瀬戸・美濃・常滑窯産陶器以外の陶器）器種組成表

	御園		本丸		田中町		五条橋					本町					南部					合計											
	89A	63R	62N	90A	62G	63A	93B	63B	61A	93A	90B	92C	92D	92E	62C	90C	63C	89E	61B	91A	89B		89C	89F	61C	61D	91B	63S	89D	62D	91C	90F	
碗	天目茶碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	丸碗	0	0	0	0	0	1	2	4	5	2	0	0	9	0	10	37	0	0	0	11	31	0	0	1	0	7	0	0	0	0	171	
	腰折碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	平碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	小碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	
皿	仏飯器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	丸皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	腰折皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非円形皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鉢	灯籠	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
	無高台皿	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	小型皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	丸鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	13	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
	播鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	
	筒形鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	蟹盃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	腰折鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
壺・瓶	植木鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小型鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	筒形壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肩壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	22
	口壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
	小型壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	花瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	土瓶類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69
	汁次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	徳利	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	31
	小型徳利	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
油壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	筒形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	灰落し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	柄杓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乗燭台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燭台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3



表5 調査区別（肥前窯産磁器以外の磁器）器種組成表

	御園		本丸		田中町		五条橋					本町					南部					合計													
	89A	63R	62N	63A	90A	62C	63A	93B	63B	61A	93A	90B	92C	92D	92E	62C	90C	63C	89E	61B	91A		89B	89C	89F	61C	61D	91B	63S	89D	62D	91C	90F		
碗	天目茶碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	丸碗	0	0	0	1	4	0	0	161	9	2	2	1	0	8	0	0	22	10	510	0	8	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	740
	腰折碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平碗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	422	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	440
	小碗	0	0	0	0	0	0	0	55	7	3	1	0	0	3	0	7	10	427	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	517	
	仏飯器 その他	0	0	0	0	0	0	0	3	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80
皿	丸皿	0	0	0	0	0	0	16	1	5	3	9	0	11	2	6	0	62	5	9	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	132		
	腰折皿	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11		
	非円形皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
	灯蓋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	無高台皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17		
	小型皿	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13	
	その他	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	鉢	丸鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	
		平鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		摺鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		筒形鉢	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
鬺皿		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腰折鉢		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
楕木鉢		0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
大皿		0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	11		
小型鉢		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
壺・瓶	筒形壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肩壺	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
	口壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小型壺	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
	花瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	土瓶類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	汁次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	德利	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36		
	小型德利	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87		
	油壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	筒形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	灰落し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	柄杓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	乗燭台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燭台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	盤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	火鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	4	1	0	2	0	0	0	16	95	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	136		

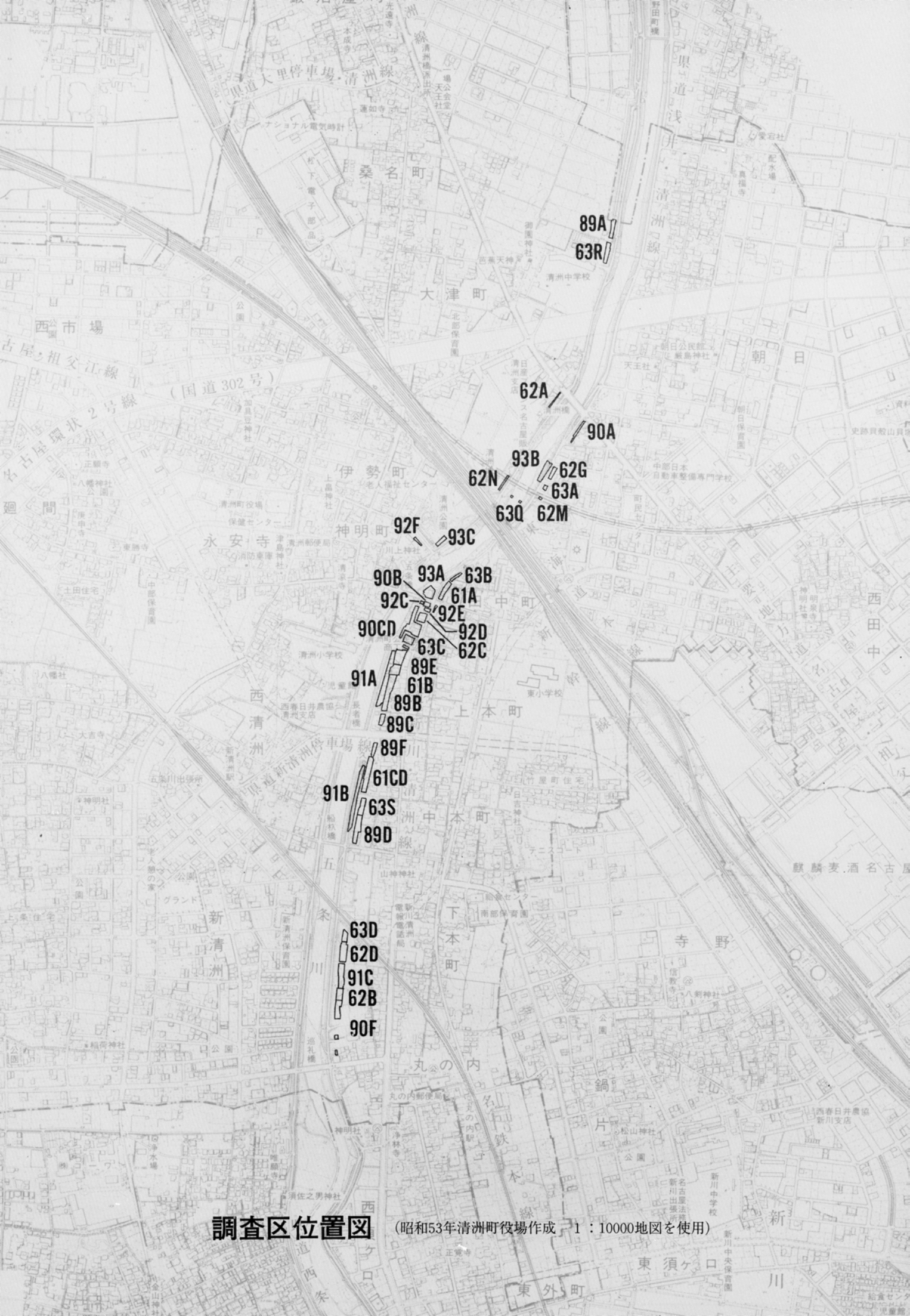


# 図 版

- 1 遺構図版 1～13  
(S = 1 : 200)
- 2 写真図版 1～30  
(モノクロ 1～20)  
(カラー 21～30)

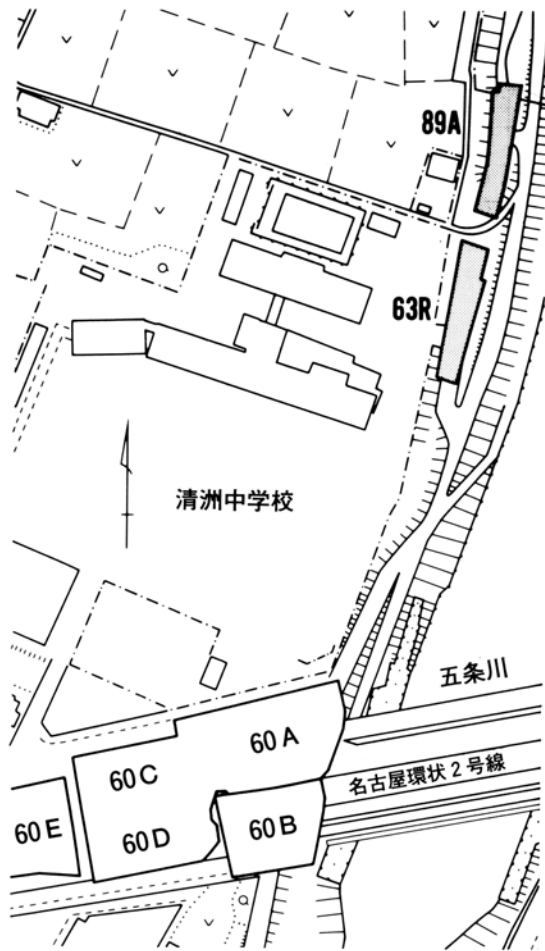
## 遺構図版 凡例

1. 数字のみの番号はすべてSKである。
2. 遺構図版は基本的に上が北になっている。

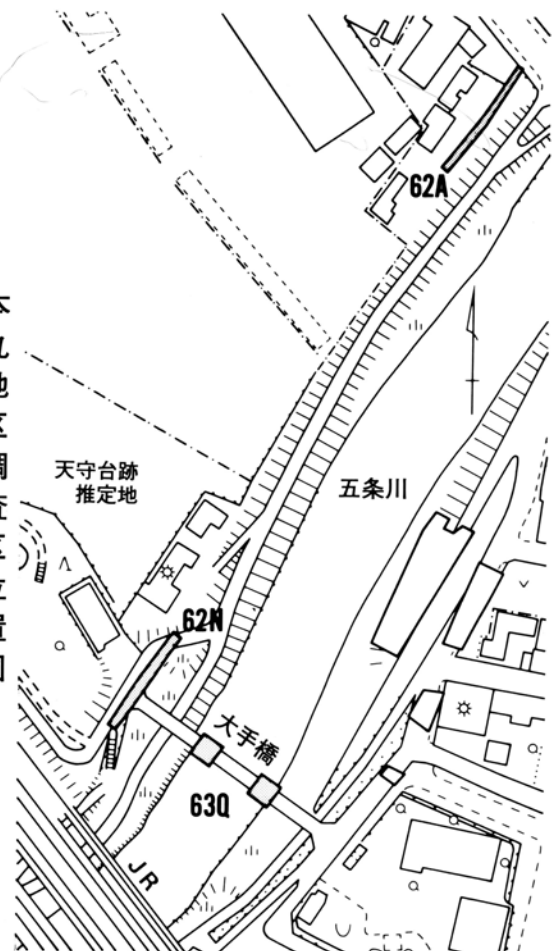


調査区位置図

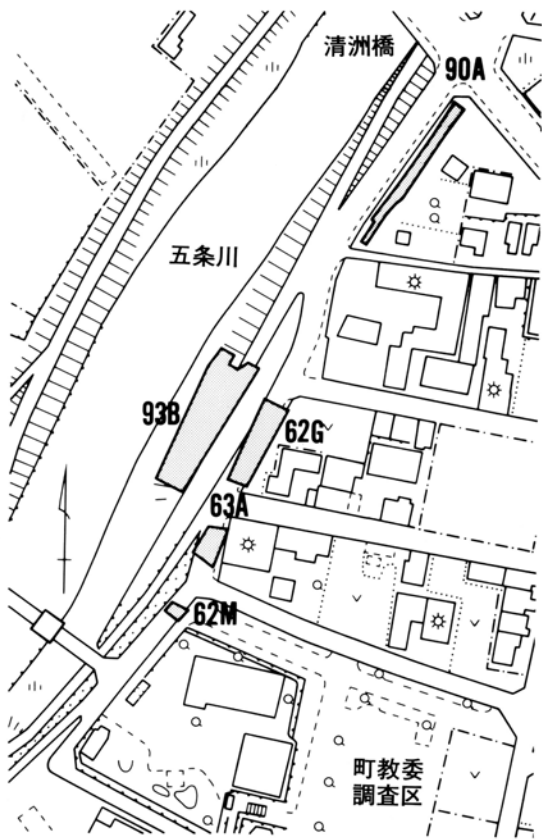
(昭和53年清洲町役場作成 1:10000地図を使用)



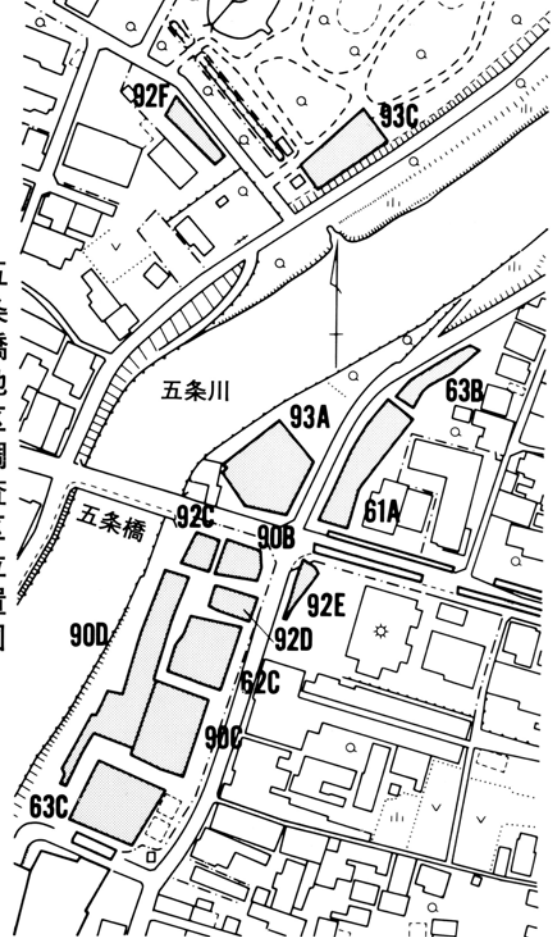
御園地区調査区位置図



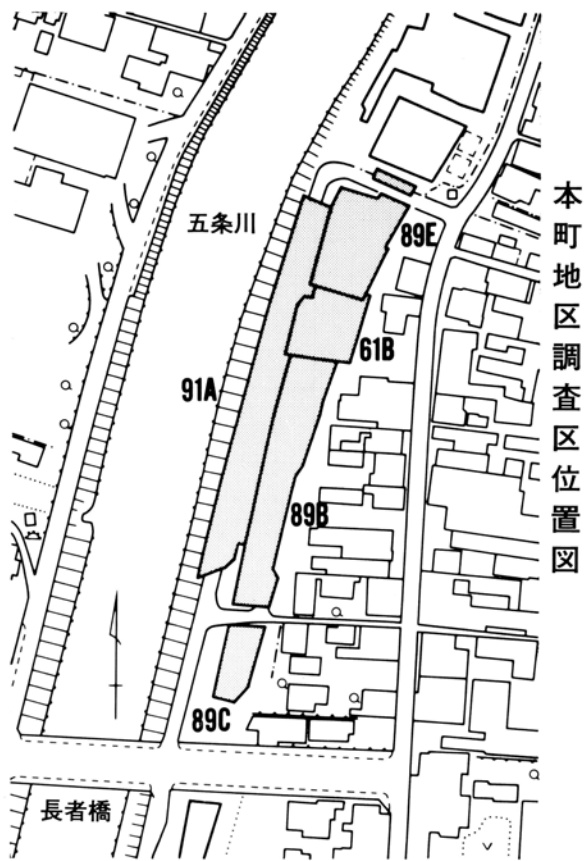
本丸地区調査区位置図



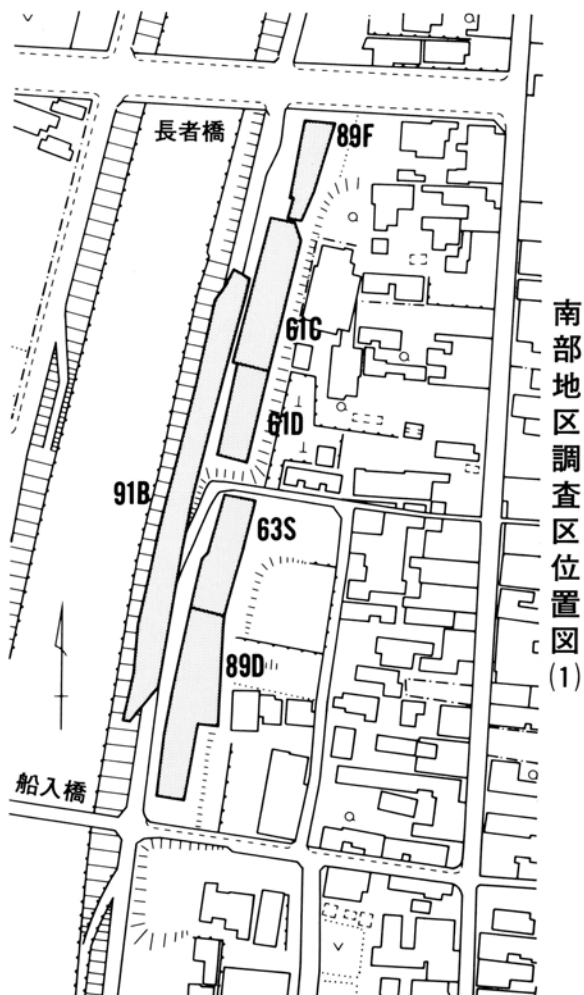
田中町地区調査区位置図



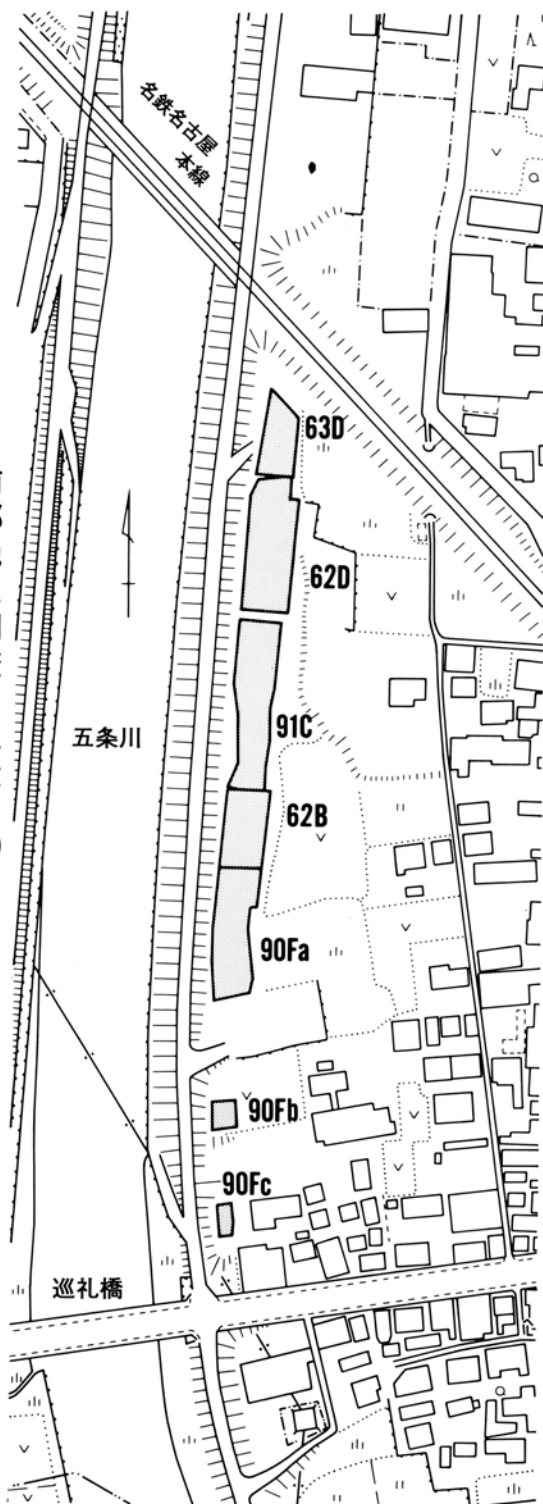
五条橋地区調査区位置図



本町地区調査区位置図

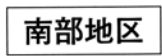
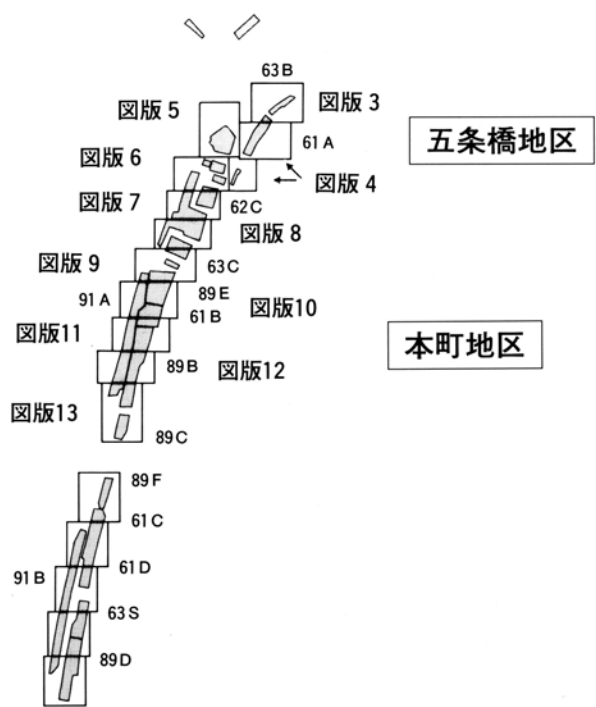
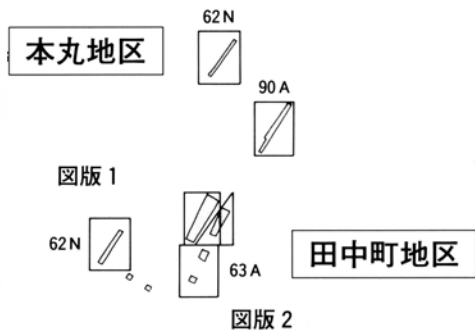
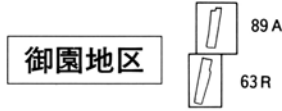


南部地区調査区位置図(1)

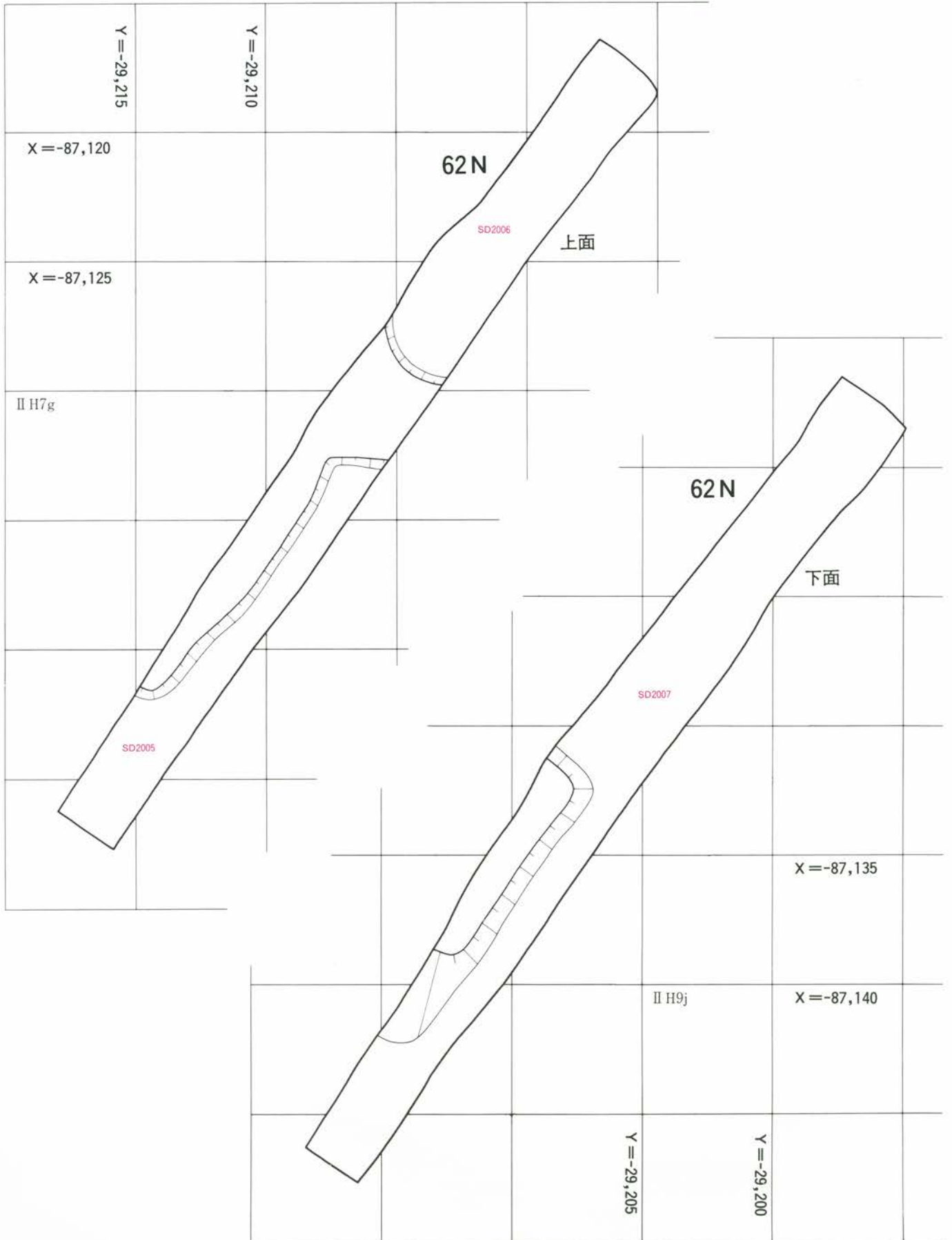


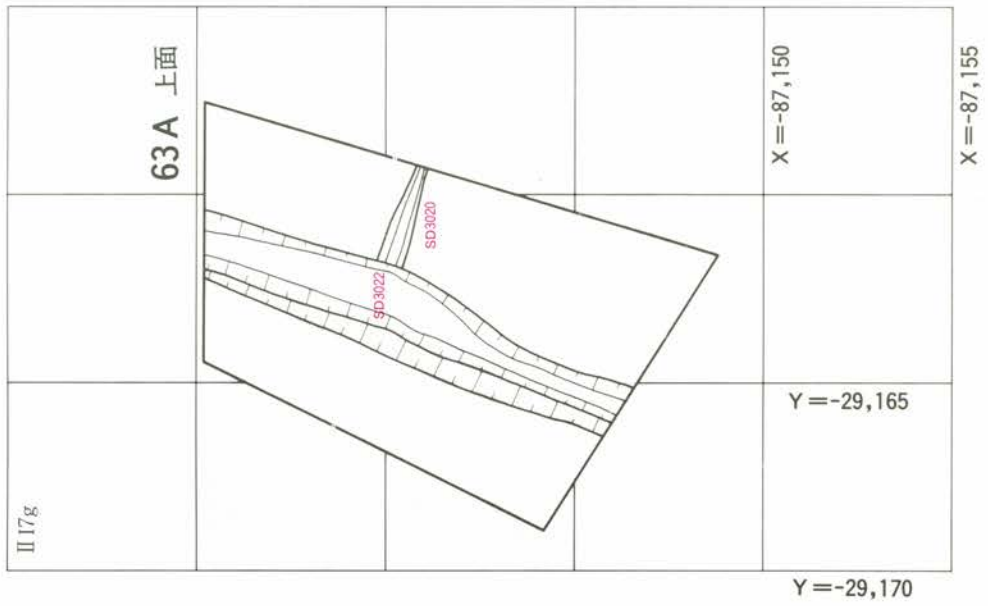
南部地区調査区位置図(2)

# 遺構図割付図

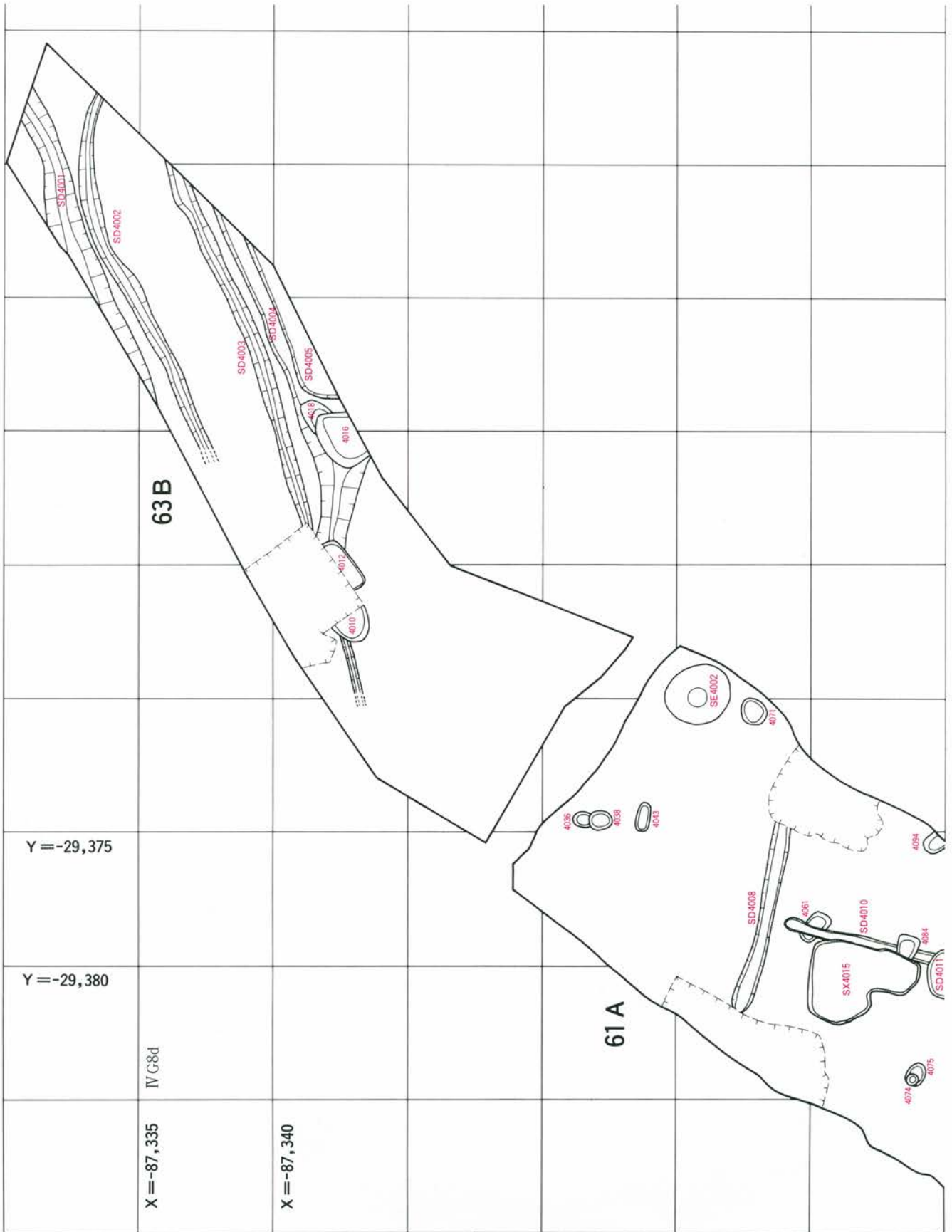


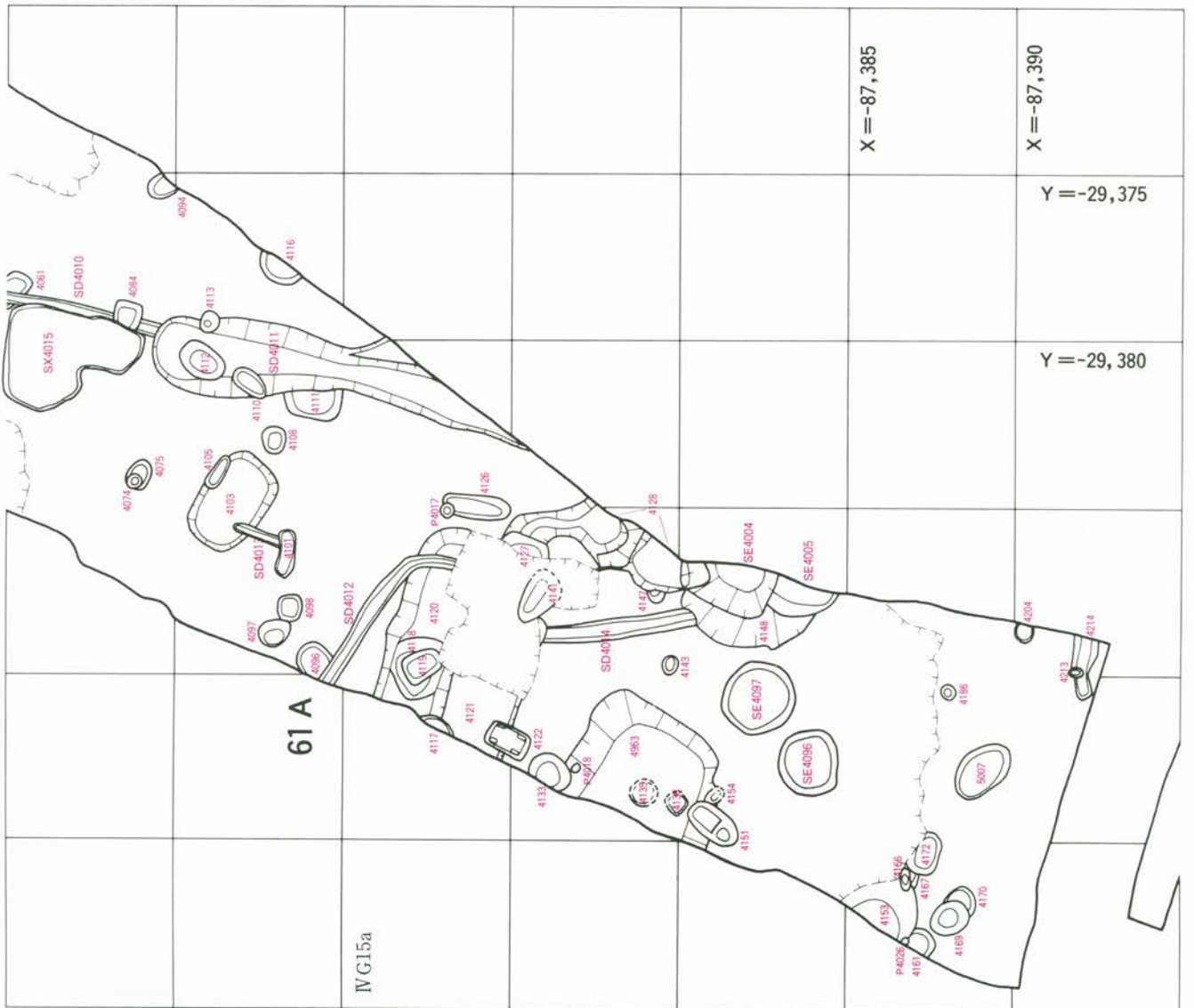
図版1 本丸地区



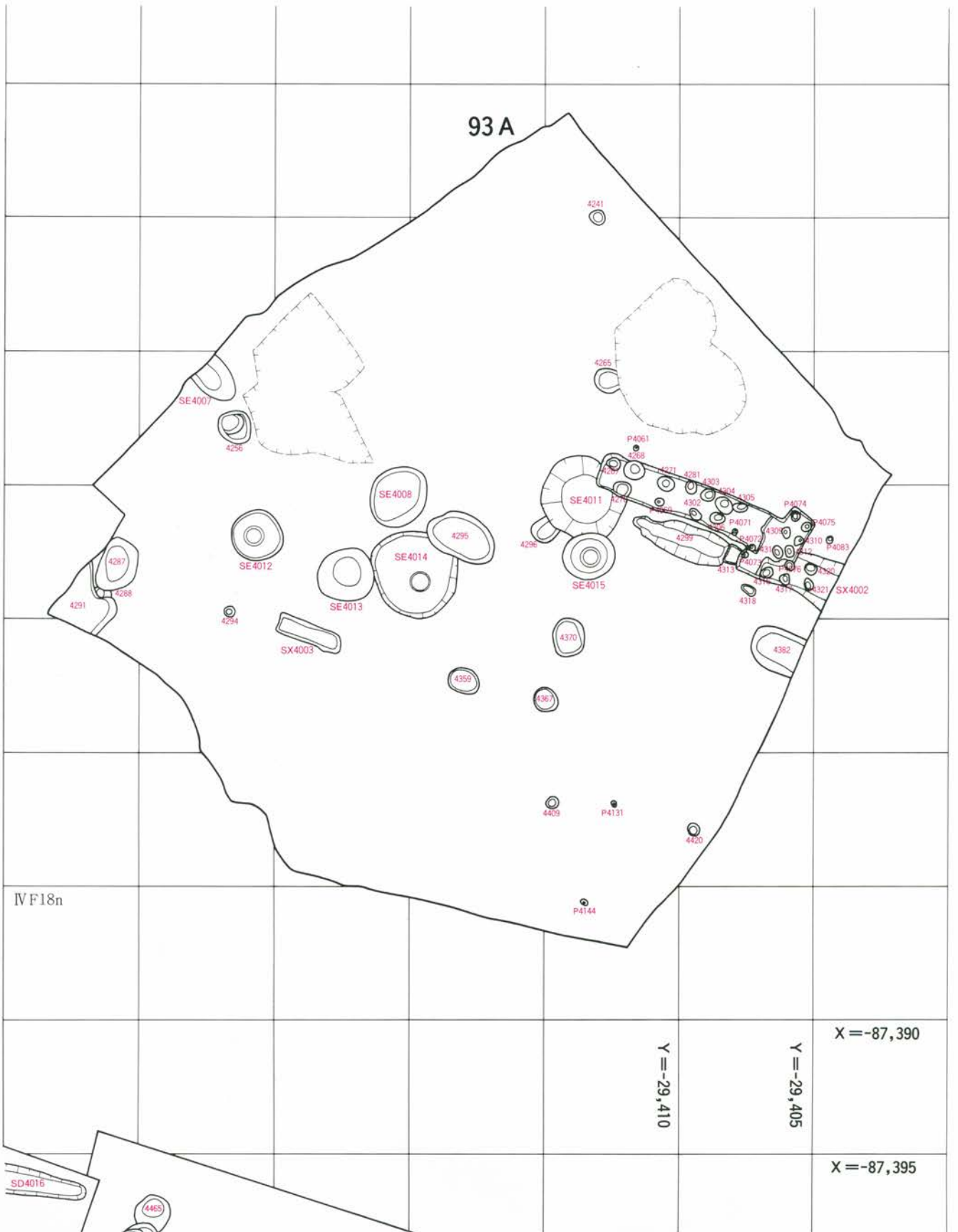


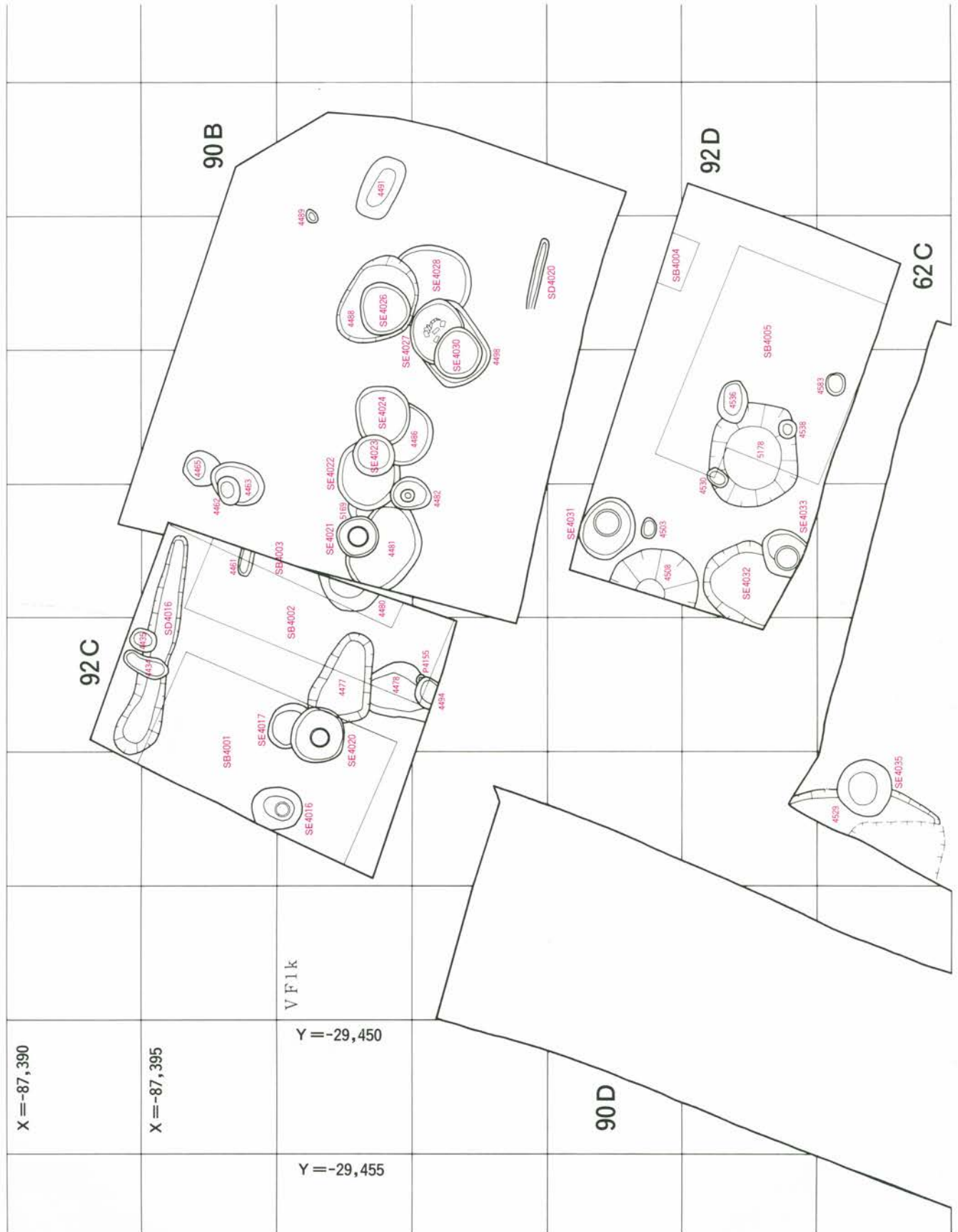
図版 3 五条橋地区 (1)



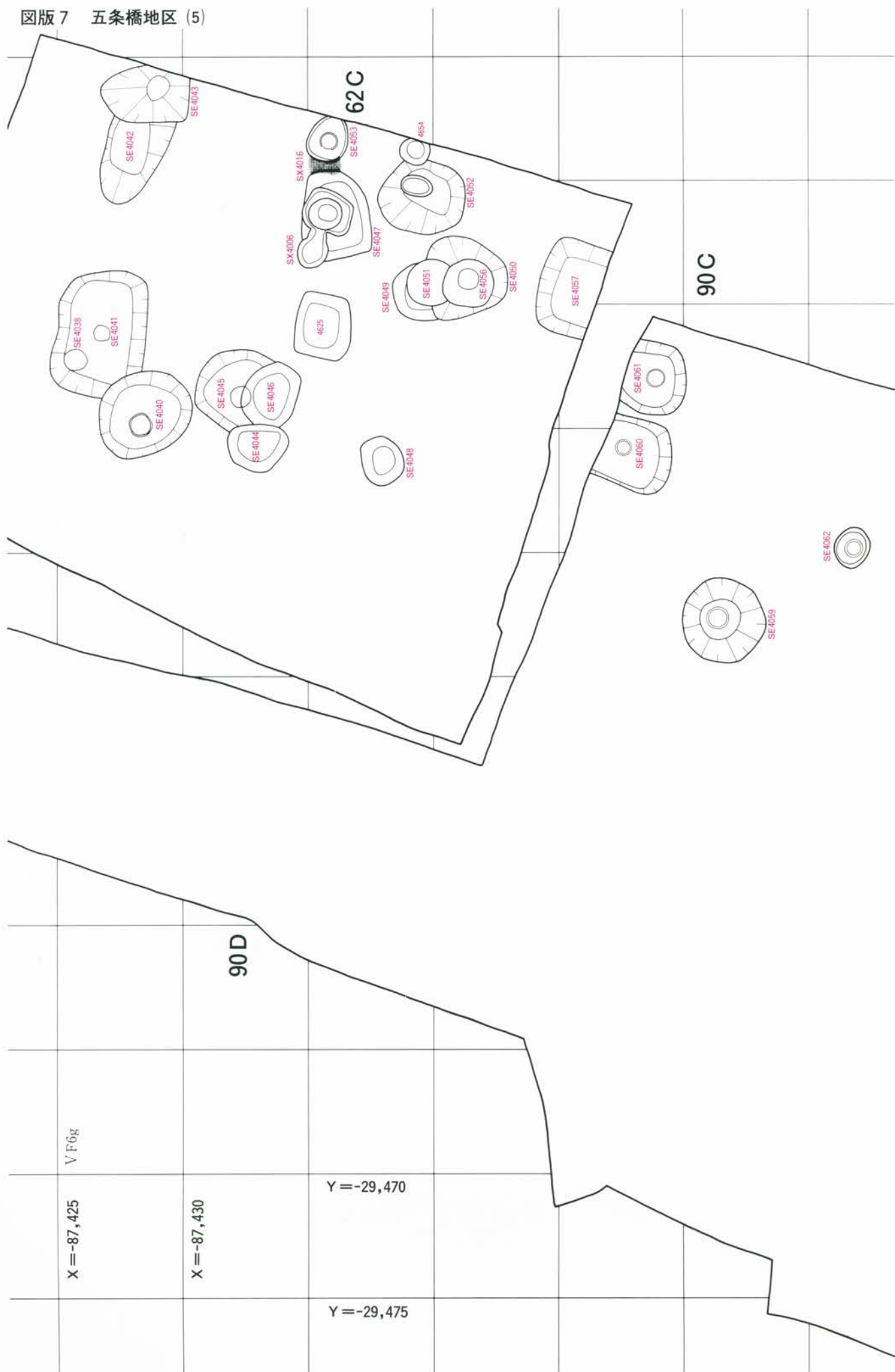


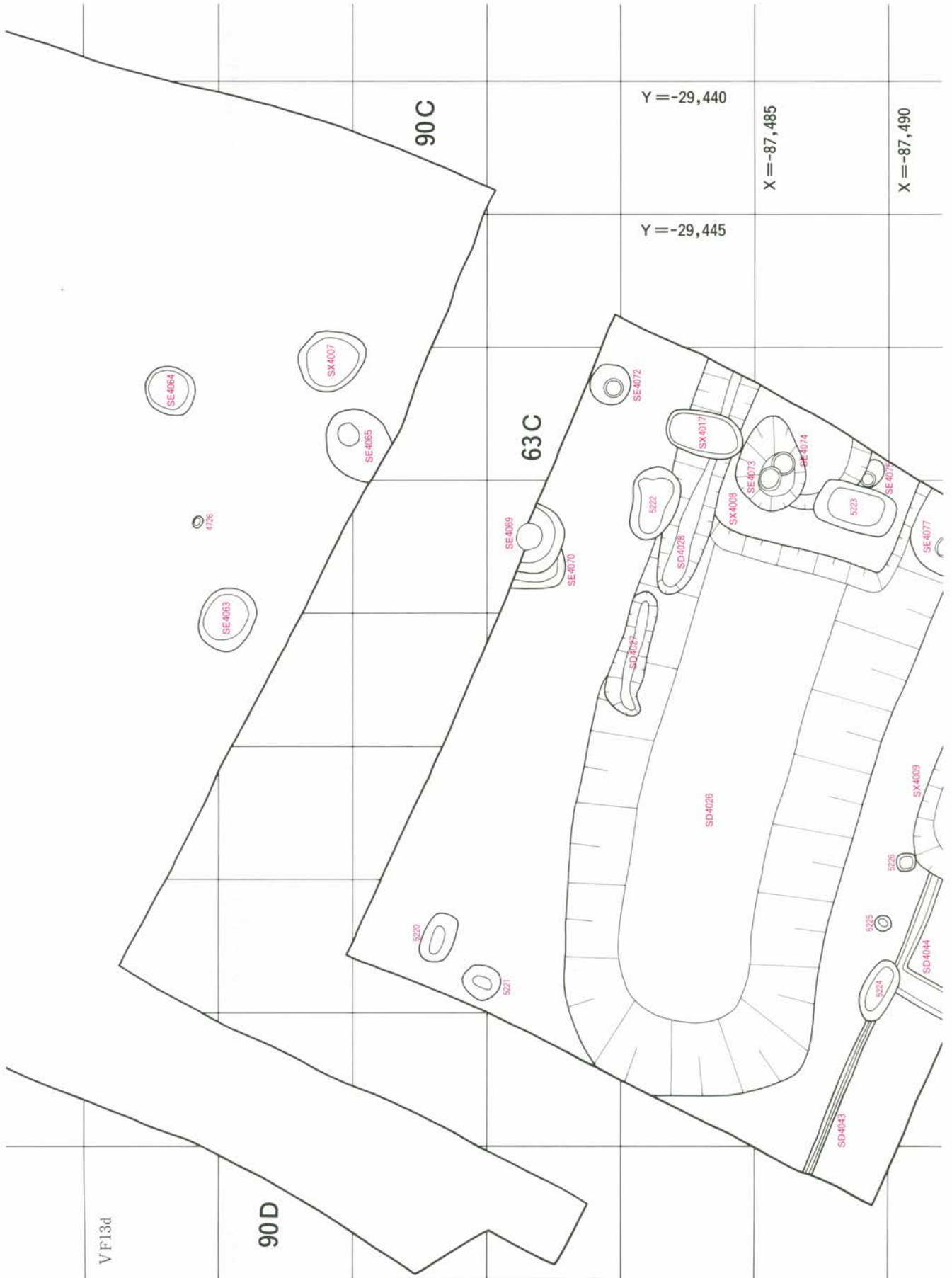
図版 5 五条橋地区 (3)

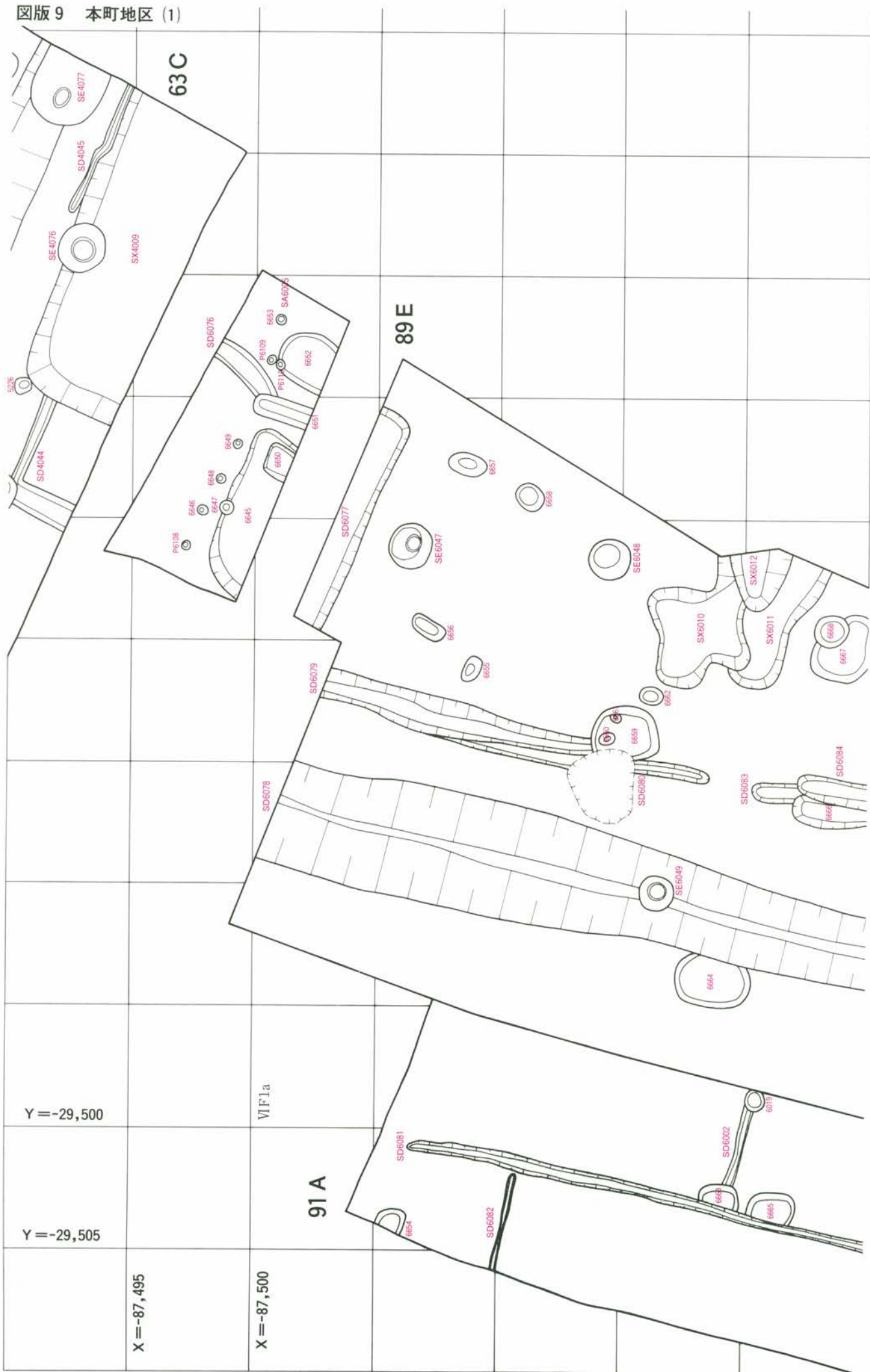


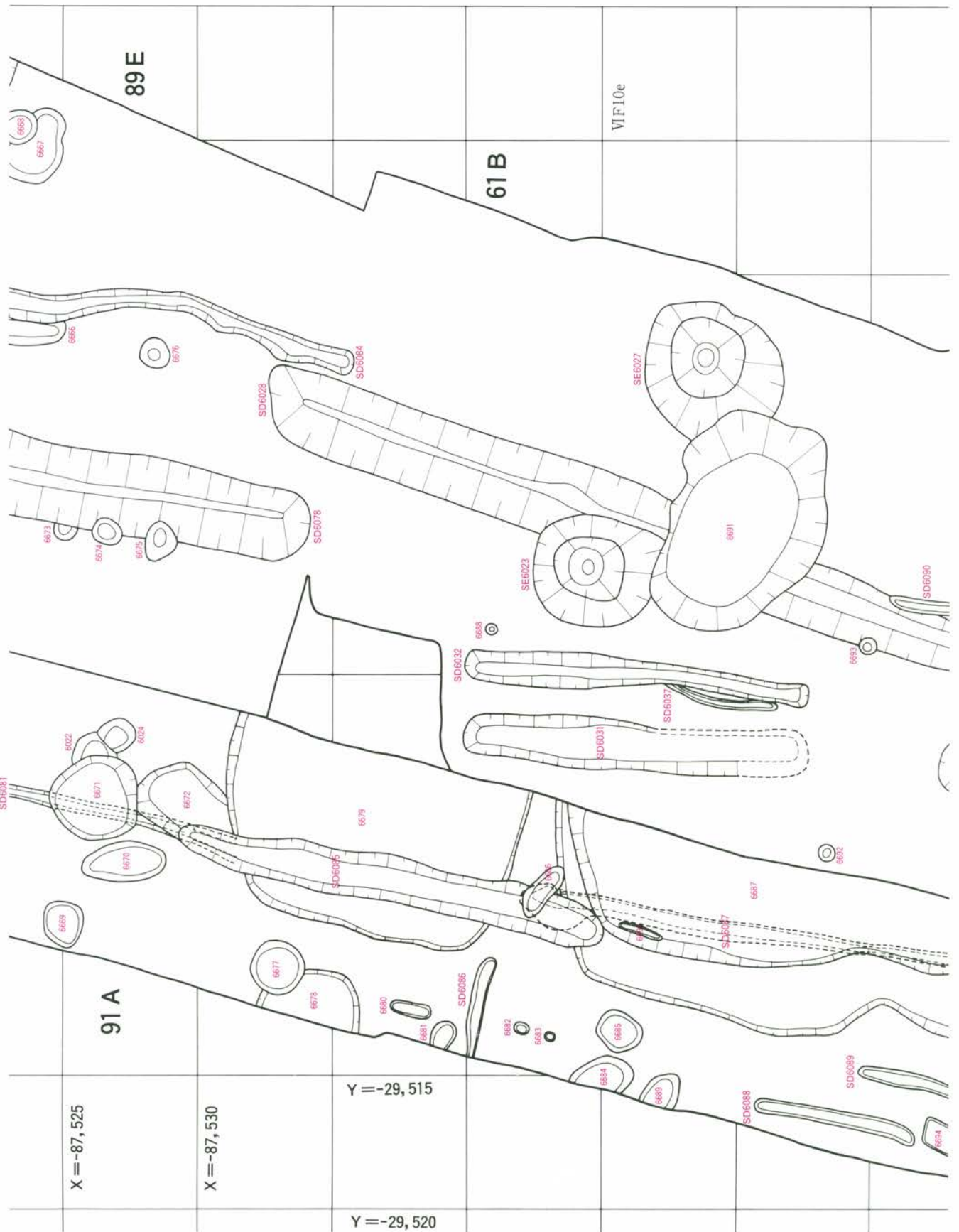


图版 7 五条橋地区 (5)

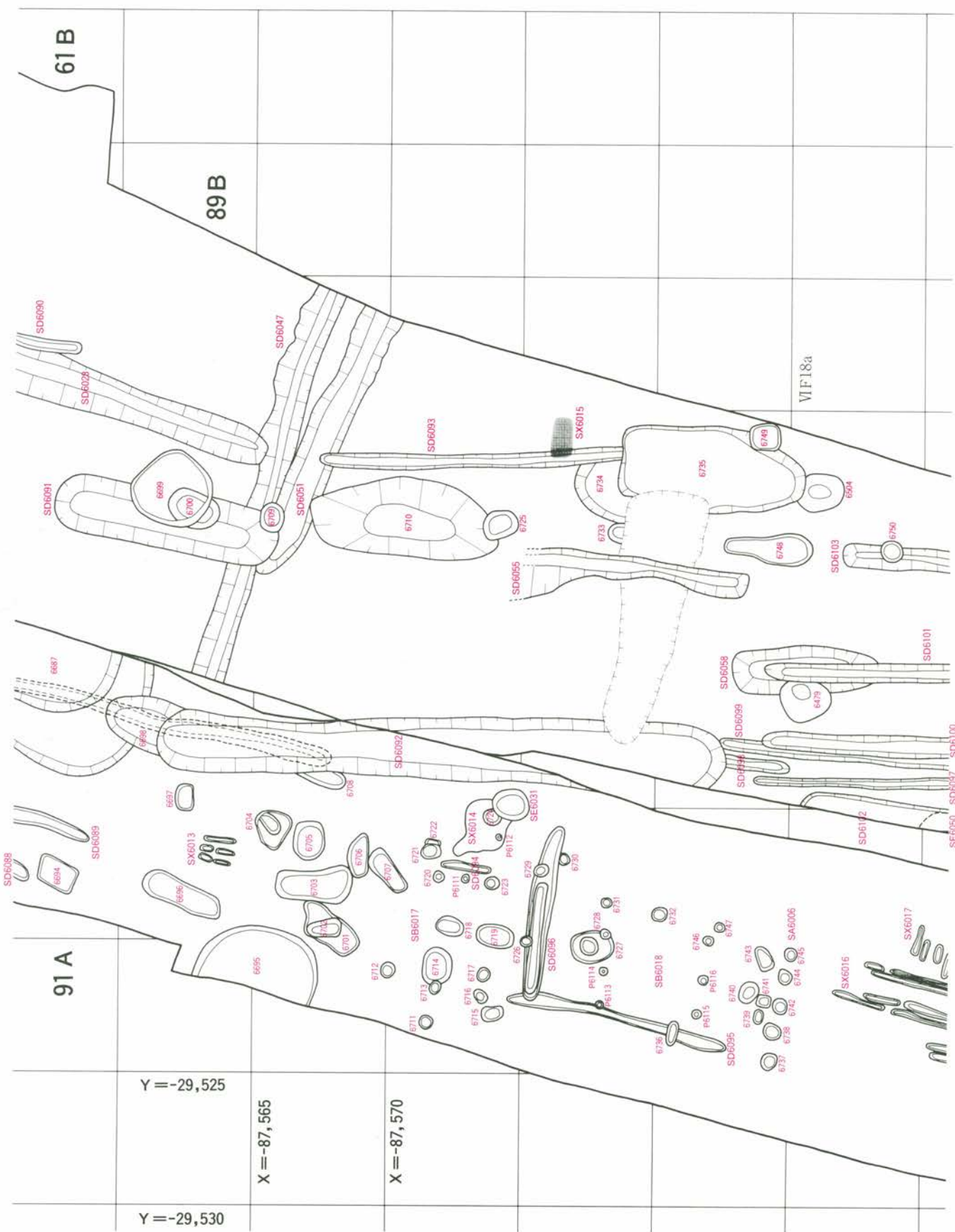


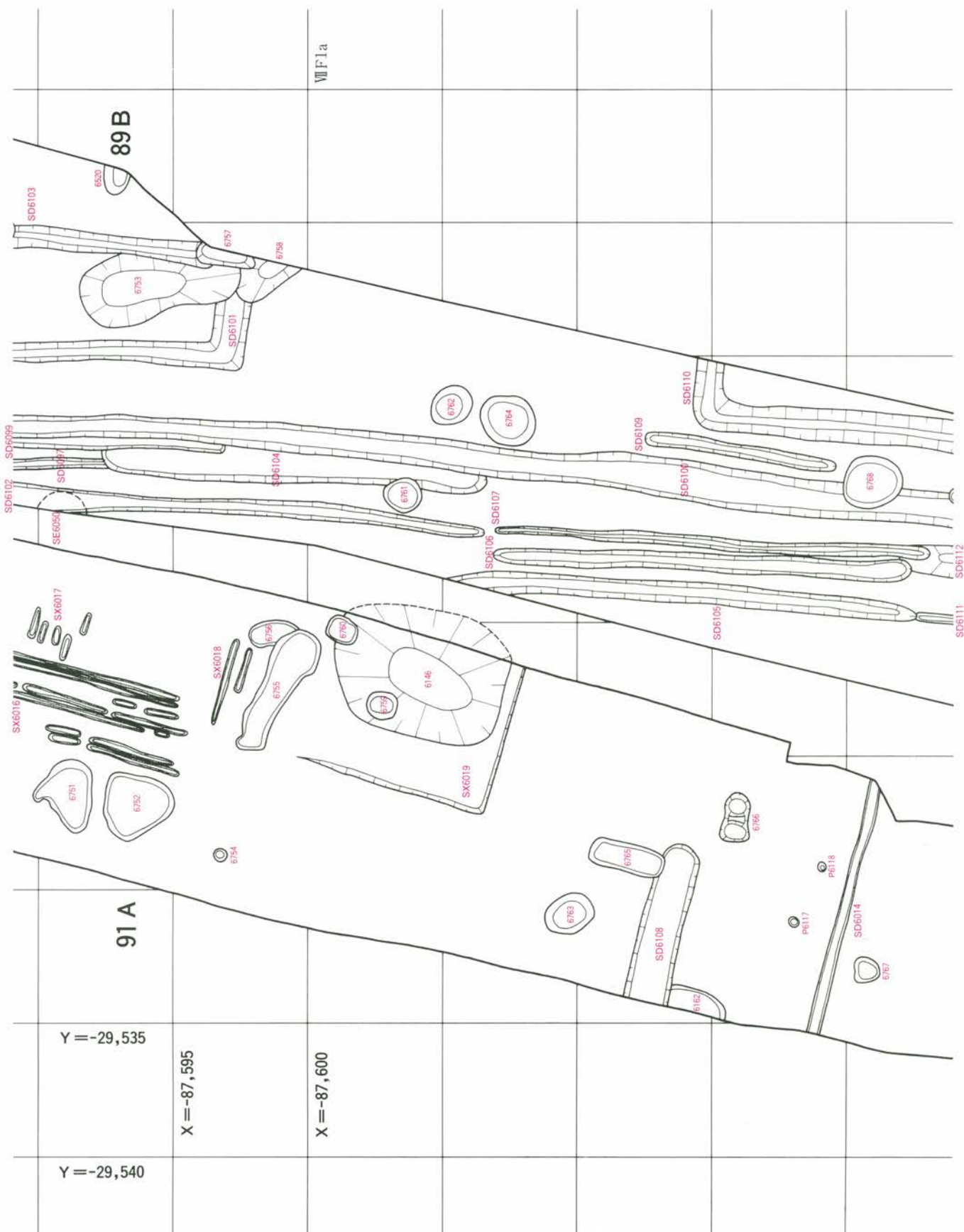






図版11 本町地区 (3)





图版13 本町地区 (5)

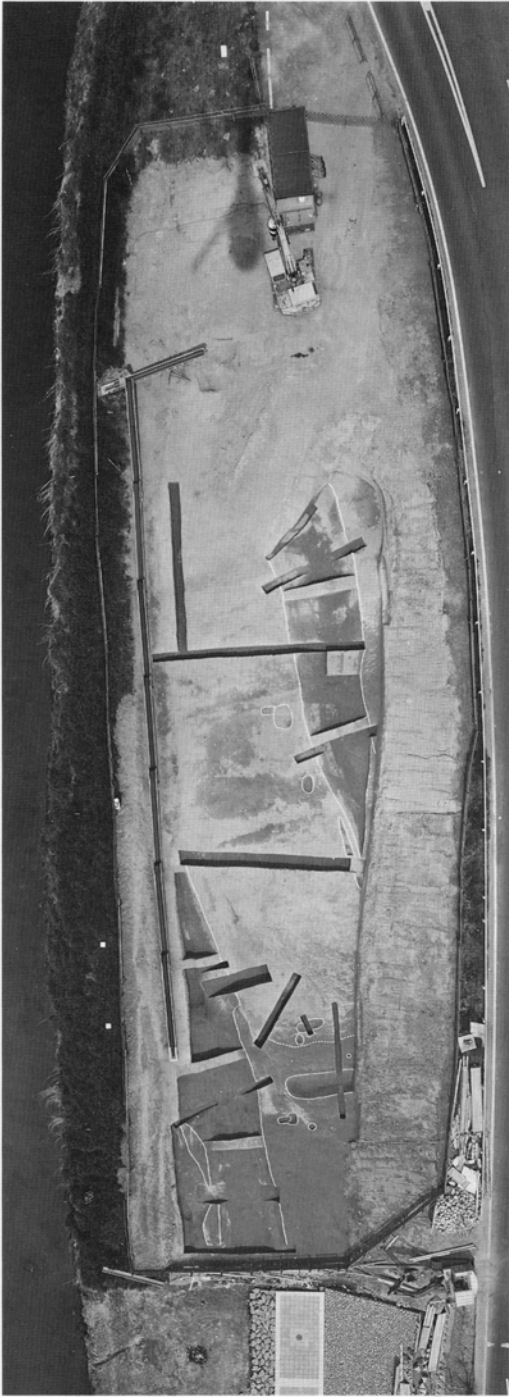




90B区から  
五条橋を  
臨む



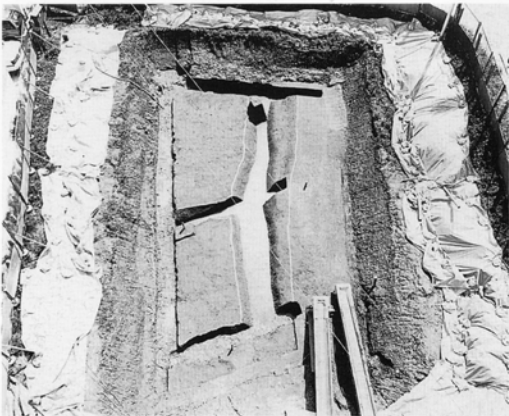
美濃街道と  
調査区 (90D区)



▲93B区全体 (南から)



▲61A区全体  
(南から)



◀63A区全体 (北から)



▲93A区上面全体

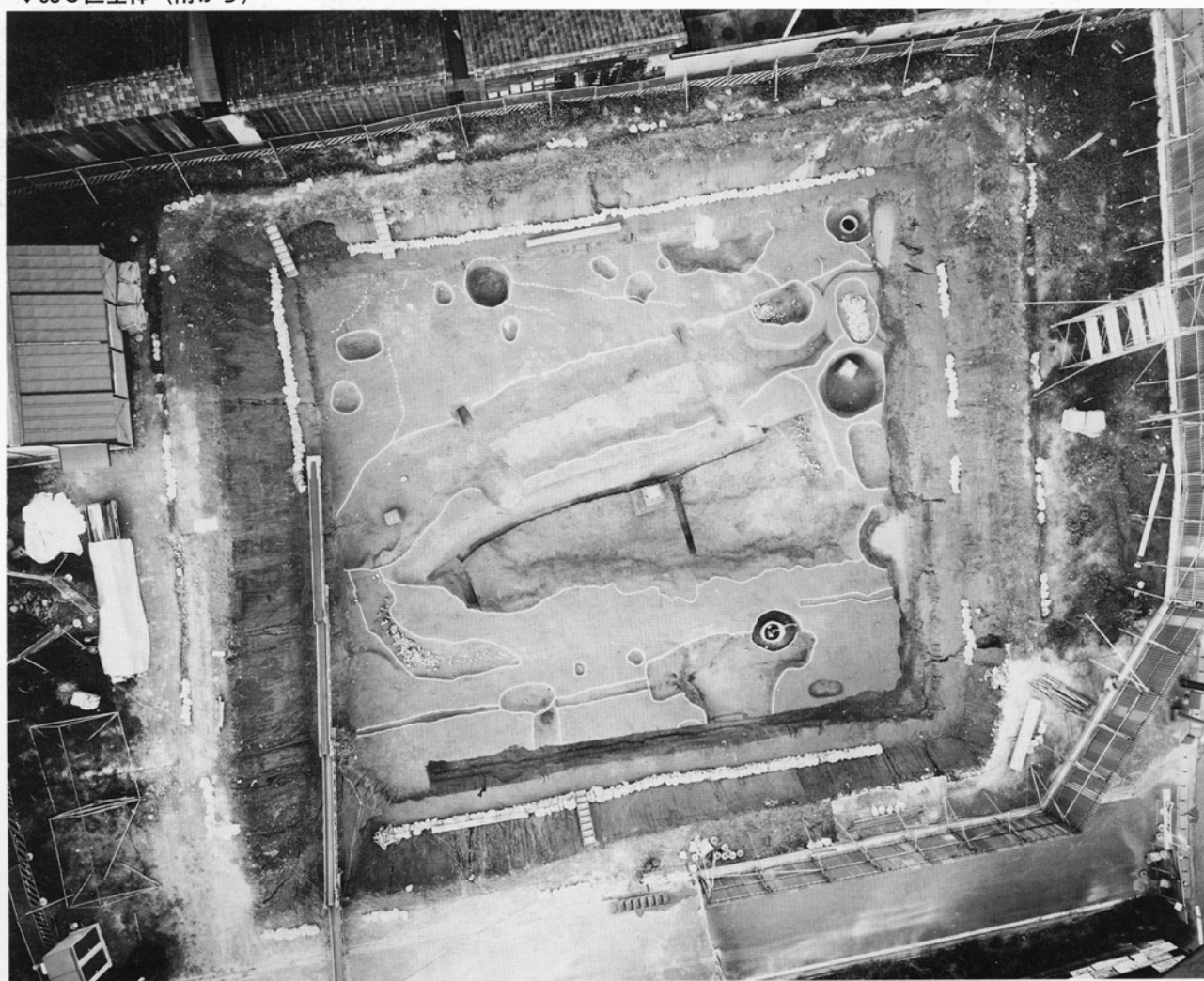


▼93A区下面全体



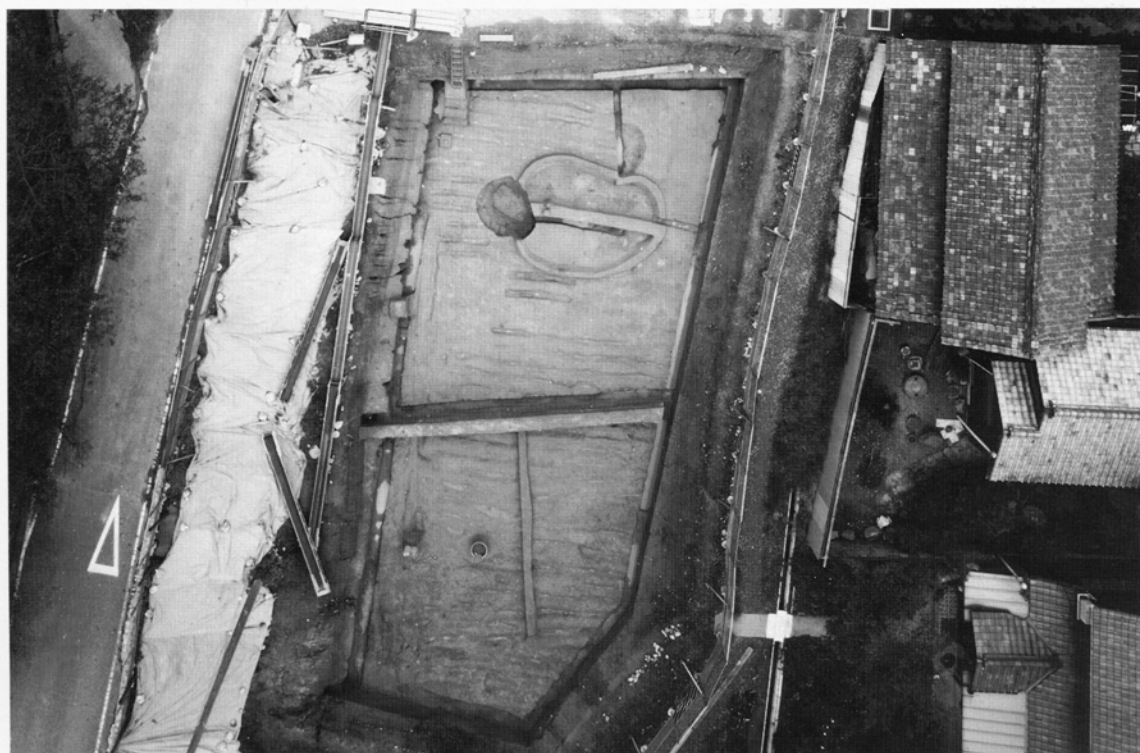
▲62C区全体 (南から)

▼63C区全体 (南から)





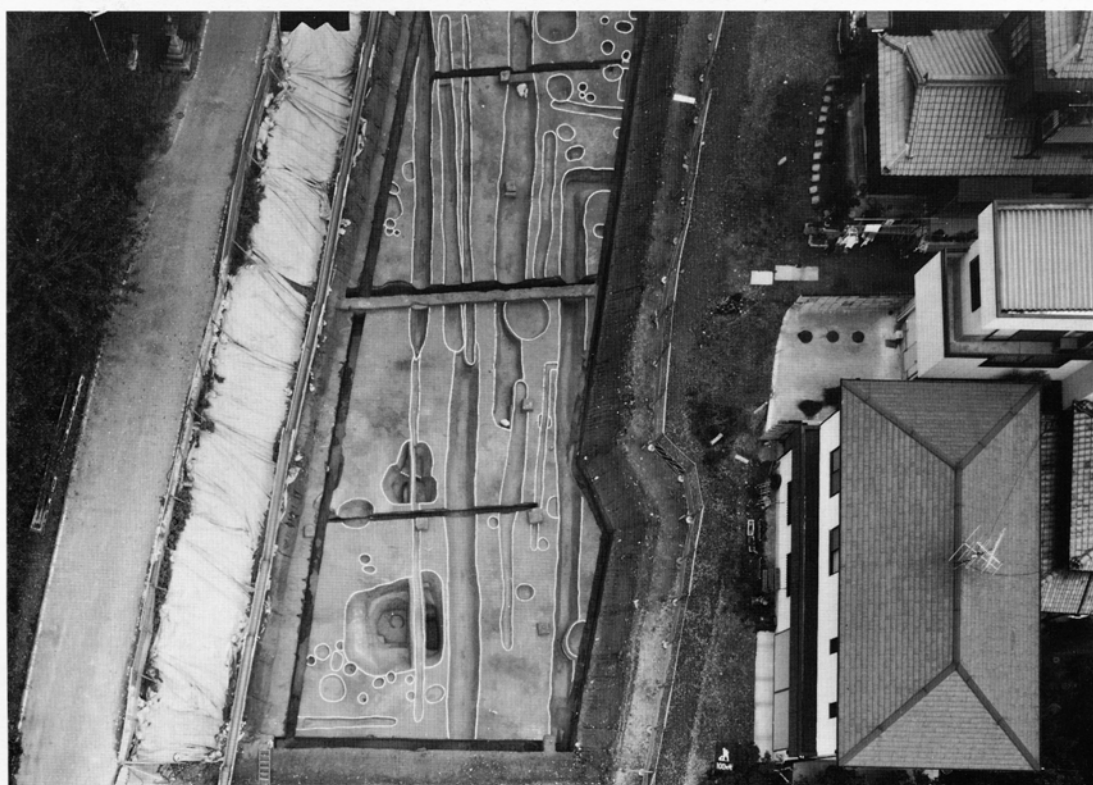
▲89E区全体  
(南から)



◀89C区全体  
(南から)



▲89B区



◀全体  
(南から)



▲91A区北半部 (南から)



▲91A区南半部 (南から)



SD6085  
(91A区)  
南から



SD6092  
(91A区)  
南から



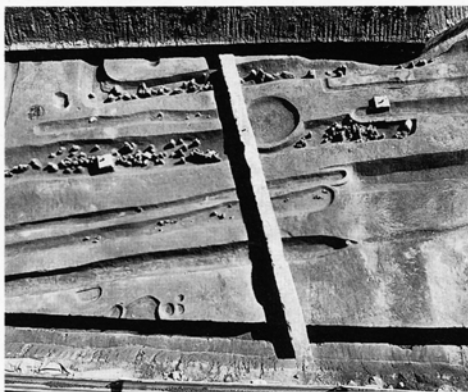
SD6100  
出土状態  
(89B区)  
北から



SD6092  
(89B区)  
南から



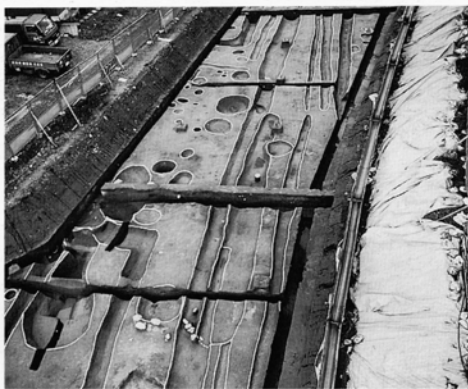
SD6078  
(89E区)  
北から



89B区  
溝群  
(西から)



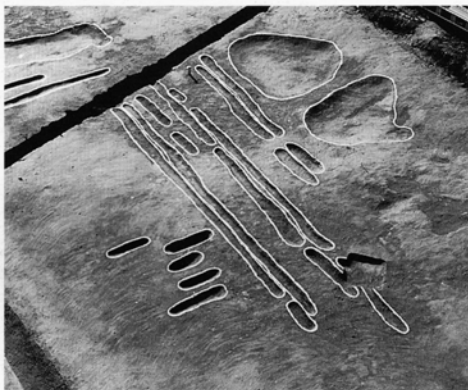
89B区  
溝群  
(北から)



89B区  
溝群  
(北から)



SX6021  
(89C区)  
北から



SX6016  
SX6017  
(91A区)  
北東から



SB4001  
SB4002  
(92C区)  
(東から)



SB4004  
SB4005  
(92D区)  
(西から)



SB4001  
SB4002  
SB4003  
(92C区)  
(南から)



SB4004  
(92D区)  
(北東から)



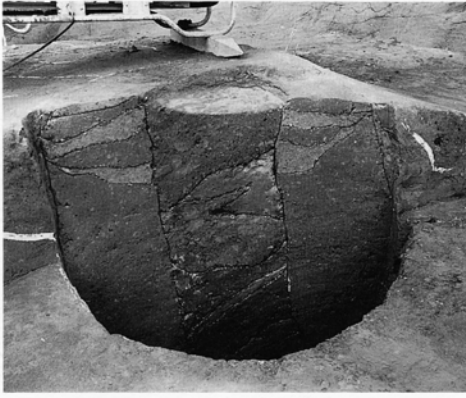
SA6005  
(89E区)  
(西から)



SB6017  
(91A区)  
(東から)



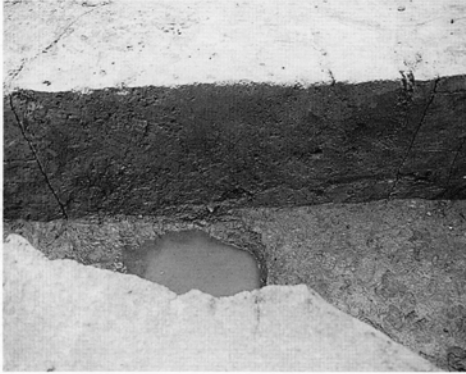
SB6018  
SA6006  
(91A区)  
(東から)



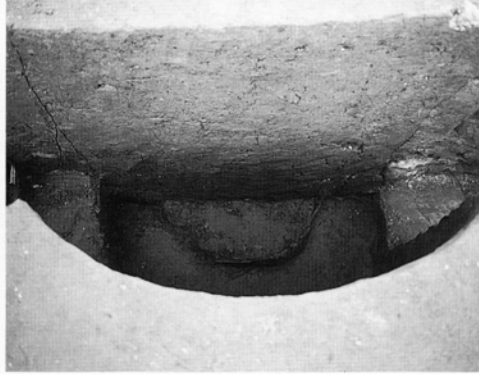
SE4096  
(61A区)  
西から



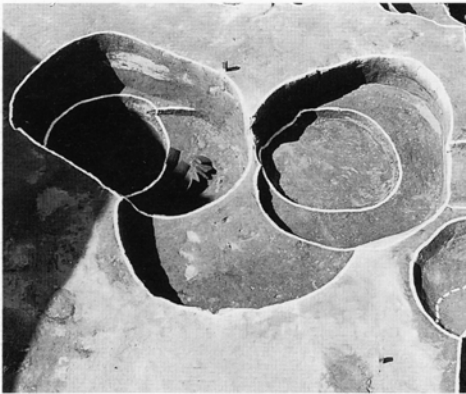
SE4006  
(92E区)  
東から



SE4023  
(90B区)  
北から



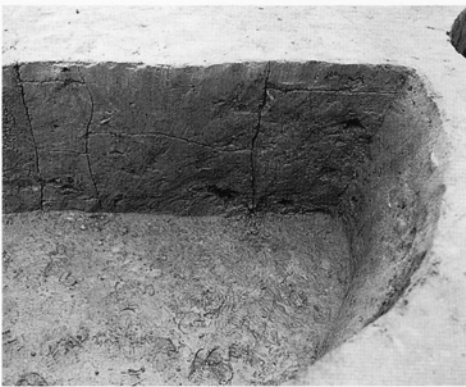
SE4023  
(90B区)  
南から



SE4026~  
SE4028他  
(90B区)  
東から



SE4027  
(90B区)  
南から



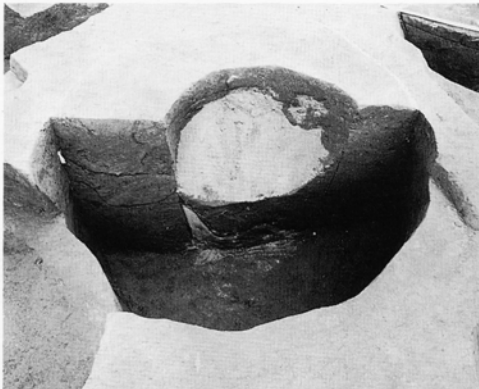
SE4022  
(90B区)  
北から



SE4043  
(62C区)  
東から



SE4035他  
(62C区)  
北西から



SE4035  
(62C区)  
東から

SE4040  
(62C区)  
東から



SE4040  
(62C区)  
西から



SE4050  
SE4051  
SE4056  
(62C区)  
東から



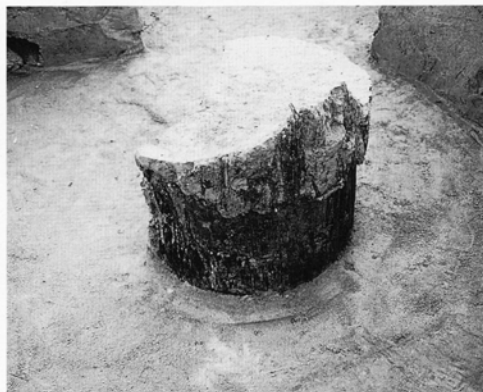
SE4056  
(62C区)  
東から



SE4045  
SE4046  
(62C区)  
東から



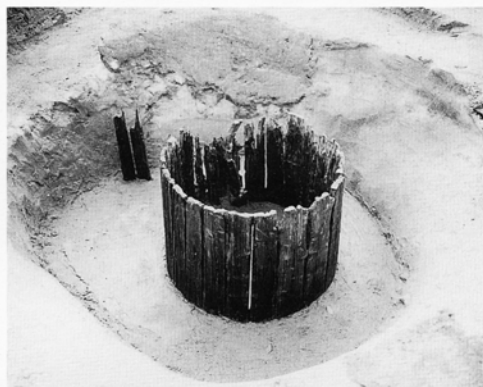
SE4045  
(62C区)  
東から



SE4052  
(62C区)  
北から



SE4073  
(63C区)  
西から



SE4072  
(63C区)  
東から



SE4072  
(63C区)  
南から

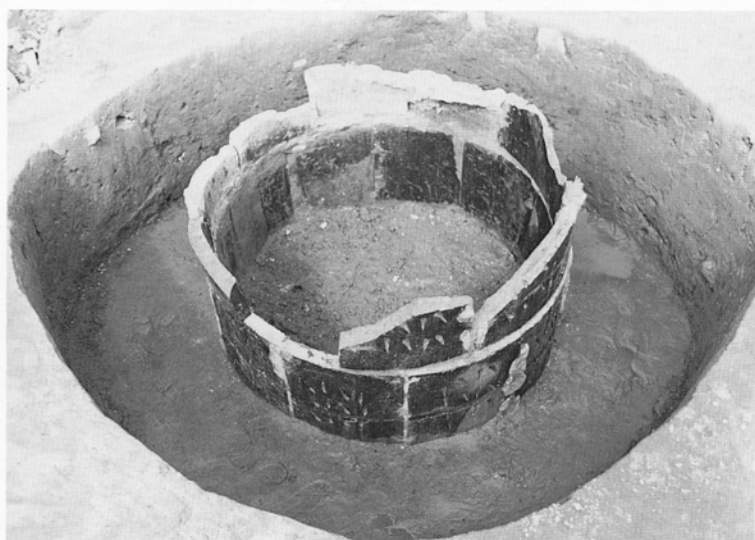




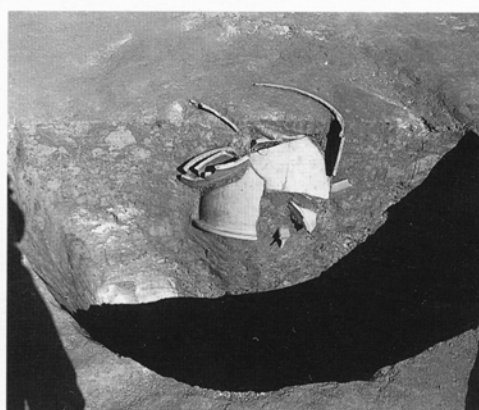
▲SE4026 (90B区 北から)



▲SE4016 (92C区 東から)



▲SE4021 (90B区 南から)



◀SE7009  
(61C区  
南から)



◀SE4021  
(90B区  
東から)



▲SE4076 (63C区 北から)



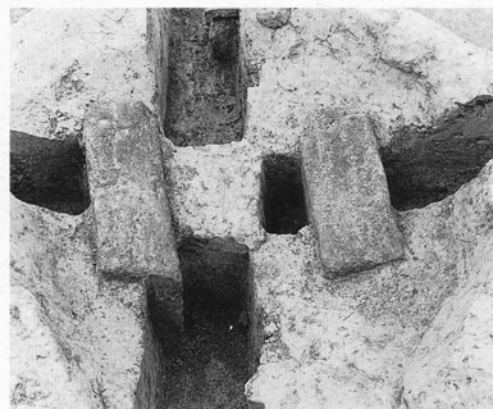
◀SE4076  
(63C区  
南から)



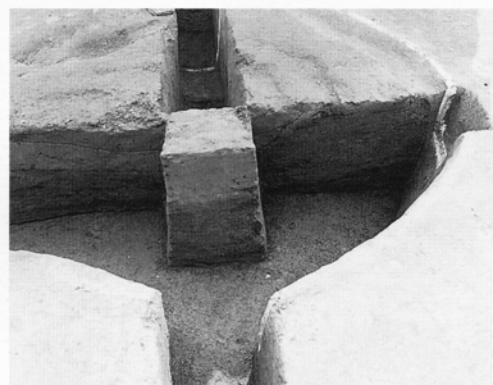
▲SX4006 (62C区 西から)



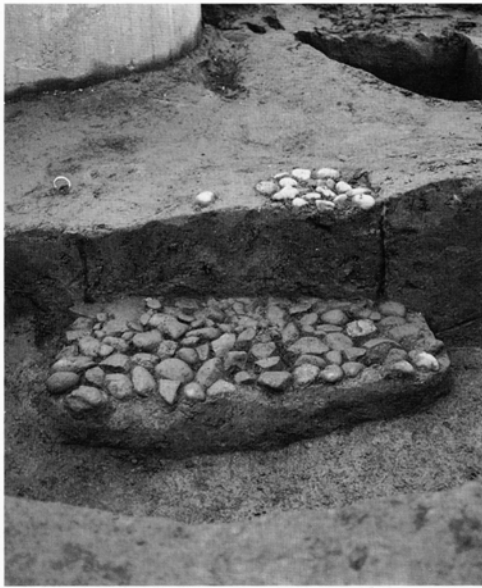
▲SX4006 (62C区 西から)



▲SX4006 (62C区 南から)



▲SX4006 (62C区 北から)



SX4007  
(90C区)  
(北から)



SX4007  
(90C区)  
(北から)



SK5222  
(63C区)  
(西から)



SX4007  
(90C区)  
(南から)



SK5222  
SX4017  
SE4073  
(63C区)  
(東から)



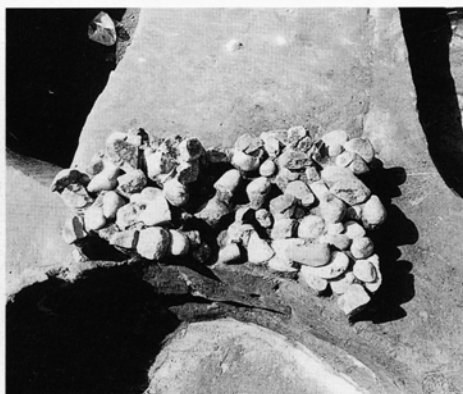
SX6015  
(89B区)  
(北から)



SX4017  
(63C区)  
(北から)



SX6015  
(89B区)  
(西から)



SX4016  
(62C区)  
(東から)



SK6735  
(89B区)  
西から



SK6735  
出土状態  
(89B区)  
西から



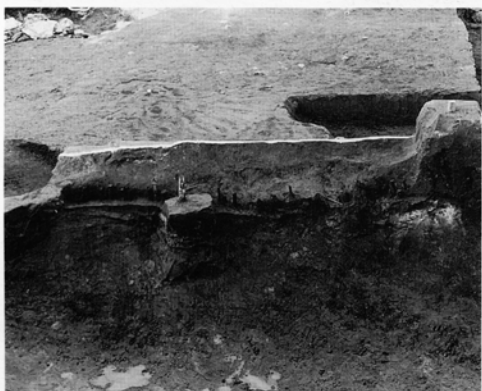
SK6735  
出土状態  
(89B区)  
西から



SD4026  
(63C区)  
東から



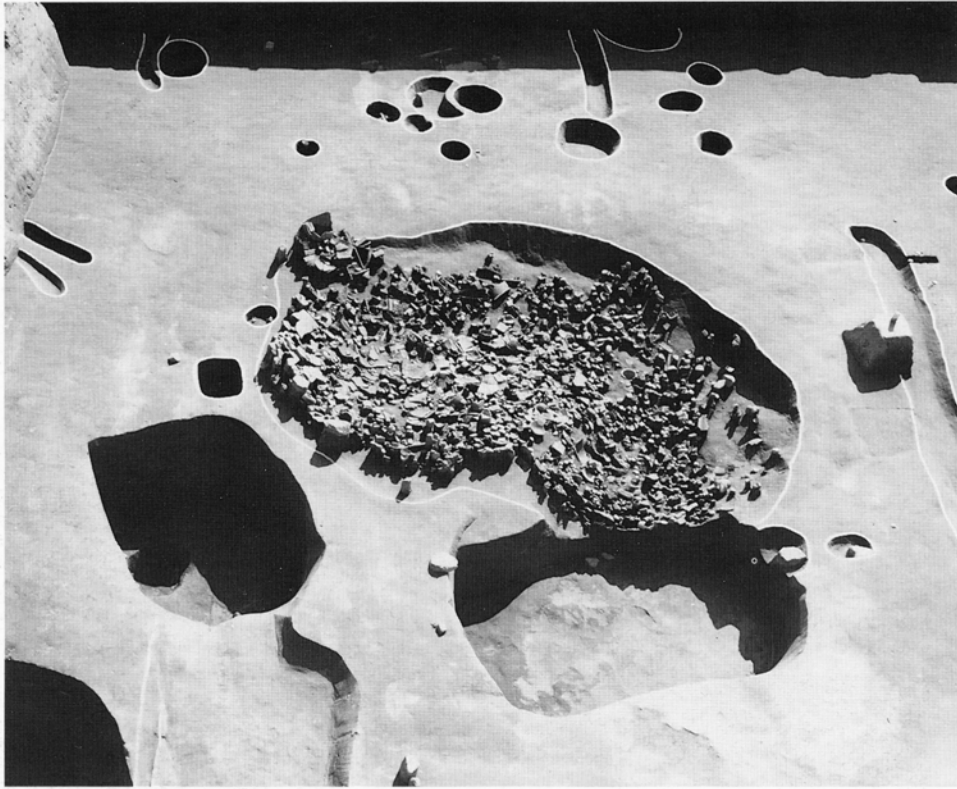
SD4026  
(63C区)  
東から



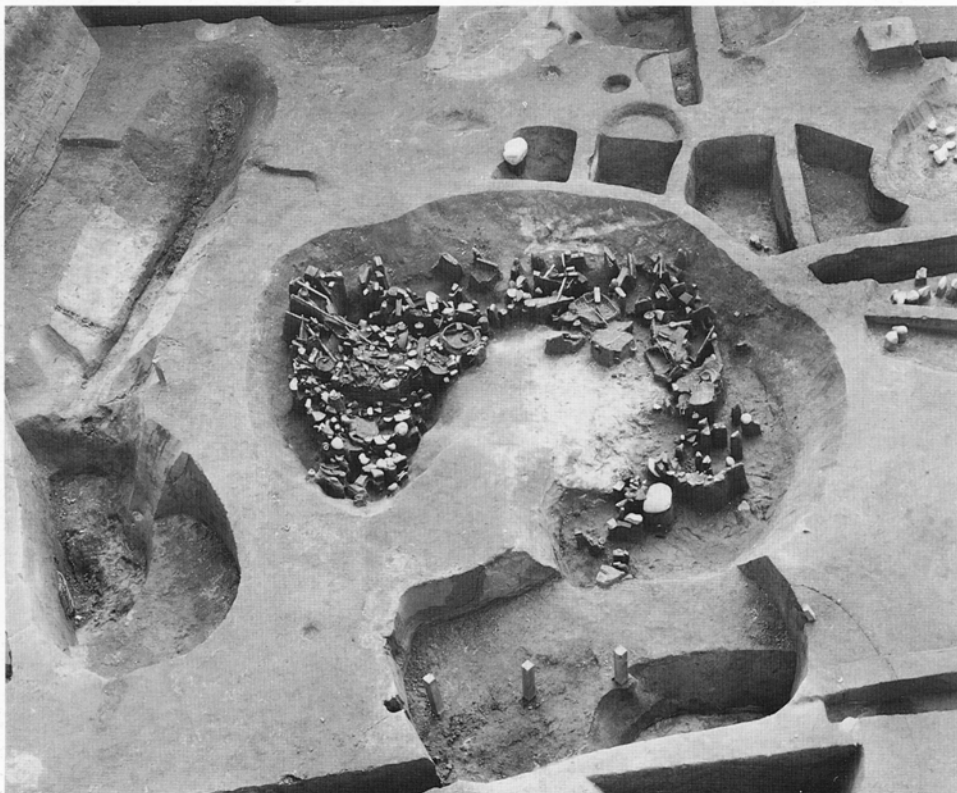
SX4009  
(63C区)  
南から



SX4009  
(63C区)  
南から



▲SK6691上層 (61B区 北から)



▲SK6691下層 (61B区 北から)

SK6691  
出土状態  
(61B区  
南から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
南から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



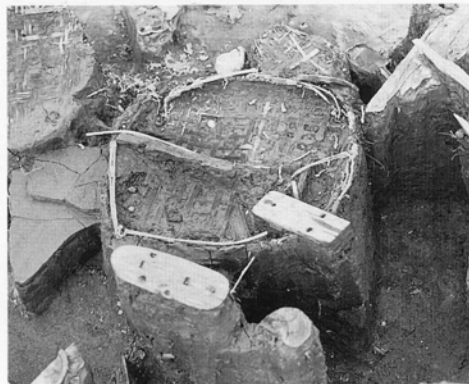
SK6691  
出土状態  
(61B区  
東から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)

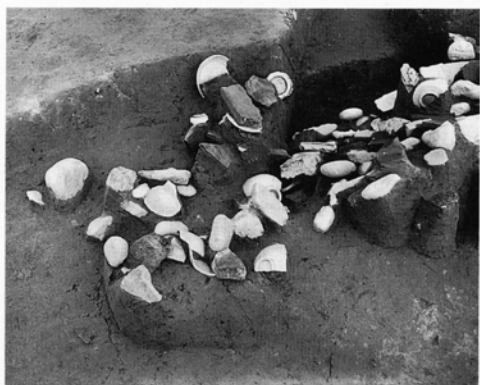




SK4287  
(93A区  
北から)



甕出土状態  
(61A区  
南から)



SK4128  
(61A区  
北から)



SK4128  
(61A区  
北から)



SX4015  
(61A区  
南東から)



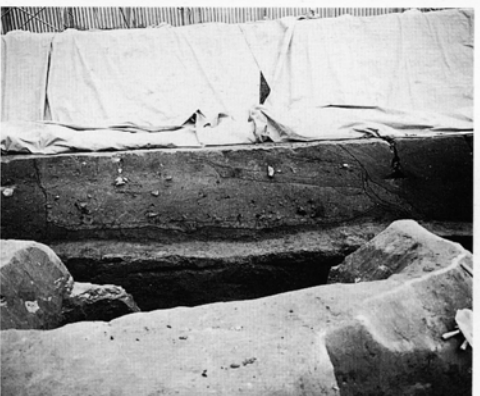
甕出土状態  
(89C区  
南から)



SK4508  
(92C区  
西から)



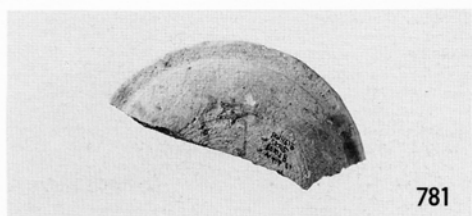
SK6730  
(91A区  
東から)



SX4008  
(63C区  
西から)



SX6010  
(89E区  
西から)



781



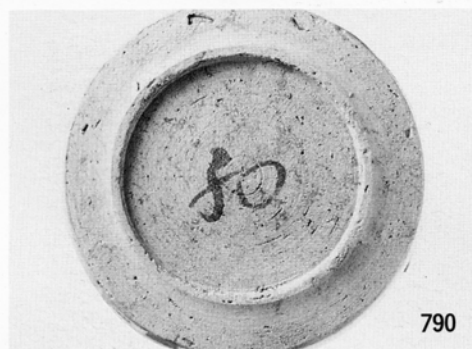
780



791



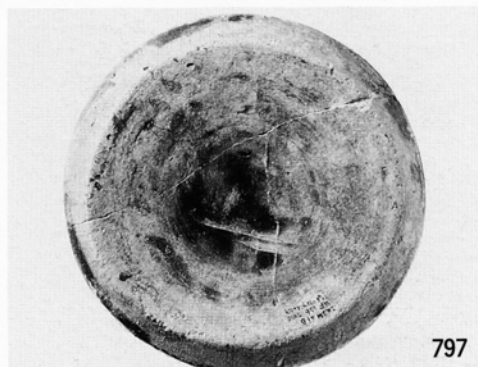
795



790



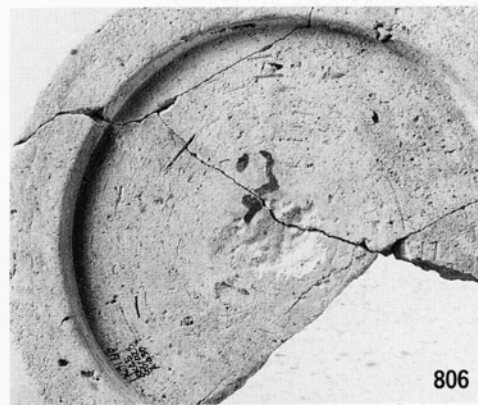
793



797



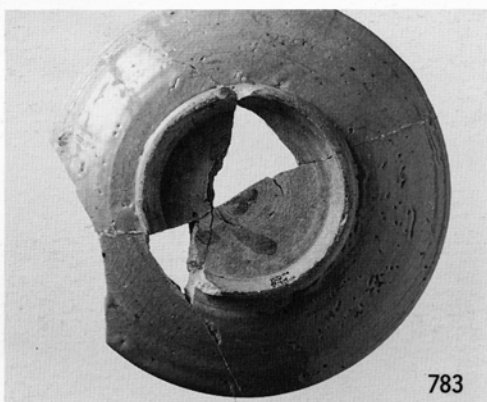
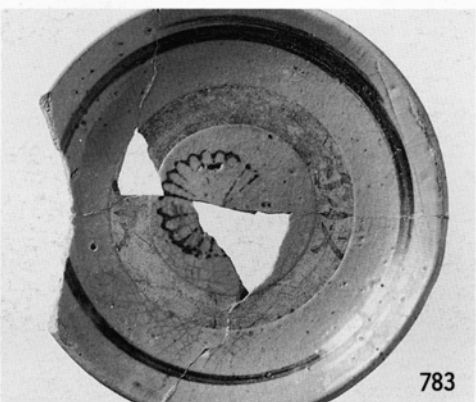
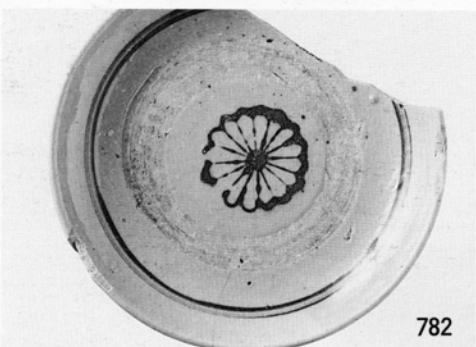
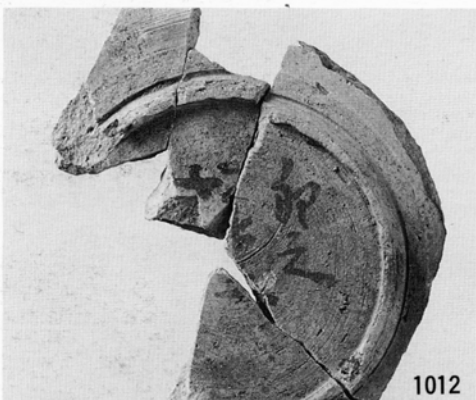
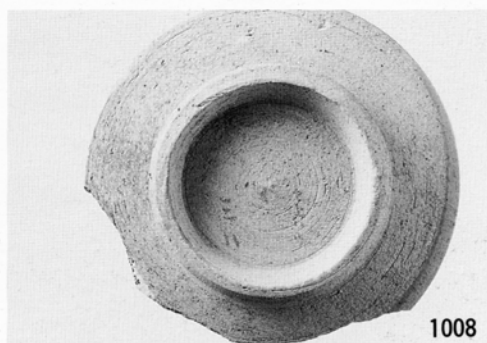
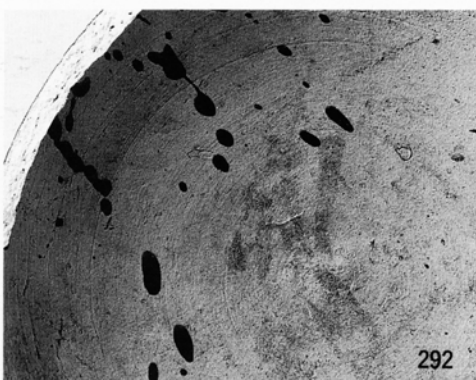
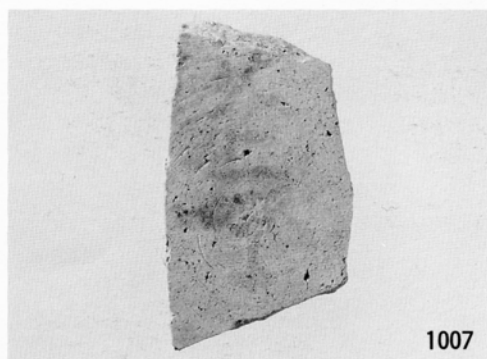
794



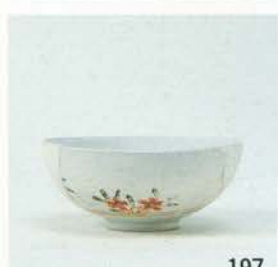
806



802









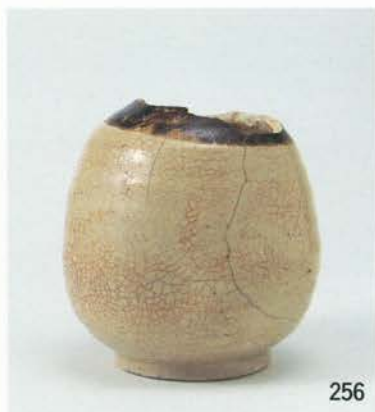
236



241



223



256



253



259



242



254



316



310



339



337



845



338



337



140



844





421



399



471



423



460



480



422



404



505



459



851



506



457



635



530



458



636



531



458



496



532



458



494



557



519



514



523



512



509



526



551



554



556



550



549



558



553



534



561



560



559



606



597



602



598



600



590



586



592



591



588



577



567



570



564



595



743



741



735



744



746  
747



750



744



740



739



748



749



656



655



657



661



665



663



682



676



686



688



685



694



701



697



702



706



662



717



712



707



705



615



611



638



621



620



645



616



610



642



799



666



643



798



618



652



618



808



630



627



759



728



718



723



720



807



649



659



648



755



763



768



765

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき 5							
書名	清洲城下町遺跡V							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第54集							
編著者名	鈴木正貴・北野信彦・三辻利一・堀木真美子・八木佳素実							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きよすじょうかまち 清洲城下町	にしかすがいぐんきよすちよう 西春日井郡清洲町	23346	21002	35 2 58	136 6 57	19860701 19930731	29,750	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
清洲城下町	集落跡	江戸時代	溝・礎石建物 5 掘立柱建物 2 柵列 井戸・土坑 五条川堤防 方形石組遺構 竈状遺構 畝状遺構	瀬戸美濃窯産陶磁器 肥前窯産陶磁器 関西系窯産陶磁器 常滑窯産陶器 土師器・瓦器・瓦 木製品・石製品 金属製品・人獣骨 人形・玩具類		清洲宿 (町屋)		

---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

清洲城下町遺跡 V

1995年3月31日

編集 財団法人  
発行 愛知県埋蔵文化財センター

印刷 東海プリント社

---